Veritas NetBackup™ 状態コードリファレンスガイド

UNIX、Windows および Linux

リリース 8.0

VERITAS™

Veritas NetBackup™ 状態コードリファレンスガイド

法的通知と登録商標

Copyright © 2016 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティ (「サードパーティプログラム」) の所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

http://www.veritas.com

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

https://my.veritas.com

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)	CustomerCare@veritas.com
Japan (日本)	CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

https://sort.veritas.com/documents

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.doc@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

http://www.veritas.com/community/ja

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章 NetBackup の状態コード 40

NetBackup の状態コード 40
NetBackup の状態コード: 0 40
NetBackup の状態コード: 1 41
NetBackup の状態コード: 2 46
NetBackup の状態コード: 3 46
NetBackup の状態コード: 4 47
NetBackup の状態コード: 5 47
NetBackup の状態コード: 6 48
NetBackup の状態コード: 7 50
NetBackup の状態コード: 8 51
NetBackup の状態コード: 9 51
NetBackup の状態コード: 10 51
NetBackup の状態コード: 11 51
NetBackup の状態コード: 12 53
NetBackup の状態コード: 13 55
NetBackup の状態コード: 14 59
NetBackup の状態コード: 15 60
NetBackup の状態コード: 16 60
NetBackup の状態コード: 17 60
NetBackup の状態コード: 18 60
NetBackup の状態コード: 19 61
NetBackup の状態コード: 20 62
NetBackup の状態コード: 21 65
NetBackup の状態コード: 22 65
NetBackup の状態コード: 23 66
NetBackup の状態コード: 24 66
NetBackup の状態コード: 25 67
NetBackup の状態コード: 26 70
NetBackup の状態コード: 27 71
NetBackup の状態コード: 28 71
NetBackup の状態コード: 29 72
NetBackup の状態コード: 30 72
NetBackup の状態コード: 31 72
NetBackup の状態コード: 32 73
NetBackup の状態コード: 33 73

NetBackup の状態コード: 34 73
NetBackup の状態コード: 35 74
NetBackup の状態コード: 36 74
NetBackup の状態コード: 37 75
NetBackup の状態コード: 38 76
NetBackup の状態コード: 39 76
NetBackup の状態コード: 40 76
NetBackup の状態コード: 41 77
NetBackup の状態コード: 42 80
NetBackup の状態コード: 43 81
NetBackup の状態コード: 44 81
NetBackup の状態コード: 45 82
NetBackup の状態コード: 46 82
NetBackup の状態コード: 47 84
NetBackup の状態コード: 48 84
NetBackup の状態コード: 49 85
NetBackup の状態コード: 50 85
NetBackup の状態コード: 51 87
NetBackup の状態コード: 52 87
NetBackup の状態コード: 53 88
NetBackup の状態コード: 54 89
NetBackup の状態コード: 55 89
NetBackup の状態コード: 56 90
NetBackup の状態コード: 57 90
NetBackup の状態コード: 58 91
NetBackup の状態コード: 59 91
NetBackup の状態コード: 60 93
NetBackup の状態コード: 63 94
NetBackup の状態コード: 64 94
NetBackup の状態コード: 65 95
NetBackup の状態コード: 66 96
NetBackup の状態コード: 67 96
NetBackup の状態コード: 68 97
NetBackup の状態コード: 69 97
NetBackup の状態コード: 70 98
NetBackup の状態コード: 71 99
NetBackup の状態コード: 72 99
NetBackup の状態コード: 73 100
NetBackup の状態コード: 74 100
NetBackup の状態コード: 75 100
NetBackup の状態コード: 76 101
NetBackup の状態コード: 77 101
NetBackup の状態コード: 78 102

NetBackup の状態コード: 79 102
NetBackup の状態コード: 80 102
NetBackup の状態コード: 81 103
NetBackup の状態コード: 82 104
NetBackup の状態コード: 83 104
NetBackup の状態コード: 84 105
NetBackup の状態コード: 85 107
NetBackup の状態コード: 86 108
NetBackup の状態コード: 87 109
NetBackup の状態コード: 89 109
NetBackup の状態コード: 90 110
NetBackup の状態コード: 91 111
NetBackup の状態コード: 92 112
NetBackup の状態コード: 93 113
NetBackup の状態コード: 94 114
NetBackup の状態コード: 95 114
NetBackup の状態コード: 96 115
NetBackup の状態コード: 97 117
NetBackup の状態コード: 98 117
NetBackup の状態コード: 99 118
NetBackup の状態コード: 100 118
NetBackup の状態コード: 101 119
NetBackup の状態コード: 102 119
NetBackup の状態コード: 103 119
NetBackup の状態コード: 104 120
NetBackup の状態コード: 105 120
NetBackup の状態コード: 106 120
NetBackup の状態コード: 108 121
NetBackup の状態コード: 109 121
NetBackup の状態コード: 110 122
NetBackup の状態コード: 111 122
NetBackup の状態コード: 112 123
NetBackup の状態コード: 114 123
NetBackup の状態コード: 116 124
NetBackup の状態コード: 117 125
NetBackup の状態コード: 118 126
NetBackup の状態コード: 120 128
NetBackup の状態コード: 121 128
NetBackup の状態コード: 122 128
NetBackup の状態コード: 123 129
NetBackup の状態コード: 124 129
NetBackup の状態コード: 125 129
NetBackup の状態コード: 126 130

NetBackup の状態コード: 127 130
NetBackup の状態コード: 128 130
NetBackup の状態コード: 129 131
NetBackup の状態コード: 130 132
NetBackup の状態コード: 131 133
NetBackup の状態コード: 132 133
NetBackup の状態コード: 133 134
NetBackup の状態コード: 134 135
NetBackup の状態コード: 135 135
NetBackup の状態コード: 136 136
NetBackup の状態コード: 140 136
NetBackup の状態コード: 141 136
NetBackup の状態コード: 142 137
NetBackup の状態コード: 143 138
NetBackup の状態コード: 144 138
NetBackup の状態コード: 145 138
NetBackup の状態コード: 146 139
NetBackup の状態コード: 147 139
NetBackup の状態コード: 148 140
NetBackup の状態コード: 149 140
NetBackup の状態コード: 150 140
NetBackup の状態コード: 152 140
NetBackup の状態コード: 153 141
NetBackup の状態コード: 154 141
NetBackup の状態コード: 155 142
NetBackup の状態コード: 156 142
NetBackup の状態コード: 157 157
NetBackup の状態コード: 158 157
NetBackup の状態コード: 159 157
NetBackup の状態コード: 160 158
NetBackup の状態コード: 161 159
NetBackup の状態コード: 162 159
NetBackup の状態コード: 163 159
NetBackup の状態コード: 164 160
NetBackup の状態コード: 165 160
NetBackup の状態コード: 166 160
NetBackup の状態コード: 167 161
NetBackup の状態コード: 168 161
NetBackup の状態コード: 169 161
NetBackup の状態コード: 170 162
NetBackup の状態コード: 171 163
NetBackup の状態コード: 172 164
NetBackup の状態コード: 173 164

NetBackup の状態コード: 174 165
NetBackup の状態コード: 175 166
NetBackup の状態コード: 176 167
NetBackup の状態コード: 177 168
NetBackup の状態コード: 178 168
NetBackup の状態コード: 179 168
NetBackup の状態コード: 180 169
NetBackup の状態コード: 181 169
NetBackup の状態コード: 182 169
NetBackup の状態コード: 183 170
NetBackup の状態コード: 184 171
NetBackup の状態コード: 185 171
NetBackup の状態コード: 186 172
NetBackup の状態コード: 189 173
NetBackup の状態コード: 190 173
NetBackup の状態コード: 191 173
NetBackup の状態コード: 192 175
NetBackup の状態コード: 193 176
NetBackup の状態コード: 194 176
NetBackup の状態コード: 195 177
NetBackup の状態コード: 196 177
NetBackup の状態コード: 197 178
NetBackup の状態コード: 198 178
NetBackup の状態コード: 199 179
NetBackup の状態コード: 200 179
NetBackup の状態コード: 201 180
NetBackup の状態コード: 202 181
NetBackup の状態コード: 203 182
NetBackup の状態コード: 204 183
NetBackup の状態コード: 205 185
NetBackup の状態コード: 206 186
NetBackup の状態コード: 207 187
NetBackup の状態コード: 209 187
NetBackup の状態コード: 210 188
NetBackup の状態コード: 212 188
NetBackup の状態コード: 213 189
NetBackup の状態コード: 215 190
NetBackup の状態コード: 216 190
NetBackup の状態コード: 217 191
NetBackup の状態コード: 218 191
NetBackup の状態コード: 219 192
NetBackup の状態コード: 220 193
NetBackup の状態コード: 221 193

NetBackup の状態コード: 222 194
NetBackup の状態コード: 223 194
NetBackup の状態コード: 224 194
NetBackup の状態コード: 225 195
NetBackup の状態コード: 226 195
NetBackup の状態コード: 227 195
NetBackup の状態コード: 228 196
NetBackup の状態コード: 229 196
NetBackup の状態コード: 230 196
NetBackup の状態コード: 231 197
NetBackup の状態コード: 232 197
NetBackup の状態コード: 233 197
NetBackup の状態コード: 234 198
NetBackup の状態コード: 235 198
NetBackup の状態コード: 236 199
NetBackup の状態コード: 237 199
NetBackup の状態コード: 238 199
NetBackup の状態コード: 239 199
NetBackup の状態コード: 240 200
NetBackup の状態コード: 241 200
NetBackup の状態コード: 242 200
NetBackup の状態コード: 243 201
NetBackup の状態コード: 245 201
NetBackup の状態コード: 246 201
NetBackup の状態コード: 247 201
NetBackup の状態コード: 248 202
NetBackup の状態コード: 249 202
NetBackup の状態コード: 250 202
NetBackup の状態コード: 251 203
NetBackup の状態コード: 252 203
NetBackup の状態コード: 253 203
NetBackup の状態コード: 254 204
NetBackup の状態コード: 256 204
NetBackup の状態コード: 257 204
NetBackup の状態コード: 258 204
NetBackup の状態コード: 259 205
NetBackup の状態コード: 260 205
NetBackup の状態コード: 261 205
NetBackup の状態コード: 262 205
NetBackup の状態コード: 263 206
NetBackup の状態コード: 265 206
NetBackup の状態コード: 266 207
NetBackup の状態コード: 267 207

NetBackup の状態コード: 268 207
NetBackup の状態コード: 269 208
NetBackup の状態コード: 270 208
NetBackup の状態コード: 271 209
NetBackup の状態コード: 272 209
NetBackup の状態コード: 273 209
NetBackup の状態コード: 274 210
NetBackup の状態コード: 275 210
NetBackup の状態コード: 276 210
NetBackup の状態コード: 277 210
NetBackup の状態コード: 278 211
NetBackup の状態コード: 279 211
NetBackup の状態コード: 280 211
NetBackup の状態コード: 281 211
NetBackup の状態コード: 282 212
NetBackup の状態コード: 283 212
NetBackup の状態コード: 284 212
NetBackup の状態コード: 285 213
NetBackup の状態コード: 286 213
NetBackup の状態コード: 287 213
NetBackup の状態コード: 288 214
NetBackup の状態コード: 289 214
NetBackup の状態コード: 290 214
NetBackup の状態コード: 291 215
NetBackup の状態コード: 292 216
NetBackup の状態コード: 293 216
NetBackup の状態コード: 294 217
NetBackup の状態コード: 295 218
NetBackup の状態コード: 296 218
NetBackup の状態コード: 297 219
NetBackup の状態コード: 298 219
NetBackup の状態コード: 299 220
NetBackup の状態コード: 300 220
NetBackup の状態コード: 301 221
NetBackup の状態コード: 302 221
NetBackup の状態コード: 303 222
NetBackup の状態コード: 304 222
NetBackup の状態コード: 305 223
NetBackup の状態コード: 306 223
NetBackup の状態コード: 307 223
NetBackup の状態コード: 308 224
NetBackup の状態コード: 309 224
NetBackup の状態コード: 310 225

NetBackup の状態コード: 311 225
NetBackup の状態コード: 312 225
NetBackup の状態コード: 313 226
NetBackup の状態コード: 314 226
NetBackup の状態コード: 315 226
NetBackup の状態コード: 316 227
NetBackup の状態コード: 317 227
NetBackup の状態コード: 318 228
NetBackup の状態コード: 319 228
NetBackup の状態コード: 320 228
NetBackup の状態コード: 321 229
NetBackup の状態コード: 322 229
NetBackup の状態コード: 323 230
NetBackup の状態コード: 324 230
NetBackup の状態コード: 325 230
NetBackup の状態コード: 326 231
NetBackup の状態コード: 327 231
NetBackup の状態コード: 328 232
NetBackup の状態コード: 329 232
NetBackup の状態コード: 330 232
NetBackup の状態コード: 331 232
NetBackup の状態コード: 332 233
NetBackup の状態コード: 333 233
NetBackup の状態コード: 334 234
NetBackup の状態コード: 335 234
NetBackup の状態コード: 336 234
NetBackup の状態コード: 337 235
NetBackup の状態コード: 338 235
NetBackup の状態コード: 339 235
NetBackup の状態コード: 340 235
NetBackup の状態コード: 341 236
NetBackup の状態コード: 342 236
NetBackup の状態コード: 343 236
NetBackup の状態コード: 344 237
NetBackup の状態コード: 345 237
NetBackup の状態コード: 346 237
NetBackup の状態コード: 347 237
NetBackup の状態コード: 348 238
NetBackup の状態コード: 349 238
NetBackup の状態コード: 350 238
NetBackup の状態コード: 351 239
NetBackup の状態コード: 400 239
NetBackup の状態コード: 401 239

NetBackup の状態コード: 402 240
NetBackup の状態コード: 403 240
NetBackup の状態コード: 404 241
NetBackup の状態コード: 405 241
NetBackup の状態コード: 406 241
NetBackup の状態コード: 407 242
NetBackup の状態コード: 408 242
NetBackup の状態コード: 409 243
NetBackup の状態コード: 501 243
NetBackup の状態コード: 502 244
NetBackup の状態コード: 503 244
NetBackup の状態コード: 504 244
NetBackup の状態コード: 505 245
NetBackup の状態コード: 506 245
NetBackup の状態コード: 507 246
NetBackup の状態コード: 508 247
NetBackup の状態コード: 509 247
NetBackup の状態コード: 510 248
NetBackup の状態コード: 511 249
NetBackup の状態コード: 512 249
NetBackup の状態コード: 513 250
NetBackup の状態コード: 514 250
NetBackup の状態コード: 516 251
NetBackup の状態コード: 517 252
NetBackup の状態コード: 518 252
NetBackup の状態コード: 519 253
NetBackup の状態コード: 520 253
NetBackup の状態コード: 521 253
NetBackup の状態コード: 522 254
NetBackup の状態コード: 523 254
NetBackup の状態コード: 525 254
NetBackup の状態コード: 526 255
NetBackup の状態コード: 527 256
NetBackup の状態コード: 538 256
NetBackup の状態コード: 600 256
NetBackup の状態コード: 601 257
NetBackup の状態コード: 602 257
NetBackup の状態コード: 603 258
NetBackup の状態コード: 604 258
NetBackup の状態コード: 605 258
NetBackup の状態コード: 606 259
NetBackup の状態コード: 607 259
NetBackup の状態コード: 608 260

NetBackup の状態コード: 609 260
NetBackup の状態コード: 610 260
NetBackup の状態コード: 611 261
NetBackup の状態コード: 612 261
NetBackup の状態コード: 613 262
NetBackup の状態コード: 614 262
NetBackup の状態コード: 615 263
NetBackup の状態コード: 616 263
NetBackup の状態コード: 617 263
NetBackup の状態コード: 618 264
NetBackup の状態コード: 619 264
NetBackup の状態コード: 620 264
NetBackup の状態コード: 621 265
NetBackup の状態コード: 622 265
NetBackup の状態コード: 623 265
NetBackup の状態コード: 624 266
NetBackup の状態コード: 625 266
NetBackup の状態コード: 626 267
NetBackup の状態コード: 627 267
NetBackup の状態コード: 628 267
NetBackup の状態コード: 629 268
NetBackup の状態コード: 630 268
NetBackup の状態コード: 631 268
NetBackup の状態コード: 632 269
NetBackup の状態コード: 633 269
NetBackup の状態コード: 634 270
NetBackup の状態コード: 635 270
NetBackup の状態コード: 636 270
NetBackup の状態コード: 637 271
NetBackup の状態コード: 638 271
NetBackup の状態コード: 639 272
NetBackup の状態コード: 640 272
NetBackup の状態コード: 641 273
NetBackup の状態コード: 642 273
NetBackup の状態コード: 643 274
NetBackup の状態コード: 644 274
NetBackup の状態コード: 645 274
NetBackup の状態コード: 646 275
NetBackup の状態コード: 647 276
NetBackup の状態コード: 648 276
NetBackup の状態コード: 649 277
NetBackup の状態コード: 650 277
NetBackup の状態コード: 651 277

NetBackup の状態コード: 652 278
NetBackup の状態コード: 653 278
NetBackup の状態コード: 654 279
NetBackup の状態コード: 655 279
NetBackup の状態コード: 656 279
NetBackup の状態コード: 657 280
NetBackup の状態コード: 658 280
NetBackup の状態コード: 659 281
NetBackup の状態コード: 660 281
NetBackup の状態コード: 661 282
NetBackup の状態コード: 662 282
NetBackup の状態コード: 663 282
NetBackup の状態コード: 664 283
NetBackup の状態コード: 665 283
NetBackup の状態コード: 667 284
NetBackup の状態コード: 668 284
NetBackup の状態コード: 669 284
NetBackup の状態コード: 670 285
NetBackup の状態コード: 671 285
NetBackup の状態コード: 800 285
NetBackup の状態コード: 801 286
NetBackup の状態コード: 802 286
NetBackup の状態コード: 803 287
NetBackup の状態コード: 805 288
NetBackup の状態コード: 806 289
NetBackup の状態コード: 807 289
NetBackup の状態コード: 811 289
NetBackup の状態コード: 812 290
NetBackup の状態コード: 813 290
NetBackup の状態コード: 818 290
NetBackup の状態コード: 819 290
NetBackup の状態コード: 823 291
NetBackup の状態コード: 830 291
NetBackup の状態コード: 831 292
NetBackup の状態コード: 832 292
NetBackup の状態コード: 833 292
NetBackup の状態コード: 900 293
NetBackup の状態コード: 901 294
NetBackup の状態コード: 902 294
NetBackup の状態コード: 903 294
NetBackup の状態コード: 904 295
NetBackup の状態コード: 905 295
NetBackup の状態コード: 906 295

NetBackup の状態コード: 907 296
NetBackup の状態コード: 908 296
NetBackup の状態コード: 912 297
NetBackup の状態コード: 914 297
NetBackup の状態コード: 915 298
NetBackup の状態コード: 916 298
NetBackup の状態コード: 917 298
NetBackup の状態コード: 918 299
NetBackup の状態コード: 1000 299
NetBackup の状態コード: 1001 299
NetBackup の状態コード: 1002 300
NetBackup の状態コード: 1057 300
NetBackup の状態コード: 1058 300
NetBackup の状態コード: 1401 301
NetBackup の状態コード: 1402 301
NetBackup の状態コード: 1403 301
NetBackup の状態コード: 1405 301
NetBackup の状態コード: 1407 302
NetBackup の状態コード: 1408 302
NetBackup の状態コード: 1409 302
NetBackup の状態コード: 1410 302
NetBackup の状態コード: 1411 303
NetBackup の状態コード: 1412 303
NetBackup の状態コード: 1413 303
NetBackup の状態コード: 1414 303
NetBackup の状態コード: 1415 303
NetBackup の状態コード: 1416 304
NetBackup の状態コード: 1417 304
NetBackup の状態コード: 1418 304
NetBackup の状態コード: 1419 304
NetBackup の状態コード: 1420 305
NetBackup の状態コード: 1421 305
NetBackup の状態コード: 1422 305
NetBackup の状態コード: 1423 305
NetBackup の状態コード: 1425 306
NetBackup の状態コード: 1426 306
NetBackup の状態コード: 1500 306
NetBackup の状態コード: 1501 307
NetBackup の状態コード: 1502 307
NetBackup の状態コード: 1503 308
NetBackup の状態コード: 1504 308
NetBackup の状態コード: 1505 309
NetBackup の状態コード: 1506 309

NetBackup の状態コード: 1507 309
NetBackup の状態コード: 1508 310
NetBackup の状態コード: 1509 310
NetBackup の状態コード: 1510 311
NetBackup の状態コード: 1511 311
NetBackup の状態コード: 1512 311
NetBackup の状態コード: 1513 311
NetBackup の状態コード: 1514 312
NetBackup の状態コード: 1515 312
NetBackup の状態コード: 1516 313
NetBackup の状態コード: 1517 313
NetBackup の状態コード: 1518 313
NetBackup の状態コード: 1519 314
NetBackup の状態コード: 1521 314
NetBackup の状態コード: 1522 314
NetBackup の状態コード: 1523 315
NetBackup の状態コード: 1524 315
NetBackup の状態コード: 1525 315
NetBackup の状態コード: 1526 316
NetBackup の状態コード: 1527 316
NetBackup の状態コード: 1528 316
NetBackup の状態コード: 1529 317
NetBackup の状態コード: 1530 318
NetBackup の状態コード: 1531 318
NetBackup の状態コード: 1532 319
NetBackup の状態コード: 1533 319
NetBackup の状態コード: 1534 320
NetBackup の状態コード: 1535 320
NetBackup の状態コード: 1536 320
NetBackup の状態コード: 1537 321
NetBackup の状態コード: 1538 321
NetBackup の状態コード: 1539 322
NetBackup の状態コード: 1540 322
NetBackup の状態コード: 1541 323
NetBackup の状態コード: 1542 323
NetBackup の状態コード: 1543 323
NetBackup の状態コード: 1545 324
NetBackup の状態コード: 1546 324
NetBackup の状態コード: 1547 324
NetBackup の状態コード: 1548 324
NetBackup の状態コード: 1549 325
NetBackup の状態コード: 1552 325
NetBackup の状態コード: 1553 326

NetBackup の状態コード: 1554 327
NetBackup の状態コード: 1556 327
NetBackup の状態コード: 1557 327
NetBackup の状態コード: 1558 328
NetBackup の状態コード: 1559 328
NetBackup の状態コード: 1560 328
NetBackup の状態コード: 1561 329
NetBackup の状態コード: 1562 329
NetBackup の状態コード: 1563 329
NetBackup の状態コード: 1564 330
NetBackup の状態コード: 1565 330
NetBackup の状態コード: 1566 330
NetBackup の状態コード: 1567 331
NetBackup の状態コード: 1568 331
NetBackup の状態コード: 1569 331
NetBackup の状態コード: 1570 332
NetBackup の状態コード: 1571 332
NetBackup の状態コード: 1572 332
NetBackup の状態コード: 1573 333
NetBackup の状態コード: 1574 333
NetBackup の状態コード: 1575 333
NetBackup の状態コード: 1576 334
NetBackup の状態コード: 1577 334
NetBackup の状態コード: 1578 334
NetBackup の状態コード: 1579 335
NetBackup の状態コード: 1580 335
NetBackup の状態コード: 1581 335
NetBackup の状態コード: 1582 336
NetBackup の状態コード: 1583 336
NetBackup の状態コード: 1584 336
NetBackup の状態コード: 1585 337
NetBackup の状態コード: 1586 337
NetBackup の状態コード: 1587 337
NetBackup の状態コード: 1588 338
NetBackup の状態コード: 1589 338
NetBackup の状態コード: 1590 338
NetBackup の状態コード: 1591 338
NetBackup の状態コード: 1592 339
NetBackup の状態コード: 1593 339
NetBackup の状態コード: 1594 339
NetBackup の状態コード: 1596 340
NetBackup の状態コード: 1597 340
NetBackup の状態コード: 1598 340

NetBackup の状態コード: 1599 341
NetBackup の状態コード: 1600 341
NetBackup の状態コード: 1601 341
NetBackup の状態コード: 1602 342
NetBackup の状態コード: 1603 342
NetBackup の状態コード: 1604 342
NetBackup の状態コード: 1800 343
NetBackup の状態コード: 1915 343
NetBackup の状態コード: 1916 344
NetBackup の状態コード: 1917 344
NetBackup の状態コード: 1918 344
NetBackup の状態コード: 1919 345
NetBackup の状態コード: 1920 345
NetBackup の状態コード: 1921 345
NetBackup の状態コード: 1922 346
NetBackup の状態コード: 1924 346
NetBackup の状態コード: 1925 346
NetBackup の状態コード: 1926 347
NetBackup の状態コード: 1927 347
NetBackup の状態コード: 1928 347
NetBackup の状態コード: 2000 348
NetBackup の状態コード: 2001 349
NetBackup の状態コード: 2002 349
NetBackup の状態コード: 2003 350
NetBackup の状態コード: 2004 350
NetBackup の状態コード: 2005 350
NetBackup の状態コード: 2006 351
NetBackup の状態コード: 2007 351
NetBackup の状態コード: 2008 352
NetBackup の状態コード: 2009 352
NetBackup の状態コード: 2010 352
NetBackup の状態コード: 2011 353
NetBackup の状態コード: 2012 353
NetBackup の状態コード: 2013 353
NetBackup の状態コード: 2014 354
NetBackup の状態コード: 2015 354
NetBackup の状態コード: 2016 354
NetBackup の状態コード: 2017 355
NetBackup の状態コード: 2018 355
NetBackup の状態コード: 2019 355
NetBackup の状態コード: 2020 356
NetBackup の状態コード: 2021 356
NetBackup の状態コード: 2022 356

NetBackup の状態コード: 2023 357
NetBackup の状態コード: 2024 357
NetBackup の状態コード: 2025 357
NetBackup の状態コード: 2026 358
NetBackup の状態コード: 2027 358
NetBackup の状態コード: 2028 358
NetBackup の状態コード: 2029 359
NetBackup の状態コード: 2030 359
NetBackup の状態コード: 2031 360
NetBackup の状態コード: 2032 360
NetBackup の状態コード: 2033 360
NetBackup の状態コード: 2034 361
NetBackup の状態コード: 2035 361
NetBackup の状態コード: 2036 361
NetBackup の状態コード: 2037 362
NetBackup の状態コード: 2038 362
NetBackup の状態コード: 2039 362
NetBackup の状態コード: 2040 363
NetBackup の状態コード: 2041 363
NetBackup の状態コード: 2042 363
NetBackup の状態コード: 2043 363
NetBackup の状態コード: 2044 364
NetBackup の状態コード: 2045 364
NetBackup の状態コード: 2046 364
NetBackup の状態コード: 2047 364
NetBackup の状態コード: 2048 365
NetBackup の状態コード: 2049 365
NetBackup の状態コード: 2050 365
NetBackup の状態コード: 2051 366
NetBackup の状態コード: 2052 366
NetBackup の状態コード: 2053 366
NetBackup の状態コード: 2054 366
NetBackup の状態コード: 2055 367
NetBackup の状態コード: 2056 367
NetBackup の状態コード: 2057 367
NetBackup の状態コード: 2058 368
NetBackup の状態コード: 2059 368
NetBackup の状態コード: 2060 368
NetBackup の状態コード: 2061 368
NetBackup の状態コード: 2062 369
NetBackup の状態コード: 2063 369
NetBackup の状態コード: 2064 369
NetBackup の状態コード: 2065 370

NetBackup の状態コード: 2066 370
NetBackup の状態コード: 2067 370
NetBackup の状態コード: 2068 371
NetBackup の状態コード: 2069 371
NetBackup の状態コード: 2070 371
NetBackup の状態コード: 2071 372
NetBackup の状態コード: 2072 372
NetBackup の状態コード: 2073 372
NetBackup の状態コード: 2074 373
NetBackup の状態コード: 2075 373
NetBackup の状態コード: 2076 373
NetBackup の状態コード: 2078 374
NetBackup の状態コード: 2079 374
NetBackup の状態コード: 2080 374
NetBackup の状態コード: 2081 375
NetBackup の状態コード: 2082 375
NetBackup の状態コード: 2083 375
NetBackup の状態コード: 2084 376
NetBackup の状態コード: 2085 376
NetBackup の状態コード: 2086 376
NetBackup の状態コード: 2087 377
NetBackup の状態コード: 2088 377
NetBackup の状態コード: 2089 377
NetBackup の状態コード: 2090 378
NetBackup の状態コード: 2091 378
NetBackup の状態コード: 2092 379
NetBackup の状態コード: 2093 380
NetBackup の状態コード: 2094 381
NetBackup の状態コード: 2095 381
NetBackup の状態コード: 2096 381
NetBackup の状態コード: 2097 382
NetBackup の状態コード: 2098 382
NetBackup の状態コード: 2099 382
NetBackup の状態コード: 2100 383
NetBackup の状態コード: 2101 383
NetBackup の状態コード: 2102 383
NetBackup の状態コード: 2103 384
NetBackup の状態コード: 2104 384
NetBackup の状態コード: 2105 384
NetBackup の状態コード: 2106 385
NetBackup の状態コード: 2107 385
NetBackup の状態コード: 2108 386
NetBackup の状態コード: 2109 386

NetBackup の状態コード: 2110 387
NetBackup の状態コード: 2111 387
NetBackup の状態コード: 2112 387
NetBackup の状態コード: 2113 388
NetBackup の状態コード: 2504 388
NetBackup の状態コード: 2517 388
NetBackup の状態コード: 2521 389
NetBackup の状態コード:2522 389
NetBackup の状態コード: 2800 389
NetBackup の状態コード: 2801 390
NetBackup の状態コード: 2802 391
NetBackup の状態コード: 2803 392
NetBackup の状態コード: 2804 394
NetBackup の状態コード: 2805 395
NetBackup の状態コード: 2806 395
NetBackup の状態コード: 2807 396
NetBackup の状態コード: 2808 397
NetBackup の状態コード: 2809 397
NetBackup の状態コード: 2810 398
NetBackup の状態コード: 2811 400
NetBackup の状態コード: 2812 400
NetBackup の状態コード: 2813 401
NetBackup の状態コード: 2814 401
NetBackup の状態コード: 2815 402
NetBackup の状態コード: 2816 403
NetBackup の状態コード: 2817 403
NetBackup の状態コード: 2818 404
NetBackup の状態コード: 2819 404
NetBackup の状態コード: 2820 405
NetBackup の状態コード: 2821 406
NetBackup の状態コード: 2826 407
NetBackup の状態コード: 2827 408
NetBackup の状態コード: 2828 408
NetBackup の状態コード: 2829 408
NetBackup の状態コード: 2830 409
NetBackup の状態コード: 2831 409
NetBackup の状態コード: 2832 409
NetBackup の状態コード: 2833 410
NetBackup の状態コード: 2834 410
NetBackup の状態コード: 2835 410
NetBackup の状態コード: 2836 411
NetBackup の状態コード: 2837 411
NetBackup の状態コード: 2838 411

NetBackup の状態コード: 2839 412
NetBackup の状態コード: 2840 412
NetBackup の状態コード: 2841 412
NetBackup の状態コード: 2842 413
NetBackup の状態コード: 2843 413
NetBackup の状態コード: 2844 413
NetBackup の状態コード: 2845 414
NetBackup の状態コード: 2846 414
NetBackup の状態コード: 2847 414
NetBackup の状態コード: 2848 414
NetBackup の状態コード: 2849 415
NetBackup の状態コード: 2850 415
NetBackup の状態コード: 4200 416
NetBackup の状態コード: 4201 416
NetBackup の状態コード: 4202 417
NetBackup の状態コード: 4203 417
NetBackup の状態コード: 4204 418
NetBackup の状態コード: 4205 418
NetBackup の状態コード: 4206 418
NetBackup の状態コード: 4207 419
NetBackup の状態コード: 4208 419
NetBackup の状態コード: 4209 420
NetBackup の状態コード: 4210 420
NetBackup の状態コード: 4211 420
NetBackup の状態コード: 4212 421
NetBackup の状態コード: 4213 421
NetBackup の状態コード: 4214 422
NetBackup の状態コード: 4215 422
NetBackup の状態コード: 4216 422
NetBackup の状態コード: 4217 422
NetBackup の状態コード: 4218 423
NetBackup の状態コード: 4219 423
NetBackup の状態コード: 4220 424
NetBackup の状態コード: 4221 424
NetBackup の状態コード: 4222 424
NetBackup の状態コード: 4223 425
NetBackup の状態コード: 4224 425
NetBackup の状態コード: 4225 425
NetBackup の状態コード: 4226 426
NetBackup の状態コード: 4227 426
NetBackup の状態コード: 4228 426
NetBackup の状態コード: 4229 427
NetBackup の状態コード: 4230 427

NetBackup の状態コード: 4231 427
NetBackup の状態コード: 4232 428
NetBackup の状態コード: 4233 428
NetBackup の状態コード: 4234 428
NetBackup の状態コード: 4235 428
NetBackup の状態コード: 4236 429
NetBackup の状態コード: 4237 429
NetBackup の状態コード: 4238 429
NetBackup の状態コード: 4239 430
NetBackup の状態コード: 4240 430
NetBackup の状態コード: 4243 430
NetBackup の状態コード: 4245 431
NetBackup の状態コード: 4246 431
NetBackup の状態コード: 4247 431
NetBackup の状態コード: 4248 432
NetBackup の状態コード: 4249 432
NetBackup の状態コード:4250 432
NetBackup の状態コード: 4251 432
NetBackup の状態コード: 4252 433
NetBackup の状態コード: 4253 433
NetBackup の状態コード: 4254 433
NetBackup の状態コード: 4255 434
NetBackup の状態コード: 4256 434
NetBackup の状態コード: 4257 434
NetBackup の状態コード:4258 435
NetBackup の状態コード: 4259 435
NetBackup の状態コード:4260 435
NetBackup の状態コード:4261 436
NetBackup の状態コード:4262 436
NetBackup の状態コード:4263 436
NetBackup の状態コード:4264 437
NetBackup の状態コード:4265 437
NetBackup の状態コード:4266 437
NetBackup の状態コード: 4267 437
NetBackup の状態コード:4268 438
NetBackup の状態コード:4269 438
NetBackup の状態コード:4270 438
NetBackup の状態コード:4271 439
NetBackup の状態コード:4272 439
NetBackup の状態コード:4273 439
NetBackup の状態コード:4274 439
NetBackup の状態コード:4275 440
NetBackup の状態コード:4276 440

NetBackup の状態コード:4277 440
NetBackup の状態コード:4278 440
NetBackup の状態コード:4279 441
NetBackup の状態コード:4280 441
NetBackup の状態コード:4281 441
NetBackup の状態コード:4282 441
NetBackup の状態コード:4283 442
NetBackup の状態コード: 4287 442
NetBackup の状態コード: 4290 443
NetBackup の状態コード: 5400 443
NetBackup の状態コード: 5401 444
NetBackup の状態コード: 5402 444
NetBackup の状態コード: 5403 444
NetBackup の状態コード: 5404 445
NetBackup の状態コード: 5405 445
NetBackup の状態コード: 5406 445
NetBackup の状態コード: 5407 445
NetBackup の状態コード: 5408 446
NetBackup の状態コード: 5409 446
NetBackup の状態コード: 5410 446
NetBackup の状態コード: 5411 447
NetBackup の状態コード: 5412 447
NetBackup の状態コード: 5413 447
NetBackup の状態コード: 5414 448
NetBackup の状態コード: 5415 448
NetBackup の状態コード: 5416 448
NetBackup の状態コード: 5417 448
NetBackup の状態コード: 5418 449
NetBackup の状態コード: 5419 449
NetBackup の状態コード: 5420 449
NetBackup の状態コード:5421 450
NetBackup の状態コード:5422 450
NetBackup の状態コード:5423 450
NetBackup の状態コード:5424 451
NetBackup の状態コード:5425 451
NetBackup の状態コード:5426 452
NetBackup の状態コード:5427 452
NetBackup の状態コード:5428 452
NetBackup の状態コード:5429 453
NetBackup の状態コード:5430 453
NetBackup の状態コード: 5500 453
NetBackup の状態コード: 5501 454
NetBackup の状態コード: 5502 454

NetBackup の状態コード: 5503 454
NetBackup の状態コード: 5504 454
NetBackup の状態コード: 5505 455
NetBackup の状態コード: 5506 455
NetBackup の状態コード: 5507 455
NetBackup の状態コード: 5508 456
NetBackup の状態コード: 5761 456
NetBackup の状態コード: 5762 456
NetBackup の状態コード: 5763 456
NetBackup の状態コード: 5764 457
NetBackup の状態コード: 5765 457
NetBackup の状態コード: 5766 457
NetBackup の状態コード: 5767 458
NetBackup の状態コード: 5768 458
NetBackup の状態コード: 5769 458
NetBackup の状態コード: 5770 459
NetBackup の状態コード: 5771 459
NetBackup の状態コード: 5772 459
NetBackup の状態コード: 5773 459
NetBackup の状態コード: 5774 460
NetBackup の状態コード: 5775 460
NetBackup の状態コード: 5776 460
NetBackup の状態コード: 5777 460
NetBackup の状態コード: 5778 461
NetBackup の状態コード: 5779 461
NetBackup の状態コード: 5780 461
NetBackup の状態コード: 5781 461
NetBackup の状態コード: 5782 462
NetBackup の状態コード: 5783 462
NetBackup の状態コード: 5784 462
NetBackup の状態コード: 5786 462
NetBackup の状態コード: 5787 463
NetBackup の状態コード: 5788 463
NetBackup の状態コード: 5789 463
NetBackup の状態コード: 5790 463
NetBackup の状態コード: 5794 464
NetBackup の状態コード: 5796 464
NetBackup の状態コード: 5798 464
NetBackup の状態コード: 5799 464
NetBackup の状態コード: 5800 465
NetBackup の状態コード: 5801 465
NetBackup の状態コード: 5803 465
NetBackup の状態コード: 5804 465

NetBackup の状態コード: 5805 466
NetBackup の状態コード: 5806 466
NetBackup の状態コード: 5807 466
NetBackup の状態コード: 5808 467
NetBackup の状態コード: 5809 467
NetBackup の状態コード: 5811 467
NetBackup の状態コード: 5812 467
NetBackup の状態コード: 5813 468
NetBackup の状態コード: 5814 468
NetBackup の状態コード: 5815 468
NetBackup の状態コード: 5816 468
NetBackup の状態コード: 5817 469
NetBackup の状態コード: 5819 469
NetBackup の状態コード: 5820 469
NetBackup の状態コード: 5821 469
NetBackup の状態コード: 5902 470
NetBackup の状態コード: 5903 470
NetBackup の状態コード: 5904 470
NetBackup の状態コード: 5905 470
NetBackup の状態コード: 5906 471
NetBackup の状態コード: 5907 471
NetBackup の状態コード: 5908 471
NetBackup の状態コード: 5909 472
NetBackup の状態コード: 5910 472
NetBackup の状態コード: 5913 472
NetBackup の状態コード: 5914 472
NetBackup の状態コード: 5915 472
NetBackup の状態コード: 5916 473
NetBackup の状態コード: 5917 473
NetBackup の状態コード: 5918 473
NetBackup の状態コード: 5919 474
NetBackup の状態コード: 5920 474
NetBackup の状態コード: 5921 474
NetBackup の状態コード: 5922 474
NetBackup の状態コード: 5925 475
NetBackup の状態コード: 5926 475
NetBackup の状態コード: 5927 475
NetBackup の状態コード: 5929 475
NetBackup の状態コード: 5930 476
NetBackup の状態コード: 5931 476
NetBackup の状態コード: 5932 476
NetBackup の状態コード: 5933 477
NetBackup の状態コード: 5934 477

NetBackup の状態コード: 5936 477
NetBackup の状態コード: 5938 477
NetBackup の状態コード: 5939 478
NetBackup の状態コード: 5940 478
NetBackup の状態コード: 5941 478
NetBackup の状態コード: 5942 478
NetBackup の状態コード: 5943 479
NetBackup の状態コード: 5944 479
NetBackup の状態コード: 5945 479
NetBackup の状態コード: 5946 479
NetBackup の状態コード: 5947 480
NetBackup の状態コード: 5948 480
NetBackup の状態コード: 5949 480
NetBackup の状態コード: 5950 481
NetBackup の状態コード: 5953 481
NetBackup の状態コード: 5954 481
NetBackup の状態コード: 5955 481
NetBackup の状態コード: 5956 482
NetBackup の状態コード: 5957 482
NetBackup の状態コード: 5958 482
NetBackup の状態コード: 5959 482
NetBackup の状態コード: 5960 483
NetBackup の状態コード: 5962 483
NetBackup の状態コード: 5963 484
NetBackup の状態コード: 5964 484
NetBackup の状態コード: 5965 484
NetBackup の状態コード: 5966 485
NetBackup の状態コード: 5967 485
NetBackup の状態コード: 5968 485
NetBackup の状態コード: 5969 486
NetBackup の状態コード: 5970 486
NetBackup の状態コード: 5971 486
NetBackup の状態コード: 6000 486
NetBackup の状態コード: 6530 487
NetBackup の状態コード: 6531 487
NetBackup の状態コード: 7610 487
NetBackup の状態コード: 8000 488
NetBackup の状態コード: 8500 488
NetBackup の状態コード: 8504 488
NetBackup の状態コード: 8505 488
NetBackup の状態コード: 8506 489
NetBackup の状態コード: 8507 489
NetBackup の状態コード: 8508 489

NetBackup の状態コード: 8509 490
NetBackup の状態コード: 8510 490
NetBackup の状態コード: 8700 490
NetBackup の状態コード: 8701 490
NetBackup の状態コード: 8702 491
NetBackup の状態コード: 8703 491
NetBackup の状態コード: 8704 491
NetBackup の状態コード: 8706 492
NetBackup の状態コード: 8707 492
NetBackup の状態コード: 8708 492
NetBackup の状態コード: 8709 492
NetBackup の状態コード: 8710 493
NetBackup の状態コード: 8711 493
NetBackup の状態コード: 8712 493
NetBackup の状態コード: 8713 493
NetBackup の状態コード: 8800 494
NetBackup KMS の状態コード 494
NetBackup KMS の状態コード: 1 495
NetBackup KMS の状態コード: 2 495
NetBackup KMS の状態コード: 3 495
NetBackup KMS の状態コード: 4 495
NetBackup KMS の状態コード: 5 495
NetBackup KMS の状態コード: 6 495
NetBackup KMS の状態コード: 7 496
NetBackup KMS の状態コード: 8 496
NetBackup KMS の状態コード: 9 496
NetBackup KMS の状態コード: 10 496
NetBackup KMS の状態コード: 11 496
NetBackup KMS の状態コード: 12 497
NetBackup KMS の状態コード: 13 497
NetBackup KMS の状態コード: 14 497
NetBackup KMS の状態コード: 15 497
NetBackup KMS の状態コード: 16 497
NetBackup KMS の状態コード: 17 498
NetBackup KMS の状態コード: 18 498
NetBackup KMS の状態コード: 19 498
NetBackup KMS の状態コード: 20 498
NetBackup KMS の状態コード: 21 498
NetBackup KMS の状態コード: 22 499
NetBackup KMS の状態コード: 23 499
NetBackup KMS の状態コード: 24 499
NetBackup KMS の状態コード: 25 499
NetBackup KMS の状態コード: 26 499

NetBackup KMS の状態コード: 27 499
NetBackup KMS の状態コード: 28 500
NetBackup KMS の状態コード: 29 500
NetBackup KMS の状態コード: 30 500
NetBackup KMS の状態コード: 31 500
NetBackup KMS の状態コード: 32 500
NetBackup KMS の状態コード: 33 500
NetBackup KMS の状態コード: 34 501
NetBackup KMS の状態コード: 35 501
NetBackup KMS の状態コード: 36 501
NetBackup KMS の状態コード: 37 501
NetBackup KMS の状態コード: 38 501
NetBackup KMS の状態コード: 39 501
NetBackup KMS の状態コード: 40 502
NetBackup KMS の状態コード: 41 502
NetBackup KMS の状態コード: 42 502
NetBackup KMS の状態コード: 44 502
NetBackup KMS の状態コード: 45 502
NetBackup KMS の状態コード: 46 503
NetBackup KMS の状態コード: 47 503
NetBackup KMS の状態コード: 48 503
NetBackup KMS の状態コード: 49 503
NetBackup KMS の状態コード: 50 503
NetBackup KMS の状態コード: 51 504
NetBackup KMS の状態コード: 52 504
NetBackup KMS の状態コード: 53 504
NetBackup KMS の状態コード: 54 504
NetBackup KMS の状態コード: 55 504
NetBackup KMS の状態コード: 56 504
NetBackup KMS の状態コード: 57 505
NetBackup KMS の状態コード: 58 505
NetBackup KMS の状態コード: 59 505
NetBackup KMS の状態コード: 60 505
NetBackup KMS の状態コード: 61 505
NetBackup KMS の状態コード: 62 506
NetBackup KMS の状態コード: 63 506
NetBackup KMS の状態コード: 1287 506

第 2 章 Media Manager の状態コード 508

Media Manager の状態コード 508
Media Manager の状態コード 1 508
Media Manager の状態コード 2 508

Media Manager の状態コード 3 509
Media Manager の状態コード 4 509
Media Manager の状態コード 5 510
Media Manager の状態コード 6 510
Media Manager の状態コード 7 510
Media Manager の状態コード 8 510
Media Manager の状態コード 9 511
Media Manager の状態コード 10 511
Media Manager の状態コード 11 512
Media Manager の状態コード 12 512
Media Manager の状態コード 13 513
Media Manager の状態コード 14 513
Media Manager の状態コード 15 513
Media Manager の状態コード 16 514
Media Manager の状態コード 18 514
Media Manager の状態コード 19 514
Media Manager の状態コード 20 515
Media Manager の状態コード 21 515
Media Manager の状態コード 22 516
Media Manager の状態コード 23 516
Media Manager の状態コード 25 516
Media Manager の状態コード 26 516
Media Manager の状態コード 27 517
Media Manager の状態コード 28 517
Media Manager の状態コード 32 518
Media Manager の状態コード 34 518
Media Manager の状態コード 35 518
Media Manager の状態コード 36 519
Media Manager の状態コード 37 519
Media Manager の状態コード 39 520
Media Manager の状態コード 40 520
Media Manager の状態コード 41 520
Media Manager の状態コード 42 521
Media Manager の状態コード 43 521
Media Manager の状態コード 44 522
Media Manager の状態コード 45 523
Media Manager の状態コード 46 523
Media Manager の状態コード 47 523
Media Manager の状態コード 48 524
Media Manager の状態コード 49 524
Media Manager の状態コード 50 524
Media Manager の状態コード 51 525
Media Manager の状態コード 52 525

Media Manager の状態コード 53 526
Media Manager の状態コード 54 526
Media Manager の状態コード 55 527
Media Manager の状態コード 57 527
Media Manager の状態コード 58 527
Media Manager の状態コード 59 528
Media Manager の状態コード 60 528
Media Manager の状態コード 61 529
Media Manager の状態コード 62 529
Media Manager の状態コード 63 530
Media Manager の状態コード 64 530
Media Manager の状態コード 65 530
Media Manager の状態コード 67 531
Media Manager の状態コード 68 531
Media Manager の状態コード 69 532
Media Manager の状態コード 70 532
Media Manager の状態コード 71 533
Media Manager の状態コード 72 534
Media Manager の状態コード 73 534
Media Manager の状態コード 74 535
Media Manager の状態コード 75 535
Media Manager の状態コード 76 535
Media Manager の状態コード 78 536
Media Manager の状態コード 79 536
Media Manager の状態コード 80 537
Media Manager の状態コード 81 537
Media Manager の状態コード 82 538
Media Manager の状態コード 83 539
Media Manager の状態コード 84 539
Media Manager の状態コード 85 539
Media Manager の状態コード 86 540
Media Manager の状態コード 87 540
Media Manager の状態コード 88 540
Media Manager の状態コード 89 541
Media Manager の状態コード 90 541
Media Manager の状態コード 92 542
Media Manager の状態コード 93 542
Media Manager の状態コード 94 543
Media Manager の状態コード 95 543
Media Manager の状態コード 96 544
Media Manager の状態コード 97 545
Media Manager の状態コード 101 545
Media Manager の状態コード 102 546

Media Manager の状態コード 104 546
Media Manager の状態コード 105 546
Media Manager の状態コード 109 547
Media Manager の状態コード 110 548
Media Manager の状態コード 111 548
Media Manager の状態コード 112 548
Media Manager の状態コード 113 549
Media Manager の状態コード 114 549
Media Manager の状態コード 115 549
Media Manager の状態コード 116 550
Media Manager の状態コード 117 550
Media Manager の状態コード 118 551
Media Manager の状態コード 119 551
Media Manager の状態コード 121 551
Media Manager の状態コード 122 552
Media Manager の状態コード 126 552
Media Manager の状態コード 127 553
Media Manager の状態コード 129 553
Media Manager の状態コード 130 553
Media Manager の状態コード 131 554
Media Manager の状態コード 132 554
Media Manager の状態コード 133 555
Media Manager の状態コード 134 555
Media Manager の状態コード 135 556
Media Manager の状態コード 136 556
Media Manager の状態コード 137 556
Media Manager の状態コード 138 557
Media Manager の状態コード 139 557
Media Manager の状態コード 140 557
Media Manager の状態コード 141 557
Media Manager の状態コード 142 558
Media Manager の状態コード 143 558
Media Manager の状態コード 144 558
Media Manager の状態コード 145 558
Media Manager の状態コード 146 559
Media Manager の状態コード 147 559
Media Manager の状態コード 148 560
Media Manager の状態コード 149 560
Media Manager の状態コード 150 561
Media Manager の状態コード 152 561
Media Manager の状態コード 153 561
Media Manager の状態コード 155 562
Media Manager の状態コード 160 562

Media Manager の状態コード 162 562
Media Manager の状態コード 163 563
Media Manager の状態コード 164 563
Media Manager の状態コード 165 563
Media Manager の状態コード 166 564
Media Manager の状態コード 167 564
Media Manager の状態コード 168 564
Media Manager の状態コード 169 565
Media Manager の状態コード 171 565
Media Manager の状態コード 172 565
Media Manager の状態コード 173 566
Media Manager の状態コード 175 566
Media Manager の状態コード 176 566
Media Manager の状態コード 177 567
Media Manager の状態コード 181 567
Media Manager の状態コード 182 568
Media Manager の状態コード 185 568
Media Manager の状態コード 186 569
Media Manager の状態コード 187 569
Media Manager の状態コード 188 570
Media Manager の状態コード 189 571
Media Manager の状態コード 190 572
Media Manager の状態コード 191 572
Media Manager の状態コード 192 572
Media Manager の状態コード 193 573
Media Manager の状態コード 194 573
Media Manager の状態コード 195 573
Media Manager の状態コード 196 574
Media Manager の状態コード 198 574
Media Manager の状態コード 199 574

第 3 章 デバイス構成の状態コード 575

デバイス構成の状態コード 575
デバイス構成の状態コード 0 575
デバイス構成の状態コード 1 575
デバイス構成の状態コード 2 576
デバイス構成の状態コード 3 576
デバイス構成の状態コード 7 577
デバイス構成の状態コード 8 577
デバイス構成の状態コード 9 577
デバイス構成の状態コード 10 577
デバイス構成の状態コード 11 578

デバイス構成の状態コード 13 578
デバイス構成の状態コード 14 579
デバイス構成の状態コード 15 579
デバイス構成の状態コード 16 579
デバイス構成の状態コード 17 580
デバイス構成の状態コード 18 580
デバイス構成の状態コード 19 581
デバイス構成の状態コード 21 581
デバイス構成の状態コード 22 581
デバイス構成の状態コード 24 582
デバイス構成の状態コード 25 582
デバイス構成の状態コード 27 582
デバイス構成の状態コード 28 583
デバイス構成の状態コード 29 583
デバイス構成の状態コード 30 583
デバイス構成の状態コード 31 584
デバイス構成の状態コード 33 584
デバイス構成の状態コード 34 584
デバイス構成の状態コード 35 585
デバイス構成の状態コード 36 585
デバイス構成の状態コード 37 586
デバイス構成の状態コード 38 586
デバイス構成の状態コード 39 586
デバイス構成の状態コード 40 586
デバイス構成の状態コード 41 587
デバイス構成の状態コード 42 587
デバイス構成の状態コード 44 587
デバイス構成の状態コード 48 588
デバイス構成の状態コード 49 588
デバイス構成の状態コード 51 589
デバイス構成の状態コード 52 589
デバイス構成の状態コード 53 589
デバイス構成の状態コード 55 590
デバイス構成の状態コード 56 590
デバイス構成の状態コード 57 590
デバイス構成の状態コード 58 591
デバイス構成の状態コード 59 591
デバイス構成の状態コード 60 592
デバイス構成の状態コード 61 592
デバイス構成の状態コード 62 592
デバイス構成の状態コード 63 593
デバイス構成の状態コード 64 593
デバイス構成の状態コード 65 593

デバイス構成の状態コード 66 593
デバイス構成の状態コード 67 594
デバイス構成の状態コード 68 594
デバイス構成の状態コード 69 594
デバイス構成の状態コード 70 594
デバイス構成の状態コード 71 595
デバイス構成の状態コード 72 595
デバイス構成の状態コード 73 595
デバイス構成の状態コード 74 595
デバイス構成の状態コード 75 596
デバイス構成の状態コード 76 596
デバイス構成の状態コード 77 596
デバイス構成の状態コード 78 597
デバイス構成の状態コード 79 597
デバイス構成の状態コード 81 597
デバイス構成の状態コード 82 598
デバイス構成の状態コード 83 598
デバイス構成の状態コード 84 598
デバイス構成の状態コード 85 599
デバイス構成の状態コード 86 599
デバイス構成の状態コード 87 600
デバイス構成の状態コード 88 600
デバイス構成の状態コード 89 600
デバイス構成の状態コード 90 601
デバイス構成の状態コード 91 601
デバイス構成の状態コード 92 601
デバイス構成の状態コード 93 602
デバイス構成の状態コード 95 602
デバイス構成の状態コード 96 602
デバイス構成の状態コード 97 602
デバイス構成の状態コード 98 603
デバイス構成の状態コード 99 603
デバイス構成の状態コード 100 603
デバイス構成の状態コード 101 603

第 4 章 デバイス管理の状態コード 604

デバイス管理の状態コード 604
デバイス管理の状態コード 1 604
デバイス管理の状態コード 2 604
デバイス管理の状態コード 3 605
デバイス管理の状態コード 4 605
デバイス管理の状態コード 5 605

デバイス管理の状態コード 6 606
デバイス管理の状態コード 7 606
デバイス管理の状態コード 8 607
デバイス管理の状態コード 10 607
デバイス管理の状態コード 12 608
デバイス管理の状態コード 13 608
デバイス管理の状態コード 14 608
デバイス管理の状態コード 15 609
デバイス管理の状態コード 16 609
デバイス管理の状態コード 17 609
デバイス管理の状態コード 19 610
デバイス管理の状態コード 20 610
デバイス管理の状態コード 21 610
デバイス管理の状態コード 22 611
デバイス管理の状態コード 23 611
デバイス管理の状態コード 24 612
デバイス管理の状態コード 25 612
デバイス管理の状態コード 26 612
デバイス管理の状態コード 27 613
デバイス管理の状態コード 28 613
デバイス管理の状態コード 30 613
デバイス管理の状態コード 32 614
デバイス管理の状態コード 33 614
デバイス管理の状態コード 35 615
デバイス管理の状態コード 36 615
デバイス管理の状態コード 37 616
デバイス構成の状態コード 38 616
デバイス管理の状態コード 39 616
デバイス管理の状態コード 40 617
デバイス管理の状態コード 41 617
デバイス管理の状態コード 42 618
デバイス管理の状態コード 44 618
デバイス管理の状態コード 46 618
デバイス管理の状態コード 47 619
デバイス管理の状態コード 48 619
デバイス管理の状態コード 49 620
デバイス管理の状態コード 50 620
デバイス管理の状態コード 52 620
デバイス管理の状態コード 53 621
デバイス管理の状態コード 55 621
デバイス管理の状態コード 56 621
デバイス管理の状態コード 58 621
デバイス管理の状態コード 59 622

デバイス管理の状態コード 60 622
デバイス管理の状態コード 61 622
デバイス管理の状態コード 62 623
デバイス管理の状態コード 63 623
デバイス管理の状態コード 64 623
デバイス管理の状態コード 65 624
デバイス管理の状態コード 66 624
デバイス管理の状態コード 69 624
デバイス管理の状態コード 70 624
デバイス管理の状態コード 71 625
デバイス管理の状態コード 72 625
デバイス管理の状態コード 73 626
デバイス管理の状態コード 74 626
デバイス管理の状態コード 75 626
デバイス管理の状態コード 76 626
デバイス管理の状態コード 77 627
デバイス管理の状態コード 78 627
デバイス管理の状態コード 79 628
デバイス管理の状態コード 80 628
デバイス管理の状態コード 81 628
デバイス管理の状態コード 82 629
デバイス管理の状態コード 83 629
デバイス管理の状態コード 84 629

第 5 章 ロボットの状態コード 630

ロボットの状態コード 630
ロボットの状態コード 200 630
ロボットの状態コード 201 630
ロボットの状態コード 202 631
ロボットの状態コード 203 632
ロボットの状態コード 204 632
ロボットの状態コード 205 632
ロボットの状態コード 206 633
ロボットの状態コード 207 633
ロボットの状態コード 208 633
ロボットの状態コード 209 634
ロボットの状態コード 210 634
ロボットの状態コード 211 635
ロボットの状態コード 212 635
ロボットの状態コード 213 636
ロボットの状態コード 214 636
ロボットの状態コード 215 636

ロボットの状態コード 216 637
ロボットの状態コード 217 637
ロボットの状態コード 218 637
ロボットの状態コード 219 638
ロボットの状態コード 220 638
ロボットの状態コード 221 638
ロボットの状態コード 222 639
ロボットの状態コード 223 639
ロボットの状態コード 224 639
ロボットの状態コード 225 640
ロボットの状態コード 226 640
ロボットの状態コード 228 641
ロボットの状態コード 229 641
ロボットの状態コード 230 642
ロボットの状態コード 232 642
ロボットの状態コード 233 643
ロボットの状態コード 234 643
ロボットの状態コード 235 643
ロボットの状態コード 236 644
ロボットの状態コード 237 644
ロボットの状態コード 238 644
ロボットの状態コード 239 644
ロボットの状態コード 240 645
ロボットの状態コード 242 645
ロボットの状態コード 243 645
ロボットの状態コード 244 646
ロボットの状態コード 245 646
ロボットの状態コード 246 647
ロボットの状態コード 249 647
ロボットの状態コード 250 647
ロボットの状態コード 251 647
ロボットの状態コード 252 647
ロボットの状態コード 253 648
ロボットの状態コード 254 648
ロボットの状態コード 255 648
ロボットの状態コード 256 648
ロボットの状態コード 257 649
ロボットの状態コード 258 649
ロボットの状態コード 259 649
ロボットの状態コード 260 650
ロボットの状態コード 261 650
ロボットの状態コード 262 650

第 6 章 ロボットのエラーコード 651

ロボットのエラーコード 651
ロボットエラーの状態コード 1 651
ロボットエラーの状態コード 2 652
ロボットエラーの状態コード 3 652
ロボットエラーの状態コード 4 652
ロボットエラーの状態コード 5 653
ロボットエラーの状態コード 6 653
ロボットエラーの状態コード 7 653
ロボットエラーの状態コード 8 654
ロボットエラーの状態コード 9 654
ロボットエラーの状態コード 10 654
ロボットエラーの状態コード 11 655
ロボットエラーの状態コード 12 655
ロボットエラーの状態コード 13 655
ロボットエラーの状態コード 14 656
ロボットエラーの状態コード 16 656
ロボットエラーの状態コード 17 656

第 7 章 セキュリティサービスの状態コード 657

セキュリティサービスの状態コード 657
セキュリティサービスの状態コード 93 657
セキュリティサービスの状態コード 94 657
セキュリティサービスの状態コード 95 658
セキュリティサービスの状態コード 96 658
セキュリティサービスの状態コード 97 658
セキュリティサービスの状態コード 98 658
セキュリティサービスの状態コード 99 659
セキュリティサービスの状態コード 100 659
セキュリティサービスの状態コード 101 659
セキュリティサービスの状態コード 102 659
セキュリティサービスの状態コード 103 660
セキュリティサービスの状態コード 104 660
セキュリティサービスの状態コード 105 660
セキュリティサービスの状態コード 106 660
セキュリティサービスの状態コード 107 660

1

NetBackup の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup の状態コード
- NetBackup KMS の状態コード

NetBackup の状態コード

NetBackup の状態コード (番号順) の完全なリストを次に示します。

メモ: NetBackup サーバー製品に対して、マスターサーバーやサーバーという用語は使用されますが、メディアサーバーという用語は使用されません。NetBackup Server がインストールされているコンピュータのトラブルシューティングを行う場合、メディアサーバーについての説明は無視してください。(この注意は、NetBackup Enterprise Server には適用されません。)

NetBackup の状態コード: 0

メッセージ**:** 要求された操作は正常に完了しました (the requested operation was successfully completed)

説明**:** 要求された操作では、問題は検出されませんでした。

推奨処置**:** NetBackup Database Extension 製品 (NetBackup for Oracle や NetBackup for SQL Server など) を使用してデータベースがバックアップされた場合を除き、処置は必要ありません。この場合、コード 0 (ゼロ) は、(バックアップを開始した) バックアップスクリプトの実行時にエラーが発生しなかったことを示しています。ただし、データベースのバックアップが正常に行われたかどうかを確認するには、関連する NetBackup マニュアルの説明に従って、他の状態コードを調べる必要があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1

メッセージ**:** 要求された操作は部分的に成功しました (The requested operation was partially successful)

説明**:** 要求された操作の実行中に、処置が必要な問題が検出されました。

推奨処置**:** [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートおよび進捗ログ (存在する場合) を確認します。

状態コード 1 で示される問題の例を次に示します。

- ファイルパスまたはディレクトリパスが、1023 文字を超える。
  NetBackup Snapshot Client の場合、スナップショットバックアップに対するパス名の最大長は、1023 文字ではなく、1000 文字です。スナップショットが作成されると、新しいマウントポイントがファイルパスの最初に追加されます。新しいマウントポイントと元のファイルパスの合計が 1023 文字を超える場合、バックアップが失敗して、状態コード 1 が表示されます。進捗ログには、次のエントリが表示されます。

  ```
  ERR-Skipping long dir path.
  ```

- ファイルを開くことができない。
  なんらかの理由でファイルがロックされた可能性があります。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  NetBackup でファイルのリンク名を取得できません。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  NetBackup でスパースファイルを処理できません。
- ファイル内で読み込みエラーが発生した。
- ファイル形式が不明であるか、または隠しファイルである。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  バックアップを実行可能なファイルで `lstat` システムコールが失敗しました。このエラーは、権限に問題がある可能性があります。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  強制ロックが有効になっているファイルをロックできません。
- 次の場合、合成バックアップジョブは状態コード 1 を表示して終了する場合があります。
  - 合成するイメージが見つからなかった (状態コード = 607)。
  - TIR 情報がコンポーネントイメージから削除された (状態コード = 136)。
  - イメージ形式がサポートされていない (状態コード = 79)。

合成バックアップジョブによって、実際の状態コードが NetBackup エラーログに記録されます。修正処置については、対応する NetBackup エラーコードの説明を参照してください。

- BMR ジョブは次の状況で状態コード 1 を表示して終了する場合があります。
  BMR 構成の保存でエラーが戻された (子ジョブが正常に完了した場合でも)。詳細を調べるには、[ジョブの詳細 (Job Details)] ダイアログボックスの [状態の詳細 (Detailed Status)] タブ、または nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) を確認します。
- UNIX のデータベース拡張クライアントのスケジュールバックアップが、複数のバックアップスクリプトを含むポリシーによって開始されている。このバックアップが状態コード 1 で失敗した場合、いくつかのバックアップスクリプトによって失敗の状態が戻されます。
- 開いた状態のファイルまたは使用中のファイルをバックアップする Windows Open File Backup (WOFB) を使用しているクライアント上で、次のような状況になる場合があります。
  バックアップに対してボリュームスナップショットが正常に機能しません。
  次のログメッセージが bpbkar32 ログに表示されます。
  複数ストリームが許可されているバックアップジョブの場合、複数ストリームが許可されているバックアップジョブに対してボリュームスナップショットが無効になっていることを示す、次のようなログメッセージが表示されます。

  ```
  11:05:44.601 AM: [1536.724] <4> tar_backup::V_AddToFI_XBSAObj:
  INF - Volume snapshots not enabled for: D:¥Directory1
  ```

  複数ストリームが許可されていないバックアップジョブの場合、ストリームが許可されていないバックアップジョブに対してボリュームスナップショットが無効になっていることを示す、次のようなログメッセージが表示されます。

  ```
  1:59:41.229 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF -
  ================================
  1:59:41.229 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF - Attempting to
  create snapshots for D:¥Directory1
  1:59:41.229 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF - CREATE request:
  C:¥Program Files¥VERITAS¥NetBackup¥bin¥bpfis create -fim VSP
  "D:¥ Directory1"
  1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_ParseBpfisOutput: INF - Snapshot
  creation, FIS_ID: 1058813981
  1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_ParseBpfisOutput: INF - Snapshot creation
  ```

```
EXIT STATUS 11: system call failed
1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF - Snapshot creation
was not successful
1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF -
==============================
```

この場合、スナップショット作成の失敗に関するエラーメッセージについて、bpfis のログを調べてください。bpfis ログの詳細が利用可能です。

『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

bpfis ログには、Windows Open File Backup のスナップショット作成が失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

最初のメッセージ:

```
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: VfMS error 11; see
following messages:
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: Fatal method error
was reported
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: vfm_freeze_commit:
method: VSP, type: FIM, function: VSP_make
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: VfMS method error
3; see following message:
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: snapshot services:
snapshot creation failed: invalid argument(s).
```

原因: バックアップの VSP スナップショットが、VSP の[ビジー状態のファイルを待機 (Busy file wait)]設定で指定された最短時間を満たさなかったため、VSP を有効にできませんでした。

VSP の[ビジー状態のファイルのタイムアウト (Busy file timeout)]の設定値を増やすか (推奨値は 300 秒以上)、またはボリューム上での動作が少ないときにバックアップジョブを開始します。

2 番目のメッセージ:

```
04:17:55.571 [1636.3224] <2> onlfi_vfms_logf: snapshot services:
(null): There was an unexpected error while preparing the VSP
snapshot transaction. Dumping the parameter array to provide
more information: Error 112 from VSP_Prepare
```

原因: VSP スナップショットキャッシュファイル用のクライアントに十分な空きディスク領域が存在しないため、バックアップに対して VSP を有効にできませんでした。

バックアップ対象のボリュームでディスク領域を解放します。

3 番目のメッセージ:

Windows Open File Backup スナップショットプロバイダとして Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) が使用されている場合にスナップショットの作成が失敗したときは、イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログのエラー情報を参照してください。

- スナップショットエラーが発生した可能性があります。また、一部のクライアントで、開いた状態のファイルまたは使用中のファイルをバックアップする Windows Open File Backup オプションが使用されている可能性があります。この場合、スナップショットエラーが発生したことを示すログメッセージが bpbkar32 デバッグログに表示されます。次に示すのはスナップショットエラーの例です。

  ```
  8:51:14.569 AM: [1924.2304] <2> tar_base::V_vTarMsgW: ERR -
  Snapshot Error while reading test.file
  ```

  状態コード 156 の「推奨処置」を参照してください。

- Microsoft Exchange Server のバックアップに複数のデータベースが含まれていますが、すべてのデータベースのバックアップが正常に完了しているわけではありません。ジョブの詳細を調べ、バックアップされなかったデータベースに関するステートメントを確認してください。完全または差分バックアップでは、バックアップに成功したデータベースのトランザクションログは省略されます。その他のデータベースのバックアップに失敗した場合でも、トランザクションログはバックアップイメージから復元できます。Exchange Server 2007 では、これがデータベースではなくストレージグループに適用されます。警告: バックアップに失敗したデータベースはこのバックアップによっては保護されません。

- 個別バックアップが有効な Microsoft Exchange Server はデータベース（Exchange 2007 のストレージグループ）のバックアップに成功していますが、メールボックスレベルの情報をキャプチャする第 2 GRT フェーズは失敗しました。ジョブ詳細を調べて失敗の原因を確認してください。完全または差分バックアップでは、GRT フェーズが成功したかどうかにかかわりなく、バックアップに成功したデータベースのトランザクションログは省略されます。バックアップに成功したデータベースは、GRT フェーズが失敗していてもバックアップイメージから復元できます。

- VMware バックアップの間、ストレージマイグレーションを許可するために仮想マシンをロック解除することができません。
  仮想マシンはこのバックアップからリストアできます。ただし、この問題を次回のバックアップの前に修正することもできます。

- VMware バックアップの間、仮想マシンのスナップショットは削除できません。また、仮想マシンのディスクを統合することもできません。
  仮想マシンはこのバックアップからリストアできます。ただし、この問題を次回のバックアップの前に修正することもできます。

- VMware リストアの間、仮想マシンは vCloud にインポートできません。アクティビティモニターのジョブの詳細を示す［状態の詳細 (Detailed Status)］タブには、vCloud Director が生成したエラーの理由を示すメッセージが表示されます。

リストアされた仮想マシンはリストア先の vCenter に存在します。ただし、手動で vCloud にインポートする必要があります。

NetApp NDMP アクセラレータバックアップは、ステータスコード 1 で次のようなボリュームのクロック不一致警告を表示して終了する場合があります。

- `Clock discrepancy detected between NDMP filer and NetBackup Media Server.`
- `If this is not expected, please perform a backup with Accelerator forced rescan enabled.`
- `In order to stop seeing these messages, please address clock discrepancy.`

この問題は次のいずれかの状況が原因で起きる可能性があります。

- NetApp ファイラと NetBackup NDMP バックアップホストとの間に 1 時間を超える時差がある場合、すべてのボリュームにクロックの不一致警告が表示されます。
  影響を受けるボリュームの時差を確認し、必要に応じて更新するか、またはファイラと同じタイムゾーンのメディアサーバーを使用します。

  メモ: 正しい時間を保証するために、NTP サーバーを使用することをお勧めします。

- SnapMirror (データ保護) ボリュームに 1 時間以上の遅延時間がある場合、そのボリュームに警告が表示されます。
  次のコマンドを使って、ボリュームがデータ保護ボリュームか、遅延時間が 1 時間を超えているかを調べます。
  - NetApp Clustered Data ONTAP (cDOT) の場合:
    `snapmirror show -fields lag-time`
  - NetApp 7 モードの場合:
    `snapmirror status`

  ファイラにデータ保護ボリュームがある場合、次のいずれかの操作を実行します。
  - NetBackup ポリシーのバックアップの選択でバックアップ用のボリュームを参照し、選択します。
  - ミラーボリュームを除外するには、VOLUME_EXCLUDE_LIST を ALL_FILESYSTEMS 指示句と一緒に使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2

メッセージ: 要求されたファイルのバックアップは実行されませんでした (none of the requested files were backed up)

説明: バックアップまたはアーカイブで、ファイルリスト内のファイルのバックアップが実行されませんでした。

この状態コードは、Lotus Notes データベースエージェントまたは SQL Server データベースエージェントを使用する自動バックアップに主に適用され、ジョブに関連するすべてのバックアップが失敗した場合に発生します。または、Enterprise Vault のバックアップが失敗しています。これは、通常のファイルシステムバックアップでは発生しません。

UNIX、Linux または Windows ファイルシステムバックアップ、あるいは SQL Server または Lotus Notes 以外のデータベースエージェントでこのエラーが発生した場合、(テクニカルノート TECH38838 で推奨されている) NetBackup サポート事例を確認します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 次の説明は、Lotus Notes だけに適用されます。
  このエラーは、UNIX 上の Lotus Domino サーバーでアーカイブログが有効でない場合に発生します。また、このエラーは、トランザクションログに対して別のバックアップが実行中の場合に発生します。
- 収集するログのリストや、特定の問題の詳細など、トラブルシューティングの方法について詳しくは、テクニカルノートTECH38838 を参照してください。
- トラブルシューティング手段について詳しくは、適切なマニュアルのトラブルシューティングに関する項を参照してください。
  - 『NetBackup for SQL Server 管理者ガイド』
  - 『NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド』
  - 『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 3

メッセージ: 有効なアーカイブイメージが作成されましたが、致命的ではない問題が原因で、ファイルは削除されませんでした (valid archive image produced, but no files deleted due to non-fatal problems)

説明: アーカイブコマンドのバックアップ処理で問題が発生したため、ファイルが削除されませんでした。

推奨処置: クライアントのアーカイブの進捗ログまたは状態を調べ、問題を修正後、アーカイブを再試行する必要があるかどうかを判断します。問題が重大でなく、ファイルのバックアップが行われている場合、ファイルを手動で削除できます。バックアップが行われた

ファイルを確認するには、リストアモードで、NetBackup のクライアントユーザーインターフェースを使用して、アーカイブ内のファイルを参照します。

ファイルが削除されない原因として、必要な権限を所有していないことが考えられます。NetBackup では、ファイルを所有するユーザー、スーパーユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Windows の場合) でない場合、ファイルを削除できません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4

メッセージ: アーカイブファイルの削除に失敗しました (archive file removal failed)

説明: 完了したアーカイブのバックアップ処理は正常に完了しましたが、削除に失敗しました。

推奨処置: ユーザーがファイルを削除する権限を所有し、読み取り専用フラグがファイルに設定されていないことを確認します。UNIX クライアントの場合、ファイルが格納されているディレクトリに対して、書き込み権限を所有していることを確認します。バックアップは正常に行われたため、バックアップされたファイルを削除できます。(必要な権限を所有していない場合、システム管理者にそのファイルの削除を依頼します。)

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5

メッセージ: リストアは、要求されたファイルのリカバリに失敗しました (the restore failed to recover the requested files)

説明: エラーが発生したため、リストアが失敗しました。

インスタントリカバリを使う仮想マシンのリストアでは、このエラーは次の理由で起きる可能性があります。

- リソースプールまたは一時データストアの名前を正確に指定していません。
- 仮想マシンは vSphere でマウントまたはアクティブ化できません。

推奨処置: 示されている順序で次の操作を実行します。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。

- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

インスタントリカバリを使用する仮想マシンのリストアの場合は、必須パラメータの名前を正しく指定していることを確認します。vSphere のタスクまたはイベントの既知の問題も調べます。詳しいデバッグについては、リストアホストの bpVMutil ログを参照してください。

install_path¥NetBackup¥logs¥bpVMutil

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 6

メッセージ: バックアップは、要求されたファイルのバックアップに失敗しました (the backup failed to back up the requested files)

説明: エラーが発生したため、ユーザーバックアップが失敗しました。

VMware バックアップでは、このエラーは次の理由により発生する可能性があります。

- VMware 項目 1: 仮想マシンとバックアップホストの仮想マシン (hotadd バックアップ用) が含んでいるディスクが多すぎる可能性があります。合計がバックアップホストの SCSI コントローラに対して多すぎる場合、hotadd トランスポートモードのバックアップは失敗します。次がジョブ状態ログに表示されます。

  ERR - 指定されたトランスポートモードを使用したスナップショットディスクのオープン中にエラーが発生しました: 状態 23

- VMware 項目 2: VMware バックアップホストが選択したトランスポートモード上のデータストアにアクセスできない場合、バックアップは失敗します。バックアップホストの状態の詳細ログには、次のように表示されることがあります。

  12/4/2009 1:12:34 PM - Error bpbrm(pid=21376) from client vm4: ERR - 指定されたトランスポートモードを使用したスナップショットディスクのオープン中にエラーが発生しました: 状態 23

- VMware 項目 3: NetBackup が ESX Server を通して仮想マシンのバックアップを直接実行したとき、Storage vMotion は仮想マシンのファイルを移行しました。
- VMware 項目 4: hotadd バックアップの場合: バックアップホストが ESX サーバーのホスト名を解決できませんでした。このエラーは、バックアップホストがインストールされている仮想マシンで DNS が正しく構成されていない場合に起きることがあります。
- VMware 項目 5: hotadd バックアップの場合: バックアップする仮想マシンと、バックアップホストを含む仮想マシンが同じデータセンターに存在しないと、バックアップは失敗します。
- VMware 項目 6: 次のように、仮想マシンの以前のホットアドバックアップが失敗した可能性があります。

- ホットアドバックアップの間に、VMware は VM のディスクのリンククローンを作成し、バックアップホストにクローンディスクを接続します。(接続されたディスクは vSphere Client で確認できます。) VM のホットアドバックアップが失敗すれば、NetBackup はバックアップホストからクローンディスクを削除できないことがあります。バックアップホストでは、クローンディスクによって、以降のバックアップは完了できません。
- VM のバックアップで、VMware はバックアップホストの `C:¥Windows¥Temp` フォルダにマウントディレクトリを作成します。バックアップ後、VMware はこのマウントディレクトリを自動的に削除します。バックアップが hotadd トランスポートモードを使用する場合など、NetBackup がマウントディレクトリを削除できない場合があります。

- VMware 項目 7: vSphere 6.0 はインターネットプロトコルバージョン 6 (IPv6) をサポートしますが、IPv4 と IPv6 の両方のデュアルスタック構成はサポートしません。(デュアルスタックネットワークでは、ネットワークノードは IPv4 と IPv6 の両方で有効です。)

  次の点に注意してください。

  - IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが有効な場合、vCenter 6.0 は IPv4 アドレスのみ使用します。
  - vCenter サーバーの DNS 名が IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方に解決されていて IPv6 アドレスが到達不能な場合は、VMware の VDDK API による IPv6 を介した通信が失敗することに注意してください。このため、NetBackup バックアップジョブも状態コード 6 で失敗します。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。クライアントの状態または進捗ログを調べて、バックアップが失敗した理由に関するメッセージを確認します。問題を修正して、バックアップを再試行します。
- 次の説明は、Windows クライアントだけに適用されます。
  NetBackup Client Service を起動するために使用したアカウントが、ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。
- UNIX または Linux の Database Extension クライアント (NetBackup for Oracle など) では、この状態コードは、バックアップを制御するスクリプトに問題がある可能性を示しています。
  クライアントの進捗レポートで、次のようなメッセージを調べます。例:

  ```
  Script exited with status code = number
  ```

  number は変化します。通常、進捗ログでスクリプトが特定されます。
  スクリプトの問題を調べます。また、Database Extension によって作成されたトラブルシューティングログも確認します。スクリプトおよびトラブルシューティングログの詳

細な情報は、Database Extension に付属する NetBackup のマニュアルを参照してください。

- VMware 項目 1: より多くの SCSI コントローラーをバックアップホストの仮想マシンに追加します。
- VMware 項目 2: 別のトランスポートモードを選択し、バックアップを再試行します。
- VMware 項目 3: vSphere 5.0 以降で Storage vMotion との競合を避けるには、NetBackup で vCenter サーバーを通してバックアップを実行してください。詳しくは、『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。
- VMware 項目 4: 仮想マシンで、ESX サーバーの IP アドレスを hosts ファイルに入力できます: `¥Windows¥System32¥drivers¥etc¥hosts`
- VMware 項目 5: hotadd バックアップが成功するように、2 つの仮想マシンは同じ VMware データセンターにある必要があります。
- VMware 項目 6: hotadd が成功するように、特定のマウントディレクトリかクローンディスクを次の通り手動で削除する必要があります。
  - クローンディスクを VMware バックアップホストから削除し、バックアップを再試行します。
  - マウントディレクトリを `¥Temp` フォルダから削除し、バックアップを再試行します。フォルダ名には、`VMware-System` などの文字列が含まれています。
- VMware 項目 7: vCenter の DNS 名が IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス (のいずれか) に解決されていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 7

メッセージ**:** アーカイブは、要求されたファイルのバックアップに失敗しました (the archive failed to back up the requested files)

説明**:** エラーが発生したため、ユーザーアーカイブが失敗しました。

推奨処置**:** ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。クライアントの進捗ログまたは状態を調べて、アーカイブが失敗した理由に関するメッセージを確認します。問題を修正して、アーカイブを再試行します。

Windows クライアントの場合、NetBackup サービスを起動するために使用したアカウントが、ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8

メッセージ: rbak の状態を判断できません (unable to determine the status of rbak)

説明: DomainOS クライアントでは、rbak はリストアを行うために使用されます。rbak の終了時に状態メッセージが表示されない場合には、NetBackup はリストアが成功したかどうかを判断できません。

推奨処置: 新しい core ファイルを調べて、rbak が異常終了したかどうかを確認します。ps 出力で、rbak がハングアップしているかどうかを確認します。ハングアップしている場合、強制終了し、再試行します。進捗ログで、rbak からの異常メッセージを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 9

メッセージ: 必要な拡張機能パッケージがインストールされていないか、または正しく構成されていません (a necessary extension package is not installed or not configured properly)

説明: 要求された操作を実行するには、NetBackup 拡張機能製品がインストールおよび構成されている必要があります。

推奨処置: 必要な拡張機能製品がインストールおよび構成されていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 10

メッセージ: 割り当てに失敗しました (allocation failed)

説明: 利用可能なシステムメモリが不足しているため、システムメモリの割り当てが失敗しました。原因として、過剰なプロセス、および物理メモリや仮想メモリの不足のために、システムに過大な負荷が生じていることが考えられます。

推奨処置: メモリを消費する不要なプロセスを終了して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 11

メッセージ: システムコールに失敗しました (system call failed)

説明: システムコールが失敗しました。この状態コードは、対応する状態コードが存在しない、一般的なシステムコールが失敗した場合に使用されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートおよび[問題 (Problems)]レポートを参照して、失敗したシステムコールを特定し、エラーに関する他の情報を確認します。
- nbjm および nbproxy で例外処理が実行された場合 (nbproxy がポリシーまたは構成情報を取得しようとした場合など)、状態コード 11 が戻されます。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) または nbproxy のレガシーログで、エラーの原因の詳細を調べます。
- 頻出する原因として、サーバーのファイルシステムに空きがない場合があります。たとえば、[問題 (Problems)]レポートまたは bpdbm のデバッグログに、次のようなメッセージが表示される場合があります。

  ```
  06/27/95 01:04:00 romb romb  db_FLISTsend failed: system call
  failed (11)
  06/27/95 01:04:01 romb romb  media manager terminated by parent
  process
  06/27/95 01:05:15 romb romb backup of client romb that exited with
  status 11 (system call failed)
  ```

  UNIX システムの場合、/usr/openv/netbackup/db ディレクトリで df コマンドを実行します。
  df コマンドを実行しても問題が判明しない場合、bpdbm のデバッグログを確認するか、次のメッセージに対して grep を実行します。

  ```
  system call failed
  ```

  これは、/usr/openv/netbackup/db/error/ ディレクトリ内の関連ファイルに存在します。
  Windows システムの場合、NetBackup をインストールしているディスクパーティション内に十分な空き領域が存在することを確認します。
- システムの仮想メモリが不足していないことを確認します。仮想メモリに問題がある場合、使用していないアプリケーションを終了するか、仮想メモリの量を増やします。

  Windows で仮想メモリを増やすには、示されている順で次の操作を行います。

  - [コントロール パネル]を表示します。
  - [システム]をダブルクリックします。
  - [パフォーマンス]タブで、[仮想メモリ]の設定値を増やします。
- 次の説明は、UNIX クライアントだけに適用されます。
  セマフォの問題を確認します。このエラーは、システムに十分な割り当て済みセマフォがないことが原因で発生する場合があります。Solaris サーバー上で RDBMS も実行している場合に、最も頻繁に発生します。

問題の現象は場合によって異なります。たとえば、NetBackup ログ内のエラーメッセージで、セマフォ操作のエラーによるバックアップの失敗が示される場合があります。また、他の現象として、NetBackup Device Manager デーモン `ltid` が、必要なセマフォを取得できなくなる場合があります。

システム要件は場合によって異なるため、確実な推奨事項はありません。Solaris サーバーで NetBackup と Oracle の両方を実行している場合の例を次に示します。`/etc/system` ファイルに次の変更を加え、システムを再起動 (`boot -r`) すると、問題が解決する場合があります。

```
set semsys:seminfo_semmni=300
set semsys:seminfo_semmns=300
set semsys:seminfo_semmsl=300
set semsys:seminfo_semmnu=600
```

システムのすべてのアプリケーションにリソースを提供できるように、これらの属性には十分な大きさの値を設定します。

- クライアントの他のデバッグログ、進捗ログまたは状態を調べます。`nbjm` の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 12

メッセージ**:** ファイルを開けませんでした (file open failed)

説明**:** ファイルを開くことができませんでした。

ディスクストレージユニットが、NetBackup サーバーまたはメディアサーバーのルートデバイスのディレクトリに書き込みを実行しようとしたか、またはルートデバイスにディレクトリを作成しようとしました。この場合、アクティビティモニターのジョブの詳細ログには、[ルートデバイスにはバックアップが許可されていません (backups not permitted to root device)] というメッセージが記録されます。デフォルトでは、ディスクストレージユニットの絶対パスまたは指定するディレクトリは、ルートファイルシステム (またはシステムディスク) 上に存在できません。ストレージユニットの作成時に、ディスクストレージユニットがルートファイルシステム上に存在することを明示的に許可しておく必要があります。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- ディスクストレージユニットのパスがルートファイルシステム上に存在することを許可する場合は、NetBackup 管理コンソールで [ストレージユニットの変更 (Change Storage Unit)] ダイアログボックスを開き、[このディレクトリは、ルートファイルシステムまたはシステムディスク上に存在できます。(This directory can exist on the root file system or system disk.)] チェックボックスをチェックします。

- ディスクストレージユニットに指定したパスが、ルートファイルシステムまたはシステムデバイス上に存在しない場合は、そのパスが、マウントされているファイルシステム上に存在することを確認します。
- ディスクストレージユニットに指定したパスが、ルートファイルシステムまたはシステムデバイス上に存在する場合、その位置に存在する必要がなければ、[ストレージユニットの変更 (Change Storage Unit)]ダイアログボックスを使用して、マウントされているファイルシステム上の (ルート以外の) 別のパスを指定します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認します。ファイルおよびエラーの発生原因を特定します。原因として、ファイルに対する権限の問題が考えられます。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- NetBackup Lotus Notes では、特定の時点へのリストアジョブが失敗し、状態コード 12 が表示される場合があります。これらのジョブは、NetBackup 管理コンソールまたはバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、マスターサーバーから開始されたものです。この失敗は、NetBackup の tar ログファイルで通知されます。(Windows の場合、このファイルは、*install_path*¥NetBackup¥logs¥tar フォルダに存在します。UNIX の場合、このファイルは、/usr/openv/netbackup/logs/tar フォルダに存在します。) NetBackup マスターサーバーのインストールパスが NetBackup クライアントのインストールパスと異なる場合、Lotus データベースのリカバリ中の Lotus トランザクションログエクステントの自動リストアは失敗します。アクティビティモニターでは、状態コード 0 (正常終了) が表示されることに注意してください。ただし、クライアントの tar ログでは、リストアは正常終了していても、Lotus データベースのリカバリには失敗したこと (状態コード 12) が示されます。

  NetBackup クライアントでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、リストアジョブを実行します。
- NetBackup Snapshot Client では、状態コード 12 は、次のようなメッセージとともに /usr/openv/netbackup/logs/bptm または bpdm のログに表示される場合があります。

  ```
  tpc_read_config failed: cannot open file
  /usr/openv/volmgr/database/3pc.conf
  ```

  この状態コードは、ポリシーがオフホストバックアップ方式として[NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]または[サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]のいずれかを使用して構成されていて、3pc.conf ファイルが存在しないか不適切な場所にあることを示します。

  3pc.conf ファイルの作成手順を参照できます。

  『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

- FlashBackup ポリシーでは、ソースデータエントリの後に CACHE= エントリがあると、バックアップが失敗して状態コード 12 が表示されます。クライアント上の /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ログ内に次のようなメッセージが表示されます。

  ```
  09:55:33.941 [6092] <16> bpfsmap: ERR - open_snapdisk: NetBackup
  snapshot enable failed error 3
  09:55:33.942 [6092] <32> bpfsmap: FTL - bpfsmap: can't open
  snapshot disk /dev/rdsk/c4t1d0s3 errno 0
  09:55:33.950 [6092] <16> bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit
  status = 12: file open failed
  09:55:33.956 [6092] <4> bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 12: file
  open failed
  09:55:33.957 [6092] <2> bpbkar Exit: INF - Close of stdout
  complete
  ```

  CACHE エントリがソースデータエントリの前になるように、バックアップ対象リストの順序を変更します。(ソースデータエントリでは、バックアップ対象のファイルシステムを含む raw パーティションを指定します。)

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 13

メッセージ: ファイルの読み込みに失敗しました (file read failed)

説明: ファイルまたはソケットの読み込みに失敗しました。

考えられる原因は、次のとおりです。

- マスターサーバー、メディアサーバー、またはいずれかのクライアントで発生したネットワーク通信問題。
- ファイルシステムからの読み込み時の I/O エラー。
- 不完全なファイルまたは壊れたファイルの読み込み。
- ネットワークの問題またはソケットに書き込みを行っているプロセスの問題が原因で発生したソケットの読み込みの失敗。
- NetBackup Snapshot Client に固有の問題 (「推奨処置」を参照)。
- NetBackup インストール後の最初の EV-SQL バックアップの失敗。
  『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- Windows の場合、NetBackup でスナップショットのコピー操作用に生成されたファイルリストに十分な情報がないため tar32 コピーからリストアできない。たとえば、

tar32 コピーがまだ作成されておらずブロック番号の情報が正しくない場合があります。

- NetBackup はデュアルブート VM のためのポリシーの［VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)］オプションをサポートしません。
- VMware VDDK でタイムアウトをロックすると、同じ VMware バックアップホストからの同時 hotadd バックアップが失敗する場合があります。
  NetBackup アクティビティモニターの詳しいステータスログに、次のようなメッセージが含まれることがあります。

  ```
  12/05/2014 06:43:53 - begin writing
  12/05/2014 06:48:53 - Error bpbrm (pid=2605) socket read failed:
  errno = 62 - Timer expired
  12/05/2014 06:48:55 - Error bptm (pid=2654) media manager
  terminated
  by parent process
  ```

  /NetBackup/logs/vxms ログに、次のような VDDK メッセージが繰り返し含まれる可能性があります。

  ```
  12/08/2014 05:11:35 : g_vixInterfaceLogger:libvix.cpp:1844 <DEBUG>
   :
  [VFM_ESINFO] 2014-12-08T05:11:35.146-06:00 [7F1B1163F700 info
  Libs']
  FILE: FileLockWaitForPossession timeout on
  '/var/log/vmware/hotAddLock.
  dat.lck/M34709.lck' due to a local process
  '15882-26732358(bpbkarv)'
  ```

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が発生した位置と原因についての情報を、NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで確認します。
- ネットワーク通信が正しく動作していることを確認します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- FlashBackup クライアントの場合、/var/adm/messages ログで、次のようなエラーを確認します。

  ```
  Mar 24 01:35:58 bison unix: WARNING: sn_alloccache: cache
  /dev/rdsk/c0t2d0s3 full - all snaps using this cache are now
  unusable
  ```

このエラーは、キャッシュパーティションの大きさが不十分であることを示しています。可能な場合、キャッシュパーティションのサイズを大きくします。または、複数のバックアップで同じキャッシュを使用している場合、並列実行バックアップの数を減らします。並列実行バックアップの数を減らすには、並列実行バックアップの一部を再スケジュールするか、ファイルシステムの動作が少ない時間帯にすべてのバックアップを再スケジュールします。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- すべての製品とコンポーネント (SQL Server、Exchange、Notes など) の最新の Service Pack が インストールされていることを確認します。
- 環境全体のすべてのネットワークハードウェア (NIC、ハブ、スイッチ、ルーターなど) が半二重モードではなく全二重モードに設定されていることを確認します。
- システムの NIC に関する次の項目を確認します。
  - システム全体で最新の NIC ドライバにアップグレードします。
  - すべての NIC が半二重モードではなく全二重モードに設定されていることを確認します。
    『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワークインターフェースカードのパフォーマンスのトラブルシューティング」を参照してください。
  - NIC のタイムアウト設定を大きくします。
  - NIC チーミングが実装されている場合は、テストのために無効にします。
  - 対象となるクライアントまたはサーバーの NIC 自体を置き換えます。
- NetBackup Snapshot Client では、状態コード 13 は、`/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar` ログに表示される場合があります。

  このログは、次の内容を示している可能性があります。

  - バックアップを行うファイルが、SCSI ドライブではなく IDE ドライブに存在します。オフホストバックアップ方式が、[NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)] または [サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)] のいずれかに設定されています。オフホストバックアップを使用する場合、クライアントファイルを格納するディスクは、SCSI デバイスまたはファイバーチャネルデバイスである必要があります。
    IDE ドライブのディスクでは、`/usr/openv/netbackup/logs/bpfis` ログ内に次のように表示される場合があります。

    ```
    get_disk_info: FTL - /var/tmp/caa026fEU disk_inquiry failed.
    Errno = 25: Inappropriate ioctl for device
    ```

/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ログ内には次のように表示される場合があります。

```
bpbkar: INF - Processing /var
bpbkar: ERR - get_disk_info() failed, status 13
bpbkar: ERR - tpc_get_disk_info() failed: err 13
bpbkar: ERR - bpbkar FATAL exit status = 13: file read failed
bpbkar: INF - EXIT STATUS 13: file read failed
```

- バックアップを行うファイルが、マウントされていないファイルシステム上に存在します。スナップショットソースとして指定するファイルシステムは、マウントされている必要があります。スナップショットソースがマウントされていない状態で、マウントポイントが存在する場合、NetBackup では、スナップショットソースとして指定したディレクトリより 1 階層上のディレクトリのスナップショットの取得が試行されます。
- NetBackup メディアサーバー方式では、クライアントの読み込みタイムアウト値を大きくする必要がある場合があります。ある環境では、デフォルト値より長い読み込み時間が必要になることがあります。クライアントの読み込みタイムアウトが不十分な場合、バックアップが失敗してこのエラーが発生する可能性があります。すべてのクライアントに対してクライアントの読み込みタイムアウトを大きくするには、NetBackup 管理コンソールで、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]に移動し、マスターサーバーをダブルクリックして[プロパティ (Properties)]>[タイムアウト (Timeouts)]に移動します。その後、クライアントの読み込みタイムアウトを大きくします。

- Windows の場合、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]のクライアントコンソールを更新し、リストアを再試行します。この処理はクライアントコンソールに表示されるファイルリストを更新し、選択したファイルについての正しい情報を渡します。
- 同じ VMware バックアップホストからの同時実行の hotadd バックアップが失敗する原因となる VMware VDDK でのタイムアウトを回避するには、次のいずれかを実行します。
  - 同時に動作する hotadd バックアップの数を減らします。
  - メディアサーバーのクライアント読み込みのタイムアウトを適宜 (15 分以上まで) 増やします。
    NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]の順に選択し、メディアサーバーをダブルクリックし、[タイムアウト (Timeouts)]> [クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]を選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 14

メッセージ: ファイルの書き込みに失敗しました (file write failed)

説明: ファイルまたはソケットへの書き込みに失敗しました。

考えられる原因は、次のとおりです。

- ファイルシステムへの書き込み時の I/O エラー。
- ソケットへの書き込みの失敗。この失敗は、ネットワークの問題またはソケットから読み込みを行っているプロセスの問題が原因である場合があります。
- 空きがなくなったディスクパーティションへの書き込み。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が発生した位置と原因についての情報を、NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- ルーター、ブリッジおよび他のネットワークデバイスが完全に二重化されていることを確認します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワークインターフェースカードのパフォーマンスのトラブルシューティング」を参照してください。
- 「Sniffer」プログラムを使用して、拒否または再要求されたパケット数を判断します。
- Windows システムの場合、クライアントの bpbkar のログに、10054「接続リセットエラー (Connection Reset Error)」というエラー (通常は、ハードウェアのエラーを示す) が含まれる場合があります。この場合、NetBackup クライアントとサーバーの間で、接続が初期状態に戻されています。NetBackup はこのエラーを受信した場合、バックアップを継続できません。このエラーが発生する原因は、次のとおりです。
  - ネットワークで一時的な問題が発生している。
  - NetBackup クライアントのネットワークインターフェースカードに問題がある。
  - NetBackup サーバーのネットワークインターフェースカードに問題がある。
  - ルーターに問題がある。
  - 他のアプリケーションが NetBackup の接続を妨害している。
- NetBackup Java インターフェースの使用中にこのエラーが発生した場合は、NetBackup Java インターフェースのアプリケーションサーバー (bpjava プロセス) で、/usr/openv/netbackup/logs/user_ops が含まれるファイルシステムのディスク領域が不足している可能性があります。アプリケーションサーバーでは、一時ファイルを /user_ops ディレクトリのサブディレクトリに書き込みます。ファイルシステムのディスク領域を整理して空き領域を増やしてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 15

メッセージ: ファイルを閉じることができませんでした (file close failed)

説明: ファイルまたはソケットを閉じることができませんでした。

推奨処置: 問題が発生した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題(Problems)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 16

メッセージ: 実装されていない機能 (unimplemented feature)

説明: 指定した操作が実装されていません。NetBackup を通常の方法で使用しているかぎり、このエラーは発生しません。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 17

メッセージ: パイプを開けませんでした (pipe open failed)

説明: NetBackup のクライアントメニューおよび Vault の領域で発生します。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 18

メッセージ: パイプを閉じることができませんでした (pipe close failed)

説明: あるプロセスによって子プロセスの起動が試行されたときに、パイプを閉じることができませんでした。

推奨処置: 失敗した原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 19

メッセージ: getservbyname が失敗しました (getservbyname failed)

説明: `getservbyname()` の呼び出しが失敗しました。`getservbyname()` 関数では、サービス名を使用して、`services` ファイル内のサービスエントリが検索されます。(または、UNIX で NIS サービスのマップが構成されている場合、そのマップ内のサービスエントリが検索されます。)

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。
- UNIX または Linux システムの場合、`/etc/services` および NIS サービスのマップ (該当する場合) に、NetBackup サービス `bpcd`、`bpdbm` および `bprd` のエントリが存在することを確認します。
- Windows システムの場合、`%SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services` ファイルに、NetBackup インターネットプロセス `bpcd`、`bpdbm` および `bprd` の正しいエントリが存在することを確認します。

  [`NetBackup` **クライアントのプロパティ** `(NetBackup Client Properties)`]ダイアログボックスの[ネットワーク (Network)]タブの[NetBackup Client サービスポート (BPCD) (NetBackup client service port (BPCD))]番号および[NetBackup Request サービスポート (BPRD) (NetBackup request service port (BPRD))]番号が、services ファイルの設定と一致していることを確認します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。[ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると `services` ファイルに書き込まれます。

  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ホスト名およびサービスエントリの検証」を参照してください。
- ネットワークの動作のレベルを確認します。ネットワークの過大な負荷が原因で、このエラーが発生する場合があります。
- これらの操作で問題が判明しない場合、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 20

メッセージ: コマンドのパラメータが無効です (invalid command parameter)

説明: 1 つ以上のコマンドパラメータが無効です。マスターサーバーとそのメディアサーバーまたはクライアントに、互換性のないバージョンの NetBackup がインストールされている場合、このエラーが発生することがあります。たとえば、NetBackup マスターサーバーに NetBackup 7.6、メディアサーバーまたはクライアントに NetBackup 7.0 がインストールされている場合です。

このエラーは、コマンドラインから、不正なパラメータを使用してコマンドを実行した場合にも発生することがあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで情報を確認します。
- コマンドラインでコマンドを実行したときにエラーが発生した場合、パラメータが有効であることを確認します。
- この状態コードは、nbjm からパラメータが渡された際に必要なパラメータが不足している場合に発生する可能性があります。渡されたパラメータのリストについては、nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) を確認します。
- 次の情報は NetBackup Snapshot Client に関係します。
  - /usr/openv/netbackup/logs/bptm のログに次のようなメッセージが表示される場合、サードパーティコピーのバックアップで、多重化が有効になっています。

    ```
    bptm: cannot perform Third-Party-Copy for multiplexed backups
    send_brm_msg: ERROR 20
    ```

    bptm: EXITING with status 20

    サードパーティコピーデバイスオフホストバックアップ方式では、多重化 (同じストレージデバイスへの複数の並列実行バックアップジョブの書き込み) を行うことはできません。すべてのサードパーティコピーのバックアップで、多重化を無効にする必要があります。多重化を有効にすると、バックアップが失敗する場合があります。
  - バックアップに必要なクライアントディスクの正しい 3pc.conf ファイルエントリが、メディアサーバーに存在しない可能性があります。

    /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ログ内に次のように表示される場合があります。

    ```
    14:45:00.983 [15773] <4> bpmap_mm_get_devid: GET_DEVICE_INDEX
    1
    ```

```
EMC:SYMMETRIX:601092014000
14:45:00.986 [15773] <4> bpbkar child_send_keepalives: keepalive

child started, pid = 15822
14:47:02.029 [15773] <4> bpmap_mm_get_devid: keepalive child:
15822 killed
14:47:02.030 [15773] <4> bpmap_mm_get_devid: DEVICE_INDEX -1
14:47:02.031 [15773] <16> bpmap_send_extend: ERR - can't obtain

device id string EMC:SYMMETRIX:601092014000
14:47:33.167 [15773] <16> bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit

status = 227: no entity was found
14:47:33.167 [15773] <4> bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 227:
no
entity was found
14:47:33.168 [15773] <2> bpbkar Exit: INF - Close of stdout
complete
```

ここでは、特定のデバイスがメディアサーバー上の `3pc.conf` ファイルで検出できないことが示されています ([14:47:02.031 [15773] <16> bpmap_send_extend: ERR - デバイス ID 文字列 EMC:SYMMETRIX:601092014000 を取得できません (`14:47:02.031 [15773] <16> bpmap_send_extend: ERR - can't obtain device id string EMC:SYMMETRIX:601092014000`)])。

次のいずれかの問題があります。

- メディアサーバー上の `3pc.conf` ファイルが最新のものではない。`3pc.conf` ファイルを再作成してください。
- メディアサーバーが、サードパーティコピーデバイスおよびクライアントディスクと異なるファイバーチャネルネットワークに存在している。その結果、`3pc.conf` ファイルにクライアントディスクの正しいエントリが含まれていません。`-x client_name` オプションを指定して `bptpcinfo` コマンドを実行します。このオプションによって、クライアントディスクが `3pc.conf` ファイルに追加されます。`bptpcinfo -x client_name` を実行して各ディスクをファイルに追加する場合、デバイスのワールドワイド名 (WWN) の追加が必要になる場合があります。

オンラインマニュアル『NetBackup Snapshot Client Configuration』を参照してください。

Snapshot Client の補足情報については、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

- HP VxFS スナップショット機能では、スナップショットごとに専用のキャッシュパーティションが必要となります。キャッシュパーティションが使用中でないことを確認

するために、マウントテーブルのチェックが行われます。キャッシュパーティションがすでに使用中の場合は、状態コード 20 が発生します。

/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar のログで、次のメッセージを確認します。

```
bpfsmap: FTL - bpfsmap: snapshot cache already in use,
/dev/arrayvg/vol4c
bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit status = 20: invalid
command parameter
bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 20: invalid command parameter
```

スナップショットキャッシュパーティションが使用中の場合、異なる時間に実行されるようにポリシーのスケジュールを設定するか、またはバックアップごとに異なるキャッシュパーティションを使用します。

[複数のデータストリームの許可 (Allow multiple data streams)]オプションが有効な場合、各ストリームにはそれぞれ専用のキャッシュパーティションが必要です。

- 次のようにして、サーバーとクライアントの NetBackup バージョンを比較します。
  - UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーおよびクライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bin/version ファイルを確認します。
  - Windows 版 NetBackup サーバーの場合、*install_path*¥NetBackup¥version.txt ファイルまたは[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup 管理コンソールのバージョン情報 (About NetBackup Administration Console)]項目を確認します。
  - Microsoft Windows クライアントの場合、[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup クライアントのバージョン情報 (About NetBackup Client)]項目を確認します。
  - Java インターフェースによってエラーが表示される場合、Java 起動ファイルのデバッグ出力マネージャを有効にします。再試行し、Java ログに記録されているパラメータをコマンドの使用方法に表示されているパラメータと比較します。
- VMware バックアップ用の[バックアップメディアサーバー (Backup Media Server)]オプションでは、ポリシーに指定されているストレージユニットがメディアサーバーに一意である必要があります。ストレージユニットが別のメディアサーバーでも使用可能な場合、スナップショットジョブは成功しません。
- これらの操作で問題が判明しない場合、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します (プロセスでレガシーログが使用されている場合)。その後、操作を再試行して、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 21

メッセージ**:** ソケットを開けませんでした (socket open failed)

説明**:** ソケットが開きませんでした。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、この状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。
- NetBackup メディアサーバーにネットワークファイルシステム (NFS) 用サービスをインストールしていない可能性があります。その結果、メディアサーバーは Portmapper サービスに接続できません。+ネットワークファイルシステムがインストールされていないので、NFS サービスを手動で起動できません。
  メディアサーバーにネットワークファイルシステム用サービスをインストールします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 22

メッセージ**:** ソケットを閉じることができませんでした (socket close failed)

説明**:** ソケットが閉じませんでした。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、この状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。

- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 23

メッセージ: ソケットの読み込みに失敗しました (socket read failed)

説明: ソケットからの読み込み操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、この状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 壊れたバイナリが、このエラーの原因の 1 つとして考えられます。
  この場合、インストールメディアから新しい bptm をロードすると、問題が解決する場合があります。
- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 24

メッセージ: ソケットの書き込みに失敗しました (socket write failed)

説明: ソケットへの書き込み操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、この状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 原因として、ネットワークの高負荷が考えられます。たとえば、ネットワーク負荷を監視する Windows システムによって高負荷が検出された場合、この問題が発生し、

[STDOUT に書き込めません。(Cannot write to STDOUT.)]が表示されます。他のシステムが使っているルートが切断されたことを知らせる ICMP パケットがそれらのシステムに送信されます。次のようなログメッセージが表示されます。

```
01/31/96 14:05:23 ruble crabtree.null.com from client
crabtree.null.com: ERR - Cannot write to STDOUT. Err no= 242: No
route to host
01/31/96 14:05:48 ruble crabtree.null.com successfully wrote
backup id crabtree.null.com_0823125016, copy 1, fragment 1,
440864 Kbytes at 628.538 Kbytes/sec
01/31/96 14:05:51 netbackup crabtree.null.com CLIENT
crabtree.null.com POLICY Remote3SysFullW  SCHED Sirius  EXIT
STATUS 24 (socket write failed)
```

- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 25

メッセージ: ソケットに接続できません (cannot connect on socket)

説明: 特定の操作のために他のプロセスに接続中、プロセスでタイムアウトになりました。このエラーは、起動されていない NetBackup Request デーモン (bprd) または NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) に対して、プロセスによる接続が試行されたときに発生する場合があります。(Windows の場合にはこれらのデーモンは、NetBackup Request Manager サービスと NetBackup Database Manager サービスです。)

また、ネットワークまたはサーバーの負荷が大きいために応答時間が長くなる場合、あるいは NetBackup の評価版のライセンスキーの期限が切れている場合にも発生します。ただし、このエラーの最も一般的な原因は、ホスト名解決の問題です。

ネットワーク接続の問題、または pbx_exchange などの必要なプロセスが実行されていないことによって引き起こされるこのエラーの原因としては、他に次のことが考えられます。

- nbjm がメディアサーバー上の bpcd に接続できない。
- nbpem が nbproxy に接続できない。

- メディアサーバー上の bptm がマスターサーバー上の nbjm に接続できない。
- 即時バックアップ操作を実行できない。

これらのエラーは、ネットワーク接続の問題、または pbx_exchange などの必要なプロセスが実行されていないことによって引き起こされます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- bpcompatd、vnetd、および Private Branch Exchange (PBX) が実行中であることを確認します。PBX の起動方法に関する情報を参照できます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「PBX の問題の解決」を参照してください。
- 必要に応じて、次のコマンドを実行して、NetBackup を停止してから再起動します。
  - UNIX システムの場合、次を入力します。

    ```
    /usr/openv/netbackup/bin/bp.kill_all
    /usr/openv/netbackup/bin/bp.start_all
    ```

  - Windows システムの場合、次を入力します。

    ```
    install_path¥NetBackup¥bin¥bpdown
    install_path¥NetBackup¥bin¥bpup
    ```

- 次の情報は UNIX または Linux の NetBackup マスターサーバーにのみ適用されます。
  bprd および bpdbm のプロセスが実行中であることを確認します。実行中でない場合、これらのプロセスを起動します。Windows のマスターサーバーの場合には、NetBackup Request Manager サービスと NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。実行中でない場合、これらのサービスを起動します。
  これらのプロセスまたはサービスが実行中である場合、失敗したときの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認して、その失敗した位置を判断します。

  次のいずれかを実行します。

  - レポートを参照できない場合またはレポートの参照時に「ソケットに接続できません (cannot connect on socket)」というエラーが表示される場合には、NetBackup Database Manager サービスまたはデーモンが実行中であることを再度確認します。次に、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行し、デバッグログの結果を確認します。
  - レポートを参照し、この問題に関連するエントリが見つからない場合には、エラーが最初に表示されたときに実行中であった関連プロセスのデバッグログディレクトリを作成します。(多くの場合、このプロセスは bpbrm です。)その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

- サーバーリストによって適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。
  - 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
    マスターサーバーは、[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスの[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]ドロップダウンメニューで指定します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。
  - 次の情報は UNIX と Linux システムにのみ適用されます。
    マスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。
  - NetBackup のすべての推奨パッチがインストールされていることを次のベリタスのサポート Web サイトで確認してください。
    www.veritas.com/support
    次に、[NetBackup]を選択してから[ファイルと更新 (files and updates)]を選択します。
  - ユーザー主導バックアップをクライアントから実行したときに失敗した場合、ユーザー主導バックアップのスケジュールが、マスターサーバーに存在することを確認します。
  - NetBackup Database Extension を使用している場合は、次のようにします。
    該当するデータベース製品が、NetBackup によってクライアントの進捗ログに書き込みを行うことができる適切な権限を所有していることを確認します。
  - 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
    メディアサーバーで shutdown スクリプトを実行したときに bpdbm が終了していた場合、K77netbackup スクリプトを注意深く確認してください。そこにはこの問題を回避する方法の詳細が含まれています。このスクリプトは、/usr/openv/netbackup/bin/goodies に存在します。

  マスターサーバーでサーバーリストを変更する場合には、NetBackup Database Manager デーモンと NetBackup Request デーモン (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービスと NetBackup Request Manager サービス (Windows の場合) を停止し、再起動します。

- services ファイルを確認します。
  - 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
    /etc/services ファイル (および NIS を使用する場合は NIS サービス) に、NetBackup サービス bpcd、bpdbm、および bprd のエントリが存在することを確認します。

  Windows の場合、%SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services ファイルに、bpcd、bpdbm、および bprd の正しいエントリが存在することを確認します。

また、[NetBackup **クライアントのプロパティ** (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[ネットワーク (Network)]タブの[NetBackup Client サービスポート (BPCD)(NetBackup client service port (BPCD))]および[NetBackup Request サービスポート (BPRD)(NetBackup request service port (BPRD))]が、services ファイルの設定と一致していることを確認します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。[ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「NetBackup のホスト名およびサービスエントリの検証」を参照してください。

- Sun Solaris の場合、オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。

  『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。

- Windows の場合、推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。
- NetBackup の基本ライセンスキーの期限が切れている場合、デーモン (bprd、bpdbm など) は、NetBackup サーバーで停止します。これらのデーモンが実行中でない場合、管理コンソールで状態コード 25 のエラーが発生する場合があります。NetBackup の有効な基本ライセンスキーをインストールし、デーモンを再起動した後、コンソールを再起動してください。
- NetBackup の Snapshot Client では、次のことが適用されます。メディアサーバー上に多数のデバイスが構成されている場合、bptpcinfo コマンドによる 3pc ファイルの生成に長い時間がかかります。初めてバックアップを実行する場合、バックアップが失敗し、状態コード 25 が表示されることがあります。/usr/openv/volmgr/database/3pc.conf ファイルが存在することを確認してください。存在する場合は、バックアップを再度実行します。バックアップが再度失敗したら、bptpcinfo を手動で実行して 3pc ファイルを生成し、その後バックアップを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 26

メッセージ**:** クライアント / サーバーの組み合わせに失敗しました (client/server handshaking failed)

説明**:** クライアントとの通信中、サーバー上の処理でエラーが発生しました。このエラーは、クライアントとサーバーの通信を開始することはできましたが、問題が発生し、通信が完了しなかったことを示します。この問題は、バックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: ［すべてのログエントリ (All Log Entries)］レポートで該当する期間を調べて、ハンドシェークが失敗した動作を判断します。ハンドシェークが失敗したクライアントおよびサーバーを判断します。

詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 27

メッセージ: 子プロセスはシグナルによって強制終了されました。(child process killed by signal)

説明: このエラーを通知したプロセスの子プロセスが終了されました。このエラーは、バックアップジョブが終了されたか、子プロセスが他のエラーによって終了されたために発生する場合があります。また、この問題は、NetBackup プロセスが、タスクマネージャまたは他のユーティリティを介して終了された場合に発生することもあります。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の［すべてのログエントリ (All Log Entries)］レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 28

メッセージ: プロセスを fork しようとして失敗しました (failed trying to fork a process)

説明: **子プロセスの** `fork` **(UNIX の場合) または** `CreateProcess` **(Windows の場合) が失敗しました。**

この失敗の原因は、次のとおりです。

- システムで過大な負荷が発生している。
- スワップ領域または物理メモリが不足している。
- システムで過剰なプロセスが実行中である。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の［すべてのログエントリ (All Log Entries)］レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 29

メッセージ: コマンドを実行しようとして失敗しました (failed trying to exec a command)

説明: コマンドが実行されませんでした。このエラーは、コマンドの権限で実行が許可されていない場合に発生する可能性があります。または、メモリやスワップ領域などのシステムリソースが不足している場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。
- 実行するコマンドの権限を確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 30

メッセージ: パスワード情報を取得できません (cannot get passwd information)

説明: ユーザーの `passwd` エントリを取得できませんでした。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 31

メッセージ: プロセスのユーザー ID を設定できませんでした (could not set user ID for process)

説明: プロセスのユーザー ID を、要求を発行しているユーザーのユーザー ID に設定できませんでした。NetBackup は、要求を発行しているユーザーで、クライアントプロセスを実行します。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 32

メッセージ: プロセスのグループ ID を設定できませんでした (could not set group ID for process)

説明: プロセスのグループ ID を、要求を発行しているユーザーグループに設定できませんでした。NetBackup は、要求を発行しているユーザーのグループ ID で、クライアントプロセスを実行します。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 33

メッセージ: メール送信の試行中に失敗しました (failed while trying to send mail)

説明: バックアップ、アーカイブまたはリストアの結果についての電子メール通知に失敗しました。電子メールのグローバル属性で指定された管理者のアドレスに電子メールが送信されませんでした。UNIX または Linux クライアントの場合、クライアントの `bp.conf` ファイルの USEMAIL で指定された電子メールアドレスに電子メールが送信されませんでした。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 34

メッセージ: 子プロセスの待機に失敗しました (failed waiting for child process)

説明: 子プロセスの完了を待機中、NetBackup プロセスが失敗しました。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 35

メッセージ: 要求されたディレクトリを作成できません (cannot make required directory)

説明: 必要なディレクトリを作成できませんでした。

考えられる原因は、次のとおりです。

- プロセスにディレクトリを作成する権限がない。
- ディレクトリへのパスが無効である。
- I/O エラーが発生した。
- ディレクトリが含まれるデバイスに利用可能な領域が存在しない。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認して、作成されなかったディレクトリとその理由を判断します。特に、ディスクパーティションに空きがなくなっていないかどうかを確認します。
- 親ディレクトリの権限を確認します。ディレクトリを作成する権限を所有する[ログオン]アカウントで NetBackup サービスが起動されていることを検証します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 36

メッセージ: メモリを割り当てようとして失敗しました (failed trying to allocate memory)

説明: システムメモリの割り当てが失敗しました。このエラーは、利用可能なシステムメモリが不足している場合に発生します。過剰なプロセス、物理メモリと仮想メモリの不足のためにシステムが過負荷になることがあります。

推奨処置: 多くのメモリを消費する不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 37

メッセージ: 無効なサーバーによって操作が要求されました (operation requested by an invalid server)

説明: 無効なメディアサーバーまたは Windows 版 NetBackup リモート管理コンソールが、NetBackup Request デーモン (bprd) または NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) に要求しました。Windows の場合には、これらのデーモンは NetBackup Request Manager サービスと NetBackup Database Manager サービスです。

推奨処置: このエラーが発生したときの NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認して、マスターサーバーに接続を試行したシステムを特定します。

サーバーが有効なメディアサーバーである場合、そのメディアサーバーのストレージユニットが定義されていることを確認します。また、そのサーバーまたは Windows 版 NetBackup リモート管理コンソールに、マスターサーバーのサーバーリストのエントリが存在することを確認します。

必要な場合、サーバーリストを更新します。

UNIX または Linux のマスターサーバーの場合、bp.conf *ファイルに* SERVER = media_server_name を追加します。*media_server_name* は、メディアサーバーのホスト名です。Windows マスターサーバーの場合、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]を選択し、[メディアサーバー (Media Servers)]のリストにメディアサーバーを追加します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

サーバーまたは Windows 版 NetBackup リモート管理コンソールが複数のホスト名を持つ場合 (たとえば、複数のネットワークインターフェースが存在する場合)には、マスターサーバーに、それぞれのホスト名のサーバーリストエントリが存在することを確認します。

UNIX または Linux のマスターサーバーのサーバーリストを変更する場合には、その変更を有効にするために、NetBackup Request デーモン (bprd) と NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) を停止し、再起動します。Windows マスターサーバーのサーバーリストを変更する場合には、NetBackup Request Manager サービスと NetBackup Database Manager サービスを停止し、再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 38

メッセージ: グループ情報を取得できませんでした (could not get group information)

説明: UNIX または Linux ユーザーグループを記述するグループエントリを取得できませんでした。

推奨処置: エラーが発生した原因についての情報を、NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 39

メッセージ: クライアント名が一致しません (client name mismatch)

説明: クライアントが NetBackup サーバーへの要求に使用した名前が、サーバーのポリシーで構成されている名前と一致しませんでした。

推奨処置: クライアントの NetBackup クライアント名の設定を変更するか (該当するクライアントのオンラインヘルプを参照)、またはサーバーのポリシー構成の NetBackup クライアント名を変更して、2 つの名前を一致させます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 40

メッセージ: ネットワークの接続が解除されました (network connection broken)

説明: クライアントとサーバー間の接続が切断されました。また、この状態コードは、バックアップ中にマスターサーバーとメディアサーバー間の接続が切断された場合に表示されることがあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーからクライアントに ping を実行します。ping を実行できない場合、接続が適切かどうかを確認するか、他のネットワークの問題を確認します。
- クライアントとサーバーの両方で、サーバーリストの設定が適切であることを確認します。バックアップにメディアサーバーを使用する場合、マスターサーバーとメディアサーバーの両方でこれらのエントリが正しいことを確認します。たとえば、メディアサーバーに、マスターサーバーのサーバーリストのエントリが存在しない場合、マスターサーバーからの接続がメディアサーバーで許可されません。

- Windows の場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- UNIX、および Linux システムの場合、マスターサーバー名は、bp.conf ファイルの最初の SERVER エントリです。

UNIX または Linux マスターサーバー上のサーバーリストを変更した場合、変更内容を有効にするには、NetBackup Request デーモン (bprd) および NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) を停止して再起動する必要があります。Windows の場合、NetBackup Request Manager サービスおよび NetBackup Database Manager サービスを停止し、再起動します。

- また、状態コード 40 は、オペレータによってマウント要求が拒否された場合にも発生することがあります。
- この状態コードは、nbjm が bpbrm または bpmount に接続できなかった場合に発生する可能性があります。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117)、あるいは bpbrm または bpmount のレガシーログで、エラーの原因の詳細を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 41

メッセージ: ネットワークの接続でタイムアウトが発生しました (network connection timed out)

説明: 考えられる原因は、次のとおりです。

- サーバーがクライアントからの情報を長時間受信しませんでした。
- 高速バックアップを有効にした状態で、FSCP (ファイルレベル高速単一コピーバックアップ) を使用してバックアップを試行したファイル数が多すぎました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 非常に大量のファイルのバックアップを作成する場合には、NetBackup サーバーの[ホストプロパティ (Host Properties)]を使って、[クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]を十分大きい値 (たとえば 4000) に変更します。これらの設定は、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[ユニバーサル設定 (Universal Settings)]にあります。このタイムアウトのデフォルトは 300 秒です。
  また、[タイムアウト (Timeouts)]タブの[ファイル参照のタイムアウト (File browse timeout)]を 4000 より大きい値に設定します。

その後、操作を再試行します。/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリ内のデバッグログファイルにファイル名が記録された後、bpbkar によってファイルが処理されます。ログ内の最後のファイルが、問題の原因となっているファイルです。

- UNIX、Linux または Windows クライアントの場合、次に示す bpbkar クライアントプロセスの問題を確認します。

  Windows クライアントの場合、bpbkar クライアントプロセスはハングアップしていません。bpbkar によってスキャンされているファイルおよびディレクトリが原因で、[クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)] での設定時間内にサーバーに応答していません。このエラーは、増分バックアップで非常に多くの変更されていないファイルがディレクトリ内に存在する場合に発生します。

  この場合、NetBackup サーバーの [ホストプロパティ (Host Properties)] を使用して [クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)] の値を変更します。この設定は、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)] ダイアログボックスの [ユニバーサル設定 (Universal Settings)] にあります。このタイムアウトのデフォルトは 300 秒です。

  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

  また、CPU の使用率を監視すると、この状況が発生しているかどうかを確認できます。

  次の情報は UNIX または Linux クライアントにのみ適用されます。

  - bpbkar クライアントプロセスが、必須のロックが設定されているファイルでハングアップしている。この場合、クライアントの bp.conf ファイルに次のエントリを追加します。

    ```
    VERBOSE
    ```

    クライアントの root ユーザーで次のコマンドを実行します。

    ```
    touch /usr/openv/netbackup/bpbkar_path_tr
    /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar
    ```

    その後、操作を再試行します。/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリ内のデバッグログファイルにファイル名が記録された後、bpbkar によってファイルが処理されます。ログ内の最後のファイルが、問題の原因となっているファイルです。

    メモ: また、他の原因不明の bpbkar のハングアップにも、この手順を使用します。

    強制ファイルロックが問題の原因である場合、NetBackup では、ロックされたファイルをスキップすることが可能です。クライアントの /usr/openv/netbackup/bp.conf ファイル内の LOCKED_FILE_ACTION を SKIP に設定します。

- bpbkar クライアントプロセスはハングアップしていません。bpbkar によってスキャンされているファイルおよびディレクトリが原因で、CLIENT_READ_TIMEOUT または CLIENT_CONNECT_TIMEOUT での設定時間内にサーバーに応答していません。このエラーは、バックアップで非常に多くの変更されていないファイルがディレクトリに存在する場合、または非常に多くのホールが存在するスパースファイルのリストア中に発生します。この場合、サーバーの /usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルの CLIENT_READ_TIMEOUT の値を追加または変更します。指定しない場合、CLIENT_READ_TIMEOUT のデフォルトは 300 秒です。

これらのいずれの状況が発生しているのかを判断するには、システムの ps コマンドを実行して、CPU の使用率を監視します。

ログファイルは非常に大きくなる可能性があり、また自動的に削除されないため、問題の検証が終了したら、/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリを削除します。また、/usr/openv/netbackup/bpbkar_path_tr も削除すると、/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリを次に作成するとき、ログファイルは必要以上に大きくなりません。

- Windows システムの場合、次のように実行します。
  - 次のファイルを無効にします。

    install_path¥VERITAS¥NetBackup¥bin¥tracker.exe

  - ハードドライブのフラグメンテーションを修復します。Diskeeper Lite というアプリケーションを使用してみてください。これは、Windows Resource Kit の一部です。
  - 利用可能な十分な領域が ¥temp 内に存在することを確認します。

- サーバーからクライアントに接続できない場合、bpcd または bpbkar(UNIX、Linux および Windows の場合のみ) のデバッグログディレクトリをクライアントに作成します。その後、操作を再試行して、ログの結果を確認します。ログから原因が判明しない場合、サーバーに bpbrm のデバッグログを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

  bpbrm のログに、次のようなエントリが表示されている場合、サーバーのルーティング構成に問題があります。

  ```
  bpbrm hookup_timeout: timed out waiting during the client hookup
  bpbrm Exit: client backup EXIT STATUS 41: network connection
  timed out
  ```

  使用中のネームサービスで、クライアントの IP アドレスが正しいことを確認します。UNIX クライアントで NIS ファイルと DNS ファイルの両方を使っている場合、これらのファイルが一致することを確認します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

- AIX トークンリングアダプタの使用中に `routed` デーモンを実行した場合、トークンリングアダプタによって動的ルートが作成されるため、タイムアウトになります。その後、`routed` デーモンが正常に動作しなくなります。
- FlashBackup クライアントで、バックアップするファイルシステムが非常に大きく、ファイル数が非常に多い場合、このエラーが発生します。また、このエラーは、多数の並列実行データストリームが同時に動作中である場合にも発生します。この問題を解決するには、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルに CLIENT_READ_TIMEOUT を追加し、タイムアウトの間隔が大きくなるように設定します。
- 推奨されるすべての NetBackup パッチがインストールされていることを確認します。最新のパッチ情報は、次のベリタスのサポート Web サイトで確認してください。
  www.veritas.com/support
  次に、[NetBackup]を選択してから[ファイルと更新 (files and updates)]を選択します。
- NetBackup Database Extension 製品をインストールしている場合、マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントに、CLIENT_READ_TIMEOUT の値を追加します。値は、各サーバーですべて同じである必要があります。設定する値は、バックアップを行うデータベースの大きさによって異なります。
  CLIENT_READ_TIMEOUT について、詳細情報を参照できます。
  『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。
- 拡張認証が正しく構成されていることを確認します。たとえば、ホスト A がホスト B に対して拡張認証を使うように構成されているときに、ホスト B がホスト A に対して拡張認証を使うように構成されていない場合、状態コード 41 が表示されることがあります。この場合、ホスト B からホスト A への接続が失敗して、状態コード 41 が表示される可能性があります。また、ホスト A からホスト B への接続が失敗して、認証エラー (状態コード 160) が発生する可能性があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 42

メッセージ: ネットワークの読み込みに失敗しました (network read failed)

説明: ソケットからのデータの読み込みが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントとサーバーの両方が稼働中であることを確認します。
- ネットワーク通信の問題を解決します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

- ［問題 (Problems)］レポートで情報を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 43

メッセージ: 予期しないメッセージを受け取りました (unexpected message received)

説明: クライアントとサーバーのハンドシェークが正しくありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアント上およびサーバー上で、適切なバージョンのソフトウェアが実行されていることを確認します。
- 詳細なデバッグログを有効にするには、次の手順を実行します。
  - サーバーに、bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - ログに含めるデバッグ情報の量を増やします。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。
  UNIX、Linux または Windows クライアントで bpstart_notify スクリプトを使用する場合、標準出力 (stdout) または標準エラー出力 (stderr) にメッセージが書き込まれていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 44

メッセージ: ネットワークの書き込みに失敗しました (network write failed)

説明: ソケットへのデータの書き込みに失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ［問題 (Problems)］レポートで、エラーに関する情報を確認します。
- クライアントおよびサーバーが稼働中で、ネットワークに接続されていることを確認します。
- 問題およびその操作を通知したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。デバッグログファイルの結果で、詳細なトラブルシューティングの情報を調べます。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 45

メッセージ: 予約済みでないポートで試みられる要求

説明: 予約されていないポートからクライアントへのアクセスが試行されました。

推奨処置: クライアントおよびサーバーに、最新のソフトウェアがインストールされていることを確認します。

- UNIX の場合、NetBackup のサーバーとクライアントで `/usr/openv/netbackup/bin/version` ファイルを確認します。
- Windows 版 NetBackup サーバーの場合、*install_path*¥netbackup¥version.txt ファイルまたは[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup 管理コンソールのバージョン情報 (About NetBackup Administration Console)]項目を確認します。
- Microsoft Windows クライアントの場合、[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup クライアントのバージョン情報 (About NetBackup Client)]項目を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 46

メッセージ: サーバーはアクセスが許可されていません (server not allowed access)

説明: サーバーからクライアントにアクセスを試行しましたが、アクセスがブロックされています。

考えられる原因は、次のとおりです。

- サーバーが、有効なサーバーとしてクライアント上でリストに表示されていない。
- 暗号化されたバックアップを必要とするようにクライアントが構成されているが、サーバーでバックアップポリシーの暗号化属性が選択されていない。
- サーバーで、NetBackup Encryption 製品の評価版のライセンスの期限が切れているが、暗号化されたバックアップを必要とするように NetBackup クライアントが構成されている。その結果、サーバーでは暗号化されていないクライアントバックアップの作成が試行されます。クライアントでは暗号化を必要とするように構成されているため、バックアップが失敗します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーは有効なサーバーであるが、クライアント上でリストに表示されていない場合、そのサーバー名をクライアントのサーバーリストに追加します。
  - Windows クライアントの場合、[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスの[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]ドロップダウンリストでサーバーを追加します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。
  - UNIX および Linux クライアントの場合、`bp.conf` ファイルに `SERVER` エントリを追加します。

  問題が解決しない場合、詳細情報を参照できます。

  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ホスト名およびサービスエントリの検証」を参照してください。

- 暗号化されていないクライアントバックアップを作成するには、クライアントの CRYPT_OPTION を allowed または denied に設定します。

  『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

- サーバーで、NetBackup Encryption の評価版のライセンスの期限が切れていて、クライアントの暗号化バックアップを継続する場合、正規の暗号化ライセンスキーを購入して、そのキーをサーバーに追加します。正規の暗号化ライセンスキーを追加したら、バックアップポリシーの属性に暗号化が選択されていることを確認します。

  評価版のライセンスキーの妥当性を確認するには、次のように実行します。

  Windows の場合、NetBackup サーバーの NetBackup 管理コンソールの[ヘルプ (Help)]メニューから[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。評価版のライセンスキーが[NetBackup のライセンスキー (NetBackup License Keys)]ウィンドウに表示されない場合、そのライセンスキーの期限は切れています。このウィンドウを使用して、新しい正規の暗号化ライセンスキーを追加します。

  UNIX では、サーバーでコマンド `/usr/openv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key` を実行します。

  メニューから `f` オプションを選択して、有効なライセンスキーおよび機能を表示します。評価版のライセンスキーが表示されない場合、そのライセンスキーの期限は切れています。このコマンドを実行して、新しい正規の暗号化ライセンスキーを追加します。

- すべての名前解決サービス (一次、負荷分散、二次) を NetBackup ホストの一貫した正引き名前解決と逆引き名前解決に正しく設定します。

  詳細情報は次の技術記事に記載しています。

  http://www.veritas.com/docs/TECH204794

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 47

メッセージ: ホストはアクセスできません (host is unreachable)

説明: 他のコンピュータへの接続が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントで使用されるネームサービスが、NetBackup サーバーのホスト名を正しく解決するように構成されていることを確認します。
- サーバーで使用されるネームサービスが、NetBackup クライアントのホスト名を正しく解決するように構成されていることを確認します。
- サーバーとクライアント間で、相互に ping を試行します。
- 問題が解決しない場合は、次の操作を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 48

メッセージ: クライアントホスト名が見つかりませんでした (client host name could not be found)

説明: システム関数 `gethostbyname()` でクライアントのホスト名を見つけることができませんでした。

推奨処置: 次の位置で、クライアント名が適切であることを確認します。

- マスターサーバーの NetBackup ポリシー構成。
- [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスと[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックス (Microsoft Windows 非ターゲットクライアントの場合) の[一般 (General)]タブ。これらのダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。[一般 (General)]タブを表示するには、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。または、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。
- UNIX、および Linux クライアントの `bp.conf` ファイル。

- クライアントおよびサーバーで、NetBackup クライアント名を正しく解決するようにネームサービスが設定されていることを確認します。
  UNIX クライアントの場合、/etc/hosts ファイル、YP ホストファイルまたは NIS のマップにクライアントのホスト名が存在することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 49

メッセージ: クライアントは起動しませんでした (client did not start)

説明: クライアントを正常に起動できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ソフトウェアがクライアントにインストールされており、そのソフトウェアのバージョンが正しいことを確認します。必要に応じて、クライアントソフトウェアを再インストールします。
- クライアントのファイルシステムに空き領域があるかどうかを確認します。
- 次のいずれかを実行して、クライアントの詳細なデバッグログを有効にします。
  - bpcd および bpbkar (UNIX、Linux および Windows の場合のみ) のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。
  - Windows クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

  操作を再試行し、ログの結果を調べます。
- UNIX または Linux システムの場合、UNIX の sum コマンドを実行して、壊れたバイナリがないかどうかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 50

メッセージ: クライアントのプロセスは異常終了しました (client process aborted)

説明: 次のいずれかの状態が発生しています。

- クライアントバックアップが異常終了します。たとえば、バックアップやリストアの実行中に NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーが停止または再起動されます。

- 管理者は、OS 提供のコマンドライン (kill コマンドなど) を使ってアクティブなプロセスを強制終了します。ジョブ状態が完了に変わり、この状態コードを生成するとジョブ状態に 1 時間後までの変更を反映しません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 詳細なデバッグログを有効にします。
  - bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します (UNIX、Linux および Windows クライアントの場合のみ)。
  - bpcd のデバッグログディレクトリを作成します
  - UNIX クライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。
  - PC クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

  操作を再試行し、ログの結果を調べます。
- このエラーは、バックアップジョブの実行中に nbjm が終了した場合に発生する可能性があります。NetBackup サーバーの nbjm (オリジネータ ID 117) の統合ログファイルで、エラーの詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- UNIX クライアントの場合には、/ (ルート) ディレクトリの core ファイルを確認します。
- UNIX クライアントの場合、システムログ (Solaris の場合、/usr/adm/messages) でシステムの問題を確認します。
- この問題は、壊れたバイナリが原因で発生する場合があります。

  UNIX クライアントの場合、UNIX の sum コマンドを実行して、クライアントの /usr/openv/netbackup/bin 内に含まれる bpcd、bpbkar、tar バイナリを確認します。これらのバイナリが、サーバーの /usr/openv/netbackup/client 下にある各クライアント向けディレクトリ内のバイナリと異なる場合、バイナリを再インストールします。

  Windows クライアントの場合、クライアントの install_path¥NetBackup¥bin フォルダ内に含まれるファイル bpinetd.exe、bpcd.exe、bpbkar32.exe *および* tar32.exe を確認します。

  これらのファイルが次のような場合、クライアントを再インストールします。
  - 他の Windows クライアントのファイルとサイズが異なる。
  - 他の Windows クライアントとバージョンが異なる。
  - 他の Windows クライアントと異なる NetBackup のパッチを適用している。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 51

メッセージ: データベース情報の待機中にタイムアウトが発生しました (timed out waiting for database information)

説明: カタログプロセスが 5 分以内に応答しませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Database Manager サービスまたはデーモンが実行中であることを確認します。
- NetBackup カタログを含むファイルシステムに十分な領域が存在することを確認します。
- サーバーに bpbrm および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。
- デバッグログファイルを参照して、問題の詳細を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 52

メッセージ: Media Manager のボリュームのマウントを待機中にタイムアウトが発生しました (timed out waiting for media manager to mount volume)

説明: タイムアウトになるまでに、要求されたボリュームがマウントされませんでした。また、ボリュームがクリーニングテープの場合、クリーニングテープとして指定されていないと、このエラーが発生することがあります。

他の原因として、利用可能な最後のドライブに対してバックアップ以外 (リストアなど) のマウントが要求され、そのマウントが完了する前に、同じドライブを必要とするバックアップが開始された場合が考えられます。このエラーは、マウントが完了するまで、ドライブがビジー状態として通知されないことが原因です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 要求したボリュームが利用可能で、適切なドライブの準備が完了し、起動状態であることを確認します。
- 読み込み操作 (リストア、複製、検証) 中にこのエラーが発生した場合、ドライブがビジー状態である可能性があります。NetBackup のグローバル属性で指定するメディアのマウントタイムアウトを大きくし、メディアのマウントおよび位置設定を行うための時間を長くします。

- テープが、通常のボリュームとして構成されたクリーニングテープではないことを確認します。
- ロボットが自動カートリッジシステムによって制御されている場合、ACSLS システムが稼働状態であることを確認します。
- 初回インストールの場合、手順が利用可能です。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「構成の問題のトラブルシューティング」を参照してください。
- Windows の場合、イベントビューアのアプリケーションログで、テープのマウントが完了しなかった理由を示すエラーメッセージを確認します。UNIX の場合、システムログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 53

メッセージ: Backup Restore Manager が、ファイルリストの読み込みに失敗しました (backup restore manager failed to read the file list)

説明: Backup Restore Manager (`bpbrm`) で、バックアップまたはリストアを行うファイルのリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: すべての NetBackup サーバーに、サーバーソフトウェアが適切にインストールされていることを確認します。それが問題でない場合、次のように実行します。

- サーバーに `bpbrm` のデバッグログディレクトリを作成します。
- UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーの場合、`bp.conf` ファイルに `VERBOSE` (詳細) オプションを追加します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)] ダイアログボックスの [ログ (Logging)] ノードで [グローバルログレベル (Global logging level)] を設定します。
  このダイアログボックスを表示するには、次の項を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
  次の手順で説明されているように、`vxlogcfg` コマンドを使用して統合ログのレベルを上げます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行し、デバッグログの結果で詳細なトラブルシューティングの情報を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 54

メッセージ: クライアントへの接続中にタイムアウトが発生しました (timed out connecting to client)

説明: サーバーからクライアントへの接続が完了しませんでした。accept システムコールまたは Winsock コールで 60 秒後にタイムアウトになりました。

サードパーティ製ソフトウェアパッケージ (たとえば、ファイアウォール製品) は Windows の TCP/IP スタックに影響を与える可能性があります。この処理により、NetBackup サーバーと、クライアントの bpcd プロセスとの間の接続が切断される場合があります。NetBackup は、ポートを bpinetd.exe (NetBackup Client Service) から bpcd.exe に渡すことができるように、インバウンドソケット接続に SO_REUSEADDR (ローカルアドレスの再利用の許可) を設定しようとします。さまざまな方法でシステムセキュリティが侵害されるおそれがあるため、一部の製品ではこの機能が許可されないことがあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- UNIX クライアントの場合、正しいサイズの /usr/openv/netbackup/bin/bpcd バイナリが存在することを確認します。
- /etc/inetd.conf ファイルを調べて、次のエントリの bpcd パスが正しいことを確認します。

  ```
  bpcd stream tcp nowait root /usr/openv/netbackup/bin/bpcd bpcd
  ```

- NetBackup マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントを含むシステムの場合 (NetBackup Database Extension 製品が 1 つ以上のクライアントにインストールされている場合)、クライアント名がマスターサーバーの /etc/hosts ファイルに存在することを確認します。
- エラーを引き起こすクライアントのサードパーティ製ソフトウェアパッケージを完全にアンインストールします。他の構成オプションまたは回避策があるかどうかについては、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 55

メッセージ: rcmd 中にクライアントからアクセス権が拒否されました (permission denied by client during rcmd)

説明: UNIX または Linux クライアントの /.rhosts ファイル内にサーバー名が存在しません。

推奨処置: UNIX または Linux クライアントの /.rhosts ファイルにサーバー名を追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 56

メッセージ: クライアントのネットワークへ到達できません (client's network is unreachable)

説明: クライアントは、システムコールのホスト (Windows の WSAENETUNREACH または UNIX の ENETUNREACH) にアクセスできません。

推奨処置: サーバーからクライアントに ping を実行します。クライアントの IP アドレスを確認します。問題が解決しない場合、ネットワーク管理者に連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 57

メッセージ: クライアントの接続が拒否されました (client connection refused)

説明: bpcd のポート番号での接続が、クライアントで拒否されました。

このエラーは、次の原因で発生する場合があります。

- bpcd ポートで待機しているプロセスが存在しない。
- bpcd ポートに対する通信数が、ネットワークのサブシステムが listen() の呼び出しによって処理できる通信数より多い。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Windows 版 NetBackup サーバーの場合、次のように実行します。
  - NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされていることを確認します。
  - サーバーの %SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services ファイル内の bpcd ポート番号および bprd ポート番号が、クライアントの設定と一致することを確認します。
  - ［NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)］ダイアログボックスの［ネットワーク (Network)］タブの［NetBackup Client サービスポート (BPCD) (NetBackup client service port (BPCD))］番号および［NetBackup Request サービスポート (BPRD) (NetBackup request service port (BPRD))］番号が、services ファイル内の bpcd および bprd の設定と一致していることを確認します。このダイアログボックスを表示するには、サーバー上でバックアップ、

アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。
[ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。

- NetBackup Client Service が実行中であることを確認します。
- 次のコマンドを実行して、マスターサーバーからクライアントに正しい情報が戻されるかどうかを確認します。

```
install_path¥VERITAS¥NetBackup¥bin¥bpclntcmd -pn
```

- UNIX サーバーの場合、次の操作を実行します。
  - NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされていることを確認します。
  - サーバーの bpcd ポート番号 (NIS サービスのマップまたは /etc/services に含まれる) が、クライアントの services ファイル内の番号と一致していることを確認します。
- 追加のヘルプが利用可能です。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 58

メッセージ: クライアントに接続できません (can't connect to client)

説明: サーバーからクライアントに接続できませんでした。

推奨処置: ネットワーク通信の問題を解決します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 59

メッセージ: クライアントへのアクセスが拒否されました。(access to the client was not allowed)

説明: マスターサーバーまたはメディアサーバーからクライアントへのアクセスが試行されましたが、そのサーバーは、クライアントで有効なサーバーとして認識されていません。

Enterprise Vault Agent の場合、Enterprise Vault サーバー間のすべてのメディアサーバーの名前がクライアント構成で指定されているとはかぎりません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーが有効なサーバーである場合、そのサーバーがクライアントのサーバーリストに存在することを確認します。必要に応じて、次の手順を実行してサーバーを追加します。
  - Windows クライアント上: [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] ダイアログボックスの [バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)] ドロップダウンメニューでサーバーを追加します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[ファイル (File)] メニューから [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] を選択します。
  - UNIX クライアントの場合には、`bp.conf` ファイルに `SERVER` エントリを追加します。

  UNIX または Linux のマスターサーバーのサーバーリストを変更する場合には、その変更を有効にするために、NetBackup Request デーモン (`bprd`) と NetBackup Database Manager デーモン (`bpdbm`) を停止し、再起動します。Windows の場合、NetBackup Request Manager サービスおよび NetBackup Database Manager サービスを停止し、再起動します。
- Windows クライアントの場合、次の手順を実行して、`bpinetd` のデバッグログを有効にします。
  - クライアントに、`bpinetd` のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - バックアップを再試行し、ログの結果を調べて、エラーの原因を特定します。
- すべてのクライアントで、次の手順を実行して、`bpcd` のデバッグログを有効にします。
  - クライアントに、`bpcd` のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルに `VERBOSE` (詳細) オプションを追加します。
  - PC クライアントの場合、第 3 章の「デバッグログ」の項の説明に従って、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
  - バックアップを再試行し、ログの結果を調べて、エラーの原因を特定します。
- `bpcd` のデバッグログを確認して、サーバーのピアネームおよび実行された比較操作を判断します。

bpcd プロセスでは、NetBackup サーバーリストのエントリと接続を試行するサーバーのピアネームが比較されます。名前が異なる場合、接続が拒否されます。必要に応じて、クライアントのサーバーリストのエントリを変更して、ピアネームと一致させます。

- Windows クライアントの場合、次の内容を確認します。
  - Windows 版 NetBackup ソフトウェアが、Windows の管理者アカウントでインストールされていることを確認します。
    他のアカウントで NetBackup がインストールされている場合、管理者アカウントで再インストールします。管理者以外のアカウントでもインストールは正常に完了しますが、NetBackup Client Service が Windows に追加されず、NetBackup サーバーからクライアントにアクセスできません。
  - Windows の TCP/IP サービスによって、NetBackup サーバーを含むサブネットの名前を解決するドメインサーバーが指定されていることを確認します。
    多くの場合、UNIX、Linux および Windows クライアントは異なるサブネット上に存在し、異なるドメインサーバーを使用します。この場合、NetBackup サーバーおよび Windows クライアントは相互に ping を実行できますが、サーバーから Windows クライアントにアクセスできません。
- 前述の手順で問題が解決しない場合があります。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- NetBackup で、メディアサーバーを含む複数のネットワークインターフェースを使用する場合、クライアントの /usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに、インターフェース名が存在することを確認します。
- Enterprise Vault Agent の場合:『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- すべての名前解決サービス (一次、負荷分散、二次) を NetBackup ホストの一貫した正引き名前解決と逆引き名前解決に正しく設定します。
  詳細情報は次の技術記事に記載しています。
  http://www.veritas.com/docs/TECH204794

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 60

メッセージ: クライアントはマウントテーブルを読み込めません (client cannot read the mount table)

説明: クライアントのバックアップ処理で、マウントされたファイルシステムのリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- df を実行して、システムからマウントテーブルを読み込むことができるどうかを確認します。
- SCO システムの場合、マウントポイントのパス名が 31 文字 (SCO システムでの最長文字数) を超えると、コード 60 が発生する場合があります。クライアントの bpbkar のデバッグログに、次のようなメッセージが表示されます。

  ```
  bpbkar build_nfs_list: FTL - cannot statfs net Errno: 42406
  ```

  今後のバックアップの際にこのようなエラーを回避するには、より短い名前でマウントポイントを作成し、長い名前はその短い名前へのシンボリックリンクにします。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 63

メッセージ: プロセスは、シグナルによって強制終了されました (process was killed by a signal)

説明: クライアントプロセスに強制終了 (kill) シグナルが送信されました。

推奨処置: 通常、このエラーは、意図的にバックアップを終了することによって発生します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 64

メッセージ: クライアントバックアップの開始を待機中にタイムアウトが発生しました (timed out waiting for the client backup to start)

説明: クライアントからの準備完了メッセージが、割り当て時間内にサーバーに送信されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- すべてのクライアントで、次の手順を実行して、bpcd のデバッグログを有効にします。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。
  - PC クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

- UNIX、Linux または Windows クライアントの場合、クライアントに bpbkar デバッグログディレクトリを作成します。
- Windows クライアントの場合、NetBackup Client Service が実行中であることを確認します。
- UNIX または Linux クライアントの場合、ps コマンドを実行して、CPU 時間を過剰に消費しているクライアントプロセスを確認します。
- バックアップを再試行し、失敗した原因についての情報をデバッグログで調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 65

メッセージ: クライアントは Media Manager からの続行メッセージの待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for the continue message from the media manager)

説明: Tape Manager (bptm) で、割り当て時間内にメディアのロードおよび位置設定を実行できなかったことが通知されました。

推奨処置: 要求したボリュームが利用可能で、必要なデバイスが起動状態にあることを確認します。

- サーバーに、bptm のデバッグログディレクトリを作成します。
- UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーの場合、bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)] ダイアログボックスの [ログ (Logging)] タブで [詳細 (Verbose)] ログレベルを設定します。
『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- 操作を再試行し、タイムアウトの原因となっているドライブ、ロボットおよびテープに関する情報を bptm のデバッグログファイルで確認します。
- Windows 版 NetBackup サーバー (マスターサーバーまたはメディアサーバー) の場合、イベントビューアのアプリケーションログで、テープのマウントが完了しなかった理由を示すエラーメッセージを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 66

メッセージ: クライアントバックアップが CONTINUE BACKUP メッセージの受信に失敗しました (client backup failed to receive the CONTINUE BACKUP message)

説明: クライアントの bpbkar プロセスで、サーバーで処理を継続する準備が完了していることを示すサーバーからのメッセージが受信されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーがクラッシュしていないことを確認します。
- UNIX、Linux および Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログを有効にします。
  - bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。Windows クライアントの場合、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] ダイアログボックスの [トラブルシューティング (Troubleshooting)] タブでデバッグレベルを設定します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[ファイル (File)] メニューから [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] を選択します。
- 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- マスターサーバーに、bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。nbpem、nbjm、nbrb の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 67

メッセージ: クライアントバックアップが、ファイルリストの読み込みに失敗しました (client backup failed to read the file list)

説明: クライアントで、バックアップを行うファイルのリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーがクラッシュしていないことを確認します。

- デバッグログを設定します。
  - サーバーに、bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。

  ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 68

メッセージ: クライアントはファイルリストの待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for the file list)

説明: クライアントで、バックアップを行うファイルのリストが割り当て時間内に受信されませんでした。ファイルリストは、サーバーから送信されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーがクラッシュしていないことを確認します。
- デバッグログを設定します。
  - サーバーに、bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。

  ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 69

メッセージ: ファイルリストの指定が無効です (invalid filelist specification)

説明: 次のいずれかの条件に該当する場合です。

- VMware インテリジェントポリシー: *VM_name* が同じバックアップコンポーネントが複数あり、情報が競合しています。
- サーバーのポリシーのファイルリストに無効なエントリがあります。
- Enterprise Vault Agent: ポリシーに同じポリシーで同時に指定できない指示句があります。
- NetBackup Snapshot Client: オフホストバックアップ ([NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)] または [サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]) で、ファイルリストに ALL_LOCAL_DRIVES エントリが含まれています。NetBackup では、オフホストバックアップの ALL_LOCAL_DRIVES エントリはサポートされていません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- VMware インテリジェントポリシー: ポリシーで VM の *VM_name* の重複を確認します。
- ポリシーのファイルリストの問題: ポリシーのファイルリストを確認します。ワイルドカードを使用している場合、リストで角カッコ ([と]) が対になっていることを確認します。ファイルリストに UNC (Universal Naming Convention: 汎用名前付け規則) 名が含まれている場合、適切な形式であることを確認します。
  このエラーは、`nbjm` の実行中に SharePoint ジョブの再検出で 0 または 1 が戻され、さらにポリシーのファイルリストが空である場合に発生する可能性があります。`nbjm` の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。
- Enterprise Vault Agent: 詳しくは、次の場所から入手できる『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。
  http://www.veritas.com/docs/DOC5332
- NetBackup Snapshot Client: ALL_LOCAL_DRIVES エントリをファイルリストから削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 70

メッセージ**:** ファイルリストのエントリ文字が多すぎます (an entry in the filelist expanded to too many characters)

説明**:** ファイルリスト内のいずれかのエントリで使用されているワイルドカードによって、非常に多くのファイルが指定されました。

推奨処置**:** ファイルリスト内のワイルドカードを変更し、指定するファイル数を減らします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 71

メッセージ: ファイルリストにファイルが存在しません (none of the files in the file list exist)

説明: ファイルリスト内のファイルが、クライアントのいずれのファイルにも一致しませんでした。このエラーは、ファイルリスト内に存在するファイルが 1 つだけで、I/O エラーのためにファイルのバックアップを実行できない場合に発生することがあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントに対して、適切なファイルリストを指定していることを確認します。
- Windows クライアントの場合、NetBackup Client Service を起動するために使用したアカウントが、ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。
  ネットワークドライブまたは UNC (Universal Naming Convention の略で汎用名前付け規則の意味) パスのバックアップを作成する場合には、Windows の［管理ツール］の［サービス］を使って、NetBackup Client Service が SYSTEM アカウントで開始されないことを確認します。SYSTEM アカウントでは、ネットワークドライブにアクセスできません。
  ネットワークドライブまたは UNC パスのバックアップを作成するには、NetBackup Client Service の起動時に、ネットワークドライブにアクセスする権限を持つユーザーとしてログインします。
- ［すべてのログエントリ (All Log Entries)］レポートで情報を確認します。
- デバッグログを設定するには、次のいずれかを実行します。
  - UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、`bpbkar` のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 他の PC クライアントの場合、`bpcd` のデバッグログディレクトリを作成します。
- ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- NDMP ポリシー形式の場合は、NDMP ホストのクレデンシャルが追加されたことを検証します。追加されていない場合には追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 72

メッセージ: クライアント形式は、構成データベース内で正しくありません (the client type is incorrect in the configuration database)

説明: ポリシー構成内のポリシー形式属性で指定されているクライアントの形式と、インストールされているソフトウェアの形式が異なります。

推奨処置: ポリシーのポリシー形式属性が適切であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 73

メッセージ: bpstart_notify が失敗しました (bpstart_notify failed)

説明: `bpstart_notify` スクリプトから 0 (ゼロ) 以外の終了コードが戻されました。

推奨処置: クライアントの `bpstart_notify` スクリプトを調べて、想定どおりに実行されたかどうかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 74

メッセージ: クライアントは bpstart_notify の完了を待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for bpstart_notify to complete)

説明: クライアントの `bpstart_notify` スクリプトの処理に時間がかかりすぎます。

推奨処置: `bpstart_notify` スクリプトの処理を高速化するか、サーバーの BPSTART_TIMEOUT にデフォルトより大きい値を設定します。UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーの場合、`bp.conf` ファイルの BPSTART_TIMEOUT を設定します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[ホストプロパティ (Host Properties)] を使用して、[バックアップ開始の通知タイムアウト (Backup start notify timeout)] を設定します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 75

メッセージ: クライアントは bpend_notify の完了を待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for bpend_notify to complete)

説明: クライアントの `bpend_notify` スクリプトの処理に時間がかかりすぎます。

推奨処置: `bpend_notify` スクリプトの処理を高速化するか、サーバーの BPEND_TIMEOUT にデフォルトより大きい値を設定します。UNIX または Linux 版

NetBackup サーバーの場合、bp.conf ファイルの BPEND_TIMEOUT を設定します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[ホストプロパティ (Host Properties)]を使用して、[バックアップ終了の通知タイムアウト (Backup end notify timeout)]を設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 76

メッセージ: クライアントはファイルの読み込み中にタイムアウトしました (client timed out reading file)

説明: ファイルリストで FIFO が指定され、割り当て時間内に FIFO でデータが作成されませんでした。

推奨処置: 指定した FIFO でデータを作成するプロセスが正しく起動されることを確認します。サーバー上の /usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルにエントリを追加して、CLIENT_READ_TIMEOUT にデフォルトより大きい値を設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 77

メッセージ: 指定したシステムコマンドが実行され、0 以外の状態を戻しました (execution of the specified system command returned a nonzero status)

説明: 直前に実行したコマンドから 0 (ゼロ) 以外の状態が戻されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- コマンドを正しく指定していることを確認します。
- NetBackup Snapshot Client の場合のみ、次の手順を実行します。
  ポリシーのファイルリストに、スナップショットソースとして指定したファイルシステム内に存在しないファイルが含まれている場合があります。個別のファイルのバックアップにスナップショット方式を適用するには、スナップショットソースがファイルシステムである必要があります。(スナップショットソースに raw パーティションや Volume Manager ボリュームは使用できません。) また、ポリシーのファイルリスト内のファイルは、このファイルシステム内に存在する必要があります。
- コマンドを手動で実行して、目的の結果が得られるかどうかを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、次のようにデバッグログを設定します。
  - UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。

- 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
- ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 78

メッセージ: afs/dfs コマンドが失敗しました (afs/dfs command failed)

説明: AFS の vos コマンドが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- コマンドが失敗した理由についての追加情報を、NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで確認します。
- bpbkar のデバッグログに、実行したコマンドが表示されます。bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- vos コマンドを手動で実行して、問題を再現します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 79

メッセージ: 要求されたデータベース問い合わせに対してサポートされていないイメージ形式 (unsupported image format for the requested database query)

説明: 合成対象となる 1 つ以上のイメージが暗号化されています。これらのイメージは合成できません。

推奨処置: いずれのイメージも暗号化されていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 80

メッセージ: Media Manager device デーモン (ltid) が動作していません (Media Manager device daemon (ltid) is not active)

説明: サーバーが UNIX または Linux の場合、NetBackup Device Manager デーモン `ltid` が実行されていません。サーバーが Windows の場合、NetBackup Device Manager サービスが実行されていません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Windows の場合、アクティビティモニターまたは Windows の[管理ツール]の[サービス]を使用して、NetBackup Device Manager サービスが実行中であるかどうかを確認します。実行中でない場合、起動します。詳細ログを有効にするために、install_path¥`Volmgr¥vm.conf` *ファイル内の 1 行に* `VERBOSE` だけを入力して、サービスを起動します。
- UNIX の場合、`vmps` を使って、`ltid` が実行中であるかどうかを確認し、必要に応じて、次のコマンドを実行して詳細モードで ltid を起動します。

  ```
  /usr/openv/volmgr/bin/ltid -v
  ```

  または、`VERBOSE` エントリを `/usr/openv/volmgr/vm.conf` ファイルに追加します。必要に応じて、`vm.conf` ファイルを作成します。
- UNIX の場合、システムログを確認して、`ltid` が起動されていることを検証します。

メモ: UNIX システムの `ltid` と Windows システムの NetBackup Device Manager サービスは、デバイスがシステムに接続されている場合だけに使われます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 81

メッセージ: Media Manager Volume デーモン (vmd) が動作していません (Media Manager volume daemon (vmd) is not active)

説明: Tape Manager (`bptm`) が、NetBackup Volume Manager (`vmd`) と通信できませんでした。この通信は、ほぼすべての操作に必要です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合、Media Manager device デーモン (`ltid`) と NetBackup Volume Manager (`vmd`) が実行中であることを確認します。必要に応じて起動します。
- Windows の場合、NetBackup Device Manager サービスおよび NetBackup Volume Manager サービスが実行中であることを確認します。必要に応じて起動します。

メモ: `ltid` または NetBackup Device Manager サービスは、デバイスがシステムに接続されている場合だけに使用されます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 82

メッセージ: Media Manager がシグナルによって強制終了されました (media manager killed by signal)

説明: Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) が、他のプロセスまたはユーザーによって終了されました。

推奨処置: このエラーは、通常の操作では発生しません。動作中のバックアップを終了する場合、NetBackup アクティビティモニターを使用します。

DomainOS クライアントのバックアップ中に、サーバーのソケットが 300 秒以上何も受信しないと、このエラーが発生する場合があります。この場合、クライアントの読み込みタイムアウトが発生して、接続が切断されます。bpbkar のデバッグログには、次のようなエントリが表示されます。

```
13:22:49 [1347] <16> bpbkar: ERR - Extra output - - ECONNRESET
Connection reset by peer (UNIX/errno status)
```

この問題を解決するには、CLIENT_READ_TIMEOUT の値を増やします。この場合は、値を 900 に設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 83

メッセージ: メディアのオープンエラー (media open error)

説明: Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) で、バックアップまたはリストアで使用するデバイスまたはファイルが開かれませんでした。

推奨処置: 追加情報については、次のものを確認します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポート
- イベントビューアのアプリケーションログ (Windows の場合)
- システムログ (UNIX の場合)
- 通常、この状態コードは、ドライブ構成で複数のプロセスが同時にデバイスを開くことが許可されるドライブ構成の問題を示します。UNIX の場合、次の 1 つ以上の原因が考えられます。
  - 2 つ以上のデバイスが構成されているが、同じ物理デバイスである (密度が異なる場合もある)。デバイスに使用されるどの /dev ファイルにも、同じメジャー番号またはマイナー番号が存在しないことを確認します。

- ファイルシステム内に、ユーザーにドライブへのアクセスを許可するリンクが存在する。
- ドライブの構成を (管理者インターフェースまたは vm.conf で) 変更したが、Media Manager device デーモン ltid を再起動していない。構成を確認して、ltid を起動します。

Windows の場合、メディアおよびデバイスの管理のデバイス構成を変更しても、NetBackup Device Manager サービスを再起動していないことが問題である可能性があります。構成を確認して、NetBackup Device Manager サービスを再起動します。

- Windows の場合、テープが書き込み禁止でないことを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、次のように実行します。
  - bpdm (デバイスがディスクの場合) または bptm (デバイスがテープの場合) のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX の場合、次のコマンドを実行して、詳細モードで ltid を再起動します。

    ```
    /usr/openv/volmgr/bin/ltid -v
    ```

    または、VERBOSE エントリを /usr/openv/volmgr/vm.conf ファイルに追加します。必要に応じて、vm.conf ファイルを作成します。
  - Windows の場合には、install_path¥Volmgr¥vm.conf ファイル内の 1 行に VERBOSE を追加して、詳細ログを有効にします。その後、NetBackup Device Manager サービスを停止して、再起動します。
  - 操作を再試行して、デバッグログファイルの結果を確認します。
  - Windows システムの場合、*install_path*¥NetBackup¥db¥media¥errors ログで、頻繁にエラーが生成されているドライブを調べます。
    UNIX システムの場合、/usr/openv/netbackup/db/media/errors ログで、頻繁にエラーが生成されているドライブを調べます (このログは /usr/openv/netbackup/bin/goodies/support/support スクリプトの出力にも含まれます)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 84

メッセージ**:** メディアの書き込みエラー (media write error)

説明**:** NetBackup がリムーバブルメディアまたはディスクファイルに書き込むときに、システムのデバイスドライバが I/O エラーを返しました。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Snapshot Client の場合のみ:
  /usr/openv/netbackup/bptm のログに次のメッセージが表示され、key、asc および ascq の値が次に示すとおり 0 (0x0) であるかどうかを確認します。

  ```
  tape error occurred on extended copy command, key = 0x0, asc =
  0x0, ascq = 0x0
  ```

  NetBackup Snapshot Client は、ご使用のホストバスアダプタとそのドライバをサポートしない可能性があります。『NetBackup リリースノート』に、今回のリリースでサポートされているホストバスアダプタが記載されています。
- 追加情報については、次のものを確認します。
  - エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の［問題 (Problems)］レポート
  - システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
  - イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- NetBackup がディスクファイルにバックアップを書き込む場合には、そのディスクストレージユニットに設定しているフラグメントサイズが、オペレーティングシステムに指定しているファイルの最大サイズ以下であることを確認します。
- Windows の場合、テープが書き込み禁止でないことを確認します。
- UNIX または Linux システムのディスクパスに NetBackup カタログをバックアップするために bpbackupdb が使用されていた場合は、書き込みを試行したイメージが、そのオペレーティングシステムによって指定されている最大ファイルサイズより大きい可能性があります。テープファイルにはこのような制限はありません。テープにカタログをバックアップする場合があります。
- メディアがテープの場合、次のことを確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (ロボットドライブの場合、tpclean コマンドを参照)。
  - メディア形式が適切でない。メディアが、使用するドライブ形式と一致することを確認します。
  - メディアに問題がある。メディアに問題がある場合、bpmedia コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、以後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。
  - ドライブ構成が適切でない。ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
    たとえば、UNIX でドライブが可変モードである必要がある場合に固定モードで構成されている場合があります。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
多くの場合、この構成によって、メディアは凍結状態となり、次のメッセージが表示されます。

```
too many data blocks written, check tape and drive block size
configuration
```

『NetBackupトラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 85

メッセージ**:** メディアの読み込みエラー (media read error)

説明**:** NetBackup によるテープまたはディスクファイルからの読み込み中に、システムのデバイスドライバから I/O エラーが戻されました。

推奨処置**:** 追加情報については、次のものを確認します。

- エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の［問題 (Problems)］レポート
- システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
- イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- 次の内容を確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (クリーニングについては、`tpclean` コマンドを参照)。
  - ドライブ構成が適切でない。ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
    たとえば、UNIX でドライブが可変モードである必要がある場合に固定モードで構成されている場合があります。詳細情報が利用可能です。
    『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
  - メディアに問題がある。この場合、メディア上のすべてのデータのリカバリを実行できない可能性があります。`bpmedia` コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、今後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。
    『NetBackupトラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。

- メディア形式が適切でない。メディアが、使用するドライブ形式と一致することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 86

メッセージ: メディアの配置エラー (media position error)

説明: NetBackup によるテープメディアの配置中に、システムのデバイスドライバから I/O エラーが戻されました。

推奨処置: 追加情報については、次のものを確認します。

- エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の［問題 (Problems)］レポート
- システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
- イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- 次の内容を確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (クリーニングについては、`tpclean` コマンドを参照)。
  - ドライブ構成が適切でない。ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
    たとえば、UNIX でドライブが可変モードである必要がある場合に固定モードで構成されている場合があります。
    詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
  - メディアに問題がある。この場合、データの一部が失われる可能性があります。`bpmedia` コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、今後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。
    『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。
  - メディア形式が適切でない。メディアが、使用するドライブ形式と一致することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 87

メッセージ: メディアのクローズエラー (media close error)

説明: NetBackup でテープのクローズ中に、システムのデバイスドライバから I/O エラーが戻されました。

推奨処置: 追加情報については、次のものを確認します。

- エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の［問題 (Problems)］レポート
- システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
- イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- 次の内容を確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (クリーニングについては、`tpclean` コマンドを参照)。
  - メディアに問題がある。この場合、データの一部が失われる可能性があります。`bpmedia` コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、今後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。
    『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 89

メッセージ: 共有メモリの設定中に問題が発生しました (problems encountered during setup of shared memory)

説明: NetBackup プロセスは一部の操作で共有メモリを使います。この状態は、エラーがオペレーティングシステムの API によって共有メモリが初期化されるときに検出されると返されます。

推奨処置: 共有メモリの問題を確認します。このエラーは、システムが十分な共有メモリを割り当てることができない場合に発生します。これは、通常、多重化を行う場合に発生します。多重化を行うと、操作に必要な共有メモリの量が増加します。NetBackup ログまたは NetBackup レポート内に次のようなエントリが表示される場合があります。

```
system cannot allocate enough shared memory
```

このようなメッセージが表示された場合、ご使用のプラットフォームの各ベンダーが提供するマニュアルで、システムの共有メモリ量を増やす手順を参照してください。

以前のバージョンの Solaris の場合: メモリ割り当てメッセージが表示されてジョブが失敗することを回避するために、次の手順に従って、System V 共有メモリの 1 つ以上のデフォルト設定を変更することが必要な場合があります。

- Solaris 9 の場合、デフォルトの shminfo_shmmax 値は 8 MB です。`/etc/system` ファイルに次の行を指定すると、この設定を増やすことができます。この例では、値として 32 MB を使用しています。NetBackup の多重化パラメータの値が高い場合など、状況によっては、ご使用のシステムでより大きい値が必要な場合があります。Sun Microsystems のマニュアルには、このパラメータを指定可能な最大値に設定しても問題はないと記載されています。(このパラメータは Solaris 10 には適用されません)。

  ```
  set shmsys:shminfo_shmmax=33554432
  ```

- Solaris 9 では、デフォルトの shminfo_shmmni 値は 100 です。`/etc/system` ファイルに次の行を指定すると、この設定を増やすことができます。NetBackup では、通常はこのデフォルト値で十分です。ただし、NetBackup メディアサーバーを大規模なデータベースサーバーにインストールする場合など、状況によっては、この設定を増やすことが必要となる場合があります。この例では、値として 220 を使用しています。(このパラメータは Solaris 10 には適用されません)。

  ```
  set shmsys:shminfo_shmmni=220
  ```

メモ: `/etc/system` ファイルでこれらいずれかの値を変更する場合、新しい設定を有効にするために、`boot -r` を実行してシステムを再ブートする必要があります。

これらの値を変更する方法について詳しくは、各ベンダーが提供するマニュアルを参照してください。これらの `shminfo` パラメータは Solaris 10 には適用されないことに注意してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 90

メッセージ**:** Media Manager はバックアップイメージ用データを受信しませんでした (media manager received no data for backup image)

説明**:** バックアップ、アーカイブまたは複製の実行中、Tape Manager (`bptm`) または Disk Manager (`bpdm`) でデータが受信されませんでした。このエラーは、増分バックアップで、ファイルが変更されなかったためにバックアップを行うデータが存在しない場合に発生する可能性があります。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- ［すべてのログエントリ (All Log Entries)］レポートを確認します。
- 詳細なデバッグ情報を入手するには、bpdm または bptm のデバッグログディレクトリをサーバーに作成します。また、クライアントが Windows の場合、クライアントに bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 追加情報については、次のものを確認します。
  - エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の［問題 (Problems)］レポート
  - システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
  - イベントビューアのアプリケーションログ (Windows の場合)
- ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
  たとえば、NetBackup で可変モードのドライブが必要とされている場合に、UNIX では、そのモードに設定されていないことがあります。
  ドライブ構成について詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
- バックアップデバイスに対するメディアおよびデバイスの管理の構成が、NetBackup のポリシーでストレージユニットに対して指定した構成と一致していることを確認します。
- ドライブで、適切なメディアを使用していることを確認します。
- 詳細なデバッグ情報を入手するには、bpdm または bptm のデバッグログディレクトリ (いずれか該当する方) をサーバーに作成します。また、クライアントが Windows の場合、クライアントに bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- このエラーが、複製中、または代替読み込みサーバーを使用して複製を行う Vault セッションの実行中に発生した場合、代替読み込みサーバーがソースメディアへのアクセス権限を持っていることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 91

メッセージ**:** 致命的な NetBackup メディアデータベースのエラー (fatal NB media database error)

説明**:** メディアカタログの読み込み中または更新中に、Tape Manager (bptm) でエラーが受信されました。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 詳しくは、[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認します。
- NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートで、カタログが消失していないかどうかを確認します。カタログが消失している場合、最新の NetBackup カタログバックアップのボリュームからカタログを再ロードできます。
- カタログが存在するディスクパーティションに、十分な領域が存在することを確認します。
- これらの操作で問題が解決しない場合、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、サーバーに bptm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログファイルの結果を確認します。
- (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当する問題とデバッグログを送信してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 92

メッセージ**:** Media Manager が tar 形式以外のイメージを検出しました (media manager detected image that was not in tar format)

説明**:** リストアの実行中に、Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) が、想定されたオフセットで tar ヘッダーを検出しませんでした。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 対象となるイメージの bpverify を実行して、正常に書き込みが行われているかどうかを判断します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
- ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。

  たとえば、一部の UNIX システムでは、可変ブロックサイズモードで書き込むようにドライブを構成しないでバックアップイメージをメディアに書き込んだ場合、バックアップイメージのリストアを試行すると、このエラーが生成される場合があります。

  次の順序でイベントが発生します。

  - バックアップが正常に実行されます。
  - 検証が成功します。
  - リストアが失敗します。

  bptm のデバッグログに、次のようなエラーが表示されます。

```
00:58:54 [2304] <16> write_data: write of 32768 bytes indicated
only 29696 bytes were written, errno = 0
```

この場合、ドライブを可変ブロックサイズモードで書き込むように構成して、そのデバイスで書き込みを行うメディアを一時停止します。
『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
これらのメディアに書き込まれたイメージは、リストア可能である場合があります (プラットフォームに依存します)。ただし、1 つのファイルだけをリストアしようとしても、ほぼ確実に失敗します。これらのメディアを期限切れにしてから、バックアップを再生成できます。または、これらのメディアから他のデバイスにイメージを複製した後に、元のメディアを期限切れにできます。

- このエラーは、ドライブのマイクロコードで SCSI コマンド `FSR:forward space record` (レコード単位のテープの先送り) が不正に処理された場合、ラベルが付け直され、値が追加された 8MM テープドライブで発生する場合があります。
- 問題がこれらの説明のいずれにも該当しない場合、`bpdm` または `bptm` のいずれかのデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログファイルの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 93

メッセージ**:** Media Manager がドライブ内で誤ったテープを見つけました (media manager found wrong tape in drive)

説明**:** バックアップまたはリストアを行うためにボリュームをロードしたとき、ロードされたボリュームに想定されたテープヘッダーが存在しないことが Tape Manager (`bptm`) で検出されました。このエラーは、ロボット内のボリュームが、メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成で示されるスロットに存在しないことを示す場合があります。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- ボリュームがロボット内に存在し、そのロボットがバーコードをサポートしている場合には、[内容とボリュームの構成の比較 (Compare contents with volume configuration)] ロボットインベントリ (Windows) または [内容とボリュームの構成の比較 (Compare robot contents with volume configuration)] ロボットインベントリ (UNIX) を実行します。結果レポートには、検出されたメディア ID が表示され、ボリューム構成の内容を使用してスロット番号が検証されます。その後、ロボット内の物理的な場所を変更するか、ボリューム構成を変更して正しいスロットを表示します。
- ボリュームを非ロボットドライブにマウントした場合、適切なボリュームのマウントおよび割り当てが行われていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 94

メッセージ: 正しいイメージに配置できません。(cannot position to correct image)

説明: Tape Manager (bptm) によって、リストアを行うバックアップイメージが検索されましたが、ボリューム上の想定された位置で、適切なバックアップ ID が検出されませんでした。このエラーは、ドライブのハードウェア上の問題を示す場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 可能な場合、他のドライブでリストアを試行します。
- 追加情報については、次のものを確認します。
  - エラーの原因となったデバイスまたはボリュームを判断するための、NetBackup の[問題 (Problems)]レポート
  - システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
  - イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。デバッグログファイルの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 95

メッセージ: 要求されたメディア ID が EMM データベースでこのホストに割り当てられていません (requested media id is not assigned to this host in the EMM database)

説明: 要求元サーバーに割り当てられたレコードが NetBackup に存在しないメディア ID に対して操作が要求されました。たとえば、存在しないか、または要求元サーバーに割り当てられていないメディア ID を一時停止または凍結するために、bpmedia を使う場合などです。

推奨処置: NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを実行して、有効なメディア ID とその ID が割り当てられているホストを判断します。その後、有効なメディア ID および割り当てられたホストを使用して、コマンドを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 96

メッセージ**:** バックアップに新しいメディアを割り当てることができません。ストレージユニットに利用可能なメディアがありません (unable to allocate new media for backup, storage unit has none available)

説明**:** NetBackup Resource Broker (`nbrb`) は、バックアップに新しいボリュームを割り当てませんでした。このエラーは、バックアップに指定したストレージユニットのボリュームプール内に利用可能なボリュームが存在しないことを示します。NetBackup では、バックアップ中にストレージユニットが変更されないことに注意してください。

推奨処置**:** NetBackup の［問題 (Problems)］レポートを確認して、メディアが存在しないストレージユニットを特定します。

- ストレージユニットがロボットで、空のスロットが存在する場合、ボリュームを追加します (適切なボリュームプールを指定します)。
  - 空のスロットが存在しない場合、一部のメディアを非ロボットドライブに移動させてから、新しいボリュームを追加します。
  - 利用可能なボリュームのトラッキングが困難な場合、`available_media` スクリプトを実行します。
    UNIX の場合、スクリプトは次の位置に存在します。

    ```
    /usr/openv/netbackup/bin/goodies/available_media
    ```

    Windows の場合、スクリプトは次の位置に存在します。

    ```
    install_path¥NetBackup¥bin¥goodies¥available_media.cm
    d
    ```

    このスクリプトでは、ボリューム構成内のすべてのボリューム、および NetBackup に現在割り当てられているボリュームの情報が表示されます。
- スクラッチボリュームプールを設定し、割り当てられていないテープを用意します。NetBackup で新しいテープが必要な場合に利用可能なテープが現在のボリュームプールに存在しないときは、スクラッチプールからバックアップで使っているボリュームプールにテープを移動します。
- ストレージユニットおよびボリュームプールにメディアが存在する場合、次の内容を確認します。
  - ボリュームが凍結または一時停止されていない。
    NetBackup の［メディアリスト (Media Lists)］レポートを使用して、ボリュームの状態を確認します。ボリュームが凍結または一時停止されている場合は、`bpmedia` コマンドを実行して、ボリュームの凍結の解除または一時停止の解除を行います (必要な場合)。
    『NetBackupトラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。

- ボリュームの期限が切れておらず、最大マウント数を超えていない。
- デバイスの EMM データベースホスト名が適切である。
  EMM データベースホスト名を変更する場合には、Media Manager Device デーモン `ltid` (サーバーが UNIX または Linux の場合) または NetBackup Device Manager サービス (サーバーが Windows の場合) を停止し、再起動します。
- NetBackup 構成で、適切なホストをストレージユニットに指定している。
  ホスト接続は、ドライブが接続されているサーバー (マスターサーバーまたはメディアサーバー) である必要があります。
- メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成でメディアが適切なボリュームプール内に存在する。また、割り当てられていないメディアまたは有効なメディアが要求された保持レベルで利用可能である。
  NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを使用して、すべてのボリュームの保持レベル、ボリュームプールおよび状態 (有効など) を表示します。
  NetBackup の[メディアの概略 (Media Summary)]レポートを使用して、適切な保持レベルで有効なボリュームを確認します。

- `vmd` プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) からのメディアの要求時に、NetBackup の `bptm` プロセスが拒否される場合があります。この問題の原因は、vmd プロセスまたは NetBackup Volume Manager サービスが要求を行ったホスト名を判断できないことです。

  このエラーは、次のような不適切なネットワーク構成が原因として考えられます。

  - 複数のネットワークインターフェースに問題がある。
  - UNIX または Linux システムで使用する `/etc/resolv.conf` に問題がある。
  - DNS を実行しているが、逆引きができるように構成していない。

- `bptm` および `vmd` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。
- `bptm` のデバッグログを調べて、`bptm` が適切なシステムに接続されていることを確認します。エラーが記録されている場合、`vmd` のログを調べます。
  UNIX の場合、`vmd` のログは次の位置に存在します。

  ```
  /usr/openv/volmgr/debug/daemon/log.xxxxxx
  ```

  Windows の場合、`vmd` のログは次の位置に存在します。

  ```
  install_path¥Volmgr¥debug¥daemon¥xxxxxx.log
  ```

- 新しいストレージユニットを初めて使用する場合、マスターサーバー上の NetBackup を停止し、再起動します。

メモ: mds の統合ログファイル (OID 143) では、通常、NetBackup のメディア選択プロセスが表示されます。

この状態コードについては、ウィザード形式のより多くのトラブルシューティング情報が利用可能です。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 97

メッセージ**:** 要求されたメディア ID は使用されているため、要求を処理できません (requested media id is in use, cannot process request)

説明**:** 使用中のメディア ID に対する操作が要求されました。たとえば、バックアップまたはリストアで使用中のボリュームを、一時停止または凍結しようとした場合などです。

推奨処置**:** ボリュームを使用していないときに、コマンドを再試行します。デバイスモニターを使用して、ボリュームが使用中であるかどうかを判断します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 98

メッセージ**:** メディア要求 (tpreq) エラー (error requesting media (tpreq))

説明**:** NetBackup Device Manager サービス (Windows の場合) または Media Manager Device デーモン (`ltid`) (UNIX の場合) からメディアのマウントを要求したときに、Tape Manager (`bptm`) でエラーが表示されました。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の［問題 (Problems)］レポートを確認して、失敗の原因を判断します。最も一般的な原因として、Windows の NetBackup Device Manager サービスまたは UNIX の Media Manager device デーモン (`ltid`) が実行中でないことが考えられます。必要に応じて起動します。
- このエラーは、バックアップの複製または Vault を使ってバックアップの複製を行う場合に、元のバックアップが存在するテープにアクセスする権限を代替読み込みサーバーが持たない場合に表示されます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 99

メッセージ: NDMP バックアップの失敗 (NDMP backup failure)

説明: NDMP ポリシーのファイルリスト内のパスが正常にバックアップされませんでした。次のいずれかの状態が発生しています。

- バックアップパスが NDMP ホストに存在しません。
- NDMP バックアップで、ファイルパスではなく、ファイルを指すワイルドカード文字を使っています。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- 詳しくは、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを参照してください。
- 別のマスターサーバーまたはメディアサーバーで次のコマンドを試します。

  ```
  # tpautoconf -verify ndmp_filer
  # tpautoconf -probe ndmp_host
  ```

  ファイラで、NDMP サービスが動作していることを確認します。検証プロセスはファイラによって異なります。
  NetApp の場合、`ndmpd status` を実行して NDMP デーモンが動作していることを確認します。動作していない場合は、`ndmpd on` を実行してから再び `ndmpd status` を実行して確認します。
- パス名だけを指定するように NDMP のワイルドカードを変更します。ファイル名にも一致するワイルドカード文字を使うことはできません。たとえば、NDMP のバックアップ対象として `/vol/vol_archive_01/autoit*` と指定したとします。これは、パス名 `/vol/vol_archive_01/autoit_01/` に一致しますが、ファイル名 `/vol/vol_archive_01/autoit-v1-setup.exe` にも一致します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 100

メッセージ: ユーザーコマンドの処理中にシステムエラーが発生しました (system error occurred while processing user command)

説明: `bparchive`、`bpbackup`、`bplist`、`bprestore` で、システムコールが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- `bparchive`、`bpbackup`、`bplist` または `bprestore` のデバッグログディレクトリを (必要に応じて) 作成して、デバッグログを有効にします。
  UNIX で、root 以外のユーザーに問題がある場合、作成されたディレクトリにモード 666 が存在することを確認します。エラーが通知されている場合、修正します。

- 操作を再試行し、ログの結果を確認します。
  ログで問題が判明しない場合、コマンドをコマンドラインから実行して、stderr で通知される問題を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 101

メッセージ: メールパイプを開けませんでした (failed opening mail pipe)

説明: メールを送信するプロセスによって、サーバーへのパイプが開かれませんでした。

推奨処置: メールがクライアント上で構成されていることを確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpcd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。bpcd のデバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 102

メッセージ: メールパイプを閉じることができませんでした (failed closing mail pipe)

説明: メールを送信する処理でサーバー接続に使うパイプを閉じることができません。

推奨処置: メールがクライアント上で構成されていることを確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpcd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。bpcd のデバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 103

メッセージ: 初期化中にエラーが発生しました。構成ファイルを確認してください (error occurred during initialization, check configuration file)

説明: NetBackup Snapshot Client は NetBackup メディアサーバー方式またはサードパーティコピーデバイス方式のデータムーバーを使って、2 種類のオフホストバックアップを実行できます。いずれの方式の場合も、オフホストデータムーバーバックアップは SAN 上の次のデバイスを識別するために設定ファイル (3pc.conf ファイル) を必要とします。

- バックアップ対象のクライアントディスク
- データの保存先デバイス

メディアサーバーに SAN 上の多くのディスクとストレージデバイスへのアクセス権がある場合、SAN からデバイス情報を取得するために長時間かかることがあります。その結果、3pc.conf ファイルがメディアサーバーに存在しなければ、データムーバー方式を使う最初の複数ストリームのバックアップは失敗することがあります。

推奨処置: 最初の複数ストリームのデータムーバーバックアップを実行する前に 3pc.conf ファイルを手動で作成します。3pc.conf ファイルを作成する次のコマンドを使います。

```
# bptpcinfo -a
```

3pc.conf ファイルは /usr/openv/volmgr/database/3pc.conf に作成されます。

3pc.conf ファイルおよびその作成方法についての詳細情報を参照できます。

『NetBackup Snapshot Client Configuration』のオフホストデータムーバーバックアップ用の NetBackup の設定に関する項を参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/article.TECH51377.html

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 104

メッセージ: ファイルのパス名が無効です (invalid file pathname)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 105

メッセージ: ファイルのパス名は、許可された最大長を超えています (file pathname exceeds the maximum length allowed)

説明: 現在の作業ディレクトリを使用して作成されたパス名が、システムで使用可能なパスの最大長を超えています。

推奨処置: 現在の作業ディレクトリパスの長さを短くします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 106

メッセージ: 無効なファイルのパス名が見つかりました。要求を処理できません (invalid file pathname found, cannot process request)

説明: バックアップまたはアーカイブを実行するファイルパスのいずれかが無効です。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- フルパス名を使っており、フルパス名がシステムで使用可能なパスの最大長を超えないことを確認します。(UNIX の場合は、フルパス名はスラッシュ文字 (/) で始まります。)
- ファイルが存在し、NetBackup によってファイルにアクセスできる権限を所有していることを確認します。
- 一部の NDMP サーバーはディレクトリレベルの拡張をサポートしていません。一部の NDMP ファイラベンダーには、ボリュームレベルよりも下位のワイルドカード文字をサポートするためにベリタスが使っている API がありません。たとえば、EMC のファイラではバックアップ対象として /fs1/dir* と指定することはできません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 108

メッセージ: 処理に成功しましたが監査に失敗しました (Action succeeded but auditing failed)

説明: 監査されているプライマリの処理は成功しましたが、対応する監査レコードは作成されなかったため失敗しました。

たとえば、ポリシーを作成する `bppolicynew` コマンドを使い、状態コード 108 が戻されたとします。ポリシーは正常に作成されていますが、関連付けられた監査レコードは `nbauditreport` コマンドが生成する監査レポートに表示されません。

このエラーは、監査が `nbemmcmd` コマンドを使って有効になっている場合にのみ戻される可能性があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- `nbaudit` デーモン (NetBackup Audit Manager) が動作していること確認します。
- エラーの原因の詳細について、プライマリの処理に関係するログと `nbaudit` ログを調べます。たとえば、ポリシー作成の場合は `bpdbm` ログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 109

メッセージ: 指定された日付が無効です (invalid date specified)

説明: コマンドラインで日付オプションを含むコマンドを実行した場合、このエラーが発生することがあります。日付オプションの形式は、マスターサーバーのロケールによって異なります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- コマンドラインでエラーが発生した場合、コマンドの標準エラー出力で説明メッセージを確認します。
- コマンドの使用方法に示されている日付オプションの形式を参照します。マスターサーバーのロケールを調べます。このロケールでの日付形式と、コマンドの使用方法で示されている日付形式を比較します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで情報を確認します。
- Java インターフェースにエラーが表示される場合、Java 起動ファイルのデバッグ出力マネージャを有効にします。再試行し、Java ログに記録されているパラメータをコマンドの使用方法に表示されているパラメータと比較します。
- これらの操作で問題が判明しない場合、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 110

メッセージ: NetBackup 構成情報が見つかりません (Cannot find the NetBackup configuration information)

説明: Windows の場合、インストール時に作成されたレジストリエントリが NetBackup で読み込まれませんでした。UNIX の場合、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルが存在しません。

推奨処置: Windows の場合、NetBackup ソフトウェアをクライアントに再インストールします。UNIX の場合、少なくとも次の行を含む `/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルを作成します。

```
SERVER = server_name
CLIENT_NAME = client_name
```

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 111

メッセージ: サーバーリストでエントリが見つかりませんでした (No entry was found in the server list)

説明: UNIX の場合、`bp.conf` ファイル内に `SERVER = server_name` 行が存在しません。Windows の場合、サーバーリストにエントリが存在しません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルの 1 行目に、次の行を追加します。

  SERVER = *server_name*

- Microsoft Windows クライアントでは、[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスの[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]ドロップダウンメニューでサーバー名を追加します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 112

メッセージ: ファイルリストでファイルが指定されていません (no files specified in the file list)

説明: ファイルリスト内のファイルを指定しないで、リストアが要求されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- リストアを行うファイルを 1 つ以上指定します。
- この状態コードは、nbjm の実行中に、ストリームの検出ですべてのストリームファイルを検出できない場合に発生する可能性があります。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 114

メッセージ: 実装されていないエラーコード (unimplemented error code)

説明: このエラーは通常は発生しません。nbjm が負のエラー番号を受け取ると、状態コード 114 が発行されます。

推奨処置: nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 116

メッセージ: VxSS の認証に失敗しました (VxSS authentication failed)

説明: ソケットの接続の両端のパーティが相互に認証しませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Veritas Product Authentication Service がインストールされ、構成されていることを確認してください。
  インストール手順については、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- 両方のパーティに有効な証明書があることを確認します。`bpnbat -WhoAmI` を実行して表示される有効期限を調べます。次に例を示します。

  ```
  bpnbat -WhoAmI
  Name: JDOG
  Domain: MYCOMPANY
  Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
  Expiry Date: Sep 19 12:51:55 2009 GMT
  Authentication method: Microsoft Windows
  ```

  操作は正常に完了しました。
  有効期限は 2009 年 9 月 19 日であることがわかります。12:51:55 GMT を過ぎるとこのクレデンシャルは無効になり、新しいクレデンシャルが必要になります。
- NetBackup 管理コンソールから実行している場合、コンソールを閉じて再度開きます。可能な場合、コンソールでは、現在ログインしている識別情報のクレデンシャルが自動的に取得されます。デフォルトでは、これらの証明書は 24 時間有効です。次に、クレデンシャルを 24 時間から 30 日 (2592000 秒) に延長する方法について例を示します。
  Windows の場合: `<install path>¥veritas¥netbackup¥sec¥at¥bin¥vssat setexpiryintervals -p <plugin_name> -t <user> -e 2592000`
  UNIX の場合: `usr/openv/netbackup/sec/at/bin/vssat setexpiryintervals -p <plugin_name> -t <user> -e 2592000`
- 両方のパーティの証明書で同じブローカーが使っているか、または同じルートブローカーの子であるか、あるいは両方のパーティ間に信頼関係が確立されていることを確認します。
  ブローカーの階層およびブローカー間に信頼関係を確立する方法については、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- 対象となる物理システムの間で、接続が可能であることを確認します。コンピュータ間に一般的なソケット (`ping`、`telnet` など) を接続できない場合、この問題は、NetBackup とは関連のないネットワーク内の問題が原因である可能性があります。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。

- /home/username
- /usr/openv/netbackup/logs
- /tmp

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 117

メッセージ: VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明: 操作の試行のために使用したユーザー識別情報には、その操作の実行に必要な権限がありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- デフォルトのグループを使用している場合、ユーザーが実行しようとしている操作が、そのグループにとって適切であることを確認します。たとえば、NBU_Operators のメンバーは、ポリシー情報の変更を行うことができません。ポリシー情報を変更する権限は、管理者ロールに限定されています。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - /home/username
  - /usr/openv/netbackup/logs
  - /tmp
- 独自の定義済みグループおよびアクセス権を使用している場合、まず、操作を関連付けるオブジェクトを判断します。その後、その操作に関連する権限を追加します。たとえば、ドライブの起動および停止の操作を必要とするユーザーが現在その権限を所有していないとします。この場合は、ユーザーが適切な認可グループに属することを確認します。
  必要に応じて、[グループの権限 (Group Permissions)]タブで、グループがドライブオブジェクトに対する起動および停止権限を所有していることを確認します。また、必要に応じて、NetBackup の詳細度レベルを上げて、失敗した要求に必要とされるオブジェクトおよび権限を特定します。デバッグログの該当する行に、次のようなメッセージが表示されます。

```
17:19:27.653 [904.872] <2> GetAzinfo: Peer Cred Info.
Name: JMIZZLE
Domain: MYCOMPANY
Expiry: Sep 24 21:45:32 2003 GMT
Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
AuthType: 1
17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5082:
```

```
Function: VssAzAuthorize. Object
NBU_RES_Drives
17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5083:
Function: VssAzAuthorize. Permissions Up
17:19:40.171 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5166:
Function: VssAzAuthorize. 20 Permission denied.
```

この例では、ユーザー JMIZZLE は、ドライブオブジェクトに対して起動権限が必要な操作を実行しようとしています。問題を診断するには、JMIZZLE が属するグループを調べて、該当するグループが起動権限を所有していることを確認する必要があります。(起動権限は、ドライブに対する操作権限セットに含まれています。)

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 118

メッセージ**:** VxSS 認可に失敗しました (VxSS authorization failed)

説明**:** NetBackup は認可サービスとの認可の確認を完了できませんでした。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- Veritas Product Authorization Service (デーモン) が実行中であることを確認します。
  認証デーモンおよび認可デーモンについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- 適切なマスターサーバーと通信していることを確認します。ローカルサーバー上の bp.conf ファイルのエントリ AUTHORIZATION_SERVICES に認可サービスを実行する適切なホスト名 (完全修飾名) が指定されていることを確認します。たとえば、AUTHORIZATION_SERVICE = machine2.mycompany.com 0 を指定すると、サーバーは認可の実行時に machine2 に接続することになります。このエントリがマスターサーバーのエントリと一致することを確認してください。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - /home/userName
  - /usr/openv/netbackup/logs
  - /tmp
- マスターに接続するサーバーに有効な証明書があることを確認します。コンピュータの証明書を調べるには、次のように入力します。
  UNIX の場合:

```
# bpnbat -WhoAmI -cf
/usr/openv/var/vxss/credentials/machine3.mycompany.com
```

Windows の場合:

```
Bpnbat WhoAmI -cf  "c:¥Program
Files¥VERITAS¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥machine3.my
company.com"
```

いずれの場合も、次のようなメッセージが表示されます。

```
Name: machine3.mycompany.com
Domain: NBU_Machines@machine2.mycompany.com
Issued by: /CN=broker/OU=root@machine2.mycompany.com/O=vx
Expiry Date: Sep  2 19:25:29 2004 GMT
Authentication method: Veritas Private Security
Operation completed successfully.
```

有効期限が過ぎている場合は、bpnbat -LoginMachine を実行して、そのコンピュータの新しいクレデンシャルを取得します。

bpnbat について詳しくは、『NetBackup **コマンドリファレンスガイド**』を参照してください。

認可の確認を試行するサーバーには、認可データベースを検証するための権限がありません。bpnbaz -ShowAuthorizers を実行して、コンピュータの識別情報が表示されることを確認します。次のディレクトリにコンピュータのクレデンシャルがあることを確認します。

Program Files¥VERITAS¥var¥vxss¥credentials (Windows の場合)、/usr/openv/var/vxss/credentials (UNIX の場合)

このクレデンシャルには、machine1.company.com などのコンピュータの完全修飾名が含まれている必要があります。

- 認可データベースに対するオープンソケットの最大数が使い果たされていないことを確認します。netstat を使用して、認可サーバーのポート 4032 に対してオープンされ、次の構成を参照するソケットの数を判断します。

  Windows の場合:

  HKLM¥SOFTWARE¥VERITAS¥Security¥Authorization¥Communication¥ClientMaxConnections

  UNIX の場合: etc/vx/vss/VRTSaz.conf のエントリ ClientMaxConnections

  オープンしている接続が最大数に達している場合、オープンしている接続の最大数を増やす必要があります。オープンしている接続の最大数を増やすと、認可サービスまたは認可デーモンのメモリの使用量が増加します。最大接続数を極端に増やすと、パフォーマンスが低下する場合があることに注意してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 120

メッセージ: 要求された NetBackup データベースのバックアップ構成データベースレコードが見つかりません (cannot find configuration database record for requested NB database backup)

説明: NetBackup の内部カタログのバックアップを行うプログラムで、使用するメディア ID またはバックアップを行うパスを示す属性が検出されませんでした。このエラーは、通常の状況では発生しません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、`admin` および `bpdbm` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。
- (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当する問題とエラーの詳細が表示されているデバッグログを送信してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 121

メッセージ: 要求された NetBackup データベースのバックアップにメディアが定義されていません (no media is defined for the requested NB database backup)

説明: NetBackup によって、NetBackup の内部カタログのバックアップが試行されましたが、カタログバックアップ構成で定義されたメディア ID が存在しませんでした。

推奨処置: カタログバックアップ構成にメディア ID を追加します。メディア ID が NetBackup ボリュームプール内に存在することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 122

メッセージ: 指定されたデバイスのパスが存在しません (specified device path does not exist)

説明: `bpbackupdb` コマンドラインを使い、存在しないデバイスパス (Windows の場合) または raw デバイスファイル (UNIX の場合) を指定して、NetBackup 内部カタログのバックアップが行われました。

推奨処置: 有効なデバイスファイル名を使用してコマンドを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 123

メッセージ: 指定されたディスクのパスはディレクトリではありません (specified disk path is not a directory)

説明: NetBackup によって NetBackup の内部カタログのバックアップが試行されたとき、バックアップ属性でディスクに出力するように設定されていましたが、ディスクのファイルパスはすでに存在し、ディレクトリではありません。

推奨処置: カタログバックアップに異なるディスクパスを指定するか、既存のファイルを削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 124

メッセージ: NetBackup データベースのバックアップに失敗しました。パスが見つからなかったか、アクセスできませんでした (NB database backup failed, a path was not found or is inaccessible)

説明: カタログバックアップ構成で指定した 1 つ以上のパスのバックアップが作成されません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。

  考えられる原因は、次のとおりです。

  - パスが存在しない。
  - UNIX システムの場合、パスのいずれかにシンボリックリンクが存在する。
- アクセスできないパスを特定して、カタログバックアップ構成内のパス名を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 125

メッセージ: NetBackup カタログのバックアップを実行中です (a NetBackup catalog backup is in progress)

説明: 一度に実行可能な NetBackup カタログバックアップは 1 つだけです。オンラインカタログバックアップの実行中、特定の操作は許可されません。(このような操作には、カ

タログアーカイブ、カタログの圧縮、およびイメージの最後のコピーの期限切れが含まれます。)

推奨処置: カタログバックアップが完了した後、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 126

メッセージ: NetBackup データベースバックアップヘッダーが大きすぎます。指定されたパスが多すぎます (NB database backup header is too large, too many paths specified)

説明: NetBackup カタログバックアップ構成で指定されたパスが多すぎるため、固定サイズのメディアヘッダーに格納できませんでした。このエラーは、通常の状況では発生しません。

推奨処置: カタログバックアップ構成からパスの一部を削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 127

メッセージ: 指定されたメディアまたはパスは、有効な NetBackup データベースのバックアップヘッダーを含んでいません (specified media or path does not contain a valid NB database backup header)

説明: `bprecover` コマンドが発行されましたが、指定されたメディア ID には有効なカタログバックアップデータが存在しません。

推奨処置: 適切なメディア ID を使用していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 128

メッセージ: NetBackup データベースのリカバリに失敗しました。プロセスで例外的な条件が発生しました (NB database recovery failed, a process has encountered an exceptional condition)

説明: リカバリを実行するように指定されたカタログで、1 つ以上のカタログをリストアできません。詳しくは、`bprecover` コマンドの出力で、この状態コードの直前のエラーメッセージを参照してください。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- bprecover 出力内のエラーメッセージで通知された問題を修正します。
- 停止する NetBackup サービスを識別し、NetBackup データベースのリカバリを試行します。

  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「NetBackup カタログのリカバリについて」を参照してください。

  NetBackup Client Service(データベースのリカバリを正常に行うために実行する必要がある) 以外の NetBackup サービスは停止する必要があります。
- NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。

  考えられる原因は、次のとおりです。

  - ディスクに空きがなくなっている。
  - NetBackup カタログのテープが破損している。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 129

メッセージ**:** ディスクストレージユニットに空きがありません (Disk storage unit is full)

説明**:** NetBackup によるディスクストレージユニットのファイルシステムへの書き込みの実行中に、領域を十分に確保できませんでした。ファイルシステムで利用可能な領域が増加するまで、サイズが同等以上のイメージは、このディスクストレージユニットへの書き込みに失敗し、このエラーが表示されます。

(このディスクストレージユニットが含まれる) ストレージユニットグループに書き込みを行うスケジュールバックアップジョブで、ジョブの再試行時に、利用可能な領域が最も多いストレージユニットが NetBackup スケジューラによって要求されます。

再試行時に、利用可能な領域が最も多いストレージユニットがスケジューラによって要求される場合は、次のことに注意してください。

- ストレージユニットグループでは、ディスクストレージユニットよりもテープストレージユニットの方が優先されます。これは、通常、テープストレージユニットの容量の方が大きいためです。
- 未使用の領域が最も多いストレージユニットがビジー状態の場合は、そのストレージユニットはスキップされます。その次に未使用の領域が多く、利用可能なストレージユニットが選択されます。
- ジョブが最初に失敗した際に領域が不足していたストレージユニットが、ジョブの再試行時に未使用の領域が最も多いストレージユニットであった場合、スケジューラによってそのストレージユニットが再度使用されます。そのストレージユニットは、ジョブが失敗したときよりも未使用の領域が増加している場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 十分な空き領域を確保するか、またはこのストレージユニットのファイルシステムに領域を追加します。
- このディスクストレージユニットの高領域水準の設定値を小さくします。このディスクストレージユニットへストレージユニットグループからアクセスできるようにポリシーを構成します。このストレージユニットの空き領域がなくなると、ストレージユニットグループから代替ストレージが提供されます。ファイルシステムの高領域水準を上回ったイメージでも正常に完了することが理想です。このイメージによって、ストレージユニットは空きなしの状態 (高領域水準を上回る状態) となります。この結果、領域が高領域水準を下回るまでストレージユニットが他のジョブに割り当てられないようになります。
- 領域が不十分であったディスクストレージユニットにステージング属性が設定されている場合、空き領域を作成することができない場合があります。これは、ディスクにステージングされたバックアップが再配置されていない (ステージングストレージユニットから削除することができない) ためです。ステージングの再配置ジョブ (複製ジョブ) によって、新しいバックアップ用に十分な空き領域が提供されるように、イメージが正常にコピーされていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 130

メッセージ: システムエラーが発生しました (system error occurred)

説明: エラーが発生し、製品の一貫性のある動作が妨げられました。このエラーは、通常、システムコールに関連しています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
- 通知された問題をシステムログで確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに `bpdbm`、`bptm` および `bprd` のデバッグログディレクトリを作成します。`vxlogcfg` コマンドを使用して、統合ログレベルを上げます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 131

メッセージ: クライアントはサーバーを使用できることを検証されていません (client is not validated to use the server)

説明: サーバーへの接続によって決定されるクライアント名が NetBackup 構成内のいずれのクライアント名にも一致しませんでした。また、マスターサーバーにこのクライアントの altnames 構成が存在しませんでした。複数のネットワーク接続が存在するクライアントとサーバーで、クライアントの構成に使用されている名前と、サーバーへの接続の指示に使用されているルーティングテーブル内のクライアントの名前が異なるとき、この問題が発生する可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを調べます。
- bprd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認して、接続およびクライアントの名前を判断します。

  要求の種類 (リストア、バックアップなど) に応じて、次の操作を実行します。

  - クライアントの構成名を変更します。
  - クライアントのルーティングテーブルを変更します。
  - マスターサーバーで、このクライアントの altnames ディレクトリおよびファイルを設定します。
    『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
    または
  - UNIX マスターサーバーの場合、NetBackup イメージカタログ内にソフトリンクを作成します。
- 『NetBackup トラブルシューティングガイド』のホスト名およびサービスエントリの検証に関する項を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 132

メッセージ: ユーザーは、このクライアントからサーバーを使用できることを検証されていません (user is not validated to use the server from this client)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 133

メッセージ**:** 要求が無効です (invalid request)

説明**:** 次のいずれかの状態が発生しています。

- 認識不能な要求をしています。この認識のエラーは、通常、異なるバージョンの NetBackup ソフトウェアを同時に使用しているために発生します。
- クライアントが一覧要求またはリストア要求に対してこのエラーを受信した場合は、UNIX 版 NetBackup サーバーの `bp.conf` ファイルまたは Windows 版 NetBackup サーバーのレジストリに `DISALLOW_CLIENT_LIST_RESTORE` または `DISALLOW_CLIENT_RESTORE` オプションが存在することを示します。これらのオプションは、すべての NetBackup クライアントからの一覧表示要求およびリストア要求を拒否します。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- ソフトウェアのバージョンが問題である可能性がある場合、すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。
  - UNIX の場合、NetBackup のサーバーとクライアントで `/usr/openv/netbackup/bin/version` ファイルを確認します。
  - Windows 版 NetBackup サーバーの場合、*install_path*¥netbackup¥version.txt ファイルまたは[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup 管理コンソールのバージョン情報 (About NetBackup Administration Console)]項目を確認します。
  - Microsoft Windows クライアントの場合、[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup クライアントのバージョン情報 (About NetBackup Client)]項目を確認します。
- サーバーが一覧要求またはリストア要求を否定した場合は、次のいずれかを実行します。
  - NetBackup 管理コンソールに移動します。左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]を展開します。右ペインで、変更するマスターサーバーをダブルクリックします。[プロパティ (Properties)]ダイアログボックスの左ペインで、[クライアント属性 (Client Attributes)]を選択し、[クライアントによる参照を許可する (Allow client browse)]オプションと[クライアントによるリストアを許可する (Allow client restore)]オプションにアクセスします。
  - UNIX NetBackup サーバーの `bp.conf` ファイルまたは Windows NetBackup サーバーのレジストリから `DISALLOW_CLIENT_LIST_RESTORE` オプションと `DISALLOW_CLIENT_RESTORE` オプションを削除します。その後、NetBackup Request デーモン (UNIX の場合) または NetBackup Request Manager サービス (Windows の場合) を停止し、再起動します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdbm、bprd および admin のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 134

メッセージ: サーバーリソースがビジーなため、要求を処理できません (unable to process request because the server resources are busy)

説明: 状態コード 134 は、ストレージユニット内のすべてのドライブが現在使用中であることを示す通知メッセージです。すべてのドライブが使用中である場合、NetBackup では、他のストレージユニットの使用が自動的に試行されます。利用可能なストレージユニットが存在しない場合、NetBackup によってジョブがキューに再投入されて状態コード 134 が表示され、後で再試行されます。

推奨処置: なし

状態コード 134 は、単なる通知メッセージであり、エラーではありません。これは、多数の理由によって通常の操作で発生します。状態コード 134 は、SSO 環境で、より頻繁に発生します。処置は必要ありません。

状態コード 134 はエラーログに記録されません。状態コード 134 によって、アクティビティモニターに新しい試行が示されます。再試行許可数に関連する再試行回数は増えません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 135

メッセージ: クライアントは要求された操作を実行できることを検証されていません (client is not validated to perform the requested operation)

説明: root ユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Administrator) (Windows の場合) 以外のユーザーが代替クライアントにリストアを試行しました。

推奨処置: root ユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Administrator) (Windows の場合) として、マスターサーバー上で操作を再試行します。状態コード 131 も参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 136

メッセージ: TIR 情報はイメージファイルから削除されました (tir info was pruned from the image file)

説明: 合成中の (差分または累積) バックアップイメージの 1 つ以上のコンポーネントから TIR 情報が削除されています。

この状況は、次の場合に発生します。

- クライアントの最新のバックアップイメージが合成完全バックアップまたは合成累積バックアップである。
- その合成完全 (または合成累積) バックアップを行う前に 1 つ以上のコンポーネントイメージから TIR 情報が削除されている。

合成 (完全または累積) バックアップイメージを期限切れにし、クライアントの合成バックアップジョブを再度実行すると、TIR 情報は自動的にイメージカタログにリストアされます。ただし、メディアが不適切、不明または Vault 処理されているか、またはドライブが不適切であるために TIR のリストアが失敗した場合には、合成バックアップジョブは失敗し、このエラーが表示されます。

推奨処置: (TIR 情報が削除されている) 各コンポーネントイメージのカタログに TIR 情報を再インポートします。その後、合成バックアップジョブを再度実行します。TIR 情報は、このコンポーネントイメージからファイルの True Image Restore を開始することによって、イメージカタログにインポートできます。また、このリストア処理によって、イメージカタログの TIR 情報もリストアされます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 140

メッセージ: ユーザー ID はスーパーユーザーではありませんでした (User ID was not superuser)

説明: root 権限 (UNIX の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を所有しないユーザーまたはプロセスによって、プロセスが起動されました。

推奨処置: 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに、root 権限 (UNIX の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 141

メッセージ: 指定されたファイルパスは絶対パスではありません (file path specified is not absolute)

説明: ファイルの指定は、絶対パスである必要があります。

推奨処置: ファイルの指定を修正して、コマンドを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 142

メッセージ: ファイルは存在しません (file does not exist)

説明: Snapshot Client を使用して VxFS ファイルシステムのバックアップを行うには、クライアント上の VxFS ファイルシステムに適切なダイナミックリンクライブラリのパッチがインストールされている必要があります。適切な VxFS ライブラリがインストールされていない場合、バックアップは失敗し、状態コード 142 が表示されます。

次がログに表示されます。

- ほとんどのスナップショットバックアップでは、クライアントの /usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログに次のようなメッセージが表示されます。

  ```
  09:36:48.299 [527] <32> fs_dev_rt_check: FTL - snapshot method:
  nbu_snap abort - required VxFS dynamic linked libraries for
  NetBackup are not installed. Please visit the Veritas support
  website, and refer to Technote number 262225 for further
  information.
  ```

- FlashBackup ポリシーから実行されたバックアップの場合、クライアントの /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar のログに次のようなメッセージが表示されます。

  ```
  10:09:56.566 [1146] <32> bpfsmap: FTL - bpfsmap: FlashBackup
  abort - required VxFS dynamic linked libraries for NetBackup are
  not installed. Please visit the Veritas support website, and
  refer to Technote number 262225 for further information.
  10:09:56.571 [1146] <16> bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit
  status = 142: file does not exist
  10:09:56.573 [1146] <4> bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 142: file
  does not exist
  ```

- ディスクプール、ディスクボリューム、ディスクプールボリューム、ディスクメディア ID、サーバー形式の情報を収集できない場合には、bpexpdate、bpimmedia、bpimport および bpverify のコマンドがこの状態コードを返すことがあります。
- チェックポイントクローンが見つからない場合、または Frozen Image バックアップがスナップショットの情報を返さない場合に、bpbkar がこの状態コードを返すことがあります。

推奨処置: 技術情報 TECH28008 の説明に従って、NetBackup クライアントに VxFS ダイナミックライブラリをインストールし、バックアップを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 143

メッセージ: コマンドのプロトコルが無効です (invalid command protocol)

説明: NetBackup Request デーモン (UNIX の場合) または NetBackup Request Manager サービス (Windows の場合) に不適切な形式の要求が行われました。このエラーは、製品のバージョンが異なる場合、ネットワーク通信で障害が発生している場合、または NetBackup 以外のプロセスからデーモンまたはサービスのポートを介してデータが送信された場合に発生することがあります。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べて、データソースのシステムを特定します。そのシステムで、要求を開始したプロセスを特定します。要求を開始したプロセスが NetBackup のプロセスである場合、そのプロセスまたはコマンドが、サーバーのソフトウェアバージョンと互換性があることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 144

メッセージ: コマンドの使用方法が無効 (invalid command usage)

説明: この状態コードは、不適切なオプションを指定して NetBackup のプロセスが開始されたか、製品に互換性がないために発生します。

推奨処置: コマンドを修正するか、すべての NetBackup のバイナリが、同じバージョンであることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 145

メッセージ: デーモンはすでに実行されています (daemon is already running)

説明: そのプロセスはすでに実行中です。

推奨処置: 現在実行中のプロセスを終了した後、プロセスを再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 146

メッセージ: バインドしたソケットを取得できません (cannot get a bound socket)

説明: サービスまたはデーモンがソケットにバインドされませんでした。デーモン (UNIX の場合) またはサービス (Windows の場合) が、構成されたポート番号へのバインドを試行したときに、システムコールが失敗しました。このエラーは、通常、デーモンまたはサービスの起動前に他のプロセスがポートを取得したことによって発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートおよび[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを調べます。
- bprd および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。ログの結果で、バインドを試行したことによって発生したシステムエラーのメッセージを確認します。
  他のプロセスがポートを使用している場合、他のシステムコマンドを実行してそのプロセスを判別します。この調査に基づいて、services ファイル内のポート番号を変更するか、マッピングし直すか、ポートを取得しているプロセスを終了します。
  UNIX の場合、このエラーの他の原因として、kill コマンドの使用により bprd または bpdbm を終了した可能性があります。bpdbm を停止するには、/usr/openv/netbackup/bin/bpdbm -terminate コマンドを実行します。これらのプロセスを停止するために kill コマンドを実行すると、次にプロセスを起動したときに、割り当てられたポートにバインドできない場合があります。
  bprd または bpdbm の問題を識別するには、それぞれのプロセスのデバッグログで次のような行を確認します。

  ```
  <16> getsockbound: bind() failed, Address already in use (114)
  <32> listen_loop: cannot get bound socket. errno = 114
  <4> terminate: termination begun...error code = 146
  ```

  類似したエントリが、レポートに表示される場合もあります。
- 10 分経過しても問題が解決しない場合にはサーバーの再起動が必要なことがあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 147

メッセージ: 必要なコピーまたは指定されたコピーが見つかりませんでした (required or specified copy was not found)

説明: 要求されたコピー番号のバックアップイメージまたはアーカイブイメージが検出されません。

推奨処置: 要求を修正して、存在するコピー番号を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 148

メッセージ: デーモンの fork に失敗しました (daemon fork failed)

説明: システムから受け取ったエラーのため、NetBackup のサービスによって子プロセスが作成されませんでした。多くの場合、これは、システムリソースの可用性に基づく一時的なエラーです。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 後でサービスを再起動するか、プロセス数を制限している、システムの問題を調べます。
- Windows システムの場合、イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 149

メッセージ: マスターサーバーの要求に失敗しました (master server request failed)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 150

メッセージ: 管理者から終了が要求されました (termination requested by administrator)

説明: GUI を使って管理者はアクティブなプロセスを終了します。ジョブの状態が「失敗」に変わります。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 152

メッセージ: 必要な値が設定されていません (required value not set)

説明: bpdbm プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) に、不完全な要求が行われました。このエラーは、通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用しているために発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- すべての ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdbm および admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 153

メッセージ: サーバーは、マスターサーバーではありません (server is not the master server)

説明: この状態コードは、今後の使用のために予約されています。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 154

メッセージ: ストレージユニットの特徴が要求と一致しません (storage unit characteristics mismatched to request)

説明: バックアップが試行されましたが、使用するように選択されたストレージユニットの特徴とバックアップ形式に互換性がありません。

推奨処置: 選択したストレージユニットの特徴が、試行したバックアップに対して適切であることを確認します。

- NetBackup Snapshot Client の場合、ポリシーのストレージユニットを[任意 (Any_available)]に設定し、オフホストバックアップ方式を[サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]または[NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]に設定しています。[任意 (Any_available)]は選択しないでください。[サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]または[NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]をオフホストバックアップ方式として指定する場合、特定のストレージユニット (nut-4mm-robot-tl4-0 など) を指定する必要があります。
- NDMP ポリシータイプでは、次を検証してください。
  - NDMP タイプのストレージユニットを定義していること。

  - NDMP ホスト値がクライアントのホスト名と一致すること。たとえば、NDMP ポリシーでクライアントとして `toaster` を指定した場合、ストレージユニットの構成には、NDMP ホストとして `toaster` を指定する必要があります。
  - ストレージユニットのメディアサーバーが NetBackup の正しいバージョンを実行していること。
- 非 NDMP のポリシー形式の場合、ポリシーで Media Manager またはディスク形式のストレージユニットを指定していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 155

メッセージ: ディスクに空きがありません (disk is full)

説明: カタログデータベースが存在するディスクに空きがない、またはトラックログフォルダに空きがないのでカタログファイルに書き込めませんでした。

推奨処置: NetBackup カタログまたはトラックログフォルダが存在するディスクの領域を解放して操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 156

メッセージ: スナップショットエラーが発生しました (Snapshot error encountered)

説明: 次に示すのはこの状態コードの考えられる原因です。

- VMware 関連のエラー
- Enterprise Vault Agent 関連のエラー。次のエラーは状態コード 156 を表示する場合があります。
  - VSS_E_BAD_STATE のスナップショットのエラー
  - VSS_E_INSUFFICIENT_STORAGE のスナップショットのエラー
- Windows Open File Backup または Snapshot Client に関するスナップショットバックアップに関連するエラー。
- 複数のボリュームが同じマウントポイントにマウントされている

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup for VMware の場合:
  - NetBackup がドライブのボリューム ID を取得できない

NetBackup がドライブのボリューム ID を取得できないことがあります。その場合は、仮想マシンドライブがどれもバックアップされません。バックアップは NetBackup の状態コード 156 で失敗します。
ドライブがダウンしている可能性があります。

- 仮想マシンのバックアップはすでにアクティブである
  1 台の仮想マシンで、一度に 2 つ以上のバックアップを実行することはできません。最初のバックアップを実行中に、仮想マシンで 2 つ目のバックアップを開始すると、2 つ目のジョブは状態 156 で失敗します。
  推奨処置: 最初のジョブが完了するまで待って、それから 2 つ目のジョブを実行します。

- 仮想マシンの名前を見つけることができない
  NetBackup で、バックアップポリシーに表示されている仮想マシンのホスト名または VM 表示名が検出されません。状態の詳細ログに表示される可能性のあるエラーメッセージは、次のとおりです。

  ```
  Critical bpbrm (pid=<pid number>) from client <client name>:
  FTL - snapshot creation failed, status 156.)
  ```

  仮想マシンに固定 IP アドレスがない場合は、VM 表示名または UUID によって仮想マシンを識別するように NetBackup を構成できます。静的 IP アドレスを使用しない環境の例には、クラスタ、および動的に IP アドレスを割り当てるネットワークがあります。
  NetBackup が VM 表示名によって仮想マシンを識別するように構成されている場合があることに注意してください。その場合は、表示名が一意であり、特殊文字を含まないことを確認します。

- 仮想マシンがオフになっている
  vCenter サーバーによって、NetBackup はオフになっている仮想マシンをバックアップできます。vCenter サーバーにアクセスするには、NetBackup にクレデンシャルを提供する必要があります。

  NetBackup が vCenter の代わりに ESX サーバーのクレデンシャルを使う場合には、オフになっている仮想マシンを認識できないことがあります。次の点に注意してください。

  - ポリシーがプライマリ VM 識別子として VM ホスト名または VM DNS 名を使う場合には、NetBackup が仮想マシンを見つけられない可能性があります。バックアップが失敗する
  - ポリシーがプライマリ VM 識別名として VM 表示名か VM UUID を使えば、NetBackup は仮想マシンを認識できます。バックアップは成功します。

- 仮想マシンが 1 つ以上の独立したディスクを備え、一時停止状態にある
  仮想マシンに一時停止状態の独立したディスクがある場合、スナップショットジョブは失敗します。次のようなメッセージがジョブの詳細ログに表示されます。

```
01/12/2015 17:11:37 - Critical bpbrm (pid=10144) from client
<client name>: FTL - VMware error received: Cannot take a
memory snapshot, since the virtual machine is configured with
independent disks.
```

詳細情報は次の VMware の記事に記載しています。
http://kb.vmware.com/kb/1007532
回避策として、仮想マシンの状態をオンまたはオフに変更し、バックアップを再実行します。

メモ: 独立したディスク上のデータをスナップショットで取り込むことができない。残りの仮想マシンデータはバックアップされています。

- 仮想マシンのディスクが raw モード (RDM) である
  RDM は無視され (バックアップされません)、独立したディスクが再作成されますが中は空です。
- スナップショットを作成する試行が VMware タイムアウトを超えた
  仮想マシンのスナップショットを作成する試行が 10 秒の VMware タイムアウトを超えた場合、スナップショットは NetBackup の状態コード 156 で失敗します。このタイムアウトは、仮想マシンが多数のボリュームで構成されている場合に発生する可能性があります。[仮想マシンの静止 (Virtual machine quiesce)]オプションが無効になっている場合でも、タイムアウトが発生する可能性があること注意してください。

  次のいずれかを実行します。

  - 仮想マシン内のボリューム数を減らします。
  - NetBackup クライアントを仮想マシンにインストールし、(VMware スナップショット方式ではなく) 別のバックアップ方式をポリシーに選択します。
- 仮想マシンに vmdk ファイルが割り当てられていない
  vCenter Site Recovery Manager (SRM) 環境では、仮想マシンに vmdk ファイルが割り当てられていない場合があります。レプリケートされた仮想マシンが一度もアクティブにならない場合はパッシブモードになり、vmdk ファイルを持たない場合があります。
  ポリシーの[VMware 詳細属性 (VMware Advanced Attributes)]タブの[ディスクレス VM を無視する (Ignore diskless VMs)]オプションを有効にできます。このオプションが有効な場合: レプリケートされた (パッシブ) 仮想マシンに vmdk ファイルがない場合は、NetBackup は SRM 環境でその仮想マシンをバックアップしません。
- vmdk ファイルに差分ファイルが多すぎる

VMware スナップショットが発生するたびに、各 vmdk に delta.vmdk ファイルが作成されます。1 つの vmdk ファイルにこのような差分ファイルが 32 以上存在する場合、VM の NetBackup バックアップは失敗します（状態 156）。NetBackup アクティビティモニターのジョブの詳細に、次のようなメッセージが含まれることがあります。

```
02/06/2015 10:33:17 - Critical bpbrm (pid=15799) from
client fl5vm1_2012: FTL - vSphere_freeze: Unable to proceed
with
snapshot creation, too many existing delta files(44).
02/06/2015 10:33:17 - Critical bpbrm (pid=15799) from client
fl5vm1_2012: FTL - VMware_freeze: VIXAPI freeze (VMware
snapshot)
failed with 25: SYM_VMC_FAILED_TO_CREATE_SNAPSHOT
02/06/2015 10:33:17 - Critical bpbrm (pid=15799) from client
fl5vm1_2012: FTL - vfm_freeze: method: VMware_v2, type: FIM,
function: VMware_v2_freeze
```

VM のバックアップを作成するには、次の操作を実行してください。

- VM のスナップショットを統合します。
  VMware インターフェースで、VM を右クリックして、［スナップショット (Snapshot)］ > ［統合 (Consolidate)］を選択します。詳しくは、VMware のマニュアルを参照してください。
- VM の vmdk ファイルのそれぞれの差分ファイルの数が 32 未満であることを確認します。
  スナップショットの統合が失敗する場合は、次の VMware の記事を参照してください。
  http://kb.vmware.com/kb/1004545
- NetBackup バックアップを再実行します。

- VMware スナップショットの静止操作に失敗しました (VMware snapshot quiesce operation failed)
  NetBackup ポリシーで仮想マシンの静止（デフォルト）が有効な場合、vSphere での VMware スナップショット操作により仮想マシンの静止が開始されます。スナップショットの静止が失敗すると、NetBackup ジョブは状態 156 により失敗します。

- Enterprise Vault Agent の場合:
  『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- VSS を使う Windows Open File Backup スナップショットプロバイダの場合:
  次のいずれかのマニュアルでトラブルシューティングに関する項を参照してください。

- 『NetBackup for VMware 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』
- 『NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド』
- 『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』

VSS キャッシュファイルは VSS を使ってバックアップされるファイルの数に対して小さすぎる可能性があります。
bpbkar のデバッグログを有効にしている場合、バックアップに対する bpbkar のデバッグログに次のようなメッセージが表示されます。

```
8:51:14.569 AM: [1924.2304] <2> tar_base::V_vTarMsgW: ERR -
failure reading file: D:¥ test.file (WIN32 5: Access is denied.
)
8:51:14.569 AM: [1924.2304] <4> tar_base::V_vTarMsgW: INF - tar
message received from dos_backup::tfs_readdata
8:51:14.569 AM: [1924.2304] <2> tar_base::V_vTarMsgW: ERR -
Snapshot Error while reading test.file
8:51:14.569 AM: [1924.2304] <4> tar_base::V_vTarMsgW: INF - tar
message received from tar_backup::nextfile_state_switch
8:51:14.569 AM: [1924.2304] <2> tar_base::V_vTarMsgW: FTL -
Backup operation aborted!
8:51:14.569 AM: [1924.2304] <2> tar_base::V_vTarMsgW: INF -
Client completed sending data for backup
8:51:14.569 AM: [1924.2304] <2> tar_base::V_vTarMsgW: INF - EXIT
STATUS 156: snapshot error encountered
```

Windows 2003 のシャドウコピーの設定を使って VSS キャッシュサイズを増やすには、リストされている順序で次の操作を実行します。

- Windows で、[マイ コンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択します。
- コンソールツリーで[共有フォルダ]を右クリックし、[すべてのタスク]を選択し、[シャドウコピーの構成]を選択します。
- 変更を加えるボリュームを選択し、[設定]を選択します。
- [設定 (Settings)]ダイアログボックスで[最大サイズ (Maximum Size)]設定を[制限なし (No Limit)]または VSS のインストールおよび使用要件に適したサイズに変更します。

- (SnapVault を使用しているかどうかに関係なく) Snapshot Client および NAS_Snapshot 方式を使用したバックアップの場合:
  - バックアップが状態コード 156 で失敗した場合は、/usr/openv/netbackup/logs (UNIX) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows) の bpfis レガシーログを参照してください。bpfis ディレクトリが存在しない場合、bpfis ディレクトリを作成し、ジョブを再度実行する必要があります。
    必要に応じて、ログレベルを上げてジョブを再試行します。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「ログについて」を参照してください。

- Windows クライアントでは、NAS_Snapshot 方式で作成されたバックアップからファイルをリストアする場合、ローカルシステムアカウントではなく管理者アカウントで、NetBackup Client Service にログインします。そうでない場合、バックアップは失敗し、状態コード 156 が表示されます。
  - Windows の［サービス］で、［NetBackup Client Service］をダブルクリックします。
  - 次に、［ログオン (Log On)］タブを確認し、管理者としてサービスにログオンしていない場合は、サービスを停止します。
  - ログオンを管理者アカウントに変更して、サービスを再起動します。
  - リストアを再試行します。

- NetBackup Snapshot Client の他の問題の場合:
  - スナップショットソースとして指定したファイルシステムが、マウントされていません。この場合、/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
17:12:51 bpfis: FTL - snapshot creation failed, status 156
17:12:51 bpfis: INF - EXIT STATUS 156: snapshot error
encountered
```

/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログに次のようなメッセージが表示される場合もあります。

```
17:12:51 onlfi_vfms_logf: INF - cannot snap_on, err: 5
17:12:51 delete_mount_point: INF - Deleted mount point
/tmp/__jody_test:20958
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS error 11; see following
messages:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - Fatal method error
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - vfm_freeze: method: nbu_snap, type:

FIM, function: nbu_snap_freeze
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS method error 5; see following

message:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - nbu_snap_freeze: Cannot turn on
snapshot; snapshot source=/opt, cache=/dev/rdsk/c1t3d1s0, snap

error=5
17:12:51 onlfi_thaw: WRN - / is not frozen
```

スナップショットソースに指定したファイルシステムが、マウントされていることを確認します。

- スナップショットソースとして指定したファイルシステムが、実際の (このファイルへのシンボリックリンクではない) ファイルを含むファイルシステムと対応していません。マウントしたスナップショットソースのファイルシステムには、シンボリックリンクではなく、実際のファイルを含める必要があります。ファイルリスト内の /oracle などの項目が /export/home/oracle へのシンボリックリンクである場合、スナップショットソースには、/oracle ではなく、/export または /export/home を指定する必要があります。

- スナップショット方式として VxVM を選択しましたが、スナップショットソースは Veritas Volume Manager (VxVM) ボリュームで構成されていません。この場合、/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示される場合があります。

  ```
  17:12:51 bpfis: FTL - snapshot creation failed, status 156
  17:12:51 bpfis: INF - EXIT STATUS 156: snapshot error
  encountered
  ```

  /usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログに次のようなメッセージが表示される場合もあります。

  ```
  17:12:51 onlfi_vfms_logf: INF - vxvm_freeze: Snapshot source
  /cockpit1 on device /dev/dsk/c1t0d0s6 is not on a VxVM volume
  17:12:51 delete_mount_point:   INF - Deleted mount point
  /tmp/_cockpit1_coc_group1:3518
  17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS error 11; see following
  messages:
  17:12:51 onlfi_freeze: FTL - Fatal method error
  17:12:51 onlfi_freeze: FTL - vfm_freeze: method: vxvm, type:
  FIM, function: vxvm_freeze
  17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS method error 9; see following

  message:
  17:12:51 onlfi_freeze: FTL - vxvm_freeze: Snapshot source
  /cockpit1 on device /dev/dsk/c1t0d0s6 is not on a VxVM volume
  17:12:51 onlfi_thaw: INF - fim=vxvm
  17:12:51 onlfi_thaw: WRN - /cockpit1 is not frozen
  ```

  スナップショットソースを、Veritas Volume Manager (VxVM) ボリュームで構成していることを確認します。

- スナップショット方式として VxVM を選択しましたが、バックアップの作成前にスナップショットの作成元ボリュームの Veritas Volume Manager スナップショットミラーを作成していないか、または現在作成中の他のバックアップがこのスナップ

ショットミラーを使っています。いずれの場合も、/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS error 11; see following
messages:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - Fatal method error
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - vfm_freeze: method: vxvm, type:
FIM, function: vxvm_freeze
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS method error 3; see following

message:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - find_ready_snapshot: Cannot find
available snapshot mirror
```

バックアップを実行する前にクライアントでスナップショットミラーを作成する方法については、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

- スナップショット方式として VxVM を選択し、スナップショットソースボリュームの Veritas Volume Manager スナップショットミラーを作成しました。ただし、2 つの異なるバックアップジョブ (A と B) で、同じボリューム (たとえば、vol01) のバックアップが試行され、ジョブ B の開始前にジョブ A が開始されました。利用可能なスナップショットミラーが検出された後、スナップショットが作成されるまでには少し時間がかかります。ジョブ A でスナップショットが作成され、そのスナップショットのロックが取得される直前に、ジョブ A よりわずかに遅れて実行されたジョブ B でスナップショットミラーのスナップショットの作成が試行される場合があります。
この場合、/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS error 11; see following
messages:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - Fatal method error
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - vfm_freeze: method: vxvm, type:
FIM, function: vxvm_freeze
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS method error 3; see following

message:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - vxvm_freeze: Command failed with
status=11: /usr/sbin/vxassist -g rootdg snapshot vol01
VfMSCAAu7a4Uw </dev/null>/var/tmp/VfMSAAAs7a4Uw
2>/var/tmp/VfMSBAAt7a4Uw
```

ロックを取得できなかったジョブ (前述の例ではジョブ B) は失敗するため、再度実行する必要があります。

- スナップショット方式として nbu_snap を使用しているときに状態コード 156 が発生し、/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のメッセージが表示された場合、無効スナップショットが存在する可能性があります。(無効スナップショットとは、nbu_snap によって自動的に削除されなかったスナップショットです。)

```
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS error 11; see following
messages:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - Fatal method error
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - vfm_freeze: method: nbu_snap, type:

FIM, function: nbu_snap_freeze
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - VfMS method error 5; see following



message:
17:12:51 onlfi_freeze: FTL - nbu_snap_freeze: Cannot turn on
snapshot; snapshot source=/oracle/ufs_r,
cache=/dev/rdsk/c4t1d11s4,snap error=11
```

- 実行中の有効なバックアップが存在しないときに、/usr/openv/netbackup/bin/driver/snaplist コマンドを実行して、無効スナップショットを検索します。snaplist コマンドでキャッシュエントリが表示される場合、無効スナップショットが存在します。無効スナップショットが存在しない場合、何も表示されません。
  snaplist の出力例は、次のとおりです。

```
id  ident        size     cached    minblk     err time
43  6515    8390970    0          0          0  11/16/00
13:31:36
device = /dev/rdsk/c1t6d0s0
cache  = /dev/rdsk/c1t6d0s7
```

- snapoff コマンドを次のように実行して、無効スナップショットを削除します。

```
/usr/openv/netbackup/bin/driver/snapoff id
```

  id は、snaplist で出力された ID です (前述の例では 43)。

- スナップショット方式 VxFS_Checkpoint を使用したバックアップが失敗した場合、NetBackup の bpbkar プロセスによって自動的にクローンが削除されるはずです。ただし、bpbkar によってクローンが削除されない場合もあります。この場合、/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
15:21:45.716 [4236] <4> create_mount_point: INF - Created mount

point /tmp/_vtrax_test:4236
15:21:45.869 [4236] <2> onlfi_vfms_logf: INF - vxfs clone handle

: 9600344
15:21:45.870 [4236] <2> onlfi_vfms_logf: INF -
VxFS_Checkpoint_freeze: Cannot create checkpoint; status=17
15:21:45.872 [4236] <4> delete_mount_point: INF - Deleted mount

point /tmp/_vtrax_test:4236
15:21:45.873 [4236] <32> onlfi_freeze: FTL - VfMS error 11; see

following messages:
15:21:45.873 [4236] <32> onlfi_freeze: FTL - Fatal method error

was reported
15:21:45.873 [4236] <32> onlfi_freeze: FTL - vfm_freeze: method:

VxFS_Checkpoint, type: FIM, function: VxFS_Checkpoint_freeze
15:21:45.873 [4236] <32> onlfi_freeze: FTL - VfMS method error

17; see following message:
15:21:45.874 [4236] <32> onlfi_freeze: FTL -
VxFS_Checkpoint_freeze: Cannot create checkpoint; status=17
```

次の手順を実行して、クローンを削除します。

メモ: チェックポイントが削除されていない場合、チェックポイントがマウントされたファイルシステム内のデータのバックアップには VxFS_Checkpoint を使用できません。

- 次の VxFS コマンドを入力して、チェックポイントの名前を表示します。

  ```
  /usr/lib/fs/vxfs/fsckptadm list /file_system
  ```

  file_system は、チェックポイントをマウントしているファイルシステムの名前です。次に出力例を示します。この例では、`/vtrax_test` はファイルシステムで、`fi_ckpt` はチェックポイントの名前です。

  ```
  /vtrax_test
  fi_ckpt:
  ctime = Mon Nov 12 10:08:13 2001
  ```

```
mtime = Mon Nov 12 10:08:13 2001
flags = largefiles
```

- 次のコマンドを入力してチェックポイントを削除します。

  ```
  /usr/lib/fs/vxfs/fsckptadm remove checkpoint /file_system
  ```

- チェックポイントを削除できない場合は、チェックポイントをマウント解除し、この手順の最初のステップを再試行します。
- TimeFinder、ShadowImage、または BusinessCopy を使ったスナップショットバックアップが失敗する場合には、以前のバックアップの VxVM クローンが残っている可能性があります。/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示される場合があります。

  ```
  19:13:07.686 [14981] <2> onlfi_vfms_logf: INF - do_cmd: Command

  failed with status=20: /usr/openv/netbackup/bin/bpdgclone -g
  wil_test -n vol01 -f /var/tmp/HDSTFCAAs7aOqD </dev/null
  >/var/tmp/VfMSAAAq7aOqD 2>/var/tmp/VfMSBAAr7aOqD
  19:13:07.687 [14981] <2> onlfi_vfms_logf: INF - --- Dumping
  file
  /var/tmp/VfMSAAAq7aOqD (stdout):
  19:13:07.687 [14981] <2> onlfi_vfms_logf: INF - --- End of file

  /var/tmp/VfMSAAAq7aOqD
  19:13:07.687 [14981] <2> onlfi_vfms_logf: INF - --- Dumping
  file
  /var/tmp/VfMSBAAr7aOqD (stderr):
  19:13:07.687 [14981] <2> onlfi_vfms_logf: INF -     clone group

  and volume already exists
  19:13:07.688 [14981] <2> onlfi_vfms_logf: INF - --- End of file

  /var/tmp/VfMSBAAr7aOqD
  ```

  NetBackup は、ボリューム全体に構成したデータの TimeFinder、ShadowImage、または BusinessCopy のバックアップに対して VxVM クローンを自動的に作成します。バックアップが完了した後、VxVM クローンは NetBackup によって削除されます。この場合、システムのクラッシュまたは再起動によって、削除が行われないことがあります。次の手順を実行して、クローンを削除します。
  (バックアップ形式に応じて、クライアントまたは代替クライアント上で次の手順を実行します。)

- 実行中のバックアップが存在しないときに、次の VxVM コマンドを実行してクローンを表示します。`vxdg list`
  クローン名は、`clone_disk_group_clone` の形式です。
- 次のコマンドを入力して、クローンを削除します。

  ```
  /usr/openv/netbackup/bin/bpdgclone -g disk_group -n volume -c
  ```

  例:

  ```
  /usr/openv/netbackup/bin/bpdgclone -g wil_test -n vol01 -c
  ```

  `wil_test` はディスクグループの名前で、`volo1` は VxVM ボリュームの名前です。
  VxVM クローンの削除方法について詳しくは、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。`vxdg` については、『Veritas Volume Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- バックアップを再度実行する前に、プライマリディスクとセカンダリディスクを再同期化します。詳しくは、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
- FlashSnap または VVR を使用したスナップショットバックアップが失敗する場合、以前のバックアップにおける VxVM のスナップショットが残っている可能性があります。`/usr/openv/netbackup/logs/bpfis` ログ内に次のようなメッセージが表示される場合があります。

  ```
  14:41:15.345 [22493] <32> onlfi_freeze: FTL - VfMS error 11;
  see
  following messages:
  14:41:15.345 [22493] <32> onlfi_freeze: FTL - Fatal method error

  was reported
  14:41:15.345 [22493] <32> onlfi_freeze: FTL - vfm_freeze_commit:

  method: FlashSnap, type: FIM, function: FlashSnap_freeze_commit
  14:41:15.345 [22493] <32> onlfi_freeze: FTL - VfMS method error

  8; see following message:
  14:41:15.345 [22493] <32> onlfi_freeze: FTL -
  vxvm__find_ready_snapshot: Cannot find available snapshot mirror
  ```

  NetBackup では、ボリュームをまたいで構成されたデータのバックアップに対して VxVM のスナップショットが自動的に作成されます。バックアップが完了した後、VxVM のスナップショットは NetBackup によって削除されます。この場合、シス

テムのクラッシュまたは再起動によって、削除が行われないことがあります。次の手順を実行して、スナップショットを削除します。

FlashSnap の場合:

(バックアップ形式に応じて、クライアントまたは代替クライアント上で次の手順を実行します。)

- VxVM ディスクグループを検索します。

```
vxdg list
```

ディスクグループ名の形式は、次のとおりです。

*primaryhost_diskgroup*_split

vxdg list によってディスクグループが表示されない場合は、グループがデポートされた可能性があります。次のコマンドを入力すると、デポートしたグループも含めてすべてのディスクグループを検出できます。

```
vxdisk -o alldgs list
```

カッコ内に表示されるディスクグループは、ローカルシステムにインポートされません。

- VxVM ディスクグループをデポートします。

```
vxdg deport primaryhost_diskgroup_split
```

プライマリ (元の) クライアント上で、次のコマンドを入力します。

- VxVM ディスクグループをインポートおよび結合します。

```
vxdg import primaryhost_diskgroup_split
vxrecover -g primaryhost_diskgroup_split -m
vxdg join primaryhost_diskgroup_split diskgroup
```

- ボリュームを起動し、スナップショットボリュームに対してスナップバック操作を行います。

```
vxvol -g primaryhost_diskgroup_split start
SNAP_diskgroup_volume
vxassist snapback SNAP_diskgroup_volume
```

VVR の場合 (代替クライアント上):

- 次のように入力して、非同期のミラーディスクを表示します。

```
vxprint -g diskgroup
```

- 次のように入力して、ミラーディスクを再同期化します。

```
vxassist -g diskgroup -v volume snapback
```

- VxFS_Checkpoint などのスナップショット方式を使って Veritas File System (VxFS) をバックアップする場合は、VxFS ライセンスが期限切れになっているとバックアップは失敗します。/usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示されます。

```
11:37:42.279 [24194] <2> onlfi_vfms_logf: INF -
VxFS_Checkpoint_freeze: Cannot open checkpoint; status=100
11:37:42.283 [24194] <4> delete_mount_point: INF - Deleted mount

point /tmp/_vrts_frzn_img__test1_24194
11:37:42.283 [24194] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - VfMS error

11; see following messages:
11:37:42.283 [24194] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - Fatal
method error was reported
11:37:42.284 [24194] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - vfm_freeze:

method: VxFS_Checkpoint, type: FIM, function:
VxFS_Checkpoint_freeze
11:37:42.284 [24194] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - VfMS method

error 100; see following message:
11:37:42.284 [24194] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL -
VxFS_Checkpoint_freeze: Cannot open checkpoint; status=100
```

  新しい VxFS ライセンスを入手して、バックアップを再試行します。

- バックアップが、VxVM または VVR のいずれかのスナップショット方式とともに、インスタントリカバリに対して有効になっている場合、VxVM ミラーは適切に構成されないことがあります。この場合、クライアント上の /usr/openv/netbackup/logs/bppfi ログ内に次のメッセージが表示されることがあります (詳細モードの値が高く設定されている場合)。

```
13:43:39.095 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF - Executing
command:
13:43:39.095 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF -
/usr/sbin/vxprint -g rootdg -q -t -e 'assoc="pfi_concat"'
</dev/null >/var/tmp/VfMSAA Arja4.F 2>/var/tmp/VfMSBAAsja4.F
13:43:39.215 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF -
pfi_find_snapdone: 0 SNAPDONE plexes found

13:43:39.215 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF - Executing
```

```
command:
13:43:39.215 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF -
/usr/sbin/vxassist -g rootdg snapprint pfi_concat  </dev/null
>/var/tmp/VfMSAAArja4.F 2>/var/tmp/VfMSBAAsja4.F
13:43:39.512 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF - 0 active plexes

for /rootdg/pfi_concat:  0 are PFI  0 non-PFI
13:43:39.512 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF -
pfi_find_active.3309: exiting with VXVM_E_SYS = 3
13:43:39.512 [16375] <2> onlfi_vfms_logf: INF -
pfi_snapshot.3866: No PFI snapshot. err= 3
```

『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』のインスタントリカバリに関する章の説明に従って、VxVM ミラーを構成します。

- VxFS_Checkpoint スナップショット方式を使用する際、クライアントのファイルシステムで Storage Checkpoint 機能を使用したマウント可能なチェックポイントがサポートされていない場合、バックアップは失敗します。
  /usr/openv/netbackup/logs/bpfis ログ内に次のようなメッセージが表示されます。

```
14:54:27.530 [23563] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - VfMS error

11; see following messages:
14:54:27.530 [23563] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - Fatal
method error was reported
14:54:27.530 [23563] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - vfm_freeze:

method: VxFS_Checkpoint, type: FIM, function:
VxFS_Checkpoint_freeze 14:54:27.531 [23563] <32>
onlfi_freeze_fim_fs: FTL - VfMS method error 2; see following
message:
14:54:27.531 [23563] <32> onlfi_freeze_fim_fs: FTL - open_ckpt:

Cannot open checkpoint on /mnt_vxvm/2G_concat :
fsckpt_get_api_version returns 1; mountable checkpoints not
supported with this version
```

  次のいずれかを実行します。

  - マウント可能な VxFS Storage Checkpoint をサポートするバージョンにクライアントのファイルシステムをアップグレードします。
  - クライアントの現在のファイルシステムをサポートするスナップショット方式を使用してポリシーを構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 157

メッセージ: 管理者から一時停止が要求されました (suspend requested by administrator)

説明: 状態コード 157 は、管理者がアクティビティモニターからジョブを一時停止したことを示す通知メッセージです。ジョブは、アクティビティモニターで一時停止状態として表示されます。管理者は、最後のチェックポイントからこのジョブを再開することができます。

推奨処置: 管理者は、アクティビティモニターで、最後のチェックポイントからジョブを再開することができます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 158

メッセージ: デーモンロックファイルのアクセスに失敗しました (failed accessing daemon lock file)

説明: システムコールからのエラーが受信されたため、プロセスでロックファイルをロックできません。このロックファイルによって、プロセスの動作の同期化を行います (たとえば、複数のデーモンが同時に実行されることを防ぎます)。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup エラーログを調べて、システムコールが失敗した原因を判断します。その後、問題を修正します。権限に問題がある可能性もあります。
- エラーログにエラーが表示されない場合、`bprd` または `bpdbm`(エラーが発生したプロセスによって異なる) のデバッグログディレクトリを作成します。`nbpem`、`nbjm` または `nbrb` でエラーが発生した場合は、統合ログレベルを上げます。次の項で説明するとおり、`vxlogcfg` コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 159

メッセージ: ライセンスを受けた使用範囲を超えています (licensed use has been exceeded)

説明: 構成の制限を超えました。

たとえば、次を指定するポリシーが設定されている場合、ジョブは失敗し、このエラーコードが表示されます。

- SAN メディアサーバー上にあるストレージユニット
- SAN メディアサーバー以外のクライアント

SAN メディアサーバーでは、それ自体のバックアップしか行うことができません。

この状態コードは、[オンデマンドのみ (On demand only)] が選択されていないために、SAN メディアサーバー上でのストレージユニットの作成が失敗した場合に表示されます。SAN メディアサーバー上のストレージユニットを指定する場合は、[オンデマンドのみ (On demand only)] が選択されている必要があります。

推奨処置: 実行したコマンドの NetBackup の [すべてのログエントリ (All Log Entries)] レポートを調べて、エラーの原因を判断します。また、アクティビティモニターの詳細ペインには、情報メッセージが表示されます。

SAN メディアサーバーのストレージユニットでジョブが失敗した場合、ローカルクライアントだけがポリシー内で指定されていることを確認します。リモートクライアントがポリシーで指定されている場合、リモートクライアントを削除し、異なるストレージユニットを指定するポリシーに置き換えるか、そのポリシーのストレージユニットを変更します。

SAN メディアサーバーを使用してリモートクライアントのバックアップを行う場合、通常の NetBackup メディアサーバーのライセンスを購入できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 160

メッセージ: 認証に失敗しました (authentication failed)

説明: 次のいずれかが発生しています。

- 2 つのシステムが相互に認証しようとしています。
- 認証ライブラリの初期化に失敗しました。
- 認証デーモンへの通信 (`nbatd`) が失敗しました。
- 保存されたクレデンシャルの認証が失敗しました。

推奨処置: 以下の操作を必要に応じて記載されている順序で行ってください。

- 削除した名前を再度追加して、操作を再試行します。
- NetBackup システム間の認証に関連するプロセスに以下のデバッグログディレクトリを作成します。
  - サーバー: `bprd`、`bpdbm`、`bpcd`。
  - クライアント: `bpbackup`、`bprestore`、`bpbkar`。

操作を再試行し、ログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 161

メッセージ: 評価版ソフトウェアの使用期限が切れました。(Evaluation software has expired.)

説明: 評価版の NetBackup ソフトウェアの使用期間が終了しました。

この製品のお求めについては、Web サイト www.veritas.com を参照してください。

推奨処置: ライセンス製品版の NetBackup を入手します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 162

メッセージ: ライセンスに対するサーバープラットフォームが不正です (incorrect server platform for license)

説明: ライセンスキーのプラットフォーム識別子が、ライセンスキーがインストールされているプラットフォームの種類と一致しません。

推奨処置: インストールするプラットフォーム用のライセンスキーを使用していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 163

メッセージ: 再開する前に、メディアブロックサイズが変更されています (media block size changed prior resume)

説明: 状態コード 163 は通知メッセージです。この状態コードは、最後のチェックポイントからバックアップジョブを再開する前にメディアのブロックサイズが変更されたことを示します。メディアのブロックサイズの一貫性を保つ必要があるため、そのジョブは最初から再度実行されました。

推奨処置: アクティビティモニターの[ジョブの詳細 (Job Details)]で、再度実行されたジョブの ID を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 164

メッセージ: 停止しているドライブ内にあるか、または不適切な場所に配置されているため、メディアをマウントできません (unable to mount media because it is in a DOWN drive, misplaced, or otherwise not available)

説明: リストアが試行されましたが、リストアに必要なボリュームがロボット内の停止状態のドライブに存在していました。または、ボリュームが存在する必要があるスロットが空でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ボリュームが停止状態のドライブに存在する場合、ボリュームを取り外して、指定したスロットに配置します。その後、リストアを再試行します。
- ボリュームが不適切なスロットに存在する場合、ロボットインベントリオプションを使用して、ロボットの内容とボリューム構成を一致させます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 165

メッセージ: NetBackup イメージデータベースに、要求されたバックアップ ID/ コピー番号に対するイメージフラグメントが含まれていません (NB image database contains no image fragments for requested backup id/copy number)

説明: リストアが試行されましたが、ファイルが含まれるバックアップ ID に関連付けられたフラグメントのレコードが NetBackup に存在しません。

推奨処置: NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdm または bptm のいずれか (該当する方) のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 166

メッセージ: メディアをまたがったバックアップは実行できません (backups are not allowed to span media)

説明: バックアップイメージの書き込み中に、メディアの最後 (EOM) に達しました。bp.conf (UNIX の場合) またはレジストリ (Windows の場合) に、NetBackup の DISALLOW_BACKUPS_SPANNING_MEDIA オプションが存在するため、バックアップは終了しました。bp.conf で表示される NetBackup のグローバル属性構成の[バックアップ試行

(backup tries)]属性で許可されている場合、バックアップは自動的に別のボリュームで再試行されます。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 167

メッセージ: EMM データベースで、要求されたボリュームプールが見つかりません (cannot find requested volume pool in EMM database)

説明: 非ロボットドライブへのバックアップが試行されましたが、指定されたボリュームプールが Tape Manager (bptm) によって検出または追加できません。

推奨処置: メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成を確認します。NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 168

メッセージ: メディアを上書きできません。データが保護されています (cannot overwrite media, data on it is protected)

説明: 上書きできないボリューム (NetBackup がデフォルトで上書きできないデータを含むため) に対してバックアップを試行しました。(このようなデータには、tar、cpio および ANSI が含まれます。)

推奨処置: 新しいボリュームと交換するか、NetBackup の ALLOW_MEDIA_OVERWRITE オプションを適切な値に設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 169

メッセージ: メディア ID は期限切れか、または最大マウント数を超えています (Media ID is either expired or will exceed maximum mounts)

説明: バックアップまたはカタログバックアップが試行されましたが、使用するように選択されたボリュームは、最大マウント数に達しています。この最大数は、メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成で指定されています。通常のバックアップの場合、ボリュー

ムは自動的に一時停止状態に設定され、今後のバックアップでそのボリュームは使用されません。NetBackup カタログバックアップの場合、操作が異常終了します。

推奨処置: ボリュームが一時停止された場合、ボリュームの期限が切れたら交換します。NetBackup カタログバックアップの場合、メディアを交換します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 170

メッセージ: サードパーティコピーのバックアップの失敗 (third party copy backup failure)

説明: 通常、このコードは、3pc.conf ファイルまたは mover.conf ファイルに問題があることを示します。(原因について詳しくは、「推奨処置」を参照。)

これらのファイルについて詳しくは、オンラインマニュアル『NetBackup Snapshot Client Configuration』を参照してください。

このマニュアルにアクセスする方法については、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』の Snapshot Client の補足情報を参照してください。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サードパーティコピーデバイス以外のデバイスが 3pc.conf ファイルに記載されている場合、サードパーティコピーデバイス以外のデバイスのエントリを修正するか、削除します。
- 不適切な LUN が 3pc.conf ファイルに指定されているか、またはデバイスが存在しない場合は、3pc.conf ファイルを適切に修正します。
- 適切な mover.conf ファイル (拡張子あり、またはなし) が検出されなかった場合は、/usr/openv/netbackup/logs/bptm のログに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

  ```
  09:51:04 [22281] <2> setup_mover_tpc: no
  mover.conf.vertex_std_tpc or mover.conf file exists, cannot
  perform TPC backup
  09:51:04 [22281] <16> bptm: unable to find or communicate with
  Third-Party-Copy mover for policy vertex_std_tpc
  ```

  適切な mover.conf ファイルが、メディアサーバーの /usr/openv/netbackup 内に存在することを確認します。このファイルは、次のいずれかです。

  - mover.conf.*policy_name* ファイル。*policy_name* は、ポリシー名と完全に一致します。
  - mover.conf.*storage_unit_name* ファイル。*storage_unit_name* は、[バックアップポリシーの管理 (Backup Policy Management)] ダイアログボックスにあるポリシー属性のストレージ名 (nut-4mm-robot-tl4-0 など) と完全に一致します。

- mover.conf ファイル (拡張子なし)。1 つのサードパーティコピーデバイスだけが存在する構成の場合。

NetBackup では、この順序で、適切な mover.conf ファイルが検索されることに注意してください。

- mover.conf ファイルに入力されたサードパーティコピーデバイスの SCSI パススルーパスが存在しない場合は、bptm ログに次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
09:50:12 [22159] <16> setup_mover_tpc: open of passthru path
/dev/sg/cXtXlX failed, No such file or directory
09:50:12 [22159] <16> bptm: unable to find or communicate with
Third-Party-Copy mover for policy vertex_std_tpc
```

mover.conf ファイルに入力するサードパーティコピーデバイスの SCSI パススルーパスを修正します。

- サードパーティコピーデバイスによって、エラーが戻される場合は、/usr/openv/netbackup/logs/bptm のログに、次のいずれかのメッセージが表示されることがあります。

```
cannot process extended copy error due to truncated sense data,
may be HBA problem
disk error occurred on extended copy command, key = 0x0, asc =
0x0, ascq = 0x0
```

(ここで、key、asc および ascq はすべて 0 (ゼロ) です)
この場合、ご使用のホストバスアダプタ (HBA) およびそのドライバを更新する必要があるか、これらが NetBackup Snapshot Client でサポートされていない可能性があります。サポートされているホストバスアダプタが表示されます。
『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 171

メッセージ: メディア ID は 6 文字以下である必要があります (media ID must be 6 or less characters)

説明: メディア ID を一時停止するか、または凍結する操作 (bpmedia など) を試行しました。メディア ID は 6 文字より長い英数字です。

推奨処置: 有効なメディア ID を使用して、コマンドを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 172

メッセージ: メディアヘッダーを読み込めません。NetBackup のメディアでないか、メディアが破損している可能性があります (cannot read media header, may not be NetBackup media or is corrupted)

説明: バックアップまたはリストアを行うためにボリュームをロードしたとき、想定されたテープヘッダーが Tape Manager (bptm) によって検出されませんでした。このエラーは、ロボットデバイスのボリュームが、メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成で示されたスロット番号内に存在しないことを示す場合があります。また、読み込みエラー (I/O エラー) が発生したことを示す場合もあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- バーコードがサポートされているロボット内にボリュームが存在する場合、ロボットインベントリオプションを使用して、ロボットの内容を検証します。
- ボリュームを非ロボットドライブにマウントした場合、適切なボリュームのマウントおよび割り当てが行われていることを確認します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認します。重大な読み込みエラーが通知されている場合、可能であれば、他のドライブを使用して操作を再試行します。
- 構成内に、テープサービスにアクセスする複数のサーバーまたは HBA が存在する場合、SCSI RESERVE/RELEASE が正しく構成されていることを確認します。(多くの場合、テープサービスの構成は SSO 構成です。)
  ストレージサーバーについて詳しくは、次の場所から利用可能な『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。
  http://www.veritas.com/docs/DOC5332

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 173

メッセージ: バックアップヘッダーを読み込めません。メディアが破損している可能性があります (cannot read backup header, media may be corrupted)

説明: リストアを行うバックアップイメージの検索中、NetBackup によって想定されたメディア上の位置で、Tape Manager (bptm) によって正しいバックアップ ID が検出されません。この状態コードは、ドライブのハードウェア上の問題を示す場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- エラーが発生した原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。
- 可能な場合、他のドライブでリストアを試行します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 174

メッセージ**:** Media Manager - システムエラーが発生しました (media manager - system error occurred)

説明**:** 異常な状態が発生したため、Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) でエラーが発生しました。

UNIX で、NetBackup がスナップショットのコピーのために生成するファイルリストに NetBackup の tar コピーからリストアするべき十分な情報がないことがあります。たとえば、ブロック番号の情報は NetBackup の tar のコピーがまだ作成されていないので正しくありません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで、問題の原因が表示されているかどうかを確認します。［問題］レポートに次のようなメッセージが表示される場合、すべてのログを保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) ベリタステクニカルサポートに連絡してください。

  ```
  attempted to write 32767 bytes, not a multiple of 512
  ```

- UNIX で、このエラーがリストア中に発生した場合、テープドライブの構成が不適切である可能性があります。また、可変長モードで書き込む必要があるときに固定長モードで書き込むようにドライブが構成されている可能性があります。
  ドライブの構成を『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』で推奨する構成と比較し、検証します。
  構成で固定長モードを誤って指定している場合、可変長モードに変更し、そのデバイスで書き込まれたメディアを一時停止します。これらのメディアに書き込まれたイメージは、リストア可能である場合があります (プラットフォームに依存します)。ただし、1 つのファイルだけをリストアしようとしても、失敗する可能性が高くなります。

- 問題が特定の 1 つのクライアントで発生する場合、クライアントのバイナリ (特に bpcd のバイナリ) が適切であることを確認します。

- そのメディア上で、他のイメージの読み込みまたは書き込みが可能である場合、次のレポートで情報を確認します。
  - ［メディア上のイメージ (Images on Media)］レポート
  - ［メディアの内容 (Media Contents)］レポート

- 次のことを検証します。
  - メディア (NetBackup イメージ検証オプションを使用)。
  - デバイスに対して適切なメディア形式を使用していること。
- システムログまたはコンソールログでエラーを確認するか (UNIX の場合)、イベントビューアのアプリケーションログを確認します (Windows の場合)。
- 詳細なデバッグ情報を入手するには、bptm または bpdm のいずれか (該当する方) のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。
  UNIX の場合、bptm のデバッグログに次のようなエラーが表示された場合、可変長モードの代わりに固定長モードで書き込むようにテープドライブが構成されている可能性があります。

  ```
  00:58:54 [2304] <16> write_data: write of 32768 bytes indicated
  only 29696 bytes were written, errno = 0
  ```

  書き込み中のイメージでメディアの最後 (EOM) に達しています。
- バックアップが OpenStorage ディスクストレージユニットで構成されていた場合、ストレージユニットのメディアサーバーリストに、OpenStorage ベンダーのプラグインがインストールされていないメディアサーバーが含まれる可能性があります。ベンダーのプラグインをすべてのメディアサーバーにインストールするか、またはプラグインがインストールされていないサーバーをリストから削除します。
- UNIX でリストア中にこのエラーが発生した場合は、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] のクライアントコンソールを更新し、リストアを再試行します。この処理はクライアントコンソールに表示されるファイルリストを更新し、選択したファイルについての正しい情報を渡します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 175

メッセージ: 要求されたすべてのファイルがリストアされたわけではありません (not all requested files were restored)

説明: イメージからのファイルのリストアを実行中、bptm または bpdm プロセスで重大なエラー状態が検出され、リストアが完了前に終了されました。このエラーは、通常の状況では発生しません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の [問題 (Problems)] レポートおよびクライアントの状態ログまたは進捗ログを調べて、エラーに関する追加情報を確認します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm または bpdm のいずれか (該当する方) のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 176

メッセージ**:** 指定されたメディアのインポート操作を実行できません (cannot perform specified media import operation)

説明**:** 特定のバックアップイメージのインポートを試行したときに、Tape Manager (bptm) でエラー状態が検出されました。

考えられる原因は、次のとおりです。

- サーバーの NetBackup メディアカタログでメディア ID がすでに有効である。
- ボリューム構成内にメディア ID が存在しない。
- 重大な Tape Manager (bptm) エラーが発生した。
- インポートのフェーズ 1 から全体のイメージが取得されなかった。
- バーコードとメディア ID がボリュームデータベースで一致しない。不一致の原因の 1 つとして、以前に異なるバーコードで書き込まれたテープを使った場合、ラベルが新しいバーコードラベルを使って ACSLS ライブラリに配置されていることが考えられます。もう 1 つの原因としては、管理者が (vmchange を使って) RVSN と一致するようにメディア ID フィールドを変更しようとしたことが考えられます。インベントリが更新されるときに、バーコードとメディア ID は同期化されます。

推奨処置**:** NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認して、失敗の正確な原因を判断し、次の操作を試行します。

- メディア ID がすでに有効である場合、元のメディア ID 上のすべてのイメージを別のボリュームに複製します。その後、手動で元のメディアを期限切れにして、インポートを再度実行します。
- ボリューム構成内にメディア ID が存在しない場合、メディア ID を追加します。
- bptm に重大なエラーが発生した場合、UNIX の NetBackup Volume Manager (vmd) または Windows の NetBackup Volume Manager が実行中であることを確認します。
- 全体のイメージが存在しない場合、残りのイメージを含むメディア ID でインポートのフェーズ 1 を実行します。
- バーコードとメディア ID が一致しない場合、記録されたメディア ID に一致するバーコードラベルを使用します。AVRD が実行されているドライブにテープをマウントして、

記録されたメディア ID を表示できます。その後、そのラベルを持つバーコードをテープに配置する必要があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 177

メッセージ: Media Manager エラーのためメディアの割り当てを解除できませんでした (could not deassign media due to Media Manager error)

説明: Tape Manager (bptm) で、メディア ID の割り当てを正常に解除できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで、問題の原因を確認します。
- UNIX の NetBackup Volume Manager (vmd) または Windows の NetBackup Volume Manager サービスが実行中であることを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 178

メッセージ: メディア ID は NetBackup ボリュームプールにありません (Media ID is not in NetBackup volume pool)

説明: NetBackup によって NetBackup カタログのバックアップが試行されましたが、NetBackup ボリュームプール内に、カタログバックアップ用に指定されたメディア ID が存在しませんでした。カタログバックアップ用のボリュームは、NetBackup ボリュームプール内に存在する必要があります。

推奨処置: メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成を調べて、メディア ID が NetBackup ボリュームプール内に存在することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 179

メッセージ: メディア ID の密度が不正です。(density is incorrect for the media id)

説明: ［メディアの内容 (Media Contents)］などの操作が、無効なメディア ID (クリーニングテープなど) で試行されました。または、NetBackup カタログバックアップ構成内の

メディア ID が、ボリューム構成内に入力されているメディア形式と一致しない可能性があります。

推奨処置: ボリューム構成および NetBackup カタログバックアップ構成を確認して、検出された問題を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 180

メッセージ: tar は正常に終了しました (tar was successful)

説明: `tar` から正常な終了状態が戻されました。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 181

メッセージ: tar において無効な引数を受信しました (tar received an invalid argument)

説明: `tar` に渡されたいずれかのパラメータが無効でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントの場合:
  - `/usr/openv/netbackup/bin` 内の `nbtar` コマンドが、NetBackup によって提供されているコマンドであることを確認します。 不明な場合、コマンドを再インストールします。
  - クライアントの `/usr/openv/netbackup/bin/version` を確認して、クライアントで適切なバージョンのソフトウェアを実行していることを確認します。 ソフトウェアのバージョンが適切でない場合、『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』の指示に従ってソフトウェアを更新します。
- Windows クライアントの場合、`tar` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行し、ログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 182

メッセージ: tar において無効なファイル名を受信しました (tar received an invalid file name)

説明: -f パラメータで指定されたファイルに tar で書き込めません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
- Windows クライアントの場合、tar のデバッグログディレクトリを作成します。
- クライアントのログレベルを上げます。
  - UNIX クライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。
  - PC クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再度実行して、デバッグログの結果で tar に渡されたパラメータを確認し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 183

メッセージ: tar において無効なアーカイブを受信しました (tar received an invalid archive)

説明: tar に渡されたデータが破損していました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントに問題がある場合、クライアントに /usr/openv/netbackup/logs/tar のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再度実行します。
  - tar のデバッグログファイルで、問題を説明するエラーメッセージを確認します。
  - クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。
  - 問題の調査が終了したら、クライアントの /usr/openv/netbackup/logs/tar ディレクトリを削除します。
- Microsoft Windows クライアントに問題がある場合は、次の操作を順番に実行します。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - Windows クライアントの場合、tar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

- 操作を再度実行して、デバッグログの結果を確認します。
- クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 184

メッセージ: tar において予期しないエラーが発生しました (tar had an unexpected error)

説明: `tar` でシステムエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントに問題がある場合、クライアントに `/usr/openv/netbackup/logs/tar` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再度実行します。
  - `tar` のデバッグログファイルで、問題を説明するエラーメッセージを確認します。
  - クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。
  - 問題の調査が終了したら、クライアントの `/usr/openv/netbackup/logs/tar` ディレクトリを削除します。
- Microsoft Windows クライアントに問題がある場合、次のように実行します。
  - クライアントに、`bpcd` のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - Windows クライアントの場合、`tar` のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
  - クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 185

メッセージ: tar では、リストアするすべてのファイルが見つかりませんでした (tar did not find all the files to be restored)

説明: `tar` ファイルリストに、イメージ内に存在しないファイルが含まれていました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントに問題がある場合、次のように実行します。

- クライアントに /usr/openv/netbackup/logs/bpcd ディレクトリを作成して、bpcd のデバッグログを有効にします。
- 操作を再度実行して、bpcd のログファイルの結果で nbtar に渡されたパラメータを確認し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

- Microsoft Windows クライアントに問題がある場合、次のように実行します。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - Windows クライアントの場合、tar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 操作を再試行します。
  - デバッグログの結果で tar に渡されたパラメータを確認し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 186

メッセージ**:** tar においてデータを受信していません (tar received no data)

説明**:** NetBackup によって、tar にデータが送信されませんでした。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 操作を再試行して、クライアントの状態または進捗ログを調べ、問題を示すエラーメッセージを確認します。
- テープが利用可能で、読み込み可能であることを確認します。
- ドライブが起動状態であることを確認します。デバイスモニターを使用します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、次のように実行します。
  - サーバーに bptm のデバッグログを作成します。
  - Windows クライアントの場合、tar のデバッグログを作成します。
  - 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 189

メッセージ: サーバーはクライアントのファイルシステムへの書き込みを許可されていません (the server is not allowed to write to the client's filesystems)

説明: クライアントで、サーバーからの書き込みが許可されていません。

推奨処置: 次の操作を実行してリストアを行うか、サーバーからソフトウェアをインストールします。

- UNIX クライアントの場合、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルから DISALLOW_SERVER_FILE_WRITES を削除します。
- Microsoft Windows クライアントの場合は、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[一般 (General)]タブで[サーバー主導リストアを許可する (Allow server-directed restores)]を選択します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 190

メッセージ: 選択条件に一致するイメージまたはメディアが見つかりません (found no images or media matching the selection criteria)

説明: 検証、複製またはインポートが試行されましたが、検索条件と一致するイメージが NetBackup カタログ内で検出されませんでした。

推奨処置: 検索条件を変更して、再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 191

メッセージ: 正常に処理されたイメージはありませんでした (no images were successfully processed)

説明: 次のいずれかの状態が発生しています。

- 検証、複製、自動イメージレプリケーション、自動インポートまたはインポートが試行されましたが、選択されたすべてのイメージで失敗しました。
- STS_EFILESYSTEM エラーコードに BasicDisk または AdvancedDisk の (error 2060063) が表示される場合は、ファイルシステムを正しく構成していません。NTFS ファイルシステムのアロケーションユニットサイズは、BasicDisk または AdvancedDisk

のデータを書き込むには小さすぎます。または、NetBackup に設定した最大フラグメントサイズが大きすぎます。

- バックアップまたは複製ジョブが、25 よりも大きい保持レベルで構成され、ポリシーに指定されたストレージユニットが、NetBackup 8.0 以前の NetBackup のバージョンを実行するメディア サーバーによって管理されている場合、ポリシーに関連付けられているバックアップジョブは失敗します。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで、エラーの原因を確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、`admin` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。
- 25 より大きい保持レベルが構成されているポリシーのバックアップまたは複製ジョブが失敗した場合は、メディアサーバーを NetBackup 8.0 以降にアップグレードするか、保持レベルを 0 から 25 の間に設定します。レベル 25 の保持期間は常にすぐに期限が切れるように設定されていて、この値は変更できないことに注意してください。
- バックアップの複製中にエラーが発生した場合は、複製の進捗ログを確認し、問題の原因を判断してください。
- 自動イメージレプリケーションジョブでこのエラーが発生することがあります。ストレージライフサイクルポリシーの名またはデータ分類が、要求元のドメインおよびターゲットドメインと一致しない場合、インポートジョブは失敗します。インポートがターゲットマスターサーバーで実行されている場合、失敗したインポートの情報が［問題 (Problems)］レポートに表示されます。イメージは期限切れになり、カタログクリーンアップ時に削除されます。元のドメインでは失敗したインポートは追跡されないことに注意してください。

  この問題のトラブルシューティングについての詳細情報を参照できます。

  この問題のトラブルシューティングについて詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』で自動イメージレプリケーションのトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- 自動インポートジョブは、このエラーを引き起こすことがあります。このジョブは、ストレージライフサイクルポリシーの名前を示すインポートジョブです。

  この問題のトラブルシューティングについての詳細情報を参照できます。

  この問題のトラブルシューティングについて詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』で自動イメージレプリケーションのトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- 複製を実行する Vault ジョブでエラーが発生した場合、次の `sidxxx` ディレクトリにある duplicate.log ファイルを確認し、問題の原因を判断してください。

  UNIX:
  `/usr/openv/netbackup/vault/sessions/`*`vault_name`*`/sidxxx`

```
Windows:
install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx
```

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

- このファイルシステムに書き込むストレージユニットの最大フラグメントサイズを減らします。この値は通常、20 GB 未満です。ただし、STS_EFILESYSTEM エラーが起きなくなるまで必要に応じて最大フラグメントサイズの調整が必要な場合もあります。値は、ストレージユニットがイメージに書き込むデータ量に基づきます。

  この値を変更するには、[NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)]の左ペインで[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ストレージ (Storage)]を展開します。右ペインで、このファイルシステムのストレージユニットをダブルクリックします。[ストレージユニットの変更 (Change Storage Unit)]ダイアログボックスで[フラグメントサイズの縮小 (Reduce fragment size)]チェックボックスを確認し、新しい値を入力して最大断片化サイズの値を 20480 MB (20 GB) に変更します。

- ファイルシステムを再構成してアロケーションユニットのサイズを増やします。通常、サイズを増やすにはファイルシステムをフォーマットする必要があるので、この処理は既存のファイルシステムには適さないことがあります。BasicDisk イメージまたは AdvancedDisk イメージ用に新しいファイルシステムを作成するときにこの処理を検討してください。この値の設定は各 OS ファイルシステムによって異なるので、手順については適切な OS またはファイルシステムのマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 192

メッセージ**:** VxSS 認証が必要ですが、利用できません (VxSS authentication is required but not available)

説明**:** NetBackup ネットワーク接続の一端にあるシステムでは、VxSS 認証が必要です。接続のもう一端にあるシステムは、VxSS を使用するように構成されていません。VxSS 認証は、NetBackup アクセス制御機能 (NBAC) で使用されます。VxSS 認証を完了できなかったため、接続が切断されました。

推奨処置**:** 両方のシステムが相互に NetBackup アクセス制御機能の VxSS 認証を使用するように構成されていることを確認します。または、両方のシステムが相互に VxSS を使用しないように構成されていることを確認します。最初に、[アクセス制御 (Access Control)]プロパティダイアログボックスで、各システムの[Veritas Security Services (VxSS)]の値を確認します。一方が[必須 (Required)]に構成されている場合は、もう一方を[必須 (Required)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。一方が[禁止 (Prohibit)]に構成されている場合は、もう一方を[禁止 (Prohibit)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。

アクセス制御機能関連のホストのプロパティを設定する方法、およびアクセス制御機能を使用したシステムの構成方法については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 193

メッセージ: VxSS 認証が要求されましたが、許可されていません (VxSS authentication is requested but not allowed)

説明: NetBackup ネットワーク接続の一端にあるシステムでは、VxSS 認証が必要です。接続のもう一端にあるシステムは、VxSS を使用するように構成されていません。VxSS 認証は、NetBackup アクセス制御機能 (NBAC) で使用されます。VxSS 認証を完了できなかったため、接続が切断されました。

推奨処置: 両方のシステムが相互に NetBackup アクセス制御機能の VxSS 認証を使用するように構成されていることを確認します。または、両方のシステムが相互に VxSS を使用しないように構成されていることを確認します。最初に、[アクセス制御 (Access Control)]プロパティダイアログボックスで、各システムの[Veritas Security Services (VxSS)]の値を確認します。一方が[必須 (Required)]に構成されている場合は、もう一方を[必須 (Required)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。一方が[禁止 (Prohibit)]に構成されている場合は、もう一方を[禁止 (Prohibit)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。

アクセス制御機能関連のホストのプロパティを設定する方法、およびアクセス制御機能を使用したシステムの構成方法については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 194

メッセージ: 1 クライアントあたりの最大ジョブ数は 0 に設定されています。(the maximum number of jobs per client is set to 0)

説明: NetBackup のグローバル属性の[1 クライアントあたりの最大ジョブ数 (Maximum jobs per client)]が、現在 0 (ゼロ) に設定されています。バックアップおよびアーカイブを無効にする場合、値を 0 (ゼロ) に設定します。

推奨処置: [1 クライアントあたりの最大ジョブ数 (Maximum jobs per client)]の値を 0 (ゼロ) 以外の任意の値に変更し、バックアップおよびアーカイブを実行可能にします。この属性は、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボック

スの［NetBackup のグローバル属性 (Global NetBackup Attributes)］ノードで設定します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「［ホストプロパティ (Host Properties)］ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 195

メッセージ: バックアップ処理時間帯でないため、クライアントバックアップが試行されませんでした (client backup was not attempted

説明: NetBackup スケジューラ内のバックアップジョブが試行されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 手動バックアップですぐにバックアップを再試行するか、通常のスケジューラでバックアップを再試行します。
- 追加情報については、［すべてのログエントリ (All Log Entries)］レポートを確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、nbpem、nbjm および nbrb の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  バックアップを再試行してから、ログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 196

メッセージ: バックアップ処理時間帯でないため、クライアントバックアップが試行されませんでした (client backup was not attempted because backup window closed)

説明: すでにバックアップ処理時間帯を過ぎているため、バックアップスケジューラによってキューに投入されたバックアップまたはアーカイブ操作が試行されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 可能な場合、スケジュールを変更して、ポリシーとスケジュールのこの組み合わせに対するバックアップ処理時間帯を延長します。これによって、今後この状態コードが発生することを防ぎます。
- バックアップを行う必要がある場合、［バックアップポリシーの管理 (Backup Policy Management)］ウィンドウの［ポリシー (Policy)］メニューで［手動バックアップ (Manual Backup)］コマンドを使用して、バックアップを実行します。手動バックアップでは、バックアップ処理時間帯は無視されます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 197

メッセージ: 指定されたスケジュールが、指定されたポリシーに存在しません (the specified schedule does not exist in the specified policy)

説明: ユーザーバックアップまたはアーカイブで、バックアップ時に使用される正確なポリシーおよびスケジュールが指定されましたが、存在するポリシー内にそのスケジュールは含まれていません。

- Microsoft Windows クライアントの場合、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] ダイアログボックスの [バックアップ (Backups)] タブで、ポリシーまたはスケジュールを指定できます。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)] メニューから [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] を選択します。
- UNIX クライアントの場合、`bp.conf` ファイルのオプション BPBACKUP_POLICY または BPBACKUP_SCHED を使って、ポリシーまたはスケジュールを指定できます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントの進捗ログで (存在する場合)、指定したポリシーおよびスケジュールを特定します。
- マスターサーバーの構成を確認して、スケジュールがポリシーに対して有効かどうかを判断します。スケジュールが無効な場合、ポリシー構成にスケジュールを追加するか、クライアントで有効なスケジュールを指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 198

メッセージ: このクライアント用に要求された形式のスケジュールを含む有効なポリシーが存在しません (no active policies contain schedules of the requested type for this client)

説明: ユーザーバックアップまたはアーカイブが要求されましたが、クライアントは、ユーザーバックアップまたはアーカイブのスケジュールが存在するポリシー内に含まれていません。

推奨処置: クライアントが適切な形式のスケジュール (ユーザーバックアップまたはアーカイブ) が存在する任意のポリシー内に含まれているかどうかを判断します。

- クライアントがそのようなポリシー内に存在する場合、ポリシーの一般属性を確認して、ポリシーが有効に設定されていることを検証します。

- クライアントがそのようなポリシー内に存在しない場合、次のいずれかを実行します。
  - クライアントが存在する既存のポリシーに適切な形式のスケジュールを追加する。
  - クライアントおよび適切な形式のスケジュールを含む新しいポリシーを作成する。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 199

メッセージ: この期間内では許可されない操作です (operation not allowed during this time period)

説明: ユーザーバックアップまたはアーカイブが要求されましたが、このクライアントは、バックアップ処理時間帯が開いているユーザーバックアップまたはアーカイブのスケジュールが存在するポリシーに属していません。このエラーは、クライアントに対して適切なポリシーとスケジュールの組み合わせが存在することを示します。

推奨処置: 適切な形式のスケジュール (ユーザーバックアップまたはアーカイブ) が存在する、クライアントが属するポリシーを判断します。

- 可能な場合、バックアップ処理時間帯の間に、操作を再試行します。
- 適切な期間にバックアップ処理時間帯を過ぎている場合、いずれかのポリシーのスケジュールで、バックアップ処理時間帯を調整します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 200

メッセージ: スケジューラでは実行する予定のバックアップが見つかりませんでした (scheduler found no backups due to run)

説明: NetBackup スケジューラプロセス (`nbpem`) によってポリシーおよびスケジュールの構成が確認されたとき、バックアップを行うクライアントが検出されませんでした。

考えられる原因は、次のとおりです。

- バックアップ処理時間帯の時間でない (完全バックアップスケジュールおよび増分バックアップスケジュールだけに適用)。
- ポリシーが無効に設定されている。
- 最近、クライアントのバックアップを行ったため、(スケジュールの間隔設定に基づく) 別のバックアップを行う予定がない。
- ポリシーにクライアントが存在しない。

推奨処置: 通常、このメッセージは情報を提供するもので、問題を示すものではありません。ただし、問題があると考えられる場合、次のように実行します。

- NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを調べて、スケジューラによって実行される予定の作業が存在しないことを示すメッセージの他に、メッセージが表示されていないかどうかを確認します。
- ポリシー構成で、すべてのポリシーまたは問題があると考えられる特定のポリシーを調べて、「説明」で示されている原因のいずれかに該当するかどうかを判断します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、診断ログとデバッグログの統合ログレベルを上げます。

  次の手順で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。

  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。

  操作を再試行し、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 201

メッセージ: ハンドシェークはサーバーの Backup Restore Manager で失敗しました (handshaking failed with server backup restore manager)

説明: マスターサーバーのプロセスで、メディアホスト (マスターサーバーまたはメディアサーバーのいずれか) との通信中に、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバーとメディアサーバーのプロセス間の通信を開始することはできましたが、通信を完了できなかったことを示します。この問題は、1 つあるいは複数のサーバー構成内でのバックアップ、リストアまたはメディアのリストを取得中に発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、ハンドシェークが失敗した動作を特定します。メディアサーバーが存在する場合、次のどちらに該当するかを判断します。
  - ハンドシェークの失敗がマスターサーバーとメディアサーバーの間で発生した。または
  - マスターサーバーだけの問題である。
- 必要に応じて、次のデバッグログディレクトリを作成し、ログレベルを上げます。
  - NetBackup メディアホスト (マスターサーバーまたはメディアサーバーのいずれか) に、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - バックアップ操作中にエラーが発生した場合、nbpem、nbjm および nbrb の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。

    次の手順で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。

- マスターサーバーに、bprd のデバッグログディレクトリを作成します (リストア操作中にエラーが発生した場合)。
- マスターサーバーの NetBackup の logs ディレクトリ内に、admin のデバッグログディレクトリを作成します (メディアの一覧表示操作中にエラーが発生した場合)。

- bpbrm または bpmount に接続した後、ポリシーのファイルリストが送信される前に nbjm が失敗した場合、状態コード 201 が発生する可能性があります。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117)、あるいは bpbrm または bpmount のレガシーログで、エラーの原因の詳細を調べます。
- 操作を再試行して、エラーが発生した原因に関する情報を、デバッグログの結果から調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 202

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager への接続中にタイムアウトが発生しました (timed out connecting to server backup restore manager)

説明: メディアホスト (マスターサーバーまたはメディアサーバーのいずれか) との通信の開始を試行中に、マスターサーバーのプロセスでタイムアウトになりました。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのバックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: [すべてのログエントリ (All Log Entries)] レポートで該当する期間を調べて、通信のタイムアウトの失敗が発生した動作を特定します。メディアサーバーが存在する場合、タイムアウトが、マスターサーバーとメディアサーバーの間で発生したか、マスターサーバーだけの問題であるかを判断します。

- スケジュールで正しいストレージユニットを指定していることを確認します。
- 次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。
  - マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーとすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
  - 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは [マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)] ダイアログボックスの [サーバー (Servers)] ノードで指定されています。
    『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

- マスターサーバーが、ストレージユニットが存在するホストの bpcd と通信可能であることを確認します。
- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- 必要に応じて、次のプロセスのデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。
  - バックアップ操作中にエラーが発生した場合、nbpem、nbjm および nbrb の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
    次の手順で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
    また、bpcd のレガシーデバッグログも確認します。
  - リストア操作中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 203

メッセージ**:** サーバーの Backup Restore Manager のネットワークに接続できません (server backup restore manager's network is unreachable)

説明**:** メディアホストとの通信の開始を試行中に、マスターサーバーのプロセスがネットワーク上に存在する特定のホストに接続できません。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのバックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置**:** [すべてのログエントリ (All Log Entries)] レポートで該当する期間を調べて、このエラーが発生した動作を判断します。複数の NetBackup サーバー (1 つ以上のメディアサーバー) が存在する場合、エラーがマスターサーバーとメディアサーバーの間で発生したか、マスターサーバーだけの問題であるかを判断します。次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーホストに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは [マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)] ダイアログボックスの [サーバー (Servers)] ノードで指定されています。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- 必要に応じて、bprd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。リストア中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 204

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager によって接続が拒否されました (connection refused by server backup restore manager)

説明: bpcd のポート番号での接続がメディアホストによって拒否されました。このエラーは、バックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: 次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、このマスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。次の項では、このダイアログボックスにアクセスする方法について説明します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、すべてのサーバー上の /etc/services または NIS に含まれる bpcd エントリが一致していることを確認します。メディアホストが適切なポートで bpcd への接続を待機していることを確認します。確認するには、次のいずれかのコマンド (プラットフォームおよびオペレーティングシステムによって異なる) を実行します。

  ```
  netstat -a | grep bpcd
  ```

  ```
  netstat -a | grep 13782
  ```
  (またはインストール中に指定した値)

rpcinfo -p | grep 13782(またはインストール中に指定した値)

UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、/etc/services および NIS サービスのマップ内の bpcd のサービス番号を変更して、クライアントの inetd プロセスに SIGHUP シグナルを送信する必要がある場合があります。

```
/bin/ps -ef | grep inetd
kill -HUP the_inetd_pid
```

または

```
/bin/ps -aux | grep inetd
kill -HUP the_inetd_pid
```

メモ: Hewlett Packard 社の UNIX プラットフォームの場合、inetd -c を実行して、inetd に SIGHUP を送信します。

- Windows サーバーの場合、次の操作を実行します。
  - 次のファイルの bpcd エントリが正しいことを確認します。

    %SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services

  - [NetBackup **クライアントのプロパティ** (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[ネットワーク (Network)]タブの[NetBackup Client サービスポート (NetBackup client service port)]番号および[NetBackup Request サービスポート (NetBackup request service port)]番号が、services ファイルの設定と一致していることを確認します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。
    [ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。
  - NetBackup サービスを停止して、再起動します。
- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- 必要に応じて、bprd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。

- バックアップ操作中にエラーが発生した場合、vxlogview コマンドを使用して、nbpem、nbjm および nbrb のログを確認します。
- リストア操作中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 205

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager に接続できません (cannot connect to server backup restore manager)

説明: マスターサーバーのプロセスがネットワーク上に存在するホストのプロセスに接続できません。このエラーは、プロセスが、ストレージユニットが存在するサーバーとの通信を開始しようとしているときに発生します。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのバックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: 次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、このマスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、すべてのサーバー上の /etc/services または NIS に含まれる bpcd エントリが一致していることを確認します。メディアホストが適切なポートで bpcd への接続を待機していることを確認します。確認するには、次のいずれかのコマンド (プラットフォームおよびオペレーティングシステムによって異なる) を実行します。

  ```
  netstat -a | grep bpcd
  ```

  netstat -a | grep 13782(またはインストール中に指定した値)

  rpcinfo -p | grep 13782(またはインストール中に指定した値)
- Windows サーバーの場合、次の操作を実行します。
  - 次の services ファイルの bpcd エントリが正しいことを確認します。

    ```
    %SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services
    ```

- [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[ネットワーク (Network)]タブの[NetBackup Client サービスポート (NetBackup client service port)]番号および[NetBackup Request サービスポート (NetBackup request service port)]番号が、services ファイルの設定と一致していることを確認します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。
  [ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。
- NetBackup サービスを停止して、再起動します。

- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- ストレージユニットが存在するサーバーに bpcd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、デバッグログで追加情報を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 206

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager へのアクセスは拒否されました (access to server backup restore manager denied)

説明: マスターサーバーから他のサーバー (またはマスターサーバー自身) のプロセスの起動が試行されましたが、そのサーバーの NetBackup サーバーリストにマスターサーバーが存在していません。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーが、自身のサーバーリストおよびすべてのメディアサーバーにおいて、サーバーとして登録されていることを確認します。
  マスターサーバーリストを変更した場合は、該当するすべての NetBackup プロセスで新しいサーバーエントリが使われるように、NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) と NetBackup Request デーモン (bprd) を停止して再起動します。

- 必要に応じて、bprd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。
  - バックアップ操作中にエラーが発生した場合、vxlogview コマンドを使用して、nbpem、nbjm および nbrb のログを確認します。
  - リストア操作中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 207

メッセージ: クライアントに対する最後のバックアップ日付の取得のエラー (error obtaining date of last backup for client)

説明: nbpem による、クライアント、ポリシーおよびスケジュールの特定の組み合わせの最後のバックアップ日付の取得中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) が実行中であることを確認します。
- [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、失敗に関する詳細な情報を収集します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに bpdbm のログディレクトリを作成します。nbpem の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行し、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 209

メッセージ: メッセージキューの作成または取得エラー (error creating or getting message queue)

説明: NetBackup プロセスで、プロセス間通信用の内部メッセージキューを作成しようとしたときに、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバーに問題があることを示します。UNIX システムおよび Linux システムでは、このエラーは System V プロセス間通信用のシステムリソースが不足しているために発生する場合があります。

推奨処置: マスターサーバーにデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、ログを調べて、システムの失敗の種類を判断します。最初に、bprd のデバッグログを調べます。

UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のシステムリソースを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 210

メッセージ: メッセージキューの情報の受信エラー (error receiving information on message queue)

説明: NetBackup プロセスで、内部メッセージキューに入っている bprd を使用して、NetBackup デーモンからのメッセージを受信しようとしたときに、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバーに問題があることを示します。UNIX システムおよび Linux システムでは、このエラーは System V プロセス間通信用のシステムリソースが不足しているために発生する場合があります。

推奨処置: マスターサーバーにデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、ログを調べて、システムの失敗の種類を判断します。最初に、bprd のデバッグログを調べます。

UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のシステムリソースを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 212

メッセージ: メッセージキューの情報の送信エラー (error sending information on message queue)

説明: NetBackup プロセスで、すでに存在しているプロセス間通信用の内部メッセージキューに接続しようとしたときに、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバーに問題があることを示します。UNIX システムおよび Linux システムでは、このエラーは System V プロセス間通信用のシステムリソースが不足しているために発生する場合があります。

推奨処置: マスターサーバーにデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、ログを調べて、システムの失敗の種類を判断します。最初に、bprd のデバッグログを調べます。

UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のシステムリソースを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 213

メッセージ: 利用可能なストレージユニットがありません (no storage units available for use)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) によって、利用可能なストレージユニットが検出されませんでした。すべてのストレージユニットが利用できません。または、すべてのストレージユニットが[オンデマンドのみ (On demand only)]に構成されています。また、ポリシーおよびスケジュールに特定のストレージユニットは必要ありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- [バックアップの状態 (Status of Backups)]レポートおよび[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、エラーを受け取ったポリシーまたはスケジュールを判断します。
- 利用不能なストレージユニットに対してメディアサーバーが無効になっていないことを確認します。
- ストレージユニットのドライブが停止状態ではないことを確認します。
- すべてのストレージユニットで、次の属性の設定を確認します。
  - ディスクストレージユニットの[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]が 0 (ゼロ) に設定されていない。
  - Media Manager ストレージユニットの[最大並列書き込みドライブ数 (Maximum concurrent write drives)]が 0 (ゼロ) に設定されていない。
- ストレージユニット構成内のロボット番号とホスト名が、メディアおよびデバイスの管理のデバイス構成と一致することを確認します。
- ポリシーとスケジュールの組み合わせで特定のストレージユニットを必要としない場合、そのポリシーとスケジュールの組み合わせに対して、すべてのストレージユニットが[オンデマンドのみ (On demand only)]に設定されていないかどうかを判断します。設定されている場合、ポリシーとスケジュールの組み合わせに対してストレージユニットを指定するか、ストレージユニットの[オンデマンドのみ (On demand only)]を解除します。
- ストレージユニットが UNIX または Linux 版 NetBackup メディアサーバーに存在する場合、bpcd に問題がある場合があります。メディアサーバーの /etc/inetd.conf で、bpcd エントリが正しいことを確認します。

  ストレージユニットが Windows 版 NetBackup メディアサーバーに存在する場合、NetBackup Client Service が Windows 版 NetBackup メディアサーバーで起動されていることを確認します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーの nbrb および mds のログレベルを上げます。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 215

メッセージ: グローバル構成データベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading global config database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbproxy でグローバル構成パラメータを読み込むことができませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX および Linux マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。
- NetBackup 管理インターフェース (UNIX および Linux システムの場合) または[ホストプロパティ (Host Properties)](Windows システムの場合) を使用して、グローバル構成の設定を表示します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに nbproxy および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。これらのプロセスのデバッグログの結果を確認します。また、vxlogview コマンドを使用して、nbpem のログも確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 216

メッセージ: 保持データベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading retention database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbpem で保持レベルおよび値のリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX または Linux マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用して、nbpem のログレベルを上げます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行し、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 217

メッセージ: ストレージユニットデータベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading storage unit database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbpem でストレージユニット構成が読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX または Linux サーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows サーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。
- NetBackup 管理インターフェースを使用して、ストレージユニット構成を表示します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに nbproxy および bpdbm のデバッグログを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。また、vxlogview コマンドを使用して、nbpem のログも確認します。
  接続を行うために適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 218

メッセージ: ポリシーデータベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading policy database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbpem でバックアップポリシー構成が読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX または Linux サーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows サーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。
- NetBackup 管理インターフェースを使用して、ポリシー構成を表示します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに nbproxy および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。また、vxlogview コマンドを使用して、nbpem のログも確認します。
  接続を行うために適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 219

メッセージ: 必要なストレージユニットが利用できません (the required storage unit is unavailable)

説明: バックアップのポリシーまたはスケジュールには特定のストレージユニットが必要ですが、現在利用できません。また、このエラーは、現行のバックアップセッション中にそのストレージユニットの使用が試行された場合にも発生します。

推奨処置: [ジョブの詳細 (Job Details)]ウィンドウで、失敗したジョブを調べます。

- スケジュールで適切なストレージユニットを指定しており、そのストレージユニットが存在することを確認します。
- Media Manager device デーモン ltid (UNIX または Linux サーバーの場合) または NetBackup Device Manager サービス (Windows サーバーの場合) が実行中であることを確認します。UNIX および Linux の bpps および Windows のアクティビティモニター、または Windows の[管理ツール]の[サービス]を使用します。
- 次の属性の設定を確認します。
  - ディスクストレージユニットの[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]が 0 (ゼロ) に設定されていない。
  - Media Manager ストレージユニットの[最大並列書き込みドライブ数 (Maximum concurrent write drives)]属性が 0 (ゼロ) に設定されていない。
- ストレージユニットがテープの場合、1 つ以上のドライブが起動状態にあることを確認します。デバイスモニターを使用します。
- ストレージユニット構成内のロボット番号およびホスト名が、メディアおよびデバイスの管理のデバイス構成内での指定内容と一致していることを確認します。
- マスターサーバーが、ストレージユニットが存在するサーバーの bpcd プロセスと通信可能であることを確認します。
  - bpcd がポートで接続を待機していることを確認します。
    ストレージユニットが接続されている UNIX または Linux サーバーで netstat -a | grep bpcd を実行すると、次のような応答が戻されます。

```
*.bpcd    *.*         0       0      0       0 LISTEN
```

ストレージユニットが接続されている Windows 版 NetBackup サーバーで netstat -a を実行すると、複数行の出力が表示されます。bpcd が待機している場合、次のような行が表示されます。

```
TCP    myhost:bpcd           0.0.0.0:0              LISTENING
```

- vxlogview コマンドを使用して、nbrb および mds のログを確認します。
- 問題の原因が不明な場合、次の手順を実行します。
『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 220

メッセージ: データベースのシステムエラーです (database system error)

説明: bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) で、構成カタログのディレクトリパスが作成されませんでした。このエラーはシステムコールの失敗が原因で、通常、権限に問題があるか、容量不足であるために発生します。

推奨処置: bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。nbemm の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。

次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。

操作を再試行し、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 221

メッセージ: 続行 (continue)

説明: この状態コードは、さまざまな NetBackup プロセス間通信の調整に使用され、通常は発生しません。この状態コードがそれ以降のエラーに関連することがログで示された場合、一般的に、通信に問題があることを示します。この場合、後続のエラーのトラブルシューティングを行います。

推奨処置: このエラーの後に表示されている状態コードの原因を判断します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 222

メッセージ: 完了 (done)

説明: この状態コードは、さまざまな NetBackup プロセス間通信の調整に使用され、通常は発生しません。この状態コードがそれ以降のエラーに関連することがエラーログで示された場合、一般的に、通信に問題があることを示します。この場合、後続のエラーのトラブルシューティングを行います。

推奨処置: このエラーの後に表示されている状態コードの原因を判断します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 223

メッセージ: 無効なエントリが入力されました (an invalid entry was encountered)

説明: bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) への要求に、無効な情報または矛盾する情報が含まれていました。このエラーは通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用することによって発生します。また、コマンドの不正なパラメータが原因で発生する場合もあります。

推奨処置: すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンであり、適切なコマンドパラメータが指定されていることを確認します。問題がいずれにも該当しない場合、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成し、詳細なトラブルシューティングの情報を入手します。その後、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 224

メッセージ: 競合する指定が存在しました (there was a conflicting specification)

説明: bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) への要求に、矛盾する情報が含まれていました。このエラーは通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用することによって発生します。

推奨処置: すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。問題が該当しない場合、bpdbm および admin のデバッグログディレクトリを作成し、詳細なトラブルシューティングの情報を入手します。その後、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 225

メッセージ: テキストが最大長を超えています (text exceeded allowed length)

説明: 要求に含まれるテキストがバッファサイズを超えています。この要求は、bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) に対して行われたものです。このエラーは通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用することによって発生します。

推奨処置: すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。問題が該当しない場合、bpdbm および admin のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 226

メッセージ: エンティティがすでに存在します (the entity already exists)

説明: 同じ名前または定義のエンティティが、構成内にすでに存在しています。たとえば、既存のポリシーと同じ名前または定義 (属性、クライアントなど) で新しいポリシーを追加すると、この状態コードが表示されます。

推奨処置: 要求を修正して、コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 227

メッセージ: エンティティが見つかりませんでした (no entity was found)

説明: 要求された項目がカタログ内に存在しませんでした。たとえば、そのエンティティはファイルまたはポリシー情報である場合があります。

推奨処置: 問い合わせには一致するイメージがないことがあります。操作に対する異なるパラメータまたはオプションを指定して、問い合わせを再試行します。

仮想マシンから選択したファイルを元の場所にリストアするには、仮想マシンのホスト名を指定する必要があります。宛先として表示名または UUID を指定しないでください。

このメッセージに関する詳細情報が利用可能です。

http://www.veritas.com/docs/TECH208764

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 228

メッセージ: 要求を処理できません (unable to process request)

説明: カタログに一貫性がないか、不適切な要求が行われました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- この状態がメディアサーバーで発生した場合、サーバーリストに適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。その後、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 229

メッセージ: イベントがシーケンス内に存在しません - イメージの不整合 (events out of sequence - image inconsistency)

説明: 実行するとイメージカタログの一貫性が失われるタスクが要求されました。

推奨処置: bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、詳細なトラブルシューティングの情報を入手します。その後、操作を再試行し、デバッグログの結果を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 230

メッセージ: 指定されたポリシーが構成データベースに存在しません (the specified policy does not exist in the configuration database)

説明: 指定されたポリシー名が存在しません。

推奨処置: パラメータまたはオプションを修正して、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 231

メッセージ: スケジュール時間帯が重なっています。(schedule windows overlap)

説明: ある日のスケジュールとして指定された開始時刻および継続時間が、別の日のスケジュールと重複しています。

推奨処置: スケジュールを修正して、バックアップ処理時間帯の重複を解消します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 232

メッセージ: プロトコルエラーが発生しました (a protocol error has occurred)

説明: このエラーは中間的な状態コードであり、通常は他の状態コードの前に表示されます。この状態コードは、bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合)、NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) またはこのプロセスと通信するプロセスのいずれかで、予想外の情報が受信されたことを示します。

推奨処置: bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行し、デバッグログを保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 233

メッセージ: 想定しない EOF が発生しました (premature eof encountered)

説明: これは中間的な状態コードであり、通常は他の状態コードの前に表示されます。また、ネットワーク通信の問題と関連しています。

推奨処置: この状態コードは、リストア中に、予想外のデータストリームが (クライアントの) tar で受信されたことを示しています。リストアが新しい構成の場合、テープドライブが可変モードで構成されていることを確認します。

『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

通信の失敗の原因がクライアントシステムの中断でない場合、すべてのエラー情報を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 234

メッセージ: 通信が割り込まれました。(communication interrupted)

説明: これは中間的な状態コードであり、通常は他の状態コードの前に表示されます。また、ネットワーク通信の問題と関連しています。サーバープロセスまたはクライアントプロセスで中断 (interrupt) シグナルが受信されました。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 235

メッセージ: バッファ領域が不十分です。(inadequate buffer space)

説明: このコードは、通常、サーバーとクライアントのソフトウェアのバージョンが一致していないことを示します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。以前のバージョンの NetBackup ソフトウェアを更新します。
  - UNIX および Linux の場合、NetBackup のサーバーおよびクライアントで `/usr/openv/netbackup/bin/version` ファイルを確認します。
  - Windows 版 NetBackup サーバーの場合、*install_path*¥NetBackup¥version.txt ファイルまたは[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup 管理コンソールのバージョン情報 (About NetBackup Administration Console)]項目を確認します。
  - Microsoft Windows クライアントの場合、[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup クライアントのバージョン情報 (About NetBackup Client)]項目を確認します。
  - 3.0 より前のバージョンのクライアントソフトウェアの場合、そのクライアントのポリシー形式が Standard であることを確認します。
- 問題が解決しない場合、すべてのエラー情報を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 236

メッセージ: 指定されたクライアントが、構成データベースの有効なポリシーに存在しません (the specified client does not exist in an active policy within the configuration database)

説明: クライアント名が指定されていないか、指定されたクライアントが存在しません。

推奨処置: 目的のポリシーを有効にするか、クライアント名を修正するか、または目的のポリシーにクライアントを追加します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 237

メッセージ: 指定されたスケジュールが、構成データベースの有効なポリシーに存在しません (the specified schedule does not exist in an active policy in the configuration database)

説明: 指定されたスケジュールが NetBackup 構成内に存在しません。

推奨処置: 目的のポリシーを有効にするか、スケジュール名を修正するか、または目的のポリシーにスケジュールを作成します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 238

メッセージ: データベースに、競合しているエントリまたはエラーがあるエントリが含まれています。(the database contains conflicting or erroneous entries)

説明: 一貫性がないエントリまたは壊れたエントリが、カタログに存在します。

推奨処置: `bpdbm` (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) の詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行し、デバッグログの結果を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 239

メッセージ: 指定されたクライアントが、指定されたポリシーに存在しません (the specified client does not exist in the specified policy)

説明: 指定されたクライアントが、指定されたポリシーに含まれていません。

推奨処置: クライアント名の指定を修正するか、異なるポリシーを指定するか、または必要なクライアント名をポリシーに追加します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 240

メッセージ: このポリシーには正しい形式のスケジュールが存在しません (no schedules of the correct type exist in this policy)

説明: 適切なスケジュールが、指定されたポリシー内で検出されませんでした。たとえば、ユーザーバックアップでポリシー名が指定されていますが、そのポリシー内にユーザーバックアップスケジュールが存在していない場合があります。0

推奨処置: 異なるポリシーを指定するか、必要な形式のスケジュールをポリシー内に作成します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 241

メッセージ: 指定されたスケジュールの形式はこの要求には不適切です (the specified schedule is the wrong type for this request)

説明: 即時手動バックアップで指定されたスケジュールは、完全バックアップのスケジュールでも、増分バックアップのスケジュールでもありません。スケジュールは、いずれかに該当する必要があります。

推奨処置: 手動バックアップでは、完全バックアップまたは増分バックアップのスケジュールだけを指定します。ポリシー内にスケジュールが存在しない場合、スケジュールを作成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 242

メッセージ: 不正な複製の原因となる可能性がある操作です (operation would cause an illegal duplication)

説明: 要求が処理されると、(たとえば、カタログまたは構成データベース内で) エントリが重複します。カタログエントリの重複は、通常、NetBackup カタログバックアップ用のメディア ID の指定が不適切であるために発生します。

推奨処置: エラーメッセージを確認して、発生する可能性がある特定の重複を判断します。操作の設定を修正して、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 243

メッセージ: クライアントは構成に含まれていません。(the client is not in the configuration)

説明: 指定されたクライアント名がカタログ内に存在しませんでした。

推奨処置: クライアント名を修正するか、目的のポリシーにクライアントを追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 245

メッセージ: 指定されたポリシーは正しいクライアント形式ではありません (the specified policy is not of the correct client type)

説明: ユーザーバックアップで、クライアントに必要な形式のポリシーが指定されませんでした。

推奨処置: クライアントに対して適切な形式のポリシーを指定して、操作を再試行します。適切な形式のポリシーが存在しない場合、ポリシーを作成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 246

メッセージ: 構成データベースに正しいクライアント形式の有効なポリシーが存在しません (no active policies in the configuration database are of the correct client type)

説明: クライアントに必要な形式の有効なポリシーが存在しないため、ユーザーバックアップ要求が実行されませんでした。

推奨処置: ユーザーバックアップ要求を実行できるように、適切なポリシーを作成するか、有効にします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 247

メッセージ: 指定されたポリシーが有効ではありません (the specified policy is not active)

説明: 指定されたポリシーが有効でないため、そのポリシーのバックアップは実行できません。

推奨処置: ポリシーを有効にして、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 248

メッセージ: 構成データベースに有効なポリシーが存在しません (there are no active policies in the configuration database)

説明: 要求を満たす有効なポリシーが検出されませんでした。

推奨処置: 適切なポリシーを有効にして、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 249

メッセージ: ファイルリストが不完全です。(the file list is incomplete)

説明: クライアントによるファイルリストの送信が終了するのを待機しているときに、サーバーでタイムアウトが発生したか、シーケンスに問題が発生しました。

推奨処置: 最初に、デバッグログを作成し、追加情報を入手します。その後、エラーの再現を試行します。作成するデバッグログは、次のとおりです。

- サーバーには、`bptm`、`bpbrm` および `bpdbm`
- UNIX、Linux および Windows クライアントの場合は、`bpbkar`
- それ以外のクライアントの場合は、`bpcd`

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 250

メッセージ: イメージは、TIR 情報で作成されませんでした (the image was not created with TIR information)

説明: これは内部エラーを意味し、通常は表示されることはありません。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、`bptm` または `bpdbm` のデバッグログをサーバーに作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 251

メッセージ: TIR 情報の長さは 0 です (the tir information is zero length)

説明: True Image Backup で、クライアントからマスターサーバーにファイル情報が送信されませんでした。この状態は、メディアへの TIR 情報の書き込みを試行したときに NetBackup で検出されました。

推奨処置: ポリシーのファイルリスト、およびクライアントのエクスクルードリストとインクルードリストを調べて、バックアップを実行可能なファイルがクライアントに存在することを確認します。たとえば、クライアントのエクスクルードリストですべてのファイルがエクスクルードされている場合、この状態コードが表示されることがあります。

詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、`bptm` または `bpdbm` のデバッグログをサーバーに作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 252

メッセージ: 拡張エラー状態が発生しています。状態の詳細を確認してください (extended error status has been encountered, check detailed status)

説明: プロセスで、拡張エラー状態をジョブの最終的な状態として報告できなかった場合、ジョブは状態コード 252 で終了します (拡張エラーの状態コードは、256 以上です)。

推奨処置: 実際のエラーを確認するには、ジョブの詳細表示を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 253

メッセージ: カタログのイメージ .f ファイルがアーカイブされました (the catalog image .f file has been archived)

説明: カタログのイメージ `.f` ファイルがアーカイブされました。

推奨処置: アーカイブされたカタログのイメージ `.f` ファイルをリストアするには、カタログのアーカイブに関するヘルプ情報を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 254

メッセージ: NetBackup 構成にサーバー名が見つかりませんでした (server name not found in the NetBackup configuration)

説明: NetBackup を通常の方法で使っているかぎり、このエラーは発生しません。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマーサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 256

メッセージ: 論理エラーです (logic error encountered)

説明: Vault 内部エラーが発生しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 257

メッセージ: ジョブのデータの取得に失敗しました (failed to get job data)

説明: このエラーは、次のいずれかを示す場合があります。

- Job Manager (`nbjm`) との接続が切断されたため、Vault でジョブのデータの取得に失敗しました。
- Vault で空のジョブのデータが受信されました。このエラーは、`vltrun -haltdups` コマンドでユーザーが指定したジョブ ID が範囲外である場合に発生します。(つまり、指定したジョブ ID が Job Manager によって作成された ジョブ ID に含まれていない場合です。)

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 258

メッセージ: Vault 複製が管理者の要求によって中断されました (vault duplication was aborted by administrator request)

説明: 管理者が、実行中の Vault 複製ジョブの中断要求を開始しました。

推奨処置: 中断要求が意図的に行われたものであることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 259

メッセージ: Vault 構成ファイルが見つかりませんでした (vault configuration file not found)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 260

メッセージ: シグナルの送信に失敗しました (failed to send signal)

説明: vltrun で、Vault 複製ジョブへのシグナルの送信に失敗しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 261

メッセージ: Vault 内部エラー 261 (vault internal error 261)

説明: このエラーコードは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 262

メッセージ: Vault 内部エラー 262 (vault internal error 262)

説明: このエラーコードは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 263

メッセージ: セッション ID の割り当てが失敗しました (session ID assignment failed)

説明: Vault セッションに割り当てられている一意の識別子が破損しています。

推奨処置: `session.last` ファイルに格納されているセッション ID が有効であることを確認します。

UNIX および Linux の場合:

```
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/session.last
```

Windows の場合:

```
install_path¥Netbackup¥vault¥sessions¥vault_name¥session.last
```

ファイルシステムに空きがあり、`session.last` ファイルが間違って編集されていないことを確認します。問題を解決するには、この Vault のセッションに割り当てられている最大のセッション ID を `session.last` ファイルに格納します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 265

メッセージ: セッション ID ファイルは空であるか、破損しています (session id file is empty or corrupt)

説明: 次のファイルに格納されているセッション ID が破損しています。

UNIX および Linux の場合:

```
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/session.l
    ast
```

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥session
    .last
```

推奨処置: `session.last` ファイルに格納されているセッション ID が破損していないことを確認します。ファイルシステムに空きがあり、ファイルが間違って編集されていないことを確認します。問題を解決するには、この Vault のセッションに割り当てられている最大のセッション ID を `session.last` ファイルに格納します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 266

メッセージ: Vault 構成ファイルに、ロボット、Vault、プロファイルが見つかりません (cannot find robot, vault, or profile in the vault configuration)

説明: Vault コマンド (*vltrun*、*vlteject*、*vltoffsitemedia*) または *vltopmenu* で指定された `profile_name` または `robot_name`/`vault_name`/`profile_name` の組み合わせが、Vault 構成で検出されません。

推奨処置: 正しい *profile_name* または *robot_name*/*vault_name*/*profile_name* の組み合わせを指定して、コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 267

メッセージ: ローカルホスト名が見つかりません (cannot find the local host name)

説明: Vault ジョブでは、OS コールを介してローカルホスト名が取得されます。このエラーは、Vault ジョブによってローカルホスト名が取得されない場合に発生します。

推奨処置: OS コマンドプロンプトで hostname コマンドを発行します。hostname コマンドが失敗する原因については、hostname (または gethostbyname) のマニュアルページを参照してください。

詳しくは、オペレーティングシステムのシステム管理者ガイドを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 268

メッセージ: Vault セッションディレクトリが不明であるか、またはアクセスできません (the vault session directory is either missing or inaccessible)

説明: このエラーは、Vault ジョブが次のセッションディレクトリにアクセスできない場合に発生します。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/vault/sessions`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions

このディレクトリは、Vault のインストール時に作成されます。

推奨処置: Vault がインストールされて設定されているマスターサーバー上で操作を行っていることを確認します。また、セッションディレクトリが誤って削除されたり、ディレクトリパスの権限が変更されても、Vault ジョブがディレクトリにアクセス可能であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 269

メッセージ: Vault セッション ID が見つかりませんでした (no vault session ID was found)

説明: このエラーは、指定されたプロファイルに対するセッション ID ディレクトリ sid*xxx* が *vltopmenu* によって検出されない場合に発生します。このプロファイルに対して実行されている Vault ジョブが存在しないか、または対応するセッション ID ディレクトリ sid*xxx* が次のディレクトリから削除されています。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name

推奨処置: Vault ジョブが実行されている別のプロファイルを指定するか、または `vltopmenu` を終了して、目的のプロファイルに Vault ジョブを実行します。その後、`vltopmenu` を再度実行して、そのプロファイルを選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 270

メッセージ: プロセス ID を取得できません。getpid が失敗しました (unable to obtain process id, getpid failed)

説明: このエラーは、OS システムコール getpid() を使用して Vault プロセスのプロセス ID を取得できない場合に発生します。

推奨処置: システムログでシステムの異常を調べます。しばらく待機して、システムリソースが解放された後でプロセスの実行を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 271

メッセージ: Vault XML バージョンが一致していません (vault XML version mismatch)

説明: Vault のアップグレード処理が失敗しました。

推奨処置: ログを有効にしてから nbvault を起動し、nbvault のログを調べてエラーの原因を特定します。アップグレード処理を再度実行しても失敗する場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

nbvault のログの場所は次のとおりです。

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/netbackup/logs/nbvault/

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥nbvault

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 272

メッセージ: Vault 通知スクリプトの実行に失敗しました (execution of a vault notify script failed)

説明: このエラーは、権限またはスクリプトのコーディングに問題があるために、Vault プロセスが Vault 通知スクリプトを実行できない場合に発生します。また、スクリプトからエラーが戻された場合にも発生します。

推奨処置: 通知スクリプトが実行可能で、エラーが発生しないことを確認します。コーディングのエラーを修正するには、スクリプトを手動で実行してデバッグを行う必要があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 273

メッセージ: 無効なジョブ ID (invalid job id)

説明: このエラーは、次のいずれかの状況で発生する場合があります。

- 指定されたジョブが有効な Vault ジョブではない。
- 指定された有効な Vault ジョブが複製手順ではない。

推奨処置: 現在複製手順または複製操作である有効な Vault ジョブのジョブ ID を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 274

メッセージ: プロファイルが指定されていませんでした (no profile was specified)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 275

メッセージ: この Vault 用に、セッションはすでに実行しています (a session is already running for this vault)

説明: このエラーは、Vault のセッションが開始されたときに、その Vault に対してすでに別のセッションが実行中である場合に発生します。Vault に対して一度に実行可能なセッションは 1 つだけです。

推奨処置: 実行中のセッションが完了してから、Vault セッションを開始します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 276

メッセージ: 無効なセッション ID (invalid session ID)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 277

メッセージ: レポートを印刷できません (unable to print reports)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 278

メッセージ: API ロボットから取り出しの事前情報を収集できません (unable to collect pre eject information from the API robot)

説明: このエラーは、取り出しを実行する前にロボット情報を取得できない場合に発生します。

推奨処置: すべてのメディアおよびデバイスの管理デーモンが実行中であること、またはロボットが稼働中であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 279

メッセージ: 取り出し処理が完了しました (eject process is complete)

説明: このエラーは、取り出し処理が正常に完了した場合に発生します。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 280

メッセージ: 取り出すボリュームがありません (there are no volumes to eject)

説明: このエラーは、取り出し対象のメディアがライブラリに存在しない場合に発生します。

推奨処置: 取り出し対象のメディアがライブラリから手動で取り出されていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 281

メッセージ: Vault コアエラー (vault core error)

説明: Vault 内部エラーが発生しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 282

メッセージ: nbvault サーバーに接続できません (cannot connect to nbvault server)

説明: Vault ジョブから NetBackup Vault Manager サービス (UNIX および Linux の `nbvault`、Windows の `nbvault.exe`) に接続できません。

考えられる原因は、次のとおりです。

- Veritas Private Branch Exchange サービス (`VRTSpbx`) または NetBackup Request Manager (`bprd`) が停止しています。
- NetBackup Vault Manager サービスが停止しています。この原因としては、Vault のライセンスを取得していないこと、`vault.xml` 構成ファイルが破損していること、アップグレード時に `vault.xml` 構成ファイルのアップグレードが失敗していることなどが考えられます。

推奨処置: エラーの原因を判断するには、停止しているサービスのログおよびオペレーティングシステムのログ (Windows のイベントログ) を調べます。問題を解決した後に、停止しているサービスを再起動します。

nbvault のログの場所は次のとおりです。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/nbvault/`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥nbvault

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 283

メッセージ: Vault レポートの生成中にエラーが発生しました (error(s) occurred during vault report generation)

説明: Vault のレポートの生成フェーズでエラーが発生しました。

推奨処置: ログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 284

メッセージ: Vault レポートの配布中にエラーが発生しました (error(s) occurred during vault report distribution)

説明: Vault のレポートの配布フェーズでエラーが発生しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- vault.xml ファイル内の電子メールアドレスの形式が不正であるなどの理由で、レポートが電子メールで送信されませんでした。
- Windows で、サードパーティのメールクライアント (Blat など) が正しく構成されていません。
- レポートの宛先ディレクトリが存在しないか、または宛先ディレクトリに適切な権限がありません。
- プリンタが正しく設定されていないか、または vault.xml 内のプリンタコマンドが不適切です。

推奨処置: ログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 285

メッセージ: Vault ディレクトリが見つかりません (unable to locate vault directory)

説明: このエラーは、Vault ジョブまたはコマンドでセッションの対象のディレクトリが存在しないか、または破損している場合に戻されます。

推奨処置: Vault パッケージをマスターサーバー上にインストールすると、vault ディレクトリが作成されます。Vault ジョブまたはコマンドが root ユーザーでマスターサーバー上で開始されていることを確認します。また、Vault ディレクトリが誤って削除されたり、root ユーザーからアクセスできなくなっていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 286

メッセージ: Vault 内部エラー 286 (vault internal error 286)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 287

メッセージ: Vault の取り出しに失敗しました (vault eject failed)

説明: このエラーは、Vault セッションの実行中に取り出し対象として識別されているメディアの取り出しに失敗した場合に発生します。考えられる原因として、メディアおよびデ

バイスの管理サービスまたはロボットが停止しているか、メディアアクセスポート (MAP) に利用可能な空のスロットが存在しないなどがあります。

推奨処置: メディアおよびデバイスの管理サービスが実行中であること、ロボットが稼働中であること、およびメディアアクセスポート (MAP) に利用可能な空のスロットが存在することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 288

メッセージ: Vault の取り出しは、部分的に成功しました (vault eject partially succeeded)

説明: このエラーは、Vault セッションの実行中に取り出し対象として識別されているメディアをすべて取り出せなかった場合に発生します。

考えられる原因は、次のとおりです。

- いくつかのメディアが NetBackup で使用されている。
- いくつかのメディアがドライブに存在する。
- メディアアクセスポート (MAP) の利用可能な空のスロットが不足している。

推奨処置: メディアがドライブにロードされていないこと、およびメディアが他のプロセスで使用されていないことを確認します。または、メディアアクセスポート (MAP) に利用可能な空のスロットが存在することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 289

メッセージ: コンテナおよびスロットに基づいた Vault のセッションのレポートは統合できません (cannot consolidate reports of sessions from container and slot-based vaults)

説明: このエラーは、レポートの統合を行う際に、スロットを使用するセッションとコンテナを使用するセッションのレポートが統合されている場合に発生します。

推奨処置: スロットまたはコンテナのいずれかの Vault 操作のレポートだけを統合するように、レポートの統合を変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 290

メッセージ: 取り出し処理中に、複数のエラーを検出しました (one or more errors detected during eject processing)

説明: このエラーは、vltopmenu を介した取り出し処理中に複数のエラーが発生した場合に発生します。取り出しが行われているセッションのいずれかで、291 から 300 の範囲の取り出しエラーが発生する場合があります。

推奨処置: 詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/netbackup/logs/vault

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題を特定して修正した後、vltejectまたはvltopmenuを実行して、取り出されなかったメディアを手動で取り出すことが必要となる場合があります。

多くの場合、このエラーは、メディアがオフサイト Vault ボリュームグループに存在していても、物理的にはロボット内またはロボット MAP 内に存在していることを示します。

この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- オフサイト Vault ボリュームグループに存在するが、物理的にはまだロボットライブラリ内に存在しているすべてのメディアを手動で取り外す。
- ロボットライブラリのインベントリを実行する。インベントリによって、オフサイト Vault ボリュームグループに存在するすべてのメディアがロボットボリュームグループに戻されます。その後、失敗した Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 291

メッセージ: メディア数が MAP の許容サイズを超えました。vltopmenu、または vltejectを使用して、手動で取り出す必要があります。(number of media has exceeded capacity of MAP; must perform manual eject using vltopmenu or vlteject)

説明: このエラーは、自動取り出しモードを選択するプロファイルに対して Vault ジョブを実行したときに、取り出されるメディアの数が MAP の容量を超えると発生します。

推奨処置: vltopmenu を実行して、選択したプロファイルおよびセッション ID に対するメディアを手動で取り出します。vltopmenu では、MAP 内に存在するすべての (またはそれ以下の数の) 選択したメディアを一度に取り出しできます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 292

メッセージ: 取り出し処理の開始に失敗しました (eject process failed to start)

説明: このエラーは、Vault ジョブ、`vltteject` コマンドまたは `vltopmenu` の使用によって取り出し処理を開始できない場合に発生します。

推奨処置: 問題について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx *ディレクトリの* `summary.log` を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sid*xxx*

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sid*xxx*

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

robtest ユーティリティを使用して、Vault ロボットライブラリとの通信が可能であることを確認します。問題を解決した後、Vault セッション、vlteject コマンドまたは vltopmenu コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 293

メッセージ: 取り出し処理が異常終了しました (eject process has been aborted)

説明: このエラーは、取り出し処理が取り消された場合に発生します。このエラーは、Vault ジョブの実行中、あるいは `vltteject` または `vltopmenu` 取り出しコマンドで発生する場合があります。

このエラーは、次のいずれかの原因によって発生します。

- `vmchange -verify_eject` コールへのパイプを開くことができなかった。
- `vmchange -verify_eject` コールから予期せぬ出力が行われた。
- メディアの取り出し先の MAP 要素が存在しない。
- ロボットライブラリで、MAP へのメディアの配置で問題が発生した。
- ユーザーが、MAP からメディアを取り外さずに、対話モードで Return キーを押した。この場合、MAP に存在したメディアは、ロボットライブラリの元のスロットに戻されます。

推奨処置: 処理が取り消された理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:

```
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx
```

Windows の場合:

install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

多くの場合、このエラーは、メディアがオフサイト Vault ボリュームグループに存在していても、物理的にはロボット内またはロボット MAP 内に存在していることを示します。

この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- オフサイト Vault ボリュームグループに存在するが、物理的にはまだロボットライブラリ内に存在しているすべてのメディアを手動で取り外す。
- ロボットライブラリのインベントリを実行する。インベントリによって、オフサイト Vault ボリュームグループに存在するすべてのメディアがロボットボリュームグループに戻されます。その後、失敗した Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 294

メッセージ**:** Vault カタログバックアップに失敗しました (vault catalog backup failed)

説明**:** Vault ジョブの実行中にカタログバックアップの処理が失敗しました。

推奨処置**:** 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

カタログバックアップ (bpbackupdb) の失敗の原因となった実際の問題を確認するには、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題を修正し、Vault ジョブを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 295

メッセージ: 取り出しプロセスはロボットの情報を取得できませんでした。(eject process could not obtain information about the robot)

説明: このエラーは、取り出し処理で、ロボットライブラリおよび関連する MAP やボリュームの情報を収集できない場合に発生します。

推奨処置: 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*`¥NetBackup¥logs¥vault`

また、問題が発生した次の各 `sidxxx` ディレクトリの `summary.log` を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`

Windows の場合: *install_path*`¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx`

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題を解決した後、Vault セッション、`vlteject` コマンドまたは `vltopmenu` 取り出しコマンドを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 296

メッセージ: プロセスがコールされましたが、実行する対象がありません (process called but nothing to do)

説明: このエラーは、次の場合に発生します。

- -eject を使用して `vlteject` を呼び出したが、取り出すテープがシステムに存在しない。
- -eject を使用して `vlteject` を呼び出したが、取り出しはすでに完了している。
- -report を使用して `vlteject` を呼び出したが、レポートはすでに完了している。
- -eject および -report を使用して `vlteject` を呼び出したが、取り出しおよびレポートの両方がすでに完了している。

推奨処置: このエラーは情報メッセージであり、処置は必要ありません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 297

メッセージ: すべてのボリュームを取り出しに利用できるわけではありません (all volumes are not available to eject)

説明: このエラーは、Vault セッション、`vlteject` コマンドまたは `vltopmenu` コマンドの取り出し処理で、存在しないメディア ID または不適切なメディア ID の取り出しが試行された場合に発生します。

考えられる原因は、次のとおりです。

- `vlt_ejectlist_notify` スクリプトを使用して、不適切なメディア ID が追加された。
- 不適切なメディア ID がすでに MAP に存在しているか、またはロボットライブラリに存在していない。
- 不適切なメディア ID がロボットドライブに存在している。
- 不適切なメディア ID がロボットライブラリで移動中である。

推奨処置: `vlt_ejectlist_notify` スクリプトから問題があるメディア ID を削除または修正し、Vault セッションを再度実行します。 不適切なメディア ID が MAP かドライブに存在しているか、または移動中の場合、構成に誤りがあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 298

メッセージ: ライブラリは、ボリュームを取り出す準備ができていません (the library is not ready to eject volumes)

説明: このエラーは、ロボットライブラリがメディアの取り出しをサポートできない状態である場合に発生します。

考えられる原因は、次のとおりです。

- 現在、ライブラリがメディアを取り出している。
- ライブラリがメディアの取り出しを待機している。
- 現在、ライブラリがメディアを取り込んでいる。
- ライブラリがメディアの取り込みを待機している。

推奨処置: ロボットライブラリが取り出し操作をサポートできる状態になるまで待機して、Vault セッション、`vlteject` コマンドまたは `vltopmenu` コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 299

メッセージ: 取り出しに使用できる MAP がありません (there is no available MAP for ejecting)

説明: Vault 処理を行っているロボットライブラリに、利用可能な MAP が存在せず、メディアを取り出しできません。

推奨処置: ロボットライブラリの MAP が利用可能になるまで待機して、Vault セッション、`vlteject` コマンドまたは `vltopmenu` コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 300

メッセージ: vmchange の取り出し検証の応答がありません (vmchange eject verify not responding)

説明: 取り出し処理中、要求されたすべてのボリュームが MAP に移動するまで、`-verify_eject` コールを使用して `vmchange` コマンドが呼び出されます。このコマンドコールが失敗しました。または、適切な情報が Vault 取り出し処理へ戻されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

  ```
  UNIX: /usr/openv/netbackup/logs/vault
  Windows: install_path¥NetBackup¥logs¥vault
  ```

- また、問題が発生した次の各 `sidxxx` ディレクトリの `summary.log` を参照してください。
  UNIX の場合:`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`
  Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx
  (ここで、*xxx* はセッション ID です。)
  多くの場合、このエラーは、メディアがオフサイト Vault ボリュームグループに存在していても、物理的にはロボット内またはロボット MAP 内に存在していることを示します。この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- オフサイト Vault ボリュームグループに存在するが、物理的にはまだロボット内に存在しているすべてのメディアを手動で削除する。

- ロボットのインベントリを実行する。インベントリによって、オフサイト Vault ボリュームグループに存在するすべてのメディアがロボットボリュームグループに戻されます。その後、失敗した Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 301

メッセージ: vmchange api_eject コマンドは失敗しました (vmchange api_eject command failed)

説明: 取り出し処理中、メディアの取り出し処理を開始するために、`-api_eject` コールを使用して `vmchange` コマンドが呼び出されます。このコマンドコールが失敗しました。

推奨処置: 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 `sidxxx` ディレクトリの `summary.log` を参照してください。

UNIX の場合:`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題が解決したら、Vault セッション、`vlteject` コマンドまたは `vltopmenu` コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 302

メッセージ: カタログのバックアップ (複数テープのカタログバックアップ) を試行して、エラーが発生しました (error encountered attempting backup of catalog (multiple tape catalog backup))

説明: このエラーは、2 段階のカタログバックアップの第 1 段階で使用された NetBackup コマンドが失敗した場合に発生します。

推奨処置: 失敗の原因となった実際のエラーについては、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX の場合:/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

また、次のディレクトリの admin のデバッグログを参照してください。

```
UNIX: /usr/openv/netbackup/logs/admin
Windows: install_path¥NetBackup¥logs¥admin
```

問題を修正し、Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 303

メッセージ**:** Media Manager コマンドの実行中にエラーが発生しました (error encountered executing Media Manager command)

説明**:** このエラーは、Vault ジョブの実行中にメディアおよびデバイスの管理コマンドが失敗した場合に発生します。

推奨処置**:** コマンドの失敗の原因となった実際のエラーについては、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/vault

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX の場合:/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

(ログファイルと同じ引数を使用して) コマンドの実行を試行して、実際のエラーを確認します。メディアおよびデバイスの管理デーモンが実行中であることを確認します。また、ロボットが機能しており、通信可能であることを (GUI を介したロボットのインベントリなどで) 確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 304

メッセージ**:** 指定したプロファイルが見つかりません (specified profile not found)

説明: このエラーは、Vault コマンドで指定されたプロファイル名が、Vault 構成に定義されていない場合に発生します。

推奨処置: Vault 構成に定義されているプロファイル名を指定して、Vault コマンドを再度実行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 305

メッセージ: 複数のプロファイルが存在します (multiple profiles exist)

説明: このエラーは、複数の Vault 構成で重複するプロファイル名が定義されているとき、Vault コマンドにプロファイル名だけが指定されている場合に発生する可能性があります。

推奨処置: *robot_name*/*vault_name*/*profile_name* の 3 つの項目を指定して、Vault コマンドを再度実行します。これによって、Vault 構成のプロファイルが一意に識別されます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 306

メッセージ: ault の複製は、部分的に成功しました (vault duplication partially succeeded)

説明: このエラーは、選択されたイメージのうち、正常に複製されなかったイメージが存在する場合に発生します。

推奨処置: Vault ログおよび `induplicate` のログで失敗した原因を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 307

メッセージ: 要求された Vault セッションの取り出し処理はすでに実行されています (eject process has already been run for the requested vault session)

説明: このエラーは、すでにメディアが取り出されたセッション ID のメディアを取り出すために `vlteject` を実行した場合に発生します。

推奨処置: メディアが取り出されていない別のセッション ID に対して、`vlteject` を再度実行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 308

メッセージ: イメージは複製されていません (no images duplicated)

説明: このエラーは、Vault によるイメージの複製が失敗した場合に発生します。

推奨処置: 詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/vault/sessions/<vault_name/>sidxxx`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥*vault_name*¥sidxxx

(ここで、*vault_name* は、Vault の名前です。また、*xxx* はセッション ID です。)

処理されたイメージの合計数を示すログエントリを調べます。失敗の一般的な原因は、リソースの不足 (複製に指定されたプールに利用可能なメディアが存在しないなど) です。問題を修正し、Vault ジョブを再度実行します。このエラーで終了した Vault ジョブは NetBackup スケジューラによって再試行されます。admin のデバッグログの induplicate エントリおよび bptm のデバッグログを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 309

メッセージ: 取り出しを実行せずにレポートが要求されました (report requested without eject being run)

説明: このエラーは、最初にメディアの取り出しを必要とするレポートが実行された場合に発生します。

推奨処置: 次のいずれかの操作を実行します。

- レポートを生成する前に、vlteject または vltopmenu を実行して、セッションのメディアを取り出す。
- プロファイルを再構成して、このプロファイルの次の Vault セッションが実行されるときに取り出し手順を実行できるようにする。
- プロファイルでメディアの取り出しを必要とするレポートのレポート生成を無効にする。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 310

メッセージ: Media Manager データベースの更新に失敗しました (Updating of Media Manager database failed)

説明: このエラーは、Vault での物理的なテープの取り出しには成功したが、この取り出し操作を反映する EMM データベースの更新に失敗した場合に発生します。この失敗の一般的な原因は、EMM でメディア形式とそのボリュームグループの不一致が検出されたことです。

推奨処置: エラーの根本的な原因を判断するには、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

問題を解決するために、構成の変更が必要となる場合があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 311

メッセージ: このセッション用の Iron Mountain レポートはすでに作成されています (Iron Mountain Report is already created for this session)

説明: このエラーは、セッション用の Iron Mountain レポートがすでに作成されている場合に発生します。

推奨処置: なし。このレポートを再度生成することはできません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 312

メッセージ: 無効なコンテナデータベースエントリ (invalid container database entry)

説明: NetBackup Vault によるコンテナデータベースの読み込み中に、無効なエントリが検出されました。コンテナデータベース内の各コンテナエントリは、想定された形式に従っている必要があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: コンテナデータベースにおける無効なレコードの行番号を取得するには、ディレクトリ netbackup/logs/vault のログファイルを参照してください。エラーが発生する前にディレクトリ netbackup/logs/vault が作成されていないと、Vault ログは作成されません。コンテナデータベースファイル cntrDB を開き、無効なエントリを修正します。無

効なエントリを削除または修正しないかぎり、Vault が cntrDB のこのエントリを読み込むたびにこのエラーが発生します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 313

メッセージ: コンテナデータベースにコンテナが存在しません (container does not exist in container database)

説明: コンテナデータベース内に、指定されたコンテナのエントリが存在しません。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: このコンテナにメディアが含まれていることを vltcontainers コマンドを使用して確認します。メディアが vltcontainers -delete コマンドを使用して削除されていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 314

メッセージ: コンテナデータベースの切り捨て処理に失敗しました (container database truncate operation failed)

説明: ンテナデータベースの切り捨て中にエラーが発生しました。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault のログファイルを参照してください。netbackup/logs/vault ディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 315

メッセージ: コンテナデータベースへの追加に失敗しました (failed appending to container database)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生する場合があります。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、

install_path/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ *install_path*/netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 316

メッセージ: container_id はコンテナデータベースで一意ではありません (container_id is not unique in container database)

説明: NetBackup Vault によるコンテナデータベースへのエントリの追加中に、このコンテナ ID の既存のエントリがコンテナデータベース内に検出されました。コンテナデータベース内の各コンテナレコードには、一意のコンテナ ID が必要です。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 適切なコンテナ ID を指定していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 317

メッセージ: コンテナデータベースのクローズ操作に失敗しました (container database close operation failed)

説明: このエラーは、コンテナデータベースのクローズ中に発生します。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの読み込み、追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 318

メッセージ: コンテナデータベースのロック操作に失敗しました (container database lock operation failed)

説明: このエラーは、コンテナデータベースのロック中に発生します。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

コンテナデータベースが他の Vault 操作で使用中のためロックされている場合は、その操作が完了してコンテナデータベースのロックが解除されるまで待機してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 319

メッセージ: コンテナデータベースのオープン操作に失敗しました (container database open operation failed)

説明: このエラーは、コンテナデータベースのオープン中に発生します。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの読み込み、追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、install_path/netbackup/vault/sessions/cntrDB *のファイル* cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 320

メッセージ: 指定されたコンテナは空ではありません (the specified container is not empty)

説明: まだメディアを保持しているコンテナをコンテナデータベースから削除しようとすると、このエラーが発生します。削除できるのは空のコンテナだけです。

推奨処置: 適切なコンテナ ID を指定していることを確認します。

このコンテナをコンテナデータベースから削除する場合は、まず、次のいずれかを実行してコンテナデータベースを空にします。

- コンテナデータベースに含まれているすべてのメディアをロボットに取り込みます。
- 値 - を使用して `vmchange -vltcid` を実行し、メディアの Vault コンテナ ID フィールドを EMM データベースから消去します。

その後、コンテナを再度削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 321

メッセージ**:** 指定されたロボットのメディアをコンテナに入れることができません (container cannot hold any media from the specified robot)

説明**:** このエラーは、想定外の EMM データベースホストのメディアをコンテナに入れようとしたときに発生します。コンテナに入れるメディアはすべて、同じ EMM データベースホストに属している必要があります。たとえば、ある EMM データベースホストに属するロボットのメディアがあるとします。このメディアを、別の EMM データベースホストに属するロボットのメディアをすでに保持しているコンテナに入れようとすると、このエラーが発生します。

推奨処置**:** 適切なコンテナ ID およびメディア ID を指定していることを確認します。詳しくは、ディレクトリ *install_path*`/netbackup/logs/vault` の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 322

メッセージ**:** Vault 構成ファイルに Vault が見つかりません (cannot find vault in vault configuration file)

説明**:** NetBackup Vault で、指定した Vault 名のエントリが Vault 構成ファイル内に検出されません。Vault 構成ファイルは、*install_path*`/netbackup/db/vault/vault.xml` に存在します。

推奨処置**:** 適切な Vault 名を指定していることを確認します。詳しくは、ディレクトリ `netbackup/logs/vault` の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 323

メッセージ: Vault 構成ファイルにロボットが見つかりません (cannot find robot in vault configuration file)

説明: NetBackup Vault で、指定したロボット番号のエントリが Vault 構成ファイル内に検出されません。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: 適切なロボット番号を指定していることを確認します。詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 324

メッセージ: 複製用の保持マップファイルに無効なデータが見つかりました (invalid data found in retention map file for duplication)

説明: このエラーは、(一般または特定の Vault 用のいずれかの) 保持マップファイルに無効なデータが存在する場合に発生します。ファイル内にデータが多すぎたり少なすぎるか、またはユーザーがファイル内に無効な保持レベルを定義した場合に、このエラーが発生します。

Vault プロファイルの複製が、複製用コピーの 1 つに対して構成されている[マッピングを使用する (Use mappings)]の保持レベルで構成されている場合、保持マップファイルが Vault セッションで使用されます。製品によって、retention_mappings という名前のマップファイルのテンプレートが *install_path*/netbackup/db/vault にインストールされます。

1 つの Vault に対して特定のマップファイルを使用するには、retention_mappings テンプレートを別のファイルにコピーし、Vault の名前をその後ろに付けます。たとえば、/usr/openv/netbackup/db/vault/retention_mappings.V1 のようになります。

推奨処置: retention_mappings ファイルのエントリを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 325

メッセージ: 保持マッピングを使用してイメージのポリシー / スケジュールを検出することができません (unable to find policy/schedule for image using retention mapping)

説明: このエラーは、Vault によるイメージのバックアップポリシーまたはスケジュールの複製で発生します。[プロファイル (Profile)]ダイアログボックスの[複製 (Duplication)]タ

ブで[マッピングを使用する (Use mappings)]オプションが選択されていますが、ポリシーまたはスケジュールは存在しません。

推奨処置: イメージを作成したバックアップポリシーまたはスケジュールがまだ存在するかどうかを確認します。これらのいずれか一方または両方が存在しない場合は、Vaultプロファイルを使用したイメージの複製は実行されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 326

メッセージ: 指定されたファイルに、有効なエントリがありません (specified file contains no valid entry)

説明: 指定したファイルには、メディア ID またはそれに相当するバーコードの英数字の有効なエントリがありません。通常、各行には、想定される形式に従って、メディア ID またはそれに相当するバーコードの英数字のいずれかを表す文字列が 1 つだけ存在します。

推奨処置: 指定したファイルの各エントリは、メディア ID の場合には 6 文字、それに相当するバーコードの数値の場合には 16 文字という文字列のサイズ制限を超えていないことを確認します。指定したファイル内の無効なエントリを修正して、同じ操作を再試行します。詳しくは、ディレクトリ *install_path*/netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 327

メッセージ: 指定された Vault セッションのために取り出されたメディアがありません (no media ejected for the specified vault session)

説明: このエラーは、指定した Vault セッションで取り出されたメディアをコンテナに移動しているときに発生します。指定した Vault セッションでメディアが取り出されていないか、または誤った Vault 名またはセッション ID を指定したかのいずれかです。

推奨処置: Vault 名とセッション ID の正しい組み合わせを指定していることを確認します。指定した Vault セッションで少なくとも 1 つのメディアが取り出されていることを確認します。詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 328

メッセージ: コンテナ ID が無効です (invalid container ID)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。コンテナ ID が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB に存在することに注意してください。

推奨処置: コンテナ ID に空白文字が含まれず、文字列のサイズが最大 29 文字であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 329

メッセージ: 再呼び出し状態が無効です (invalid recall status)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。コンテナの再呼び出し状態が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB に存在することに注意してください。

推奨処置: 再呼び出し状態が 1 または 0 のいずれかであることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 330

メッセージ: 無効なデータベースホスト (invalid database host)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。EMM データベースホスト名が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB に存在することに注意してください。

推奨処置: EMM データベースホスト名に空白文字が含まれず、文字列のサイズが最大 256 文字であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 331

メッセージ: コンテナの説明が無効です (invalid container description)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。コンテナの説明が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB に存在することに注意してください。

推奨処置: コンテナの説明の文字列のサイズが最大 25 文字であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 332

メッセージ: EMM データベースから情報を取得する際にエラーが発生しました (error getting information from EMM database)

説明: このエラーは、バックアップ処理で情報を取得するために EMM データベースへの通信を行ったときに発生する可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合、NetBackup Volume Manager (vmd) が実行中であることを確認します。Windows の場合、NetBackup Volume Manager サービスが実行中であることを確認します。
- プロセス固有のエラーログディレクトリで詳細を確認します。
  UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/process_name
  Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥process_name
  たとえば、Vault コマンド (vltcontainers や vltopmenu など) の実行時にこのエラーが発生した場合は、/usr/openv/netbackup/logs/vault 内のログを参照して、エラーの原因を判断します。

メモ: エラーが発生する前に適切なログディレクトリ (/usr/openv/netbackup/logs/vault など) が作成されていないと、ログファイルは作成できません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 333

メッセージ: Media Manager のコマンドラインから情報を取得する際にエラーが発生しました (error getting information from media manager command line)

説明: このエラーは、Vault でロボット情報 (マッピング情報、ボリューム情報、ライブラリの状態など) を取得できない場合に発生します。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 334

メッセージ: ロボットから応答を受信することができません。ロボットの準備ができていません。(unable to receive response from robot; robot not ready)

説明: このエラーは、ロボットに問題がある場合に発生します。

推奨処置: すべてのメディアおよびデバイスの管理デーモンが実行中であること、またはロボットが稼働中であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 335

メッセージ: メディアを取り出すための一時停止処理中にエラーが発生しました (failure occurred while suspending media for eject)

説明: このエラーは、Vault でメディアを一時停止できない場合に発生します。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 336

メッセージ: セッション情報を更新中にエラーが発生しました (failure occurred while updating session information)

説明: Vault でセッションファイルを更新できません。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 337

メッセージ: eject.mstr ファイルを更新中にエラーが発生しました (failure occurred while updating the eject.mstr file)

説明: Vault で取り出しリストファイルを更新できません。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 338

メッセージ: Vault の取り出しでタイムアウトが発生しました (vault eject timed out)

説明: このエラーは、ロボットに問題がある場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- MAP に空きがない場合は、MAP からメディアを取り外します。
- MAP が正しく閉じられていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 339

メッセージ: Vault 構成ファイルのフォーマットエラー (vault configuration file format error)

説明: Vault 構成ファイルの形式が不正です。ファイルを手動で変更していない場合、これは内部エラーです。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 340

メッセージ: Vault 構成タグが見つかりません (vault configuration tag not found)

説明: 任意の属性が Vault 構成ファイルに存在しない可能性があります。通常、この内部エラーで Vault の操作に問題が発生することはありません。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: Vault の操作が影響を受けている場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマーサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 341

メッセージ: Vault 構成のシリアル化に失敗しました (vault configuration serialization failed)

説明: Vault で、Vault 構成ファイルを書き出せませんでした。これは内部エラーです。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 342

メッセージ: 変更できません - ビューは最新ではありません (cannot modify - stale view)

説明: このエラーは、管理インターフェース ([NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)] または [Vault 管理 (Vault Administration)] メニューのユーザーインターフェース) で次の内容を変更しようとした場合に発生する可能性があります。

- 読み込み中のロボット、Vault またはプロファイル
- 同じロボットまたは Vault の操作
- 別のインスタンスの管理インターフェースによるプロファイル

推奨処置: ロボット、Vault またはプロファイルの最新の属性を確認します。確認するには、[NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)] のビューを更新するか、[Vault 管理 (Vault Administration)] メニューのユーザーインターフェースで属性を再度取得します。その後、操作を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 343

メッセージ: ロボットはすでに存在しています (robot already exists)

説明: このエラーは、ロボットの追加時に同じ名前のロボットがすでに存在している場合に発生する可能性があります。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールのビューを更新するか、Vault 管理のメニュー方式のユーザーインターフェースで属性を再度取得し、ロボットを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 344

メッセージ: Vault はすでに存在しています (vault already exists)

説明: このエラーは、Vault の追加時に同じ名前の Vault がロボット内にすでに存在している場合に発生する可能性があります。

推奨処置: Vault に異なる名前を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 345

メッセージ: プロファイルはすでに存在しています (profile already exists)

説明: このエラーは、プロファイルの追加時に同じ名前のプロファイルが Vault 内にすでに存在している場合に発生する可能性があります。

推奨処置: プロファイルに異なる名前を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 346

メッセージ: MAP の複製 (duplicate MAP)

説明: MAP の複製が Vault 構成ファイルに追加されました。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 347

メッセージ: Vault 構成キャッシュは初期化されていません (vault configuration cache not initialized)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 348

メッセージ: 指定されたレポートは存在しません (specified report does not exist)

説明: 無効な Vault レポートの生成が要求されました。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 349

メッセージ: カタログバックアップポリシーが不正です (incorrect catalog backup policy)

説明: このエラーは、Vault セッションでカタログバックアップを実行しようとした場合に発生する可能性があります。Vault プロファイルでカタログバックアップ用に指定されているポリシーが空白であるか、または NBU-Catalog 形式ではありません。

推奨処置: Vault プロファイルでカタログバックアップ用のカタログバックアップポリシーが指定されていること、およびポリシーが NBU-Catalog 形式であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 350

メッセージ: Vault カタログバックアップスケジュールが不正です (incorrect vault catalog backup schedule)

説明: このエラーは、Vault セッションでカタログバックアップを実行しようとした場合に発生する可能性があります。Vault プロファイルでカタログバックアップ用に指定されている Vault カタログバックアップスケジュールが空白であるか、または Vault カタログバックアップ形式ではありません。

推奨処置: Vault プロファイルでカタログバックアップ用の Vault カタログバックアップスケジュールが指定されていることを確認します。また、スケジュールが Vault カタログバックアップ形式であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 351

メッセージ: Vault のすべての構成済みの手順が失敗しました (all configured vault steps failed)

説明: このエラーは、セッションに複数の Vault の手順が構成されていて、これらのすべての手順が失敗した場合に発生します。

推奨処置: 複製およびカタログバックアップの手順の場合は、アクティビティモニターを使用して、Vault で開始された各ジョブの状態を確認します。取り出しの手順の状態については、Vault ジョブの[ジョブの詳細 (Job Details)]ダイアログボックスの[状態の詳細 (Detailed Status)]タブで確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 400

メッセージ: サーバーグループ形式が無効です (Server Group Type is Invalid)

説明: サーバーグループ形式が無効であるため、サーバーグループを作成できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 有効なサーバーグループ形式 (MediaSharing、NetBackup OpsCenter、または AltServerRestore) を選択します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については統合ログを使用する`nbemm` (オリジネータ ID 111) のログを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 401

メッセージ: サーバーグループはすでに存在しています (Server Group Already Exists)

説明: サーバーグループの作成を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループはすでに存在しています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したサーバーグループ名が使用中でないことを確認します。
- 現在使用されていない名前を指定して、サーバーグループを作成します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッ

グ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 402

メッセージ: サーバーグループは、異なる形式としてすでに存在しています (Server Group Already Exists with a different type)

説明: サーバーグループの作成を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループ名は、異なるグループ形式のサーバーグループによってすでに使用されています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したサーバーグループ名が使用中でないことを確認します。
- 現在使用されていない名前を指定して、サーバーグループの作成を試行します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 403

メッセージ: サーバーグループのアクティブな状態は無効です (Server Group Active State is not valid)

説明: サーバーグループの作成を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループの状態が無効でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 有効なサーバーグループの状態は、ACTIVE および INACTIVE です。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 404

メッセージ: サーバーグループは存在しません (Server Group does not exist)

説明: 存在しないサーバーグループを使用して操作が試行されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したメディアが正しいことを確認します。
- メディアの所有権を確認します。
- サーバーグループが存在することを確認します。
- 操作が実行されるサーバーが、所有しているサーバーグループに含まれていることを確認します。含まれていない場合、所有しているサーバーグループに含まれているサーバーから操作を試行します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 405

メッセージ: メンバーのサーバー形式はサーバーグループと互換性がありません (Member's server type not compatible with Server Group)

説明: サーバーグループの追加または更新を試行しましたが、失敗しました。メンバーのサーバー形式は、指定されたサーバーグループ形式で無効でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- メディア共有サーバーグループには、マスター、メディア、NDMP、およびクラスタの各サーバー形式を含めることができます。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 406

メッセージ: 指定されたコンピュータは、指定されたサーバーグループのメンバーではありません (The computer specified is not a member of the server group specified)

説明: メディアを所有するサーバーグループに含まれていないサーバーが、メディアに対して操作を実行しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したメディアが正しいことを確認します。
- メディアの所有権を確認します。
- 操作が実行されるサーバーが、所有しているサーバーグループに含まれていることを確認します。含まれていない場合、所有しているサーバーグループに含まれているサーバーから操作を試行します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 407

メッセージ: メンバーの NetBackup バージョンはサーバーグループと互換性がありません (Member's NetBackup version not compatible with Server Group)

説明: サーバーグループの追加または更新を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループのいずれかのメンバーの NetBackup バージョンが、指定されたサーバーグループ形式で無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 各メンバーサーバーに NetBackup 7.0 以上がインストールされていることを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 408

メッセージ: サーバーグループは使用中です (Server Group is in use)

説明: サーバーグループの削除を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループが 1 つ以上のメディアを所有しています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーから `bpmedialist -owner group_name` を実行し、サーバーグループがいずれのメディアも所有していないことを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 409

メッセージ: メンバーがサーバーグループ内にすでに存在しています (Member already exists in server group)

説明: サーバーグループの追加または更新を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループのいずれかのメンバーと同じサーバーを追加しようとしています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 追加しようとしているサーバーグループのメンバーがすでにグループ内に存在していないことを確認します。
- この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 501

メッセージ: このアプリケーションを使用する権限がありません。(You are not authorized to use this application.)

説明: ユーザーが、ログインダイアログボックスで指定されたホストの NetBackup-Java 管理ユーティリティのいずれかを使用する権限を所有していません。

推奨処置: NetBackup Java ログインダイアログボックスで指定したホストの `auth.conf` ファイルで、適切な権限の有無を確認します。`auth.conf` ファイルが存在しない場合、ユーザー名の適切なエントリを使用してファイルを作成する必要があります。`auth.conf` ファイルについて、詳細を参照できます。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 502

メッセージ: ユーザー名 username の認可エントリが auth.conf ファイルに存在しません。(No authorization entry exists in the auth.conf file for user name *username*.)NetBackup-Java アプリケーションを利用できません。(None of the NB-Java applications are available to you.)

説明: ユーザー名が、ログオンダイアログボックスで指定されたホストの NetBackup Java アプリケーションを使用する権限を所有していません。

推奨処置: NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定したコンピュータ (ホスト名) の `auth.conf` ファイルで、適切な権限の有無を確認します。ファイルが存在しない場合、ユーザー名の適切なエントリを使用してファイルを作成します。`auth.conf` ファイルについて、詳細を参照できます。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 503

メッセージ: 無効なユーザー名です (Invalid user name)

説明: UNIX ホストへのログオンの場合、ログオンが要求されたホストの NetBackup Java アプリケーションサーバーでユーザー名が認識されていません。

Windows ホストへのログオンの場合、ログオンが要求されたホストの NetBackup Java 認証サービスに、要求を許可する権限がありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX ホストの場合、ユーザー名は、ログオンダイアログボックスで指定したホストの `passwd` ファイルに含まれる有効なユーザー名である必要があります。
- Windows ホストの場合、『プラットフォーム SDK ドキュメント』の「クライアント/サーバーアクセス制御」の章の LogonUser 関数を参照して、必要な権限を判断します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 504

メッセージ: パスワードが不正です。(Incorrect password.)

説明: UNIX ホストへのログオンの場合、ログオンが要求されたホストでユーザー名は認識されていますが、入力されたパスワードが正しくありません。

Windows ホストへのログオンの場合、ユーザーのログオンに失敗しました。この失敗は、指定されたドメインでユーザーが認識されないために発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 正しいパスワードを入力します。
- Windows ホストの場合、bpjava-msvc ログファイルで正確なエラー内容を確認できます。

詳しくは、『プラットフォーム SDK ドキュメント』の「クライアント/サーバーアクセス制御」の章の LogonUser 関数を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 505

メッセージ: 構成ポート (port_number) で (host) 上の NetBackup Java 認証サービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup Java authentication service on *host* on the configured port - (*port_number*).)詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明: NetBackup Java インターフェースからホスト (*host*) 上の認証サービスへの初期接続は、エラーメッセージに示されている構成ポート (port_number) で行われますが、そのポートは他のアプリケーションによって使用されているか、NetBackup Java インターフェースとそのアプリケーションサーバーが同じポートに構成されていません。デフォルトのポートは 13722 です。このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合、/etc/services ファイルの bpjava-msvc エントリと、/usr/openv/java/nbj.conf ファイルの BPJAVA_PORT エントリを比較します。

  Windows の場合、%systemroot%¥system32¥drivers¥etc¥services ファイルと *install_path*¥java¥setconf.bat ファイル (Windows) の bpjava-msvc エントリを比較します。これらのエントリは一致している必要があります。
- 他のアプリケーションによって、NetBackup Java インターフェース用に構成されているポートが使用されていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 506

メッセージ: ポート (port_number) で (host) 上の NetBackup Java ユーザーサービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup Java user service on (*host*) on port (*port_number*).)すでに正常にログインしている場合は、同じ操作をもう一度実

行してください。(If successfully logged in before, retry your last operation.)詳細は、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明**:** NetBackup Java 認証サービスによってユーザー名が検証されると、NetBackup Java インターフェースからの他のすべてのサービス要求に NetBackup Java ユーザーサービスが使用されます。NetBackup Java インターフェースとホスト (*host*) のユーザーサービスの間の通信が、エラーメッセージに示されているポート番号で試行されました。各種ポート構成オプションについて、詳細情報を参照できます。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

- UNIX の場合: ポート構成オプションは、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルに指定されているか、または管理コンソールの[ホストプロパティ (Host Properties)]を使って指定されています。
- Windows の場合: NetBackup 管理コンソールで、[ホストプロパティ (Host Properties)]を選択します。[処理 (Actions)]メニューから[プロパティ (Properties)]を選択します。[ポートの範囲 (Port Ranges)]タブにポートオプションが含まれています。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Java インターフェースを再起動して、再度ログインします。
- 問題が解決しない場合、詳細なデバッグログを有効にします。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 507

メッセージ**:** NetBackup Java ユーザーサービスへのソケットの接続が解除されました。(Socket connection to the NetBackup Java user service has been broken.)最後の操作を再試行してください。(Retry your last operation.)詳細は、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明**:** ログインした NetBackup ホストで実行中の NetBackup-Java アプリケーションサーバーへの接続が切断されました。このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 最後に行った操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合、詳細なデバッグログを有効にします。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

メモ: NetBackup とは関係のない問題がネットワークまたはシステムに存在する場合があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 508

メッセージ**:** ファイルを書き込むことができません (Cannot write file.)

説明**:** このエラーの原因は、次のいずれかです。

- NetBackup Java ユーザーサービスで、書き込み権限がないファイルへの書き込みが試行されました。解決するには、書き込み権限を有効にします。
- NetBackup Java ユーザーサービスで、一意の名前を構成できない一時ファイルへの書き込みが試行されました。この状況はまれですが、システムリソースが不足すると (ネームスペースに空きがなくなると) 発生する場合があります。

推奨処置**:** ユーザーサービスのログファイルから詳細を入手します。

次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 509

メッセージ**:** プログラムを実行できません (Cannot execute program.)

説明**:** NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスによって、ジョブの子プロセスの作成 (または終了) に関連したエラーが通知されました。NetBackup Java サービスプログラムでは、特定のタスクを実行するために、別々のジョブが次のとおり作成されます。NetBackup Java 認証サービスが NetBackup Java ユーザーサービスを作成します。NetBackup Java ユーザーサービスが作成されて接続されると、NetBackup Java インターフェースからの要求のために、NetBackup Java ユーザーサービスによって他のすべての子プロセスが作成されます。

状態コード 509 の原因は、`bpjava-msvc`、`bpjava-susvc`、または `bpjava-usvc` のいずれかの該当するログファイルで確認できます。

原因は、次のいずれかです。

- (NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスのいずれかによって開始された) ジョブが存在しなくなったため、終了状態が通知されなかった。
- (NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスのいずれかによって開始された) ジョブを、NetBackup Java サービスで監視できない。多くの場合、ジョブを監視できない原因は、システムリソース不足 (メモリ不足) です。
- 最大数 (101 以上) の一時的でないアクティビティモニタージョブがすでに開始されている。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「デバッグログの上位レベルへの設定」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログを有効にすると、`bpjava-msvc`、`bpjava-susvc`、または `bpjava-usvc` のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 510

メッセージ**:** ファイルはすでに存在します:file_name (File already exists:*file_name*)

説明**:** NetBackup Java ユーザーサービスで、すでに存在するファイルの作成が試行されました。

推奨処置**:** ファイルを削除します。ファイルは、ユーザーサービスのログファイルに示されます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「NetBackup 管理コンソールのエラーメッセージのトラブルシューティング」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 511

メッセージ: NetBackup-Java アプリケーションサーバーインターフェースのエラー。(NetBackup Java application server interface error.)

説明: 場合によっては、次のメッセージが表示される場合もあります。

```
Check the log file for more details.
```

このエラーは、すべてのソケット以外の I/O 関連エラーまたは接続の切断に関するエラー (状態コード 507) の一般的なエラーで、NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスからデータが処理される場合に発生する可能性があります。Java の例外では、エラーに関する詳細な追加情報が提供されます。

このエラーは、通常、システムまたはネットワークに問題があるために発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログを有効にすると、bpjava-msvc、bpjava-susvc、または bpjava-usvc のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 512

メッセージ: 内部エラー - 終了状態コードを含まない、誤った状態パケットが、NetBackup Java アプリケーションサーバーによって戻されました。(Internal error - a bad status packet was returned by NetBackup Java application server that did not contain an exit status code.)

説明: エラーを示すデータパケットが NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスによって戻されましたが、状態コードまたはエラーメッセージが含まれていませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。

- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログを有効にすると、`bpjava-msvc`、`bpjava-susvc`、または `bpjava-usvc` のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 513

メッセージ**:** bpjava-msvc: クライアントには、このサーバーのバージョン (*server_version*) との互換性がありません (bpjava-msvc: the client is not compatible with this server version (server_version))

説明**:** (ログインしているリモートホストの) NetBackup Java アプリケーションサーバーのバージョンが、ローカルホストの NetBackup Java インターフェースのバージョンと異なります。そのため、この 2 つには互換性がありません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 別の NetBackup リモートホストにログインします。
- ログオンダイアログボックスで指定したコンピュータまたは NetBackup-Java インターフェースを起動したローカルホストのいずれかで、NetBackup ソフトウェアをアップグレードします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 514

メッセージ**:** NetBackup Java: bpjava-msvc には、このバージョン (application_version) のアプリケーションとの互換性がありません。(NetBackup Java: bpjava-msvc is not compatible with this application version (*application_version*).)別の NetBackup ホストへのログインを試みるか、アプリケーションを終了してください。(You may try logon to a different NetBackup host or exit the application.)リモート NetBackup ホストは、アプリケーションを開始したホストと同じバージョンの NetBackup で構成する必要があります。(The remote NetBackup host has to be configured with the same version of NetBackup as the host you started the application on.)

説明**:** 場合によっては、次のメッセージが表示される場合もあります。

```
Check the log file for more details.
```

(ログインしているリモートホストの) NetBackup Java アプリケーションサーバーのバージョンが、ローカルホストの NetBackup Java インターフェースのバージョンと異なります。そのため、この 2 つには互換性がありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 別の NetBackup リモートホストにログインします。
- ログオンダイアログボックスで指定したコンピュータまたは NetBackup-Java インターフェースを起動したローカルホストのいずれかで、NetBackup ソフトウェアをアップグレードします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 516

メッセージ: 要求されたロケール - (*locale_NetBackup Java_was_started_in*) を認識できないか、または初期化できませんでした。(Could not recognize or initialize the requested locale - (locale_NetBackup Java_was_started_in).)

説明: この状態コードは、NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定されたホストで定義されている UNIX のロケール構成 (または Windows の地域設定) に関連します。ロケール構成は、ログオン時に NetBackup Java 認証サービスに渡されます。状態コード 516 は、ロケールが認識されない場合またはユーザーサービスのロケールを初期化できない場合に生成されます。

有効なロケールは、UNIX の `/usr/openv/msg/.conf` ファイルと Windows の *install_path*¥msg¥lc.conf ファイル内の規則によって認識されます。ロケールを検証する際に、ユーザーサービス環境のロケールの初期化が (`setlocale` を使用して) 試行されます。

推奨処置: NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定したホストで、構成ファイルを参照して、指定したロケールでマッピングが利用可能であることを確認します。

ロケールの構成およびマッピングについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

マッピングが存在する場合、NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定したホストで、マッピングされているロケールの設定を試みます。このシステムは、適切に構成できない場合もあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 517

メッセージ**:** ポート configured_port_number でホストの VNETD を介して NetBackup Java ユーザーサービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup Java user service by VNETD on *host* on port *configured_port_number*.)すでに正常にログインしている場合は、最後の操作を再試行してください。(If successfully logged on beforehand, retry your last operation.)詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明**:** NetBackup Java 認証サービスによってログオンダイアログボックスのユーザー名のアクセス権が検証されると、管理コンソールのすべてのサービス要求で NetBackup Java ユーザーサービスが使用されます。管理コンソールとユーザーサービスの間の通信が、VNETD を使用して、エラーメッセージに示されているポート番号でホスト (host) に対して試行されました。(NetBackup Java 構成オプション NBJAVA_CONNECT_OPTION が 1 に設定されています。)このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合: `/etc/services` ファイルの VNETD エントリと、`/usr/openv/java/nbj.conf` ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  Windows の場合: VNETD エントリと *`install_path`*`¥java¥setconf.bat` ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  これらのエントリは一致している必要があります。
- 他のアプリケーションが VNETD 用に構成されたポートを使用していないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 518

メッセージ**:** NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW 構成オプションで、(port_number) から (port_number) の範囲に利用可能なポートが存在しません。(No ports available in range (*port_number*) through (*port_number*) per the NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW configuration option.)

説明**:** 指定された範囲のすべてのポートは使用中です。NetBackup Java インターフェースの (並列実行) ユーザーが多すぎるか、または構成されているポートが少なすぎると、このエラーが発生する可能性があります。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合、`/usr/openv/java/nbj.conf` ファイル (UNIX の場合) または *`install_path`*`¥java¥setconf.bat` ファイル (Windows の場合) の

NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW オプションを変更して、ポートの範囲を広げます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 519

メッセージ: NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW 構成オプションの無効な値: (option_value)(Invalid NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW configuration option value: (*option_value*).)

説明: NetBackup Java 構成オプション NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW の値が無効です。

推奨処置: `/usr/openv/java/nbj.conf` ファイル (UNIX の場合) または *install_path*¥`java¥setconf.bat` ファイル (Windows の場合) の値を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 520

メッセージ: NetBackup Java 構成オプション (option_name) の無効な値: (option_value)。(Invalid value for NetBackup Java configuration option (*option_name*): (*option_value*).)

説明: 指定された NetBackup Java 構成オプションの値が無効です。

推奨処置: `/usr/openv/java/nbj.conf` ファイル (UNIX の場合) または *install_path*¥`java¥setconf.bat` ファイル (Windows の場合) の値を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 521

メッセージ: NetBackup Java 構成ファイル (file_name) は存在しません。(NetBackup Java Configuration file (*file_name*) does not exist.)

説明: NetBackup Java インターフェースの構成ファイルが見つかりませんでした。

推奨処置: NetBackup Java インターフェースの構成ファイルが存在し、適切な形式であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 522

メッセージ**:** 次のエラーのために、NetBackup Java 構成ファイル (file_name) を読み込めません: (message)。(NetBackup Java Configuration file (*file_name*) is not readable due to the following error: (*message*).)

説明**:** 指定された NetBackup Java 構成ファイルは存在しますが、読み込めません。

推奨処置**:** メッセージの指示に従ってファイルを修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 523

メッセージ**:** NetBackup Java アプリケーションサーバープロトコルのエラー。(NetBackup Java application server protocol error.)

説明**:** 場合によっては、次のメッセージが表示される場合もあります。

```
Check the log file for more details.
```

NetBackup Java インターフェースが、アプリケーションサーバーから不適切な形式のプロトコルシーケンスを受信しました。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

メモ: 多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログ ID を有効にすると、`bpjava-msvc`、`bpjava-susvc`, 、または `bpjava-usvc` のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 525

メッセージ**:** ポート vnetd_configured_port_number で (host) 上の VNETD を介して NetBackup Java 認証サービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup

Java authentication service by VNETD on (*host*) on port (*vnetd_configured_port_number*).)詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明**:** NetBackup Java 認証サービスは、ログオンダイアログボックスに入力されたユーザー名の認証を行います。NetBackup 管理コンソールと認証サービスの間の通信が、エラーメッセージに示されている構成された VNETD ポート番号でホスト (*host*) に対して試行されました。このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合: `/etc/services` ファイルの VNETD エントリと、`/usr/openv/java/nbj.conf` ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  Windows の場合: VNETD エントリと *install_path*¥`java¥setconf.bat` ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  これらのエントリは一致している必要があります。
- 他のアプリケーションが VNETD 用に構成されたポートを使用していないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 526

メッセージ**:** bpjava 認証サービスに接続できません (bpjava authentication service connection failed)

説明**:** ポート 1556 (デフォルト) で NetBackup PBX を介して bpjava 認証サービスに接続できません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- PBX サービスかデーモンがサーバーで起動されていること、そして NetBackup サービスが動作していることを確認します。
- ターゲットサーバーが 7.0.1 より前の NetBackup のリリースを実行している場合、Java GUI は VNETD ポート 13724 でさらに接続を試みます。処置は必要ありません。
- Java GUI のプロパティ (`java/nbj.conf`) が 1556 以外の PBX ポートに接続するように設定されているかどうかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 527

メッセージ: ポート 1556 で pbx を使用して bpjava ユーザーサービスに接続できません (bpjava user service connection if connection to pbx on port 1556 fails)

説明: ポート 1556 (デフォルト) で NetBackup PBX を使用して bpjava ユーザーサービスに接続できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- PBX サービスかデーモンがサーバーで起動されていること、そして NetBackup サービスが動作していることを確認します。
- ターゲットサーバーが 7.0.1 より前の NetBackup のリリースを実行している場合、Java GUI は VNETD ポート 13724 でさらに接続を試みます。処置は必要ありません。
- Java GUI のプロパティ (`java/nbj.conf`) が 1556 以外の PBX ポートを試行するように変更されているかどうかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 538

メッセージ: ログインできません

説明: ホスト上の bpjava ユーザーに接続するときに X.509 証明書の検証が失敗しました。このエラーは、NetBackup ホストとこのコンピュータ間でのクロックスキューにより発生する場合があります。この問題は、リモート管理コンソールの呼び出しを行ったホストと、マスターサーバー間で生じている時差が 24 時間を超えている場合に発生します。

推奨処置: 両方のホストで時間を同期させるか、時差を 24 時間未満にしてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 600

メッセージ: 例外条件が発生しました (an exception condition occurred)

説明: 合成バックアップジョブで例外状況が発生しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマーサポートに連絡して、該当するデバッグログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 601

メッセージ: listen ソケットを開けません (unable to open listen socket)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバー上でバックアップイメージの読み込みまたは合成イメージの書き込みを行うために起動された bptm または bpdm プロセスからの着信接続要求を待機するソケットをオープンできません。

推奨処置: bpsynth が NetBackup エラーログに記録したエラーメッセージ内にある OS エラーを確認します。このエラーを参照して、問題を診断します。bpsynth バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 602

メッセージ: listen ソケットで非ブロッキングモードに設定することができません (cannot set non-blocking mode on the listen socket)

説明: bpsynth プロセスが、listen ソケットに非ブロッキングソケットオプションを設定できません。

推奨処置: NetBackup エラーログに記録されたエラーメッセージ内にある OS エラーを確認します。このエラーを参照して、問題を診断します。bpsynth バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。問題が解決しない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマーサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 603

メッセージ: 新しい接続を受け入れるのためのハンドラを登録できません (cannot register handler for accepting new connections)

説明: bpsynth プロセスが、listen ソケットを ACE リアクタに登録できません。

推奨処置: bpsynth バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 604

メッセージ: 新しいジョブにターゲットストレージユニットが指定されていません (no target storage unit specified for the new job)

説明: NetBackup によって認識されているストレージユニットと指定されたターゲットストレージユニットとの間で不一致が発生しました。

推奨処置: 合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 605

メッセージ: ジョブに対するエラー通知を受信しました (received error notification for the job)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 606

メッセージ: メディアを読み込むことができるロボットがありません (no robot on which the media can be read)

説明: このエラーは、合成対象のバックアップイメージが存在する特定のメディア ID の読み込みを行うロボットが検出されない場合に、bpsynth によって戻されます。メディア ID は、bpsynth によって記録されるメッセージに書き込まれます。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 607

メッセージ: 合成するイメージが見つかりませんでした。(no images were found to synthesize)

説明: 指定されたポリシーの合成対象のイメージを取得するデータベース問い合わせによって、イメージが戻されませんでした。

推奨処置: 合成完全バックアップの場合、合成する 1 つの完全イメージ (実または合成) とそれに続く 1 つ以上の増分イメージ (差分または累積) が存在することを確認します。合成累積増分バックアップの場合には、合成する 2 つ以上の増分イメージ (差分または累積) が存在する必要があります。合成バックアップジョブを実行する前に、該当するバックアップジョブが完了するようにスケジュールを調整します。失敗してこのエラーコードが表示された場合には、この合成バックアップジョブはスケジューラによって再試行されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 608

メッセージ: ストレージユニットの問い合わせに失敗しました (storage unit query failed)

説明: すべてのストレージユニットを取得するデータベース問い合わせが失敗しました。

推奨処置: bpdbm プロセスが実行中であり、NetBackup エラーログに記録されたエラーがないことを確認します。bpdbm プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) を再起動し、合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 609

メッセージ: リーダーでエラーが発生しました (reader failed)

説明: bptm または bpdm リーダープロセスにエラーが発生して終了しました。

推奨処置: NetBackup エラーログで、bpsynth および bptm または bpdm リーダーが記録したエラーを参照してください。エラーメッセージには、bptm または bpdm リーダーが通知した実際のエラーが含まれています。bptm または bpdm リーダーが通知したエラーについて詳しくは、『NetBackup **トラブルシューティングガイド**』を参照してください。メディアが存在しないか、メディアに問題があるか、またはメディアの読み込みに使用されたドライブに問題がある可能性があります。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 610

メッセージ: 終端がエラーで終了しました (endpoint terminated with an error)

説明: bptm または bpdm プロセスへの接続時にエラーが表示されました。

推奨処置: NetBackup エラーログで、bpsynth および bptm または bpdm プロセスが記録したエラーを確認します。詳しくは、これらのプロセスのデバッグログを参照してくださ

い。bptm または bpdm プロセスが検出したエラー状態またはマスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワークの問題が原因で、接続が切断された可能性があります。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。ジョブを再試行し、それでも問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 611

メッセージ**:** リーダーに接続できません (no connection to reader)

説明**:** リーダーと通信するための bptm または bpdm リーダープロセスとの接続が存在しません。

推奨処置**:** このエラーは通常は発生しません。問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 612

メッセージ**:** bpsynth へエクステントを送信できません (cannot send extents to bpsynth)

説明**:** このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置**:** 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 613

メッセージ: メディアサーバーへの読み取り接続ができません。(cannot connect to read media server)

説明: bpsynth プロセスが、バックアップイメージの読み込みを行うためにメディアサーバーに接続できませんでした。

推奨処置: マスターサーバーと指定したメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpsynth が記録したエラーメッセージを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bpcd と bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 614

メッセージ: メディアサーバー上でリーダーを起動できません (cannot start reader on the media server)

説明: bpsynth プロセスが、合成対象のバックアップイメージを読み込むために bptm または bpdm プロセスを起動できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup エラーログを調べ、bpsynth が記録したエラーを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bpcd と bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。メディアサーバー上の bptm または bpdm バイナリが実行可能であり、破損していないことを確認します。メディアサーバー上で bptm または bpdm コマンドをローカルで実行して、このバイナリが実行可能であり破損していないことを確認します。たとえば、次のコマンドを実行します。

  ```
  /bp/bin/bptm -count -rn 0 -rt 8
  ```

  ここで、ロボット番号は 0、ロボット形式は 8 です。ロボット番号に対応するロボット形式は、bptm のデバッグログに記録されるコマンドラインから取得できます。このコマンドでは、ロボット内で起動、共有および割り当てが行われたドライブの数が表示されます。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 615

メッセージ: 内部エラー 615 (internal error 619)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 616

メッセージ: 内部エラー 616 (internal error 619)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 617

メッセージ: リーダー処理の開始に使用できるドライブがありません (no drives available to start the reader process)

説明: 合成対象のバックアップイメージを読み込むための bptm プロセスを起動できるドライブがありません。

推奨処置: ジョブを再度実行する前に、十分な数のドライブが利用可能であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 618

メッセージ: 内部エラー 618 (internal error 619)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 619

メッセージ: 内部エラー 619 (internal error 619)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 620

メッセージ: 内部エラー 620 (internal error 619)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 621

メッセージ: bpcoord に接続できません (unable to connect to bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 622

メッセージ: ピアプロセスへの接続が存在しません (connection to the peer process does not exist)

説明: bptm または bpdm ピアプロセスへの基礎となる接続が存在しません。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 623

メッセージ: fork されたプロセスでのコマンドの実行に失敗しました (execution of a command in a forked process failed)

説明: この失敗は、通常、bpcd を介してメディアサーバー上でコマンドを実行しているときに発生します。NetBackup エラーログを調べ、他のエラーメッセージを確認します。また、失敗の原因を特定する場合は、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bpcd のデバッグログを参照してください。この失敗の一般的な原因は、メモリ不足、空きのないファイルシステムまたはスワップ領域不足です。

推奨処置: ジョブを再試行し、それでも問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 624

メッセージ: メディアサーバーでのリーダー/ライターのプロセスに対して、開始コマンドを送信できません (unable to send a start command to a reader/writer process on media server)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスにコマンドを送信できません。

推奨処置: マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。他のエラーメッセージについては、NetBackup エラーログを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 625

メッセージ: データのマーシャリングエラー (data marshalling error)

説明: ネットワーク接続を介したデータの送信中に、問題が発生しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 626

メッセージ: データのアンマーシャリングエラー (data un-marshalling error)

説明: bpsynth が受信したメッセージの解析中に問題が発生しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 627

メッセージ: bpsynth から予期しないメッセージを受信しました (unexpected message received from bpsynth)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 628

メッセージ: 受信したデータが不十分です (insufficient data received)

説明: このエラーは、次の場合に発生します。入力ソケットからデータが部分的に読み込まれ、メッセージを構成する残りのデータが読み込まれるまで解析が不可能な場合。このエラーは下位層で発生し、プロセスが終了する原因にはなりません。

推奨処置: このエラーが原因で bpsynth バイナリがハングアップしたり正常に実行されない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマーサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 629

メッセージ: bptm から受信したメッセージはありません (no message was received from bptm)

説明: このエラーは、bptm を使用して実行したコマンドまたは問い合わせに対して、bptm プロセスからのメッセージが受信されない場合に戻されます。

推奨処置: 他のエラーメッセージについては、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm の NetBackup エラーログと、デバッグログを確認します。メディアサーバーのシステムの状況 (メモリ不足、空きのないファイルシステム、スワップ領域不足など) によって、bptm プロセスが応答を送信できない可能性があります。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。エラーの原因が特定できず、問題が解決しない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマーサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 630

メッセージ: bptm から予期しないメッセージを受信しました (unexpected message was received from bptm)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 631

メッセージ: メディアの一時停止を要求する bptm からエラーを受け取りました (received an error from bptm request to suspend media)

説明: bpsynth プロセスが、合成対象のイメージが 1 つ以上存在するメディアを一時停止できませんでした。bpsynth のレガシーログのメッセージに、一時停止されるメディア ID が示されます。また、bpsynth のログには、リスト内のどのメディアが一時停止されなかったかを示すエラーメッセージが表示されます。`media (ordinal)` に、リスト内の順序を使用して、一時停止されなかったメディアが示されます。たとえば、一時停止されなかったメディアがリスト内の 2 番目のメディアである場合、エラーメッセージには `media (1)` と示されます。

推奨処置: `bptm` デバッグログを調べ、一時停止の失敗の原因に関する情報を確認します。`bpsynth` プロセスは、このエラーを無視して処理を継続します。読み込み対象のイメージが含まれるメディアを別のバックアップジョブまたはリストアジョブに割り当てる場合に失敗する可能性があります。合成バックアップジョブが失敗した場合は、一時停止できなかった原因となる状況を修正し、ジョブを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 632

メッセージ: メディアの一時停止解除を要求する bptm からエラーを受け取りました (received an error from bptm request to un-suspend media)

説明: `bpsynth` プロセスが、合成バックアップジョブを開始するときに bpsynth によって一時停止されたメディアについて、一時停止を解除できませんでした。bpsynth のレガシーログのメッセージに、一時停止を解除されるメディア ID が示されます。また、`bpsynth` のログには、リスト内のどのメディアが一時停止を解除されなかったかを示すエラーメッセージも表示されます。`media (ordinal)` に、リスト内の順序を使用して、メディアが示されます。たとえば、一時停止が解除されなかったメディアがリスト内の 2 番目のメディアである場合、エラーメッセージには `media (1)` と示されます。

推奨処置: メディアサーバー上の `bptm` プロセスのデバッグログで、一時停止解除の失敗の原因およびメディア ID を確認します。`bpmedia` コマンドを使用して、手動でテープの一時停止解除を試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 633

メッセージ: vnetd によるサービスの listen および登録ができません (unable to listen and register service by vnetd)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 634

メッセージ: ライター処理の開始に使用できるドライブがありません (no drives available to start the writer process)

説明: ライターのターゲットストレージユニットに利用可能なドライブがないため、bpsynth プロセスが合成バックアップジョブを開始できません。このストレージユニットを使用しているリストアジョブまたは別の合成バックアップジョブが存在する可能性があります。

推奨処置: 合成バックアップスケジュールに構成されているターゲットストレージユニットに、合成バックアップイメージの書き込みに使用できるドライブが存在することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 635

メッセージ: リアクタのハンドルを登録できません (unable to register handle with the reactor)

説明: ハンドル上のイベントを監視するために、ハンドルを ACE リアクタに登録することができません。このエラーは、bpsynth で発生する場合があります。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、このジョブについて記録されたエラーを確認します。詳しくは、bpsynth のデバッグログを参照してください。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 636

メッセージ: 入力ソケットからの読み取りに失敗しました (read from input socket failed)

説明: 入力ソケットからの読み込みに失敗しました。基礎となる接続が切断されています。

推奨処置: 入力ソケットからの読み込み中に、bpsynth プロセスでエラーが発生しました。このソケットは、bpsynth と、bptm または bpdm の間にある可能性があります。

NetBackup エラーログに記録される errno には、失敗の原因が示されます。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上のリーダーまたはライタープロセス bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 637

メッセージ: 出力ソケットへの書き込みに失敗しました (write on output socket failed)

説明: 出力ソケットへの書き込みが失敗しました。基礎となる接続が切断されています。

推奨処置: 出力ソケットへの書き込み中に、bpsynth プロセスでエラーが発生しました。このソケットは、bpsynth と、bptm または bpdm の間にあります。

NetBackup エラーログに記録される errno には、失敗の原因が示されます。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上のリーダーまたはライタープロセス bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。マスターサーバーとメディアサーバーの間の接続を確認します。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 638

メッセージ: 無効な引数が指定されました (invalid arguments specified)

説明: 不適切な引数を指定すると、bpsynth コマンドは失敗して、このエラーコードが表示されます。

推奨処置: 適切な引数の指定について詳しくは、bpsynth のコマンドライン引数 (-help を使用して) を参照してください。コマンドラインから手動で合成バックアップジョブを開始した場合は、bpsynth の引数を修正してジョブを再度実行します。合成バックアップジョブがスケジュールされていたか、またはコンソールから開始された場合は、bpsynth および nbjm バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 639

メッセージ: 指定されたポリシーが存在しません (specified policy does not exist)

説明: bpsynth コマンドで指定されたポリシーがデータベースに存在しません。bpsynth コマンドは、コマンドラインまたは nbjm から実行されました。bpsynth が nbjm によって起動された場合、bpsynth が nbjm によって起動された後、かつ bpsynth がデータベース問い合わせを発行する前に、ポリシーが削除された可能性があります。

推奨処置: コマンドラインを使用して bpsynth を起動した場合は、既存のポリシーでこのコマンドを再度実行します。次の内容を確認しても問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

- 合成バックアップジョブがスケジュールされていたか、または NetBackup 管理コンソールを使用して (手動で) 開始された。
- bppllist コマンドの構成内にポリシーが存在している。
- nbjm のログを確認します。このプロセスは統合ログ (OID 117) を使用します。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 640

メッセージ: 指定されたスケジュールが見つかりませんでした (specified schedule was not found)

説明: bpsynth コマンドのスケジュールが、次のいずれかの原因で、データベース内の指定されたポリシーの定義に存在しません。

- bpsynth コマンドがコマンドラインから実行された。

- bpsynth が nbjm によって起動された後、かつ bpsynth がデータベース問い合わせを発行する前に、指定したスケジュールがポリシーから削除された。

推奨処置: コマンドラインから bpsynth を実行した場合は、実行する合成バックアップジョブのポリシーで定義した正しい合成スケジュールラベルを使用して、コマンドを再度実行します。 合成バックアップジョブがスケジュールされていたか、または NetBackup 管理コンソールを使用して開始された場合は、ポリシー内に新しいスケジュールを定義して、ジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 641

メッセージ: ストレージユニットで無効なメディア形式が指定されました (invalid media type specified in the storage unit)

説明: ターゲットストレージユニットで指定されたメディア形式が、合成バックアップに対して無効です。合成バックアップイメージは、ディスク、ディスクステージングおよび Media Manager 形式のストレージユニットだけに書き込むことができます。

推奨処置: 合成バックアップ用に構成されているターゲットストレージユニットが、(NDMP 形式ではなく) ディスク、ディスクステージングまたは Media Manager 形式であることを確認します。適切なストレージユニットを使用して合成バックアップを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 642

メッセージ: 重複したバックアップイメージが検出されました (duplicate backup images were found)

説明: データベース問い合わせによって、重複したバックアップ ID が戻されました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 643

メッセージ: bpcoord から予期しないメッセージを受け取りました (unexpected message received from bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 644

メッセージ: エクステント指示句に不明なメディア ID が含まれていました (extent directive contained an unknown media id)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 645

メッセージ: メディアサーバー上でライターを開始できません (unable to start the writer on the media server)

説明: bpsynth プロセスが、合成イメージを書き込むために、ターゲットストレージユニットに関連付けられたメディアサーバー上で bptm プロセスまたは bpdm プロセスを起動できませんでした。

推奨処置:

NetBackup エラーログを調べ、bpsynth が記録したメッセージを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bpcd と bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。メディアサーバー上の bptm または bpdm バイナリが実行可能であり、破損していないことを確認します。メディアサーバー上で bptm または bpdm コマンドをローカルで実行して、このバイナリが実行可能であり破損していないことを確認します。たとえば、次のコマンドを実行します。

```
install_path/netbackup/bin/bptm -count -rn 0 -rt 8
```

ここで、ロボット番号は 0、ロボット形式は 8 です。ロボット番号に対応するロボット形式は、bptm のデバッグログに記録されるコマンドラインから取得できます。このコマンドでは、ロボット内で起動、共有および割り当てが行われたドライブの数が表示されます。合成イメージがディスクストレージユニットに書き込まれる場合、次のコマンドを実行して bpdm バイナリを確認します。

```
install_path/netbackup/bin/bpdm
```

次のように表示されます。

```
bpdm: media manager operation not specified
```

合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 646

メッセージ: ローカルの listen ソケットのアドレスを取得できません (unable to get the address of the local listen socket)

説明: bpsynth プロセスが、オープンした listen ソケットのアドレスを取得できません。bpsynth プロセスは、ソースイメージの読み込みのために起動された bptm または bpdm プロセスから着信接続要求を受信するためにこのアドレスが必要です。このエラーは通常は発生しません。listen ソケットのアドレスを取得するために使用したライブラリコールは、ソケットのアドレスを取得するための内部で使用しているシステムコールに依存しています。エラーメッセージにはシステムコールが通知する errno が含まれ、このエラーを参照して問題を診断します。

推奨処置: 合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 647

メッセージ: 合成イメージの検証に失敗しました (validation of synthetic image failed)

説明: このエラーは、bpsynth が、合成イメージを検証するデータベース呼び出しからエラーを受信した場合に戻されます。

推奨処置: このエラーは、合成バックアップ処理に問題があることを示します。NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm プロセスが記録したエラーを確認します。これらのプロセスのデバッグログで、追加情報を確認します。問題が解決しない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマーサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 648

メッセージ: BPXM にエクステントメッセージを送信できません (unable to send extent message to BPXM)

説明: bpsynth プロセスが、合成対象に指定されたバックアップイメージを読み込むために起動された bptm または bpdm プロセスにエクステント情報を送信できません。

推奨処置: このエラーは、bpsynth とメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスの間の通信に問題があることを示します。メディアサーバーがアクセス可能であること、および bptm または bpdm プロセスがメディアサーバー上で実行中であることを確認します。NetBackup エラーログを調べ、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスが記録したエラーを確認します。bpsynth および bptm または bpdm のデバッグログを調べ、追加情報を確認します。合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場

合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 649

メッセージ: BPXM から予期しないメッセージを受け取りました (unexpected message received from BPXM)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 650

メッセージ: bpcoord にエクステントメッセージを送信できません (unable to send extent message to `bpcoord`)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 651

メッセージ: ポリシーのデータベース問い合わせを発行できません (unable to issue the database query for policy)

説明: bpsynth プロセスが、ポリシーのデータベース問い合わせを送信できませんでした。

推奨処置: このエラーは、bpsynth と bpdbm の間の通信に問題があることを示します。bpdbm が実行中で、bpdbm バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpdbm および bpsynth が記録したエラーを確認します。bpsynth および bpdbm のデバッグログを調べ、追加情報を確認します。bpdbm プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) を再起動し、合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 652

メッセージ: ポリシー情報のデータベース問い合わせを発行できません (unable to issue the database query for policy information)

説明: bpsynth プロセスが、ポリシーの詳細情報のデータベース問い合わせを送信できませんでした。

推奨処置: このエラーは、bpsynth と bpdbm の間の通信に問題があることを示します。bpdbm が実行中であることを確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpdbm および bpsynth が記録したエラーを確認します。bpsynth および bpdbm のデバッグログを調べ、追加情報を確認します。bpdbm プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) を再起動し、合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 653

メッセージ: bpcoord にメッセージを送信できません (unable to send a message to bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 654

メッセージ: 内部エラー 654 (internal error 619)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 655

メッセージ: コマンドラインでターゲットストレージユニットが指定されていませんでした (no target storage unit was specified by command line)

説明: `bpsynth` コマンドライン (-S) でターゲットストレージユニットが指定されていませんでした。

推奨処置: -S オプションを使用してターゲットストレージユニットを指定し、`bpsynth` を再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 656

メッセージ: 合成の開始メッセージを bpcoord に送信できません (unable to send start synth message to `bpcoord`)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 657

メッセージ: リーダーからの接続を受け入れることができません (unable to accept connection from the reader)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバーで実行中の bptm または bpdm リーダープロセスからの接続を許可できませんでした。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm リーダープロセスが記録したエラーを確認します。bpsynth が記録したメッセージには、システムコールが通知したエラー (errno) が含まれます。マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスのデバッグログで、詳細を確認します。マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 658

メッセージ: ライターからの接続を受け入れることができません (unable to accept connection from the writer)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバーで実行中の bptm または bpdm ライタープロセスからの接続を許可できませんでした。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm ライタープロセスが記録したエラーを確認します。bpsynth が記録したメッセージには、システムコールが通知したエラー (errno) が含まれます。また、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスのデバッグログで、詳細を確認します。マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。問

題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 659

メッセージ: ライターの子プロセスにメッセージを送信できません (unable to send a message to the writer child process)

説明: bpsynth プロセスが、bptm または bpdm ライターに、bptm または bpdm リーダーのホスト名とポート番号を含むメッセージを送信できませんでした。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm ライタープロセスが記録したエラーを確認します。マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスのデバッグログで、詳細を確認します。マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 660

メッセージ: メディアリソースの要求が失敗しました (request for media resource failed)

説明: NetBackup 内部エラーのため、リソースの要求が失敗しました。

推奨処置: 次の項で説明するとおり、ログを作成します。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

ジョブを再実行し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートにログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 661

メッセージ: 終了メッセージを BPXM リーダーに送信できません (unable to send exit message to the BPXM reader)

説明: bpsynth プロセスが、エクステントメッセージの終わりを示す終了メッセージをメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスに送信できません。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続が切断されているか、あるいは bptm または bpdm リーダープロセスが終了している可能性があります。

推奨処置: マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm リーダープロセスが記録したエラーを確認します。マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスのデバッグログを調べ、追加情報を確認します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 662

メッセージ: BPXM からの合成コンテキストメッセージで、不明なイメージが参照されています (unknown image referenced in the synth context message from BPXM)

説明: bpsynth プロセスが、bpsynth にとって不明なメディア ID への参照を持つエクステントメッセージを bptm または bpdm リーダーから受信しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 663

メッセージ: イメージにフラグメントマップがありません (image does not have a fragment map)

説明: bpsynth プロセスが、bpdbm からフラグメントマップのないイメージを受信しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 664

メッセージ: 合成イメージの中に 0 エクステントがあるため、処理できません (zero extents in the synthetic image, cannot proceed)

説明: bpsynth プロセスが、bpdbm から 0 エクステントを受信しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 665

メッセージ: bpcoord により終了が要求されました (termination requested by bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 667

メッセージ: bpsynth と bpcoord の間のパイプを開くことができません (unable to open pipe between bpsynth and bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 668

メッセージ: bpcoord からの pipe を使った fgets のコールに失敗しました。(pipe fgets call from bpcoord failed)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 669

メッセージ: bpcoord の起動の検証に失敗しました。(`bpcoord` startup validation failure)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 670

メッセージ: 送信バッファに空きがありません (send buffer is full)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 671

メッセージ: コンポーネントイメージのリストの問い合わせに失敗しました (query for list of component images failed)

説明: 必要なコンポーネントイメージに問題があるため、新しい合成イメージを作成できません。たとえば、日曜日の前回の完全イメージ、および月曜日から金曜日までの 5 つの差分増分イメージを使用して、新しい合成完全バックアップの作成が試行されるとします。そのいずれかのイメージ (金曜日の最新のイメージを除く) の期限が切れていると、このエラーが発生します。

推奨処置: 失敗したバックアップの形式に応じて、非合成バックアップ (新しい完全バックアップまたは新しい累積増分バックアップ) を実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 800

メッセージ: リソース要求が失敗しました (resource request failed)

説明: `nbjm` プロセスが、ジョブに必要なリソースを取得できませんでした。この状態コードは、アクティビティモニターのジョブの詳細表示および `nbjm` のデバッグログに示される EMM 原因文字列とともに表示されます。EMM 原因文字列には、リソースの要求が失敗した原因が示されます。

推奨処置: EMM 原因文字列を確認し、問題を修正してからジョブを再度実行します。

一般的ないくつかの EMM 原因文字列 ([ディスクボリュームが停止しています (`Disk volume is down`)]など) では、失敗の原因を判断するために、レポートの生成が必要な場合があります。`bperror` またはさまざまなログエントリのレポートのいずれかを使ってレ

ポートを生成します。たとえば、NetBackup 管理コンソールで[レポート (Reports)] > [ディスクのレポート (Disk Reports)] > [ディスクのログ (Disk Logs)]を選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 801

メッセージ**:** JM 内部エラー (JM internal error)

説明**:** nbjm プロセスで内部エラーが発生しました。

推奨処置**:** 問題が解決しない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥Netbackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 802

メッセージ**:** JM 内部プロトコルエラー (JM internal protocol error)

説明**:** このエラーは、nbjm と通信しようとした外部プロセスでプロトコルエラーが発生した場合に、nbjm によって戻されます。外部プロセスは、bptm、tpreq、bplabel、dqts、vmphyinv、nbpem などです。

推奨処置**:** マスターサーバーおよびメディアサーバー上の NetBackup ソフトウェアが、正規版の NetBackup であることを確認します。

問題が解決しない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥Netbackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 803

メッセージ: JM を終了しています (JM terminating)

説明: 既存のジョブまたは新しいジョブに対するサービス要求を受信しましたが、nbjm プロセスは停止していました。

推奨処置: (/usr/openv/netbackup/bin/bp.kill_all コマンド (UNIX の場合) または install_path¥NetBackup¥bin¥bpdown *(Windows の場合) を入力して)* nbjm が明示的に終了されていない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm

- クライアントの bpcd および bpbkar

レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥Netbackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。

- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 805

メッセージ**:** ジョブ ID が無効です (invalid jobid)

説明**:** nbjm プロセスが受信した要求に指定されているジョブ ID が無効です。

推奨処置**:**

要求された操作は、すでに存在しないジョブまたは nbjm で認識されないジョブである可能性があります。または、ジョブ ID が無効 (0 以下) です。ジョブの開始に使用するコマンドで、他のジョブがすでに使用しているジョブ ID を指定していないことを確認します。

問題が解決しない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥Netbackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行する必要があります。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 806

メッセージ: この mpx グループは結合できません (this mpx group is unjoinable)

説明: このエラーはタイミングの問題です。エラー状態が原因で bpbrm が停止したときにジョブが多重化グループに追加されると、このエラーが発生する可能性があります。Resource Broker (nbrb) によって多重化グループの割り当てが行われ、Job Manager (nbjm) によって bpbrm プロセスの開始と監視が行われます。

推奨処置: 失敗したジョブがスケジュールジョブである場合、再試行が可能なときは、nbpem によってジョブが再度実行されます。失敗したジョブが手動で開始されたジョブである場合、再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 807

メッセージ: 外部化されていません (not externalized)

説明: 該当なし。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 811

メッセージ: リソース要求元との通信に失敗しました (failed to communicate with resource requester)

説明: Job Manager (nbjm) がプロセス (通常は bptm) に、そのプロセスが要求したリソースの状態を通知しようとしました。通信に問題があるため、その通知は失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーとメディアサーバーの間の接続を確認します。
- PBX (Private Branch Exchange) の構成および権限を確認します。PBX の詳細情報を参照できます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「PBX の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 812

メッセージ: Resource Broker との通信に失敗しました (failed to communicate with Resource Broker)

説明: Job Manager (nbjm) が、Resource Broker (nbrb) に対して要求を実行しようとしました。通信に問題があるため、その要求は失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーと EMM サーバーの接続を検証します。
- PBX (Private Branch Exchange) の構成および権限を確認します。PBX の詳細情報を参照できます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「PBX の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 813

メッセージ: 重複する参照文字列が指定されました (duplicate reference string specified)

説明: 参照文字列は、tpreq コマンドの -f オプションで指定したファイル名です。tpreq に指定されたファイル名が、他の tpreq ですでに使われています。

推奨処置: 使用されていない一意の名前を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 818

メッセージ: 保持レベルの不一致 (retention level mismatch)

説明: 割り当て済みメディアの保持レベルがポリシーで構成されている保持レベルと一致しない場合、ジョブは失敗し、このエラーコードが表示されます。

推奨処置: NetBackup のテクニカルサポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 819

メッセージ: JM プロキシと通信できません (unable to communicate with JM proxy)

説明: Job Manager が nbproxy と通信できません。

推奨処置: Job Manager を再起動します。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 823

メッセージ: 結合する BRMComm が存在しません (no BRMComm to join)

説明: ジョブを多重化グループに追加できませんでした。このエラーは内部エラーです。

推奨処置: レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥Netbackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 830

メッセージ: ドライブは使用不可か、または停止しています (drive(s) unavailable or down)

説明: このジョブのために使うことができるすべての構成されたドライブが停止しています。

次のいずれかの状態が発生しています。

- ジョブに対して要求されたメディアのドライブが構成されていません。
- ジョブは NDMP ドライブパスを必要としますが、NDMP ドライブパスは起動していないか、または構成されていません。
- ジョブは NDMP ドライブパスを使うことができませんが、ドライブの起動しているか、設定されているドライブパスはこれのみです。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ドライブとドライブパスが起動していて、構成するメディアに対して適切であることを確認してください。
- `ltid` が必要なメディアサーバーで動作していること、そしてそのメディアサーバーがテープに対してアクティブであることを検証します。
- ドライブパスが停止している場合は、起動するためにデバイスモニターを使います。
- ドライブが再度停止した場合は、ドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 831

メッセージ: イメージが検証されました (image has been validated)

説明: ジョブの再試行は、前回の試行からのイメージがすでに検証されているため失敗します。このエラーは、ジョブの成功状態を受信する前に `nbjm` が終了した場合に発生する可能性があります。この状態コードはタイミングの問題のみを示します。

推奨処置: 修正処置は必要ありません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 832

メッセージ: 検出データのファイルへの書き込みに失敗しました。

説明: Job Manager (`nbjm`) は、`netbackup/bin/bpsched.d` ディレクトリ内の一時ファイルに書き込めません。

推奨処置: ファイルシステムに空きがあることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 833

メッセージ: 検出された XML データの解析エラー (error parsing discovered XML data)

説明: Job Manager は検出から戻された XML ドキュメントを解析できませんでした。このエラーは内部エラーです。

推奨処置: レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥Netbackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 900

メッセージ: nbrb 要求を後で再試行してください (retry nbrb request later)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb サービス) が、要求に応答できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 901

メッセージ: RB 内部エラー (RB internal error)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb サービス) で、内部エラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 902

メッセージ: 無効な RB 引数 (RB invalid argument)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb サービス) で、無効な引数が検出されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 903

メッセージ: RB 通信エラー (RB communication error)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb サービス) で、通信エラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 904

メッセージ: RB の再割り当ての最大試行回数を超えています (RB max reallocation tries exceeded)

説明: マウントが失敗すると再試行される場合がありますが、リソース要求の再試行回数を超えています。

推奨処置: NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) および nbemm (オリジネータ ID 111) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。また、bptm のレガシーログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 905

メッセージ: RB メディアサーバーが一致していません (RB media server mismatch)

説明: 複数のコピー用に指定するストレージユニットは、同じメディアサーバー上に存在する必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 同じメディアサーバー上で実行できるように、ストレージユニットまたはストレージユニットグループを指定して、バックアップスケジュールを構成します。
- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 906

メッセージ: RB オペレータがマウント要求を拒否しました (RB operator denied mount request)

説明: オペレータが、NetBackup 管理コンソールの[デバイスの管理 (Device Management)]ノードまたは vmoprcmd コマンドを使用して、マウント要求を拒否しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マウント要求が拒否された原因を判断し、ジョブを再試行します。
- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 907

メッセージ: RB ユーザーがリソースリクエストをキャンセルしました (RB user canceled resource request)

説明: ユーザーが開始した操作によって、Resource Broker (nbrb) の要求が取り消されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- リソース要求が取り消された原因となった操作を特定します。
- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 908

メッセージ: RB がリセットされました (RB was reset)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) のリソースおよびデータベースがリセットされました。RB がリセットされると、未処理の nbrb への要求が失敗する場合があります。(たとえば、カタログリカバリなどの処理によって、データベースがリセットされます。)

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- nbrb リソースおよび nbemm データベースがリセットされた操作を特定します。
- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 912

メッセージ: RB ディスクボリュームのマウントに失敗しました (RB disk volume mount failed)

説明: ディスクボリュームのマウントを試行しましたが、失敗しました。考えられる原因は、ハードウェアの問題、EMM データベースの非一貫性、または NetBackup Resource Broker (`nbrb`) のエラーです。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの `nbrb` サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。統合ログは、`/usr/openv/logs` (UNIX の場合) または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs` (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、`nbrb` のログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 914

メッセージ: RB メディアの予約が見つかりません (RB media reservation not found)

説明: 複製ジョブまたは合成バックアップジョブ用の読み込みメディアは、ジョブの開始時に予約する必要があります。状態コード 914 は、NetBackup Resource Broker (`nbrb`) が、予約されていない読み込みメディアの割り当て要求を受信した場合に発生します。この状況は、`bpduplicate`、`nbjm` または nbrb の内部エラーが原因で発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの `nbrb` サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルを調べます。統合ログは、`/usr/openv/logs` (UNIX の場合) または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs` (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、`nbrb` のログを調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 915

メッセージ: RB ディスクボリュームのマウントを再試行する必要があります (RB disk volume mount must retry)

説明: 共有ディスクのジョブは RB がディスクボリュームをマウントできないので失敗しました。共有ディスクは、他のメディアサーバーがボリュームのファイルシステムを使う前にそれらをマウント解除し、再マウントすることを必要とします。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マウント解除されることを防ぐディスクボリュームのマウントディレクトリに、処理がないことを検証します。問題が解決しない場合、メディアサーバーで NetBackup を再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 916

メッセージ: リソース要求がタイムアウトしました (Resource request timed out)

説明: ジョブのリソース要求は、設定された制限時間に達する前にリソースが利用できなくなったため失敗しました。一部のジョブはドライブまたは他のリソースを要求するときにタイムアウトを指定することがあります。ジョブが一貫してこのエラーを引き起こす場合は、利用可能なドライブの数より多くのジョブがスケジュールされている可能性があります。リソースブローカージョブのキューにあるドライブが、新しいジョブの開始がタイムアウトする前までに完了していません。

推奨処置: スケジュールされたジョブの開始時間を長期間に分散してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 917

メッセージ: RB 多重化グループが見つかりません。

説明: NetBackup Resource Broker (`nbrb`) が不明な多重化グループ ID の要求を受信しました。このエラーは、RB が強制終了され、再起動されたときのタイミングの問題により発生する場合があります。`nbjm` または `nbrb`の内部エラーが原因で発生する場合もあります。

推奨処置: `nbjm` と `nbrb` を再起動します。問題が解決されない場合は、`nbjm` と `nbrb` のログを含む適切なログを添えて問題のレポートを作成してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 918

メッセージ: RB にはこのメディア ID またはドライブ名を使用する多重化グループがありません (RB does not have a multiplexing group that uses this media ID or drive name)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) が割り当て解除されたメディアまたはドライブの要求を受信しました。

推奨処置: nbrbutil コマンドがこのエラーの原因である可能性があります。割り当てられたメディア ID またはドライブを指定して、コマンドを再度実行します。これは内部エラーである場合もあります。問題が解決されない場合は、nbjm と nbrb を含む適切なログを添えて問題のレポートを作成してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1000

メッセージ: クライアントがオフラインです (Client is offline)

説明: オフラインであるクライアントに対して手動ジョブを実行する試みが行われました。

推奨処置: クライアントがオンラインになるまで待つか、または手動ジョブを送信する前に GUI か bpclient コマンドを使って手動でクライアントをオンラインにします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1001

メッセージ: 検出文書エラーです (discovery document error)

説明: Policy Execution Manager (pem) は検出処理から戻された XML ドキュメントを解析できません。このエラーは内部エラーです。

推奨処置: レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm

- クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥Netbackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。

- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1002

メッセージ: 検出で、失敗したクライアントが見つかりました (discovery detected a failed client)

説明: 問い合わせ規則では 1 つ以上のクライアントを除外できず、これらのクライアントはバックアップ対象として選択できません。ホスト名の問題がこのエラーの原因である可能性があります。

推奨処置: 詳しくは、ジョブの詳細ログを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1057

メッセージ: データの破損が検出されました。

説明: データ一貫性検査がメディアサーバー重複排除プール (MSDP) でデータ損失またはデータの破損を検出して影響のあるバックアップを報告しました。

推奨処置: サーバー上で storaged.log を実行して影響を受けたバックアップを探し、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1058

メッセージ: データの不整合が検出され、自動的に修正されました。(A data inconsistency has been detected and corrected automatically.)

説明: データ一貫性検査で潜在的なデータ損失が検出され、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) で自動的に修正されました。

推奨処置: 当該メディアサーバー上で storaged.log ファイルを検索します。Contact support to investigate the root cause if the problem persists.

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1401

メッセージ: [無効な引数が受信されました (Invalid arguments received)]

説明: 無効な入力引数は保留サービスに渡されます。

推奨処置: 必要なすべてのパラメータは必ず正しい値を指定して渡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1402

メッセージ: 保留 ID または保留名の引数が無効です (Hold id or Hold name argument is invalid)

説明: nbholdutil コマンドが、ルートの保留サービスに渡される -holdid か -holdname オプションを含んでいますが、そのオプションは無効です。

推奨処置: 有効な値があるか -holdid オプションや -holdname オプションを調べてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1403

メッセージ: バックアップ ID の引数が無効です (Backup id argument is invalid)

説明: nbholdutil コマンドが、ルートの保留サービスに渡される -backupid オプションを含んでいますが、そのオプションは無効です。

推奨処置: 有効な値があるか -backupid オプションを調べてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1405

メッセージ: イメージが見つかりませんでした (No images are found)

説明: nbholdutil コマンドに含まれる -backupid に対応するイメージが見つかりません。

推奨処置: -backupid オプションに有効なイメージが指定されているか調べてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1407

メッセージ: 無効な保留状態 (Invalid hold state)

説明: このコードは、今後の使用のために予約されています。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1408

メッセージ: データベースエラー (Database error)

説明: 保留サービスは、保留関連情報を取得できません。

推奨処置: 保留データベースサービスと DBM サービスが動作していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1409

メッセージ: データベースに接続できません (Unable to connect to database)

説明: 保留サービスが保留データベースに接続できません。

推奨処置: 保留データベースサービスと DBM サービスが動作していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1410

メッセージ: データが見つかりません (No data found)

説明: 指定された値に対してイメージや保留コピーが見つかりません。

推奨処置: 必要なすべてのパラメータは必ず正しい値を指定して渡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1411

メッセージ: カタログエラー (Catalog error)

説明: イメージカタログを更新しようとしています。

推奨処置: 保留操作が適用されるイメージコピーが期限切れになっておらず有効か調べてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1412

メッセージ: 保留レコードの更新中 (Hold record is being updated)

説明: 保留操作で更新が実行中です。

推奨処置: 操作を後で再試行するか、nbim サービスを再起動してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1413

メッセージ: 要求された保留が見つかりません (Requested hold is not found)

説明: nbholdutil コマンドが、存在しない保留を要求しています。

推奨処置: -holdname オプションと -holdid オプションを調べてください。nbholdutil -list コマンドを使うことができます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1414

メッセージ: 複製の保留が見つかりました (Duplicate hold found)

説明: 別の保留によって名前が使われている保留を作成しようとしています。

推奨処置: 異なる名前で試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1415

メッセージ: 複製イメージが見つかりました (Duplicate image found)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1416

メッセージ: 複製イメージがあるため、一部が失敗しました (Partially failed due to duplicate image)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1417

メッセージ: 保留されていないイメージがあるため、一部が失敗しました (Partially failed due to unhold image)

説明: バックアップイメージコピーが、指定された保留からすでに削除されています。

推奨処置: 必ず現在の保留に存在する正しいバックアップ ID を指定してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1418

メッセージ: 要求されたイメージが見つかりません (Requested image is not found)

説明: 指定されているバックアップ ID のバックアップイメージが見つかりません。イメージが期限切れになっているか、または指定されているバックアップ ID が無効です。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1419

メッセージ: 無効なイメージコピーがあるため、一部が失敗しました (Partially failed due to invalid image copy)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1420

メッセージ: 保留されているイメージコピーを期限切れにすることはできません (Cannot expire on hold image copy)

説明: (bpexpadate または NetBackup 管理コンソールを使用して) 保留中のイメージコピーを期限切れにしようとしています。

推奨処置: このバックアップイメージからすべての保留を削除します。または、このバックアップ ID のすべてのイメージから保留を削除して、バックアップイメージを期限切れにします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1421

メッセージ: 有効な保留を変更することはできません (Active holds cannot be changed)

説明: 有効な状態の保留を更新しようとしています。

推奨処置: NBIM サービスを再起動してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1422

メッセージ: 保留中のメディアを割り当て解除することはできません (Cannot deassign media on hold)

説明: ユーザーが保留中のイメージコピーがあるメディアを割り当て解除しようとしています。

推奨処置: 割り当て解除するメディアでバックアップされるイメージコピーの保留を解除してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1423

メッセージ: イメージコピーの保留状態を取得できません (Unable to retrieve hold status of the image copies)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1425

メッセージ: 要求された保留が見つかりません (Requested hold is not found)

説明: 保留サービスは、指定されている保留名または保留 ID の保留を見つけることができません。

推奨処置: すべての保留をリストするには、`nbholdutil -list` を実行してください。指定した `-holdname` オプションと `-holdid` オプションが有効であることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1426

メッセージ: 破棄された保留を変更することはできません (Retired holds cannot be changed)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1500

メッセージ: 指定された場所にストレージユニットが存在しないか使用できません (Storage unit does not exist or cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定したストレージユニットまたはストレージユニットグループが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したストレージユニットまたはストレージユニットグループが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーは[BasicDisk]や[ステージング (Staging)]形式をサポートしないため、指定したストレージユニットがこの形式でないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでストレージユニットがスナップショットの宛先に指定されていないことを確認します。ストレージライフサイクルポリシーではスナップショットの宛先にストレージユニットは必要ありません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1501

メッセージ: 指定された場所でソース操作を使用できません (source operation cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の複製先に指定したソースが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したソースがストレージライフサイクルポリシーの宛先リスト内の有効な宛先を参照していることを確認します。
- [バックアップ (Backup)]または[スナップショット (Snapshot)]宛先形式にソースが指定されていないことを確認します。nbstl を使ってストレージライフサイクルポリシーを構成する場合は、バックアップまたはスナップショットの宛先形式にソースとして値ゼロ (0) を使います。
- 指定したソースを参照する宛先が[スナップショット (Snapshot)]宛先形式ではないことを確認します。NetBackup では、ソースとしてスナップショットコピーを使用するバックアップイメージを複製できません。
- 指定したソースが、そのソースの宛先自体を参照していないことを検証します。
- ストレージライフサイクルの指定した宛先リストで、ソースの依存関係が循環していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1502

メッセージ: 指定された場所で保持形式を使用できません (retention type cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定した保持形式が無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ストレージライフサイクルポリシーで指定した保持形式が[固定 (Fixed)]、[管理対象のステージング容量 (Staged capacity managed)]、または[複製後に期限切れにする (Expire after duplication)]であることを確認します。
- [複製後に期限切れにする (Expire after duplication)]保持形式が、ストレージライフサイクルポリシーの他の宛先のソースとして指定されている場合にのみ宛先に使用されていることを確認します。

- ［管理対象のステージング容量 (Staged capacity managed)］保持形式が［容量管理 (Capacity management)］機能をサポートするディスクの宛先に対してのみストレージライフサイクルポリシーで使われていることを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーの［スナップショット (Snapshot)］宛先形式で、［固定 (Fixed)］保持形式のみが使用されていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1503

メッセージ**:** 指定された場所にボリュームプールが存在しないか使用できません (Volume pool does not exist or cannot be used where specified)

説明**:** ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定したボリュームプールが無効です。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したボリュームプールが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでボリュームプールが［バックアップ (Backup)］宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでボリュームプールが［スナップショット (Snapshot)］宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでディスクストレージユニットを使う［複製 (Duplication)］宛先形式にボリュームプールが指定されていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1504

メッセージ**:** 指定された場所にサーバーグループが存在しないか使用できません (Server group does not exist or cannot be used where specified)

説明**:** ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定したメディアサーバーグループが無効です。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したメディアサーバーグループが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでメディアサーバーグループが［バックアップ (Backup)］宛先形式に指定されていないことを確認します。

- ストレージライフサイクルポリシーでメディアサーバーグループが[スナップショット (Snapshot)]宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでディスクストレージユニットを使う[複製 (Duplication)]宛先形式にメディアサーバーグループを指定していないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1505

メッセージ: 指定された場所に代替読み込みサーバーが存在しないか使用できません (alternate read server does not exist or cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定した代替読み込みサーバーが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定した代替読み込みサーバーが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーで代替読み込みサーバーが[バックアップ (Backup)]宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーで代替読み込みサーバーが[スナップショット (Snapshot)]宛先形式に指定されていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1506

メッセージ: データの分類は存在しません (data classification does not exist)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定したデータの分類が無効です。

推奨処置: 指定したデータ分類が NetBackup データベースに存在することを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1507

メッセージ: 遅延操作フラグが無効です (Invalid deferred operation flag)

説明: 遅延操作フラグが SLP 操作に対して無効になっています。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- `nbstl -defop` コマンドを使用した場合、指定した引数が f、F、t、T のいずれかであることを確認します。

  `nbstl` コマンドの詳細は、次の場所から入手できる『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

  http://www.veritas.com/docs/DOC5332
- プライマリ SLP 操作 (バックアップ、スナップショット、インポート) にフラグが設定されないことを確認します。
- ソースコピーに固定保持があるかを確認します。
- 詳細については詳細ログメッセージを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1508

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーが最大コピーを超えています (Storage lifecycle policy exceeds maximum copies)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した宛先のリストが許可したバックアップコピーの最大数 10 を超えています。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで指定した宛先の数が 10 を超えていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1509

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーが最大バックアップ操作を超えています (storage lifecycle policy exceeds maximum backup operations)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した[バックアップ (Backup)]形式の宛先の数が許可した同時コピーの最大数を超えています。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで指定した[バックアップ (Backup)]形式の宛先の数が 4 以下であることを検証します。([許容される同時コピーの最大数 (maximum number of allowed simultaneous copies)]パラメータのデフォルト値は 4 です。)

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1510

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーに複数のスナップショット操作を含めることはできません (storage lifecycle policy cannot have more than one snapshot operation)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した宛先のリストが許可したスナップショットの宛先の最大数を超えています。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーが複数のスナップショット形式の宛先を含むように構成されていません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1511

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーには少なくとも 1 つの固定保持またはスナップショットのローテーション操作を含める必要があります (storage lifecycle policy must have at least one fixed retention or snapshot rotation operation)

説明: 指定したストレージライフサイクルポリシーに、保持形式が[固定 (Fixed)]の宛先が含まれていません。

推奨処置: 指定したストレージライフサイクルポリシーが[固定 (Fixed)]保持形式で構成された宛先を少なくとも 1 つ含むことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1512

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーには 1 つ以上のバックアップ、インポート、またはスナップショット操作を含める必要があります (storage lifecycle policy must have at least one backup, import, or snapshot operation)

説明: 指定したストレージライフサイクルポリシーにバックアップの宛先が含まれていません。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーに、[バックアップ (Backup)]形式の宛先が少なくとも 1 つ含まれていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1513

メッセージ: 優先度が無効です (invalid priority)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した複製の優先度が無効です。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで指定した複製の優先度が 0 から 99999 の範囲内であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1514

メッセージ: 操作形式が無効です (invalid operation type)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定した宛先形式が無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ストレージライフサイクルポリシーの各宛先に指定した宛先形式が[バックアップ (Backup)]、[複製 (Duplication)]、[スナップショット (Snapshot)]のいずれかであることを確認します。
- `nbstl` コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成する場合、宛先形式の有効な値は次のとおりです。0 は[バックアップ (Backup)]、1 は[複製 (Duplication)]、2 は[スナップショット (Snapshot)]を示します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1515

メッセージ: 指定された場所で、多重化値が無効か使用できません (multiplexing value is not valid or cannot be used where specified)

説明: 1 つ以上の宛先に指定した多重化の維持フラグが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- `nbstl` コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成する場合は、各宛先の多重化維持フラグを示すために有効な値が使用されていることを確認します。値「T」または「t」は True (多重化を維持する) を示します。値「F」または「f」は false (多重化を維持しない) を示します。
- [バックアップ (Backup)]形式の宛先が多重化を維持するように構成されていないことを確認します。
- [スナップショット (Snapshot)]形式の宛先が多重化を維持するように構成されていないことを確認します。
- ディスクストレージユニットを使用する[複製 (Duplication)]形式の宛先が多重化を維持するように構成されていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1516

メッセージ: すべてのストレージユニットまたはグループは同じメディアサーバー上に存在している必要があります (all storage units or groups must be on the same media server)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定された［バックアップ (Backup)］形式の宛先に、同じメディアサーバーからアクセスできません。

推奨処置: ［バックアップ (Backup)］形式のすべての宛先に、少なくとも 1 つの共通のメディアサーバーからアクセスできることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1517

メッセージ: 保持レベルが無効です (invalid retention level)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定された保持レベルが無効です。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで各宛先に指定した保持レベルが 0 から 100 の範囲内であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1518

メッセージ: バックアップイメージはストレージライフサイクルポリシーでサポートされていません (backup image is not supported by storage lifecycle policy)

説明: 構成したストレージライフサイクルポリシーはこのバックアップイメージをサポートしません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- スナップショットバックアップを実行するように NetBackup ポリシーが構成され、NetBackup ポリシーでストレージの宛先としてストレージライフサイクルポリシーが使用される場合は、指定したストレージライフサイクルポリシーにスナップショットの宛先が構成されている必要があることを確認します。スナップショットの宛先が構成されていない場合は、それらの NetBackup ポリシーによって作成されるバックアップイメージがストレージライフサイクルポリシーでライフサイクル操作用に処理されなくなります。

- ストレージの宛先としてストレージライフサイクルポリシーを使う NetBackup ポリシーが、スナップショットのみの操作を実行するように構成されていないことを確認します。ストレージの宛先としてストレージライフサイクルポリシーを使う NetBackup ポリシーはスナップショットに加えてバックアップを作成する必要があります。ストレージライフサイクルポリシーは、スナップショットの宛先を構成した場合でも、少なくとも 1 つのバックアップコピーを含んでいる場合にのみ、このようなイメージに対してライフサイクル操作を実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1519

メッセージ: ［イメージは処理中です (images are in process)］

説明: イメージの SLP 処理が未完了のため、処理中の操作は完了できません。

推奨処置: イメージ処理が完了するまで待ってから、操作を再試行してください。または、必要なイメージの SLP 処理を終了してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1521

メッセージ: データベースは使用できません

説明: インポートマネージャは NetBackup データベースにアクセスできません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- データベースサービスが実行中であることを確認します。
- ディスクに空きがあることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1522

メッセージ: データベース問い合わせ実行中のエラー

説明: インポートマネージャ内にSQL エラーがあります。

推奨処置: 詳しくは `nbstserv` プロセスのログファイルまたはオリジネータ ID 369 を調べます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1523

メッセージ: 無効なフラグメント (Invalid fragment)

説明: NetBackup はストレージデバイスから、認識できない形式のレプリケーション通知イベントを受信しました。

推奨処置: NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで詳細を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1524

メッセージ: イメージレコードが重複しています (Duplicate image record)

説明: NetBackup はストレージデバイスから NetBackup カタログにすでに存在するバックアップ ID のレプリケーション通知イベントを受信しました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで詳細を確認します。
- NetBackup によって削除されないので、ストレージから重複したイメージを削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1525

メッセージ: LSU が無効です (Invalid lsu)

説明: NetBackup は不明または未構成のディスクボリューム (LSU) にイメージが存在することを示すレプリケーション通知イベントを受信しました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- LSU を有効なディスクプールの有効なディスクボリュームとして構成し、その有効なストレージユニットを作成します。インポートストレージライフサイクルポリシーとこのストレージユニットを関連付けます。
- NetBackup が認識するレプリケーションターゲットのディスクボリューム (LSU) を使うためにストレージデバイスのレプリケーションを再構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1526

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーが最大インポート先を超えています (storage lifecycle policy exceeds maximum import destinations)

説明: ストレージライフサイクルポリシー定義は 1 つのインポート先しか含むことができないので、指定したとおりに作成、または修正できません。

推奨処置: 1 つのインポート先のみを含むストレージライフサイクルポリシーを構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1527

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーには 1 つだけのバックアップ、インポート、またはスナップショット操作を含めることができます (storage lifecycle policy can have only one of backup, import, and snapshot operations)

説明: インポート先を指定したストレージライフサイクルポリシーは同時にバックアップ先またはスナップショット先を含むことができないため、ストレージライフサイクルポリシー定義は指定したとおりに作成または修正できません。

推奨処置: 1 つのインポート先のみと複製タイプの追加の宛先のみを指定したストレージライフサイクルポリシーを構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1528

メッセージ: 自動イメージレプリケーションのソースコピーがレプリケーションに対応していません (The source copy for an Auto Image Replication is not capable of replication)

説明: ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 定義を指定どおりに作成または変更できません。自動イメージレプリケーションの宛先に、マスターサーバー間の複製が不可能なコピーを複製する宛先を選択したためです。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- コマンドラインを使う場合は、ソースコピーの正しい SLP の宛先インデックス番号を指定したことを確認します。
- GUI で正しいソースストレージライフサイクルポリシーの宛先を示す適切なインデントを使います。
- コピー元が複製が可能であるストレージユニットを使っていることを確認します。ストレージユニットは、CLI の SLP 宛先インデックスまたは GUI のインデントによって指

定されます。ストレージユニットが指定するディスクプール内のディスクボリュームのプロパティを調べます。

- レプリケーションターゲットを設定した後、ディスクプールを更新する必要があります。NetBackup 管理コンソールの左ペインで、[メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]>[デバイス (Devices)]>[ディスクプール (Disk Pools)] を展開します。右ペインで、更新するディスクプールを選択します。[ディスクプールの変更 (Change Disk Pool)ダイアログボックスで、[更新 (Refresh)]をクリックして、ディスクプールのレプリケーションを設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1529

メッセージ**:** 自動イメージレプリケーションのソースコピーにストレージユニットを指定している必要があります (The source copy for Auto Image Replication must specify a storage unit)

説明**:** 次のいずれかの状態が発生している可能性があります。

- ストレージライフサイクルポリシー定義を指定とおりに作成または変更できません。自動イメージレプリケーションの宛先に、マスターサーバー間の複製が不可能なコピーを複製するおそれがある宛先が選択されているためです。
- ストレージユニットグループを使用して複製しようとしています。自動イメージレプリケーションは、ストレージユニットグループからのレプリケートもストレージユニットグループへのレプリケートもサポートしません。すなわち、ソースコピーはストレージユニットグループにはなく、ターゲットはストレージユニットグループではありません。

推奨処置**:** 次の 1 つ以上を実行します。

- コマンドラインを使う場合は、ソースコピーの正しいストレージライフサイクルポリシーの宛先インデックス番号を指定したことを確認します。
- GUI で正しいソースストレージライフサイクルポリシーの宛先を示す適切なインデントを使っていることを確認します。
- CLI のストレージライフサイクルポリシーの宛先インデックス、または GUI のインデントによって指定されるソースが、レプリケーション可能なストレージユニット (ストレージユニットグループ、ストレージライフサイクルポリシーまたは任意ではなく) を使っていることを確認します。ストレージユニットが指定するディスクプール内のディスクボリュームのプロパティを調べます。
- 複製でストレージユニットグループを使用していないことを確認してください。ソースコピーの場合、ストレージユニットグループにないストレージユニットを選択します。ターゲットの場合、ストレージユニットグループは選択しません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1530

メッセージ: Only one Auto Image Replication allowed per copy

説明: ストレージライフサイクルポリシー定義を指定どおりに作成または変更できません。自動イメージレプリケーションの宛先に、自動イメージレプリケーションがすでに存在し、ソースコピーとして指定されているコピーを複製する宛先が選択されているためです。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- コマンドラインを使う場合は、ソースコピーの正しいストレージライフサイクルポリシーの宛先インデックス番号を指定したことを確認します。
- GUI で正しいソースストレージライフサイクルポリシーの宛先を示す適切なインデントを使っていることを確認します。
- CLI のストレージライフサイクルポリシー宛先インデックス、または GUI のインデントにより指定されたソースには、ソースコピーを指定している自動イメージレプリケーション宛先が複数存在しないことを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1531

メッセージ: インポートストレージライフサイクルポリシーにはリモート保持形式のコピーが 1 つ必要です (An import storage lifecycle policy requires one copy with remote retention type)

説明: (インポートされた) リモート保持形式を使用して、インポートされたイメージの少なくとも 1 つのコピーを作成する必要があるので、ストレージライフサイクルポリシー定義を指定したとおりに作成または修正できません。

推奨処置: リモート保持形式を使う宛先をストレージライフサイクルポリシーに追加します。

次のいずれかを実行します。

- ストレージライフサイクルポリシーの宛先の 1 つを、リモート保持形式を使うように変更します。ストレージライフサイクルポリシーにインポートの宛先が 1 つしかない場合、その宛先はリモート保持形式である必要があります。
- リモート保持形式を使う宛先をストレージライフサイクルポリシーに追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1532

メッセージ: インポートされたイメージが存在しない SLP 名を指定しているため、インポートは失敗しました (Import failed because the imported image specifies an SLP name which does not exist)

説明: インポートされたイメージは、構成されたどのストレージライフサイクルポリシーとも一致せず、ただちに期限切れになりました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインのストレージライフサイクルポリシーが、インポートを構成した宛先ドメインのストレージライフサイクルポリシーと一致することを確認します。一致は大文字と小文字の区別ありです。
- ソースドメインのストレージライフサイクルポリシーと同じ名前を使って、インポート先を指定したストレージライフサイクルポリシーを追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1533

メッセージ: インポートされたイメージデータクラスが SLP データクラスと異なるため、インポートは失敗しました (Import failed because the imported image data class is different than the SLP data class)

説明: インポート済みであるイメージは、インポートのストレージライフサイクルポリシーのデータ分類のどれとも一致しないデータ分類を含んでいるため、すぐに期限切れとされました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- インポートを構成した宛先ドメインのデータ分類と一致するように、自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインのストレージライフサイクルポリシーのデータ分類を変更します。一致は大文字と小文字の区別ありです。
  自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインのストレージライフサイクルポリシーが、インポートを構成した宛先ドメインのストレージライフサイクルポリシーと一致することを確認します。一致は大文字と小文字の区別ありです。
- インポートを構成したソースドメインのデータ分類と一致するように、自動イメージレプリケーションを構成した宛先ドメインのストレージライフサイクルポリシーのデータ分類を変更します。一致は大文字と小文字の区別ありです。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1534

メッセージ: インポートされたイメージがインポート操作のない SLP 名を指定しているため、インポートは失敗しました (Import failed because the imported image specifies an SLP name with no import operation)

説明: インポートされたイメージは、インポートのストレージライフサイクルポリシーではないストレージライフサイクルポリシー名を指定しているため、すぐに期限切れとされました。

推奨処置: 自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインにある異なるストレージライフサイクルポリシー名を使ってください。この名前は、インポートを構成した宛先ドメインをインポート先とするストレージライフサイクルポリシー名と一致する必要があります。一致は大文字と小文字の区別ありです。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1535

メッセージ: インポートするイメージのバックアップ ID が既存のイメージと競合しているため、インポートに失敗しました (Import failed because the imported image backup id conflicts with an existing image)

説明: NetBackup は、イメージカタログにすでに存在するバックアップ ID を持つイメージをインポートするように試みました。

推奨処置: NetBackup によって削除されないので、ストレージから重複したイメージを削除します。次のコマンドを使用します。

```
# bpimage -deletecopy # -backupid backupid
```

は、削除するイメージのコピー番号です。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1536

メッセージ: ストレージユニットまたはストレージユニットグループは、SLP で参照されているため削除できません (The storage unit or storage unit group cannot be deleted because an SLP references it)

説明: ストレージライフサイクルポリシー (SLP) が参照しているストレージユニットまたはストレージユニットグループは削除できません。SLP のバージョンが古い可能性があります。NetBackup 管理コンソールには SLP の最新バージョンが表示されますが、ストレージユニットまたはストレージユニットグループへの参照が古いバージョン内で行われている可能性があります。

推奨処置: nbstl コマンドを使って、古い SLP バージョンを表示、変更してください。以下の操作を記載されている順序で行ってください。

- 各 SLP のすべてのバージョンを表示する次のコマンドを実行します。

```
# nbstl -L -all_versions
```

- ストレージユニットまたはストレージユニットグループを参照する各 SLP の名前とバージョンを特定します。
- 削除するストレージユニット (グループ) を別のストレージユニットの名前に置換する次のコマンドを実行します。

```
# nbstl <SLP_name> -modify_version <version_number>...
```

ストレージライフサイクルポリシーについて詳しくは、次の場所から利用可能な『NetBackup™ 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

http://www.veritas.com/docs/DOC5332

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1537

メッセージ: バックアップポリシーとストレージライフサイクルポリシーの構成が競合しています (Backup policy and storage lifecycle policy have conflicting configurations)

説明: バックアップポリシーの特性の一部が、ポリシー属性またはポリシースケジュールで参照される SLP 特性の 1 つと互換性がありません。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールで、疑わしい SLP について[ストレージライフサイクルポリシーの変更 (Change Storage Lifecycle Policy)] ダイアログを選択します。次に、SLP に関係する特定の競合を表示するために検証レポートを実行します。それらの競合を訂正してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1538

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーのデータ分類がバックアップポリシーと競合しています (Data Classification in storage lifecycle policy conflicts with backup policy)

説明: SLP に指定されたデータ分類がバックアップポリシーに指定されたデータ分類と一致しません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 一致するデータ分類を持つ SLP を参照するようにバックアップポリシーを変更します。
- バックアップポリシーのデータ分類か SLP のデータ分類を変更して、それらが一致するようにします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1539

メッセージ: バックアップポリシーはスナップショットを生成しますが、ストレージライフサイクルポリシーはそれらを処理しません (Backup policy generates snapshots but storage lifecycle policy does not handle them)

説明: ［ポリシーの変更 (Change Policy)］ダイアログボックスで［スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)］と［インスタントリカバリ用または SLP 管理用にスナップショットを保持する (Retain snapshot for Instant Recovery or SLP management)］が選択されているため、バックアップポリシーによってスナップショットが生成されます。参照される SLP はスナップショット操作を含んでいないためスナップショットを処理できません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- スナップショットサポートを提供する SLP を使うようにバックアップポリシーを変更します。
- スナップショットを生成しないようにバックアップポリシーを変更します。
- スナップショット操作を含むように SLP を変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1540

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーはスナップショットを想定していますが、バックアップポリシーは、SLP 管理を有効にした状態でスナップショットを作成しません (Storage lifecycle policy expects snapshots but backup policy does not create them with SLP management enabled)

説明: このポリシーの最大スナップショット数の限度に達し、ローテーションの対象となる既存のスナップショットがありません。

推奨処置: 不要になった既存のスナップショットを見つけて、期限切れにしてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1541

メッセージ: スナップショットの作成に失敗しました。ポリシーの最大スナップショット数を超え、また既存のスナップショットは期限切れの対象になりません。(Snapshot creation failed. The maximum snapshot limit for the policy has been exceeded and no existing snapshots are eligible for expiration.)

説明: 次のいずれかの条件に該当する場合です。

- 既存のすべてのスナップショットコピーは、スナップショット複製保留中モードにあるため、期限切れの対象にはできません。
- 既存のスナップショットコピーは、まだ保持期間 (固定された保持期間) が終了していないため、期限切れの対象にできます。

推奨処置: まだ保留中か保持期間が終了していないスナップショットコピーを期限切れにしようとしないでください。[バックアップポリシー (Backup Policy)] > [属性 (Attributes)] > [スナップショットのオプション (Snapshot Options)] で、最大のスナップショットの限度の設定を調べてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1542

メッセージ: 既存のスナップショットは有効でなくなったため、以降の操作でマウントできません (An existing snapshot is no longer valid and cannot be mounted for subsequent operations)

説明: 既存のスナップショットが破損しているか、必要な一部のデータを含んでいません。そのスナップショットは、マウントできないだけでなく、そのスナップショットかリストアからのバックアップを含む追加の NetBackup 操作に使うことができません。保留中のすべての SLP 操作が自動的にキャンセルされました

推奨処置: 新しいスナップショットを生成する新しいバックアップジョブを実行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1543

メッセージ: ポリシー形式はストレージライフサイクルポリシー操作と互換性がありません (Policy type is not compatible with storage lifecycle policy operations)

説明: 指定した形式のポリシーは、スナップショット操作などの SLP 特性を含む SLP 操作をサポートしていないため、参照されている SLP とともに使用することができません。

推奨処置: ポリシー形式と互換性がある別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1545

メッセージ: スケジュール形式はストレージライフサイクルポリシー操作と互換性がありません (Schedule type is not compatible with storage lifecycle policy operations)

説明: ポリシーのスケジュールはストレージの宛先として SLP を参照していますが、スケジュール形式が SLP によって実行される操作と互換性がありません。

推奨処置: スケジュール形式と互換性がある別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1546

メッセージ: 管理対象の容量の保持形式は SLP 操作と互換性がありません (Capacity managed retention type is not compatible with SLP operations)

説明: SLP 操作の保持形式として管理対象容量の保持が選択されました。この保持形式では SLP 操作はサポートされていません。

推奨処置: スケジュール形式と互換性がある別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1547

メッセージ: コピー保持後、期限切れには依存コピーが必要です (Expire after copy retention requires a dependent copy)

説明: SLP 操作の保持形式が[コピー後に期限切れにする (Expire after copy)]の場合には、その操作の依存コピーはソースとして[コピー後に期限切れにする (Expire after copy)]操作を使う必要があります。

推奨処置: このスナップショットで操作を実行できません。カタログから期限切れにしてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1548

メッセージ: 保持形式はスナップショット操作と互換性がありません (Retention type is not compatible with snapshot operation)

説明: SLP のスナップショット操作用に選択した保持形式がスナップショットでサポートされていません。

考えられる状況: Replication Director のバックアップポリシーを構成し、[属性 (Attributes)]タブで[ポリシーストレージ (Policy storage)]に[任意 (Any Available)]を選択する場合。バックアップポリシーのスケジュールで、[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]を選択し、ドロップダウンメニューから SLP を選択します。この SLP は[固定 (Fixed)]の保持形式を使うストレージユニットを含んでいます。バックアップポリシーの検証は失敗し、[SLP 保持による管理 (Managed by SLP retention)]に[スナップショットの最大限度 (Maximum snapshot limit)]を設定するよう求められます。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 別の保持形式を選択してください。
- レプリケーションディレクタ用にバックアップポリシーを構成している場合、そのバックアップポリシーを開いてください。[属性 (Attributes)]タブで[オプション (Options)]をクリックして、レプリケーションディレクタオプションを表示します。[最大スナップショット数 (Maximum Snapshots)]の値が[SLP 保持による管理 (Managed by SLP Retention)]に含まれていない場合、代わりに 0 (ゼロ) を選択してください。0 の値は[SLP 保持による管理 (Managed by SLP Retention)]の選択を示します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1549

メッセージ: TIR 情報の選択はストレージライフサイクルポリシー操作と互換性がありません (TIR information selection is not compatible with storage lifecycle policy operations)

説明: バックアップポリシーが、TIR 情報の収集を有効にして、ストレージの宛先として SLP を使っています。SLP の操作の 1 つ以上で TIR 情報の収集がサポートされていません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- バックアップポリシーから TIR 情報の選択を削除します。
- バックアップポリシーとともに使う SLP を変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1552

メッセージ: ソースおよびターゲットストレージユニットは有効なレプリケーションパートナーではありません (The source and target storage units are not valid replication partners)

説明: nbstl コマンドにより、ライフサイクルポリシーが構成されました。次のいずれかの条件に該当する場合です。

- レプリケーション操作向けに指定済みのターゲットストレージユニット/グループが、ソースストレージユニット/グループのレプリケーションパートナーではありません。
- ターゲットのストレージユニットまたはグループで構成されるボリュームはコピー元のストレージユニットかグループで構成されるボリュームのレプリケーションターゲットではありません。
- ストレージサーバーの完全修飾名を使います。ストレージサーバーの作成プロセスは bpstsinfo -li の出力に表示されているように短縮版の名前を必要とします。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 次のコマンドを実行して、特定のソースストレージユニット/グループに一致するターゲットストレージユニット/グループのリストを取得します。

  ```
  # nbdevquery -listreptargets -stunit source_stu_or_group
  ```

- nbdevquery コマンドによって表示されたリスト内のターゲットストレージユニット/グループに対して nbstl コマンドを実行します。
- bpstsinfo -li コマンドを実行し、出力上でストレージサーバー名を確認します。ストレージサーバーを作成するのに使う名前は、この名前と一致する必要があります。
- ストレージサーバーの構成が完了したら、必ず NetBackup を構成してください。そうしない場合は、NetBackup 管理コンソールの[ディスクプールの変更 (Change Disk Pool)]ダイアログか、nbdevconfig -updatedp コマンドを使用して、ストレージサーバーの各ディスクプールを更新してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1553

メッセージ: チェックポイントはストレージライフサイクルポリシー操作で使用できません (Checkpoints are not allowed with storage lifecycle policy operations)

説明: バックアップポリシーが、[チェックポイントから再開 (Checkpoint Restart)]機能を有効にして、ストレージの宛先として SLP を使っています。この SLP は、[チェックポイントから再開 (Checkpoint Restart)]機能をサポートしない 1 つ以上の操作を含んでいます。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- バックアップポリシーから[チェックポイントから再開 (Checkpoint Restart)]の選択を削除します。
- バックアップポリシーとともに使う SLP を変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1554

メッセージ: ストレージユニットのスナップショット機能には操作特性との互換性がありません (Storage unit snapshot capability is not compatible with operation characteristics)

説明: ストレージユニットのスナップショット機能が、それを使用する SLP 操作をサポートしていません。

推奨処置: 正しい機能をサポートするストレージユニットを選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1556

メッセージ: バックアップポリシーによって参照されているため、SLP の削除に失敗しました。(The SLP deletion failed because a backup policy refers to it.)

説明: SLP が依然として 1 つ以上のバックアップポリシーで参照されているため、この SLP を削除する試行は失敗しました。

推奨処置: 他の SLP かストレージユニットを使うようにバックアップポリシーを変更してください。その後で、SLP の削除を再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1557

メッセージ: ターゲットストレージユニットがミラー対応である場合に、ミラー保持を指定する必要があります (Must specify mirror retention when target storage unit is mirror capable)

説明: ストレージライフサイクルポリシーのレプリケーション操作でミラー対応のターゲットストレージユニットを指定しましたが、保持がミラー形式ではありません。

推奨処置: `nbstl` コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成した場合は、次の処理の後にコマンドを再実行します。ミラー対応のストレージユニットに対応するレプリケーション操作に対してミラー保持形式を指定します。`bpstulist -U` コマンドを使って、ストレージユニットのプロパティを表示します。GUI を使用したストレージライフサイクルポリシーの構成時にエラーが発生した場合、問題レポートを提出し、適切なログを提供してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1558

メッセージ: ターゲットストレージユニットがミラー対応でない場合、ミラー保持は使用できません (Mirror retention is not allowed when target storage unit is not mirror capable)

説明: ストレージライフサイクルポリシーのレプリケーション操作を構成したときに、ミラーに対応していないターゲットストレージユニットにミラーの保持を指定しました。

推奨処置: `nbstl` コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成した場合は、次の処理の後にコマンドを再実行します。ミラーに対応していないストレージユニットに対応するレプリケーション操作に対して適切な保持形式 (ミラー保持以外) を指定します。`bpstulist -U` コマンドを使って、ストレージユニットのプロパティを表示します。GUI を使用したストレージライフサイクルポリシーの構成時にエラーが発生した場合、問題レポートを提出し、適切なログを提供してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1559

メッセージ: [ポリシーまたはスケジュールで参照されているストレージライフサイクルポリシーが見つかりません (Storage lifecycle policy referenced in policy or schedule not found)]

説明: バックアップポリシーの属性またはポリシースケジュールの 1 つに指定されている SLP が見つかりません。

推奨処置: ポリシーで使われている SLP のスペルを調べてください。定義済みの SLP のリストは、NetBackup 管理コンソールか `nbstl` コマンドを使えば表示できます。バックアップポリシーで使うために定義済みの SLP の 1 つを選択するか、必要な名前を持つ SLP を作成してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1560

メッセージ: レプリケーション操作なしで、固定またはローテーション保持が必要です (Fixed or rotation retention required without a Replication operation)

説明: 自動イメージレプリケーション操作を含む SLP は、保持形式が[固定 (Fixed)]スナップショットか[最大 (Maximum)]スナップショットである 1 つ以上の操作を含む必要があります。

推奨処置: 必要な保持形式を持つ操作を追加するか、既存の操作の保持形式を変更してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1561

メッセージ: NDMP を使用するポリシーが、ストレージライフサイクルポリシー内のスナップショットからの複数のバックアップ操作と競合しています (Policy using NDMP conflicts with multiple Backup From Snapshot operations in storage lifecycle policy)

説明: バックアップポリシーは、ポリシー形式かデータムーバーの形式で NDMP を使う場合には、複数の[スナップショットからのバックアップ (Backup From Snapshot)]操作を含む SLP を使うことができません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- ポリシー形式またはデータムーバーの形式を NDMP 以外に変更してください。
- 複数の[スナップショットからのバックアップ (Backup From Snapshot)]操作を含まない別の SLP を使ってください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1562

メッセージ: バックアップスケジュールはスナップショットを生成しますが、ストレージライフサイクルポリシーはそれらを処理しません (Backup schedule generates snapshots but storage lifecycle policy does not handle them)

説明: バックアップポリシーのスケジュールはスナップショットを生成しますが、そのスケジュールによって参照される SLP が[スナップショット (Snapshot)]操作を含んでいません。このため、SLP はスナップショットを処理できません。

推奨処置: バックアップポリシーとスケジュールによって生成されるスナップショットを処理できるように、スナップショット操作から始まる SLP を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1563

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーではスナップショットが想定されますが、バックアップスケジュールでスナップショットは作成されません (Storage lifecycle policy expects snapshots but backup schedule does not create them)

説明: バックアップポリシーのスケジュールはスナップショット操作で開始される SLP を参照しているため、スナップショットを処理する必要があります。バックアップポリシーおよび関連スケジュールはスナップショットを生成しません。

推奨処置: ［スナップショット (Snapshot)］操作で始まらない SLP を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1564

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーにエラーが含まれています (Storage lifecycle policy contains errors)

説明: NetBackup は bpdbm の SLP 検証関数を呼び出します。他のエラー状態の値が戻されます。

推奨処置: 表示される他のエラーを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1565

メッセージ: ポリシースナップショット方式はストレージライフサイクルポリシースナップショット操作と互換性がありません (Policy snapshot method is not compatible with storage lifecycle policy snapshot operations)

説明: バックアップポリシーで選択されたスナップショット方式は、参照された SLP で定義されているスナップショット操作にサポートを提供しません。

推奨処置: サポート外の操作を含んでいない別の SLP を使ってください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1566

メッセージ: 他の操作が存在しない場合に、スナップショット操作にストレージユニットが必要です (Storage unit required for snapshot operation when no other operation present)

説明: SLP に他の操作がある場合、NetBackup は［スナップショット (Snapshot)］操作に使うストレージユニットを判断できます。SLP の操作がスナップショット操作のみの場合は、ストレージユニットが提供される必要があります。

推奨処置: ［スナップショット (Snapshot)］操作にストレージユニットを追加してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1567

メッセージ: バックアップ ID あたりに許可されるスナップショットの NDMP バックアップは 1 つだけです。(Only one NDMP backup of a snapshot per backupid is allowed)

説明: 形式 NDMP のバックアップポリシーがスナップショットからの複数のバックアップ操作を含む SLP を参照しています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- スナップショットからの 1 つのバックアップ操作のみを含むように SLP を変更します。
- 別の SLP を使うようにバックアップポリシーを変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1568

メッセージ: <Check Alignment of PHs> [1 つのストレージライフサイクルポリシーあたり 1 つのスナップショットからのインデックス操作のみ許可されます (Only one Index From Snapshot operation is allowed per storage lifecycle policy)]

説明: 複数のスナップショットからのインデックス操作を含む SLP が定義されています。SLP では 1 つのスナップショットからのインデックス操作のみ許可されます。

推奨処置: 他の SLP かストレージユニットを使うようにバックアップポリシーを変更してください。その後で、SLP の削除を再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1569

メッセージ: スナップショットストレージユニットがプライマリスナップショット用に構成されていません。このストレージユニットはスナップショット操作で使用できません。(Snapshot storage unit is not configured for primary snapshots. It cannot be used in snapshot operation.)

説明: SLP で[スナップショット (Snapshot)]操作を使う場合は、スナップショット可能なストレージユニットはプライマリスナップショットを処理するように構成する必要があります。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- [スナップショット (Snapshot)]操作で使うため、スナップショット可能な別のストレージユニットを選択してください。
- プライマリスナップショット操作をサポートするように必要なストレージユニットの構成を変更してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1570

メッセージ: ［ポリシー形式がスナップショットからのインデックスをサポートしていません (Policy type does not support Index from Snapshot)］

説明: バックアップポリシー形式がスナップショットからのインデックス操作をサポートしていません。ポリシーによって参照されている SLP はスナップショットからのインデックス操作を含んでいます。

推奨処置: スナップショットからのインデックス操作を含まない別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1571

メッセージ: ポリシーで指定したデータムーバーの形式がスナップショットからのインデックスをサポートしていません (Data mover type specified in policy does not support Index from Snapshot)

説明: バックアップポリシーで選択されたデータムーバーの形式はスナップショットからのインデックス操作をサポートしていません。ポリシーによって参照されている SLP はスナップショットからのインデックス操作を含んでいます。

推奨処置: スナップショットからのインデックス操作を含まない別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1572

メッセージ: この操作ではストレージユニットを指定する必要があります (Storage unit must be specified for this operation)

説明: SLP 操作がストレージユニットなしで定義されています。特定の状況における［スナップショット (Snapshot)］操作を除いて、SLP 操作ではストレージユニットを定義する必要があります。

推奨処置: SLP 作にストレージユニットを追加してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1573

メッセージ: バックアップイメージの SLP 処理が完了していないため、バックアップイメージを期限切れにできません (Backup image cannot be expired because its SLP processing is not yet complete)

説明: SLP 管理イメージの 1 つ以上のコピーを期限切れにしようとしています。それらのコピーに依存する SLP 処理が完了していません。イメージは期限切れにできません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- そのイメージの SLP 処理が完了するまで待ってから、期限切れ操作を再試行してください。
- このイメージへの処理をキャンセルする場合は、`nbstlutil -cancel` コマンドを使います。その後、期限切れ操作を再試行します。
- イメージコピーの SLP 処理が未完了でも期限切れ操作を強制する場合は、`bpexpdate` コマンドを `-force_not_complete` オプション付きで実行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1574

メッセージ: 新しいデータ分類を作成する際にデータ分類名を「Any」に指定することはできません (Data Classification name cannot be 'Any' while creating new data classification)

説明: 新しいデータの分類を作成するときは、「Any」をデータの分類名として使用することはできません。

推奨処置: 異なる名前を使用して、再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1575

メッセージ: データの分類の自動登録に失敗しました(Data Classification auto creation failed)

説明: インポートされているイメージのデータの分類と同じ新しいデータの分類を自動作成しています。イメージのデータの分類は、イメージがインポートされているマスターサーバーに存在する必要があります。

推奨処置: インポートされているイメージのデータの分類と同じ名前のマスターサーバーで、データの分類を手動で作成してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1576

メッセージ: トポロジーの検証に失敗しました(Topology validation failed)

説明: SLP のトポロジー検証に失敗します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ストレージサーバーに関連付けられているメディアサーバーが動作していること確認してください。
- メディアサーバー (またはクライアント) とストレージサーバー (NetApp OnCommand サーバー) 間の接続を確認してください。
- ベンダー固有のエラーを判断するために、このエラーの詳細メッセージを確認してください。
  この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1577

メッセージ: SLP のストレージユニットが、ポリシーのアクセラレータ属性と一致しません(Storage unit in the SLP does not match the accelerator attribute in policy)

説明: SLP に対して選択したストレージユニットは、アクセラレータバックアップをサポートしていません。

推奨処置: アクセラレータバックアップ処理をサポートする、異なるストレージユニットを SLP に対して選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1578

メッセージ: 時間帯終了オプションが無効です(Invalid window close options)

説明: 時間帯終了オプションが SLP 操作に対して無効です。

推奨処置: `nbstl -wcopt` コマンドを使用した場合、指定された引数が SFN または SHN であることを確認してください。

`nbstl` コマンドの詳細は、次の場所から入手できる『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

http://www.veritas.com/docs/DOC5332

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1579

メッセージ: 時間帯が終了したため、1 つまたは複数のイメージが処理されませんでした (One or more images were not processed because the window closed)

説明: 処理ウィンドウは、すべてのイメージが処理される前に閉じます。残りの未処理イメージは、ウィンドウが再び開くと処理されます。

推奨処置: これは想定されていた動作で、処理は必要ありません。次のウィンドウが開くと処理が再開します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1580

メッセージ: PFI が有効な VMware ポリシーには SLP が必要です(VMware policy with PFI enabled requires an SLP)

説明: 「Persistent Frozen Image」が VMware ポリシーで有効になると、Replication Director が仮想マシンを保護します。このポリシー構成には SLP が必要です。このエラーメッセージは、ポリシー検証時間に表示されます。

推奨処置: VMware ポリシーを Replication Director なしで使用するか、または少なくともスナップショット操作がある SLP を提供してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1581

メッセージ: アプリケーションに一貫性がない VMware ポリシーは SnapDupe 操作に対応しません (Non-application consistent VMware policy is not compatible with snapdupe operations)

説明: スナップショット操作のバックアップは、Replication Director ベースの VMware ポリシーで[アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)]が無効になっているとサポートされません。このエラーメッセージは、ポリシー検証時間に表示されます。

推奨処置: [アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)]を有効にするか、SLP 定義で[スナップショットからのバックアップ (Backup From Snapshot)]を無効にします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1582

メッセージ: アプリケーションに一貫性がある VMware ポリシーには VM 静止が必要です (Application consistent VMware policy requires VM quiesce)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーは、[アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)] が有効である場合に仮想マシンの静止を必要とします。このエラーメッセージは、ポリシー検証時間に表示されます。

推奨処置: [アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)] を無効にするか、仮想マシンの静止を有効にします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1583

メッセージ: PFI が有効な VMware ポリシーには VIP 自動検出が必要です (VMware policy with PFI enabled requires VIP auto discovery)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーの PFI (Persistent Frozen Image) は、仮想マシンの自動検出を必要とします。仮想マシンの手動選択はサポートされません。NetBackup 管理コンソールで自動検出を選択できます。ユーザーは CLI を使用して設定を変更できますが、ポリシー検証はそれを検出し、次のエラーメッセージを表示します。

推奨処置: 仮想マシンの自動検出を有効にします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1584

メッセージ: 「Persistent Frozen Image」が有効な VMware ポリシーにはスケジュール形式の完全バックアップが必要です (VMware policy with 'Persistent Frozen Image' enabled requires schedule type of Full Backup)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーは、現時点では完全スケジュールのみをサポートします。

推奨処置: 完全スケジュールを使い、すべての段階的なスケジュールを削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1585

メッセージ: すべての従属コピーが期限切れになってないため、バックアップイメージは期限切れになりません (Backup image cannot be expired because not all dependent copies are expired)

説明: NetBackup カタログにある他のイメージが、現在期限切れを要求されているイメージに依存しています。選択したイメージは現時点で期限切れにすることができません。通常のカタログクリーンアップおよび期限切れ操作はこれを正しく処理します。依存イメージが最初に期限切れになります。しかしそれらがまだ SLP 処理の実行中であれば、期限切れにすることはできません。したがって選択したイメージを期限切れにすることができません。

推奨処置: 依存イメージの SLP 状態の遷移が IMAGE_COMPLETE 状態になり、期限切れになるまで待ちます。また、依存イメージの SLP 操作をキャンセルすることもできます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1586

メッセージ: SLP 操作がキャンセルされました (SLP operation was canceled)

説明: SLP 操作の実行をキャンセルしました。他のユーザーがコピーの検証を試行しています。

推奨処置: 処置は必要ありません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1587

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーにはリモートマスターへのターゲットレプリケーションとアンターゲットレプリケーションの両方を含めることができません (Storage lifecycle policy cannot have both target and untarget replication to remote master)

説明: ターゲットレプリケーション操作とアンターゲットレプリケーション操作の組み合わせによる SLP を定義しないでください。

推奨処置: ターゲットレプリケーション操作とアンターゲットレプリケーション操作をリモートマスターに混在させないでください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1588

メッセージ: ターゲットマスターサーバーがリモートマスターへのレプリケーションの 1 つにすでに使われています (Target master server is already used in one of the replication to remote master)

説明:

推奨処置: すべてのターゲットレプリケーション操作を個別のターゲットマスターサーバーとともに定義します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1589

メッセージ: 指定したターゲットマスターサーバーに接続できません (Cannot connect to specified target master server)

説明: すべてのサービスがソースドメインとターゲットドメインで動作している必要があります。

推奨処置: すべてのサービスがソースドメインとターゲットドメインで動作しているかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1590

メッセージ: 指定したターゲットインポート SLP を見つけられません (Cannot find specified target import SLP)

説明: このエラーは一般に `nbstl` コマンドを実行すると発生します。

推奨処置: ソースドメインの SLP のターゲットレプリケーション操作で、インポート操作とともにターゲットドメイン SLP の有効な名前を入力します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1591

メッセージ: 互換のあるレプリケーションターゲットデバイスのインポート SLP が見つかりませんでした (No import SLP(s) found with compatible replication target device)

説明: ターゲットドメインに、インポート SLP はありますが、レプリケーションターゲットデバイスの互換性がありません。

推奨処置: 1 つ以上の発生しうる問題を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1592

メッセージ: ソースドメインまたはターゲットドメインの 1 つまたは複数のストレージライフサイクルポリシーが信頼できるマスターサーバーを参照しています (Trusted master servers are being referred by one or more Storage Lifecycle Policies on the source or target domain)

説明:

推奨処置:

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1593

メッセージ: VMware ポリシーの Replication Director にはマッピングされたバックアップが必要です (Replication Director for VMware policy requires mapped backups)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーは、すべての保護仮想マシンのための個々のファイルとフォルダのリカバリをサポートします。したがって、仮想マシンのマッピングは NetBackup 管理コンソールで自動的に選択されます。ユーザーは CLI を使用してその設定を変更できますが、ポリシー検証はそれを検出し、次のエラーメッセージを表示します。

推奨処置: マッピングを有効にします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1594

メッセージ: ディスクメディア ID の決定に失敗しました (Failed to determine disk media Id)

説明: ターゲットドメインのイメージをインポートしている間、操作はディスクのディア ID を決定できませんでした。ストレージサーバー、ディスクプール、ストレージユニットにはそれぞれ有効な設定が必要です。

推奨処置: ストレージサーバー、ディスクプール、ストレージユニットの設定を再確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1596

メッセージ: ポリシーのストレージ宛先としてのスナップ操作を含まないストレージライフサイクルポリシーを選択してください (Select a storage lifecycle policy that has no snapshot operation as a policy's Storage Destination)

説明: 標準ストレージユニットまたはスナップショット操作を持たないストレージライフサイクルポリシーがポリシーのストレージ先として想定されています。

推奨処置: スナップショット操作を持たないストレージライフサイクルポリシーをポリシーのストレージ先として選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1597

メッセージ: Oracle ポリシーの Replication Director には SLP が必要です (Replication Director for Oracle policy requires an SLP)

説明: Oracle ポリシーの[Replication Director を使用 (Use Replication Director)]を選択している場合、完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にスナップショット SLP を指定する必要があります。

推奨処置: 最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を設定し、後続の操作としてレプリケーションを設定します。完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にこの SLP を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1598

メッセージ: PFI および FI が有効な Oracle ポリシーには SLP が必要です (Oracle policy with PFI and FI enabled requires an SLP)

説明: Oracleのポリシーの[スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)]および[インスタントリカバリ用または SLP 管理用にスナップショットを保持する (Retain snapshot for Instant Recovery or SLP management)]を選択している場合、SLP を完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]としてセットアップする必要があります。

推奨処置: 最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を設定します。完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にこの SLP を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1599

メッセージ: アプリケーションスケジュールのストレージ選択をスナップショット SLP にすることはできません (Application schedule storage selection cannot be a snapshot SLP)

説明: アプリケーションスケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]に対する最初の処理としてスナップショットを持つ SLP を指定しました。

推奨処置: 非 SLP ストレージ (基本ディスク、テープ、拡張ディスク等) またはバックアップを持つ SLP を、アプリケーションスケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]に対する最初の操作として指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1600

メッセージ: ポリシーストレージは SLP です。アプリケーションスケジュールは、ポリシーストレージ選択に対して優先されません。(The Policy storage is a snapshot SLP and the Application schedule does not override the policy storage selection.)スナップショット SLP ストレージは、アプリケーションスケジュールで許可されません。(Snapshot SLP storage is not allowed on an Application schedule.)

説明: [属性(Attributes)]タブでポリシーストレージに対する最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を選択しましたが、アプリケーションスケジュールはポリシーストレージを上書きしません。

推奨処置: 非 SLP ストレージ (基本ディスク、テープ、拡張ディスク等) またはバックアップを持つ SLP を、アプリケーションスケジュールのポリシーストレージまたは[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]に対する最初の操作として指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1601

メッセージ: 完全スケジュールにはスナップショット SLP が必要です (Full schedule requires a snapshot SLP)

説明: 現在のポリシー構成には完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にスナップショット SLP が必要です。

推奨処置: 最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を設定します。完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にこの SLP を指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1602

メッセージ: ポリシーストレージは SLP ではありません。完全スケジュールは、ポリシーストレージ選択に対して優先されません。(The Policy storage is not a snapshot SLP and the Full schedule does not override the policy storage selection.)完全スケジュールにはスナップショット SLP ストレージが必要です。(Snapshot SLP storage is required on the Full schedule.)

説明: ［属性(Attributes)］タブでポリシーストレージに対する最初の操作としてバックアップを持つ SLP を指定しましたが、完全スケジュールはポリシーストレージを上書きしません。

推奨処置: スナップショットを持つ SLP をポリシーストレージに対する最初の操作として指定するか、完全スケジュールの［ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)］として指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1603

メッセージ: ターゲット SLP ボリューム情報の保存に失敗しました (Failed to save target SLP volume information)

説明: このエラーは、NetBackup がターゲットレプリケーション操作でストレージライフサイクルポリシーの作成を試みる際に内部で発生します。レプリケーション操作の構成時に、選択された対象ドメインの SLP ボリューム情報がソースドメインの EMM にキャッシュされます。キャッシュできない場合、nbemm ログに適切なメッセージが記録されます。

推奨処置: EMM ログの指示に従って操作してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1604

メッセージ: 互換性のあるデータクラスのインポート SLP が見つかりませんでした (No import SLP(s) found with compatible data class)

説明: 互換性のあるデータ分類のインポート SLP が見つからないか、対象にインポート SLP がありません。

推奨処置:

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1800

メッセージ: クライアントリストが無効です (invalid client list)

説明: [Enterprise Vault]形式のポリシーでは、バックアップ対象に次の Enterprise Vault 8.0 の指示句のいずれかを指定する場合、複数のクライアントがクライアントのリストに追加されていないことを確認します。

- EV_INDEX_LOCATION=
- EV_VAULT_STORE_DB=
- EV_OPEN_PARTITION=
- EV_CLOSED_PARTITIONS=
- EV_FINGERPRINT_DB=
- EV_READY_PARTITIONS=

推奨処置: ポリシーで 1 つのクライアントのみを指定するか、または複数のクライアントをサポートしないバックアップ対象から指示句を削除します。

『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1915

メッセージ: インスタンスを含んでいるインスタンスグループを削除できません (インスタンスを最初に削除または移動) (Cannot delete instance group that contains instances (delete or move instances first))

説明: ユーザーがインスタンスを含んでいるインスタンスグループを削除しようとしています。

推奨処置: 最初にNetBackup 管理コンソールでインスタンスノードの下にあるインスタンスを選択するか、`nboraadm -delete_instances`を使ってインスタンスを個々に削除します。グループ内のすべてのインスタンスを削除した後、グループの削除をもう一度試します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1916

メッセージ: データベースエラー。インスタンスリポジトリにアクセスできません (Database error, cannot access the instance repository)

説明: ユーザーが NetBackup 管理コンソールにインスタンスのリストを表示しようとしていますが、Sybase データベースがダウンしています。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動しており、nbdb が正しくインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1917

メッセージ: インスタンスグループを追加できません。このグループ名はすでに使われています。(Cannot add instance group, this group name is already in use)

説明: ユーザーは既存のグループと同じ名前でインスタンスグループを追加しようとしています。すべてのインスタンスに一意の名前が必要です。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: 別のグループ名を使って`nboraadm -add_instance_group`コマンドをもう一度試してください。
- GUI: 別のグループ名を適切なフィールドに入力し、グループの追加をもう一度試してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1918

メッセージ: この名前でグループを見つけられません。(Cannot find a group by this name)

説明: ユーザーが存在しないインスタンスグループを削除または修正しようとしています。このエラーがコマンドラインで発生した場合、グループ名のスペルが間違っている場合があります。NetBackup 管理コンソールのキャッシュにより、インスタンスグループ名はそのグループが存在していなくても、インスタンスグループのリストに表示される場合があります。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: グループ名のスペルが正しいことを確認してください。グループ名が大文字と小文字の区別ありであること注目してください。名前が正しい場合は、`nboraadm -list_instance_groups` を実行してどんなグループが存在するかを検証します。

- GUI: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1919

メッセージ: このインスタンスまたはインスタンスグループは別の処理によって変更されています。編集する前に更新してください (This instance or instance group was modified by another process, refresh before editing)

説明: NetBackup 管理コンソールで、別の処理で修正されたインスタンスまたはインスタンスグループをユーザーが編集、変更、または削除しようとしています。

推奨処置: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1920

メッセージ: この名前およびクライアントのインスタンスはすでに存在します (An instance with this name and client already exists)

説明: ユーザーが、名前がリポジトリ (ORACLE SID)、クライアント、およびホームディレクトリにすでに存在するインスタンスを追加しようとしています。これらの 3 つの識別子はインスタンスを一意にするため、1 つ以上を変更してから別のインスタンスを追加する必要があります。

GUI で、ユーザーが新しいインスタンスを未更新のディスプレイに追加しようとしているため、識別子がそのインスタンスを再度追加しようとします。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: すでに存在するインスタンスを表示するには、`nboraadm -list_instances` を使います。
- GUI: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1921

メッセージ: 指定されたインスタンスがみつかりません (The specified instance cannot be found)

説明: ユーザーが存在しないインスタンスを修正または削除しようとしています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: インスタンス名 (ORACLE SID) を入力してインスタンスを指定しているため、インスタンス名のスペルが正しいことを確認してください。Windows では、インスタンス名は大文字と小文字が区別されません。UNIX では、インスタンス名は大文字と小文字が区別されます。
- GUI: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1922

この名前またはクライアントのインスタンスはすでに登録されています (An instance with this name/client is already registered)

説明: ユーザーが重複するインスタンスを登録しようとしています。同じ名前、クライアント、およびホームディレクトリのインスタンスがリポジトリ (ORACLE SID) にすでに登録されています。これらの 3 つの識別子はインスタンスを一意にするため、1 つ以上の識別子を変更してから別のインスタンスを登録する必要があります。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: どんなインスタンスがすでに存在しているかを表示するには、`nboraadm -list_instances` を実行します。
- GUI: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1924

メッセージ: ドメインは Windows インスタンスの必須フィールドです (Domain is a required field for Windows instances)

説明: ユーザーが Windows インスタンスを登録しようとしていますが、ドメインが指定されていません。

推奨処置: ドメインフィールドにドメインを指定してから、インスタンスの登録をもう一度試します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1925

メッセージ: 要求された操作が失敗しました (The requested operation(s) failed)

説明: 一般的な、未指定のエラーが発生しました。異なるバージョンの NetBackup がクライアントおよびサーバーにある可能性があります。または、間違ったパラメータで nboraadm コマンドを実行しました。

推奨処置: コマンドライン引数をもう一度確認します。エラーが解決しない場合、デバッグログにヒントがないかを確認するか、テクニカルサポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1926

メッセージ: 指定されたエントリはすでに存在します (The entry specified already exists)

説明: ユーザーが nboraadm を実行してデータベース管理者を追加しようとしていますが、そのユーザーはすでに追加されています。ユーザー名およびクライアント名で一意のエントリを作成します。

推奨処置: DBA はすでに追加されているため、処理は不要です。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1927

メッセージ: 指定されたエントリはありません (The entry specified does not exist)

説明: ユーザーが nboraadm を使ってデータベース管理者を追加しようとしていますが、そのユーザーは DBA リストに存在しません。

推奨処置: ユーザーはすでに削除されているため、処理は不要である可能性があります。nbboraadm -list_dbasコマンドを使って DBA リストを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 1928

メッセージ: 1 つ以上のインスタンスのクレデンシャルを検証できませんでした (The credentials for 1 or more instances could not be verified)

説明: 検証は失敗しました。原因を説明する特定の情報は戻されませんでした。ユーザー名またはパスワードが誤っているか、クライアントへの接続に問題があります。

推奨処置: クライアントが少なくともこのバージョンの NetBackup を実行しており、正しいマスターサーバーを使うように構成されていることを確認します。ユーザー名、パスワード、およびドメイン (Windows) または TNS (Oracle または RMAN) などの補助フィールドに正しく入力されていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2000

メッセージ**:** バックアップに新しいメディアを割り当てることができません。ストレージユニットに利用可能なメディアがありません (unable to allocate new media for backup, storage unit has none available)。

説明**:** NetBackup のメディアおよびデバイスの選択コンポーネント (MDS) がバックアップに新しいテープボリュームを割り当てませんでした。このバックアップに利用可能なボリュームが、ストレージユニットのボリュームプール内に存在しません。NetBackup では、バックアップ中にストレージユニットが変更されません。

推奨処置**:** 次のように実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認して、メディアが存在しないストレージユニットを特定します。
- ストレージユニットがロボットで、空のスロットが存在する場合は、ボリュームを追加し、適切なボリュームプールを指定します。空のスロットが存在しない場合は、一部のメディアを非ロボットドライブに移動し、新しいボリュームを追加します。利用可能なボリュームのトラッキングが困難な場合は、次のディレクトリにある available_media スクリプトを実行します。

  UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/bin/goodies/available_media`

  Windows の場合:

  `install_path¥NetBackup¥bin¥goodies¥available_media.cmd`

  このスクリプトでは、ボリューム構成内のすべてのボリュームと、NetBackup に現在割り当てられているボリュームの情報が表示されます。
- スクラッチボリュームプールを設定し、割り当てられていないテープを用意します。NetBackup で新しいテープが必要であり、利用可能なテープが現在のボリュームプールに存在しない場合、スクラッチプールからバックアップで使用されているボリュームプールに、テープが移動されます。
- ストレージユニットおよびボリュームプールにメディアが存在する場合、次の内容を確認します。
  - ボリュームが凍結または一時停止されているかどうかを調べるには、NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを使います。その場合、`bpmedia` コマンドを実行して、ボリュームの凍結の解除または一時停止の解除を行います (必要な場合)。
  - ボリュームの期限が切れておらず、最大マウント数を超えていない。
  - デバイスの EMM データベースホスト名が適切である。EMM データベースホスト名を変更する場合、Media Manager device デーモン (UNIX サーバーの場合

ltid) または NetBackup Device Manager サービス (Windows サーバー) を停止し、再起動します。

- NetBackup 構成で、適切なホストをストレージユニットに指定している。ホスト接続は、ドライブが接続されているサーバー (マスターサーバーまたはメディアサーバー) である必要があります。
- メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成でメディアが適切なボリュームプール内に存在する。また、割り当てられていないメディアまたは有効なメディアが要求された保持レベルで利用可能である。NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを使用して、すべてのボリュームの保持レベル、ボリュームプールおよび状態を表示します。NetBackup の[メディアの概略 (Media Summary)]レポートを使用して、適切な保持レベルで有効なボリュームを確認します。

- bptm のデバッグログディレクトリを作成し、MDS VxUL ログ (OID 143) をデバッグレベル 2 に設定します。その後、操作を再試行します。
- 新しいストレージユニットを初めて使用する場合、マスターサーバー上の NetBackup を停止し、再起動します。デバッグレベル 2 の MDS の統合ログファイル (OID 143) では、通常、NetBackup のメディア選択プロセスが表示されます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2001

メッセージ: このジョブで利用可能なドライブがありません (No drives are available for this job)

説明: ジョブはテープドライブを要求しましたが、適切なドライブパスがジョブに対して構成されませんでした。

推奨処置: 次のように実行します。

- 必要なドライブとロボットが構成され、起動されていることを検証します。
- ltid がアクティブであり、ストレージユニットで必要なメディアサーバーのドライブに構成されているドライブパスが存在することを検証します。
- ジョブが NDMP ドライブパスを必要とする場合は、このドライブパスが存在することを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2002

メッセージ: STU 識別子形式が無効です (Invalid STU identifier type)

説明: ジョブは無効なストレージユニット識別子形式を使って割り当てを要求しました。有効なストレージユニット識別子形式は 0 (特定の STU)、1 (グループ) または 2 (任意) のみです。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。解決するには、NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2003

メッセージ: ドライブが割り当てられていません (Drive is not allocated.)

説明: MDS は割り当てられていないドライブの割り当て解除を要求されました。

推奨処置: このエラーは NetBackup の MDS コンポーネントの内部エラーです。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの MDS の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2004

メッセージ: ドライブがすでに割り当てられています (Drive is already allocated)

説明: MDS はすでに割り当てられているドライブの割り当てを誤って要求されました。

推奨処置: ドライブはジョブに割り当てられる間にリセットされた可能性があります。ドライブを使うジョブが完了するまで待ちます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2005

メッセージ: MDS はメディアサーバーから無効なメッセージを受信しました (MDS has received an invalid message from a media server)

説明: メディアサーバーの bptm か bpdm が MDS に不適切な形式のメッセージを送りました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。このエラーによりジョブが失敗する場合は、NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。
- メディアサーバーからの bptm のレガシーログ (VERBOSE=5)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2006

メッセージ: NDMP クレデンシャルが EMM で定義されていません (NDMP credentials are not defined in EMM)

説明: NDMP ストレージユニットにアクセスするための NDMP クレデンシャルで構成されている適切なメディアサーバーがありません。または、メディアサーバーが NetBackup リリース 7.0 以上にない場合に NetBackup がディスクストレージユニットから NDMP イメージをリストアしようとしました。

推奨処置: ジョブが NDMP デバイスを使う場合は、メディアサーバーにファイラに対して構成された NDMP 資格情報があることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2007

メッセージ: ストレージユニットには要求されたジョブと互換性がありません (Storage unit is not compatible with requesting job)

説明: ジョブがそのジョブのために使うことができないストレージユニットを要求しました。

推奨処置: NetBackup の古いバージョンを実行しているメディアサーバーでジョブを実行しようとしています。要求されるメディアサーバーで利用可能ではない機能がジョブで必要であることがあります。ポリシーとストレージユニットによって呼び出されるストレージユニット形式とメディアサーバーで機能がサポートされていることを検証します。

このエラーは、実行されているポリシーがそのポリシーによって要求されるストレージユニットと互換性がないときに発生する可能性があります。

- カタログバックアップが共有ディスクストレージユニットに送信される。
- 多重化されたジョブが多重化機能が構成されていないストレージユニットに送信される。
- NDMP バックアップポリシーが非 NDMP ストレージユニットに送信される。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2008

メッセージ: 互換性のあるすべてのドライブパスが停止しています (All compatible drive paths are down)

説明: このジョブのために使うことができるすべての構成されたドライブが停止しています。

推奨処置: `ltid` が必要なメディアサーバーで動作しており、そのメディアサーバーがテープに対してアクティブであることを検証します。ドライブパスが停止している場合は、デバイスモニターを使って起動します。ドライブが再度停止した場合は、ドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2009

メッセージ: 互換性のあるすべてのドライブパスが停止していますが、メディアは利用可能です (All compatible drive paths are down but media is available)

説明: このジョブのために使うことができるすべての構成されたドライブが停止しています。

推奨処置: `ltid` が必要なメディアサーバーで動作しており、そのメディアサーバーがテープに対してアクティブであることを検証します。ドライブパスが停止している場合は、デバイスモニターを使って起動します。ドライブが再度停止した場合は、ドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2010

メッセージ: ジョブ形式は無効です (Job type is invalid)

説明: Resource Broker への割り当て要求で指定されているジョブ形式が、要求される操作に対して無効です。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。このエラーによりジョブが失敗する場合は、NetBackup テクニカルサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2011

メッセージ: メディアサーバーでシステムエラーが報告されました (The media server reported a system error)

説明: メディアサーバーの割り当てが一貫性のない状態にあります。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。このエラーによりジョブが失敗する場合は、NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2012

メッセージ: メディアは EMM で競合しています (Media has conflicts in EMM)

説明: 要求されたメディアは、nbemm データベースで競合が発生しているとマーク付けされているため使うことができません。

推奨処置: メディアは競合が発生しているとマーク付けされています。NetBackup 5.x からのアップグレードで、異なるボリュームのデータベースの 2 つのテープが同じメディア ID を持つ複数のボリュームデータベースを見つけました。この状況を解決するには、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2013

メッセージ: エラーレコードの挿入に失敗しました (Error record insert failed)

説明: データベースレコードの挿入が失敗しました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。このエラーによりジョブが失敗する場合は、NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2014

メッセージ: メディアは割り当てられていません (Media is not assigned)

説明: ジョブは割り当て済みのメディアを必要としますが、要求されたメディアは割り当て済みではないです。

推奨処置: ジョブが目的のメディアを要求したことを検証します。たとえば、メディアの内容を表示する場合は、正しいメディア ID を指定したことを確認してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2015

メッセージ: メディアが期限切れです (Media is expired)

説明: すでに期限切れになってしまったメディアにジョブが書き込みを試みています。

推奨処置: 期限切れでないメディアがジョブのために利用可能であることを確認してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2016

メッセージ: メディアが別のサーバーに割り当てられています (Media is assigned to another server)

説明: ジョブはストレージサーバーのメディアを使うことができません。そのメディアが別のストレージサーバーに割り当て済みであるためです。

推奨処置: 次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。

- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2017

メッセージ: メディアをドライブからマウント解除する必要があります (Media needs to be unmounted from a drive)

説明: 要求されたメディアは、別のジョブのために使う前に格納先のドライブからマウント解除される必要があります。

推奨処置: このエラーを戻すジョブによって要求されるメディアを識別します。それが別のジョブによって使われている場合は、そのジョブが完了するのを待ちます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2018

メッセージ: クリーニング数が無効です (Number of cleanings is invalid)

説明: クリーニングメディアに残っているクリーニングの数が無効です。

推奨処置: [メディアの変更 (Change Media)] 画面で、クリーニングメディアに残っているクリーニングの数を 0 (ゼロ) 以上に設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2019

メッセージ: ローカルシステムに構成されていないドライブ内にメディアが存在します (Media is in a drive that is not configured on the local system)

説明: ジョブに適したメディアサーバーに対して構成されたドライブパスがないメディアボリュームを使うようにジョブが構成されています。メディアボリュームが不適切な場所に配置されているか、またはジョブのために構成されたストレージユニットでアクセス可能なメディアサーバーに対してすべてのドライブが停止しています。

推奨処置: ドライブパスが停止している場合は、ストレージユニットで使用するために構成されたメディアサーバーを識別し、そのメディアサーバーに対するドライブパスを起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2020

メッセージ: ロボットライブラリがサーバーで停止しています (Robotic library is down on server)

説明: NetBackup が必要なメディアサーバーに対してロボットを停止とマーク付けしました。

推奨処置: この割り当てに必要なメディアサーバーが動作していることを検証し、`ltid` がそのメディアサーバーで起動されていることを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2021

メッセージ: 割り当てレコードの挿入に失敗しました (Allocation record insert failed)

説明: NetBackup の `mds` コンポーネントがデバイスの割り当てのためにデータベースを更新できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2022

メッセージ: 割り当て状態レコードの挿入に失敗しました (Allocation status record insert failed)

説明: NetBackup の `mds` コンポーネントがデバイス割り当て状態の情報でデータベースを更新できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2023

メッセージ: 割り当て識別子は EMM に認識されていません (Allocation identifier is not known to EMM)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがこのジョブにデバイスを割り当てるのに必要なデバイス割り当てレコードを見つけることができません。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2024

メッセージ: 割り当て要求の更新に失敗しました (Allocation request update failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがデバイスの割り当てのためにデータベースを更新できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2025

メッセージ: 割り当て要求の削除に失敗しました (Allocation request delete failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがデバイスの割り当てをデータベースから削除できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2026

メッセージ: 割り当て状態要求の削除に失敗しました (Allocation status request delete failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがこのジョブの割り当て状態レコードを修正できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2027

メッセージ: メディアサーバーが動作していません (Media server is not active)

説明: このジョブは現在利用できないメディアサーバーを必要とします。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- この割り当てに必要なメディアサーバーが動作していることを検証します。
- これがテープジョブの場合は、ltid がメディアサーバーで動作していることを検証します。メディアサーバーがオフラインになったりオンラインに戻ったりする場合は、ジョブがそのメディアサーバーを使うことができるまで数分の遅延が発生することがあります。
- メディアサーバーの状態を示すために vmoprcmd コマンドを使います。ジョブがディスクストレージユニットにアクセスしようとしたら、nbrmms 処理がメディアサーバーで実行中であることを検証します。ジョブがテープストレージユニットにアクセスしようとしたら、ltid がメディアサーバーで実行中であることを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2028

メッセージ: メディアが予約されています (Media is reserved)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがメディアを割り当てることができません。別のジョブがそのメディアを専用に予約しているためです。

推奨処置: 複数の複製ジョブが読み込みのために同じテープメディアを使うことを試みている場合は、各ジョブがメディアを予約します。NetBackup は複数のジョブがテープメディアの予約を取得できるようにする必要があります。

このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2029

メッセージ: EMM データベースが不整合です (EMM database is inconsistent)

説明: NetBackup データベースの不一致がこのジョブのための割り当てを妨げています。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

NetBackup の割り当てデータベースを一貫した状態に戻すために nbrbutil -resetall コマンドを実行します。このコマンドは現在動作しているジョブを含むすべてのジョブを取り消すことに注意してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2030

メッセージ: ディスク領域が不十分であるか、高水準点を超過します (Insufficient disk space or high water mark would be exceeded)

説明: このジョブを実行するには利用可能なディスク容量が不十分です。

推奨処置: 次の解決策を試みてください。

- ディスクに期限切れにできるイメージがあれば期限切れにして、nbdelete を実行し、ディスクからイメージを削除します。
- NetBackup は、期限切れになる前にディスクイメージを作成することがあります。その場合、ディスクのイメージの作成または期限切れの速度を変更するようにポリシーの修正が必要なことがあります。
- ディスクグループの高水準点や低水準点を下げることは有用なことがあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2031

メッセージ: メディアが EMM で定義されていません (Media is not defined in EMM)

説明: このジョブに必要なメディアは EMM データベースで定義されていません。

推奨処置: リストアジョブに必要なメディアボリュームは EMM データベースから削除されました。メディアが利用可能な場合は、それをインポートするために bpimport を使います。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2032

メッセージ: EMM によると、メディアは使用中です (Media is in use according to EMM)

説明: NetBackup データベースは、メディアが使用中であるが別のジョブに割り当てられていないことを示します。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2033

メッセージ: メディアが不適切な場所に配置されています (Media has been misplaced)

説明: ジョブは、想定されたロボットスロットにないメディアを必要とします。

推奨処置: ジョブに必要なメディアが vmquery によって示されるとおり適切なロボットスロットにあることを検証します。

エラーが解決しない場合、次のログは問題の理解に有用なことがあります。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。
- このメディアにアクセスするメディアサーバーの詳細な bptm ログ。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2034

メッセージ: 後で割り当て要求を再試行してください (Retry the allocation request later)

説明: ジョブに必要なリソースは現在使用中です。

推奨処置: このエラーはジョブの終了時の状態として表示されません。mds と nbrb の VxUL ログでは、リソースがビジー状態であるのでジョブがキューに投入される必要があることを示します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2035

メッセージ: 要求は保留にする必要があります (Request needs to pend)

説明: ジョブが続行するには、オペレータの介入を必要とします。

推奨処置: このエラーはジョブの終了時の状態として表示されません。mds と nbrb の VxUL ログでは、ジョブが NetBackup のデバイスモニターにオペレータの介入の要求を送信する必要があることを示します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2036

メッセージ: ドライブは、起動しているロボットライブラリ内にあります (Drive is in a robotic library that is up)

説明: オペレータは稼働中のロボットにあるドライブに、保留中のテープマウントの要求を割り当てるように試みました。

推奨処置: 非ロボットメディアに対する要求がデバイスモニターで保留中の要求を引き起こした可能性があり、オペレータはスタンドアロンドライブではないドライブにその要求を割り当て済みです。このエラーは致命的ではありません。要求は NetBackup のデバイスモニターで再び保留されます。スタンドアロンドライブまたは AVR モードにある (非ロボットの) ドライブに、保留中のマウントを割り当てます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2037

メッセージ: ドライブの準備ができていません (Drive is not ready)

説明: 必要なテープはドライブにありますが、ドライブは準備完了状態にありません。

推奨処置: このエラーは、非ロボットメディアに対する要求がデバイスモニターで保留中の要求を引き起こし、オペレータが、準備完了状態にないドライブにその要求を割り当てた場合に発生します。このエラーは致命的ではありません。要求は NetBackup のデバイスモニターで再び保留されます。割り当てられるドライブに必要なテープがあることと、準備完了を示すドライブの表示灯がついていることを確認します。テープが挿入された後、ドライブが準備完了になるまで時間がかかることがあります。テープが挿入された後、ドライブが準備完了状態にならなければ、ドライブに問題があることがあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2038

メッセージ: ドライブにロードされたメディアは書き込み可能ではありません (Media loaded in drive is not write-enabled)

説明: このエラーは、非ロボットメディアに対するストレージユニットの要求によりデバイスモニターで保留中の要求が発生した場合に、オペレータが書き込み可能ではないメディアをドライブに挿入すると発生することがあります。

推奨処置: このエラーは致命的ではありません。要求は NetBackup のデバイスモニターで再び保留されます。このテープへの書き込みができることを確認したら、必要なテープの書き込み可能のスイッチが書き込みを許可するように設定されていることを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2039

メッセージ: SCSI 予約の競合が検出されました (SCSI reservation conflict detected)

説明: NetBackup の `bptm` コンポーネントは、別のジョブが予想外にドライブの SCSI RESERVE を保持するので、テープドライブの読み込みまたは書き込みができませんでした。

推奨処置: このエラーは、ジョブのリソース割り当て時には発生しませんが、テープジョブの I/O の間に起きることがあります。メディアサーバーの詳細な `bptm` ログは問題の理解に有用なことがあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2040

メッセージ: ストレージユニットの最大ジョブ数に達しました (Maximum job count has been reached for the storage unit)

説明: 最大ジョブ数を超過するのでストレージを割り当てることができません。最大ジョブ数は各ストレージユニットに設定可能です。ストレージユニットが構成されていたコピーの数よりも多くのコピーがストレージユニットの対象とされている場合、複数のコピージョブでこれと同じエラーが発生することがあります。

推奨処置: コピーの 1 つで異なるストレージユニットを対象とするか、またはストレージユニットの最大ジョブ数を増加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2041

メッセージ: ストレージユニットが停止しています (Storage unit is down)

説明: ディスクストレージユニットは停止として指定されているため、使うことができません。

推奨処置: ディスクが停止とみなされている理由を示す `bperror -disk` コマンドを実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2042

メッセージ: 密度の不一致が検出されました (Density mismatch detected)

説明: このエラーは NetBackup 内部エラーです。ジョブは間違った密度でメディアを要求しました。イメージカタログとメディアデータベースの間に不一致が存在する可能性があります。

推奨処置: メディア ID の密度でジョブが要求するテープメディアをリストアします。要求された密度は、メディアの構成された密度と一致しなければ、割り当てることができません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2043

メッセージ: 要求されたスロットは空です (Requested slot is empty)

説明: メディアはロボット内の想定されたスロットにありません。

推奨処置: ロボットをインベントリ処理する必要がある可能性があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2044

メッセージ: メディアは別のアプリケーションに割り当てられています (Media is assigned to another application)

説明: 要求されたメディアは NetBackup 以外のアプリケーションに割り当て済みであるので割り当てることができません。

推奨処置: ジョブに必要なメディアが NetBackup に割り当て済みであることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2045

メッセージ: 最大ジョブ数が 1 より小さいため、ストレージユニットが無効です (Storage unit is disabled since max job count is less than 1)

説明: ストレージユニットは最大ジョブ数が 0 に設定されているので使うことができません。

推奨処置: 0 より大きい値に最大ジョブ数 (または最大並列実行ドライブ数) を増加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2046

メッセージ: メディアをマウントできません (Media is unmountable)

説明: メディアはマウントエラーが原因で使用不能としてマーク付けされました。

推奨処置: メディアのロボット内のドライブをクリーニングします。不良メディアがないかどうかを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2047

メッセージ: メディアは書き込み保護されています (Media is write protected)

説明: メディアは書き込み禁止であるので書き込みジョブに使うことができません。

推奨処置: スクラッチプールのメディアが書き込み禁止でないことを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2048

メッセージ: メディアは ACS ロボットライブラリによって使用されています (Media is in use by the ACS robotic library)

説明: このジョブに必要な ACS メディアは別のシステムで使用中です。

推奨処置: 必要なメディアが別のアプリケーションによって使用中でないことを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2049

メッセージ: メディアは ACS ロボットライブラリ内で見つかりませんでした (Media not found in the ACS robotic library)

説明: このジョブに必要なメディアが ACS ロボットライブラリに見つかりません。

推奨処置: 必要なメディアが ACS ロボットで利用可能であることを確認してください。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2050

メッセージ: ACS メディアには、読み込み不可能な外部ラベルがあります (ACS media has an unreadable external label)

説明: このジョブは、外部ラベルかバーコードが読み取り不能であるために使うことができない ACS メディアを必要とします。

推奨処置: このメディアのバーコードラベルの問題を修正します。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2051

メッセージ: ACS メディアはドライブのドメイン内にはありません (ACS media is not in the drive's domain)

説明: このジョブに必要なメディアはアクセスできない ACS ロボットにあります。

推奨処置: 必要なメディアを含んでいるロボットが NetBackup メディアサーバーにアクセス可能であることを検証します。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2052

メッセージ: ACS ライブラリストレージモジュール (LSM) はオフラインです (An ACS Library Storage Module (LSM) is offline)

説明: 必要な ACS LSM はオフラインです。

推奨処置: ACS LSM をオンラインにします。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2053

メッセージ: メディアはアクセスできないドライブに存在します (Media is in an inaccessible drive)

説明: 必要なメディアは、停止しているかアクセス不能なドライブに現在ロードされています。

推奨処置: メディアを特定し、ドライブかドライブパスが停止する原因となった問題を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2054

メッセージ: メディアは、現在停止状態のドライブ内にあります (Media is in a drive that is currently in a DOWN state)

説明: 必要なメディアは、停止しているドライブに現在ロードされています。

推奨処置: メディアを特定し、ドライブかドライブパスが停止する原因となった問題を修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2055

メッセージ: ACS 物理ドライブは利用できません (ACS physical drive is not available)

説明: メディアサーバーは、ドライブが利用可能ではないので ACS メディアをロードできません。

推奨処置: ACS ドライブを検索し、インストールします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2056

メッセージ: マウント要求に使用したファイル名はすでに存在しています (The file name used for the mount request already exists)

説明: `tpreq` コマンドは、指定のファイル名がすでに存在するのでこのメディアをロードできません。

推奨処置: 異なるファイル名を `tpreq` のために指定するか、または `tpreq` を使ってロードされた競合しているファイル名を持つメディアに対して `tpunmount` コマンドを実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2057

メッセージ: ドライブのスキャンホストは動作していません (The scan host of the drive is not active)

説明: スタンドアロンドライブのスキャンホストはオフラインです。したがってドライブは割り当てることができません。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、このドライブへのパスを持つ NetBackup メディアサーバーを再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2058

メッセージ: デバイスを使用する前に、LTID をメディアサーバー上で再起動する必要があります (LTID needs to be restarted on media servers before the device can be used)

説明: ドライブは `ltid` の再起動が必要であるので使うことができません。このエラーは、設定変更がメディアサーバーで行われた後に `ltid` が再起動されていない場合に発生することがあります。

推奨処置: メディアサーバーがビジー状態ではないときに、そのメディアサーバーで `ltid` を停止し、再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2059

メッセージ: ロボットライブラリは利用できません (The robotic library is not available)

説明: ドライブに必要なロボットは `nbemm` データベースで見つけることができません。

推奨処置: ジョブに必要なロボットが正しく構成されていることを確認します。エラーが解決しない場合、デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143) は問題の理解に有用なことがあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2060

メッセージ: メディアは、巻き戻すか、またはドライブからマウント解除する必要があります (Media needs to be rewound or unmounted from a drive)

説明: NetBackup の `mds` コンポーネントは、テープがアンロードされる必要があることを Resource Broker に知らせるためにこのエラーを内部的に使います。これはジョブのエラー状態としては表示されません。

推奨処置: 適用なし.

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2061

メッセージ: ホストは、クラスタのアクティブノードではありません (The host is not an active node of a cluster)

説明: クラスタのフェールオーバーはジョブが動作している間に起きました。ジョブはフェールオーバーしたメディアサーバーのスパンを待機中であることがあります。

推奨処置: 失敗したジョブを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2062

メッセージ: ストレージユニットで抑制されたジョブ数に達しました (Throttled job count has been reached for the storage unit)

説明: このエラーはジョブ状態としては返されません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2063

メッセージ: サーバーには、リモートクライアントオプションのライセンスがありません (Server is not licensed for Remote Client Option)

説明: このジョブに必要なメディアサーバーでリモートクライアントオプションが有効になっていません。SAN メディアサーバーが、メディアサーバーではないクライアントのバックアップを要求されたか、SAN メディアサーバーで VMware バックアップが試行されました。

推奨処置: ライセンスを交付されているメディアサーバーでこのクライアントのバックアップを実行します。ライセンスを追加した場合、そのメディアサーバーにマスターサーバーへの接続があることを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2064

メッセージ: ジョブ履歴によると、利用可能なメディアはありません (Job history indicates that no media is available)

説明: NetBackup 7.0 より前のソフトウェアでインストールされたメディアサーバーでジョブを実行すると、ジョブを開始しても、メディアがそのジョブに対して利用可能ではない場合があります。この場合、マスターサーバーは一定期間 (12 時間) そのストレージユニットの使用を停止し、そのストレージユニットを要求したジョブに対してこのエラーを戻します。

推奨処置: メディアがストレージユニットに対して利用可能であることを確認してください。必要に応じて、メディアサーバーのソフトウェアをアップグレードします。必要に応じてメ

ディアを追加します。メディアが利用可能な場合は、ストレージユニットを再び使うことができるまで 12 時間待ちます。ストレージユニットをすぐに利用できるようにするには、マスターサーバーで次のコマンドを実行して保留を解除します。

```
nbrbutil -releaseAllocHolds
```

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2065

メッセージ: ジョブ履歴によると、利用可能なドライブはありません (Job history indicates that no drives are available)

説明: NetBackup 6.0 より前のソフトウェアでインストールされたメディアサーバーでジョブを実行すると、ジョブを開始しても、ジョブのために指定されたドライブがビジー状態または利用不能で、ジョブが失敗する原因となる場合があります。この場合、NetBackup マスターサーバーは一定期間 (数分) そのドライブの使用を停止し、そのドライブを要求しているジョブに対してこのエラーを戻します。

推奨処置: メディアサーバーソフトウェアをアップグレードします。ストレージユニットのドライブすべてが起動していて、使用可能であることを確認してください。クリーニングする必要があるすべてのドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2066

メッセージ: ディスクプールが見つかりません (Disk pool not found)

説明: ジョブは nbemm データベースに存在しないディスクプールの対象となっています。

推奨処置: このジョブが使うストレージユニットが、正しく構成されたディスクプールで使用されるように構成されていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2067

メッセージ: ディスクボリュームが見つかりません (Disk volume not found)

説明: 読み込みジョブは nbemm データベースに存在しないディスクボリュームを必要とします。または、書き込みジョブは構成されたボリュームがないディスクプール用に構成されています。

推奨処置: このジョブが使うディスクストレージが、ボリュームが構成されているディスクプールで使用されるように構成されていることを確認します。読み込みジョブの場合は、読み込みに必要なボリュームが nbemm データベースに存在することを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2068

メッセージ: ディスクボリュームのマウントポイントが見つかりません (Disk volume mount point not found)

説明: ディスクボリュームにマウントポイントが構成されていないか、nbemm データベースでの構成が不完全です。

推奨処置: ディスクグループとディスクグループのディスクボリュームの構成が正しいことを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2069

メッセージ: ディスクボリュームのマウントポイントレコードの挿入に失敗しました (Disk volume mount point record insert failed)

説明: データベースの更新はディスクジョブの割り当てを試みている間に失敗しました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2070

メッセージ: 指定されたマウントパスは、割り当てられた領域に適合しません (The specified mount path will not fit in the allocated space)

説明: ディスクボリュームのマウントポイントパスは許容される最大値より大きい値です。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2071

メッセージ: 要求に対してストレージサーバーが見つかりません (Unable to find any storage servers for the request)

説明: NetBackup はこのディスクジョブのストレージサーバーを見つけることができませんでした。

推奨処置: ジョブに必要なディスクグループを処理するストレージサーバーが構成されており、有効であることを確認します。それらが起動状態にあることを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2072

メッセージ: 静的なマウントポイントの無効な操作 (Invalid operation on static mount point)

説明: ディスクボリュームで、正しく構成されていないマウントポイントが見つかりました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2073

メッセージ: ディスクプールが停止しています (Disk pool is down)

説明: 必要なディスクプールは停止状態にあるので使うことができません。

推奨処置: ディスクプールが停止状態に入った原因を判断する bperror -disk コマンドを実行します。問題を修正し、nbdevconfig コマンドを使ってディスクプールを起動状態に戻します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2074

メッセージ: ディスクボリュームが停止しています (Disk Volume is Down)

説明: 必要なディスクボリュームは停止状態にあるので使うことができません。

推奨処置: `bperror -disk` を実行することによって、ディスクボリュームが停止状態になった理由を確認できることがあります。問題を修正し、`nbdevconfig` を使ってディスクボリュームを起動状態に戻します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2075

メッセージ: ファイバートランスポートリソースが利用できません (Fibre Transport resources are not available)

説明: ジョブはこの SAN クライアントでファイバートランスポートを使用するように構成されていますが、利用可能なファイバートランスポート接続は存在しません。

推奨処置: ファイバートランスポートが利用可能でなければ LAN トランスポートに切り替えるようにジョブを構成します。動作するジョブの形式がファイバートランスポートと互換性があることを検証します。`nbdevquery` を使って、要求されるディスクプールがファイバートランスポートで使用できるようになっていることを検証します。ジョブに必要なクライアントとメディアサーバー間に有効なファイバートランスポート接続があることを検証します。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2076

メッセージ: DSM によって、予期しないエラーが戻されました (DSM returned an unexpected error)

説明: NetBackup の Disk Service Manager コンポーネントは予想外のエラーを戻しました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2078

メッセージ: ディスクボリュームの最大マウント数を超えています (The maximum number of mounts for the disk volume have been exceeded)

説明: ディスクボリュームは、他の多くのユーザーによってマウントされているので、ジョブで使うことができません。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2079

メッセージ: DSM は、ボリュームに無効なファイルシステムがマウントされていることを検出しました (DSM has detected that an invalid filesystem is mounted on the volume)

説明: NetBackup は、想定したファイルシステムをディスクボリュームで見つけませんでした。

推奨処置: NetBackup が使うディスクボリュームとそれに関連付けられたマウントポイントが他のアプリケーションによって使われていないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2080

メッセージ: ディスクボリュームに最大ライター数が指定されていません (Disk volume has no max writers count)

説明: ディスクボリュームは、使用可能なマウントポイント数に対して正しく構成されていません。

推奨処置: nbdevquery を使って適切なディスク構成を確認します。このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2081

メッセージ: ディスクボリュームに最大リーダー数が指定されていません (Disk volume has no max readers count)

説明: ディスクボリュームは、使用可能なマウントポイント数に対して正しく構成されていません。

推奨処置: nbdevquery を使って適切なディスク構成を確認します。このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2082

メッセージ: ドライブは、利用可能としてマークされている必要があります (The drive needs to be marked as available)

説明: ドライブは、メディアがロードされて割り当てられていますが、MDS がそれを使用可能にしていないので使うことができません。

推奨処置: マスターサーバーで、このジョブの割り当てを示す nbrbutil -dump コマンドを実行します。問題が解決しない場合、ドライブを使うことができるように、ドライブの割り当てを解除する nbrbutil -releaseMDS コマンドを実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2083

メッセージ: メディア親和性グループが EMM で定義されていません (The media affinity group is not defined in EMM)

説明: MDS はこのメディアの予約グループを見つけようとしましたが、想定された予約のグループを見つけませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、問題の特定に役立てるために次のログを調べます。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2084

メッセージ: メディア親和性グループレコードの挿入に失敗しました (Media affinity group record insert failed)

説明: MDS はこのテープメディアの予約グループの情報を更新できません。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、問題の特定に役立てるために次のログを調べます。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2085

メッセージ: ディスクボリュームは利用できません (Disk volume is not available)

説明: ジョブは、現在構成されているより多くのディスクボリュームを必要とします。

推奨処置: ディスクグループでディスクボリュームが構成されていることを確認してください。複数のコピージョブは同じディスクボリュームの 2 つのコピーを対象にすることはできません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2086

メッセージ: ディスクボリュームは、同じジョブの複数のコピーに使用できません (Disk volume cannot be used for more than one copy in the same job)

説明: この複数のコピージョブに使用できる十分なディスクボリュームが構成されていません。

推奨処置: 想定するディスクボリュームが構成されていることを検証するために nbdevquery -listdv コマンドを使います。複数のコピージョブでは、固有の使用可能なディスクボリュームが各コピーのために存在することを確認します。複数のコピージョブは同じディスクボリュームの 2 つのコピーを対象にすることはできません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2087

メッセージ: メディアの割り当てによって、部分的に使用されているメディアの最大数の制限を超えます (Media allocation would exceed maximum partially full media limit)

説明: 部分的に空きのないメディアの最大数の設定限度を超えているため、このジョブを実行できません。

推奨処置: このエラーは複数のコピージョブか複製ジョブで発生することがあります。問題が解決しない場合、ディスクプールで、部分的に空きのないメディアの最大数の設定を増やす必要がある場合もあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2088

メッセージ: クリーニングメディアが利用できません (Cleaning media is not available)

説明: クリーニングメディアがドライブに構成されていないのでクリーニングジョブを実行できません。

推奨処置: ドライブを含んでいるロボットにクリーニングボリュームを追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2089

メッセージ: FT クライアントは実行されていません (FT client is not running)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートクライアントはこのジョブに必要なクライアントで動作していません。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- PBX (Private Branch Exchange) サービスがインストールされ、動作していることを検証します。動作している処理に pbx_exchange がリストされていることを確認するために bpps -x コマンドを実行します。

- クライアントが SAN クライアントとして構成されていることを検証します。SAN クライアントの現在の状態を戻す `bpclntcmd -sanclient` コマンドを実行します。0 (ゼロ) の応答は SAN クライアントが構成されていないことを示します。`bpclntcmd -sanclient 1` としてコマンドを再実行します。
- クライアントがメディアサーバー、マスターサーバー、または EMM サーバーではないことを検証します。SAN クライアントの処理は NetBackup クライアントでのみ動作します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。
- SAN クライアントのサーバーエントリが NetBackup マスターサーバーに存在しないことを検証します。SAN クライアントのマスターサーバーの `SERVER=clientname` エントリを削除します。マスターサーバーが SAN クライアントをサーバーとしてもリストしている場合、SAN クライアントは終了することがあります。
- SAN クライアントサービスを再起動します。SAN クライアントはサーバーの再ブート時に再起動されますが、`bpclntcmd` コマンドの実行後は自動的に再起動されません。SAN クライアントサービスを起動するには、クライアントの起動スクリプトを実行するか、または Windows のサービスマネージャを使います。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2090

メッセージ: FT クライアントには構成されたデバイスが存在しません (FT client has no devices configured)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なクライアントに構成されていません。

推奨処置: ファイバートランスポートデバイスがクライアントにインストールされていることを確認します。詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2091

メッセージ: FT クライアントのデバイスはオフラインです (FT client devices are offline)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なクライアントでオフラインになっています。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- PBX (Private Branch Exchange) サービスがインストールされ、動作していることを検証します。動作している処理に pbx_exchange がリストされていることを確認するために bpps -x コマンドを実行します。
- クライアントが SAN クライアントとして構成されていることを検証します。SAN クライアントの現在の状態を戻す bpclntcmd -sanclient コマンドを実行します。0 (ゼロ) の応答は SAN クライアントが構成されていないことを示します。bpclntcmd -sanclient 1 としてコマンドを再実行します。
- クライアントがメディアサーバー、マスターサーバー、または EMM サーバーではないことを検証します。SAN クライアントの処理は NetBackup クライアントでのみ動作します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。
- SAN クライアントのサーバーエントリが NetBackup マスターサーバーに存在しないことを検証します。SAN クライアントのマスターサーバーの SERVER=clientname エントリを削除します。マスターサーバーが SAN クライアントをサーバーとしてもリストしている場合、SAN クライアントは終了することがあります。
- SAN クライアントサービスを再起動します。SAN クライアントはサーバーの再ブート時に再起動されますが、bpclntcmd コマンドの実行後は自動的に再起動されません。SAN クライアントサービスを起動するには、クライアントの起動スクリプトを実行するか、または Windows のサービスマネージャを使います。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2092

メッセージ: クライアント用の FT サーバーのデバイスはオフラインです (FT server devices for client are offline)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なメディアサーバーでオフラインになっています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- マーク付きの QLogic ターゲットポートがサーバーに存在することを確認します。システムにターゲットモードで利用可能なポートがなければ、nbftsrvr と nbfdrv64 プロセスは終了します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。ファイバートランスポートサーバーは起動の間にライセンスの検査を実行します。
- 再ブートがファイバートランスポートサーバーのインストールに必要かどうかを判断します。Solaris のインストールでは、マーク付きのターゲットポートにファイバートランスポートドライバをロードするためにファイバートランスポートをインストールした後、メディアサーバーを再ブートする必要があります。さらに、ファイバートランスポートのインストール時に既存の QLogic ドライバをアンロードしない場合は、Linux サーバーを再ブートします。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2093

メッセージ**:** このクライアント用の FT サーバーが実行されていません (No FT servers for this client are running)

説明**:** このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なメディアサーバーへの接続で構成されていません。

推奨処置**:** 次のいずれかを実行します。

- マーク付きの QLogic ターゲットポートがサーバーに存在することを確認します。システムにターゲットモードで利用可能なポートがなければ、nbftsrvr と nbfdrv64 プロセスは終了します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。ファイバートランスポートサーバーは起動の間にライセンスの検査を実行します。
- 再ブートがファイバートランスポートサーバーのインストールに必要かどうかを判断します。Solaris のインストールでは、マーク付きのターゲットポートにファイバートランスポートドライバをロードするためにファイバートランスポートをインストールした後、メディアサーバーを再ブートする必要があります。さらに、ファイバートランスポートのインストール時に既存の QLogic ドライバをアンロードしない場合は、Linux サーバーを再ブートします。

詳しくは、『NetBackup SAN Client and Fibre Transport Troubleshooting Guide』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2094

メッセージ: STU でライフサイクルバックアップを実行できません (STU cannot run Lifecycle backups)

説明: ストレージライフサイクルジョブは、ターゲットディスクプールがストレージライフサイクルに対して有効になっていないので動作しません。

推奨処置: ディスクプールの構成を調べるために `nbdevquery -listdp` コマンドを実行します。ライフサイクル属性がディスクプールに対して有効になっていなければ、それを有効にするために `nbdevconfig -changedp -setattribute` コマンドを実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2095

メッセージ: STU で VMware バックアップを実行できません (STU cannot run VMware backup)

説明: このジョブのストレージユニットのために構成されているメディアサーバーは VMware バックアップを実行できません。

推奨処置: VMware バックアップを実行するには、メディアサーバーが NetBackup リリース 7.0 以上を実行する必要があります。このバージョンが実行されていることを検証するか、または NetBackup リリース 7.0 またはそれ以降を実行するメディアサーバーのバックアップを構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2096

メッセージ: NDMP 処理では複数のインラインコピーはサポートされません (NDMP operation does not support multiple inline copies)

説明: バックアップが NDMP ポリシーで、複数コピーに対して構成されているので、バックアップを実行できません。

推奨処置: NetBackup は NDMP ポリシーの複数コピーを作成できません。単一のストレージユニットの宛先にバックアップを構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2097

メッセージ: ストレージユニットグループが EMM 構成に存在しません (Storage unit group does not exist in EMM configuration)

説明: NetBackup 構成に存在しないストレージユニットグループを使うように構成されているのでこのジョブを実行できません。

推奨処置: 構成に存在するストレージユニットかストレージユニットグループを使うようにポリシーを再設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2098

メッセージ: メディアプールはこのジョブに使用できません (Media pool is not eligible for this job)

説明: このジョブは NetBackup 構成に存在しないプールを使うように構成されています。

推奨処置: 構成されているプールをジョブが使うように構成済みのメディアプールを変更するか、必要なメディアプールを作成します。ジョブのために構成したメディアプールがスクラッチプールではないことを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2099

メッセージ: 必要なドライブまたはドライブパスが構成されていません (Required drive or drive path is not configured)

説明: このジョブは NetBackup 構成に存在しないドライブを必要とします。

推奨処置: ドライブ構成を検証するために `vmoprcmd` コマンドを実行します。使われているメディア形式に必要なドライブを構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2100

メッセージ: テープメディアのマウントの最大数を超えています (Maximum number of mounts has been exceeded for tape media)

説明: 必要なメディアが、構成されている最大マウント数を超えたので、ジョブを実行できません。

推奨処置: メディアに対して許可されている最大マウント数を増やします。このメディアが構成したマウントの最大数を超えた場合、メディアを解除する必要がある場合もあります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2101

メッセージ: メディアサーバーが EMM データベースに見つかりません (Media server not found in EMM database)

説明: 考えられる原因は、次のとおりです。

- テープバックアップの場合、バックアップを実行したメディアサーバーが EMM データベースにありません。
- OpenStorage の最適化された複製ジョブの場合、ソース環境とターゲット環境間で共通のメディアサーバーは両方のストレージサーバーのクレデンシャルを備えていません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- テープからのリストアの場合、NetBackup で存在しないメディアサーバーを新しいメディアサーバーに置き換えるために［Force Media Server Restore］オプションを使うことができます。
- 最適化された複製の場合、共通のメディアサーバーが両方のストレージサーバーのクレデンシャルを備えていることを確認します。OpenStorage の最適化された複製についての詳細な情報を参照できます。
  『NetBackup OpenStorage Solutions ガイド for Disk』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2102

メッセージ: 複数のストレージユニットにまたがって使用することはできません (Storage unit does not support spanning)

説明: ディスクのジョブはスパンをサポートしないディスク形式に対してスパンを要求しました。

推奨処置: 一部のディスク形式はスパンをサポートしません。ディスクグループがスパンをサポートするかどうかを判断するには nbdevconfig -listdg コマンドを実行します。このエラーが持続する場合は、実行中の新しいジョブのための十分なスペースがディスクストレージユニットで利用可能であることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2103

メッセージ: メディアサーバーが一致していません (Media server mismatch)

説明: このエラーは複数コピージョブが共通のメディアサーバーを備えていないストレージユニットのために構成されている場合に発生することがあります。

推奨処置: 複数コピージョブのすべてのコピーは同じメディアサーバーで実行する必要があります。共通のメディアサーバーからのドライブパスかディスクアクセスがあるストレージユニットを構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2104

メッセージ: ストレージユニットは利用できません (Storage units are not available)

説明: このエラーは、有効なストレージユニットの組み合わせを使うことができないように構成されている複数コピージョブで発生することがあります。

推奨処置: 構成されているストレージユニットを含むポリシーですべての条件が満たされていることを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2105

メッセージ: レプリケーションジョブに要求されたストレージユニットはレプリケーション対応ではありません (Storage unit requested for replication job is not replication capable)

説明: このエラーは、レプリケーションジョブが書き込み用のストレージユニットを要求しているのに、ストレージユニットが呼び出すディスクがレプリケーションではない場合に起きる可能性があります。

推奨処置: レプリケーションジョブにストレージユニット指定子でレプリケーション対応ディスク用に構成された状態が含まれることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2106

メッセージ: ディスクストレージサーバーが停止しています (Disk storage server is down)

説明: このエラーはディスクグループが NetBackup でマークされたストレージサーバーにあるディスクストレージユニットをジョブが使用する場合に起きることがあります。また、このエラーは、クラウドストレージのバックアップが失敗したときに発生する可能性があります。

推奨処置: ストレージサーバー用に構成されたすべてのメディアサーバーがストレージサーバーと通信できることを確認してください。`bpstsinfo` コマンドはストレージサーバーを定期的にクエリーします。したがって、メディアサーバーで `bpstsinfo` ログを詳細レベル 5 に設定することができます。

エラーがクラウドストレージのバックアップ失敗に関連している場合、次の情報を確認する必要があります。

- `cacert.pem` ファイルが、次の場所にある NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーの両方に存在する。
  - UNIX/Linux の場合: `/usr/open/var/webtruststore`
  - Windows の場合: *install_path*`/var/webtruststore`
- `cacert.pem` ファイルがNetBackup マスターサーバーとメディアサーバーで同じである。
- マシンの証明書が次の場所にある。
  - UNIX/Linux の場合: `/usr/openv/var/vxss/credentials`
  - Windows の場合: *install_path*`/var/vxss/credentials`
- NetBackup CloudStore サービスがアクティブである。
- 8.0 NetBackup より前のメディアサーバーがある場合、`CSSC_LEGACY_AUTH_ENABLED` フラグが 1 に設定されていることを確認する。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2107

メッセージ: 要求されたメディアサーバーにクレデンシャルがないか、ストレージサーバー用に構成されていません (Requested media server does not have credentials or is not configured for the storage server)

説明: ジョブはディスクストレージサーバーにアクセスするクレデンシャルを備えていないメディアサーバーのディスクメディアを要求しました。同じ形式の 2 つのストレージサーバー間の最適化された複製の間に、書き込み側のストレージユニット用に構成されたメ

ディアサーバーに読み込み側のストレージサーバーにアクセスするための資格情報がない場合があります。

推奨処置: 最適化された複製には読み込み側と書き込み側の両方のストレージサーバー用のクレデンシャルを備えたメディアサーバーが必要です。必要なクレデンシャルを追加するか、または書き込み側のストレージユニットが読み込みメディア用のクレデンシャルを備えたメディアサーバーを呼び出すようにメディアサーバーを限定してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2108

メッセージ: 要求された NDMP マシンにクレデンシャルがないか、NetBackup で構成されていません (Requested NDMP machine does not have credentials or is not configured in NetBackup)

説明: ジョブが NetBackup で構成されていない NDMP マシンの使用を要求しています。

推奨処置: NDMP ポリシーのためのジョブは、ポリシーでクライアントとして指定された NDMP ホストが NetBackup で構成されることを要求します。どのサーバーに対しても、定義された資格情報は NDMP ホストにアクセスする必要があります。

要求される NDMP ホストが構成されているかを検証してください。構成済みの NDMP ホストが完全修飾名で、ポリシーの NDMP のホスト名がそうでない場合は、次のコマンドを実行して NDMP ホストにエイリアスを追加してください。

```
# nbemmcmd -machinealias -addalias -alias string -machinename string
```

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2109

メッセージ: 要求されたファイバートランスポートのクライアントマシンが NetBackup の構成で見つかりません

説明: ジョブが NetBackup の構成にないファイバートランスポートのクライアントマシンを要求しています。

推奨処置: ファイバートランスポートのバックアップおよびリストア操作は、ファイバートランスポートの各クライアントが NetBackup で構成されることを要求します。ジョブのために要求されるクライアントが、ファイバートランスポートのクライアントとして構成されているかを検証してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2110

メッセージ: 要求されたマシンが NetBackup で構成されていません (Requested machine is not configured in NetBackup)

説明: ジョブが NetBackup で構成されていないマシンを要求しました。

推奨処置: ジョブを実行するのに使用するポリシーは、どのサーバーをジョブが要求するかを示すことがあります。示されていない場合は、MDS VxUL ログ (OID 143) をデバッグレベル 2 に設定してジョブを再試行することにより、ジョブの検索対象のサーバーを見つけます。通常は、この問題の原因となったホスト名が MDS ログに示されます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2111

メッセージ: すべてのストレージユニットはオンデマンドのみで構成されているため、ストレージユニットを要求するジョブの対象になりません (All storage units are configured with On Demand Only and are not eligible for jobs requesting ANY storage unit)

説明: ジョブは利用可能なストレージユニットを要求しましたが、すべてのストレージユニットが[オンデマンドのみ (On Demand Only)]に設定されています。

推奨処置: 利用可能な任意のストレージユニットではなく特定のストレージユニットを使用するようにポリシーを変更するか、[オンデマンドのみ (On Demand Only)]ではないストレージユニットを最低でも 1 つ設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2112

メッセージ: NetBackup メディアサーバーのバージョンが操作には古すぎます

説明: ストレージユニットまたはストレージユニットグループは、マスターサーバーより前のバージョンのソフトウェアを実行するメディアサーバーをポイントします。そのため、メディアサーバーではより新しい NetBackup バージョンのすべての機能を使えるわけではありません。ソフトウェアのこの不一致は、バックアップ操作、複製書き込み操作などの多くの書き込み操作に影響します。

推奨処置: ソフトウェアのより新しいバージョンのメディアサーバーにストレージユニットをポイントします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2113

メッセージ: vserver 用に無効なクレデンシャルが追加されているか、ディスクアレイクレデンシャルが追加されていません

説明: 管理アクセスが有効化されている NetApp ストレージ仮想マシンのインターフェース名の［ディスクアレイホスト (Disk Array Hosts)］クレデンシャルセクションで無効なクレデンシャルが検出されたか、そこでクレデンシャルが検出されませんでした。

推奨処置: ［ディスクアレイホスト (Disk Array Hosts)］の資格情報セクションで、管理アクセスが有効になっている NetApp ストレージ仮想マシンのインターフェースの管理者資格情報を追加します。インデックス化されるスナップショット/レプリカを保持する適切なストレージ仮想マシンのインターフェース名を入力していることを確認します。ONTAPi アプリケーションを持つストレージ仮想マシン（SVM）ユーザーアカウントがロック解除されている状態であることを確認します。

詳しくは、『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2504

メッセージ: ミラーコピーの直接の期限切れは使用できません (Direct expiration of a mirror copy is not allowed)

説明: ミラーコピーは単独で期限切れにできません。ミラーコピーは親コピーが期限切れになると期限切れになります。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2517

メッセージ: バックアップセットの識別子には a-z、A-Z、0-9、および特殊文字 .-+_ のみを使うことができます (Backup set identifier may only contain a-z, A-Z, 0-9 and .-+_)

説明: Oracle のバックアップセットの識別子 (TAG) には、a-z、A-Z、0-9、および次の特殊文字 .-+_ が含まれます。

推奨処置: バックアップセットの識別子から無効な文字を削除します。この値は、GUI ポリシーユーティリティの属性タブで指定されます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2521

メッセージ: データファイルコピータグには a-z、A-Z、0-9 .-+_ のみを含めることができます

説明: データファイルコピータグに、a-z、A-Z、0-9、.-+_ 以外の不正な文字が含まれています。

推奨処置: データファイルコピータグから不正な文字を削除してください。この値は、GUI ポリシーユーティリティの Oracle タブで指定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:2522

メッセージ: Oracle ポリシーには、FRA バックアップを使用したプラグ可能なデータベースを含めることはできません。

説明: NetBackup は Oracle 12c のプラグ可能なデータベースで FRA をサポートしません。

推奨処置: Oracle インテリジェントポリシーを確認します。ポリシーに選択したインスタンスとデータベースの保護があり、プラグ可能なデータベースが含まれている場合は、バックアップ対象を[高速リカバリ領域 (FRA) (Fast Recovery Area (FRA))]にすることはできません。異なるバックアップ対象を選択するか、Oracle 12c インスタンスと[高速リカバリ領域 (FRA) (Fast Recovery Area (FRA))]を選択できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2800

メッセージ: 標準ポリシーリストアエラー (Oracle policy restore error)

説明: リストア操作ファイルの一部または全部が失敗しました。スナップショットクライアントのリストアを実行するときに、ポリシーの[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストから誤ったパスを選択した可能性があります。

たとえば、`vol6` は `/mnt/vol6`、`vol7` は `/mnt/vol7` にマウントされています。これらのマウントポイントは、バックアップ対象に指定します。親ディレクトリ (`/mnt`) のみを選択した場合、リストアは状態コード 2800 で失敗します。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。

- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- 次のログで追加のエラー情報がないか調べます。
  - NetBackup の tar ログ
  - マスターサーバー: bprd、nbjm
  - メディアサーバー: bpbrm、bptm、bpdm
  - クライアント: tar
- リストアに必要なメディアサーバーがあることを確認します。または、[メディアホストの上書き (Media Host Override)]オプションを使います。
- リストアに必要なメディアがあること、そしてロボットにインベントリを実行していることを確認します。
- メディアサーバーとクライアントの間にネットワーク上の問題がないことを確認します。
- [バックアップ対象 (Backup Selections)]タブに表示されている元のパスを選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2801

メッセージ**:** Oracle ポリシーリストアエラー (Oracle policy restore error)

説明**:** エラーにより、Oracle データのリストアに失敗しました。

推奨処置**:** 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストアする Oracle インスタンスの所有権と権限を確認します。
- NetBackup の `dbclient` と `user_ops` ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- RMAN を使用している代替クライアントに復元する場合、次の技術文書でより多くの情報を利用できます。

http://www.veritas.com/docs/TECH5840

bpclntcmd -pn コマンドを使用して、クライアントの Oracle ユーザーがマスターサーバーと正常に通信できることを確認します。

- bplist コマンドを使用して、クライアントの Oracle ユーザーがマスターのバックアップイメージを参照できることを確認します。
- UNIX ホストと Linux ホストについては、Oracle ユーザーが /etc/services、/etc/nsswitch.conf、/usr/openv/netbackup/bp.confを読み込む十分な権限を持っていることを確認してください。
- 『NetBackup for Oracle 管理者ガイド』に従って、Oracle データベースが正しくリンクされていることを確認します (たとえば、$ORACLE_HOME/lib/libobk.so)。
  詳細情報は次の技術記事に記載しています。
  http://www.veritas.com/docs/TECH72307
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2802

メッセージ: Informix-On-BAR ポリシーリストアエラー (Informix-On-BAR policy restore error)

説明: エラーにより、Informix データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストアする Informix インスタンスに対する所有権および権限を確認します。
- クライアントの NetBackup の infxbsa および user_ops ログとマスターサーバーの bprd ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- Informix の BAR_ACT_LOG、BAR_DEBUG_LOG および MSGPATH ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- 大規模なデータベースリストアの場合は、クライアントの読み込みタイムアウト値を増加させる必要があることもあります。

- 代替クライアントへリストアする場合は、次の記事にあるチェックリストを見直します。
  http://www.veritas.com/docs/TECH21719
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2803

メッセージ: Sybase ポリシーリストアエラー (Sybase policy restore error)

説明: エラーにより、Sybase データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- リストア対象の Sybase インスタンスと、ファイルをリストアするディレクトリに対する所有権と権限を確認してください。
- NetBackup の `sybackup` ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 次のログフォルダを作成し、リストアを再試行します。
  クライアント上:

  ```
  /usr/openv/netbackup/logs/bphdb
  /usr/openv/netbackup/logs/bprestore
  /usr/openv/netbackup/logs/tar
  /usr/openv/netbackup/logs/sybackup
  chmod 777 /usr/openv/netbackup/logs/sybackup
  chmod 777 /usr/openv/netbackup/logs/bphdb
  ```

  メディアサーバー上:

  ```
  /usr/openv/netbackup/logs/bptm
  /usr/openv/netbackup/logs/bpbrm
  ```

  マスターサーバー上:

  ```
  /usr/openv/netbackup/logs/bprd
  ```

- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

UNIX クライアントと Linux クライアントでデバッグレベルを設定するには、bp.conf ファイルに次の行を入力します。

```
VERBOSE = 5
```

Sybase の代替クライアントのリストアでは、リストアしたい Sybase のバックアップサーバーのユーザー ID (UID) はコピー元ホストの Sybase バックアップサーバーの UID と一致する必要があります。

代替クライアントのリストアでは、user/group/other に No.Restrictions ファイルの読み込み権限を付与するか、代替クライアントを認証して元のクライアントのイメージにアクセスできるようにする必要があります。

UNIX か Linux のマスターサーバーの場合:

/usr/openv/netbackup/db/altnames/No.Restrictions

Windows のマスターサーバーの場合:

install_path¥NetBackup¥db¥altnames¥No.Restrictions

代替クライアントが元のクライアントのバックアップイメージを参照できることを確認します。

UNIX か Linux のマスターサーバーの場合:

/usr/openv/netbackup/db/altnames/No.Restrictions

Windows のマスターサーバーの場合:

install_path¥NetBackup¥db¥altnames¥No.Restrictions

```
# /usr/openv/netbackup/bin/bplist -C <origClient> -t 7 -l -R /
```

```
# install_path¥netbackup¥bin¥bplist -t 7 -l -R /
```

代替クライアントで、bpclntcmd コマンドを使って、接続性と名前解決をテストします。コマンドは、1 行目にマスターサーバーの名前を表示するはずです。2 行目には、代替クライアントがマスターサーバーとの通信時に使用したネットワークインターフェースの IP アドレスが表示されます。2 行目の最初の単語は、IP アドレスを基にマスターサーバー上で解決された代替クライアントの名前です。代替クライアントがバックアップされていない場合は、2 行目の 2 番目の単語は「NULL」となる場合があります。NULL と表示されない場合は、マスターサーバーのバックアップポリシーで定義された代替クライアント (またはエイリアス) の名前です。

```
# /usr/openv/netbackup/bin/bpclntcmd -pn
```

代替クライアントとメディアサーバー上の CLIENT_READ_TIMEOUT が十分な余裕をもって設定してあり、テープの読み込み、データの転送、データベースインスタンスによるディスクへのデータ書き込みに支障がないことを確認してください。

回復不能な I/O エラーにより Sybase のリストアが失敗した場合の対応に関する情報も利用できます。

http://www.veritas.com/docs/TECH92495

Sybase の代替クライアントへのリストア操作の手順に関する情報を参照できます。

http://www.veritas.com/docs/TECH24125

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2804

メッセージ: MS-SharePoint ポリシーリストアエラー (MS-SharePoint policy restore error)

説明: エラーにより、SharePoint データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- SQL Server、フロントエンドの Web サーバー、メディアサーバー、マスターサーバー上に次のログフォルダを作成します。

  ```
  install_path¥NetBackup¥logs¥tar
  install_path¥NetBackup¥logs¥bpresolver
  install_path¥NetBackup¥logs¥bpbrm (media server)
  install_path¥NetBackup¥logs¥bprd (master server)
  ```

  個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用する場合は、次のログフォルダも該当します。

  ```
  install_path¥NetBackup¥logs¥ncf
  install_path¥NetBackup¥logs¥ncflbc
  install_path¥NetBackup¥logs¥ncfgre
  install_path¥NetBackup¥logs¥nbfsd
  install_path¥NetBackup¥logs¥spsv2ra
  ```

- SharePoint サーバーのすべてのイベントビューア (アプリケーションとシステム) でエラーがないか確認します。
- SharePoint フロントエンドサーバーが実行されているサーバーに接続し、バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI を使用してリストアを起動します。
- リストアが正しく起動されていることを確認します。
  『NetBackup for Microsoft SharePoint 管理者ガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2805

メッセージ: MS-Windows ポリシーリストアエラー (MS-Windows policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI で正しいリストア形式を選択していることを確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- 次のログで追加のエラー情報がないか調べます。
  - マスターサーバー (Master server): bprd、nbjm
  - メディアサーバー: bpbrm、bptm、bpdm
  - クライアント: tar
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2806

メッセージ: NetWare ポリシーリストアエラー (NetWare policy restore error)

説明: エラーにより NetWare データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。

- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、失敗に関する追加情報を確認します。また、bpcd、bpsrv、bprest および user_ops ログファイルを調べます。
- ターゲットリストアの場合は、リストアするボリュームに対する作成および書き込み権限を所有していることを確認します。BP.INI ファイルで、Allow_Server_Write パラメータが yes に設定されていることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールから非ターゲットリストアを起動した場合は、[サーバー主導リストアを許可する (Allow server directed restores)] パラメータが選択されていることを確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2807

メッセージ**:** SQL-BackTrack ポリシーのリストアエラー (SQL-BackTrack policy restore error)

説明**:** エラーにより、SQL-BackTrack データのリストアが失敗しました。

推奨処置**:** 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの [すべてのログエントリ (All Log Entries)] レポートも確認します。
- ファイルがリストアされているディレクトリと、リストアを試みている SQL-BackTrack のインスタンスに関する所有権と権限を確認してください。
- NetBackup バックトラックログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 代替クライアントをリストアした場合は、No.Restrictions ファイルがマスターサーバー上で追加されていることを確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2808

メッセージ: Windows File System ポリシーのリストアエラー (Windows File System policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI で正しいリストア形式を選択していることを確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストア先のディレクトリまたはファイルが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] GUI の[既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)]オプションを選択します。
- 次のログで追加のエラー情報がないか調べます。
  - マスターサーバー: bprd、nbjm
  - メディアサーバー: bpbrm、bptm、bpdm
  - クライアント: tar
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2809

メッセージ: MS-SQL-Server ポリシーリストアエラー (MS-SQL-Server policy restore error)

説明: エラーにより、SQL Server のデータのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。

- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルがリストアされるディレクトリと、リストアする SQL インスタンスの所有権と権限を確認します。
- リストア対象の SQL Server インスタンスと、ファイルをリストアするディレクトリの所有権と権限を確認します。
- 次のログで、失敗に関するクライアント側の追加情報を確認します。

  ```
  install_path¥NetBackup¥logs¥dbclient
  install_path¥NetBackup¥logs¥bpbkar (Snapshot Client)
  install_path¥NetBackup¥logs¥bpfis (Snapshot Client)
  install_path¥NetBackup¥logs¥bppfi (instant recovery)
  ```

- リストア操作に関連したエラーやメッセージがないか、SQL Server のイベントビューア (アプリケーションとシステム) を確認します。
- リストアの詳細レベルを上げます。
  『NetBackup for SQL Server 管理者ガイド』を参照してください。
  このガイドを参照して、リストアを正しく起動したことを検証します。
- SQL が実行されているサーバーに接続し、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] GUI を使用してそのサーバーからリストアを起動します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2810

メッセージ**:** MS-Exchange ポリシーのリストアエラー (MS-Exchange policy restore error)

説明**:** エラーにより、Exchange データのリストアに失敗しました。

推奨処置**:** 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。

- リストアする Exchange のインスタンスと、ファイルをリストアするディレクトリの所有権と権限を確認します。
- 実行されるリストアの形式に応じて、次のログファイルを検証します。すべてのログフォルダは *install_path*¥NetBackup¥logs フォルダにあります。
  - beds - すべてのリストア操作。
  - tar - すべてのリストア操作。

  個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用したリストア:
  - nbfsd - このログは、クライアントおよびメディアサーバーに表示されます。
  - ncf - このログには統合ログが使用され、宛先クライアントまたはプロキシクライアントに表示されます。
  - ncflbc - nblbc.exe 用のログです。これは宛先クライアントまたはプロキシクライアントに表示されます。
  - ncfgre - nbgre.exe 用のログです。これは宛先クライアントまたはプロキシクライアントに表示されます。

  インスタントリカバリとインスタントリカバリのオフホスト:
  - bpbkar - オフホストインスタントリカバリリストアでは、bpbkar は代替クライアントにログを記録します。
  - bpfis - このログはインスタントリカバリのロールバックリストアに適用されます。オフホストインスタントリカバリバックアップでは、bpfis ログは、プライマリクライアントと代替クライアントの両方に格納されます。
  - bppfi - オフホストインスタントリカバリリストアでは、bppfi ログはプライマリクライアントと代替クライアントの両方にあります。
- Exchange Server のイベントビューアを調べて、リストア操作に関連するアプリケーションやシステムのメッセージを確認します。
- Exchange が実行されているサーバーに接続し、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive and Restore)] GUI を使用して、そのサーバーからリストアを起動します。
- リストアを正しく起動したこと検証します。
  『NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2811

メッセージ: SAP ポリシーリストアエラー (SAP policy restore error)

説明: エラーにより、SAP データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- リストアする SAP インスタンスおよびファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- 代替クライアントへのリストアの場合は、`No.Restrictions` ファイルがマスターサーバーに作成されていることを確認します。
- `backint`、`tar`、`dbclient`、`bprestore`、`user_ops` ログで、追加のエラー情報がないか調べます。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2812

メッセージ: DB2 ポリシーリストアエラー (DB2 policy restore error)

説明: エラーにより、DB2 データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- リストアする DB2 インスタンスおよびファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `bpdb2` ログで追加のエラー情報がないか調べます。

- リストアの場合は、No.Restrictions ファイルがマスターサーバーで作成されていることを確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2813

メッセージ: NDMP ポリシーリストアエラー (NDMP policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権と権限を確認します。
- 宛先 NDMP ホストが DAR をサポートしていることを確認します。そうでなければ、DAR を無効にします。
- ndmpagent (オリジネータ ID 134) ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- NetBackup の bptm ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 指定した時点へのロールバックリストアの[スナップショットが破壊されても強制的にロールバックする (Force rollback even if it destroy snapshots)]オプションが設定されている (チェックマークが付いている)、または設定されていない (チェックマークがはずされている) ことを確認します。
  ロールバックリストアについて詳しくは、次の場所にある『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』を参照してください。
  http://www.veritas.com/docs/DOC5332
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2814

メッセージ: FlashBackup ポリシーリストアエラー (FlashBackup policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- VxMS ログを有効にし、追加のエラー情報がないか検証します。
- VMware リストアの場合は、`bpvmutil` ログを有効にします。
- VMware リストアを実行する場合は、VMware の資格情報で指定済みのユーザーアカウントにターゲットの vCenter および ESX サーバーに対する完全な管理者権限があることを確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2815

メッセージ: AFS ポリシーリストアエラー (AFS policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2816

メッセージ: DataStore ポリシーリストアエラー (DataStore policy restore error)

説明: エラーにより、DataStore データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。1 つの PureDisk のディザスタリカバリを実行した場合は、PureDisk ノードの `/opt/pdinstall/DR_Restore_all.sh` スクリプトからの出力を調べます。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストアするデータベースインスタンスに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `exten_client` ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- Netezza 装置をリストアする場合は、`/nz/kit/log/restoresvf/*` からログファイルを収集します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2817

メッセージ: FlashBackup-Windows ポリシーリストアエラー (FlashBackup-Windows policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、失敗に関する追加情報を確認します。

- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2818

メッセージ: NetBackup カタログポリシーリストアエラー (NetBackup Catalog policy restore error)

説明: エラーにより、NetBackup カタログのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- NetBackup が、カタログイメージの作成に使用したコンピュータと同じバージョンで同じパッチレベルであることを確認します。
- カタログのリストア時のパスがバックアップ時のパスと同じであるか確認します。
- リストアを実行するターゲットシステム上に十分なディスク領域があるか確認します。
- 現在のマスターサーバーホスト名が、カタログイメージが作成されたコンピューターのホスト名と一致することを確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `tar`、`admin`、`bptm`、`bpbr` の各ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2819

メッセージ: Enterprise-Vault ポリシーリストアエラー (Enterprise-Vault policy restore error)

説明: エラーにより、Enterprise Vault データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、失敗に関する追加情報を確認します。また、Enterprise Vault サーバーのイベントビューア (アプリケーションとシステム) を調べて、エラーやその原因を確認します。
- Enterprise Vault のフロントエンドが稼働しているサーバーに接続します。バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI を使用してリストアを起動します。
- リストアを正しく起動したこと検証します。
  『NetBackup for Enterprise Vault Agent Server 管理者ガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2820

メッセージ**:** NetBackup VMware ポリシーリストアエラー (NetBackup VMware policy restore error)

説明**:** エラーにより、VMware ポリシーデータのリストアが次のように失敗しました。

- 仮想マシンをリストアするホストで仮想 CD または仮想 DVD の ISO が利用できない場合、リストアは失敗します。vCenter インターフェースが次のメッセージを含んでいる可能性があります。

  ```
  Invalid configuration for Device '1'.
  ```

- リストアする仮想マシンと hotadd リストアホストを含む仮想マシンが同じデータセンターに存在しないと、リストアは失敗します。
- リストアホストは、選択したトランスポートモードを使って VMware データストアにアクセスできません。リストアホストのジョブログには、次の例のようなメッセージが含まれる場合があります。

  ```
  FTL - Virtual machine restore: VxMS initialization failed.
  ```

- 1023 文字より長いパス名があるファイルをリストアしようとしました。Linux 仮想マシンのバックアップでは、1023 文字より長いパス名のファイルを含む、すべてのファイル

がバックアップされます。ただし、長いパス名のファイルを個別にリストアすることはできません。

- リストアの場合に、仮想マシンのハードウェアバージョン (7 など) が、ターゲットサーバーがサポートするハードウェアバージョンより新しい。VMware ツールで仮想マシンのハードウェアバージョンを以前のバージョンに変換できない場合、リストアは失敗します。次のようなメッセージが詳細ステータスログに表示されます。

```
Info bpVMutil(pid=6268) INF - vmwareLogger: WaitForTaskCompleteEx:

The virtual machine version is not compatible with the version of
 the
host <hostname>.
```

- シックプロビジョニング (Eager Zeroed)としてフォーマットされた 1 つ以上の VMDK で仮想マシンをリストアしようとしました。仮想マシンまたは VMDK のサイズのせいで、仮想マシンの作成に 2 時間以上かかる場合があります。その結果、リストアが失敗しました。

推奨処置: アクティビティモニターのジョブの詳細を調べ、次のようにその詳細に規定されている処理を実行してください。

- バックアップ中に仮想 CD または DVD として仮想マシンに示された .ISO ファイルが、宛先ホストで利用可能であることを確認します。
- hotadd リストアが成功するよう、2 つの仮想マシンが同じ VMware データセンターにあることを確認します。
- 別のトランスポートモードを選択し、リストアを再試行します。
- 1023 文字より長いパス名があるファイルをリストアすることはできません。
- 可能な場合は、VM のハードウェアバージョンをサポートする VMware サーバーに VM をリストアしてください。
- バックアップ、アーカイブ、リストアで、リストアされる仮想ディスクを シックプロビジョニング (Lazy Zeroed)またはシックプロビジョニングに変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2821

メッセージ: Hyper-V ポリシーリストアエラー。

説明: Hyper-V のリストア操作で、Hyper-V のホストとメディアサーバー間の接続の問題 bptm によりソケットへの書き込みに失敗します。

推奨処置: 次のように実行します。

- NIC のドライバーおよびファームウェアを必要に応じて更新してください。
- メディアサーバーとクライアント間のネットワークハードウェアが正しく動作するか確認してください。
- ウイルス対策アプリケーションが接続確立されたソケットを閉じる場合があるため、ウイルス対策の除外リストに NetBackup の処理およびディレクトリを追加してください。
- 10 の値を `TcpMaxDataRetransmissions` レジストリキーを設定することにより、Windows ホスト(マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアント)の TCP の耐性を高めてください。デフォルトの値は 5 です。

  `TcpMaxDataRetransmissions` レジストリキーに関する詳細情報は Microsoft から提供されています。

  msdn.microsoft.com/en-us/library/aa915651.aspx

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2826

メッセージ: マスターサーバーがリストアのためにメディアサーバー上の Backup Restore Manager に接続できませんでした (Master server failed to connect to backup restore manager on media server for restore)

説明: マスターサーバーのプロセスがネットワーク上に存在するホストのプロセスに接続できません。このエラーは、プロセスが、ストレージユニットが存在するサーバーとの通信を開始しようとしているときに発生します。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: 次の解決策を、示される順序で試みてください。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、このマスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
- すべてのサービスがメディアサーバーで動作していることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2827

メッセージ: クライアントがリストアのためにメディアサーバーに接続できませんでした

説明: クライアントがリストア操作のためにメディアサーバーに接続できません。

推奨処置: 次の解決策を、示される順序で試みてください。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- すべてのサービスがメディアサーバーで動作していることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2828

メッセージ: MS-SQL-Server サービスが停止したため、リストアに失敗しました (Restore failed because the MS-SQL-Server services are down)

説明: Microsoft SQL エージェントの NetBackup クライアントと NetBackup for SQL Server エージェントが実行中のシステムで、SQL Server サービスが停止しています。このため、NetBackup for SQL Server エージェントは SQL Server に接続できません。

推奨処置: SQL Server インスタンスが実行中であることと、NetBackup プロセスが SQL Server インスタンスサービスにアクセスする権限を持っていることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2829

メッセージ: MS-SQL-Server データベースが使用中のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to MS-SQL-Server database in use)

説明: SQL サーバーのデータベースが別の操作でビジー状態であるため、SQL Server エージェントの NetBackup クライアントと NetBackup が実行中のシステムで、要求されたデータベースをリストアできません。

推奨処置: データベースによる現在の操作が終了した後で、データベースのリストアを試してください。または、データベース管理者は、データベースがビジー状態かどうか、およびどんな操作が実行されているかを確認する必要があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2830

メッセージ: MS-SQL-Server MOVE スクリプト内の不正なパスのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to an incorrect path in the MS-SQL-Server MOVE script)

説明: NetBackup MS SQL クライアントを使用するデータベースリストアに対して生成された MOVE テンプレートで、キーワード TO に対するデータベースまたはログファイルに指定されたパスが正しくありません。

推奨処置: MOVE スクリプトを確認し、キーワード TO に対するデータベースログファイルに指定したパスを修正してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2831

メッセージ: リストアエラー (Restore error)

説明: エラーが発生したため、リストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2832

メッセージ: 名前を変更したファイルのフォーマットエラーのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to rename file format error)

説明: ファイル名の変更を記述するファイルは、仮想マシン代替クライアントの場所の詳細を指定するために使用されます。無効な形式があると読み取ることができません。

推奨処置: `nbrestorevm`コマンドを実行し、ファイル名の変更を記述するファイルを手動で入力する場合は、ファイルが『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で指定されてい

る形式に適合していることを確認してください。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、およびマスターサーバーの bprd ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2833

メッセージ: パーティションリストアエラーのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to partition restore error)

説明: このエラーは raw パーティションのリストア時に発生します。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2834

メッセージ: 変更ブロックビットマップの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read change block bitmap)

説明: NetBackup がバックアップイメージの変更ブロックのビットマップヘッダーを読み込めません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2835

メッセージ: イメージが破損しているため、リストアに失敗しました (Restore failed due to corrupt image)

説明: NetBackup が無効なバックアップイメージのヘッダータイプを読み込みます。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2836

メッセージ: イメージヘッダーから読み込まれたビットマップサイズが、想定されるサイズと異なるため、リストアに失敗しました (Restore failed because the bitmap size read from the image header differs from the expected size)

説明: バックアップイメージのヘッダーのビットマップサイズが NetBackup 内部データベースで見つかったビットマップのサイズに一致しません。このエラーはバックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2837

メッセージ: 無効なメタデータのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to invalid metadata)

説明: 無効なメタデータはバックアップイメージのヘッダーに追加できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2838

メッセージ: raw パーティションが見つからなかったため、リストアに失敗しました (Restore failed because no raw partitions were found)

説明: バックアップイメージで raw パーティションが見つかりません。バックアップイメージに不具合がある可能性があります。

推奨処置: バックアップイメージに raw パーティションのリストが含まれていることを確認してください。このエラーはバックアップイメージに不具合がある可能性を示しています。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2839

メッセージ: 無効な raw パーティション ID のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to invalid raw partition ID)

説明: NetBackup が raw パーティション ID を識別できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2840

メッセージ: 順序の範囲外の raw パーティションのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to out of sequence raw partitions)

説明: raw パーティションのファイル番号が範囲内にありません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2841

メッセージ: バックアップイメージからのヘッダーの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read the header from the backup image)

説明: リストアでバックアップイメージのヘッダーを読み込めません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2842

メッセージ: vmware ビットマップの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read the VMware bitmap)

説明: リストア操作でバックアップイメージから VMware ビットマップを取得できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2843

メッセージ: VxMS の起動の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to start VxMS)

説明: リストアで VxMS をロードできません。VxMS はファイルとボリュームの物理アドレスのマッピングに使用するライブラリです。

推奨処置: メディアサーバーおよびリカバリホスト環境に十分なメモリおよび正しいアクセス権があることを確認してください。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、およびマスターサーバーの bprd ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2844

メッセージ: FIID ファイルの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read the FIID file)

説明: リストア操作で FID ファイルを読み込めません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2845

メッセージ: ビットマップの取得の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to retrieve the bitmap)

説明: リストア操作で NetBackup 内部データベースからバックアップイメージのビットマップを取得できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2846

メッセージ: fsmap の取得の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to retrieve the fsmap)

説明: リストア操作で NetBackup 内部データベースからバックアップイメージのファイルシステムを取得できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2847

メッセージ: bptm ライターの起動の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to start the bptm writer)

説明: リストア操作で bptm ライターのプロセスを開始できません。

推奨処置: メディアサーバーおよびリカバリホスト環境に十分なメモリおよび正しいアクセス権があることを確認してください。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、およびマスターサーバーの bprd ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2848

メッセージ: 仮想マシンの作成の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to create the virtual machine)

説明: 次の原因が考えられます。

- VMware サーバーの資格情報に仮想マシンを作成するのに必要なアクセス権がありません。
- データストアの不十分な領域。
- 互換性のない VM の構成または vmdk の構成。
- VMware サーバーのエラーまたはタスクのキャンセル。

追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- VMware サーバーに必要なアクセス権があること確認してください。
- データストアに使用可能な領域を増やしてください。
- 構成の非互換性を解決してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2849

メッセージ: 仮想マシンスナップショットの削除の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to delete the virtual machine snapshot)

説明: 仮想マシンスナップショットの削除中にエラーが発生し、リストア処理が失敗しました。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- VMware サーバーに仮想マシンスナップショットを削除する適切なアクセス権があるかを確認してください。
- データストアに使用可能な領域を増やしてください。
- VMware サーバーのエラーまたはタスクのキャンセル。

追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 2850

メッセージ: リストアエラー (Restore error)

説明: エラーが発生したため、リストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4200

メッセージ: 操作に失敗しました: スナップショットのロックを獲得できません。

説明: スナップショットはストレージユニットへのリストア、参照、コピーなどの別の操作によってアクセス中です。

推奨処置: スナップショットが別の操作によって使われなくなってから、操作を再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4201

メッセージ: 不正なスナップショット方式の構成か、バックアップ選択エントリの保護と互換性がないスナップショット方式 (Authentication error occurred)

説明: ポリシーが不正なスナップショット方式を使っているか、このスナップショット方式の前提条件が正しく構成されていません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 該当する場合は、スナップショット方式に必要とされる正しいストレージアレイのクレデンシャルが NetBackup で構成されている。
- スナップショット方式に必要なソフトウェアがクライアント上で正しく構成されている。
- バックアップ選択項目 (たとえば、ファイルシステム) のエントリを保護するスナップショット方式を選択できます。
- バックアップ選択項目で指定されたエントリはポリシーで構成されたスナップショット方式に対応しています。

スナップショット方式の構成について詳しくは、『NetBackup スナップショットクライアント管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4202

メッセージ: 無効または互換性のないストレージが構成されました (Invalid or incompatible storage unit configured)

説明: このポリシーに無効または不正なストレージの宛先が構成されました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ポリシーに使われたストレージの宛先に互換性がある。たとえば、スナップショット方式 OST_FIM はストレージの宛先として構成された SLP 上のみで動作します。
- スナップショット方式に提供された構成パラメータが正しい。たとえば、スナップショットのリソースが正しく、構成されたスナップショット方式の構成パラメータが正しいことを検証します。
- バックアップ選択項目 (たとえば、ファイルシステム) のエントリを保護するスナップショット方式を選択できる。
  スナップショット方式の構成について詳しくは、『NetBackup スナップショットクライアント管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4203

メッセージ: バックアップ選択項目ファイルリストが無効かサポートされていません (Invalid or unsupported backup selection filelist)

説明: 構成されたスナップショット方式のバックアップ選択項目で互換性のないエントリが見つかりました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- バックアップ選択項目にあるエントリはスナップショット方式で保護することができます。たとえば、HP EVA ディスクの最上部に作成されたファイルシステムは IBM 用のスナップショット方式を使って保護できません。
- ボリュームは NAS ボリュームに指定されたパスにマウントされます (NFS マウントポイントまたは CIFS 共有)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4204

メッセージ: 互換性のないクライアントが見つかりました (Incompatible client found)

説明: クライアント上に無効なユーザーまたは互換性のないクライアントが見つかりました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントサービスに登録されたものと同じドメインユーザーでクライアントにログインしている。
- 一次クライアントおよびターゲットまたはリモートクライアントに互換性がある。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4205

メッセージ: 不正なクレデンシャルが見つかったか、クレデンシャルが見つかりませんでした (Incorrect or no credentials found)

説明: NetBackup が構成されたスナップショット方式をサポートするソフトウェアを見つけられないか、無効なクレデンシャルが指定されています。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NDMP ポリシーを作成するか、NAS データムーバーを構成した場合、NDMP ホストが正しいクレデンシャルで設定されていることを確認してください。
- ディスクアレイホストまたはストレージサーバーのクレデンシャルが正しい。
- サードパーティソフトウェアまたは設定されたスナップショット方式で必要とされるサポートソフトウェアがクライアントにインストールされている。
  スナップショット方式について詳しくは、『NetBackup スナップショットクライアント管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4206

メッセージ: 認証エラーが発生しました。NetBackup クライアントサービスがローカルシステムとして実行されています。不正である可能性があります。(Authentication error occurred. NetBackup Client Service is running as Local System, this is likely incorrect.)

説明: アクセス可能なバックアップ対象がなく、NetBackup Client Service がローカルシステムとして実行されています。これらの条件は、ストレージサーバーにアクセスする資格情報がない可能性を示しています。

推奨処置: ストレージサーバーにアクセスできる正しい資格情報を使用するため、Windows のサービスの NetBackup Client Service を更新してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4207

メッセージ: スナップショットのメタデータまたは状態ファイルをフェッチできませんでした (Could not fetch snapshot metadata or state files)

説明: NetBackup クライアントが必要とするスナップショットメタデータが不明か、NetBackup マスターサーバーからフェッチができません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントが NetBackup マスターと通信できる。
- NetBackup クライアント上の状態ファイルの場所に書き込みアクセス許可がある。NetBackup 状態ファイルは通常、NetBackup クライアント上の次の場所にあります。

  Windows: `C:¥Program Files¥Veritas¥NetBackup¥online_util¥fi_cntl¥`

  UNIX: `/usr/openv/netbackup/online_util/fi_cntl`

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4208

メッセージ: スナップショットメタデータまたは状態ファイルを送信できませんでした (Could not send snapshot metadata or statefiles)

説明: クライアントが作成するスナップショットメタデータはマスターサーバー上では転送できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントが NetBackup マスターと通信できる。
- NetBackup クライアント上の状態ファイルの場所に書き込みアクセス許可がある。NetBackup 状態ファイルは通常、NetBackup クライアント上の次の場所にあります。

  Windows: `C:¥Program Files¥Veritas¥NetBackup¥db¥snapshot¥<client>`

  UNIX: `/usr/openv/netbackup/db/snapshot/<client>`

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4209

メッセージ: スナップショットメタデータまたは状態ファイルを作成できません (Snapshot metadata or statefiles cannot be created)

説明: スナップショットメタデータを作成できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ログに、メタデータの内容の作成を制限するこのエラーに先行するエラーが含まれている。
- NetBackup クライアント上の状態ファイルの場所に書き込みアクセス許可がある。NetBackup 状態ファイルは通常、NetBackup クライアント上の次の場所にあります。
  Windows: `C:¥Program Files¥Veritas¥NetBackup¥db¥snapshot¥<client>`
  UNIX: `/usr/openv/netbackup/db/snapshot/<client>`

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4210

メッセージ: スナップショットメタデータの内容が不正か、内容が見つかりません (Incorrect or no content found in snapshot metadata)

説明: スナップショット状態ファイルの内容が不正または無効です。

推奨処置: 指定された状態ファイルがホストにあることを検証します。NetBackup 状態ファイルは、通常、次の NetBackup クライアントディレクトリにあります。

- Windows: `C:¥Program Files¥Veritas¥NetBackup¥online_util¥fi_cntl¥`
- UNIX: `/usr/openv/netbackup/online_util/fi_cntl`

サポートが必要な場合は、ベリタスの NetBackup サポートに問い合わせてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4211

メッセージ: アクセスできないスナップショット、または無効なスナップショット (Snapshot not accessible or invalid snapshot)

説明: スナップショットにアクセスできません。ターゲットデバイスは複数のホストバスアダプタ (HBA) にマップされる場合があります。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントとストレージ管理ホストアレイ間の接続はそのままになっている。

- ホスト固有のアクセス権がストレージアレイで有効になっている。
- スナップショットがストレージアレイまたはファイラにある。
- スナップショットターゲットデバイスが複数の HBA にマップされていない。マップされている場合は、HBA の 1 つのマップを解除してから続行します。マルチパスソフトウェアを必要とするデバイスに対して複数のパスをサポートします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4212

メッセージ: スナップショットの再作成に失敗しました (Recreation of snapshot failed)

説明: スナップショットを再作成できません。このエラーは Windows プラットフォームでのスナップショットのリストア中に発生することがあります。

推奨処置: 操作のリストアフローが成功しているかを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4213

メッセージ: スナップショットのインポートに失敗しました (Snapshot import failed)

説明: スナップショットのインポート操作が失敗したか、スナップショット I/O スタックの構築と有効化に失敗しました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- クライアント上でスナップショットデバイスにアクセスできる。
- クライアントにスナップショット I/O スタックを構築するのに必要なすべてのソフトウェアがある。これは、保護する必要があったエンティティを持つプライマリクライアントの I/O スタックと同等です。
- NetBackup クライアントとマスターサーバー間の通信がそのままである。
- コピーバックリストアのターゲットデバイスが複数の HBA にマップされていない。マップされている場合は、HBA の 1 つのマップを解除してから続行します。1 つのデバイスに対して複数のパスをサポートするにはマルチパスソフトウェアが必要です。
- iSCSI のセッションがノードとターゲットの間で確立されていることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4214

メッセージ: スナップショットのマウントに失敗しました (Snapshot mount failed)

説明: スナップショットをマウントできないか、スナップショットの後続の操作のセットを実行できません。NetBack ジョブを完了するには、たとえば、該当する場合はスナップショットからのバックアップ、インデックス、リストアなど、スナップショットを次の操作セットにアクセスできるようにする必要があります。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 指定したスナップショットをマウントするために必要なファイルシステム形式を使用できる。
- 必要なアクセス許可はクライアント上にあり、スナップショットの読み込みや検索ができる。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4215

メッセージ: スナップショットの削除に失敗しました (Snapshot deletion failed)

説明: スナップショットを削除できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- スナップショットがストレージアレイに存在する。NetBackup 外で削除されている可能性があります。
- クライアントにスナップショットを削除するアクセス許可がある。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4216

メッセージ: スナップショットのクリーンアップに失敗しました (Snapshot cleanup failed)

説明: スナップショットを作成するさまざまなサポートピースをクリーンアップできません。

推奨処置: ファイルを削除するアクセス許可を有効にしたかを検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4217

メッセージ: スナップショットリストアに失敗しました (Snapshot restore failed)

説明: スナップショットからデータをリストアできません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- スナップショットがある。
- リストアディレクトリまたはフォルダのファイルを上書きまたは作成するのに十分なアクセス許可がある。
- NetBackup とストレージアレイファイラ間の通信がそのままになっている。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4218

メッセージ: スナップショットのデポートに失敗しました (Snapshot deport failed)

説明: 要求されたスナップショットを NetBackup クライアントからデポートまたはマスクできません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- スナップショットがある。
- NetBackup とストレージアレイファイラ間の通信がそのままになっている。
- ストレージサーバーに必要なクレデンシャルが NetBackup に指定されている。
- サードパーティソフトウェアに必要なソフトウェアおよびライセンスが構成されている。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4219

メッセージ: コマンド操作が失敗しました: システムコマンドまたは API の実行に失敗しました (Command operation failed: System command or API execution failed)

説明: 失敗されるサード・パーティコマンドかAPI実行。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- NetBackup ログから、失敗したコマンドまたは API を特定します。
- これらのコマンドを実行するのに必要なアクセス許可があることを確認します。
- 可能な場合は、手動でコマンドを実行し、エラーについてのより詳細な情報を収集します。
- 構成を確認し、失敗したコマンドまたは API の原因を特定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4220

メッセージ: コマンド操作が失敗しました: システムコマンドまたは API の実行に失敗しました (Command operation failed: System command or API execution failed)

説明: システムコマンドまたは API の実行に失敗しました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup ログから、失敗したコマンドまたは API を特定します。
- コマンドの実行の結果として報告されたエラーに基づいて修正措置を講じます。
- これらのコマンドを実行するのに必要なアクセス許可があることを確認します。
- 可能な場合は、手動でコマンドを実行し、エラーについてのより詳細な情報を収集します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4221

メッセージ: 無効な、またはサポートされない構成が見つかりました

説明: NetBackup で無効な、またはサポートされない構成が見つかりました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup ログから、失敗したエンティティおよびエラーを特定してください。
- 構成が正しくセットアップされているかを判断するため、サポートに関する表を調べてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4222

メッセージ: 操作に失敗しました: スナップショットを撮るためのポリシーロックを獲得できません (Operation failed: Unable to acquire policy lock to take snapshot)

説明: ポリシーが重複したスナップショットジョブを生成しました。あるスナップショットジョブが特定のポリシーで実行中のときに、同じポリシーが 2 番目のスナップショットジョブを要求しています。

推奨処置: 手動での操作は必要ありません。NetBackup PEM（Policy Execution Manager）は、マスターサーバーの［ジョブの再試行の遅延 (Job retry delay)］設定に基づいてジョブを再試行します。このプロパティを表示または設定するには、［ホストプロパティ (Host Properties)］ > ［マスターサーバー (Master Server)］ > ［グローバル属性 (Global Attributes)］の順に移動します。重複したスナップショットジョブが実行中でない

ことを確認してもこのエラーが解消されない場合は、NetBackup サポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4223

メッセージ: 操作は完了していません (Operation not completed)

説明: ユーザーが VM インスタントリカバリ操作を完了するために `nbrestorevm -ir_done` コマンドを実行しましたが、VM は NetBackup のストレージからの動作を続けています。Storage vMotion が実行中またはまだ開始されていないため、操作を完了できません。

推奨処置: Storage vMotion の実行が完了し、VM が NetBackup ストレージから実稼働データストアに移動したことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4224

メッセージ: STS の内部エラーです (STS Internal Error)

説明: 次のいずれかが STS プラグイン内で発生しました。

- クライアントまたはストレージサーバーのシステムメモリ不足。
- ビジー状態のストレージサーバー。
- ストレージサーバーと STS プラグイン間の通信で無効な要求を受信しました。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4225

メッセージ: ストレージサーバーでクライアントまたはメディアが権限がない操作を試行しました (Unauthorized operation attempted by client or media on storage server)

説明: ストレージサーバーが権限のない要求を受信したか、ホストを識別しませんでした。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 有効なストレージサーバーのクレデンシャルが構成されている。

- クライアントにはベンダーの仕様ごとに必要な権限がある。詳細については、『NetBackup レプリケーションディレクタソリューションガイド』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4226

メッセージ: ストレージサーバーとの通信エラーが発生しました (Communication failure occurred with storage server)

説明: NetBackup がストレージサーバーと通信できないか、ストレージサーバーとの間でプロトコルエラーが発生しました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 適切なストレージサーバーサービスが実行されている。
- クライアントとメディアサーバーがストレージサーバーと通信できる。
- クライアントとメディアサーバーがストレージサーバー名を解決できる。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4227

メッセージ: STS プラグインエラーが発生しました (STS Plug-in error occurred)

説明: STS プラグインのフレームワークが機能していません。

次のいずれかの状態が発生しています。

- 必要な STS ライブラリをロードまたは初期化できません。
- 無効なプラグイン操作が試みられています。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4228

メッセージ: ストレージサーバーまたはプラグインのバージョンが一致しません (Storage server or plug-in version mismatch)

説明: STS プラグインのフレームワークが互換性のないバージョンのストレージサーバーを認識しました。

推奨処置: クライアントおよびメディアサーバーが、そのバージョンのストレージサーバーをサポートしているかを検証してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4229

メッセージ: ストレージサーバーがリソースまたは機能の不足を検出しました (Insufficient resources or capabilities found by storage server)

説明: ストレージサーバーに十分なリソースまたは利用できる機能がありません。たとえば、ストレージサーバーが管理するストレージに十分な領域がありません。また、適切な機能のライセンスがストレージサーバー上で有効になりません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ストレージサーバーはバックアップ対象から識別されたデバイスを認識する。
- 必要な機能がストレージ上で有効になる。
- 必要な機能ライセンスがストレージに適用される。
- ストレージサーバーは、NetBackup がトリガしたスナップショットに対して十分なストレージ領域を備えている。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4230

メッセージ: ストレージトポロジーが無効か、ストレージサーバーの構成エラーです (Invalid storage topology or storage server configuration error)

説明: 無効な構成が STS プラグイン失敗の原因になっています。このエラーの例としては、無効なトポロジー構成、ストレージ構成、サーバー構成などがあります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ストレージがベンダーの仕様に従って正しく構成されているか検証します。
- 基礎となるストレージがストレージのライフサイクルポリシーで指定されたトポロジーをサポートしているか検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4231

メッセージ: STS の予期しないエラー (STS Unexpected Error)

説明: STS のプラグインが予期しないエラーで失敗しました。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4232

メッセージ: 検出問い合わせ URI が無効です (Invalid Discovery Query URI)

説明: 検出ポリシーのクエリー URI を解析できません。

推奨処置: ポリシーエディタを使用して、URI に構文エラーがないか調べてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4233

メッセージ: vCloud には BIOS UUID クライアント参照が許可されません (BIOS UUID client reference not allowed for vCloud)

説明: vCloud は一意でないので、BIOS UUID をクライアント参照として使用することは許可されません。

推奨処置: ポリシーには別の形式のクライアント参照 (おそらくはインスタンス UUID) を選択してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4234

メッセージ: VMware サーバーのログインエラー (VMware server login failure)

説明: 設定されたユーザー名、パスワード、およびポートでサーバーへのログインが許可されません。

推奨処置: 指定されたサーバー用に設定されたクレデンシャルを修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4235

メッセージ: vCloud が有効でないときに vCloud キーワードが使用されました (vCloud keyword used when vCloud not enabled)

説明: ポリシーが vCloud 関連キーワードを使用しますが、vCloud サーバークレデンシャルが構成されていません。

推奨処置: vCloud Director ークレデンシャルを構成するか、ポリシークエリーから vCloud 関連のキーワードを削除してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4236

メッセージ: vCloud ポリシーに複数の組織が含まれます (vCloud policy includes multiple organizations)

説明: ポリシークエリーの実行で複数の vCloud 組織から VM が選択され、それがポリシーで有効化されていません。

推奨処置: 単一の組織からの VM のみ選択するようにポリシークエリーを修正するか、または複数の組織からの VM を有効化するようにポリシーを変更してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4237

メッセージ: クライアントがポリシーの必要条件を満たしません (Client does not meet policy requirements)

説明: VM が選択されたクライアント参照の要件を満たしていないので、VM をバックアップできません。

推奨処置: 構成されたクライアント参照の要件を満たすように VM を修正するか、別のクライアント参照を使うようにポリシーを変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4238

メッセージ: ポリシーにサーバーのクレデンシャルが構成されていません (No server credentials configured for policy)

説明: 検出ポリシーは、サーバーがポリシーを実行するためにクレデンシャルを必要とします。

推奨処置: 検出ポリシーのタイプに対して、適切なサーバークレデンシャルが入力されていることを検証してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4239

メッセージ: 仮想マシンが見つかりません (Unable to find the virtual machine)

説明: このエラーの原因:

- 仮想マシン名が正しく入力されていない(名前のスペルミスなど)。
- 仮想マシンの識別子タイプがポリシーに対して正しく選択されていない。たとえば、仮想マシンの表示名を入力したが、ポリシーの仮想マシン識別子が仮想マシンのホスト名を示している場合などです。
- 仮想マシンの名前が、変更、削除、または移動している。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ポリシーに対して構成された仮想マシン識別子と、ポリシーの仮想マシンに入力した名前(表示名、ホスト名、UUID)が一致している。
- VMware ユーザーインターフェースで仮想マシンを表示できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4240

メッセージ: サポートされていない操作です (Operation not supported)

説明: 考えられる原因は、ベリタスのプログラミングエラーです。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4243

メッセージ: VirtualCenter サーバーに接続できません (Unable to connect to the VirtualCenter server)

説明: VirtualCenter サーバーに接続できません。このエラーの原因:

- 同じ VirtualCenter サーバーを使用して開始された VM スナップショットジョブが多すぎると、VirtualCenter サーバーの接続の上限を超えます。
- VMware バックアップホストと VirtualCenter サーバー間のネットワーク接続が断続的です。

推奨処置: VM スナップショットジョブが多すぎる場合は、VMware の[リソース制限 (Resource Limit)]を使用して並列実行ジョブを制限します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4245

メッセージ: バックアップ対象の無効なパス名です

説明: NetApp クラスタ Data ONTAP の NDMP パス名は、`/vserver_name/vol_name` の形式であることが予期されます。

推奨処置: パス名には IP アドレスを使うことができません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4246

メッセージ: 要求された操作は部分的に成功しました。

説明: このエラーの潜在的な原因は次のとおりです。

- すべてのバックアップ対象が選択したすべてのクライアントに適用されるわけではない
- バックアップ対象が無効なボリューム名を参照している
- バックアップ対象がディレクトリを参照している

推奨処置: 次の手順を実行します。

- 各クライアントに個別のポリシーを作成する
- Vserver の正しいボリューム名を指定する
- ボリューム内のディレクトリではなく、ボリューム名を指定する

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4247

メッセージ: Replication Director NDMP ポリシー用のスナップショットからのインデックスは AIX メディアサーバーでサポートされません

説明: Replication Director NDMP ポリシー用のスナップショットからのインデックスは Linux、Windows、HP-UX、Solaris メディアサーバーでのみサポートされます。

推奨処置: SLP で参照されるストレージユニットとして AIX メディア以外のメディアサーバーをスナップショット操作からのインデックスに対して関連付けてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4248

メッセージ: スナップショット操作からのインデックスが内部エラーにより失敗しました

説明: スナップショット操作からのインデックスが内部エラーにより失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログを確認してください。インデックスデータベースを作成するために十分な容量がメディアサーバーにあることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4249

メッセージ: スナップショット操作からのインデックスが失敗しました。カタログがすでに存在します

説明: 所定のソースイメージに対して作成された完全カタログがすでに存在する場合は、スナップショット操作からのインデックスが失敗します。

推奨処置: 指定したソースイメージに対して既存のカタログがないことを確認してください。詳しくは、NetBackup 管理ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4250

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。子イメージまたはファイル情報を見つけることができません

説明: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。インデックス化する必要のあるバックアップ ID の子イメージが見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログをチェックしてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4251

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。インデックスデータベースへの書き込みに失敗しました。

説明: インデックスデータベースの書き込み中にメディアサーバーでエラーが発生しました。

推奨処置: 通常、インデックスデータベースは、NB_INSTALL_DIR/tmp に作成されます。例: /usr/openv/netbackup/tmp これは、NetBackup 構成ファイルに SNAPDIFF_DB_PATH を追加することによって上書きできます。インデックスデータベー

スを作成するために十分な容量がメディアサーバーにあることを確認してください。詳しくは、NetBackup 管理 ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4252

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。エントリがバックアップ対象エントリのいずれにも属していません。

説明: インデックス化されるファイルエントリがバックアップ対象エントリのいずれにも属していません。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4253

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。現在および以前のバックアップイメージの SLP バージョンが一致しません。

説明: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。現在および以前のバックアップイメージの SLP バージョンが一致しません。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4254

メッセージ: インデックスデータベースを作成するためのパスが無効であるか、見つかりません

説明: インデックスデータベースを作成するためのパスが無効であるか、存在しません。このパスは、スナップショット操作からのインデックスにインデックスデータベースを作成するために必要です。

推奨処置: 通常、インデックスデータベースは、NB_INSTALL_DIR/tmp に作成されます。例: /usr/openv/netbackup/tmp これは、NetBackup 構成に SNAPDIFF_DB_PATH を追加することによって上書きできます。定義したパスが存在するかどうか確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4255

メッセージ: SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスはユーザーによって無効化されます

説明: ユーザーは、NetBackup 構成キー USE_SNAPDIFF で SnapDiff を使ってスナップショット操作からのインデックスを無効化できます。キーの値を 0 に設定すると、SnapDiff を使ったスナップショット操作からのインデックスが無効化されます。

推奨処置: SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスを有効にするには、bpsetconfig CLI を使って NetBackup 構成キー USE_SNAPDIFF の値を変更します。このキーの指定可能な値は次のとおりです。

- 0 に設定すると、SnapDiff を使ったスナップショット操作からのインデックスを実行しません。
- 1 に設定すると、増分スケジュールに対してのみ、SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスが有効になります。
- 2 に設定すると、すべてのスケジュールタイプに対して、SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスが有効になります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4256

メッセージ: スナップショットからのインデックスはバックアップ対象と関連付けられたファイルシステムでサポートされていません

説明: スナップショットからのインデックスがバックアップ対象エントリのいずれかと関連付けられたファイルシステムでサポートされません。

推奨処置: 現時点では、SnapDiff を使ったスナップショット操作からのインデックスは NFS と CIFS ファイルシステムでサポートされます。また、ポリシー形式が NDMP である場合もサポートされます。SnapDiff を使ったスナップショット操作からのインデックスをサポートするファイルシステムを含むバックアップ対象エントリを使ってポリシーを変更してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4257

メッセージ: スナップショットからのインデックスはストレージサーバーでサポートされていません

説明: SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスは、スナップショットの作成に使われているストレージサーバーでサポートされません。

推奨処置: SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスがストレージサーバーでサポートされていることを確認してください。サポートされていない場合は、SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスをサポートするストレージサーバーに関連付けられた STU に SLP を変更してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4258

メッセージ: Hyper-V VM スナップショットの取得中に一時的なエラーが発生しました

説明: Hyper-V VSS ライターで一時的なエラーが発生しました。VM が別の競合する操作を実行しているか、移動している可能性があります。バックアップ処理が再試行されると、エラーは再び発生しない可能性があります。

推奨処置: 詳しくは、Hyper-V VMMS のイベントログ (ログ名: Microsoft-Windows-Hyper-V-VMMS/Admin) を確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4259

メッセージ: VMware ルックアップサービスで VirtualCenter ホスト名の検出に失敗しました

説明: vCenter の Platform Services Controller のシステム名は vCenter の NetBackup の仮想マシンのサーバー名に解決できません。

推奨処置: NetBackup の仮想マシンのサーバー名として Platform Services Controller で構成されたシステム名を使います。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4260

メッセージ: SSO ログインエラーが発生しました

説明: VMware シングルサインオンサービスにログオンしようとする試みが失敗しました。

推奨処置: NetBackup 仮想マシンサーバーのために入力したクレデンシャルが認可されていることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4261

メッセージ: VMware 内部サーバーエラーが発生しました

説明: このメッセージは一般的な VMware の内部サーバーエラーを示します。このエラーの既知の原因は、vCenter で定義されているタグまたはカテゴリに説明がないことです。

推奨処置: エラーメッセージと関連する VMware ナレッジベースの記事に示されている詳細を参照してください。NetBackup VxUL のログ (`libvcloudsuite`) を確認してください。

関連する VMware ナレッジベースの記事: http://kb.vmware.com/kb/2124204

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4262

メッセージ: VMware vCloud Suite API エラーが発生しました

説明: このメッセージは一般的な VMware API エラーを示します。このエラーの既知の原因として、NetBackup マスターサーバーまたは仮想マシンの自動選択を実行する他のホストが VMware Platform Services Controller にネットワーク接続していない場合が挙げられます。

推奨処置:『vCenter Server 6.0 のデプロイ ガイド』と関連する VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

関連する VMware ナレッジベースの記事: http://kb.vmware.com/kb/2106283

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4263

メッセージ: VMware SOAP API エラーが発生しました

説明: このメッセージは NetBackup が VMware シングルサインオンサービスに接続するように試みたときのエラーを示します。このエラーの既知の原因として、時計の設定が仮想マシンの選択で使われる NetBackup ホストと、vCenter との間で異なっている場合があります。

推奨処置: エラーメッセージと関連する VMware ナレッジベースの記事に示されている詳細を参照してください。NetBackup VxUL のログ (`libvcloudsuite`) を確認してください。

VMware ナレッジベースの記事: http://kb.vmware.com/kb/2125193

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4264

メッセージ: TagView XML の処理中に予想外のエラーが発生しました

説明: このメッセージは VMware タグ情報を含んでいる XML ファイルが破損していることを示します。

推奨処置: 問い合わせのテストからエラーが起こる場合は、操作を再試行します。親 (検出) ジョブが失敗する場合は、失敗しているポリシークライアントのタブで［VMware の選択の問い合わせ結果を再利用する (Reuse VMware selection query results)］の値を 0 にして、ジョブを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4265

メッセージ: タグをサポートしていない VMware 仮想マシンサーバーが見つかりました

説明: このメッセージは ESX サーバーがタグをサポートしない仮想マシンサーバーのリストに含まれていることを示しています。

推奨処置: 詳しくは、『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4266

メッセージ: タグ API を提供していない VMware 仮想マシンサーバーが見つかりました

説明: このメッセージは 5.1 または 5.5 vCenter が VMware タグ API を提供していない仮想マシンサーバーのリストに含まれていることを示しています。

推奨処置: 詳しくは、『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4267

メッセージ: Java ランタイム環境の初期化に失敗しました

説明: このエラーメッセージは NetBackup が VMware タグ情報にアクセスするために必要となる Java Runtime Environment を見つけらないことを示します。

推奨処置: NetBackup Client のインストールに対応する NetBackup リモート管理コンソールのバージョンをインストールします。NetBackup リモート管理コンソールのバージョンは NetBackup Client のバージョンと一致する必要があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4268

メッセージ: リソースプールの情報の取得に失敗しました

説明: NetBackup は vSphere からリソースプールのプロパティを取得できませんでした。

推奨処置: リソースプールのパスを調べてください。パスが正しくない場合は、宛先の vCenter サーバーに存在する正しいリソースプールのパスを指定してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4269

メッセージ: 同じ ID を持つ複数の仮想マシンが見つかりました

説明: 同じ表示名を持つ複数の仮想マシンが宛先リソースプールまたは vApp に存在しています。NetBackup は上書きされる必要がある仮想マシンを識別できません。

推奨処置: リストア用の表示名を選択するか、宛先のリソースプールまたは vApp にある仮想マシンの名前を変更してください。同じ表示名を持つ仮想マシンは、宛先リソースプールまたは vApp に 1 つだけ存在できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4270

メッセージ: 仮想マシンのスナップショットがあるため、ポリシーオプションはバックアップの中止を指定します

説明: バックアップされている仮想マシンには既存のスナップショットがあり、バックアップポリシーは NetBackup がこの環境でのバックアップを中止するよう要求します。

推奨処置: スナップショットを削除してバックアップジョブを再起動する、またはポリシーを修正して既存のスナップショットを無視するか削除するようにします。NetBackup は NetBackup によって作成された既存のスナップショットのみを削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4271

メッセージ: 仮想マシンのスナップショットの最大数を超えています

説明: NetBackup は、仮想マシンに最大許容数より多いスナップショットが存在するため、既存の仮想マシンのスナップショットを削除できませんでした。

推奨処置: 仮想マシンのスナップショットを削除して、バックアップジョブを再度実行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4272

メッセージ: 差分ファイルの最大数を超えています

説明: 仮想マシンのディスクの 1 つに差分ファイルの最大許容数より多いファイルがありました。このため、NetBackup は仮想マシンのスナップショットを作成できませんでした。

推奨処置: 仮想マシンのディスクを統合して、バックアップジョブを再度実行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4273

メッセージ: 仮想マシンのスナップショット操作のバックアップまたはリストアホストをロックできません

説明: NetBackup はバックアップまたはリストアホストで仮想マシンのスナップショット操作をシリアル化するよう構成されていました。ただし、NetBackup は、許容された時間内でスナップショットのシリアル化を制御するロックを取得できませんでした。

推奨処置: 他に処理中の仮想マシンのスナップショット操作がないときにバックアップジョブを再開してください。NetBackup がロックを高頻度で取得できない場合は、NetBackup のジョブ構成を必要に応じて調整します。たとえば、仮想マシンのスナップショットを異なる時間に実行する、または異なるホストで実行するようにします。または、スナップショットのシリアル化が必要とされないように、NetBackup を再構成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4274

メッセージ: 仮想マシンのスナップショットの削除に失敗しました

説明: NetBackup は仮想マシンのスナップショットを削除できませんでした。

推奨処置: 仮想マシンのスナップショットを手動で削除してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4275

メッセージ: 仮想マシンのディスクを統合できない

説明: NetBackup は仮想マシンのディスクを統合できませんでした。NetBackup は次のようにディスクの統合を試みます。

- 仮想マシンのバックアップの開始時に、仮想マシンのスナップショットが作成される前。
- バックアップが完了に近づく中で、仮想マシンのスナップショットが削除された後。

推奨処置: 仮想マシンのディスクを手動で統合して、ジョブを再度実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4276

メッセージ: 仮想マシンのディスクの情報を取得できません

説明: NetBackup は仮想マシンのディスクの情報を取得できませんでした。

推奨処置: ジョブの詳細を確認して、エラーに関連するあらゆる追加情報について bpfis ログを確認します。エラーの根本原因となる問題を修正して、ジョブを再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4277

メッセージ: 仮想マシンのパスがサポートされていない文字を含んでいます

説明: 仮想マシンのパスに、NetBackup がサポートしない文字が含まれています。

推奨処置: サポートされている文字だけを含むように仮想マシンやフォルダパスの名前を変更してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4278

メッセージ: 仮想マシンの情報を取得できません (Unable to retrieve virtual machine information)

説明: NetBackup は仮想マシンの情報を取得できませんでした。

推奨処置: ジョブの詳細を確認して、エラーに関連するあらゆる追加情報について bpfis ログを確認します。エラーの根本原因となる問題を修正して、ジョブを再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4279

メッセージ: 仮想マシンの vCloud 情報を取得できません (Unable to retrieve virtual machine vCloud information)

説明: NetBackup は仮想マシンの vCloud 情報を取得できませんでした。

推奨処置: ジョブの詳細を確認して、エラーに関連するあらゆる追加情報について bpfis ログを確認します。エラーの根本原因となる問題を修正して、ジョブを再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4280

メッセージ: 仮想マシンは独立ディスクまたは Raw デバイスマッピングディスクのみを含んでいます

説明: 仮想マシンが含んでいたのは独立ディスクと Raw デバイスマッピングディスクのみでしたので、NetBackup で保護するデータが見つかりませんでした。

推奨処置: 仮想マシンをバックアップポリシーの選択から削除する、または追加のディスクを含めるよう仮想マシンを修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4281

メッセージ: 仮想マシンは独立ディスクのみを含んでいます

説明: 仮想マシンが含んでいたのは独立ディスクのみでしたので、NetBackup で保護するデータが見つかりませんでした。

推奨処置: 仮想マシンをバックアップポリシーの選択から削除する、または追加のディスクを含めるよう仮想マシンを修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4282

メッセージ: 仮想マシンは Raw デバイスマッピングディスクのみを含んでいます

説明: 仮想マシンが含んでいたのは Raw デバイスマッピングディスクのみでしたので、NetBackup で保護するデータが見つかりませんでした。

推奨処置: 仮想マシンをバックアップポリシーの選択から削除する、または追加のディスクを含めるよう仮想マシンを修正します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:4283

メッセージ: ディスク識別子の処理中にエラーが検出されました

説明: NetBackup は同じ UUID を持つ複数の仮想マシンディスクに遭遇しました。

推奨処置: 仮想マシンを修正して、そのディスクの UUID がまったく他のどの仮想マシンの UUID と重複しないようにしてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4287

メッセージ: 仮想マシンの NetBackup スナップショットが存在するため、ポリシーオプションはバックアップの中止を指定しています

説明: 仮想マシンに NetBackup が作成したスナップショットが 1 つ以上存在し、ポリシーの[既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)]オプションでバックアップの中止を指定しています。NetBackup が作成したスナップショットの名前は NBU_SNAPSHOT または NBU_RESTORE という文字列で始まります。

既存の NetBackup スナップショットの原因として考えられるものを次に示します。

- 以前のバックアップによるスナップショットが削除されていない(孤立したスナップショット)。通常はバックアップの完了時に NetBackup によってスナップショットが削除されます。
- 2 つのポリシーが仮想マシンのバックアップを同時に作成しようとする。片方のポリシーのバックアップは、もう一方のポリシーが作成したスナップショットを検出します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 孤立したスナップショットを手動で削除します。
  VMware の場合、VMware vSphere インターフェースを使用して仮想マシンのスナップショットを削除できます。Hyper-V の場合、nbhypervtool.exe を使用して、WMI バックアップの手法で作成された NetBackup スナップショットを削除できます。nbhypervtool.exe について詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

- リソース制限を変更して該当する VMware または Hyper-V のリソースの負荷を減らすことで、孤立したスナップショットが生じる割合を減らします。[リソース制限 (Resource Limit)]ダイアログは、[ホストプロパティ (Host Properties)] > [マスターサーバー (Master Servers)]の NetBackup 管理コンソールにあります。VMware と Hyper-V の NetBackup ガイドには、利用可能な設定の説明があります。
- NetBackup ポリシースケジュールを変更し、仮想マシンの同時バックアップを回避します。
- VMware のみ: NetBackup ポリシーの[既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)]パラメータを別のオプション([バックアップを続行 (Continue Backup)]など)に変更します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 4290

メッセージ: 仮想マシンスナップショットの作成に失敗しました。仮想マシンは別の操作を実行しているためビジー状態です

説明: 仮想マシンがスナップショット作成プロセスと競合する別の操作を実行しているため、仮想マシンスナップショットを作成できません。これは、仮想マシンがストレージの移行またはライブマイグレーションを実行している場合に発生します。

推奨処置: 仮想マシンが競合する操作を完了してから、スナップショットジョブを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5400

メッセージ: バックアップエラー - データベース内で要求オブジェクトが見つかりませんでした (Backup error - None of the request objects were found in the database)

説明: バックアップ選択リストにデータベースで見つかったオブジェクトが含まれていませんでした。オブジェクトはデータファイルまたは表領域のいずれかです。

推奨処置: バックアップ選択リストを確認します。データベースの一部であるオブジェクトを追加するか、ポリシーからデータベースインスタンスを削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5401

メッセージ: バックアップエラー - FRA (高速リカバリ領域) が要求されましたが、データベース内にありませんでした (Backup error - FRA (Fast Recovery Area) was requested, but it was not found in the database)

説明: バックアップ要求は FRA に対するものでしたが、FRA はデータベース内にありませんでした。

推奨処置: FRA 領域をデータベースに追加するか、ポリシーからデータベースインスタンスを削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5402

メッセージ: OS 認証エラー - データベースに接続できませんでした。OS のクレデンシャルをチェックしてください。(OS Authentication error - Could not connect to the database. Please check the OS credentials.)

説明: 提供されたオペレーティングシステムのクレデンシャルを使ってデータベースへの接続が確立できません。

推奨処置: クレデンシャルが正しく設定されることを確認します。Windows で、プロセスレベルトークンの置換が必要な場合があります。最初に、[スタート]、[コントロールパネル]、[管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー]の順に選択します。次に左ペインの[ローカルポリシー]を展開し、[ユーザー権利の割り当て]をクリックし、右ペインの[プロセスレベルトークンの置き換え]をダブルクリックします。クライアントポリシーを実行するユーザーを追加します。サーバーを再起動してこの権限を有効にします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5403

メッセージ: Oracle 認証エラー - データベースに接続できませんでした。(Oracle Authentication error - Could not connect to the database.)Oracle のクレデンシャルを確認してください

説明: 提供された Oracle データベースのクレデンシャルを使ってデータベースへの接続を確立できません。

推奨処置: クレデンシャルが正しく設定されることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5404

メッセージ: ASM 検証エラー - ASM の PROXY バックアップはサポートされていません (ASM validation error - PROXY backup is not supported for ASM)

説明: PROXY 形式のバックアップのバックアップ要求でした。自動ストレージ管理 (ASM) が見つかりました。ASM ではプロキシバックアップはサポートされていません。

推奨処置: データベースを ASM 以外のストレージに移動するか、ポリシーからデータベースインスタンスを削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5405

メッセージ: リカバリカタログ認証エラー - リカバリカタログに接続できませんでした。(Recovery Catalog Authentication error - Could not connect to the Recovery Catalog.)リカバリカタログのクレデンシャルを確認してください

説明: 提供されたリカバリカタログのクレデンシャルを使ってリカバリカタログデータベースへの接続を確立できません。

推奨処置: リカバリカタログのクレデンシャルが正しく設定されることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5406

メッセージ: アーカイブログのみのバックアップが要求されましたが、データベースは ARCHIVELOG モードではありません (Archive log only backup requested, but database is not in ARCHIVELOG Mode)

説明: 要求された操作には、ARCHIVELOG モードまたは MANUAL モードに設定するデータベースアーカイブログモードが必要です。

推奨処置: データベースアーカイブログモードが ARCHIVELOG または MANUAL に正しく設定されることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5407

メッセージ: 要求された処理にはデータベースは誤った状態にあります (OPEN である必要があります)(Database is in the wrong state (must be OPEN) for the requested action)

説明: 要求された操作の場合はデータベースが OPEN モードである必要があります。

推奨処置: データベースのモードが OPEN に設定されていることを確認します。可能な Oracle コマンドは、startup、startup open read only、または startup open です。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5408

メッセージ: OS 認証エラー - クレデンシャルを見つけられませんでした。このインスタンスがインスタンスグループに含まれる場合、グループにこの OS タイプに一致する資格情報があることを確認してください (OS Authentication error - Could not find credentials. If this instance is part of an instance group, make sure that the group has the credentials that match this OS Type)

説明: インスタンスに接続するために必要なクレデンシャルを見つけることができません。

推奨処置: インスタンスが UNIX クライアント上にある場合は、そのインスタンスグループが UNIX クレデンシャルを含んでいることを確かめてください。インスタンスが Windows クライアント上にある場合は、そのインスタンスグループが Windows クレデンシャルを含んでいることを確かめてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5409

メッセージ: このクライアントプラットフォームでクローンの作成はサポートしていません

説明: このクライアントで動作するプラットフォームは、ガイド付きリカバリのクローン作成をサポートしません。

推奨処置: クローン作成機能がサポートされているプラットフォームについては、リリースノートまたは互換性リストを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5410

メッセージ: このクライアントプラットフォームでは Oracle インテリジェントポリシーがサポートされません

説明: このクライアントで動作するプラットフォームは Oracle インテリジェントポリシー機能をサポートしません。

推奨処置: この機能がサポートされているプラットフォームについては、リリースノートまたは互換性リストを参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5411

メッセージ: NOARCHIVELOG モードでデータベースのホットバックアップを行うことはできません。(Cannot do a hot backup of a database in NOARCHIVELOG mode)

説明: 要求された操作では、データベースのアーカイブログモードを ARCHIVELOG モードに設定する必要があります。

推奨処置: データベースのアーカイブログモードが ARCHIVELOG に正しく設定されているか、[オフライン (コールド) データベースバックアップ (Offline (cold) database backup)] に変更されていることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5412

メッセージ: データベースがアーカイブログバックアップを実行する状態にありません (OPEN または MOUNTED である必要があります) (Database is in the wrong state (must be OPEN or MOUNTED) for an Archive Log Backup)

説明: Oracle のポリシーはアーカイブログのバックアップを要求していますが、データベースは OPEN または MOUNTED 状態にありません。

推奨処置: データベースを OPEN または MOUNTED 状態にして、バックアップを再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5413

メッセージ: データベースが FRA バックアップを実行する状態にありません (OPEN または MOUNTED である必要があります) (Database is in the wrong state (must be OPEN or MOUNTED) for an FRA backup)

説明: Oracle のポリシーは FRA (高速リカバリ領域) バックアップを要求していますが、データベースが OPEN または MOUNTED 状態にありません。

推奨処置: データベースを OPEN または MOUNTED 状態にして、バックアップを再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5414

メッセージ: 要求した操作は、このクライアントバージョンではサポートされません (The request operation is not supported with this client version)

説明: 要求した操作は、この NetBackup Client Service バージョンではサポートされていません。

推奨処置: この操作を有効にするには、NetBackup Client Service をアップグレードします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5415

メッセージ: 読み取り専用のスタンバイデータベースを終了できません (Cannot shut down read-only standby database)

説明: NetBackup は読み取り専用モードのスタンバイデータベースでコールドバックアップを実行しません。

推奨処置: ポリシーの Oracle タブでコールドデータベースバックアップオプションを選択しないでください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5416

メッセージ: Oracle は TNS の接続識別子を解決できません (Oracle cannot resolve the TNS connection identifier)

説明: Oracle が TNS 接続 ID を解決できないため、NetBackup はどのデータベースに接続するかを判断できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 正しい TNS 識別子
- 正しく設定された tnsnames.ora ファイル。
- TNS_ADMIN 環境変数の正しいパス。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5417

メッセージ: NFS サーバーがアプライアンスかどうかの確認中にエラーが発生しました。

説明: NetBackup では、データベースバックアップの共有がアプライアンスにあるかどうかを検証できません。

推奨処置: データベースバックアップの共有が NetBackup アプライアンスからエクスポートされるかどうかを検証してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5418

メッセージ: NFS サーバーはアプライアンスではありません。

説明: データベースバックアップの共有がアプライアンスにありません。

推奨処置: データベースバックアップの共有が NetBackup アプライアンスからエクスポートされるかどうかを検証してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5419

メッセージ: データベースバックアップの共有ディレクトリがアプライアンスで利用可能ではありません。

説明: NetBackup で、アプライアンス上のデータベースバックアップの共有ディレクトリにアクセスできません。

推奨処置: NetBackup アプライアンス上にデータベースバックアップの共有ディレクトリが存在していることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5420

メッセージ: このクライアントプラットフォームでは、[データベース全体 - データファイルコピーの共有 (Whole Database - Datafile Copy Share)] の選択はサポートされていません。(Whole Database - Datafile Copy Share selection is not supported for this client platform.)

説明: このプラットフォームで Snapshot Client はサポートされていないので、[データベース全体 - データファイルコピーの共有 (Whole Database - Datafile Copy Share)] の選択はサポートできません。

推奨処置: 別の方法を使用してデータベースをバックアップしてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5421

メッセージ: 要求されたプラグ可能なデータベースは見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースの特定のリストの要求でした。プラグ可能なデータベースのこのリストはデータベースで検証されましたが、データベース内に要求されたプラグ可能なデータベースは見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニタで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されるプラグ可能なデータベースが正しいものであり、要求されたプラグ可能なデータベースにあることを確認します。ポリシーでプラグ可能データベースのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5422

メッセージ: 部分的な成功 - 1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースは見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースの特定のリストの要求でした。このプラグ可能データベースのリストがデータベースで検証されたときに、1 つ以上の要求されたプラグ可能データベースがそのデータベースで見つかりませんでした。検出されたデータベースはバックアップされました。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニタで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されているプラグ可能データベースのリストが正しいことと、要求されたデータベースにあることを確認します。ポリシーでプラグ可能データベースのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5423

メッセージ: 要求されたプラグ可能なデータベース内に要求された表領域は見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースと表領域の特定のリストに対するものでした。これらのリストはデータベースで検証されましたが、要求されたプラグ可能なデータベース内に要求された表領域は見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニタで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定される表領域のリストが正しいものであり、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。プラグ可能なデータベースまたは表領域がコマンドラインを使って指定された場合は、それらのスペルを確認してください。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5424

メッセージ: 部分的な成功 - 1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースには要求された表領域が含まれていませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースと表領域の特定のリストに対するものでした。これらのリストはデータベースで検証されましたが、1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースが要求された表領域を含んでいませんでした。プラグ可能データベースで見つかった表領域はバックアップされました。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニタで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定される表領域のリストが正しいものであり、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。プラグ可能なデータベースまたは表領域がコマンドラインを使って指定された場合は、それらのスペルを確認してください。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5425

メッセージ: 要求されたプラグ可能なデータベース内に要求されたデータファイルは見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求は、プラグ可能データベースとデータファイルの特定のリストの要求でした。これらのリストがデータベースで検証されたときに、1 つ以上の要求されたデータファイルが要求されたプラグ可能データベースで見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニタで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されているデータファイルのリストが正しいことと、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースまたはデータファイルを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5426

メッセージ: 部分的な成功 - 1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースには要求されたデータファイルが含まれていませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求は、プラグ可能データベースとデータファイルの特定のリストの要求でした。これらのリストはデータベースで検証されましたが、1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースが要求されたデータファイルを含んでいませんでした。プラグ可能データベースで見つかったデータファイルはバックアップされました。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニタで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されているデータファイルのリストが正しいことと、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースまたはデータファイルを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5427

メッセージ: 部分的な成功 - 複数のエラーが発生する場合、詳しくは[ジョブの詳細]の[状態の詳細]タブを参照するか、ログを確認してください。

説明: 要求が処理される間に、複数のエラーが発生しました。いくつかの項目は正常に処理されました。データベースオブジェクト(プラグ可能データベース、表領域、データファイル)が正常で、バックアップに含まれています。

推奨処置: エラーについて詳しくはアクティビティモニターの関連ジョブの詳細な状態を確認してください。エラーに応じて、ポリシーに対して適切な変更を行なってください。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5428

メッセージ: データベースのバックアップ共有は見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップの共有がバックアップ中に見つかりませんでした。

推奨処置: アプライアンスのデータベースのバックアップ共有を構成してから、データベースのベンダーのツールを使って共有にファイルをバックアップします。NetBackup はエラーの後にこのジョブを再試行しません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5429

メッセージ: データベースのバックアップ共有でインスタンスに関連するファイルは見つかりませんでした (No files that are related to the instance were found in the database backup share)

説明: インスタンスまたは (OIP で構成された) データベースと関連しているファイルがデータベースのバックアップ共有に見つかりませんでした。

推奨処置: ポリシーが実行される前にバックアップがデータベースのバックアップの共有にあることを確かめてください。NetBackup はエラーの後にこのジョブを再試行しません。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード:5430

メッセージ: プラグ可能なデータベースのコールドバックアップを実行するには、データベースが ARCHIVELOG モードである必要があります。

説明: プラグ可能なデータベースのコールドバックアップが要求されました。この構成は Oracle によってサポートされる環境ではありません。プラグ可能なデータベースのコールドバックアップを実行するには、データベースが ARCHIVELOG モードである必要があります。

推奨処置: データベースを ARCHIVELOG モードに変更するか、バックアップ要求をコールドバックアップからホットバックアップに変更します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5500

メッセージ: NetBackup コア Web サービスのサービス内部エラー

説明: 内部エラーが NetBackup コア Web サービスで発生しました。

推奨処置: 問題のレポートを送信し、該当するログとエラーを引き起こした要求を提供してください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します (OID=443)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5501

メッセージ: 指定した URI は短すぎます (Supplied URI is too short)

説明: HTTP 要求の URL が不完全で、要求に必要なコンポーネントがありません。

推奨処置: HTTP 要求で提供される URL を調べ、必要ならば修正してください。要求を再送信してください。問題が解決されない場合は、問題のレポートを提出し、該当するログと要求の URL を提供してください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します(OID=443)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5502

メッセージ: 指定した URI はサポートされません (Supplied URI is not supported)

説明: コア Web サービスがサポート外の URL の要求を受信します。

推奨処置: コア Web サービスによってサポート対象の URI(uniform resource identifiers)のリストを調べ、サポートされている URI で再試行してください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します(OID=443)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5503

メッセージ: NetBackup コア Web サービスを終了しています (NetBackup core web service is terminating)

説明: NBSL(NetBackup Service Layer)サービスは、HTTP 要求を受信するときに停止プロセスに入ります。

推奨処置: NetBackup コア Web サービスが有効になることを確認してください。NBSL を再起動し、要求を再試行してください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します(OID=443)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5504

メッセージ: URI の問い合わせ文字列が間違っています (Query string in URI is bad)

説明: 受信した HTTP 要求の問い合わせ文字列が間違っています。

推奨処置: 要求の問い合わせ文字列を訂正してから、要求を再試行してください。問題が解決されない場合は、問題のレポートを該当するログと要求の URL とともに送信して

ください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します（OID=443）。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5505

メッセージ: クライアント名が必要です (Client name is required)

説明: コア Web サービスが問い合わせフィルタで供給されないクライアント名を用いた `vmimagelist` 要求を受信します。

推奨処置: 正しいクライアント名を vmimagelist 要求に含めてから、要求を再試行してください。問題が解決されない場合は、問題のレポートを該当するログと要求の URL とともに送信してください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します（OID=443）。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5506

メッセージ: コア Web サービスプロキシとの通信に失敗しました (Failed to communicate with core web service proxy)

説明: コア Web サービスが `nbproxy` と通信して受信要求を処理することができません。

推奨処置: NBSL を再起動し、要求を再試行してください。問題が解決されない場合は、問題のレポートを該当するログと要求の URL とともに送信してください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します（OID=443）。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5507

メッセージ: 不明なジョブ ID (Unknown jobid)

説明: コア Web サービスがジョブ詳細の要求（たとえば `/job/<jobid>`）を受信しますが、NetBackup は供給された `jobid` を認識しません。

推奨処置: NetBackup が認識し、まだ削除されていない `jobid` で要求を再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5508

メッセージ: XML データファイルの解析でエラーが発生しました (Error in parsing XML document)

説明: コア Web サービスが、リストア事前チェック要求に応答して送信された XML 応答ドキュメント bprd を解析できません。

推奨処置: リストア事前チェック要求に渡された引数を調べ、要求を再試行してください。問題が解決されない場合は、問題のレポートを該当するログおよび要求の詳細とともに送信してください。NetBackup コア Web サービスは、NBSL ログへログメッセージを送信します(OID=443)。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5761

メッセージ: Windows ソケットライブラリの初期化に失敗しました (Failed to initialize Windows Socket library)

説明: Windows の NetBackup で、Microsoft Windows のソケット通信ライブラリの初期化でエラーが発生しました。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5762

メッセージ: ピアは NetBackup マスターまたはメディアサーバーではありません (Peer is not a NetBackup Master or Media Server)

説明: NetBackup ホストは、NetBackup サーバーを認識できない場合にこのコードを返します。

推奨処置: NetBackup サーバーがこの状態コードを返した場合は、要求された NetBackup サーバーがマスターサーバーであることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5763

メッセージ: ソケット通信中にエラーが発生しました (Encountered error during socket communication)

説明: ログアシスタントのプロセスでは、マスターサーバーまたは NetBackup ホストでの操作時にソケット通信障害が発生します。

推奨処置: NetBackup が正しく機能している場合は、このエラーの解決にはベリタスのサポートによるサポートが必要です。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5764

メッセージ: 実行を指定したコマンドは無効か、許可されません (Command specified for execution is invalid or not allowed)

説明: ログアシスタントのプロセスでは、NetBackup ホストでこのエラーが発生します。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5765

メッセージ: 指定したコマンドの実行に失敗しました (CreateProcess または exec) (Failed to execute specified command (CreateProcess or exec))

説明: ログアシスタントのプロセスでは、要求された処理の実行中に NetBackup ホストでこのエラーが発生します。このエラーは、システムリソースまたは製品の欠陥を示している可能性があります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5766

メッセージ: 指定したコマンドの実行に失敗しました (fork) (Failed to execute specified command (fork))

説明: ログアシスタントのプロセスでは、要求された処理の実行中に NetBackup ホストでこのエラーが発生します。このエラーはホストのシステムリソースの問題を示している可能性があります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5767

メッセージ: 子プロセスの終了コードを取得できませんでした (Failed to get exit code of child process)

説明: ログアシスタントのプロセスでは、要求された操作の実行中に子プロセスの終了状態を取得できない場合にこのエラーが発生します。このエラーの考えられる 1 つの原因は手動介入です。

推奨処置: このエラーが手動介入の結果でない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5768

メッセージ: 実行したコマンドの完全出力を読み込めませんでした (Failed to read complete output of executed command)

説明: ソケット接続問題はマスターサーバーのログアシスタントのプロセスと NetBackup ホスト間にあります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5769

メッセージ: 子プロセスの終了コードを読み込めませんでした (Failed to reap exit code of child process)

説明: 要求された操作を実行中に子プロセスの終了状態を取得できない場合に、UNIX/Linux NetBackup ホスト上のログアシスタントのプロセスにより返されます。このエラーの考えられる 1 つの原因は手動介入です。

推奨処置: このエラーが手動介入の結果でない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5770

メッセージ: クラスタ構成の取得に失敗しました (Failed to get cluster configuration)

説明: この状態コードは発生しません。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5771

メッセージ: リモートコマンドから受け取った出力の書き込みに失敗しました (Failed to write output received from remote command)

説明: ソケット接続問題はマスターサーバーのログアシスタントのプロセス間にあります。

推奨処置: このエラーが手動介入の結果でない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5772

メッセージ: 統合ログ構成ファイルの読み込みに失敗しました (Failed to read unified logging configuration file)

説明: VxUL 構成ファイルが不明または形式不良です。

推奨処置: VxUL 構成ファイルの有無と形式、および指定された NetBackup ホスト上のエラーメッセージを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5773

メッセージ: マスターサーバーの仮想名を取得できませんでした (Failed to get virtual name of Master Server)

説明: この状態コードは発生しません。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5774

メッセージ: 指定したログは無効です (Specified logs are not valid)

説明: 製品に不具合がある可能性があります。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5775

メッセージ: 無効なオプションを指定しました (Invalid option specified)

説明: 製品に不具合がある可能性があります。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5776

メッセージ: 新しいプロセスの量産に失敗しました (Failed to spawn new process)

説明: 製品に不具合がある可能性があります。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5777

メッセージ: マスターサーバーのステージングディレクトリを作成できませんでした (Failed to create the staging directory on Master Server)

説明: ログアシスタントは、マスターサーバーに指定のステージングディレクトリを作成できませんでした。

推奨処置: 指定されたパスがすでに存在することを確認してください。存在しない場合は、手動で作成してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5778

メッセージ: ログアシスタントデータベースの読み込みに失敗しました (Failed to read Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントがデータベースファイルのパスと内容を読み込めません。

推奨処置: ログアシスタントデータベースファイルのアクセス権を確認してください。

```
UNIX: /usr/openv/var/global/logasst.db

Windows: <Install Path>¥Veritas¥NetBackup¥var¥global¥logasst.db
```

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5779

メッセージ: ログアシスタントデータベースのロックに失敗しました (Failed to lock Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5780

メッセージ: データベースファイル処理の非継承フラグを設定できませんでした (Failed to set non-inherit flag on database file handle)

説明: このエラーは Windows でのみ発生します。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5781

メッセージ: ログアシスタントデータベースの保存を準備できませんでした (Failed to prepare to save Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5782

メッセージ: ログアシスタントデータベースの書き込みを開始できませんでした (Failed to start to write Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5783

メッセージ: ログアシスタントデータベースの保存に失敗しました (Failed to save Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5784

メッセージ: Readme または進捗ファイルにアクセスまたは書き込みできません (Failed to access or write the readme or progress file)

説明: Readme または進捗ファイルの読み込みまたは書き込みを行う親ディレクトリが不明かアクセス権がありません。

推奨処置: 指定されたパスを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5786

メッセージ: ログアシスタントのレコードが存在しません (Logging Assistant record does not exist)

説明: 別の GUI インスタンスによりログアシスタントのレコードが削除されました。

推奨処置: ログアシスタント GUI を更新し、レコードが削除されているかを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5787

メッセージ: ログアシスタントレコードがすでに存在します (Logging Assistant record already exists)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5788

メッセージ: ログアシスタントレコードのデバッグログを設定していません (Debug logging has not been set up for Logging Assistant record)

説明: ログアシスタント GUI が同期していません。

推奨処置: ログアシスタント GUI のビューを更新し、再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5789

メッセージ: ジョブの詳細を取得する bpdbjobs 出力を解釈できませんでした (Failed to interpret bpdbjobs output for job detail)

説明: ログアシスタントでジョブデータベースからフェッチした情報の解釈が発生しました。ログアシスタントは、設定するデバッグログの事前選択項目をジョブデータベースに基づいて作成できません。

推奨処置: 設定するデバッグログを手動で選択したください。ジョブ分析の不具合の調査のため、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5790

メッセージ: PureDisk 構成設定を Windows レジストリからフェッチできませんでした (Failed to fetch PureDisk configuration setting from Windows registry)

説明: NetBackup は PureDisk の構成情報を読み込むことができません。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5794

メッセージ: デバッグログのプレビュー用サイズを計算できませんでした (Failed to calculate debug logs size for preview)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5796

メッセージ: ログアシスタントエージェントはマスターサーバーにソケット送信で書き込めませんでした (Logging Assistant agent encountered failure writing on socket to Master Server)

説明: ソケット接続問題はマスターサーバーのログアシスタントのプロセスと NetBackup ホスト間にあります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5798

メッセージ: bpmount を使ってマスターサーバーのディスクボリュームを一覧表示できませんでした (Failed to list disk volumes on Master Server using bpmount)

説明: このエラーは、空きディスク容量の情報のフェッチ中に、ログアシスタントが Windows のパーティションを列挙する際に発生します。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。この状態でも、手動で空き領域情報を確立し、ログの収集などの意図した処理を開始できる場合があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5799

メッセージ: ボリュームポイントまたはマウントポイントのディスク容量情報を取得できませんでした (Failed to get disk space information of volumes or mount points)

説明: ログアシスタントは空きディスク容量情報のフェッチを試みます。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。この状態でも、手動で空き領域情報を確立し、ログの収集などの意図した処理を開始できる場合があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5800

メッセージ: ジョブの詳細をフェッチする bpdbjobs を実行できませんでした (Failed to execute bpdbjobs to fetch job details)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: エラーが解決しない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5801

メッセージ: ジョブの詳細をフェッチできませんでした。ジョブの有無を確認してください。(Failed to fetch job details. Check if job exists)

説明: ジョブ分析の指定されたジョブ ID は、設定するデバッグログがジョブデータベースに存在しないことを示しています。

推奨処置: 指定されたジョブ ID が存在する場合は、テクニカルサポートを連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5803

メッセージ: PureDisk 構成ファイルの変更に失敗しました (Failed to modify PureDisk configuration file)

説明: なし

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5804

メッセージ: Java GUI 構成ファイル (Debug.properties) の変更に失敗しました (Failed to modify Java GUI configuration file (Debug.properties))

説明: なし

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5805

メッセージ: リモートホスト NetBackup バージョンはログアシスタントでサポートされていません (Remote host NetBackup version not supported by the Logging Assistant)

説明: ログアシスタントは、NetBackup バージョン 7.6 以上を実行するホスト上でのデバッグログの設定 (およびデバッグログの収集) をサポートします。

推奨処置: なし

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5806

メッセージ: PureDisk 構成ファイル (pdregistry.cfg) の予期しないコンテンツ (Unexpected contents of PureDisk configuration file (pdregistry.cfg))

説明: なし

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5807

メッセージ: リモートホストから nbcplogs/nbsu 出力ファイルをコピーできませんでした (Failed to copy nbcplogs/nbsu output file from remote host)

説明: ログアシスタントは `bpcd` に接続して NetBackup ホストから `nbcplogs` および `nbsu` 出力ファイルをコピーします。

推奨処置: マスターサーバーからの `bpcd` への接続が `bptestbpcd` を使用してセットアップできることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5808

メッセージ: ログレベルを変更する PBX 構成の読み込みに失敗しました (Failed to load PBX configuration to change log level)

説明: PBX 構成ファイルが不明または形式不良の可能性があります。

推奨処置: PBX 構成ファイルの有無と形式、および指定された NetBackup ホスト上のエラーメッセージを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5809

メッセージ: 指定した PBX デバッグログレベルは無効です (Invalid PBX Debug Log Level specified)

説明: PBX ログレベルが無効です。

推奨処置: PBX ログレベルを適切な値に設定します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5811

メッセージ: ログの収集に使う一時ディレクトリが存在しません (Temporary directory to use for logs collection does not exist)

説明: ログアシスタントは `nbcplogs` または `nbsu` 出力を収集する NetBackup ホストの一時ディレクトリを作成できませんでした。

推奨処置: NetBackup ホストのディレクトリのアクセス権を確認してください。また、指定された一時ディレクトリの親ディレクトリが存在することも確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5812

メッセージ: nbcplogs がエラーを出して終了しました (nbcplogs exited with error)

説明: この状態コードは発生しません。

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5813

メッセージ: nbcplogs がログを収集しませんでした (nbcplogs did not collect any logs)

説明: なし

推奨処置: ホストのデバッグログが収集可能かを確認してください。ログアシスタントのレコードに関連するデバッグログがホストに存在する場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5814

メッセージ: nbsu がエラーを出して終了しました (nbsu exited with error)

説明: なし

推奨処置: テクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5815

メッセージ: ログアシスタントレコードに対して進行中のアクティビティはありません (No activity for the Logging Assistant record is in progress)

説明: ログアシスタント GUI が同期していません。

推奨処置: ログアシスタント GUI を更新して再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5816

メッセージ: 収集とアップロードを行うデバッグログ操作を中止しました (Collect debug logs operation cancelled)

説明: 該当なし。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5817

メッセージ: 収集とアップロードを行う nbsu 操作を中止しました (Collect nbsu operation canceled)

説明: 該当なし。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5819

メッセージ: 中止操作が要求されました (Cancel operation requested)

説明: 該当なし。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5820

メッセージ: クリーンアップに有効なログアシスタントの一時ディレクトリではありません (Not a valid Logging Assistant temporary directory for clean-up)

説明: 該当なし。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5821

メッセージ: ポリシーの詳細の取得に失敗しました (Failed to get policy details)

説明: 設定するデバッグログを提案するため、ログアシスタントは分析用に提出されるジョブ ID に関連付けられたポリシー情報をフェッチします。しかし、ポリシーが存在しません。

推奨処置: 関連付けられたポリシーが存在する場合は、ベリタスのサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5902

メッセージ: 証明書の指紋を生成できませんでした。

説明: CA 証明書がトラストストアにない可能性があります。

推奨処置: `nbcertcmd -getCACertificate` コマンドを実行して CA 証明書の生成を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5903

メッセージ: CA 証明書を検証できませんでした。

説明: ホスト上にある CA 証明書を使用して要求を実行することができません。通信しようとしている NetBackup ホストと信頼関係が確立されていません。CA 証明書がホスト証明書データベースのトラストストアにないか、トラストストアに同じ名前 (通常は、`localhost.localdomain` のような汎用的な名前) の証明書が 2 つ以上あります。Web サービスの証明書が期限切れの可能性もあります。

推奨処置: NetBackup ホストは、CA を信頼する必要があります。`nbcertcmd -listCACertDetails` コマンドで CA 証明書がトラストストアに追加されたかどうかを確認します。`nbcertcmd -getCACertificate` コマンドを実行して、トラストストアに証明書を追加します。

トラストストアに同じ (汎用的な) 名前を持つ複数の証明書がある場合は、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5904

メッセージ: 内部エラー。

説明: 内部サービスの 1 つが応答に失敗しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5905

メッセージ: ホスト ID が無効です。

説明: マスターサーバーが、指定したホスト ID を認識しません。

推奨処置: `nbcertcmd -listCertDetails` コマンドを使用して指定したホスト ID について確認します。指定した NetBackup ホストが複数の NetBackup ドメインの一部である場合は、指定の NetBackup ドメインに対応する正しいホスト ID を指定していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5906

メッセージ: トークンが無効です。

説明: 生成されたトークンが無効です。

推奨処置: 操作をやり直します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5907

メッセージ: 不明なリソースが要求されました。

説明: 表示しようとしているか、関連する操作を実行しようとしている証明書が存在しません。

推奨処置: 提供した証明書の詳細を検証します。詳細にはシリアル番号、ホスト ID、ホスト名が含まれます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5908

メッセージ: 不明なエラーが発生しました。

説明: 証明書の生成、更新、取得の操作が失敗しました。

推奨処置: すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5909

メッセージ: このトークン値のトークンが存在しません。

説明: 指定したトークンの値が正しくありません。

推奨処置: 正しいトークン値を指定して、操作を再実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5910

メッセージ: ホスト名が指定されていません。

説明: 操作が必要な情報の取得に失敗しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5913

メッセージ: 同じ名前のトークンがすでに存在します。

説明: 新しいトークンを作成するために使っているトークン名はすでに存在します。

推奨処置: 新しい名前を指定して、トークンを再作成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5914

メッセージ: セキュリティサービスを利用できません。

説明: NetBackup Web サービスが接続不能であるか、マスター サーバーで実行されていません。

推奨処置: 操作を実行しているホストのネットワーク接続を確認します。NetBackup Web サービスの状態を修正するために NetBackup の管理者に問い合わせてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5915

メッセージ: 要求でタイムアウトが発生しました (Request timed out)。

説明: NetBackup Web サービスに対する要求が、ネットワークタイムアウトのために失敗しました。

推奨処置: 操作を実行しているホストのネットワーク接続を確認します。NetBackup Web サービスの状態を修正するために NetBackup の管理者に問い合わせてください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5916

メッセージ: トークン名が指定されていません。

説明: ユーザーが要求でトークンの名前を指定していなかったため、要求からトークン情報を取得する操作が失敗しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5917

メッセージ: 再発行トークンの使用数を 1 より大きくすることはできません。

説明: 再発行トークンを複数回使用するトークンにすることはできません。

推奨処置: 複数回使用するトークンは、ホストに関連付けられません。再発行トークンを複数回使用するトークンにすることはできません。適切な処理を実行して、必要なトークンを生成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5918

メッセージ: トークンの最大使用数には 1 から 99999 の有効な範囲内の値を指定する必要があります。

説明: トークンは 1 回から 99,999 回まで使用できます。選択した最大使用回数が許容される使用数を超えています。

推奨処置: 有効な使用回数を選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5919

メッセージ: このトークンに指定した有効期間が有効ではありません。指定できる最大の有効期間は 999 日です。

説明: トークンの有効期間は 1 日から 999 日までに設定できます。指定した有効期間が、可能な有効期間を超えています。

推奨処置: 有効な期間を選択します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5920

メッセージ: 指定したトークンに別のホスト名が関連付けられています。

説明: 指定したトークンは、要求元のホストに関連付けられていません。

推奨処置: 正しいトークンを使用していることを確認します。指定した NetBackup ホストが複数の NetBackup ドメインに関連付けられている場合は、適切な NetBackup ドメインに対応するトークンを使用していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5921

メッセージ: 指定したトークンに別のホスト ID が関連付けられています。

説明: 指定したトークンは、ホストに関連付けられていません。

推奨処置: 正しいトークンを使用していることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5922

メッセージ: 再発行トークンにホスト名を関連付けることができません。

説明: ホスト ID とホスト名の両方を使用してトークンを生成することはできません。

推奨処置: ホスト ID かホスト名のどちらかを使用してトークンの再生成を行います。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5925

メッセージ: 必要なデータがありません。

説明: 証明書の生成または更新が要求されていますが、その要求とともに送信された証明書署名要求 (CSR) ファイルが空です。

推奨処置: 指定したすべての必要な入力内容が正しいことを確認して、操作を再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5926

メッセージ: 証明書の署名要求が無効です。

説明: 要求ファイルに署名した証明書が、想定した形式になっていません。

推奨処置: 証明書要求ファイルを再生成して、操作を再実行し、転送中にデータが変更していないことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5927

メッセージ: 指定したファイルを開けませんでした。

説明: 指定したファイルが存在しないか、ファイルにアクセスする権限がありません。

推奨処置: 有効なファイル名を使用して、ファイルを開くか権限を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5929

メッセージ: 証明書が有効状態でないため、更新できません。

説明: 証明書には有効、無効化済み、期限切れの 3 つの状態があります。無効化済みの証明書を更新することはできません。

推奨処置: 修正処置を実行した後に、証明書の再発行要求を送信します。同じクレデンシャル (キーペア) を使用する場合は、再発行トークンを使用して新しい証明書を生成することができます。次のコマンドを使うことができます。

```
nbcertcmd -getCertificate
```

資格情報を変更する計画がある場合のワークフローについて詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド 』を参照してください

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5930

メッセージ: 要求を認可できませんでした。

説明: マスターサーバーはクライアント証明書を検証できません。この原因として考えられるのは次のとおりです。

- クライアント証明書が期限切れです。`nbcertcmd -getCertDetails` または `nbcertcmd -getCertDetails -cluster` コマンドを実行して確認できます。
- クライアントキーペアが変更され、ホストが別のマスターサーバーから証明書を取得または更新されています。
- ホストの証明書が無効になっています。
- Web の認証トークンが NetBackup Web アプリケーションの操作 (`nbcertcmd`) で必要です。ユーザーが認証されていない場合、このエラーが表示されます。しま

推奨処置: 再発行トークンを `nbcertcmd -getCertificate` コマンドで使用します。ユーザーが認証されていない場合は、`bpnbat -login -logintype WEB` コマンドを使用して Web 認証トークンを取得します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5931

メッセージ: ホスト ID が空です。

説明: 証明書の無効化要求で、ホスト ID が見つかりません。

推奨処置: 要求を再送信します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5932

メッセージ: トークン使用数が設定されていません。

説明: 使用回数を 0 に設定して認証トークンを生成する試みが実行されました。

推奨処置: 有効なパラメータでトークンを生成します。許容される数は、1 から 99,999 までです。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5933

メッセージ: 最大トークン使用数の上限に達しました。

説明: 認証トークンには、固定の使用回数があります。使用回数が許容される使用回数を超えている場合、トークンを使用することはできません。

推奨処置: 新しいトークンを作成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5934

メッセージ: トークンが期限切れになりました。

説明: トークンの有効期間が最大限度に到達して、期限切れになりました。このトークンは使用できなくなりました。

推奨処置: 新しいトークンを作成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5936

メッセージ: 指定したトークン名が有効な形式でありません。

説明: トークンに指定した名前に、無効な文字が含まれています。

推奨処置: 有効なトークン名を指定します。有効な文字は、A-Z、a-z、0-9、_ です。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5938

メッセージ: 無効化の理由コードが無効です。

説明: NetBackup は、1 から 5 までの無効化の理由コードのみをサポートします。

推奨処置: 有効な理由コードを指定して、証明書の無効化を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5939

メッセージ: この無効化の理由コードはサーバーでサポートされません。

説明: NetBackup は、1 から 5 までの無効化の理由コードのみをサポートします。

推奨処置: 有効な理由コードを指定して、証明書の無効化を再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5940

メッセージ: 指定したトークンが再発行トークンでありません。

説明: 証明書の再発行では、特定のホスト ID に関連付けられている特別なトークンが必要です。

推奨処置: 必要なホストの再発行トークンを生成して、証明書の再実行を要求します。次のコマンド (または NetBackup 管理コンソール) を使用して再発行トークンを生成します。

```
nbcertcmd -createToken -name name_of_token -reissue
[-host host_name | -hostId host_id]
```

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5941

メッセージ: ホスト ID にホストが関連付けられていません。

説明: 指定したホスト ID がマスターサーバーでは不明です。

推奨処置: 指定したホスト ID が指定したマスターサーバーに対応することを検証します。指定した NetBackup ホストで `nbcertcmd -listCertDetails` コマンドを使用して、指定したマスターサーバーに対応するホスト ID を検索します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5942

メッセージ: ローカル証明書ストアから証明書を読み取れませんでした。

説明: 証明書がローカル証明書ストアに追加されなかったか、消失または破損している可能性があります。指定の NetBackup ホストで管理者権限がない可能性もあります。

推奨処置: 指定の NetBackup ホストで管理者権限があるかどうかを確認します。必要な権限がある場合は、`-force` オプションを `nbcertcmd -getCertificate` コマンドで

使用して既存の証明書を再生成します。マスターサーバーで指定した証明書配備のセキュリティレベルに応じて、このコマンドにトークンを指定する必要がある可能性があります。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5943

メッセージ: 書き込み用ファイルに対するロックを取得できません。

説明: ファイルのアップデート中にエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5944

メッセージ: ホストのエイリアスリストに複数のホスト名が含まれています。

説明: 証明書署名要求に複数のホスト名が含まれていますが、サポートされるのは単一のホスト名のみです。

推奨処置: 証明書署名要求に単一のホスト名を指定して、マスターサーバーに要求を再送信します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5945

メッセージ: ホストのエイリアスが指定されていません。

説明: 証明書署名要求がホスト名を含んでいません。

推奨処置: 証明書署名要求にホスト名を指定して、マスターサーバーに要求を再送信します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5946

メッセージ: トークンは必須です。

説明: マスターサーバーの証明書配備のセキュリティレベルが、指定のホストでの証明書の自動配備をサポートしません。

推奨処置: 認証トークンを生成し、nbcertcmd -getCertificate コマンドを実行して証明書を要求します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5947

メッセージ: ホストがサーバーに登録されていません。

説明: 指定したホストが見つかりませんでした。

推奨処置: 正しいホスト名を指定するか、または有効な認証トークンを使って操作を再実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5948

メッセージ: ローカル証明書ストアに証明書を書き込めませんでした。

説明: 指定した NetBackup ホストで、ローカルの証明書ストアに証明書を追加するための管理者権限がない可能性があります。

推奨処置: 指定の NetBackup ホストで管理者権限があるかどうかを確認します。必要な権限がある場合は、操作をやり直します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5949

メッセージ: 証明書が存在しません。

説明: NetBackup ホストに指定したサーバーの証明書が存在しません。

推奨処置: 適切な証明書が配備されていることを確認します。証明書を配備する方法について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド 』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5950

メッセージ: 証明書はすでに存在します。

説明: 要求元の NetBackup ホストで、指定したサーバーの証明書がすでに存在します。

推奨処置: 必要に応じて、`nbcertcmd -getCertificate -force` コマンドを使用して既存の証明書を上書きします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5953

メッセージ: 証明書配備レベルが無効です。

説明: 設定しようとしている証明書配備レベルが無効です。

推奨処置: 0 から 2 の間の証明書配備レベルを選択して、証明書配備レベルを設定するコマンドを再実行します。証明書配備レベルについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド 』を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5954

メッセージ: ホスト名を要求元ホストの IP アドレスに解決することができませんでした。

説明: マスターサーバーは、証明書を要求している NetBackup ホストのピア IP アドレスに対してホスト名を解決することができません。

推奨処置: マスターサーバーがピア IP アドレスに対してホスト名を解決できるように、ネットワーク構成を検証し、修正します。または、証明書を配備するために認証トークンを使用することができます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5955

メッセージ: ホスト名がマスターサーバーに認識されていません。

説明: ホスト名が既知のホストのリストにありません。

推奨処置: 次の場所のいずれかにホストのエントリが存在することを確認します: サーバーの構成リスト、EMM データベース、1 つ以上のカタログイメージ (6 カ月以内のもの)、ポリシーにリストされているクライアント、またはクライアント DB エントリ。または、証明書を配備するために認証トークンを使用することができます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5956

メッセージ: マスターサーバーの既存の証明書配備レベルではこのオプションを使用できません。

説明: ホストに対して設定された証明書配備のセキュリティレベルで、ホスト ID ベースのセキュリティ証明書を配備することや、CA 証明書を検証なしでトラストストアに追加することができません。

推奨処置: ホスト ID ベースの証明書を取得しているときにこのエラーメッセージが表示された場合は、必ず有効な認証トークンを `-getCertificate` オプションで使用します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5957

メッセージ: マスターサーバーは CA に接続できません。

説明: マスターサーバーが NetBackup AT ブローカーに接続できません。

推奨処置: マスターサーバーで NetBackup AT ブローカーの状態を確認します。必要に応じて、サービスを再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5958

メッセージ: マスターサーバーは CA 証明書にアクセスできません。

説明: マスターサーバーの Web サービスのユーザーに、CA 証明書にアクセスするための必要な権限がありません。

推奨処置: Web サービスのユーザーが、マスターサーバーで CA 証明書を読み込むために必要な権限を持っていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5959

メッセージ: Web サービスユーザーの NetBackup AT 資格情報が無効です。

説明: Web サービスのユーザーの AT 資格情報が無効または期限切れです。

推奨処置: マスターサーバーの Web サービスを停止し、`nbcertconfig -u -user webservice_user` コマンドを実行して Web サービスを再起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5960

メッセージ: マスターサーバーの NetBackup AT 構成を初期化できませんでした。

説明: AT 構成の初期化が失敗したか、または Web サービスのユーザーにその証明書ストアにアクセスするための必要な権限がありません。

推奨処置: Web サービスのユーザーが、マスターサーバーで証明書ストアにアクセスするために必要な権限を持っていることを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5962

メッセージ: ホスト名が証明書内の既存の名前と一致しません。

説明: ホスト ID の証明書の更新が、ホスト名が変更されたホストに対して試行されています。

推奨処置: NetBackup ホストの管理者が、名前が新しくなった指定のホストの証明書を取得しようとしている場合は、次の手順を実行します。

1. NetBackup ホストの管理者は、NetBackup 管理者に対して、`-host host_name | -hostId host_id` オプションを使用してホストの証明書を無効にするよう依頼してください。NetBackup 管理者は次のコマンドを使うことができます。

   ```
   nbcertcmd -revokeCertificate -reasonCode value
   -host old_host_name | -hostId host_id
   ```

2. NetBackup ホストの管理者は、NetBackup 管理者に対して、特定のホスト用の再発行トークンを生成するよう依頼してください。NetBackup 管理者は次のコマンドを使うことができます。

   ```
   nbcertcmd -createToken -name token_name -reissue
   -host old_host_name | -hostId host_id
   ```

3. NetBackup ホストの管理者が再発行トークンを受け取ると、次のコマンドを使用できます (操作を求めるメッセージが表示されたら、受け取ったトークンを指定します)。

   ```
   nbcertcmd -getCertificate -token -force
   ```

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5963

メッセージ: エンティティが存在しません。

説明: ユーザーが特定のコマンドを使用するときに存在しないエンティティを参照しています。利用可能なエンティティは認証トークンまたはホスト ID ベースの証明書のいずれかです。ユーザーが間違ったトークン名でトークンを参照しているか、または不正なシリアル番号で証明書を参照している可能性があります。

推奨処置: コマンドで指定した引数値が正しいことを確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5964

メッセージ: データ変換エラーです。

説明: データの処理中に内部エラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5965

メッセージ: この再発行トークンに関連付けられたホスト ID は別のホストに割り当てられています。続行するには、そのホスト ID の証明書を無効にする必要があります。

説明: ユーザーが再発行トークンを使用して `nbcertcmd -getCertificate` コマンドを指定しました。ユーザーは、サーバーで登録されている名前と異なるホスト名のホストに対して、ホスト ID を再発行しようとしています。ホストが名前変更され、その識別情報が NetBackup ドメインで保持されることを確認する場合は常に、ユーザーは既存のホスト名で既存の証明書を無効にする必要があります。

推奨処置: ユーザーは現在の証明書を既存のホスト名で無効にする必要があります。それから、新しいホスト名を使って証明書を要求するためのトークンを再発行できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5966

メッセージ: ホストには有効な証明書があります。ホストとそのホスト ID との関連付けを解除するには、まず証明書を無効にする必要があります。

説明: ユーザーは既存のホストを分離しようとしており、そのホストにアクティブな証明書があります。この場合、証明書を無効化したホストのみが既存のホスト ID から分離可能であるとして、サーバーは分離の要求を拒否します。

推奨処置: ユーザーはこのホストの証明書を無効化する必要があり、無効化した後にのみ、関連付けられたホスト ID から分離したものとしてマーク付けします。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5967

メッセージ: ファイルはすでに存在します。

説明: ユーザーが操作を実行するために特定のファイル名を指定しましたが、そのファイルは指定した場所にすでに存在します。

推奨処置: ユーザーは既存のファイルを名前変更、移動、削除するか、または新しいファイル名を提出することができます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5968

メッセージ: 証明書の署名要求の作成中にホスト情報を取得できませんでした。

説明: 指定したホストに対する証明書の署名要求を作成しているときに、ホスト名、ホストエイリアス、ホストキーペアなどの特定の情報がホストから取得されます。`nbcertcmd` コマンドは、この情報の取得に失敗しました。

推奨処置: 次の解決策を試みてください。

- 現在の操作を再試行します。
- システムを再起動して現在の操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5969

メッセージ: NetBackup Web Management Console サービスからのレスポンスを解析できませんでした。

説明: 現在の操作の実行中に NetBackup Web Management Console サービスから受け取った応答が不明または不正な形式です。

推奨処置: 現在の操作を再試行します。問題が解決しない場合は、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5970

メッセージ: サーバー時間をフェッチできませんでした。

説明: 現在のサーバー時間をフェッチすることができませんでした。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 5971

メッセージ: トークンにサポートされていない文字が含まれています。

説明: トークンファイルで渡されたトークン値にサポートされていない文字が含まれています。NetBackup では、トークン値の一部として使える文字は A-Z、a-z、0-9 のみです。

推奨処置: トークンファイルで渡されたトークン値を調べて、有効な文字 (A-Z、a-z、0-9) が使われていることを確認します。ファイルのエンコード形式が ANSI であることを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 6000

メッセージ: 提供されたパスはホワイトリストに載っていません

説明: 提供されたパスにアクセスできない場合は NetBackup ホストにこのコードが表示されます。

推奨処置: NetBackup のデフォルトパスを使ってログ記録を続行するか、またはファイルオプションの名前を変更 (たとえば、`user_ops` フォルダを使用) することを推奨します。設定で NetBackup のデフォルトパスを使用できない場合は、NetBackup 構成にカスタ

ムパスを追加する必要があります。カスタムパスを追加する方法について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「BPCD_WHITELIST_PATH option for NetBackup servers and clients」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 6530

メッセージ: サーバーで SharePoint Web サービスを開始できません

説明: NetBackup SharePoint GRT Web サービス `Veritas.NetBackup.SPServiceHost.exe` はフロントエンドサーバーで開始できません。

推奨処置: SharePoint GRT Web サービス `Veritas.NetBackup.SPServiceHost.exe` は、デフォルトでは NetBackup クライアントに配備し、SharePoint 2016 バックアップのリストア時にのみ開始します。リストアが完了したら、Web サービスを停止します。

SharePoint 2016 をフロントエンドサーバーに正しくインストールしていることを確認します。`Veritas.NetBackup.SPServiceHost.exe` サービスは、コマンドラインで手動で開始することもできます。サービスはリストア時に開始してリストアが完了したら停止します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6531

メッセージ: クライアントに対するオペレーティングシステムのユーザー/パスワードの検証が失敗しました

説明: SharePoint 資格情報が見つからないか、または SharePoint 管理者権限で NetBackup クライアントサービスを実行していません。

推奨処置: 参照、バックアップ、リストアに使用するすべてのノードで SharePoint 資格情報を設定します。

『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの構成」を参照してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7610

メッセージ: 指定されたオブジェクトの解析に失敗しました。

説明: 入力の形式が正しくありません。

推奨処置: 入力の形式を確認します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8000

メッセージ: ユーザーには要求された操作を実行する権限がありません。

説明: ユーザーは要求された操作を実行する権限を持っていません。

推奨処置: 要求された操作を実行するには、ルートユーザーまたは管理者であるか、強化された監査 (EA) での適切な権限を持っている必要があります。システム管理者に連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8500

メッセージ: Web サービスとの接続が確立されませんでした。

説明: Web サービスとの接続を確立できませんでした。

推奨処置: NetBackup Web Management Console が実行中であることを確認してください。実行中でない場合、`nbwmc -start` コマンドで起動します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8504

メッセージ: Web サービスの証明書が不明な認証局によって発行されています。

説明: Web サービスによって提示された証明書が、ホストが信頼していない CA によって発行されています。

推奨処置: 必要なサーバーの CA 証明書をフェッチして、操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8505

メッセージ: 証明書が無効です。

説明: Web サービスへの接続の検証中に、まだ有効になっていない証明書が見つかりました。

推奨処置: ホストのクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8506

メッセージ: 証明書が期限切れになりました。

説明: Web サービスへの接続の検証中に期限切れの証明書が見つかりました。

推奨処置: ホストのクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8507

メッセージ: 証明書を検証できませんでした。

説明: ホストで証明書を検証することができませんでした。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8508

メッセージ: 信頼できる認証局のリストをフェッチできませんでした。

説明: どの認証局ともまだ信頼関係が確立されていません。

推奨処置: `nbcertcmd -listCACertDetails` コマンドを使用して、トラストストアに CA 証明書が追加されていることを確認します。`nbcertcmd -getCACertificate -server` *`master_server_name`* コマンドを実行して、トラストストアに必要な証明書を追加します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8509

メッセージ: 指定したサーバー名が Web サービス証明書内に見つかりませんでした。

説明: 指定したサーバー名は、Web サービスが提供する証明書に示されているどのホスト名とも一致しません。

推奨処置: サーバーの証明書に示されている名前のいずれかを使用して操作を再実行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8510

メッセージ: Web サーバー証明書の検証が失敗しました

説明: Web サービスによって提示された証明書をホストで検証できませんでした。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8700

メッセージ: 内部エラーが発生したため、ホストデータベースの Web サービスを利用できません。

説明: Web サービスで、サーバー側のシステムの不明な問題が発生した可能性があります。この問題は、ベリタスのテクニカルサポートによる詳細な調査が必要な可能性があります。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べて、他のエラーメッセージを確認します。さらに、エラーの原因を判断するために (マスターサーバー上で) この Web サービスのデバッグログを参照できます。

または、ベリタスのテクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8701

メッセージ: ホストが存在しません。

説明: このエラーは、フェッチする対象のホストが存在しないときに発生します。これは次のいずれかの原因で発生する可能性があります。

- フェッチしようとしているホスト名が存在しません。
- フェッチしようとしているホスト ID が存在しません。

推奨処置: アクセスしようとしているホストが既知の NetBackup ホストではない可能性があります。NetBackup 8.0 以降、ホストは NetBackup 8.0 マスターサーバーと通信すると自動的に追加されます。

または、ベリタスのテクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8702

メッセージ: ホストがホストデータベース内に存在するため、Web サービスでホストを作成できません。

説明: このエラーは次のいずれかの原因で発生します。

- 作成しようとしているホスト名が、すでにホストデータベース内に存在しています。
- 作成しようとしているホスト ID が、すでにホストデータベース内に存在しています。

推奨処置: 異なるホストが同じ名前またはエイリアスを持っている問題を解決するには、ネットワークホスト名を検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8703

メッセージ: エイリアス名がホストデータベース内に存在するため、Web サービスでホストを作成できません。

説明: 大文字と小文字を区別しない名前の比較の結果、ホスト名がデータベース内にすでに存在するエイリアス名と競合しています。応答ヘッダーの場所フィールドで既存のホストまたはエイリアスのホスト ID を検索できます。

推奨処置: 異なるホストが同じ名前またはエイリアスを持っている問題を解決するには、ネットワークホスト名を検証します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8704

メッセージ: ホストデータベースを更新するときに競合が発生しました。操作を再試行してください。

説明: このエラーはユーザーがホストデータベースを同時に作成または変更しようとすると発生します。

推奨処置: 操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ベリタスのテクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8706

メッセージ: 入力要求に必須フィールドがありません。

説明: 指定のフィールドに値を入力することは、操作を完了するために必須です。

推奨処置: 必須フィールドに有効な値を入力して、再試行してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8707

メッセージ: Web サービスでホスト ID を更新できません。

説明: このエラーは、ホスト ID を修正しようとした場合に発生します。ホスト ID は NetBackup ホストの固有の識別子であるため、更新できません。

推奨処置: 残りの操作を完了するために、ホスト ID を入力要求から削除します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8708

メッセージ: 入力要求内の指定した属性に対する制約違反が検出されました。

説明: このエラーメッセージは、エラーがある入力パラメータを指摘し、パラメータに対して失敗した制約を表示します。たとえば、入力パラメータの入力値は文字列であるのに整数を入力した場合が該当します。

推奨処置: 入力パラメータに対して有効な値を入力して、再試行します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8709

メッセージ: ターゲットのファイルまたはディレクトリはすでに存在します。

説明: ホストの遠隔測定データがサーバー上にすでに存在します。

推奨処置: 処置は不要です。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8710

メッセージ: アップロードするのに十分なディスク容量がホストにありません。

説明: サーバーに遠隔測定ファイルを格納するのに十分なディスク容量がない可能性があります。

推奨処置: 問題を解決するには、*var*/global パスのマスターサーバー上に空き容量を作成します。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8711

メッセージ: 遠隔測定データをアップロードするために必要なフォルダが存在しません。

説明: このエラーは、遠隔測定データのアップロード先フォルダが存在しないことを示します。

推奨処置: ベリタスのテクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8712

メッセージ: ファイルのアップロードに失敗しました。

説明: 遠隔測定ファイルのアップロード中にエラーが発生しました。

推奨処置: ベリタスのテクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8713

メッセージ: ファイルのアップロードに失敗しました。入力ファイルを空にすることはできません。

説明: 入力ファイルが空のため、遠隔測定データをアップロードできません。

推奨処置: 遠隔測定用の入力ファイルが正しいことを確認してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup の状態コード: 8800

メッセージ: EMM との通信に失敗しました。

説明: NetBackup は、nbemm での通信を必要とする要求を試みましたが、nbemm での通信は失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- nbemm サービスが実行されていることを確認します。
- nbemm または NetBackup Web Management Console (nbwmc) を再起動して要求を再試行します。
- nbemmm (OID 111) サービスと NetBackup Web サービスについて NetBackup マスターサーバーの統合ログファイルを調べます。統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または install_path¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
  Web サービスとそれらのログに対するトラブルシューティングについて詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』と、『NetBackup ログリファレンスガイド』を参照してください。
- 問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するベリタスのナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックします。

NetBackup KMS の状態コード

NetBackup Key Management Service (KMS) の状態コード (番号順) の完全なリストを次に示します。

メモ: エラーメッセージ内の「%」記号は、特定のコマンドを実行したときに表示される場合があるエラー文字列のプレースホルダです。

各コマンドについて詳しくは、http://www.veritas.com/docs/DOC5332『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

NetBackup KMS の状態コード: 1

メッセージ: ORB の初期化に失敗しました

説明: 内部エラー

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 2

メッセージ: 新しいキーグループの作成に失敗しました

説明: 同じ名前のキーグループがすでに存在するか、キーグループ名がサポートされていません。

推奨処置: 異なる名前を使って別のキーグループを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 3

メッセージ: 新しいキーの作成に失敗しました

説明: キーがすでに存在するか、キー名がサポートされていません

推奨処置: 有効なグループ名を指定するか、異なる名前で別のキーを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 4

メッセージ: キーグループの詳細の変更に失敗しました

説明: 変更は次の場合に失敗する可能性があります。

- キーグループが存在しない。
- 指定した名前のキーグループがすでに存在する。

推奨処置: 有効なキーグループ名を指定するか、異なる名前で別のキーグループを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 5

メッセージ: キーの詳細の変更に失敗しました

説明: キーが存在しません。指定した名前がすでに存在します。

推奨処置: 有効なキー名を指定するか、異なる名前で別のキーを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 6

メッセージ: キーグループの削除に失敗しました

説明: 削除できるのは空のキーグループだけです。

推奨処置: そのグループからすべてのキーを削除してから、そのキーグループを削除してみてください。必要な場合は、空でない場合でもキーグループを強制的に削除できます。`-force` オプションを使って、キーグループを削除します。

NetBackup KMS の状態コード: 7

メッセージ: キーグループの詳細のフェッチに失敗しました

説明: 必要なキーグループがデータベースに存在しません。

推奨処置: 有効なキーグループ名を指定し、再試行してください。

NetBackup KMS の状態コード: 8

メッセージ: キーの詳細のフェッチに失敗しました

説明: 必要なキーがデータベースに存在しません。

推奨処置: 有効なキー名を入力してください。

NetBackup KMS の状態コード: 9

メッセージ: キーストアの統計のフェッチに失敗しました

説明: この失敗には次の原因が考えられます。

- キーストア(KMS データベース)が存在しない
- KMS サービスが停止している

推奨処置: KMS データベース(キーストア)を作成します。KMS サービスを再起動します。

NetBackup KMS の状態コード: 10

メッセージ: ホストマスターキーの変更に失敗しました

説明: パスフレーズまたは ID が正しくありません。

推奨処置: 正しい ID とパスフレーズを指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 11

メッセージ: キーの保護キーの変更に失敗しました

説明: パスフレーズまたは ID が正しくありません。

推奨処置: 正しい ID とパスフレーズを指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 12

メッセージ: OBV の ORB での登録に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 13

メッセージ: 要求でタイムアウトが発生しました。NBSL サービスが停止している可能性があります

説明: タイムアウトは次の理由により発生する場合があります。

- ユーザーに必要な権限がない
- NBSL サービスが停止している

推奨処置: NBSL サービスを再起動してください。

NetBackup KMS の状態コード: 14

メッセージ: NBSL とのセッションの確立に失敗しました

説明: サービスが NBSL とのセッションを確立できません。NBSL セッションへの無効な参照です。

推奨処置: NBSL サービスを再起動してください。

NetBackup KMS の状態コード: 15

メッセージ: ModifiableFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 16

メッセージ: ModifiableFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 17

メッセージ: QueryableFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 18

メッセージ: QueryableFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 19

メッセージ: ControlFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります。

説明: 一部の KMS API を呼び出すことができません。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 20

メッセージ: ControlFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 21

メッセージ: EximFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります。

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 22

メッセージ: EximFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 23

メッセージ: 新しいキーグループが正常に作成されました

説明: 新しいキーグループが正常に作成されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 24

メッセージ: 新しいキーが正常に作成されました

説明: 新しいキーが正常に作成されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 25

メッセージ: キーグループの詳細が正常に更新されました

説明: キーグループの詳細が正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 26

メッセージ: キーの詳細が正常に更新されました

説明: キーの詳細が正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 27

メッセージ: キーグループが正常に削除されました

説明: キーグループが正常に削除されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 28

メッセージ: キーグループが見つかりませんでした

説明: 指定した名前のキーグループがないか、そのようなキーグループが存在しません。

推奨処置: 必要なキーグループを作成するか、正しい名前でキーグループを一覧表示してください。

NetBackup KMS の状態コード: 29

メッセージ: キーが見つかりませんでした

説明: 一覧表示するキーがデータベースにありません。

推奨処置: 最初に、必要なキーを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 30

メッセージ: ホストマスターキーが正常に更新されました

説明: ホストマスターキーが正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 31

メッセージ: キーの保護キーが正常に更新されました

説明: キーの保護キーが正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 32

メッセージ: 抜けているか、または重複したオプション: %s

説明: オプションが欠落しているか、重複しています。

推奨処置: 欠落しているオプションを使用または追加するか、重複したオプションを削除してください。

すべての NetBackup コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

NetBackup KMS の状態コード: 33

メッセージ: すべてのオプションは相互排他的です

説明: 使ったオプションは相互排他的です。

推奨処置: 単一のオプションを使ってください。

NetBackup KMS の状態コード: 34

メッセージ: %s および %s オプションは相互排他的です

説明: %s と %s オプションは相互排他的です。

推奨処置: 単一のオプションを使ってください。

NetBackup KMS の状態コード: 35

メッセージ: オプションまたは値が無効です: %s

説明: このコンテキスト(コマンド)では、オプション %s は有効ではありません。

推奨処置: このコンテキスト(コマンド)に有効なオプションを指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 36

メッセージ: 不明なオプションが使用されています

説明: 使ったオプションが有効ではありません。

推奨処置: オプションの値を確認するか(スペルミスの可能性もあります)、有効な値を指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 37

メッセージ: %s の値が無効です: %s

説明: 暗号値が有効ではありません。

推奨処置: 有効な値を指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 38

メッセージ: %s の値が無効です: %s

説明: 状態値が有効ではありません。

推奨処置: 有効な値を指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 39

メッセージ: 操作が無効です

説明: 無効なコマンドを使いました。

推奨処置: 『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を確認してください。

NetBackup KMS の状態コード: 40

メッセージ: キーグループの詳細の取得に失敗しました

説明: 指定した名前のキーグループが KMS データベースに存在しません。

推奨処置: そのキーグループが KMS データベースに存在するかどうかを確認してください。

NetBackup KMS の状態コード: 41

メッセージ: ホストマスターキー ID の取得に失敗しました

説明: ホストマスターキーには、KMS データを暗号化して保護する暗号化キーが含まれます。

推奨処置: 有効なキーストアファイルがあることを確認してください。

NetBackup KMS の状態コード: 42

メッセージ: キーの保護キー ID の取得に失敗しました

説明: 保護キーは、キーを暗号化するために使われます。この操作は、キーストアが初期化されている場合または初期化されていない場合に呼び出される場合があります。この呼び出しが正常に実行されるには、有効なキーストアファイルが必要です。

推奨処置: 有効なキーストアファイルがあることを確認してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに問い合わせてください。

NetBackup KMS の状態コード: 44

メッセージ: KMS サービスマネージャインスタンスの取得に失敗しました

説明: 次の場合、KMS サービスマネージャには接続できません。

- KMS サービスマネージャがビジー状態の場合。
- KMS サービスマネージャが再起動した場合。
- KMS サービスマネージャが停止している場合。

推奨処置: 数分後に再試行してください。KMS サービスが停止している場合は、サービスを再起動してください。

NetBackup KMS の状態コード: 45

メッセージ: キーストアの静止に失敗しました

説明: 静止では、キーストアがバックアップの読み取り専用モードに設定されます。

推奨処置: 数分後に再試行してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 46

メッセージ: キーストアの静止解除に失敗しました

説明: 静止では、キーストアがバックアップの読み取り専用モードに設定されます。静止解除の操作では通常の状態にリストアされます。

推奨処置: 数分後に再試行してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 47

メッセージ: キーストアの静止状態の取得に失敗しました

説明: キーストアの静止操作に失敗しました。

推奨処置: 数分後に再試行してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 48

メッセージ: キーストアが正常に静止しました

説明: 要求された操作では、問題は検出されませんでした。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 49

メッセージ: キーストアが正常に静止解除されました

説明: 要求された操作では、問題は検出されませんでした。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 50

メッセージ: 認識されているタグでのキーのリカバリに失敗しました

説明: 指定したタグを使って、キーをリカバリできません。単一の KMS データベースは同じタグの 2 つのキーを持つことができません。キー (指定したタグを持つ) がデータベースにすでにデータベースに存在する可能性があります。

推奨処置: 既存のキーを削除し、要件に応じてキーをリカバリするか、キーのリカバリ操作をキャンセルしてください。

NetBackup KMS の状態コード: 51

メッセージ: キーが正常にリカバリされました

説明: 必要なキーが正常にリカバリされました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 52

メッセージ: キーの削除に失敗しました

説明: キーの削除に失敗しました。正しいキー(-keyname)とキーグループ(-kgname)の組み合わせを指定しなかった可能性があります。

推奨処置: 正しいキーとキーグループの組み合わせを指定していることを確認してから、キーの削除を再試行してください。

NetBackup KMS の状態コード: 53

メッセージ: キーが正常に削除されました

説明: キーが正常に削除されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 54

メッセージ: 認証に失敗しました。NBAC クレデンシャルを確認してください

説明: ユーザーに必要な権限がない可能性があります。

推奨処置: この NBAC 操作に対して正しいアクセス権を持つアカウントを使ってください。ユーザーを適切な NBAC グループに追加してから、再試行することもできます。

NetBackup KMS の状態コード: 55

メッセージ: この操作でのアクセスが拒否されました。NBAC 権限を確認してください

説明: ユーザーに必要な権限がない可能性があります。

推奨処置: この NBAC 操作に対して正しいアクセス権を持つアカウントを使ってください。ユーザーを適切な NBAC グループに追加してから、再試行することもできます。

NetBackup KMS の状態コード: 56

メッセージ: 認証に失敗しました。NBAC クレデンシャルを確認してください

説明: ユーザーに必要な権限がない可能性があります。

推奨処置:

NetBackup KMS の状態コード: 57

メッセージ: 変更対象がありません

説明: ユーザーコマンドでオプションの無効な組み合わせが使われています。

推奨処置: コマンドのオプションの組み合わせを検証してください。

NetBackup KMS の状態コード: 58

メッセージ: キーストアを正常にエクスポートしました

説明: キーストアが正常にエクスポートされました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 59

メッセージ: キーストアのエクスポートに失敗しました

説明: このエラーは次の状況において発生します。

- キーリストファイルを開けない
- キーストアファイルをエクスポートできない
- 指定したファイルがすでに存在する
- セキュアキーストアファイルを開けない
- セキュアキーストアファイルに書き込めない

推奨処置: エクスポートしたファイルの保存先の権限を確認してください。ファイルがすでに存在する場合は、異なる名前を使ってエクスポートしてください。

NetBackup KMS の状態コード: 60

メッセージ: キーストアファイルを正常にインポートしました

説明: キーストアファイルが正常にインポートされました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 61

メッセージ: キーストアファイルを KMS データベースにインポートできませんでした

説明: 次の理由により、キーストアをインポートできません。

- セキュアキーストアファイルを開くことができない
- セキュアキーストアファイルの内容を読み取るときにエラーが発生した (不正な形式)
- キーストアファイルのインポートに失敗しました。

インポート時に、[-preserve_kgname] オプションを使ってキーグループをインポートする場合、そのグループが KMS にすでに存在すると、操作全体が失敗します。

NetBackup KMS には、100 キーグループという制限が存在します。各グループには、30 キーという制限が存在します。100 を超えるキーグループをインポートすると、操作が失敗します。

推奨処置: シナリオに応じて、次の処理を実行します。

- 有効なキーストアファイルが存在することを確認します。
- 既存のキーグループを削除または名前変更するか、[-preserve_kgname] オプションを除外して、インポート操作を再実行する必要があります。
- 不要な既存のキーグループを削除して、インポート操作を再実行する必要があります。

NetBackup KMS の状態コード: 62

メッセージ: ファイルの読み取りに失敗しました。(Failed to read file.) 形式を確認して、再試行してください。

説明: ファイルの形式が不正であったため、読み取り操作が失敗しました。

推奨処置: 形式を確認して、再試行してください。

NetBackup KMS の状態コード: 63

メッセージ: キーをリカバリするには Salt 値を指定する必要があります

説明: 7.7 以降の場合、新しいキーを作成すると salt が常に生成されます。キーをリカバリする場合は、対応する同一の salt 値を指定する必要があります。

推奨処置: リカバリでは、削除したキー（NetBackup 7.7 以降のバージョンで作成したキー場合）の salt 値を指定する必要があります。

NetBackup KMS の状態コード: 1287

メッセージ: 無効な文字が名前に含まれています。%s¥n --有効な文字セットは次のとおりです: A-Z、a-z、0-9、_、-、:、. および空白 --名前の最初は A-Z、a-z、0-9 のいずれかの文字にしてください

説明: 指定した名前でサポートされていない文字が検出されたか、名前が許可された形式ではありません。

推奨処置**:** 正しい形式で名前を指定してください。

2

Media Manager の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- Media Manager の状態コード

Media Manager の状態コード

これらの状態コードは、多くのメディアおよびデバイスの管理コマンドの終了状態やコマンドの出力、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェース、およびシステムログやデバッグログに表示されます。

Media Manager の状態コード 1

メッセージ: 要求が完了しました (request completed)

説明: 要求された操作が完了しました。この操作は、特定のタスクを構成する複数の関連操作の一部であった可能性があります。

推奨処置: なし

Media Manager の状態コード 2

メッセージ: システムエラー (system error)

説明: システムコールが失敗しました。この状態コードは、対応する状態コードが存在しない、一般的なシステムコールが失敗した場合に使用されます。

推奨処置:

- コマンドまたはインターフェースに出力されたその他のエラーメッセージを確認して、失敗したシステムコールを特定します。

- システムアプリケーションログで、エラーメッセージおよび警告メッセージを確認します。
- システムの仮想メモリが不足していないことを確認します。仮想メモリに問題がある場合、使用していないアプリケーションを終了するか、仮想メモリの量を増やします。

  Windows で仮想メモリを増やすには、示されている順で次の操作を行います。

  - [コントロール パネル]を表示します。
  - [システム]をダブルクリックします。
  - [パフォーマンス]タブで、[仮想メモリ]の設定値を増やします。
- すべての製品バイナリが適切にインストールされていることを確認します。
- vmps を実行して、予想外のメディアおよびデバイスの管理プロセスが実行中でないことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されます。停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなど、さらに深刻な問題を表す場合があります。

Media Manager の状態コード 3

メッセージ: ユーザー ID はスーパーユーザーではありませんでした (user ID was not superuser)

説明: root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を所有しないユーザーまたはプロセスによって、プロセスが起動されました。

推奨処置: 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに、root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 4

メッセージ: コマンドの使用方法が無効 (invalid command usage)

説明: 不適切なオプションを指定してメディアおよびデバイスの管理コマンドが実行されたか、製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 該当するコマンドの使用方法の説明を確認して、新しいプロセスを起動するために送信されたパラメータと比較します。
- すべてのメディアおよびデバイスの管理バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 5

メッセージ: デーモンのリソースがビジーです (daemon resources are busy)

説明: リソースがビジー状態のため、要求された操作を処理できません。

推奨処置: 要求された操作で使用されるすべてのリソースの状態を確認します。ロボットのインベントリ要求の場合、インベントリ操作が適切な時間内に完了することを確認します。

Media Manager の状態コード 6

メッセージ: プロトコル要求が無効 (invalid protocol request)

説明: ロボットプロセスまたはオペレータ要求プロセスに、無効な要求が送信されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 対象のコンポーネント (vmd、nbemm、ローカルホストやリモートホストのロボットプロセスなど) を特定します。その後、すべてのメディアおよびデバイスの管理バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 7

メッセージ: デーモンが終了しました (daemon terminated)

説明: プロセスが動作中でないか、イベントやシグナルによって、または認証されたユーザーやプロセスからの要求の直接的な結果としてプロセスが終了しています (または終了しました)。

推奨処置: 対象の製品コンポーネントが必要であるにもかかわらず終了されている場合、対象のホストでデーモンまたはサービスを再起動します。

Media Manager の状態コード 8

メッセージ: 無効なメディア ID (invalid media ID)

説明: メディア関連の操作を実行するプロセスで、空のメディア ID または不適切な形式のメディア ID が検出されました。または、要求されたとおりに操作できないメディア ID が渡されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 要求した位置のメディア ID が空でないことを確認します。
- 指定したメディア ID に、有効な文字 (英数字、ピリオド (.)、プラス記号 (+) およびアンダースコア (_)) だけが含まれていることを確認します。ハイフン (-) も有効な文字ですが、バーコードの先頭には使用できません。
- ライブラリからのメディアの取り出しを指定した場合、メディアが EMM データベースに存在し、適切なロボット番号に関連付けられていることを確認します。
- メディア ID の長さが 1 文字から 6 文字であることを確認します。
- 有効なメディアおよびシードを指定していることを確認します。
- 操作が ACS ロボットのインベントリ要求である場合、`robtest` ユーティリティを使用して、問い合わせボリュームリストおよび問い合わせクリーニングボリュームリストの両方で、ACS インターフェースによってクリーニングメディア ID が戻されることを確認します。

Media Manager の状態コード 9

メッセージ**:** 無効なメディア形式 (invalid media type)

説明**:** メディア関連の操作を実行するプロセスで、検出されたメディア形式の識別子が、不明であるか、存在しないかまたは互換性がありません。

推奨処置**:**

- ロボット形式 ACS、TLH または TLM のロボットインベントリを実行する場合、ロボット制御ソフトウェアから戻されるベンダーのメディア形式が、インストールされている NetBackup のバージョンでサポートおよび認識されていることを確認します。
- コマンドラインインターフェースを直接使用する場合、`vmadd(1M)` コマンドラインのマニュアルに従って、有効なメディア形式を渡していることを確認します。
- クリーニングメディアだけに有効な操作を、クリーニングテープに対応しないメディア ID に要求していないことを確認します。
- すべてのバーコード規則のメディア形式が有効なメディア形式であるか、デフォルトのメディア形式であることを示す序数 0 (ゼロ) であることを確認します。

Media Manager の状態コード 10

メッセージ**:** 無効なバーコード (invalid barcode)

説明**:** プロセスがメディア関連の操作を実行したときに、不明なバーコード、消失したバーコード、非互換なバーコードのいずれかがありました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 要求した位置のバーコードが空でないことを確認します。
- 指定したバーコードに有効な文字のみが含まれていることを確認します。有効な文字は英数字、ピリオド(.)、プラス記号(+)、下線文字(_)のみです。ハイフン (-) も有効な文字ですが、バーコードの先頭には使用できません。
- バーコードの文字数がそのロボット形式で利用できる最大数を超えていないことを確認します。
- すべてのバーコード規則のバーコードタグが、サポートされている有効なバーコード形式のサブセットであることを確認します。

Media Manager の状態コード 11

メッセージ: 無効な説明 (invalid description)

説明: ボリューム説明の長さが ASCII 文字で 25 文字を超えたか、印字不可能な (unprintable) 文字が含まれています。

推奨処置: ボリュームレコードまたはバーコード規則レコードを追加または変更する場合、説明フィールドの内容が 25 文字以下の印刷可能な ASCII 文字であることを確認します。

Media Manager の状態コード 12

メッセージ: 無効なロボット形式 (invalid robot type)

説明: 要求された操作で、指定されたロボット形式またはボリュームのロボット形式が異なります。現在の構成で操作を実行するために必要なロボット形式と異なっています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームのメディア形式がサポートされているロボット形式を指定します。
- EMM データベースを調べて、指定したロボット形式が、指定したロボット番号を持つすべてのボリュームのロボット形式と一致することを確認します。

- 要求された操作にロボット形式が必要な場合、ロボット形式を指定していることを確認します。

Media Manager の状態コード 13

メッセージ: 無効なロボット番号 (invalid robot number)

説明: ロボット番号が指定されていないか、または指定可能な範囲内にありません。

推奨処置:

- ロボット番号を 0 から 32767 の範囲で指定します。
- vmphyinv を実行中の場合、グローバルデバイスデータベースが更新されていないか、または指定したロボット番号が構成されていない可能性があります。

Media Manager の状態コード 14

メッセージ: 無効なロボットホスト (invalid robot host)

説明: 要求された操作で、ロボット制御ホストが次のようになっています。

- 指定されていません。
- 指定されたロボット形式に対して有効ではありません。
- 使用可能な形式ではありません。
- ロボット制御ホスト名の長さが許容範囲を超えています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 可能な場合、そのような要求がサポートされている他のユーザーインターフェースを使用して、要求された操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 15

メッセージ: 無効なボリュームグループ (invalid volgroup)

説明:

要求された操作で、ボリュームグループが次のようになっています。

- 指定されていない
- 使用可能な形式でない
- ボリュームグループ名の長さが許容範囲を超えている

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 必要な場合、ボリュームグループを指定して、次のことを確認します。
  - ASCII 文字で 25 文字以下である
  - 空白が含まれていない
  - 印字不可能な文字が含まれていない

Media Manager の状態コード 16

メッセージ: 無効なロボット coord1 (invalid robot coord1)

説明: 要求された操作で、ロボットスロット番号が存在していないか、範囲外です。または、ボリュームが有効なロボットライブラリスロットに存在しない場合に、ボリュームグループの位置情報を移動しようとしました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 必要な場合、指定したロボット形式で指定可能な範囲内で、スロット番号 (ロボット座標 1) を指定します。

Media Manager の状態コード 18

メッセージ: 要求されたメモリを割り当てることができません (cannot allocate requested memory)

説明: システムメモリの割り当てが失敗しました。このエラーは、利用可能なシステムメモリが不足している場合に発生します。システムの物理メモリおよび仮想メモリが不足して、プロセスの現在の負荷を処理できない可能性があります。

推奨処置: 多くのメモリを消費する不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

Media Manager の状態コード 19

メッセージ: 無効なデータベースホスト (invalid database host)

説明: 要求された操作で、データベースホストが存在しないか、無効です。または、要求の送信先ホストで実行されているバージョンの製品で、要求された操作がサポートされていません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 要求された操作がサポートされているバージョンの `nbemm` (NetBackup Enterprise Media Manager) またはオペレータ要求デーモン (またはプロセス) を実行している有効な EMM データベースホストを指定します。

Media Manager の状態コード 20

メッセージ: プロトコルエラー (protocol error)

説明: メッセージ通信 (ハンドシェーク) が正しくありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。空白を使用できないフィールドに、空白が使用されていないことを確認します。

Media Manager の状態コード 21

メッセージ: デーモンロックファイルを取得できません (cannot obtain daemon lockfile)

説明: vmd (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) またはオペレータ要求デーモン (またはサービス) が、内部ソフトウェアロックを取得できません。

推奨処置: ロックファイル `/usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*`¥Volmgr¥misc¥vmd.lock` (Windows の場合) およびロックファイルが含まれるディレクトリの存在および権限を確認します。`vmd` がロックを取得できるように、次のディレクトリまたはフォルダを作成し、必要に応じて権限を調整します。`/usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*`¥Volmgr¥misc¥vmd.lock` (Windows の場合)。

Media Manager の状態コード 22

メッセージ: <CatalogBackup> プールでは、プール形式の変更を実行できません (pool type change is not allowed for <CatalogBackup> pool)

説明: デフォルトの CatalogBackup プールに対してカタログバックアップ属性の削除が試行されました。

推奨処置: この操作で適切なプール名が使用されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 23

メッセージ: データベースサーバーが停止しています (database server is down)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、基礎となるデータベースサーバーから応答がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このエラーは、コールドカタログバックアップの実行中に発生する場合があります。この操作の完了後、要求を再試行します。

Media Manager の状態コード 25

メッセージ: データベースディレクトリの作成に失敗しました (failed making the database directory)

説明: アップグレード時に nbpushdata で作業ディレクトリを作成できません。

推奨処置: ディレクトリ `/usr/openv/tmp` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥tmp (Windows の場合) を作成できない理由を判断します。nbpushdata が実行されたアカウントを確認します。そのアカウントを database フォルダの[セキュリティ]プロパティと比較します。

Media Manager の状態コード 26

メッセージ: データベースを開くための処理に失敗しました (database open operation failed)

説明: データベースファイルを開くことができません。

推奨処置:

/usr/openv/var/global ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥NetBackup¥var¥global フォルダ (Windows の場合) 内で次のファイルの存在および権限を確認します。

- external_robotics.txt
- external_densities.txt
- external_drivetypes.txt
- external_mediatypes.txt

Media Manager の状態コード 27

メッセージ: データベースのレコード読み込み操作に失敗しました (database read record operation failed)

説明: nbpushdata による EMM データベースレコードの読み込み中に、読み込みエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースが破損している可能性があります。保存されているバージョンまたはカタログバックアップから、以前の EMM データベースのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 28

メッセージ: データベースの読み込み操作が読み込んだバイト数が少なすぎます (database read operation read too few bytes)

説明: nbpushdata による EMM データベースレコードの読み込み中に、予想外に小さいレコードが検出されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースが破損している可能性があります。保存されているバージョンまたはカタログバックアップから、以前の EMM データベースのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 32

メッセージ: データベースのレコード書き込み操作に失敗しました (database write record operation failed)

説明: `nbpushdata` による EMM データベースレコードの書き込み中に、エラーが発生しました。

推奨処置:

コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 34

メッセージ: メディア ID が、データベース内で一意ではありません (media ID not unique in database)

説明: 追加または変更された EMM データベース内のボリュームエントリに、メディア ID が指定されました。これは、すでに EMM データベース内に存在する他のボリュームのメディア ID と同じメディア ID です。EMM データベース内のすべてのボリュームは、一意のメディア ID を持つ必要があります。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームを EMM データベースに追加するときは、一意のメディア ID を指定します。
- `vmphyinv` を実行中の場合、同じメディア ID を持つ複数のメディアがテープライブラリ内に存在している可能性があります。

Media Manager の状態コード 35

メッセージ: ボリュームは、データベース内に存在しません (volume does not exist in database)

説明: 要求された操作で、検索条件と一致するボリュームエントリが、ボリューム問い合わせから戻されませんでした。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- ロボットまたは一連のスタンドアロンドライブ用に構成されている EMM サーバーと一致する EMM サーバーで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。`tpconfig -d` を実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。
- ボリューム問い合わせで一致するボリュームが検出されるように、ボリューム構成またはデバイス構成の更新、適切な EMM サーバーの指定、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を行います。
- `vmphyinv` を実行中の場合、検索条件を満たすメディアが存在しません。そのため、`vmphyinv` によるテープライブラリのインベントリを実行できない可能性があります。

Media Manager の状態コード 36

メッセージ**:** バーコードが、データベース内で一意ではありません (barcode not unique in database)

説明**:** EMM データベースで追加または変更されたボリュームエントリで指定したバーコードが、すでにデータベース内にあるボリュームのバーコードと重複しています。EMM データベース内のすべてのボリュームには一意のバーコードがある必要があります。

推奨処置**:**

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- バーコードによるボリュームレコードの問い合わせまたはソートを行い、重複したバーコードがあるボリュームエントリを識別します。

Media Manager の状態コード 37

メッセージ**:** ロボットボリュームの位置はすでに使用されています (robotic volume position is already in use)

説明**:** 追加または変更された EMM データベース内のボリュームエントリに、データベース内に存在するボリュームのロボット座標と同じロボット座標が指定されました。(ロボット座標は、スロット番号、またはスロット番号とプラッタ面です。)EMM データベース内のすべてのボリュームは、一意のロボット座標を持つ必要があります。

推奨処置**:**

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- スロット番号によってボリュームレコードの問い合わせまたはソートを行い、同じロボット座標を持つボリュームエントリを特定します。
- ロボットライブラリ内のボリュームの格納位置に対応する適切なロボット座標が反映されない場合、既存のボリュームエントリを変更 (ボリュームの更新または移動) するか、削除します。ボリュームが現在ドライブ内に存在する場合でも、EMM データベースにボリュームのホームスロットを反映する必要があります。

Media Manager の状態コード 39

メッセージ: ネットワークプロトコルエラー (network protocol error)

説明: ソケットからのデータの読み込みが失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、プロトコルエラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 接続先のサーバーが稼働中であることを確認します。

Media Manager の状態コード 40

メッセージ: 予期しないデータを受け取りました (unexpected data received)

説明: メッセージ通信 (ハンドシェーク) が正しくありません。

推奨処置:

- すべてのサーバー上で実行されているソフトウェアのバージョンが、適切であることを確認します。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、プロトコルエラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。
- 空白を使用できないフィールドに、空白が使用されていないことを確認します。

Media Manager の状態コード 41

メッセージ: ネーミングモードで無効なメディア ID (invalid media ID for naming mode)

説明: 最初のメディア ID およびメディア ID 形式を使用した複数ボリュームの追加要求が失敗しました。これは、指定されたメディア ID が、提供されているメディア ID の命名規則に適合しないためです。

推奨処置: 選択した形式と一致する最初のメディア ID を指定します。たとえば、メディア ID 形式が 2 つの文字と 4 つの数字であるとします。この場合、最初のメディア ID で末尾の 4 文字は、0 から 9 の範囲の数字である必要があります。代わりに、指定する最初のメディア ID と一致するメディア ID 形式を選択することも可能です。

Media Manager の状態コード 42

メッセージ: ロボットソフトウェアのデーモンに接続できません (cannot connect to robotic software daemon)

説明: ロボットソフトウェアデーモンまたはロボットソフトウェアプロセスへの接続を確立できません。このエラーは、あるプロセスから、実行中でないロボットプロセスへの接続が試行された場合に発生します。また、ネットワークまたはサーバーの負荷が大きいために応答時間が長くなる場合にも発生します。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット形式、およびロボット要求のロボットホストや操作が行われているボリュームのロボットホストフィールドを参照して、ロボットプロセスを特定します。
- ロボット制御に使用されるロボットプロセスが有効であることを確認します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「メディアおよびデバイス管理のコンポーネント」を参照してください。
  必要に応じてロボットプロセスを起動します。
- TL8、TLD および TLH の各ロボットにロボット制御ホストが 1 つだけ構成されていることを確認します。また、ボリューム構成内のすべてのボリュームのロボットホストがその構成されたロボット制御ホストに一致することを確認します。
- 必要に応じて、ボリュームを変更するか、デバイスの構成内のロボットを再構成します。
- ロボット制御ホストのシステムログを調べて、ロボットプロセスへの接続が試行されているときにロボットプロセスが要求を処理しているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 43

メッセージ: ロボットソフトウェアのデーモンへの送信に失敗しました (failed sending to robotic software daemon)

説明: ロボットソフトウェアデーモンまたはロボットソフトウェアプロセスのソケットへのデータの書き込みが失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット形式、およびロボット要求のロボットホストや操作が行われているボリュームのロボットホストフィールドを参照して、ロボットプロセスを特定します。ロボット制御に使用されるロボットプロセスが有効であり、要求を処理していることを確認します。
- デバイスの構成を確認して、ロボット制御ホストを特定します。TL8、TLD および TLH の各ロボットにロボット制御ホストが 1 つだけ構成されている必要があります。ボリューム構成内のすべてのボリュームのロボットホストがその構成されたロボット制御ホストに一致する必要があります。
- ロボット制御ホストのシステムログを調べて、ロボットプロセスとの通信が試行されているときにロボットプロセスが要求を処理しているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 44

メッセージ: ロボットソフトウェアのデーモンからの受信に失敗しました (failed receiving from robotic software daemon)

説明: ロボットソフトウェアデーモンまたはロボットソフトウェアプロセスのソケットからのデータの読み込みに失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット形式、およびロボット要求のロボットホストや操作が行われているボリュームのロボットホストフィールドを参照して、対象のロボットプロセスを特定します。ロボット制御に使用されるロボットプロセスが有効であり、要求を処理していることを確認します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「メディアおよびデバイス管理のコンポーネント」を参照してください。
- デバイスの構成を確認して、ロボット制御ホストを特定します。TL8、TLD および TLH の各ロボットにロボット制御ホストが 1 つだけ構成されている必要があります。ボリューム構成内のすべてのボリュームのロボットホストがその構成されたロボット制御ホストに一致する必要があります。

- ロボット制御ホストのシステムログを調べて、ロボットプロセスとの通信が試行されているときにロボットプロセスが要求を処理しているかどうかを確認します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「UNIX クライアントとのネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「PC クライアントとのネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

Media Manager の状態コード 45

メッセージ: 端末特性の変更に失敗しました (failed changing terminal characteristics)

説明: 端末入力モードを cooked や raw へ変更しようとしたとき、システムコールが失敗しました。

推奨処置: ユーザーインターフェースの出力で、失敗したシステムコールに関連するシステムエラーを調べます。その後、オペレーティングシステムのベンダーの推奨事項に従ってトラブルシューティングを行います。

Media Manager の状態コード 46

メッセージ: ロボットソフトウェアデーモンからの予期しないデータです (unexpected data from robotic software daemon)

説明: プロセスとロボットソフトウェアデーモン (またはロボットソフトウェアプロセス) の間のメッセージ通信 (ハンドシェーク) が失敗しました。

推奨処置:

- すべてのサーバー上で実行されているソフトウェアのバージョンが、適切であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。
- 空白を使用できないフィールドに、空白が使用されていないことを確認します。
- ロボット制御ホストのシステムログで、ロボットソフトウェアによって記録されたエラーを確認します。

Media Manager の状態コード 47

メッセージ: 変更されたエントリはありません (no entries changed)

説明: 要求された操作が完了しましたが、ボリュームの構成ファイルまたは Media Manager の構成ファイルが変更されませんでした。管理者が変更の操作を適用しないで終了した

可能性があります。または、追加された構成エントリが構成ファイルにすでに含まれていた可能性があります。

推奨処置:

- 変更操作が管理者によって中断された場合、処置は必要ありません。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 48

メッセージ: 削除されたエントリはありません (no entries deleted)

説明: ボリュームを削除する操作が完了しました。ボリューム構成は変更されませんでした。

推奨処置:

- 削除を要求したボリュームが実際には削除されていない場合を除き、処置は必要ありません。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 49

メッセージ: 挿入されたエントリはありません (no entries inserted)

説明: ボリュームを挿入する操作が完了しました。ボリューム構成にボリュームが追加されませんでした。

推奨処置:

- 挿入を要求したボリュームが挿入されていない場合を除き、処置は必要ありません。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 50

メッセージ: 無効なエントリ変更要求です (invalid change-entry request)

説明: ボリューム情報の変更の無効な要求が、EMM サーバーの vmd に送信されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 該当するコマンドの使用方法の説明を確認して、新しいプロセスを起動するために送信されたパラメータと比較します。

Media Manager の状態コード 51

メッセージ: このロボット形式を自動取り出しできません (cannot auto-eject this robot type)

説明: メディアの取り出しによるボリューム位置情報の変更要求が vmd に送信されましたが、このボリュームのロボット形式ではメディアの自動取り出しがサポートされていません。(vmd は、UNIX と Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリューム位置情報の変更要求が、互換性がない、以前のバージョンのソフトウェアが実行されているシステム上の vmd に送信されていないことを確認します。(ボリューム位置情報の変更要求は、新しくリリースされたバージョンのソフトウェアでサポートされるロボット形式の取り出しを含む要求です。)

Media Manager の状態コード 52

メッセージ: このロボット形式を自動取り込みできません (cannot auto-inject this robot type)

説明: メディアの取り込みによるボリューム位置情報の変更要求が vmd に送信されましたが、このボリュームのロボット形式ではメディアの自動取り込みがサポートされていません。(vmd は、UNIX と Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリューム位置情報の変更要求が、互換性がない、以前のバージョンのソフトウェアが実行されているシステム上の vmd に送信されていないことを確認します。(ボリューム位置情報の変更要求は、新しくリリースされたバージョンのソフトウェアでサポートされるロボット形式の取り込みを含む要求です。)

Media Manager の状態コード 53

メッセージ: ボリューム移動モードが無効 (invalid volume move mode)

説明: ロボット関連の要求で、関連するすべてのソフトウェアコンポーネントでサポートされていないメディア移動オプションが指定されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット要求が、その特定の要求がサポートされているソフトウェアのバージョンが実行されているシステムに送信されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 54

メッセージ: ロボット番号とロボット形式が一致しません (robot number and robot type mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、ボリュームに関連付けられたロボット番号はすでに使用中です。同じロボット番号で異なるロボット形式がロボット内の他のボリュームに関連付けられています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースの各物理ロボットで、ロボット番号が一意であることを確認します。ロボットを削除してから再度追加します。ロボット番号が重複して使用されている場合、一意のロボット番号を使用します。メディア管理インターフェースを使用して、ボリュー

ム構成内のすべてのボリュームで現在使用されているロボット番号を識別します。コマンドラインインターフェースを使用する場合、要求に関連するロボット番号に対して適切なロボット形式を指定します。

Media Manager の状態コード 55

メッセージ: ロボット番号とボリュームグループが一致しません (robot number and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、ボリューム構成の変更に関連するロボット番号およびボリュームグループが、ボリュームグループの要件と矛盾します。ボリュームグループ内のすべてのボリュームは、同じロボット番号を持つことを含め、同じ位置情報を持つ必要があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したロボット番号とボリュームグループが、矛盾しないことを確認します。ボリュームグループ内のボリュームが特定のロボット番号を持つ場合、異なるロボット番号を持つボリュームをボリュームグループに追加することはできません。あるロボットボリュームグループから他のロボットボリュームグループに、ボリュームを直接移動することはできません。これは、操作の途中でロボット番号に矛盾が発生する(変更されるボリュームエントリと変更されないボリュームエントリが存在する) ためです。要求で異なるボリュームグループを選択するか、ボリュームグループを自動的に選択するようにします。ボリュームグループの選択は、使用している特定のインターフェースによって異なります。

Media Manager の状態コード 57

メッセージ: ボリュームグループの自動生成エラー (error auto-generating volume group)

説明: ボリュームグループ名の自動生成を使用した、ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、利用可能な組み合わせがすべて使用されているため、一意のボリュームグループ名を生成できません。

推奨処置: 対象のロボット番号内のボリュームをボリュームグループに統合して新しいボリュームグループを自動的に生成できるようにします。または、特定のボリュームグループ名を指定します。

Media Manager の状態コード 58

メッセージ: デーモンがソケットを取得できません (daemon cannot obtain socket)

説明: vmd がソケットをバインドできません。(vmd は、UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンおよび Windows の NetBackup Volume Manager サービスです。) 構成されたポート番号に対して vmd のバインドが試行されたとき、システムコールが失敗しました。このシステムコールは、通常、vmd デーモンまたはサービスの起動前に他のプロセスがポートを取得したことによって失敗します。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。
- 他のプロセスがポートを使用している場合、他のシステムコマンドを実行してそのプロセスを判別します。その結果に基づいて、サービスのファイルまたはマッピングのポート番号を変更するか、ポートを取得しているプロセスを停止します。
- UNIX および Linux のみ: kill コマンドを実行して vmd を停止すると、このエラーが発生することがあります。vmd を停止するには、コマンドライン要求vmctrldbm -t を使用することをお勧めします。kill コマンドを実行してこのプロセスを停止すると、次にプロセスが再起動されたときに、割り当てられていたポートにバインドされない場合があります。ソケットの問題が発生した場合、デーモンのデバッグログには次のような行が含まれます。

  ```
  unable to obtain bound socket, Address already in use (125)
  ```

Media Manager の状態コード 59

メッセージ: デーモンが接続の承認に失敗しました (daemon failed accepting connection)

説明: システムコールのエラーのため、vmd が新しい接続を受け入れることができません。(vmd は、UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンおよび Windows の NetBackup Volume Manager サービスです。)

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバッグログからシステムコールの失敗を特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。

Media Manager の状態コード 60

メッセージ: このホストで操作を実行できません (cannot perform operation on this host)

説明: 要求された操作は、特定のホストでは機能しません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットインベントリの更新を実行する場合、ロボット制御およびドライブが構成されているホストだけで開始する必要があります。

Media Manager の状態コード 61

メッセージ: ロボット番号とロボットホストが一致しません (robot number and robot host mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加、ボリューム構成内のボリュームの変更、またはロボットインベントリの更新が要求されましたが、同じロボット内の他のボリューム (同じロボット番号を持つボリュームとして定義される) のロボットホストと異なるロボットホストが指定されました。特定のロボット番号 (たとえば、0) を持つ EMM データベース内のすべてのボリュームは、同じロボットホスト名を持つ必要があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットが構成されているすべてのホストで、大文字と小文字の区別も含め、同じホスト名になるようにデバイス構成にロボットホストを指定します。その後、要求を再発行します。または、ボリュームグループを移動することによって、すべてのボリュームをロボットボリュームグループからスタンドアロンに論理的に移動し、その後ロボット内に戻します。ロボット構成で使用するホスト名として、ロボットホストを指定します。その後、要求を再発行します。

Media Manager の状態コード 62

メッセージ: パイプへの入力のリダイレクトに失敗しました (failed redirecting input to pipe)

説明: システムパイプを作成できません。

推奨処置: インターフェースの出力でシステムエラーを特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。

Media Manager の状態コード 63

メッセージ: 子プロセスはシグナルによって強制終了されました。(child process killed by signal)

説明: 予想外のシグナルによって、ロボットインベントリの更新処理が停止されました。

推奨処置:

- インターフェースの出力およびデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 64

メッセージ: 待機する子プロセスがありません (no child process to wait for)

説明: メディア管理インターフェースが子プロセスの完了を待機していましたが、待機している子プロセスが存在しないことが検出されました。

推奨処置:

- インターフェースの出力およびデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行 (または別のメディア管理インターフェースを使用して試行) し、ログを調べます。

Media Manager の状態コード 65

メッセージ: ボリュームグループは存在しません (volume group does not exist)

説明: 要求の処理中に、EMM データベース内の既存のボリュームエントリでボリュームグループを検出できません。

推奨処置:

- インターフェースの出力およびデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディア管理インターフェースを使用して、EMM データベースのデータ整合性または一貫性の問題を確認します。ボリュームエントリを削除または移動して、ボリュームグループの問題を修正します。

Media Manager の状態コード 67

メッセージ: 終了状態を送信できません (unable to send exit status)

説明: 要求された操作の状態を vmd が要求元に送信できません。(vmd は、UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンおよび Windows の NetBackup Volume Manager サービスです。)

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバッグログで送信または書き込みシステムコールの失敗を特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。
- reqlib のデバッグログを有効にして、操作を再試行し、デバッグログおよびアプリケーションインターフェースの出力を調べて、要求を送信するコマンドまたはアプリケーションインターフェースが途中で異常終了されているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 68

メッセージ: ボリュームグループにボリュームが多すぎます (too many volumes in volume group)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、使用可能な最大ボリューム数に達しました。ボリューム数の制限は、特定のロボット形式で使用可能なボリューム数に基づいています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームが EMM データベースで定義されているかどうかを確認します。ロボット内に存在しない可能性があるスロット番号 0 (ゼロ) に関連付けられたボリュームが、EMM データベースで定義されている可能性があります。ロボットインベントリを実行します。ロボットの内容レポートを表示し、開始スロット番号を調べます。開始スロット番号が 1 で、ロボットのスロット 0 (ゼロ) に定義されているボリュームが存在する場合、ボリュームエントリを削除します。または、ボリュームをスタンドアロンに移動して、残りの利用可能なメディアスロットを使用できるようにします。

Media Manager の状態コード 69

メッセージ: vmd への要求の送信に失敗しました (failed sending request to vmd)

説明: サーバープロセスへの初期接続は正常に実行されましたが、要求を `vmd` または `oprd` に送信できません。(`vmd` は、UNIX と Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービスで、`oprd` はオペレータ要求デーモンまたはプロセスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `vmd` または `oprd` プロセスが、要求元から接続を受信した後も継続して実行されていたかどうかを確認します。`netstat -a` または同等のソケット診断ユーティリティを実行します。サーバー側システムのデーモンのデバッグログと `vmd` または `oprd` のプロセス状態を調べて、サーバープロセスがハングアップしているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 70

メッセージ: ホスト *host name* の vmd に接続できません。(Cannot connect to vmd on host host name.)

説明: プロセスによる `vmd` (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) または `oprd` (オペ

レータ要求デーモンまたはプロセス) への接続中に、タイムアウトが発生しました。この問題は、接続が試行されたときにサーバープロセスが実行されていない場合に発生します。また、ネットワークまたはサーバーの負荷が大きいために応答時間が長くなる場合にも発生します。

推奨処置:

- vmd が接続を受信するホスト上で、デーモンまたはサービスが実行中であることを確認します。(ホストは、Media Manager ホスト、デバイスホストまたは EMM サーバーです。)デーモンまたはサービスが実行されていない場合、これらを起動します。Windows では、vmd は NetBackup Volume Manager サービスです。
- vmd がすでに実行中である場合、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 構成で正しいホスト名が定義されていることを確認します。
- services ファイルを確認します。UNIX および Linux の場合、/etc/services ファイル (NIS を使用する場合は NIS サービス) に vmd サービスのエントリが存在することを確認します。(vmd サービスは常に oprd を起動します。)Windows の場合、%systemroot%¥system32¥drivers¥etc¥services ファイルに vmd の正しいエントリが存在することを確認します。また、services ファイル内の vmd のポート番号が、ポート番号構成と一致することも確認します。ポート番号は、vmd(1M) のマニュアルページに記載されています。
- オペレーティングシステムのすべてのパッチまたは Service Pack がインストールされていることを確認します。
- Media Manager 構成のチューニングを確認して、vmd に対する負荷が vmd の要求処理能力を超えていないかどうかを調べます。vm.conf ファイルの、負荷を増加させるエントリを調べます。パフォーマンスが問題である場合、より高いパフォーマンスのサーバー上およびファイルシステム上に EMM データベースを配置することを検討します。ボリューム構成内のボリューム数を削減するには、インベントリフィルタリングがサポートされているロボット形式に対してインベントリフィルタリングを使用します。
- ipcs -a などのユーティリティを調べて、共有メモリが適切に機能していることを確認します。共有メモリに接続できないために、oprd プロセスが応答しないこともあります。

Media Manager の状態コード 71

メッセージ: vmd への送信に失敗しました (failed sending to vmd)

説明: vmd ソケットへのデータの書き込みが失敗しました。vmd は、NetBackup Volume Manager デーモン (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) です。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- vmd が実行中であるシステムを特定します。通常、このシステムを Media Manager ホストまたは EMM サーバーといいます。いくつかのユーザーインターフェースでは、ローカルシステムがデフォルトになります。このエラーは、ネットワークの高負荷、オペレーティングシステムのパッチや Service Pack の不備、vmd プロセスの予想外の失敗などが原因で発生します。

Media Manager の状態コード 72

メッセージ: vmd からの受信に失敗しました (failed receiving from vmd)

説明: vmd ソケットからのデータの読み込みが失敗しました。vmd は、NetBackup Volume Manager デーモン (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) です。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- vmd が実行中であるシステムを特定します。通常、このシステムを Media Manager ホストまたは EMM サーバーといいます。いくつかのユーザーインターフェースでは、ローカルシステムがデフォルトになります。このエラーは、ネットワークの高負荷、オペレーティングシステムのパッチや Service Pack の不備、vmd プロセスの予想外の失敗などが原因で発生します。また、要求された操作が、指定された期間内に完了しなかったため、ソケットの読み込みが失敗した可能性もあります。vmd に対する要求には、ロボットプロセスと vmd の相互作用の影響を受けるものもあるため、ロボット制御ホストのシステムログでエラーを確認します。

Media Manager の状態コード 73

メッセージ: 無効な問い合わせ形式 (invalid query type)

説明: 無効なボリュームを問い合わせる要求が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- Media Manager およびユーザーインターフェースのすべてのバイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 74

メッセージ: 無効なクリーニング数 (invalid number of cleanings)

説明: ボリューム構成内の 1 つ以上のボリュームで、残りのクリーニング数を変更するように要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。バーコード規則の［マウントまたはクリーニング数 (Number of Mounts or Cleanings)］フィールドでクリーニング数の値が無効なこともあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- クリーニング数の値を、0 から 2,147,483,647 の許容範囲内で指定します。

Media Manager の状態コード 75

メッセージ: 形式の変更が無効です (invalid change type)

説明: 無効なボリューム変更要求が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- Media Manager およびユーザーインターフェースのすべてのバイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 76

メッセージ: ホスト名を取得できません (cannot get host name)

説明: ローカルホスト名の取得中に、システムコール gethostname(3C) が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバッグログからシステムコールの失敗を特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。hostname システムコマンドを実行して、コマンドの動作が適切であることを確認します。

Media Manager の状態コード 78

メッセージ: データベースにバーコードが存在しません (barcode does not exist in database)

説明: バーコードの要求による問い合わせボリュームは指定したバーコードや、バーコードとメディア形式があるボリュームエントリを返しませんでした。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。
  tpconfig -d を実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。適切な EMM サーバーを現在のサーバー (管理中のサーバー) として選択します。ボリューム問い合わせで一致するボリュームが検出されるように、ボリューム構成またはデバイス構成の更新、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を必要に応じて行います。正しいスロット場所にあるメディアの場合、ボリューム構成のバーコードフィールドがロボットライブラリのバーコードリーダーで解釈される実際のバーコードと一致するように、バーコードの更新要求または再スキャンを実行します。

Media Manager の状態コード 79

メッセージ: 指定されたロボットは vmd に認識されません (specified robot is unknown to vmd)

説明: 位置情報からボリュームの問い合わせが要求されました。指定されたロボット番号、ロボット形式およびロボットホストと一致するボリュームが、対象のボリューム構成で検出されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。
  `tpconfig -d` を実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。適切な EMM サーバーを現在のサーバー (管理中のサーバー) として選択します。位置情報からのボリュームの問い合わせで一致するボリュームが検出されるように、ボリューム構成またはデバイス構成の更新、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を必要に応じて行います。

Media Manager の状態コード 80

メッセージ: エラーが存在するために、データベースを更新できません (cannot update database due to existing errors)

説明: 既存のエラーが原因で、`vmphyinv` コマンドによって EMM データベースを更新できません。考えられるエラーは、次のとおりです。

- テープヘッダーから読み込まれたメディア ID と同じメディア ID を持ち、異なるロボットに属する Media Manager ボリュームレコードが存在する。
- 割り当てられたボリュームレコードのメディア形式、メディア GUID またはボリュームプールを変更する必要がある。
- バーコードの競合が検出され、`vmphyinv` を実行するには既存のボリュームレコードのバーコードを変更する必要がある。

推奨処置: `vmphyinv` コマンドを実行すると、エラーのリストが生成されます。出力を調べます。ユーティリティを再実行する前に、これらのすべてのエラーを解決する必要があります。

Media Manager の状態コード 81

メッセージ: ロボット形式とボリュームグループが一致しません (robot type and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリューム位置情報の変更が要求されましたが、ボリューム構成の変更に関連するロボット形式およびボリュームグループが、ボリュームグループの要件と矛盾します。ボリュームグループ内のすべてのボリュームは、同じロボット形式を持つことを含め、同じ位置情報を持つ必要が

あります。要求された操作が、特別な名前が付けられていないボリュームグループである「---」をロボットの位置情報に関連付けようとした可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したロボットの位置情報およびボリュームグループが、指定したボリュームグループに存在する、ボリューム構成内の他のボリュームと矛盾しないことを確認します。特別な名前が付けられていないボリュームグループのボリュームをロボットの位置情報に移動する場合、新しいボリュームグループまたは自動生成されたボリュームグループに移動させてください。要求で異なるボリュームグループを選択するか、ボリュームグループを自動的に選択するようにします。ボリュームグループの選択は、使用している特定のインターフェースによって異なります。

Media Manager の状態コード 82

メッセージ: ロボットホストとボリュームグループが一致しません (robot host and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリューム位置情報の変更が要求されましたが、ボリューム構成の変更に関連するロボットホストおよびボリュームグループが、ボリュームグループの要件と矛盾します。ボリュームグループ内のすべてのボリュームは、同じ位置情報を持つ必要があります。同じロボットホストを持つことも含まれます。ここで、同じロボットホストとは、大文字と小文字の区別も含め、同じロボットホスト名を持つロボットホストです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したロボットの位置情報およびボリュームグループが、指定したボリュームグループに存在する、ボリューム構成内の他のボリュームと矛盾しないことを確認します。ロボットホストにボリュームを追加する場合、異なる形式のロボットホスト名を使用しないでください。たとえば、acme は acme.veritas.com とは異なります。ボリュームグループ内の他のボリュームで使用されているホスト名と同じホスト名を使用します。ボリュームグループ内のボリュームのロボットホストを変更する必要がある場合、1 回のボリュームグループを移動する要求 (特定のメディア管理インターフェースだけで利用可能) によってボリュームグループをスタンドアロン位置情報に移動します。次に、ボリュームグループをロボットの位置情報に戻します。新しいボリュームグループに関連付ける、目的のロボット制御ホストを指定します。

Media Manager の状態コード 83

メッセージ: デバイスの管理エラー (device management error)

説明: `vmphyinv` の実行中にいずれかのデバイス管理エラーが発生しました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 84

メッセージ: このマシンはデータベースホストではありません (this machine is not the database host)

説明: ローカルホスト以外のホストで、`vmd` の起動が要求されました。`vmd` は、NetBackup Volume Manager デーモン (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) です。

デフォルト以外の vmd のポート番号、またはサポートされていないオプションの使用は、`vmd` を起動するためのインターフェースで参照されるホストおよびポートに影響する場合があります。

推奨処置:

- ローカルホストのみで `vmd` を起動するために、vmd を実行する必要があるホストにログインし、そのホストで vmd を起動します。UNIX および Linux の場合、`/usr/openv/volmgr/bin/vmd [-v]` を実行します。Windows の場合、[管理ツール]の[サービス]で NetBackup Volume Manager サービスを起動します。
- 問題についての詳細な説明が必要な場合、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ポート番号の一貫性を確認します。

Media Manager の状態コード 85

メッセージ: Volume デーモンの fork に失敗しました (volume daemon fork failed)

説明: システムからのエラーのため、Media Manager のデーモンまたはサービスが子プロセスを作成できません。多くの場合、これは、システムリソースの可用性に基づく一時的なエラーです。

推奨処置:

- 後でサービスを再起動するか、プロセス数を制限している、システムの問題を調べます。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 86

メッセージ: 一時出力ファイルを開けませんでした (failed opening tmp output file)

説明: `vm.conf` ファイルまたは一時作業ファイルを開くことができません。

推奨処置: UNIX および Linux の場合、`/usr/openv/volmgr/misc` ディレクトリ、`/tmp` ディレクトリおよび `/usr/openv/volmgr/vm.conf` ファイルの存在および権限を確認します。Windows の場合、*install_path*¥Volmgr¥vm.conf ファイルの存在および[セキュリティ]プロパティを確認します。

Media Manager の状態コード 87

メッセージ: 一時出力ファイルのリダイレクトに失敗しました (failed redirecting tmp output file)

説明: インターフェースの出力先を一時ファイルからプロセスの標準出力へ変更中に、システムコール `dup2(3C)` が失敗しました。

推奨処置: 開いた状態のファイル数のリソース制限に関連するオペレーティングシステムの機能を調べます。プロセスに、関係のないシグナルによる割り込みが発生していないことを確認します。

Media Manager の状態コード 88

メッセージ: 子プロセスの開始に失敗しました (failed initiating child process)

説明: コマンドを実行できません。このエラーは、コマンドの権限で実行が許可されていない場合またはメモリやスワップ領域などのシステムリソースが不足している場合に発生します。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `vmcheckxxx`、`vmupdate` および `oprd` のバイナリの権限および (Windows の場合) インストールされた `rdevmi` のバイナリの権限を確認します。

Media Manager の状態コード 89

メッセージ: 別のデーモンがすでに存在しています (another daemon already exists)

説明: vmd (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) が起動されましたが、vmd はすでに実行されていることがデーモンまたはサービスのロックファイルから検出されました。

推奨処置: `vmd` がすでに実行されているかどうかを確認します。実行中の `vmd` デーモンまたはサービスを停止してから、別の vmd デーモンまたはサービスを起動します。`vmctrldbm -t` を実行して、実行中の vmd を停止します。Windows の場合、システムのサービスインターフェースを使用します。デーモンまたはサービスが異常終了した場合、ロックファイルを削除します。ロックファイルは、`/usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥`Volmgr¥misc¥vmd.lock` (Windows の場合) です。その後、`vmd` を再起動します。

Media Manager の状態コード 90

メッセージ: ボリュームプールが無効 (invalid volume pool)

説明: ボリュームの追加、ボリュームのボリュームプールの変更、バーコード規則の追加、バーコード規則の変更のいずれかが要求されました。要求された変更に関連するボリュームプール名またはボリュームプール番号が、ボリュームプールの要件と矛盾します。

これらの要件は、次のとおりです。

- スクラッチプール内のボリュームは、他のプールに移動されるまで割り当てることができません。
- ボリュームプール番号は、負の値にはしないでください。
- ボリュームプール名は、1 文字から 20 文字の印字可能な ASCII 文字で構成されている必要があります。空白は使用できません。

- メディア形式のクリーニングを指定するバーコード規則のエントリに対して有効なプールは None ボリュームプールのみです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したボリュームプールが、前述の要件に違反していないことを確認します。`vmpool` コマンドを実行して、プールの情報を表示します。`vmrule` コマンドを使用してバーコード規則の情報を表示します。データベースが不整合な場合やデータベースが壊れている場合には、必要に応じてボリュームプールやバーコード規則を追加または変更して不整合を修正します。

Media Manager の状態コード 92

メッセージ: 割り当てられたボリュームを削除できません (cannot delete assigned volume)

説明: ボリュームの削除が要求されましたが、ボリュームは現在割り当て済みです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 割り当て済みのボリュームは削除できません。ボリューム上に重要なデータが存在しない場合、適切なアプリケーションインターフェース (NetBackup では `bpexpdate`) を使用してメディアの割り当てを解除します。その後、ボリュームの削除要求を再試行します。

Media Manager の状態コード 93

メッセージ: ボリュームはすでに割り当てられています (volume is already assigned)

説明: ボリュームの割り当てが要求されましたが、ボリュームはすでに割り当てられています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- すでに割り当てられているボリュームを手動で割り当てないでください。ボリュームがすでに NetBackup カタログバックアップに割り当てられている場合だけ、NetBackup カタログバックアップにそのボリュームを割り当てることができます。常に、すべてのロボット内に含まれるすべてのメディアで、末尾の 6 文字が一意であるバーコードを使用します。または、ロボットインベントリの更新で一意のメディア ID が生成されるように、メディア ID 生成規則を使用します。

Media Manager の状態コード 94

メッセージ: ボリュームは、指定されたプールに存在しません (volume is not in specified pool)

説明: 指定されたボリュームプールからのボリュームの割り当てが要求されましたが、そのボリュームは異なるボリュームプール内に存在します。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームを手動で割り当てる場合、ボリュームに関連付けられたボリュームプールを指定します。常に、すべてのロボット内に含まれるすべてのメディアで、末尾の 6 文字が一意であるバーコードを使用します。または、ロボットインベントリの更新で一意のメディア ID が生成されるように、メディア ID 生成規則を使用します。

Media Manager の状態コード 95

メッセージ: メディア ID は指定されたメディア形式ではありません (media ID is not the specified media type)

説明: 指定されたメディア形式のボリュームの割り当てまたは追加が要求されましたが、そのボリュームまたは物理的に類似したボリュームとメディア形式が異なります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットインベントリを更新してボリューム構成を変更する場合、カートリッジの形式 (たとえば、TLH ロボットの 3590J) が物理的に同じであるすべてのボリュームは、1 つのメディア形式だけ (たとえば、HCART) にマッピングされていることを確認します。これによって、ロボットライブラリ内のすべてのメディアのマウントが、互換性のあるドライブ形式のドライブに対して実行されます。

- ボリュームを手動で割り当てる場合、ボリュームに関連付けられたメディア形式を指定します。すべてのロボット内に含まれるすべてのメディアにわたって末尾の 6 文字に一意のバーコードを常に使用します。または、ロボットインベントリの更新を使用する場合に一意のメディア ID が生成されるように、メディア ID 生成規則を使用します。

Media Manager の状態コード 96

メッセージ: oprd が異常な状態を戻しました (oprd returned abnormal status)

説明: `oprd` (オペレータ要求デーモンまたはプロセス) によって処理された要求で、異常状態が戻されました。

推奨処置:

- Windows では、デバイスを自動構成するか、NetBackup Device Manager サービスをグラフィカルインターフェースまたはコマンドラインインターフェースから起動する場合、システムのサービス構成でサービスが有効になっていることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 通常、特定のホストで発生したデバイス管理に関連するエラーは、オペレータ要求デーモンやプロセスのエラー、およびリモートデバイス管理のエラーとともに発生します。`oprd` が起動または実行されているホストのデバッグログおよびシステムログやアプリケーションログで、エラーを確認します。多くの場合、このホストは対象のデバイスホストまたはスキャンホストです。

  `oprd` によって処理されて失敗した可能性がある要求には、次のものが含まれます。

  - ドライブの停止、起動またはリセット
  - ドライブコメントの変更
  - マウント要求の拒否または再送信
  - ドライブの割り当て
  - `ltid` の起動または停止
  - `ltid` の状態の取得
  - ドライブ状態の表示
  - 保留中の操作の管理
  - NDMP 属性の設定
  - デバイスの構成
  - ドライブのクリーニング

- ホストのバージョン情報とデバイス構成情報の取得
- 共有ドライブのスキャン

Media Manager の状態コード 97

メッセージ: 規則が規則データベースに存在しません (rule does not exist in rule database)

説明: バーコード規則の変更または削除が要求されましたが、指定したバーコードタグを持つバーコード規則が見つかりません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースにある設定済みのバーコード規則のリストを表示します。変更要求や削除要求、またはターゲットホスト上の指定したバーコードタグをを調整します。要求を再試行するとバーコード規則が見つかります。

Media Manager の状態コード 101

メッセージ: メディア形式とボリュームグループが一致していません (media type and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリューム位置情報の変更が要求されましたが、ボリューム構成の変更に関連するメディア形式およびボリュームグループが、ボリュームグループの要件と矛盾します。ボリュームグループ内のすべてのボリュームは、同じメディア形式を持つことを含め、同じ位置情報を持つ必要があります。データに使用されるメディア形式および関連するクリーニングメディア形式は、ボリュームグループの制限により、同じであると見なされます。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したメディア形式およびボリュームグループが、指定したボリュームグループに存在する、ボリューム構成内の他のボリュームと矛盾しないことを確認します。要求で異なるボリュームグループを選択するか、ボリュームグループを自動的に選択するようにします。ボリュームグループの選択は、使用しているインターフェースによって異なります。

Media Manager の状態コード 102

メッセージ: 無効なプールデータベースエントリ (invalid pool database entry)

説明: ボリュームプールデータベースが破損しています。インストールされている製品バイナリと互換性のないレコードがデータベース内に含まれています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `vmpool` を実行して、ボリュームプールデータベースの整合性を調べます。デーモンのデバッグログファイルに、プールレコード内に存在すると予想されるフィールド数および検出されたフィールド数が表示されます。プールデータベースを手動で修正できない場合、プールデータベースの保存されているバージョンのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 104

メッセージ: プールデータベースへの追加に失敗しました (failed appending to pool database)

説明: ボリュームプール構成へのボリュームプールの追加、ボリュームプール構成内のボリュームプールの変更または削除が要求されましたが、ボリュームプールデータベースファイルにプールレコードを追加できません。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- データベース `/usr/openv/volmgr/database/poolDB` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*`¥Volmgr¥database¥poolDB` (Windows の場合) への書き込み権限および書き込みに利用可能なファイルシステム領域を調べます。

Media Manager の状態コード 105

メッセージ: プール名が、プールデータベース内で一意ではありません (poolname is not unique in pool database)

説明: ボリュームプール構成へのボリュームプールの追加が要求されましたが、指定されたプール名が既存のボリュームプール名と同じです。

推奨処置: ボリュームプールの追加要求では、対象の EMM データベースホストでまだ使用されていないボリュームプール名を指定します。

Media Manager の状態コード 109

メッセージ: プールがプールデータベースに存在しません (pool does not exist in pool database)

説明: 要求された操作で、指定されたボリュームプールがボリュームプール構成内で検出されませんでした。このエラーコードを戻す可能性がある要求は、次のとおりです。

- ボリュームプールの追加、変更、削除または問い合わせ
- バーコード規則の追加または変更
- ボリュームの追加または変更
- スクラッチボリュームの問い合わせ
- ロボットインベントリのレポートまたは更新

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM サーバーで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。`tpconfig -d` コマンドを実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。対象のデバイスの適切な EMM サーバーを現在のサーバー (管理中のサーバー) として選択します。
- 要求された操作によって要求されたボリュームプールを検出できるように、次の操作を実行します。ボリューム構成またはデバイス構成の更新、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を必要に応じて行います。EMM データベースとボリュームプールデータベースの一貫性の矛盾を調べて、必要に応じて、以前の状態からこれらのデータベースのリストアおよび修復を行います。

Media Manager の状態コード 110

メッセージ: プールは使用中です (pool is in use)

説明: メディアプールの操作はメディアプールが使用中であるので失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ファイルシステムとボリュームプールデータベースの整合性を調べます。UNIX および Linux の場合は `/usr/openv/volmgr/database/poolDB`、Windows の場合は *install_path*¥Volmgr¥database¥poolDB です。
- メディアプールがバーコード規則のような他の表によって使用中ではないことを確認します。

Media Manager の状態コード 111

メッセージ: 指定されたプールは空ではありません (the specified pool is not empty)

説明: ボリュームプールの削除が要求されましたが、プールが空でないか、指定されたボリュームプールに現在関連付けられているボリュームが存在するかどうかを判別できませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディア管理インターフェースを使用して、削除するように指定したプールに関連付けられているボリュームを問い合わせます。ボリュームプール内のすべてのボリュームが他のプールに再度関連付けられたことを確認してから、ボリュームプールの削除を試行します。ボリュームのボリュームプールを変更するには、ボリュームの変更操作を行います。

Media Manager の状態コード 112

メッセージ: プールのリストにプールがありません (no pools in the pool list)

説明: ボリュームプールリストが空です。

推奨処置: ボリュームプールリストには、少なくとも None、NetBackup、Catalog Backup および DataStore の 4 つのプールが存在する必要があります。EMM データベースの整合性を調べます。カタログバックアップから EMM データベースのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 113

メッセージ: 無効な期限切れ日付 (invalid expiration date)

説明: ボリューム構成内の 1 つ以上のボリュームに対してメディア期限切れの日付の変更が要求されましたが、指定された日付が無効です。

推奨処置:

メディアの期限切れの日付を変更するときは、メディア管理インターフェースのマニュアルで指定された形式で日付を指定します。

Media Manager の状態コード 114

メッセージ: 無効な最大マウント数 (invalid maximum mounts)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームに対して、書き込みアクセスを使用してボリュームをマウントできる回数の制限を変更するように要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。バーコード規則の［マウントまたはクリーニング数 (Number of Mounts or Cleanings)］フィールドで最大マウント数の値が無効なこともあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 最大マウント数の値を、0 から 2,147,483,647 の範囲内で指定します。

Media Manager の状態コード 115

メッセージ: ボリュームは、期限切れ日付を過ぎています (volume has passed expiration date)

説明: ボリュームの割り当てが要求されましたが、ボリュームは現在のシステム日付に対して期限切れの日付に達しています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 物理メディアの有効期間を延長する場合、ボリュームの期限切れの日付を現在のシステム日時以降の日付に変更します。または、期限切れの日付に達したメディアを有効期間が残っている他のメディアと交換します。システム日時を確認し、必要に応じて再設定します。

Media Manager の状態コード 116

メッセージ: ボリュームは、最大マウント数を超えています (volume has exceeded maximum mounts)

説明: ボリュームの割り当てが要求されましたが、ボリュームのマウント数が、ボリュームに対して実行可能な最大マウント数を超えました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 物理メディアの有効期間を延長する場合、ボリュームの最大マウント数を増やすか、最大マウント数を無制限に設定します。または、期限切れの日付に達したメディアを有効期間が残っている他のメディアと交換します。

Media Manager の状態コード 117

メッセージ: クリーニングカートリッジでは許可されない操作です (operation not allowed on cleaning cartridge)

説明: ボリュームの期限切れの日付または最大マウント数の変更が要求されましたが、ボリュームがクリーニングカートリッジであるため、操作が許可されません。

推奨処置:

- ボリュームがクリーニングカートリッジである場合、残りのクリーニング数の変更など、クリーニングカートリッジに対して有効な操作を実行します。
- ボリュームのメディア形式を判断できない場合、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 対象のボリュームがクリーニングテープとして不適切に構成されている場合、そのクリーニングボリュームを削除します。その後、適切なメディア形式の新しいボリュームを定義するオプションを使用してボリューム構成を更新します。

Media Manager の状態コード 118

メッセージ: デフォルトボリュームプールの 1 つを削除できません (cannot delete one of the default volume pools)

説明: 事前定義された特別なボリュームプールのいずれかの削除が試行されましたが、None、NetBackup、Catalog Backup および DataStore ボリュームプールは、ボリュームプール構成内のデフォルトのボリュームプールであるため、削除できません。

推奨処置: None、NetBackup、Catalog Backup および DataStore ボリュームプールの削除を試行しないでください。

Media Manager の状態コード 119

メッセージ: 規則データベースエントリが無効 (invalid rule database entry)

説明: バーコード規則のデータベースは破損しています。インストールされている製品バイナリと互換性のないレコードがデータベース内に含まれています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `vmrule` を実行して、バーコード規則データベースの整合性を調べます。デーモンのデバッグログファイルに、バーコード規則レコード内に存在すると予想されるフィールド数および検出されたフィールド数が表示されます。バーコード規則データベースを手動で修正できない場合、バーコード規則データベースの保存されているバージョンのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 121

メッセージ: 規則データベースへの追加に失敗しました (failed appending to rule database)

説明: バーコード規則の追加、変更、削除のいずれかが要求されました。バーコード規則レコードをバーコード規則データベースファイルに追加できません。

推奨処置: デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 122

メッセージ: バーコードタグが、規則のデータベース内で一意ではありません (barcode tag is not unique in rule database)

説明: バーコード規則の追加が要求されました。指定したバーコードタグは既存のバーコード規則のタグと重複しています。

推奨処置: バーコード規則の追加要求では、まだ使われていないバーコードタグを指定します。

Media Manager の状態コード 126

メッセージ: vmd に接続する認可が行われていません (not authorized to connect to vmd)

説明: vmd に対して処理を要求しているユーザーが認証または認可されていません。または、2 つのシステムによる相互認証の試行中に問題が発生しました。

推奨処置:

- vmd のセキュリティについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
  vmd のセキュリティは、NetBackup の認証または認可に基づきますが、Media Manager の構成ファイルの SERVER エントリを処理するための拡張機能が含まれます。
- デバッグログファイルで、認証または認可の問題についての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 認証構成、AUTHORIZATION_REQUIRED エントリおよび SERVER エントリを調整して、vmd のセキュリティの構成を修正します。
- 構成ではなく、認証に問題がある可能性がある場合、次のように実行します。
  - 問題があるシステムの `methods_allow.txt` ファイルを調べて、認証が有効であることを確認します。ファイルの場所は、次のとおりです。
    Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥auth
    UNIX と Linux の場合: /usr/openv/var/auth
  - 認証に問題があるシステムの `methods_allow.txt` ファイルから、認証されていないリモートホストを削除します。
    たとえば、ホスト A およびホスト B に問題がある場合、ホスト B のファイルからホスト A を削除し、ホスト A のファイルからホスト B を削除します。
    操作を再試行します。問題が解決しない場合、接続の問題は認証に関連しません。
  - 削除したホストを再度追加して、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 127

メッセージ: 一意のメディア ID を生成できません (unable to generate a unique media ID)

説明: ロボットインベントリの更新またはメディア ID シードを使用した、ボリューム構成へのボリュームの追加が要求されましたが、[use seed]オプションが指定されていないか、すべての利用可能なメディア ID の組み合わせが使用されているため、一意のメディア ID が生成されませんでした。

推奨処置: ロボットインベントリの更新を使用する場合には、ロボットライブラリ内のすべてのメディアに読み込み可能なバーコードラベルがあることを確認します。または、バーコードの付いていないメディアのメディア ID が自動的に生成されるように、シードを使用して更新を要求します。シードを指定してボリュームを追加する場合、すでに使用されているメディア ID の文字の組み合わせ以外の組み合わせを許可するシードを使用します。読み込み可能なバーコードがない可能性があるメディアに関連付けられたスロットを識別するには、コマンドの出力を調べます。

Media Manager の状態コード 129

メッセージ: 無効なドライブ名 (invalid drive name)

説明: EMM/DA に共有ドライブが要求されましたが、ドライブ名が認識されませんでした。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ドライブ名の長さが 1 文字から 48 文字の ASCII 文字であることを確認します。特殊文字である、ピリオド (.)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-) およびアンダースコア (_) は使用できます。
- すべてのサーバー上で実行されているソフトウェアのバージョンが、適切であることを確認します。

Media Manager の状態コード 130

メッセージ: 要求されたドライブはすでに予約されています (requested drive is already reserved)

説明: EMM/DA に共有ドライブの予約が要求されましたが、そのドライブはすでに他のホストに予約されています。

このエラーは、次のいずれかの原因によってドライブリソースがオーバーサブスクライブされると発生します。

- ドライブの同じプールに別のスケジューラやアプリケーションがアクセスしている。
- ハードウェアやメディアのエラーのため、ジョブに割り当てられたドライブが利用できない。

推奨処置:

- システムログおよびアプリケーション (bptm) のデバッグログを確認して、ハードウェアまたはメディアのエラーのためにドライブが利用できない状態になっているかどうかを判断します。
- ドライブの予約に関する問題の詳細が必要な場合、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 131

メッセージ: 要求されたドライブはホストに対して登録されていません (requested drive is not registered for host)

説明: EMM サーバーに共有ドライブの予約が要求されましたが、そのドライブは要求元のホストによって登録されませんでした。ただし、他のドライブはそのホストによって登録されています。

これは、同じ名前を持つ 2 つの異なるホストが EMM サーバーを使用して異なるドライブリストを登録し、その一方のホストがドライブの予約を要求した場合に発生する異常な状態です。(`vm.conf` ファイルの SSO_HOST_NAME エントリによってローカルホスト名が上書きされた場合、ホスト名が同じになります。)

推奨処置: ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、一意の (重複していない) 文字列を使用します。

Media Manager の状態コード 132

メッセージ: 要求されたドライブは現在登録されていません (requested drive is not currently registered)

説明: EMM サーバーに共有ドライブの予約または解放が要求されましたが、要求元のホストも他のホストもドライブを登録していませんでした。

推奨処置: これは、異常な状態です。EMM サーバーが停止され、再起動された場合に起こる可能性があります。このエラーが発生すると、要求元のホストが EMM サーバーを使用してドライブを再登録するため、この状態は自動的に処理されます。

Media Manager の状態コード 133

メッセージ: 要求されたドライブは、ホストによって予約されていません (requested drive is not reserved by host)

説明: EMM サーバーに共有ドライブの解放が要求されましたが、そのドライブは要求元のホストによって予約されておらず、他のホストによって予約されていました。

これは、異常な状態です。ネットワークの問題または一時停止されたプロセスが存在する場合に、起こる可能性があります。次の状況が考えられます。

- ホスト A が共有ドライブを予約します。
- ホスト A が一時的に利用できない状態になり、他のホストと通信できなくなります。
- ホスト B は、予約しているホスト (ホスト A) は利用できないと判断します。そのため、ホスト A が無効であることを宣言するように EMM/DA に要求します。
- 他のホスト (ホスト B やホスト C など) によってドライブが予約されます。
- 最初にドライブを予約していたホストによって、ドライブの解放が試行されます。

推奨処置: 通信の問題の原因であるネットワークまたはプロセスの問題を修正します。ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、重複していない一意の文字列が使用されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 134

メッセージ: 要求されたドライブは現在予約されていません (requested drive is not currently reserved)

説明: EMM/DA に共有ドライブの解放が要求されましたが、ドライブはどのホストにも予約されていませんでした。

これは、異常な状態です。ネットワークの問題または一時停止されたプロセスが存在する場合に、起こる可能性があります。次の状況が考えられます。

- ホスト A が共有ドライブを予約します。
- ホスト A が一時的に利用できない状態になり、他のホストと通信できなくなります。
- ホスト B は、予約しているホスト (ホスト A) は利用できないと判断します。そのため、ホスト A が無効であることを宣言するように EMM/DA に要求します。
- 最初にドライブを予約していたホストによって、ドライブの解放が試行されます。

推奨処置: 通信の問題の原因であるネットワークまたはプロセスの問題を修正します。ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、重複していない一意の文字列が使用されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 135

メッセージ: 要求されたホストは現在登録されていません (requested host is not currently registered)

説明: 共有ドライブの予約や解放、またはホストに対する無効化の指定が EMM/DA に要求されましたが、ドライブの予約や解放を行うホストまたは無効として指定されるホストが、EMM/DA を使用して登録されていません。

これは、次の状況で発生する異常な状態です。

- EMM サーバーが停止され、再起動された場合。このエラーが発生すると、要求元のホストが EMM サーバーを使用してドライブを再登録するため、この状態は自動的に処理されます。
- ホストの登録が EMM サーバーを使用して解除されていて、そのホストが無効であることを他のホストが宣言している場合。

推奨処置: ホストが無効であると宣言されている場合、ホストを有効にする必要があるかどうかを判断します。根本的なネットワークの問題を修正するか、`ltid` (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を再起動します。

Media Manager の状態コード 136

メッセージ: 無効なホスト名 (invalid host name)

説明: デバイスホストが Media Manager 構成に追加されました。または、EMM サーバーに要求が行われましたが、ホスト名が指定可能な長さを超えています。

推奨処置: ホスト名を ASCII 文字で 256 文字以下に制限します。

Media Manager の状態コード 137

メッセージ: oprd 要求はリモートホストではサポートされていません (oprd request is not supported on the remote host)

説明: オペレータ要求プロセスに、無効な要求が送信されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 対象のホストを特定します。そのホストのすべての Media Manager バイナリが、構成に含まれる他のホストと互換性があるバージョンであることを確認します。必要に応じて、ソフトウェアを更新します。

Media Manager の状態コード 138

メッセージ: メディアの生成規則はすでに存在しています (media generation rule already exists)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、すでに存在する MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則の追加が試行されました。同じ規則を再度追加することはできません。

推奨処置: MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則のリストを再度調べます。

MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則に関する説明が利用可能です。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』の参照項目に関する項を参照してください。

Media Manager の状態コード 139

メッセージ: メディアの生成規則は存在しません (media generation rule does not exist)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、存在しない MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則の削除が試行されました。

推奨処置: MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則のリストを再度調べます。

MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』の参照項目に関する項を参照してください。

Media Manager の状態コード 140

メッセージ: 無効なメディア生成規則 (invalid media generation rule)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、不適切な MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則の追加が試行されました。

推奨処置: MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則が適切に構成されていることを確認します。

MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』の参照項目に関する項を参照してください。

Media Manager の状態コード 141

メッセージ: 無効なマウント数 (invalid number of mounts)

説明: ボリュームがマウントされた回数の変更が要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- マウント数の値を、0 から 2,147,483,647 の許容範囲内で指定します。

Media Manager の状態コード 142

メッセージ: 無効なオフサイトの場所です (invalid off-site location)

説明: ボリュームの保管先の長さが ASCII 文字で 25 文字を超えたか、印字不可能な文字が含まれています。

推奨処置: ボリュームレコードを追加または変更する場合、オフサイト場所フィールドには印字可能な文字だけが含まれ、ASCII 文字で 25 文字以下であることを確認します。

Media Manager の状態コード 143

メッセージ: 無効なオフサイトの送信日付です (invalid off-site sent date)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームの、保管先への送付日付の変更が要求されましたが、指定された日付が無効です。

推奨処置: 保管先への送付日付を変更する場合、メディア管理インターフェースのマニュアルで指定された形式で日付を指定します。

Media Manager の状態コード 144

メッセージ: 無効なオフサイトの返却日です (invalid off-site return date)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームの、保管先からの返却日の変更が要求されましたが、指定された日付が無効です。

推奨処置: 保管先からの返却日を変更する場合、メディア管理インターフェースのマニュアルで指定された形式で日付を指定します。

Media Manager の状態コード 145

メッセージ: 要求されたドライブは、ホストによってすでに予約されています (requested drive is already reserved by host)

説明: EMM/DA に共有ドライブの予約が要求されましたが、そのドライブは要求元のホストにすでに予約されています。

これは、異常な状態です。同じ名前を持つ 2 つの異なるホストが、EMM/DA を使用して同じドライブ名を登録した場合に起こる可能性があります。(vm.conf ファイルの SSO_HOST_NAME エントリによってローカルホスト名が上書きされた場合、ホスト名が同じになります。)この場合、いずれかのホストがドライブを予約していて、もう一方のホストが同じドライブの予約を試行しています。

推奨処置: ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、重複していない一意の文字列を使用します。

Media Manager の状態コード 146

メッセージ: データベースのバージョンに互換性がありません (incompatible database version)

説明: 要求元のプロセスまたは vmd で、無効または不明なデータベースや通信プロトコルが検出されました。このエラーの影響を受ける可能性があるデータストアは、ボリューム、ボリュームプール、バーコード規則、グローバルデバイスデータベース、共有ドライブ情報です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 対象のコンポーネント (vmd およびデーモンやサービス、ローカルホストやリモートホストのユーザーインターフェースなど) を特定します。すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。どの要求で無効なバージョンが検出されたかによって、データベースが破損しているかどうかを判断します。適切なインターフェースを使用して、エラー状態に関連する情報を問い合わせます。

Media Manager の状態コード 147

メッセージ: 無効なオフサイトのスロットです (invalid off-site slot)

説明: ボリュームのオフサイトスロット場所の変更が要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- オフサイトスロットの値を、0 から 2,147,483,647 の範囲内で指定します。

Media Manager の状態コード 148

メッセージ: 無効なオフサイトのセッション ID です (invalid off-site session ID)

説明: ボリュームのオフサイトセッション ID の変更が要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- オフサイトセッション ID の値を、0 から 2,147,483,647 の範囲内で指定します。

Media Manager の状態コード 149

メッセージ: 現在のバージョンはこの構成をサポートしていません (current version does not support this configuration)

説明: ライセンスが与えられていない機能への参照が試行されたため、要求を実行できません。たとえば、ライセンスが与えられた製品では無効であるメディア形式のボリュームの追加を試行する要求などです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- インストールされているライセンスキーのリストを表示して、参照している機能が、現在インストールされているライセンスキーでサポートされていることを確認します。外部オブジェクトの形式を定義しているデータベースが、適切で、破損していないことを確認します。これらのデータベースファイルは、`/usr/openv/var/global` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *install_path*`¥NetBackup¥var¥global` フォルダ (Windows の場合) に存在する、次のファイルです。
  - `external_densities.txt`
  - `external_drivetypes.txt`
  - `external_mediatypes.txt`
  - `external_robotics.txt`

Media Manager の状態コード 150

メッセージ: このホストを最大許容数を超えて登録しています (registering this host would exceed the maximum allowed)

説明: EMM/DA が、現在登録されていないホストから共有ドライブの登録要求を受信しましたが、この EMM/DA で登録できるホストの最大数に達しています。現在、EMM/DA で登録できるホストの最大数は 255 です。

推奨処置:

- SSO 構成のホスト数を 255 以下に制限します。
- メディアおよびデバイスの管理ドメインを複数のドメインに分割し、すべてのドメインにおいて、共有ドライブを登録するホストを 255 以下にします。

Media Manager の状態コード 152

メッセージ: グローバルデバイスデータベースレコードが見つかりません (global device database record not found)

説明: グローバルデバイスデータベースレコードの更新が要求されましたが、指定されたレコードがグローバルデバイスデータベースで検出されませんでした。この状態は、グローバルデバイスデータベースホストの変更後にデバイスの構成が変更された場合に発生します。

推奨処置: レコードが存在しないためにレコードを更新する要求が失敗した場合、不足しているレコードの追加が要求されます。処置は必要ありません。

Media Manager の状態コード 153

メッセージ: デバイスエントリがグローバルデバイスデータベースで一意ではありません (device entry is not unique in global device database)

説明: グローバルデバイスデータベースレコードの追加が要求されましたが、既存のレコードと同じレコードが指定されました。この状態は、2 つのプロセスによって、同じホスト上でデバイス構成が同時に更新された場合に発生します。

推奨処置:

- 変更が 1 つのソースから行われるように、デバイス構成への変更を調整します。
- サーバー (データベース) 側のグローバルデバイスデータベースの変更状況については、デーモンのデバッグログファイルで、詳細なエラーメッセージを調べます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 155

メッセージ: グローバルデバイスデータベースの追加操作に失敗しました (global device database append operation failed)

説明: デバイス構成の変更が要求されましたが、グローバルデバイスデータベースレコードをグローバルデバイスデータベースファイルに書き込むことができません。

推奨処置:

デーモンのデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 160

メッセージ: グローバルデバイスデータベースのデバイス形式が無効です (the global device database device type is invalid)

説明: デバイス構成の変更要求で、無効なデバイス形式が検出されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 対象のホストを特定します。そのホストのすべての Media Manager バイナリが、構成に含まれる他のホストと互換性があるバージョンであることを確認します。必要に応じて、ソフトウェアを更新します。

Media Manager の状態コード 162

メッセージ: グローバルデバイスデータベースのデバイス名が無効です (the global device database device name is invalid)

説明: デバイス構成の変更要求で、検出されたデバイス名が無効であるか、存在しません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 対象のホストを特定します。そのホストのすべての Media Manager バイナリが、構成に含まれる他のホストと互換性があるバージョンであることを確認します。必要に応じて、ソフトウェアを更新します。

Media Manager の状態コード 163

メッセージ: 要求された操作は失敗しました (the operation requested has failed)

説明: 要求された操作が失敗しました。原因は特定できません。

推奨処置: このエラーは多くの原因によって発生します。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 164

メッセージ: ロボットデーモンが無効なボリューム GUID を戻しました (the robotic daemon returned an invalid volume GUID)

説明: RSM API から無効な RSM GUID が戻されました。(RSM は Microsoft リムーバブル記憶域マネージャです。GUID はグローバル一意識別子です。)

推奨処置:

- システムのアプリケーションログ、リムーバブルストレージシステムインターフェースおよびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。デーモンのデバッグログファイルから、無効な RSM GUID を持つメディア ID を特定します。
- ソフトウェアコンポーネント間に互換性があることを確認します。

Media Manager の状態コード 165

メッセージ: 評価期間が終了しました。この製品のお求めについては、Web サイト www.veritas.com を参照してください。(Evaluation period expired. Go to www.symantec.com to order this product.)

説明: NetBackup の評価期間が終了しました。

ご購入の際には、メッセージに示されている URL または `www.veritas.com/enterprise/` にアクセスしてください。

推奨処置: ライセンス製品版の NetBackup を入手します。

Media Manager の状態コード 166

メッセージ: メディアアクセスポートは利用できません (media access port not available)

説明: ロボットライブラリの中または外へのボリュームの物理的な移動が要求されましたが、メディアアクセスポートが利用できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 移動要求が、互換性のない、以前のバージョンのソフトウェアが実行されているシステムのロボット制御デーモンまたはロボット制御プロセスに送信されていないことを確認します。
- 対象のロボット制御デーモンまたはロボット制御プロセスが、正常に動作していることを確認します。

Media Manager の状態コード 167

メッセージ: データベース内で ADAMM GUID が一意ではありません (ADAMM GUID is not unique in the database)

説明: 追加または変更された EMM データベース内のボリュームエントリに、ADAMM GUID が指定されました。これは、すでに EMM データベース内に存在する他のボリュームの ADAMM GUID と同じ ADAMM GUID です。EMM データベース内のすべてのボリュームは、一意または NULL の ADAMM GUID を持つ必要があります。(ADAMM は Advanced Device and Media Management、GUID はグローバル一意識別子です。)

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デーモンのデバッグログファイルから、追加または変更されるボリュームエントリと競合する ADAMM GUID が存在するボリュームを判断します。

Media Manager の状態コード 168

メッセージ: データベースに ADAMM GUID が存在しません (ADAMM GUID does not exist in database)

説明: EMM データベースに対して指定された ADAMM (Advanced Device and Media Management) GUID の問い合わせが実行されましたが、指定された条件と一致するボリュームが検出されませんでした。(GUID はグローバル一意識別子です。)

推奨処置: ADAMM GUID がデータベースに存在しないメディアに対して `vmphyinv` を実行します。

Media Manager の状態コード 169

メッセージ: 内部データベースアクセスの失敗 (internal database access failure)

説明: 6.0 より前のバージョンの NetBackup サーバーからドライブ状態を更新中に EMM に問題が発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

Media Manager の状態コード 171

メッセージ: スクラッチプールはすでに定義されています (a scratch pool is already defined)

説明: 他のスクラッチプールがすでに存在するため、新しいスクラッチプールを定義できません。

推奨処置: すでに定義されているスクラッチプールを使用するか、現在のスクラッチプールを削除して新しいスクラッチプールを作成します。

Media Manager の状態コード 172

メッセージ: プールがスクラッチプールとして定義されていません (pool not defined as a scratch pool)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、スクラッチプールとして定義されていないスクラッチプールの削除 (設定解除) が試行されました。

推奨処置: スクラッチプールを削除するには、vmpool コマンドを実行します。この場合、unset_scratch オプションで指定したプール名が正しいスクラッチプール名であることを確認します。

Media Manager の状態コード 173

メッセージ: スクラッチプール名が無効です (invalid scratch pool name)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースが、NetBackup、DataStore または None プールを、スクラッチプールとして指定しようとしました。NetBackup、DataStore および None プールは、スクラッチプールとして指定できません。

推奨処置: 異なる名前のスクラッチプールを作成します。

Media Manager の状態コード 175

メッセージ: デバイステストの状態ファイルを開けません (unable to open the device test state file)

説明: プロセスが状態ファイルを開くことができません。他のプロセスによってファイルがロックされている可能性があります。

推奨処置: 状態ファイルを再度開きます。状態ファイルを開けない場合、ファイルを削除することが必要な場合があります。ファイルを削除すると、以前に実行されたテストが消失する可能性があります。

Media Manager の状態コード 176

メッセージ: デバイステストデータベースのレコードが見つかりません (unable to find any records in the device test database)

説明: 状態ファイルは存在しますが、空です。このエラーは、以前にテストが実行されていないことを示します。

推奨処置: 特にありません。

Media Manager の状態コード 177

メッセージ: 要求は、メディアおよびデバイスの管理ドメインサーバーでのみ実行できます (request can only be performed on the Media and Device Management Domain Server)

説明: この要求が実行されたホストは、データベースホストとして割り当てられないように制限されています。管理者がホストをブロックして、EMM サーバーとして割り当てられるホストを制限します。

推奨処置:

- 適切な EMM サーバーが指定されていることを確認します (コマンドラインで `-h` オプションを使用します)。データベースホストが指定されていない場合、コンソールでは現在管理中のホストが使用され、コマンドラインではデフォルトでローカルホストが使用されます。
- この構成に責任を持つ管理者に連絡して、このホストがデータベースホストとして割り当てられないように意図的に制限されているかどうかを確認します。意図的に制限されていない場合、ホストの `vm.conf` ファイルで NOT_DATABASE_HOST フラグを削除します。デーモンを停止して再起動することなくこの操作を行うには、`vmquery -h <hostname> -remove_not_db_host` を実行します。
  デーモンを停止して再起動することなくこのエントリをホストに追加するには、`vmquery -h <hostname> -add_not_db_host` を実行します。

Media Manager の状態コード 181

メッセージ: ロボットデーモンに接続する認可が行われていません (not authorized to connect to robotic daemon)

説明: ロボットデーモンからサービスを要求しているユーザーが認証または認可されていません。または、2 つのシステムによる相互認証の試行中に問題が発生しました。

推奨処置:

- Media Manager のセキュリティについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
  Media Manager のセキュリティは、NetBackup の認証および認可に基づきますが、Media Manager の構成ファイルの SERVER エントリを処理するための拡張機能が含まれます。
- デバッグログファイルで、認証および認可の問題についての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- vmd の認可が失敗しているかどうかを判断します。デバッグログファイルで Media Manager の状態コード 126 ([vmd に接続する認可が行われていません (not authorized to connect to vmd)]) を調べます。
- 認証構成、AUTHORIZATION_REQUIRED エントリ、ENABLE_ROBOT_AUTH エントリおよび SERVER エントリを調整して、Media Manager のセキュリティの構成を修正します。
- 構成ではなく、認証に問題がある可能性がある場合、次のように実行します。
  - 問題があるシステムの methods_allow.txt ファイルを調べて、認証が有効であることを確認します。ファイルの場所は、次のとおりです。
    Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥auth
    UNIX と Linux の場合: /usr/openv/var/auth
  - 認証に問題があるシステムの methods_allow.txt ファイルから、認証されていないリモートホストを削除して、操作を再試行します。
    たとえば、ホスト A およびホスト B に問題がある場合、ホスト B のファイルからホスト A を削除し、ホスト A のファイルからホスト B を削除します。
    問題が解決しない場合、エラーの原因は、認証に関連しない接続の問題です。
    削除した名前を追加して、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 182

メッセージ**:** デバイステストの状態ファイルが存在しません (device test state file does not exist)

説明**:** 状態ファイルが存在しません。原因として、以前にテストが実行されていない可能性があります。

推奨処置**:** 状態ファイルが消失している場合、以前に実行されたすべてのテストも消失しています。再度テストを実行することをお勧めします。

Media Manager の状態コード 185

メッセージ**:** ロボットライブラリに空きがありません。MAP 内にメディアが残っている可能性があります。(the robotic library is full and may still have media in its map)

説明**:** ロボットインベントリの更新中に、ユーザーが empty_map オプションの使用を試みました。MAP に、ライブラリの空き容量よりも大きな容量を持つメディアが存在します。

この場合、インベントリの更新は成功しますが、empty_map は部分的にしか成功しません。MAP に残っているメディアは変更されず、EMM データベースに追加されません。

推奨処置: MAP に残ったままでライブラリに移動されていないメディアがあることを確認すること以外に、ユーザーが行う必要のある処置はありません。

Media Manager の状態コード 186

メッセージ: コンテナ ID が無効です (invalid container ID)

説明: NetBackup Vault のコンテナ ID に無効な文字が使用されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 無効な文字が含まれていないコンテナ ID を使用して、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 187

メッセージ: VxSS の認証に失敗しました (VxSS authentication failed)

説明: ソケットの接続の両端のパーティが相互に認証できません。

推奨処置:

- Veritas Product Authentication Service がインストールされ、構成されていることを確認してください。
  インストール手順については、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- `bpnbat -WhoAmI` を実行して表示される有効期限を調べ、両方のパーティに有効な証明書があることを確認します。たとえば、

```
bpnbat -WhoAmI
Name: JDOG
Domain: MYCOMPANY
Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
Expiry Date: Sep 19 12:51:55 2009 GMT
Authentication method: Microsoft Windows
Operation completed successfully.
```

- 有効期限は 2009 年 9 月 19 日であることがわかります。12:51:55 GMT を過ぎるとこのクレデンシャルは無効になり、新しいクレデンシャルが必要になります。

- NetBackup 管理コンソールから実行している場合、コンソールを閉じて再度開きます。 可能な場合、コンソールでは、現在ログインしている識別情報のクレデンシャルが自動的に取得されます。デフォルトでは、これらの証明書は24 時間有効です。 次に、クレデンシャルを 24 時間から 30 日 (2592000 秒) に延長する方法について例を示します。
- `# vssat setexpiryintervals -p <plugin_name> -t <user> -e 2592000`
- 両方のパーティの証明書で同じブローカーが使用されているか、または同じルートブローカーの子であるか、あるいは両方のパーティ間に信頼関係が確立されていることを確認します。
  ブローカーの階層およびブローカー間に信頼関係を確立する方法に関する詳細情報が利用可能です。
  『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- 対象となる物理システムの間で、接続が可能であることを確認します。マシン間に一般的なソケット (`ping`、`telnet` など) を接続できない場合、この問題は、NetBackup とは関連のないネットワーク内の問題が原因である可能性があります。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - `/home/username`
  - `/usr/openv/netbackup/logs`
  - `/tmp`

Media Manager の状態コード 188

メッセージ**:** VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明**:** 操作の試行のために使用したユーザー識別情報には、その操作の実行に必要な権限がありません。

推奨処置**:**

- デフォルトのグループを使用している場合、ユーザーが実行しようとしている操作が、そのグループにとって適切であることを確認します。たとえば、NBU_Operators のメンバーは、ポリシー情報の変更を行うことができません。ポリシー情報を変更する権限は、管理者ロールに限定されています。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - `/home/username`
  - `/usr/openv/netbackup/logs`
  - `/tmp`
- 独自の定義済みグループおよびアクセス権を使用している場合、まず、操作を関連付けるオブジェクトを判断します。 その後、その操作に関連する権限を追加します。

たとえば、ドライブの起動および停止の操作を必要とするユーザーが現在その権限を所有していないとします。この場合は、ユーザーが適切な認可グループに属することを確認します。
必要に応じて、[グループの権限 (Group Permissions)]タブで、グループがドライブオブジェクトに対する起動および停止権限を所有していることを確認します。また、必要に応じて、NetBackup の詳細度レベルを上げて、失敗した要求に必要とされるオブジェクトおよび権限を特定できます。デバッグログの該当する行に、次のようなメッセージが表示されます。

```
17:19:27.653 [904.872] <2> GetAzinfo: Peer Cred Info.
Name: JMIZZLE
Domain: MYCOMPANY
Expiry: Sep 24 21:45:32 2003 GMT
Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
 AuthType: 1
17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5082:
Function: VssAzAuthorize. Object
NBU_RES_Drives
17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5083:
Function: VssAzAuthorize. Permissions Up
17:19:40.171 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5166:
Function: VssAzAuthorize. 20 Permission denied.
```

この例では、ユーザー JMIZZLE は、ドライブオブジェクトに対して起動権限が必要な操作を実行しようとしています。問題を診断するには、JMIZZLE が属するグループを調べて、該当するグループが起動権限を所有していることを確認する必要があります。(起動権限は、ドライブに対する操作権限セットに含まれています。)

Media Manager の状態コード 189

メッセージ: Enterprise Media Manager への接続の初期化に失敗しました (failed to initialize a connection to the Enterprise Media Manager)

説明: EMM サーバーへの接続の初期化要求が失敗したか、接続はすでに初期化されていました。

推奨処置:

- `pbx_exchange` および `nbemm` が実行中であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- tpconfig -d または vmquery -a コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

Media Manager の状態コード 190

メッセージ: デバイスアロケータに送信された要求が失敗しました。(the request sent to the Device Allocator has failed.)

説明: DA (EMM サーバー) でのドライブの予約または解放要求が失敗しました。

推奨処置:

- pbx_exchange および nbemm が実行中であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- tpconfig -d または vmquery -a コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。
- DA のドライブ予約要求の場合、ドライブが他のホストに予約されていないことを確認します。
- DA のドライブ解放要求の場合、ドライブが、DA による解放を要求しているホストに DA によって予約され、まだ解放されていないことを確認します。

Media Manager の状態コード 191

メッセージ: EMM 引数が無効です (invalid EMM argument)

説明: EMM サーバーへの呼び出しに無効な引数が指定されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 192

メッセージ: 不明な EMM エラーコード (unknown EMM error code)

説明: EMM サーバーから不明なエラーが戻されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 193

メッセージ: 一般的な EMM SQL エラー (generic EMM SQL error)

説明: EMM サーバーで、基礎となるデータベースからのエラーが受信されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 194

メッセージ: EMM データベースレコードが見つかりません (EMM DB record not found)

説明: NetBackup のアップグレード時に、必要なホストが正しい順序でアップグレードされませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 『NetBackup インストールガイド』に記載されているとおり、適切な順序でアップグレードを行っていることを確認します。

Media Manager の状態コード 195

メッセージ: CORBA 通信エラー (CORBA communication error)

説明: EMM サーバーとの通信の試行中に問題が発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- Veritas Private Branch Exchange (VxPBX) が新しい要求を処理していることを確認します。
- EMM サーバーが新しい要求を処理していることを確認します。

Media Manager の状態コード 196

メッセージ: EMM データベースエラー (EMM database error)

説明: EMM サーバーによって戻されたエラーが、呼び出し元のプログラムに認識されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM サーバーが新しい要求を処理していることを確認します。

Media Manager の状態コード 198

メッセージ: プールがカタログバックアッププールとして定義されていません (pool not defined as a catalog backup pool)

説明: カタログバックアップ属性が設定されていないプールに対して、カタログバックアップ属性の削除が試行されました。

推奨処置: この操作で適切なプール名が使用されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 199

メッセージ: メディアは使用できるように割り当てられています (the media is allocated for use)

説明: 使用中のメディアに対する変更が要求されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアを使用していないときに、操作を再試行します。

3

デバイス構成の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- デバイス構成の状態コード

デバイス構成の状態コード

デバイス構成の状態コードは、tpconfig コマンドや tpautoconf コマンドの終了状態とコマンド出力、およびシステムログやデバッグログに表示されます。また、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェースや、vmoprcmd コマンドなど、tpconfig および tpautoconf を呼び出すプログラムによってもこれらのコードが表示されます。

デバイス構成の状態コード 0

メッセージ: 成功 (Success)

説明: 要求された操作が正常に完了しました。

推奨処置: なし

デバイス構成の状態コード 1

メッセージ: コマンドを実行できません。アクセス権が拒否されました (Cannot execute command, permission denied)

説明: root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を所有しないユーザーまたはプロセスによって、プロセスが起動されました。または、EMM サーバー名を設定できません。

推奨処置:

- 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、デバイスの構成要求を再発行します。

- 次の手順を実行して、共通の EMM サーバー名を設定します。
  - 他のホストで `tpautoconf -get_gdbhost` を実行します。
  - 次のように指定して、EMM サーバー名を設定します。

    ```
    tpautoconf -set_gdbhost host_name
    ```

    ここで、*host_name* は、`tpautoconf -get_gdbhost` によって戻されるホスト名です。

デバイス構成の状態コード 2

メッセージ: device_mappings ファイルのライセンス情報が無効です (The device_mappings file has invalid license info)

説明:

`/usr/openv/share/device_mappings.txt` (UNIX と Linux の場合) または *install_path*`¥VERITAS¥NetBackup¥share¥device_mappings.txt` (Windows の場合) のいずれかのファイルに、次のような問題があります。

- ファイルが存在しません。
- ファイルは、異なるバージョンの NetBackup 用のファイルです。ファイルのヘッダーを参照して、どのバージョン用のファイルかを調べることができます。
- ファイルのライセンスダイジェストが破損しています。

推奨処置: 次のベリタスのサポート Web サイトから最新のデバイスマッピングファイルをダウンロードします。

www.veritas.com/support

デバイス構成の状態コード 3

メッセージ: ホスト名を取得できませんでした (Could not get host name)

説明: このホストのホスト名の検索が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ホスト名が解決可能であることを確認します。

デバイス構成の状態コード 7

メッセージ: ロボットの SCSI ポート番号が無効 (Invalid SCSI port number for the robot)

説明: ロボットの SCSI ポート番号の追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI ポート番号が無効です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 適切な SCSI ポート番号をロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI ポート番号を取得します。

デバイス構成の状態コード 8

メッセージ: ロボットの SCSI バス番号が無効 (Invalid SCSI bus number for the robot)

説明: ロボットの SCSI バス番号の追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI バス番号が無効です。

推奨処置: 適切な SCSI バス番号をロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI バス番号を取得します。

デバイス構成の状態コード 9

メッセージ: ロボットの SCSI ターゲットが無効 (Invalid SCSI target for the robot)

説明: ロボットの SCSI ターゲットの追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI ターゲットが無効です。

推奨処置: 適切な SCSI ターゲットをロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI ターゲットを取得します。

デバイス構成の状態コード 10

メッセージ: ロボットの SCSI 論理ユニット番号が無効 (Invalid SCSI logical unit number for the robot)

説明: ロボットの SCSI 論理ユニット番号の追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI 論理ユニット番号が無効です。

推奨処置: 適切な SCSI 論理ユニット番号をロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI 論理ユニット番号を取得します。

デバイス構成の状態コード 11

メッセージ: 使用方法が無効 (Invalid Usage)

説明: Media Manager のデバイス構成コマンド (`tpconfig` または `tpautoconf`) のいずれかが不適切なオプションを指定して実行されました。または、製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig` または `tpautoconf` の使用方法の説明を確認して、新しいプロセスを起動するために送信されたパラメータと比較します。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス構成の状態コード 13

メッセージ: ドライブまたはロボットの構成ファイルの読み込みに失敗しました (Failed reading drive or robot config file)

説明: デバイス構成の表示が要求されましたが、EMM データベースからの読み込み中にエラーが発生しました。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `nbemm` が実行中であることを確認します。デバイス構成を表示して、データベースが破損していないかどうかを判断します。カタログバックアップから、保存されているデータベースのリストアを行うか、データベースを削除し、必要なデバイス構成を再作成します。

デバイス構成の状態コード 14

メッセージ: 無効なドライブインデックス (Invalid drive index)

説明: ドライブ構成エントリの追加、更新または表示が要求されましたが、指定されたドライブインデックスは、構成されているドライブに関連付けられていません。

推奨処置:

- デバイス構成を表示して、有効なドライブのリストを取得します。複数のソースから同時にデバイス構成を変更しないでください。
- 詳細が必要な場合、デーモンのデバッグログ、およびコマンドやインターフェースの出力で、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 15

メッセージ: 無効なロボット番号 (Invalid robot number)

説明: デバイス構成の変更要求で、指定されたロボット番号が指定可能な範囲内にないか、ロボット番号が現在構成されているロボットに対応していないか、またはロボットデータベースが破損しています。

推奨処置:

- ロボット番号を 0 から 32767 の範囲で指定します。
- すべてのデバイス構成の変更または削除が、現在デバイス構成に含まれているデバイスに対して実行されていることを確認します。
- nbemm が実行中であることを確認します。カタログバックアップから、保存されているロボットデータベースのリストアを行うか、データベースを削除し、必要なロボット構成情報を再作成します。

デバイス構成の状態コード 16

メッセージ: デバイスに送信された SCSI 照会が失敗しました (A SCSI inquiry sent to the device has failed)

説明: SCSI ロボットライブラリまたはドライブの追加または更新要求で、Media Manager によるデバイスのシリアル番号の取得および文字列の問い合わせができません。この情報は、Media Manager によってデバイスに送信される SCSI 問い合わせコマンドによって取得されます。この失敗は、SCSI を使用して NetBackup がデバイスと通信できなかったことを示します。

推奨処置:

- デバイスが物理的に接続されていることを確認します。

- デバイスを認識するようにオペレーティングシステムが構成されていて、オペレーティングシステムからデバイスを参照できることを確認します。
- 他のプロセスがデバイスを使用しておらず、デバイスがオフラインでないことを確認します。

デバイス構成の状態コード 17

メッセージ: このロボット形式は複数のメディア形式をサポートしません (This robot type does not support multiple media types)

説明: 異なるドライブ形式のドライブがロボットライブラリに構成されているため、ロボットドライブの追加または更新の試行に失敗しました。(NetBackup ロボットライブラリの形式によっては、複数のメディア形式はサポートされていません。)

複数のメディアがサポートされている NetBackup ロボットライブラリの形式については、『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

推奨処置:

- このロボットライブラリのすべてのドライブを同じドライブ形式に構成します。
- 現在 NetBackup Server を使用しており、複数のメディア形式がサポートされているロボットライブラリが必要な場合は、ベリタスに連絡して NetBackup Enterprise Server をご購入ください。

デバイス構成の状態コード 18

メッセージ: 無効なロボット形式 (Invalid robot type)

説明: デバイス構成の変更要求で、指定されたロボット形式が無効です。または、指定されたロボット番号に関連付けられたロボットのロボット形式と一致しませんでした。

推奨処置:

- 構成されたロボットをデバイス構成で確認して、更新するデバイス構成情報に適用可能な、適切なロボット形式を指定します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス構成の状態コード 19

メッセージ: 無効なデバイスパス名 (Invalid device path name)

説明: デバイス構成の変更要求で、指定されたデバイスパスまたはデバイス名が無効です。

推奨処置:

- 無効なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、(デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成ウィザードを使用します。ウィザードによってデバイスパスおよびデバイス名が自動的に構成されるようにします。
- Windows ホストの場合、オペレーティングシステムの構成またはレジストリでデバイス名を確認して、NetBackup のオンラインヘルプで `tpconfig` コマンドを参照してください。UNIX および Linux ホストに関する情報が利用可能です。
  『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。
  UNIX および Linux ホストに接続されたドライブでは非巻き戻しデバイスファイルを常に使用します。指定したデバイスパスが、文字型特殊ファイルとして存在することを確認します。コマンドまたはユーザーインターフェースの出力で、エラーの詳細を確認します。

デバイス構成の状態コード 21

メッセージ: ロボット番号はすでに使用されています (Robot number is already in use)

説明: デバイス構成へのロボットの追加要求で、指定されたロボット番号が他のロボットですでに使用されていることが検出されました。

推奨処置: すべてのデバイスホストのデバイス構成で、構成されているロボットを確認して、まだ使用されていないロボット番号を指定します。次のコマンドを実行すると、EMM データベース内のすべてのデバイスが表示されます。

```
tpconfig -emm_dev_list
```

デバイス構成の状態コード 22

メッセージ: デバイスパスはすでに使用されています (Device path is already in use)

説明: デバイス構成へのロボット情報の追加要求または変更要求で、指定されたロボットデバイスパスが、他の構成済みロボットで使用されています。

推奨処置:

- すでに使用中のデバイスパスを構成しないようにするには、(デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成ウィザードを使用します。ウィザードによってデバイスパスおよびデバイス名が自動的に構成されるようにします。

- `tpconfig -d` またはデバイスの構成インターフェースを使用してデバイス構成を表示し、すでに構成済みのロボット情報を参照します。Windows ホストには、ロボットを構成するための複数の方法 (チェンジャ名またはポート、バス、ターゲット、LUN) が存在します。オペレーティングシステムの構成またはレジストリでチェンジャ名および関連する SCSI パスを確認します。コマンドまたはユーザーインターフェースの出力で、エラーの詳細を確認します。

デバイス構成の状態コード 24

メッセージ**:** 不完全なロボット情報 (Incomplete robot information)

説明**:** デバイス構成の変更要求で、必要なロボット情報の一部が指定されませんでした。

推奨処置**:** コマンドの使用方法を確認し、すべての必要なロボット情報を指定して要求を再発行します。

デバイス構成の状態コード 25

メッセージ**:** ロボットドライブ番号はこのロボットに使用されています (Robot drive number in use for this robot)

説明**:** デバイス構成の変更要求で、ロボットの指定されたドライブアドレスが、デバイス構成内の他のドライブで使用されています。

推奨処置**:** ロボットのドライブアドレスは、多くのロボット形式ではロボットドライブ番号です。ACS ロボットでは、ACS/LSM/PANEL/DRIVE 座標で、TLH ロボットおよび TLM ロボットでは、ベンダーのドライブ名です。特定のデバイス構成内の 1 つのロボットに存在する 2 つのドライブが、同じドライブアドレスを持つことはできません。ドライブアドレスを調整する必要がある場合、ドライブの一方を削除するか、使用されていないドライブアドレスを一時的に使用します。たとえば、あるロボットにロボットドライブ番号 1 および 2 の 2 台のドライブが存在し、それらのドライブ番号を交換する必要があるとします。この場合、いずれかのドライブを一時的にロボットドライブ番号 3 に変更します。その後、もう一方のドライブを使用されていないロボットドライブ番号 (1 または 2) に変更します。最後に、最初のドライブを空いているロボットドライブアドレス (1 または 2) に変更します。

デバイス構成の状態コード 27

メッセージ**:** ロボットのドライブ形式が無効 (Invalid drive type for the robot)

説明**:** ロボット内へのドライブの構成要求で、ドライブ形式が、選択されたロボット形式に対して無効です。

推奨処置**:** 次のマニュアルのロボット属性に関する表を確認して、特定のロボット形式で有効なメディア形式を判断します。

『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

ドライブ形式は、示されているメディア形式に直接対応します。サポートされているデバイスを構成して、ドライブ形式とロボット形式の無効な組み合わせを要求することがないようにします。

デバイス構成の状態コード 28

メッセージ: このロボット形式では無効なロボットドライブ番号です (Invalid robot drive number for the robot type)

説明: ロボット内へのドライブの構成要求で、ロボットドライブ番号が、選択されたロボット形式に対して無効です。

推奨処置: ロボットドライブ番号 (ACS ロボットの場合、ACS ドライブ識別子のセット) は、ロボット形式に基づいて一定の範囲に制限されています。これらの制限は、サポートされているデバイスリストに基づいています。無効なロボットドライブ番号は、ドライブ番号が許容範囲内にないことを意味します。ロボットハードウェアがサポートされていて、ロボットライブラリのサポートに必要なパッチがインストールされていることを確認します。ロボット形式が TLH または TLM の場合、そのドライブはベンダーのドライブ名を使用して処理されるため、ロボットドライブ番号は指定しないでください。

デバイス構成の状態コード 29

メッセージ: ドライブインデックスは、別のドライブが使用しています (Drive index is in use by another drive)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求で、要求されたドライブインデックスが、対象のデバイスホストで使用されています。

推奨処置:

- すでに使用中のドライブインデックスを構成しないようにするには、(デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成ウィザードを使用します。ウィザードによってドライブインデックスが自動的に構成されるようにします。
- ドライブインデックスの指定が可能なデバイスの構成インターフェースを使用している場合、`tpconfig -d` を実行して、対象のデバイスホストですでに使用されているドライブインデックスを判断します。その後、まだ使用されていないドライブインデックスを指定します。

デバイス構成の状態コード 30

メッセージ: ロボット番号は別のロボットによって使用されています (Robot number is in use by another robot)

説明: デバイス構成へのロボットドライブの追加要求または更新要求で、指定されたロボット番号とロボット形式が、異なるロボット形式の既存のロボットに関連付けられていました。

推奨処置: 対象のデバイスホストのデバイス構成を確認して、構成されているロボットを識別します。ドライブの構成要求で、ドライブを含むロボットに関連するロボット番号およびロボット形式を指定します。

デバイス構成の状態コード 31

メッセージ: ロボット番号が存在しません (Robot number does not exist)

説明: デバイス構成へのドライブやロボットの追加要求または更新要求で、指定されたロボット番号およびロボット形式が、対象のデバイスホストで構成されたロボットに関連付けられていませんでした。

推奨処置: 対象のデバイスホストのデバイス構成を確認して、構成されているロボットを識別します。ロボットドライブとして構成するすべてのドライブには、そのデバイスホストで事前にロボットを構成する必要があります。リモートホストでロボット制御を行う共有ロボットライブラリには、ロボット制御を行うリモートホストを参照する論理ロボットエントリが必要です。最初にロボットをデバイス構成に追加します。次にドライブを追加します。ドライブをロボット内に定義します。ロボットがすでに構成されている場合、ドライブまたはロボット構成要求で、適切なロボット番号およびロボット形式を指定します。

デバイス構成の状態コード 33

メッセージ: ロボット形式をローカルで制御する必要があります (Robot type must be controlled locally)

説明: デバイス構成へのロボットの追加または更新要求で、リモート制御ホストをサポートしていないライブラリ形式に対してリモート制御ホストが指定されました。

推奨処置:

- 正しいロボット形式を構成していることを確認します。
- ローカルデバイスパスを使用してローカル制御のデバイスを構成します。

デバイス構成の状態コード 34

メッセージ: ドライブ名は、別のドライブがすでに使用しています (Drive name is already in use by another drive)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求または更新要求で、要求されたドライブパスが、対象のデバイスホストで使用されています。

推奨処置:

- すでに使用中のパスを構成しないようにするには、(デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成ウィザードを使用します。ウィザードによってドライブパスが自動的に構成されるようにします。
- 構成を変更する前に、デバイスの構成インターフェースを使用して既存のドライブ構成を確認します。または、`tpconfig -d` を実行して、対象のデバイスホストですでに使用されているドライブパスを判断します。その後、まだ使用されていないドライブパスを指定します。

デバイス構成の状態コード 35

メッセージ: ドライブ名は存在しません (Drive name does not exist)

説明: デバイス構成内のドライブの更新要求または削除要求で、指定されたドライブ名を持つドライブが、対象のデバイスホストで検出されませんでした。

推奨処置: 対象のデバイスホストのデバイス構成を確認して、構成されているドライブを識別します。ドライブ構成を変更または削除する場合、構成されているとおりのドライブ名を指定します。大文字と小文字の区別に注意してください。

デバイス構成の状態コード 36

メッセージ: <NONE>

説明: デバイス構成の変更要求で、エラーが発生しました。エラーについての詳細なメッセージは、コマンドまたはユーティリティインターフェースの出力に表示されています。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログ、およびコマンドやインターフェースの出力で、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバイス構成要求を再試行し、ログを調べます。

デバイス構成の状態コード 37

メッセージ: 共有ドライブサポートで位置情報を認可されていません (Residence is not licensed for shared drive support)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求または更新要求で、ドライブが共有ドライブとして指定されましたが、そのドライブのドライブ形式またはドライブに関連付けられたロボットのロボット形式で共有ドライブがサポートされていません。

推奨処置: サポートされているデバイス構成については、テクニカルサポートの Web サイトと製品のマニュアルを確認してください。

デバイス構成の状態コード 38

メッセージ: 現在のバージョンはリモートデバイスホストをサポートしていません (Current version does not support remote device host)

説明: EMM サーバーの変更要求で、指定されたホストがローカルホストではありません。現在のソフトウェアのライセンスでは、リモートホストは使用できません。

推奨処置: 製品のマニュアルで、サポートされているデバイス構成を確認します。追加のソフトウェアライセンスを取得してリモートホストを構成するか、構成要求でローカルホスト名だけを指定します。

デバイス構成の状態コード 39

メッセージ: このドライブを最大許容数を超えて追加しています (Adding this drive would exceed the maximum allowed)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求で、対象のホストで、ライセンスによって制限された最大ドライブ数に達しました。

推奨処置: 製品のマニュアルで、サポートされているデバイス構成を確認します。追加のソフトウェアライセンスを取得してより多くのドライブを構成します。または、ドライブ数を現在のライセンスで構成可能な数に制限します。

デバイス構成の状態コード 40

メッセージ: このデバイスを最大許容数を超えて追加しています (Adding this device would exceed the maximum allowed)

説明: デバイス構成へのロボットの追加要求で、対象のホストで、ライセンスによって制限された最大ロボット数に達しました。

推奨処置: 製品のマニュアルで、サポートされているデバイス構成を確認します。追加のソフトウェアライセンスを取得してより多くのロボットを構成します。または、ロボット数を現在のライセンスで構成可能な数に制限します。

デバイス構成の状態コード 41

メッセージ: 端末モードを変更できません (Cannot change terminal mode)

説明: 端末入力モードを cooked や raw へ変更しようとしたとき、システムコールが失敗しました。

推奨処置: ユーザーインターフェースの出力で、失敗したシステムコールに関連するシステムエラーを調べます。その後、オペレーティングシステムのベンダーの推奨事項に従ってトラブルシューティングを行います。

デバイス構成の状態コード 42

メッセージ: その他の作業リポジトリを作成できません (Cannot create miscellaneous working repository)

説明: デバイス構成要求で、所定の作業ディレクトリまたはフォルダが存在せず、また、作成できません。

推奨処置: `/usr/openv/volmgr/misc` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥volmgr¥misc (Windows の場合) を作成できない理由を判断します。Windows の場合、NetBackup Volume Manager サービスおよびデバイスの構成インターフェースが実行されているアカウントを確認します。そのアカウントを database フォルダの[セキュリティ]プロパティと比較します。UNIX および Linux の場合、ユーザーまたはデバイスの構成インターフェースの呼び出し元が、misc ディレクトリを作成する権限を所有するユーザーおよびグループであるかどうかを判断します。

デバイス構成の状態コード 44

メッセージ: デバイスを検出できません。詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください (Cannot discover devices. See the NetBackup Troubleshooting Guide for details.)

説明: デバイスの検出でロックファイルの取得または検証に失敗したか、EMM サーバーに問題があります。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログ、およびコマンドやインターフェースの出力で、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。次のいずれかの状態が発生している可能性があります。
  - ロックファイルの問題: デバイス検出プロセスでは、`/usr/openv/volmgr/misc` ディレクトリ (UNIX と Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥misc ディ

レクトリ (Windows の場合) に tpac.lock という名前のロックファイルが設定されます。これによって、特定のホストで実行される検出のインスタンスが確実に 1 つだけになります。その後、構成を更新する前にデバイス検出プロセスによってロックファイルが確認されます。

- ロックファイルを取得できない場合
  ロックファイルが他の検出プロセスで保持されている可能性があります。この場合、次のエラーが表示されます。

  ```
  another tpautoconf is already running
  ```

  標準の OS プロセスツール (UNIX および Linux では ps、Windows ではタスクマネージャ) を使用して、他の tpautoconf プロセスが実行されているかどうかを判断します。実行されていない場合、ロックファイルを削除して、デバイスの検出を再度実行します。別の tpautoconf プロセスが実行されている場合、そのプロセスが終了するまで待機し、その後、再試行します。

- ロックファイルの確認に失敗した場合
  デバイスの検出に時間がかかる場合、インターフェースにタイムアウトが発生するか、またはユーザーによってそのプロセスが取り消されることがあります。タイムアウトまたはプロセスのキャンセルによって、ロックファイルが削除されます。これによって、デバイス検出プロセスによるデバイス構成の変更は続行されなくなります。このような状況が発生した場合、検出プロセスを再度実行します。

デバイス構成の状態コード 48

メッセージ: RSM はサポートされていません (RSM is not supported)

説明: デバイス構成の変更要求で、RSM (Microsoft リムーバブル記憶域マネージャ) ロボット形式が指定されましたが、RSM ロボット形式はサポートされていません。

推奨処置: サポートされている Media Manager ロボット形式を使用します。

デバイス構成の状態コード 49

メッセージ: グローバルデバイスデータベースのホスト名が無効です (The global device database host name is invalid)

説明: デバイス構成要求で、EMM サーバー名を取得できません。

EMM サーバー名は、bp.conf ファイル (または Windows レジストリ) を読み込むための内部要求を介して取得されます。この要求は、EMMSERVER エントリが設定されていないと失敗する場合があります。

推奨処置: デバイスホストで `tpautoconf -get_gdbhost` を実行して、EMM サーバー名を取得します。必要に応じて `tpautoconf -set_gdbhost` を実行して、EMM サーバー名を設定します。

デバイス構成の状態コード 51

メッセージ: これらの SCSI 座標に互換性のあるデバイスが登録されていません (No compatible device is registered at these SCSI coordinates)

説明: デバイス構成へのロボット情報やドライブ情報の追加要求または変更要求で、指定された SCSI 座標が、システムレジストリ内のデバイスと一致しませんでした。この状態コードは、Windows システムだけに適用されます。

推奨処置: SCSI 座標 (ポート、バス、ターゲットおよび LUN) を手動で指定しないようにするには、デバイス構成ウィザードを使用します。ウィザードによって (デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成要求が完全に自動化されるようにします。または、メディアおよびデバイスの管理インターフェースを使用してシステムレジストリ内のデバイスを表示および選択します。SCSI 座標を手動で構成する場合、指定した座標にデバイスが存在することをオペレーティングシステムのレジストリで確認します。

デバイス構成の状態コード 52

メッセージ: デバイス名が無効です。デバイスから応答がありませんでした。(The device name is not valid, no device responded)

説明: デバイス構成へのロボット情報やドライブ情報の追加要求または変更要求で、指定されたデバイス名を持つデバイスが、システムレジストリで検出されませんでした。このエラーコードは、Windows システムだけに適用されます。

推奨処置: デバイス名を手動で指定しないようにするには、デバイス構成ウィザードを使用します。ウィザードによって (デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成要求が完全に自動化されるようにします。または、メディアおよびデバイスの管理インターフェースを使用してシステムレジストリ内のデバイスを表示および選択します。デバイスを手動で構成する場合、指定した配置情報にデバイスが存在することをオペレーティングシステムのレジストリで確認します。

デバイス構成の状態コード 53

メッセージ: Shared Storage Option (SSO) のライセンスがありません (Shared Storage Option (SSO) is not licensed)

説明: ドライブへのパスの追加に失敗しました。SSO のライセンスがインストールされていないためです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このドライブへのパスが構成されているすべてのサーバーと、この操作が実行されるサーバーに SSO の有効なライセンスがインストールされていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 55

メッセージ: 無効な NDMP ホスト名です (Invalid NDMP host name)

説明: 無効なホスト名が指定されたか、ホスト名が指定されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -dnh` を実行して、ホストが構成されていることを確認します。
- `tpautoconf -list_snapvault_volumes` コマンドの使用方法を確認します。

デバイス構成の状態コード 56

メッセージ: 無効な NDMP ユーザー名です (Invalid NDMP user name)

説明: 無効なユーザー名が指定されたか、ユーザー名が指定されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -dnh` を実行して、ホストが構成されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 57

メッセージ: 内部 NDMP エラー (Internal NDMP error)

説明: NDMP デバイスでエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpautoconf -probe` コマンドの使用方法を確認します。
- NDMP ファイラに接続されているデバイスのシリアル番号の取得および文字列の問い合わせの際に、エラーが発生しました。デバイスがファイラに適切に接続されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 58

メッセージ: NDMP でホストの検証に失敗しました (NDMP failed to verify host)

説明: NDMP の検証機能の使用中にエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpautoconf -verify` コマンドの使用方法を確認します。
- デバイスがファイラに適切に接続されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 59

メッセージ: NDMP がプラットフォームにインストールされていません (NDMP is not installed on platform)

説明: NDMP オプションがこのサーバーにインストールされていません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NDMP オプションが適切にインストールされており、ライセンスを取得済みであることを確認します。
- 対象のプラットフォームで NDMP がサポートされていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 60

メッセージ: 無効な NDMP パスワード (Invalid NDMP password)

説明: 無効な NDMP パスワードが指定されたか、パスワードが指定されていません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- パスワードがメディアサーバーとファイラの両方に対して適切であることを確認します。
- パスワードが、コマンドまたは[NDMP ホスト (NDMP Host)]ダイアログボックスで正しく指定されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 61

メッセージ: NDMP ホストが存在します。変更オプションを使用してください。(NDMP host exists, use change option)

説明: EMM データベースにファイラがすでに存在するため、ファイラの追加に失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig` コマンドのオプションは `-add` ではなく `-update` を使用します。

デバイス構成の状態コード 62

メッセージ: NDMP ホストが存在しません (NDMP host does not exist)

説明: EMM データベースに NDMP ホストが存在しません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig` コマンドの `-add -nh` オプションを使用して、NDMP ホストを追加します。

デバイス構成の状態コード 63

メッセージ: NDMP 要求が失敗しました (NDMP request failed)

説明: NDMP セッションの作成に失敗したか、または NDMP メッセージの送信に失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NAS ファイラのライセンス、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンおよびネットワークの接続を確認します。

デバイス構成の状態コード 64

メッセージ: 無効な NDMP デバイス (Invalid NDMP device)

説明: 無効な NDMP デバイスが指定されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 65

メッセージ: NDMP ロボットが存在します。変更オプションを使用してください。(NDMP robot exists, use change option)

説明: 現在、EMM データベースにロボットが存在しています。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールまたは `tpconfig -update -robot` コマンドを使用して、ロボット構成を変更します。

デバイス構成の状態コード 66

メッセージ: NDMP ロボットが存在しません (NDMP robot does not exist)

説明: 存在しないロボットの更新が要求されました。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールまたは `tpconfig -update -robot` コマンドを使用して、適切なロボットを追加します。

デバイス構成の状態コード 67

メッセージ: NDMP ホストに接続できません。ホスト名を確認してください (Unable to connect to NDMP host verify host name)

説明: NAS ホストへのネットワーク接続に失敗しました。

推奨処置:

- `tpautoconf -verify` コマンドを実行して、ホスト名、ユーザー名およびパスワードを確認します。
- `ping` コマンドを実行して、ネットワークアクセスを確認します。

デバイス構成の状態コード 68

メッセージ: NDMP メッセージを処理できません (Unable to process NDMP message)

説明: NDMP メッセージの処理中に、予期しないエラーが発生しました。

推奨処置: デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 69

メッセージ: NDMP ホストが接続されていません (NDMP host not connected)

説明: NDMP ホストで NDMP メッセージを処理できません。

推奨処置: デバッグログで、エラーの詳細を調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 70

メッセージ: NDMP セッションを作成できません (Unable to create NDMP session)

説明: NAS ファイラへの NDMP 接続のオープン中に、エラーが発生しました。

推奨処置:

- デバッグログで、エラーの詳細を調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpautoconf -verify` コマンドを実行して、ホスト名、ユーザー名およびパスワードを確認します。

- ping コマンドを実行して、ネットワークアクセスを確認します。

デバイス構成の状態コード 71

メッセージ: NDMP get_host_info に失敗しました (NDMP get_host_info failed)

説明: NAS ホストで、ndmp_get_host_info プロトコル要求を適切に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 72

メッセージ: NDMP get_server_info に失敗しました (NDMP get_server_info failed)

説明: NAS ホストで、get_server_info プロトコル要求を正常に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 73

メッセージ: サポートされていない NDMP バージョンです (Unsupported NDMP version)

説明: NetBackup では、NDMP V2、V3 および V4 のテープデバイスがサポートされています。デバイスの自動構成では、V3 および V4 だけがサポートされています。

推奨処置:

- デバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NDMP バージョンを切り替える方法については、NAS ベンダーが提供するマニュアルを参照してください。

デバイス構成の状態コード 74

メッセージ: NDMP の認可エラーです。ユーザー名およびパスワードを確認してください。(NDMP authorization error, verify username/password)

説明: NetBackup は、NAS ホストでユーザー名またはパスワードの認証に失敗しました。

推奨処置: `tpautoconf -verify` コマンドを実行して、ユーザー名およびパスワードを確認します。

デバイス構成の状態コード 75

メッセージ: NDMP config_get_mover_type に失敗しました (NDMP config_get_mover_type failed)

説明: NAS ホストで、config_get_mover_type プロトコル要求を正常に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 76

メッセージ: NDMP config_get_connection_type に失敗しました (NDMP config_get_connection_type failed)

説明: NAS ホストで、config_get_connection_type プロトコル要求を正常に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 77

メッセージ: EMM サーバーに接続できません (Unable to connect to the EMM server)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、EMM サーバーに到達していないか、通信が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `pbx_exchange` および `nbemm` が実行中であることを確認します。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 78

メッセージ: EMM サーバーが要求の処理に失敗しました (The EMM server failed to process the request)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、EMM サーバーに到達していないか、通信が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `pbx_exchange` および `nbemm` が実行中であることを確認します。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 79

メッセージ: このプロセスにメモリを割り当てることができません (Unable to allocate memory for this process)

説明: メモリ割り当て要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 十分なメモリが利用可能であることを確認します。

デバイス構成の状態コード 81

メッセージ: これはドライブパスの操作です。-drpath オプションを使用してください。(This is a drive path operation, use the -drpath option)

説明: `tpconfig` コマンドの `-drpath` オプションを使用せずに、パスの操作が実行されました。このエラーは、`tpconfig -update -drive` を使用してドライブのパスを変更しようとすると発生する場合があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- tpconfig の適切な使用方法を確認して、使用するコマンドを tpconfig -update -drpath に変更します。

デバイス構成の状態コード 82

メッセージ: ドライブ名規則の追加要求が失敗しました (Add Drive Name Rule request failed)

説明: ドライブ名規則の追加要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 追加される規則はすでに存在します。
- 指定されたホストは EMM データベースに存在しません。nbemmcmd -addhost コマンドを実行して、ホストを EMM データベースに追加します。

デバイス構成の状態コード 83

メッセージ: ドライブ名規則の更新要求が失敗しました (Update Drive Name Rule request failed)

説明: ドライブ名規則の更新が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 更新される規則は存在しません。ドライブ名規則が正しく入力されていることを確認してください。
- 指定されたホストには、ローカルドライブ名規則が構成されていません。ドライブ名規則を構成してください。

デバイス構成の状態コード 84

メッセージ: ドライブ名規則の削除要求が失敗しました (Delete Drive Name Rule request failed)

説明: ドライブ名規則の削除要求が失敗しました。グローバルドライブ名規則の追加または削除はできません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
- 指定されたホストには、ローカルドライブ名規則が存在しません。

デバイス構成の状態コード 85

メッセージ: ドライブ名規則のリスト作成要求が失敗しました (List Drive Name Rule request failed)

説明: 特定のホストまたは一連のホストに対するドライブ名規則のリストを作成できませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ホストが EMM データベースで認識されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 86

メッセージ: ドライブ名規則が無効です (Invalid Drive Name Rule)

説明: ドライブ名規則が指定されていないか、無効な文字が含まれています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ドライブ名についての次の規則を確認します。
  - ダッシュで始めることはできません。
  - 48 文字を超えて指定することはできません。
  - 文字フィールドには、英数字、プラス記号 (+)、ダッシュ (-)、ピリオド (.) およびアンダースコア (_) だけ使用できます。
- 無効なフィールド名が指定されています。コマンドの使用方法を確認してください。

デバイス構成の状態コード 87

メッセージ: システムエラー (System Error)

説明: オペレーティングシステムのエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 十分なメモリが利用可能であることを確認します。
- Windows ネットワークが適切に構成されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 88

メッセージ: 無効なホスト (Invalid host)

説明: EMM データベースで認識されていないホストへの、デバイスの追加が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `nbemmcmd -addhost` を実行して、ホストを EMM データベースに追加します。

デバイス構成の状態コード 89

メッセージ: ドライブ名規則が最大長である 48 文字を超えました。(Drive name rule has exceeded its maximum length of 48 characters)

説明: 指定されたドライブ名規則が長すぎます。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 短い規則を選択します。

デバイス構成の状態コード 90

メッセージ: 別のデバイス構成がすでに進行中です (Another device configuration is already in progress)

説明: デバイスの構成ウィザードのインスタンスまたは tpautoconf はすでに実行中です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 現在のインスタンスの完了後に、操作を再試行します。
- デバイス構成のキャッシュのロックが孤立している可能性があります。nbemmcmd コマンドを実行してロックを解除し、操作を再試行します。

デバイス構成の状態コード 91

メッセージ: ドライブのシリアル番号がデバイスデータベース内にすでに存在します。(The drive serial number already exists in the device database.)

説明: 重複したシリアル番号のドライブの追加が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 追加するドライブに一意のシリアル番号が割り当てられていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 92

メッセージ: VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明: 必要な権限を所有していないユーザーによって、操作が試行されました。

推奨処置:

- ユーザーが、この操作の実行に必要な権限を所有していることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールの［ホストプロパティ (Host Properties)］で、認証セキュリティおよび認可セキュリティの設定が正しいことを確認します。
  Veritas Product Authentication and Authorization Service の使用方法については『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

デバイス構成の状態コード 93

メッセージ: データベースサーバーが停止しています (Database server is down)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、基礎となるデータベースサーバーから応答がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このエラーは、コールドカタログバックアップの実行中に発生する場合があります。この操作の完了後、要求を再試行します。

デバイス構成の状態コード 95

メッセージ: 要求された操作は、指定されたディスク形式では無効です (The requested operation is not valid for the specified Disk Type)

説明: 構成したストレージデバイスがディスクストレージデバイスではありません。

推奨処置: 適切なストレージデバイスを選択します。

デバイス構成の状態コード 96

メッセージ: NetBackup には、指定されたディスクアレイホストは構成されていません (The specified Disk Array Host is not configured in NetBackup)

説明: この操作を実行する前に、まず NetBackup ホスト構成にこのディスクアレイホストを追加する必要があります。ホストを表示するには、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の nbemmcmd -listhosts を参照してください。

推奨処置:

- 既存のホストのクレデンシャルを更新しようとしたときに、このホストが NetBackup に存在していませんでした。tpconfig または nbemmcmd コマンドを実行してホストを再度追加する必要があります。
- 入力したディスクアレイホストの名前が NetBackup コンピュータ構成のコンピュータエイリアスと一致しません。nbemmcmd コマンドを実行して、ディスクアレイのコンピュータエイリアスリストに完全修飾アレイホスト名 (または入力した名前) を追加します。

デバイス構成の状態コード 97

メッセージ: ディスクアレイ構成に有効なライセンスキーがありません (No valid license key for Disk Array configuration)

説明: ディスクアレイのスナップショットサポートはライセンスが必要な機能です。NetBackup でディスクアレイのクレデンシャルを構成できるようにするには、Snapshot Client のライセンスキーをインストールする必要があります。

推奨処置: Snapshot Client のライセンスキーをインストールします。

デバイス構成の状態コード 98

メッセージ: OpenStorage 機能はライセンスされていません (OpenStorage feature is not licensed)

説明: NetBackup OpenStorage のライセンスキーがないため、OpenStorage サーバーのクレデンシャルを追加できません。

推奨処置: OpenStorage 機能が有効なライセンスキーをインストールします。

デバイス構成の状態コード 99

メッセージ: クレデンシャルがすでに存在します (Credentials already exist)

説明: 追加しようとしたクレデンシャルがホストにすでに存在します。

推奨処置: 既存のクレデンシャルを削除してから、新しいクレデンシャルを追加します。

デバイス構成の状態コード 100

メッセージ: NetBackup Snapshot Client はライセンスされていません (NetBackup Snapshot Client not licensed)

説明: NetBackup Snapshot Client のライセンスキーがないため、この形式のホストのクレデンシャルを追加できません。このライセンスが必要なホスト形式は、ディスクアレイマネージャサーバーと仮想マシンサーバーです。

推奨処置: NetBackup Snapshot Client のライセンスキーをインストールします。

デバイス構成の状態コード 101

メッセージ: 認可エラー。ユーザー名/パスワードを確認してください (authorization error, verify username/password)

説明: 指定されたユーザー名とパスワードの組み合わせでの認可に失敗しました。

推奨処置: 指定した値を確認し、入力ミスがないかどうかを調べます。

4

デバイス管理の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- デバイス管理の状態コード

デバイス管理の状態コード

これらの状態コードは、ltid、tpclean、tpreq と tpunmount コマンドの終了状態やコマンド出力、およびシステムログやデバッグログに表示されます。また、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェースや vmoprcmd コマンドなど、これらのコマンドを呼び出すプログラムによってもこれらのコードが表示されます。

デバイス管理の状態コード 1

メッセージ: 無効なドライブ形式/密度 (Invalid Drive Type/Density)

説明: tpreq の -d パラメータに無効な密度が指定されました。

推奨処置: tpreq のマニュアルページ (コマンドの説明) で、有効な密度のリストを確認します。有効な密度を使用して、マウント要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 2

メッセージ: 現在ドライブは割り当てられています (Drive is currently assigned)

説明: ドライブを指定して要求が行われましたが、そのドライブは割り当て済みです。

推奨処置: (vmoprcmd -d または他の方法を使用して) ドライブ状態を表示し、ドライブおよびその割り当て状態のリストを参照します。後で要求を実行するか、まずドライブの割り当てを解除します。割り当ての解除は、ドライブでのアプリケーションの動作を停止するか、tpunmount でメディアのマウントを解除するか、ドライブを初期状態に戻します。不

適切なドライブを指定している場合、要求を再送信します。使用しているインターフェースに適したドライブ名またはインデックスを指定します。

デバイス管理の状態コード 3

メッセージ: オペレータメッセージの送信エラー (Error in Sending Operator Message)

説明: プロセス間通信に使用される既存の内部メッセージキューの `ltid` に操作メッセージを送信しようとしました。(`ltid` は、UNIX と Linux の Media Manager Device デーモンで、Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 4

メッセージ: オペレータメッセージの受信エラー (Error in Receiving Operator Message)

説明: プロセス間通信に使用される既存の内部メッセージキューの `ltid` からメッセージを受信しようとしました。(`ltid` は、UNIX と Linux の Media Manager Device デーモンで、Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。`ltid` が、デバイスまたはその他のコンポーネントとの通信中に停止しているかどうかを調べます。

デバイス管理の状態コード 5

メッセージ: デーモンメッセージの送信エラー (Error in Sending Daemon Message)

説明: ltid が、既存の内部メッセージキューを使ってロボットデーモンまたはロボットプロセスに内部プロセス通信メッセージを送信しようとしました。(ltid は、UNIX と Linux の Media Manager Device デーモンで、Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。ローカルデバイスホストのロボットデーモンまたはロボットプロセスが、デバイスまたはその他のコンポーネントとの通信中に停止しているかどうかを調べます。

デバイス管理の状態コード 6

メッセージ: デーモンメッセージの受信エラー (Error in Receiving Daemon Message)

説明: ltid が、既存の内部メッセージキューを使ってロボットプロセスへの内部プロセス通信メッセージを受信または処理しようとしました。(ltid は、UNIX と Linux の Media Manager Device デーモンで、Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソース不足またはソフトウェアコンポーネントの不一致が原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 7

メッセージ: ユーザーメッセージの送信エラー (Error in Sending User Message)

説明: ltid が、プロセス間通信に使われる既存の内部メッセージキューの ltid にユーザーメッセージを送信しようとしました。(ltid は、UNIX と Linux の Media Manager Device デーモンで、Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) メッ

セージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 8

メッセージ: ユーザーメッセージの受信エラー (Error in Receiving User Message)

説明: プロセス間通信に使用される既存の内部メッセージキューの `ltid` からユーザーメッセージを受信しようとしました。(`ltid` は、UNIX と Linux の Media Manager Device デーモンで、Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。Windows では、内部システムに登録されているイベントを開くことができない場合にもこのエラーが発生することがあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 10

メッセージ: IPC シーケンスエラー (IPC sequence error)

説明: 内部プロセス通信メッセージのシーケンスエラーが発生しました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス管理の状態コード 12

メッセージ: 無効なオペレータ (Invalid Operator)

説明: オペレータの内部リストを取得できません。

推奨処置: このエラーは、予想外の内部エラーです。`ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止してから再起動します。

デバイス管理の状態コード 13

メッセージ: IPC SHMGET コールのエラー (Error in IPC SHMGET call)

説明: `ltid` によって保持されている共有メモリのセグメントに関連付けられた共有メモリの識別子を、プロセスが取得できませんでした。((`ltid` は、UNIX と Linux の Media Manager Device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 14

メッセージ: IPC SHMAT コールのエラー (Error in IPC SHMAT call)

説明: プロセスで `ltid` によって保持されている共有メモリのセグメントを追加できませんでした。(`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 15

メッセージ: ドライブは停止しています (The drive is DOWN)

説明: 論理的に停止状態に構成されているドライブで、ドライブへのメディアのマウントまたは共有ドライブの予約が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- アプリケーションログファイル (bptm ログなど) を調べて、ドライブが停止状態に構成されている理由を確認します。
- ドライブ、ドライブパスおよびメディアの整合性を確認します。

デバイス管理の状態コード 16

メッセージ: 指定のマウントインデックスについて、マウントの保留はありません (No mount pending for given mount index)

説明: 保留中のマウント要求に関する情報の取得が試行されましたが、保留中のマウント要求が検出されませんでした。

推奨処置: デバイスモニターのインターフェースを使用するか、アプリケーションログを参照して、要求が完了したか、取り消されたかを確認します。保留中のマウント要求に関する情報を取得する要求は、マウント要求が継続中である場合だけ有効です。

デバイス管理の状態コード 17

メッセージ: ドライブは、保留中の要求された密度をサポートしません (Drive does not support pending request density)

説明: 選択されたドライブのドライブ形式は、要求された密度に適合しません。

推奨処置:

- ドライブの選択を、自動決定にします。
- ドライブを手動で選択する場合、デバイス構成および有効な密度の表 (tpreq のマニュアルページまたはコマンドの説明で参照可能) を確認します。その後、要求する密度に適合するドライブを指定します。

デバイス管理の状態コード 19

メッセージ**:** 管理者ユーザーのみが、要求された操作を実行できます (Only the administrative user can perform the requested operation)

説明**:** `ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) の停止が試行されました。または `tpclean` コマンドの呼び出しが試行されましたが、ユーザーが root (UNIX および Linux の場合) または管理者 (Windows の場合) ではありませんでした。

推奨処置**:** 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに、root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、操作を再試行します。

デバイス管理の状態コード 20

メッセージ**:** テープを割り当てた状態で、device デーモンを停止できません (Cannot stop device daemon with tapes assigned)

説明**:** `ltid` の停止が試行されましたが、現在メディアはマウントされ、割り当てられています。（`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置**:** メディアを参照するすべてのジョブを停止し、すべてのメディアのマウントを解除してから、すべてのアプリケーションで Media Manager の使用を停止します。その後、`ltid` の停止を試行します。アプリケーションを使用してメディアのマウントを解除できない場合、`/usr/openv/volmgr/misc` ディレクトリまたは install_path`¥Volmgr¥misc` *フォルダ内の* `.ltisymlinks` ファイルの存在および権限を確認します。`.ltisymlinks` *ファイルの各行に対して* *`tpunmount filename`* を実行します。ここで、*filename* には、ファイルの行の内容を指定します。たとえば、UNIX および Linux の場合、コマンドは次のようになります。

```
tpunmount /usr/openv/netbackup/db/media/tpreq/A00001
```

デバイス管理の状態コード 21

メッセージ**:** ドライブが準備できていないか、または動作不良です (The drive is not ready or inoperable)

説明: マウント要求でドライブが選択されましたが、ドライブにメディアをロードする準備ができていません。

推奨処置: ドライブの準備が完了するまで待機して、保留中のマウント要求にドライブを手動で割り当てます。

デバイス管理の状態コード 22

メッセージ: IPC エラー: デーモンは実行されていない可能性があります (IPC Error: Daemon may not be running)

説明: `ltid` への要求が処理されません。(`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) `ltid` が実行されていない可能性があります。`ltid` が実行されている場合、そのプロセスのロックファイルが削除された可能性があります。また、メッセージキューがシステムで正しく機能していない可能性があります。

推奨処置:

- `ltid` が実行されていない場合、`ltid` を起動して、操作を再試行します。UNIX および Linux では `/usr/openv/volmgr/bin/ltid` を実行し、Windows では NetBackup Device Manager サービスを起動します。
- `ltid` がすでに実行されている場合、ロックファイルとロックファイルのディレクトリ (UNIX および Linux の場合は `/usr/openv/volmgr/misc/.ltipid`、Windows の場合は *install_path*¥ Volmgr¥misc¥.ltipid) の存在および権限を確認します。`ltid` が実行されている場合は、そのプロセスを終了します。`ltid` が、ロックを取得できるように、ロックファイルのディレクトリまたはフォルダを作成し、必要に応じて権限を調整します。
- UNIX および Linux の場合、`msgget` のマニュアルページを確認し、システムメッセージキューのトラブルシューティング方法についての推奨処置を検索します。

デバイス管理の状態コード 23

メッセージ: 無効なドライブ番号 (Invalid Drive Number)

説明: ドライブを指定して要求が行われましたが、要求されたドライブが、有効な構成内で検出されません。

推奨処置: デバイス構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動されたことを確認します(`ltid` は、Media Manager device デーモン(UNIX および Linux)または NetBackup Device Manager サービス(Windows)です)。(`tpconfig -d` または他の方法を使用して) デバイス構成を表示し、有効なドライブのリストを参照します。使用しているインターフェースに適したドライブ名またはインデックスを指定します。

デバイス管理の状態コード 24

メッセージ: 要求されたドライブを予約できません (Requested drive cannot be reserved)

説明: 共有ドライブの予約が試行されましたが、ドライブの予約要求が失敗しました。この状態コードは、SSO 機能の内部実装に関連しています。SCSI RESERVE/RELEASE には関連していません。

推奨処置: これは、共有ドライブで予想される状況で、自動的に再試行されます。問題が解決しない場合、EMM サーバーによって要求が処理されており、現在ドライブを使用していないホストにドライブが予約されているものとして表示されていないことを確認します。

デバイス管理の状態コード 25

メッセージ: ファイル名は存在しません (File name does not exist)

説明: 論理テープファイルまたはヘルプファイルが検出されません。多くの場合、この状態は、このユーザーに存在しない論理テープファイルを指定して `tpunmount` コマンドが実行されたことが原因です。

推奨処置: 指定したファイルパスに論理テープファイルが存在することを確認します。指定するファイルパスは、テープのマウントを要求したときに使用したパスと、大文字と小文字の区別も含め、完全に一致する必要があります。正しいファイルパスを使用して、要求を再送信します。この状態が、保留中の要求に関するエラーメッセージの操作画面に表示された場合、ヘルプファイルが次の場所に正しくインストールされているかどうかを確認します。`/usr/openv/volmgr/help/robots/robot_type/help_file name` (UNIX および Linux の場合) または `install_path¥Volmgr¥Help¥Robots¥robot_type¥help_file_name` (Windowsの場合)。

デバイス管理の状態コード 26

メッセージ: ボリュームプールのホストが検証されていないために、要求が終了しました (Request terminated because the host was not validated for volume pool)

説明: マウント要求が開始されたホストからメディアへのアクセスが拒否されています。そのメディア ID が含まれるボリュームプールに対して定義されている権限が原因です。

推奨処置:

- `vmpool -listall -b` を実行して、マウント要求が発行されたホストで、要求したボリュームプールについての情報を問い合わせます。マウント要求が発行されたホスト名を取得するには、システムログを確認します。このホスト名は、`hostname(1)` システムコマンドによって戻される名前です。
- `vmpool`、またはボリュームプールホストの属性をサポートする他のユーザーインターフェースを使用して、ボリュームプールホスト名のセキュリティを変更します。または、

ボリュームに関連付けられたボリュームプールを変更します (そのボリュームが割り当てられていない場合)。あるいは、対象のボリュームプール内のメディアを使用できるホストにログオンします。その後、マウント要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 27

メッセージ: メディア ID が期限切れのため、要求が終了しました (Request terminated because media ID is expired)

説明: 書き込み権限を使用して要求されたメディアの期限がすでに切れているため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: 読み取り専用の操作が必要な場合、読み取り専用アクセスでマウント要求を行うメディアを要求します。サイトのポリシーに基づいて、メディアを交換するか、有効期限日を現在以降の日付に変更します。メディア管理インターフェースを使用すると、メディアの期限切れの日付を参照および変更できます。システム日時を確認し、必要に応じて修正します。

デバイス管理の状態コード 28

メッセージ: MsgGet のエラー (Error in MsgGet)

説明: `ltid` が、内部メッセージ通信に使用されるメッセージキューの識別子を取得しようとしました。(`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) システムエラーのため要求が失敗しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソース不足またはソフトウェアコンポーネントの不一致が原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 30

メッセージ: メディア ID が最大マウント件数を超えるため、要求が終了しました (Request terminated because media ID will exceed maximum mount count)

説明: 要求されたメディアがそのメディアに関連付けられた最大マウント数に達したため、マウント要求がキャンセルされました。

推奨処置: サイトのポリシーに基づいて、メディアを交換するか、最大マウント数の値を増加します。メディア管理インターフェースを使用すると、メディアで実行可能な最大マウント数を参照および変更できます。メディアの今までの使用状況を考慮して、メディアのマウント数が適切な値に設定されていることを確認します。必要に応じて、vmchange を実行して値を修正します。

デバイス管理の状態コード 32

メッセージ: セマフォの取得エラー (Error in getting semaphore)

説明: ltid が、共有メモリへのアクセスの調停に使用されるセマフォを取得しようとしました。(ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。) システムエラーのため要求が失敗しました。多くの場合、このエラーは、セマフォ用のシステムリソース不足またはソフトウェアコンポーネントの不一致が原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 33

メッセージ: セマフォ操作エラー (Error in SEMAPHORE operation)

説明: ltid によって保持されているリソースに関連するセマフォ操作(ロックやロック解除など)を、プロセスが実行できませんでした。(ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 35

メッセージ: メディアが利用できないために要求が終了しました (ドライブが停止している、不適切な場所に配置されている、書き込み保護されている、またはマウントできない) (Request terminated because media is unavailable (in DOWN drive, misplaced, write protected or unmountable))

説明: 要求されたメディアが利用できないため、マウント要求が取り消されました。メディアが、停止状態のドライブ内に存在するか、不適切な場所に配置されているか、書き込み禁止であるか、またはマウントができない可能性があります。このメッセージの他の原因として、有効クリーニング数が残っていないクリーニングテープを使用している可能性があります。

推奨処置: ロボットインベントリを実行するかまたは手動で、ロボットライブラリ内のメディアの内容をボリューム構成と比較します。必要に応じて構成を更新します。メディアの物理的な場所を判断します。論理的に停止状態のドライブ内でメディアが検出された場合、ドライブ、ドライブパスおよびメディアの整合性を確認します。メディアが、誤って構成されたクリーニングテープでないことを確認します。メディアがライブラリ内に存在しない場合、メディアをロボットライブラリに移動して、ボリューム構成を更新します。書き込み禁止であるためにエラーが発生した場合、カートリッジのタブを移動して書き込み可能にするか、読み取り専用アクセスでメディアを要求します。

クリーニングテープに有効クリーニング数が残っていないことが問題である場合は、クリーニングテープを交換します。

デバイス管理の状態コード 36

メッセージ: 別プロセスからの tpunmount コールにより、要求が終了しました (Request terminated by tpunmount call from another process)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームに対して、書き込みアクセスを使用してボリュームをマウントできる回数の制限を変更するように要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありませんでした。また、バーコードルールのマウント数およびクリーニング数フィールド内の最大マウント数の値が、無効な数である場合もあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 最大マウント数の値を、0 から 2,147,483,647 の範囲内で指定します。

デバイス管理の状態コード 37

メッセージ: ドライブが NDMP に割り当てられていないか、または誤った NDMP クライアントで割り当てられています (Drive being assigned is either not NDMP or on the wrong NDMP client)

説明: NDMP クライアントへの接続が構成されているドライブに対してマウントが要求されましたが、要求が取り消されました。これは、要求されたドライブ以外のドライブに手動で要求が割り当てられたためです。割り当てられたドライブは NDMP ドライブではないか、または異なるクライアントに構成された NDMP ドライブです。

推奨処置: デバイス構成を表示して、特定の NDMP クライアントへの接続が構成されているドライブを判断します。構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動されたことを確認します。要求を再発行して、要求された NDMP クライアントに接続されているドライブに要求を割り当てます。

デバイス構成の状態コード 38

メッセージ: ドライブ用の文字型デバイス名が文字型デバイスではありません (Character device name for drive is not a character device)

説明: テープのマウント要求の場合、構成されているテープドライブのクローズ時非巻き戻しデバイスファイルが文字型特殊デバイスでなく、NDMP などの既知の形式でもありませんでした。(NDMP は文字型特殊ファイルである必要はありません。)

推奨処置:

- 無効なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、(デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成ウィザードを使用します。ウィザードによって、テープドライブに対してパスおよびデバイス名が自動的に構成されるようにします。
- 常に、非巻き戻しテープデバイスファイルを使用します。テープドライブの場合、認識されている、ドライブ名の構文 (NDMP 用の構文など) を使用します。指定したデバイスパスが、文字型特殊ファイルとして存在することを確認します。コマンドまたはユーザーインターフェースの出力で、エラーの詳細を確認します。

  『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

デバイス管理の状態コード 39

メッセージ: パラメータが無効です (Parameter is invalid)

説明: 無効な引数を使用したことによって、tpclean コマンドが呼び出されました。または内部機能で、必要なデータへの参照が存在していません。

推奨処置:

- クリーニング操作が要求された場合、tpclean の使用方法の説明を確認し、指定されたパラメータと比較します。
- インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 40

メッセージ: ファイル名はすでに存在します (File name already exists)

説明: テープのマウント要求で、要求に関連付けられているファイル名がすでに存在するか、ファイル名がすでに他のマウント要求に関連付けられています。

推奨処置: 異なるファイル名を使用して、要求を再送信します。既存のファイルと対応しないファイル名を指定します。または、実行中の可能性がある他のマウント要求で使用されていないファイル名を指定します。

デバイス管理の状態コード 41

メッセージ: 不明なドライブ名 (Unknown drive name)

説明: ドライブを指定して要求が行われましたが、指定されたドライブが、有効な構成内で検出されません。この状態コードは、デバイスファイルが破損したり存在しない場合、デバイスファイルを開いたり読み込むことができない場合、またはデバイスが構成されていない場合に発生することがあります。

推奨処置:

- デバイス構成を最後に変更した後で ltid が停止され、再起動されたことを確認します(ltid は、Media Manager device デーモン(UNIX および Linux)または NetBackup Device Manager サービス(Windows)です)。(tpconfig -d または他の方法を使用して) デバイス構成を表示し、有効なドライブのリストを参照します。使用しているインターフェースに適したドライブ名またはインデックスを指定します。
- EMM データベースの整合性を確認します。デバイス構成を表示して、次の手順を実行します。
  - データベースが破損していないかどうかを判断します。
  - カタログバックアップから、保存されているデータベースファイルのリストアを行うか、デバイスを削除してからデバイス構成を再作成します。

デバイス管理の状態コード 42

メッセージ: tpreq アクセスモードが不正です (Incorrect tpreq access mode)

説明: テープのマウント要求で、指定されたアクセスモードが無効です。Windows ホストの場合、管理者権限を所有しないユーザーによって NetBackup Device Manager サービスに要求が行われました。

推奨処置: tpreq を実行する場合、読み込みアクセスモード用の引数 r または書き込みアクセスモード用の引数 w を指定するか、デフォルトのアクセスモード (読み込み) を使用します。Windows で NetBackup Device Manager サービスが必要な要求を行う場合、管理者権限を所有するアカウントで実行します。

デバイス管理の状態コード 44

メッセージ: ファイルを作成する権限がありません (You do not have permission to create the file)

説明: テープのマウント要求で、ディレクトリまたはフォルダの権限が原因で、要求に関連付けられているファイル名を作成できません。

推奨処置: 指定したファイルパスで、ファイルの存在を確認します。ファイルが存在する場合、ファイルを削除するか (ファイルが不要な場合)、代替ファイルパスを指定して要求を再送信します。その場所にファイルが存在しない場合、マウント要求を発行したユーザーまたはアプリケーションプロセスの、ディレクトリまたはフォルダに対する読み込みアクセス権限および書き込みアクセス権限を確認します。

デバイス管理の状態コード 46

メッセージ: テープを書き込み可能にする必要があります (Tape needs to be write enabled)

説明: テープのマウント要求で、アクセスモードが書き込みアクセスに指定されましたが、物理メディアが書き込み禁止になっています。

推奨処置: 物理メディアの書き込み禁止の設定を書き込みアクセスが可能な設定 (ロック解除) に変更するか、読み取り専用アクセスで要求を再送信します。tpreq を使用して

読み取り専用アクセスを要求するには、読み取りアクセスモード用の引数 r を指定するか、デフォルトのアクセスモード (読み込み) を使用します。

デバイス管理の状態コード 47

メッセージ: 共有ドライブ用のスキャンホストを確立できません (Unable to establish scan host for shared drive)

説明: 共有ドライブの状態を変更する要求で、ドライブのスキャンホストへの接続を確立できませんでした。

推奨処置:

- ドライブのスキャンホストとして機能しているホストを判断します。これを行うには、vmoprcmd の出力を使用するか、または管理コンソールのデバイスモニターを確認します。
- vmd (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) が、スキャンホストで実行されていることを確認します。スキャンホストのデバッグログおよびシステムログで、エラーに関連するメッセージを調べます。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 要求が取り消された理由の詳細は、スキャンホストのデーモンのデバッグログで取得できます。問題を修正し、必要に応じて要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 48

メッセージ: ホストは、この共有ドライブ用のスキャンホストではありません (Host is not the scan host for this shared drive)

説明: ドライブの割り当て要求、予約要求またはスキャン要求で、対象のデバイスホストがドライブのスキャンホストではないと判断されました。要求は拒否されました (要求元から再試行されます)。

推奨処置:

- 通知されたエラーが問題の原因である場合、関連するホストの通信、構成およびシステムの問題を調べます。これを行うには、vmoprcmd の出力を使用するか、または管理コンソールのデバイスモニターを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- Media Manager 構成を変更して、スキャンホストを割り当てるためのスキャンアビリティの優先度を構成します。保持する必要があるネットワーク接続が減り、より多くの負荷を処理可能なホストに、より大きなシステム負荷がかかるように構成します。

デバイス管理の状態コード 49

メッセージ: テープファイルパスは、255 文字の最大長を超えています (Tape file path exceeds 255 character maximum)

説明: テープのマウント要求で、要求に関連付けられたファイル名が 255 文字を超えました。

推奨処置: テープのマウントを要求するときは、ファイル名の長さが ASCII 文字で 255 文字を超えないことを確認します。マウント要求がアプリケーションから発行された場合、アプリケーションの変更を要求して短いファイル名を使用します。または、ファイル名が制限を超えないような製品をディレクトリまたはフォルダにインストールします。

デバイス管理の状態コード 50

メッセージ: 指定のマウントインデックスには保留中の処理はありません (No action pending for given mount index)

説明: マウント要求の保留中の操作を取得するように要求されましたが、要求に関連付けられた既知の保留中の操作が存在しませんでした。

推奨処置: デバイスモニターのインターフェースを使用して、保留中の操作が存在する要求を表示します。要求 (割り当て、拒否、表示、再送信など) は、保留中の操作が存在する要求だけで実行します。

デバイス管理の状態コード 52

メッセージ: この形式のロボットは定義されていません (No robot is defined of this type)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスと、`ltid` の間の内部通信で、想定される形式のロボットが有効に構成されていません。((`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置: 実行中のロボットプロセスを表示して、以前の構成からのプロセスが実行中かどうかを確認します。プロセスが実行中の場合、プロセスを停止します。インストールさ

れているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 53

メッセージ: 要求がキューに投入されました (キャンセルするとメッセージが消去されます) (Request has been queued (Cancel to clear message))

説明: ドライブリソースが使用中であるため、マウント要求またはドライブ関連操作がキューに投入されました。

推奨処置: ドライブリソースが利用可能になるまで待機するか、必要に応じて、保留中のマウント要求を取り消します。

デバイス管理の状態コード 55

メッセージ: オペレータがマウント要求を拒否しました (Operator denied mount request)

説明: オペレータによってマウント要求が拒否されました。

推奨処置: このエラーは、ユーザーまたはアプリケーションのマウント要求が管理者またはオペレータによってキャンセルされた場合に発生します。要求が取り消される理由は、メディアが存在しない、メディアが不正である、他の、より優先度が高い要求でドライブリソースを取得する必要がある、など様々です。詳しくは、管理者またはオペレータに確認してください。

デバイス管理の状態コード 56

メッセージ: マウントがキャンセルされました。Device デーモンを終了しています (Mount canceled, device daemon is terminating)

説明: 管理者が `ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止したため、保留中のマウント要求が取り消されました。

推奨処置: `ltid` が再起動されるまで待機してから、要求を再送信します。必要に応じて、管理者に確認してデーモンまたはサービスの可用性を判断します。

デバイス管理の状態コード 58

メッセージ: デバイスがロボットではありません。クリーニングを実行できません (The device is not robotic, cannot perform cleaning)

説明: ドライブの自動クリーニングが試行されましたが、ドライブはロボットライブラリ内に存在しません。

推奨処置: 必要な場合、クリーニングテープを挿入し、スタンドアロンドライブをクリーニングします。共有ドライブ以外のドライブの場合、`tpclean`、またはクリーニング関連操作が

サポートされている他のユーザーインターフェースを使用して、クリーニング統計を更新します。

デバイス管理の状態コード 59

メッセージ: デバイスのロボットで、クリーニングテープが定義されていません。または有効クリーニング数が 0 です (No cleaning tape is defined in the device's robot or 0 cleanings remaining)

説明: ドライブの自動クリーニングが試行されましたが、利用可能なクリーニングメディアが存在しません。または、クリーニングテープのクリーニング数の残りが 0 (ゼロ) です。

推奨処置:

- 個別のクリーニングカートリッジを使用してクリーニングを行うことができるすべてのドライブ形式のロボットライブラリに、クリーニングメディアが追加されていることを確認します。
- ロボットライブラリの EMM データベース内に含まれるクリーニングメディアの残りのクリーニング数が正の数であることを確認します。クリーニングテープを交換するか、カウントが 0 (ゼロ) に達する前にクリーニングメディアのクリーニング数を増やします。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス管理の状態コード 60

メッセージ: ロボットデーモンおよび/またはロボットハードウェアが利用可能ではありません (Robot daemon and/or robotic hardware is not available)

説明: ロボットが構成されていないか、操作に利用できません。特に、ロボットドライブの自動クリーニングが試行されましたが、ロボットが定義されていないか、ロボットが利用できません。または、共有ドライブリストの初期化が試行されましたが、必要な構成済みのロボットなしで、ドライブがロボットドライブとして構成されていました。

推奨処置: デバイス構成を表示して、ドライブとロボット構成情報に一貫性があることを確認します。システムログファイルを調べて、ロボットおよびロボットソフトウェアの動作状態を確認します。ロボットの動作状態の詳細が必要な場合、詳細レベルを上げます。まず `vm.conf` ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。その後、`ltid` (device デーモンまたは NetBackup Device Manager サービス) を再起動します。

デバイス管理の状態コード 61

メッセージ: デバイスまたはロボットスロットにメディアが見つかりません。確認してください (No media found in device or robot slot, please verify)

説明: メディアのマウント要求で、指定された期間が経過する前に、対象の場所でメディアが検出されませんでした。

推奨処置: 要求を再送信し、指定された期間が経過する前に、対象のドライブにメディアをマウントします。デバイス構成を調べて、適切なドライブ名が構成されていること、およびデバイス構成を最後に変更した後に device デーモン `ltid` が再起動されたことを確認します。

デバイス管理の状態コード 62

メッセージ: マウント要求に対して、ライブラリのドライブが利用できません (Drive not available in library for mount request)

説明: 利用可能なドライブが存在しないため、マウント要求が取り消されました。互換性のあるすべてのドライブが停止状態であるか、他の有効なマウント要求のためにオーバーサブスクライブされている可能性があります。

推奨処置: デバイスの可用性およびドライブリソースを要求するアプリケーションのスケジュールとドライブ使用状況を調べます。場合によっては、後で互換性のあるドライブリソースが利用可能になったときに要求を再発行できるように、マウント要求が取り消される場合もあります。

デバイス管理の状態コード 63

メッセージ: マウント要求が無効なため、要求が終了しました (Request terminated because mount requests are disabled)

説明: 要求を実行できないため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

要求が取り消された理由の詳細は、システムログ、コマンドの出力またはデバイスモニターのインターフェースから取得できます。問題を修正し、必要に応じて要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 64

メッセージ: ロボット制御されたデバイスを割り当てることができません (Cannot assign a robotically controlled device)

説明: マウント要求を実行するために特定のデバイスの割り当てが手動で試行されましたが、選択されたデバイスはロボットライブラリ内に構成されています。

推奨処置: 要求をスタンドアロンドライブに割り当てるか、ロボットドライブ内でのマウント要求の割り当てを自動割り当てにします。

デバイス管理の状態コード 65

メッセージ: 指定したボリュームプールが無効です (Invalid volume pool specified)

説明: マウント要求で、指定されたメディアプールが無効です。

推奨処置: ASCII 文字で長さが 20 文字以下のボリュームプール名を指定して、要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 66

メッセージ: ボリュームプールの不一致のため、要求が終了しました (Request terminated because of volume pool mismatch)

説明: `tpreq` コマンドで指定されたボリュームプールが、Media Manager 構成内のメディア ID のボリュームプールと一致しませんでした。

推奨処置: メディア管理インターフェースを使用して、マウントするメディアのボリュームプール名を取得します。その後、適切なプール名を指定してマウント要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 69

メッセージ: メディアがマウントできないため、要求が終了しました (Request terminated because media is unmountable)

説明: 要求されたメディアをマウントできないため、マウント要求が取り消されました。少なくとも 2 つの異なるドライブで、要求されたメディアをマウントできないことが検出されました。

推奨処置:

- ドライブ、ドライブパスおよびメディアの整合性を確認します。
- メディアが、誤って構成されたクリーニングテープでないことを確認します。

デバイス管理の状態コード 70

メッセージ: メディアが書き込み保護されているため、要求が終了しました (Request terminated because media is write protected)

説明: 書き込みアクセスで要求されたメディアが書き込み可能でないため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: 物理メディアカートリッジを調べて、書き込み禁止が有効かどうかを確認します。メディアに書き込みアクセスを行う必要がある場合、メディアの書き込み禁止を無効に設定します。

読み取り専用アクセスを行う必要がある場合、書き込み禁止を有効のままにします。要求を行うアプリケーションで必要な管理要求 (メディアを一時停止することなど) を行い、メディアに読み取りアクセスだけが要求されていることを確認します。

コマンドラインインターフェースを介してメディアを要求している場合、tpreq のマニュアルページまたはコマンドの説明で、メディアのアクセスモードを指定する方法を参照してください。tpreq コマンドは次のマニュアルで説明されています。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

デバイス管理の状態コード 71

メッセージ: メディアがクリーニングテープであるため、要求が終了しました (Request terminated because media is a cleaning tape)

説明: ドライブのメディアがクリーニングテープであるため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: Media Manager の EMM データベースが最新のものであることを確認します。ライブラリにクリーニングメディアが存在する場合、適切なクリーニングメディア形式を Media Manager の EMM データベースのクリーニングメディアに割り当てます。

デバイス管理の状態コード 72

メッセージ: EMM のライブラリコールに失敗しました (EMM library call failed)

説明: EMM へのデータの読み込みまたは書き込み要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- pbx_exchange が実行中であることを確認します。
- tpconfig -d または vmquery -a コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

デバイス管理の状態コード 73

メッセージ: テープを割り当てた状態で、device デーモンを停止しています (Stopping device daemon with tapes assigned)

説明: オペレータによって `ltid` の停止が要求されましたが、テープがまだ使用中です。

推奨処置: なし。これは助言的なメッセージであり、処置は必要ありません。

デバイス管理の状態コード 74

メッセージ: ロボット操作に失敗しました (Robot operation failed)

説明: `bptm` によるテープのマウントのために、ロボット操作が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットハードウェアが機能していることを確認します。

デバイス管理の状態コード 75

メッセージ: LTI システムエラー (LTI system error)

説明: システムエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpclean` 操作が試行されましたが、Windows ネットワークが適切に構成されていませんでした。
- `ltid` の停止の試行中に、malloc システムコールが失敗しました。

デバイス管理の状態コード 76

メッセージ: ロボット/LTI プロトコルエラー (Robot/LTI protocol error)

説明: `ltid` とロボットデーモン間の通信で、プロトコルエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `ltid`、`bptm` およびロボットデーモンが、互換性のある NetBackup レベルであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 77

メッセージ: VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明: 必要な権限を所有していないユーザーによって、`tpclean` が試行されました。

推奨処置:

- ログオンしているユーザーが、この操作に必要な権限を所有していることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールの［ホストプロパティ (Host Properties)］で、VxSS の設定が正しいことを確認します。
  『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

デバイス管理の状態コード 78

メッセージ: EMM サーバーに接続できません (Unable to connect to the EMM server)

説明: EMM の情報の取得または更新に失敗しました。

推奨処置:

- NetBackup 構成に正しい EMM サーバー名が設定されていることを確認します。
- このエラーが発生したメディアサーバーが EMM サーバーの NetBackup 構成に設定されていることを確認します。
- EMM サーバーで EMM が実行中であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス管理の状態コード 79

メッセージ: Job Manager からジョブ ID を取得できません (Can not retrieve Job ID from Job Manager)

説明: tpreq、tpclean または tpunmount コマンドで、NetBackup Job Manager からのジョブ ID の取得の試行中にエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- マスターサーバー上で NetBackup Job Manager が実行中であるかどうかを検証します。

デバイス管理の状態コード 80

メッセージ: Job Manager がエラーを戻しました。アクティビティモニターを参照してください (Job Manager returned error: see activity monitor)

説明: tpunmount コマンドで、NetBackup Job Manager との通信中にエラーが発生しました。この問題の詳細が、このジョブのアクティビティモニターエントリに表示されている場合があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- マスターサーバー上で NetBackup Job Manager が実行中であるかどうかを検証します。
- tpunmount コマンドに指定した引数が正しいことを確認します。

デバイス管理の状態コード 81

メッセージ: 後で再試行してください (Retry later)

説明: EMM によって制御されているリソースの使用が試行されましたが、これらのリソースが利用できませんでした。

推奨処置: 後でコマンドを再試行します。

デバイス管理の状態コード 82

メッセージ: 利用可能なドライブはありません (No drive available)

説明: ドライブの使用が試行されましたが、指定されたドライブが利用できませんでした。

推奨処置:

- 対象のメディアサーバーでドライブが停止していないことを確認します。
- ドライブが検出されたメディアサーバーが動作していることを確認します。
- 別のドライブでコマンドを再試行します。

デバイス管理の状態コード 83

メッセージ: メディアがデータベースに存在しません (Media does not exist in database)

説明: 要求されたメディア ID が EMM データベースで見つかりませんでした。

推奨処置:

- 要求されたメディア ID が正しく入力されていることを確認します。
- 別のメディア ID を使用して再試行します。

デバイス管理の状態コード 84

メッセージ: 操作ではエラーは発生していません。サイドバンドデータのみです (No Error on operation, sideband data only)

説明: これは単なる通知メッセージです。

推奨処置: ユーザーによる処置は必要ありません。

5

ロボットの状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- ロボットの状態コード

ロボットの状態コード

これらの状態コードは、ロボットデーモンまたはロボットプロセスによって発行されます。また、これらは vmchange コマンドや、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェースなど、ロボット操作を呼び出すプログラムによっても発行されます。

ロボットの状態コード 200

メッセージ: STATUS_SUCCESS

説明: ロボット操作が正常に完了しました。

推奨処置: なし

ロボットの状態コード 201

メッセージ: ロボットパスを開けません (Unable to open robotic path)

説明:

ロボットライブラリデバイスを開けません。考えられる原因は、次のいずれかである可能性があります。

- デバイスの構成内のロボットのデバイス、パスまたはライブラリ名が無効。
- 構成済みのロボットデバイスが存在しない。
- 文字型特殊ファイル形式でない UNIX および Linux デバイスファイルなど、ロボットデバイスが不適切。

- ロボットデーモンまたはロボットプロセスのロックファイルを開くことができなかったか、ロックが取得済み。
- デバイスまたは API インターフェース (NDMP など) を介したオープン操作が失敗した。

推奨処置:

- ロボットテストユーティリティの動作中にはロボットデバイスがロックされるため、実行されている可能性があるすべてのロボットテストユーティリティを停止します。
- マニュアルで示される、ロボットの推奨構成に対して、ロボット構成を確認します。
- ロボットテストユーティリティを使用して、ロボットデバイスの状態を確認し、終了したらテストユーティリティを閉じます。
- ロックファイル `/usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*`¥Volmgr¥misc¥vmd.lock` (Windows の場合) およびロックファイルが含まれるディレクトリの存在および権限を確認します。ロボットデーモンまたはロボットプロセスがロックファイルを使用できるように、ディレクトリまたはフォルダを作成し、必要に応じて権限を調整します。`ltid` (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止してから再起動します。

ロボットの状態コード 202

メッセージ: ロボットデバイスを検知できません (Unable to sense robotic device)

説明:

ロボットライブラリデバイスの要素を検出できません。次の原因の可能性があります。

- SCSI コマンドモードの検出、モードの選択または (スロット、ドライブ、トランスポート、I/E 要素の) 要素状態の読み込みが失敗した。
- API 制御のネットワークライブラリのインベントリ要求が失敗した。
- ロボットデーモンまたはロボットプロセスによって、ロボットデータベースファイルを初期化できない。

推奨処置:

- マニュアルで示される、ロボットの推奨構成に対して、ロボット構成を確認します。
- ロボットテストユーティリティを使用して、ロボットデバイスの状態を確認し、終了したらテストユーティリティを閉じます。
- 一時ロボットデータベースおよび一時データベースの `/usr/openv/volmgr/misc/robotic_db` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *install_path*`¥Volmgr¥misc¥robotic_db` フォルダ (Windows の場合) の存在および権限を確認します。これらのディレクトリまたはフォルダを作成し、ロボット

デーモンまたはロボットプロセスがディレクトリまたはフォルダを作成または使用できるように、必要に応じて権限を調整します。`ltid` (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止してから再起動します。

ロボットの状態コード 203

メッセージ: ロボットコマンドを待機している間のタイムアウト (Timeout waiting for robotic command)

説明: ロボット操作でタイムアウトが発生しました。この状態は、指定された期間が経過した後にロボット操作によって戻されます。

推奨処置:

- ロボットテストユーティリティの動作中にはロボットデバイスがロックされ、他の要求がブロックされるため、すべてのロボットテストユーティリティを停止します。
- ハードウェアに対する過剰な再試行によって、ロボットコマンドの完了が遅れていないかどうかを確認します。
- ロボットデバイスが機能しているかどうかを確認します。ロボットテストユーティリティを使用してコマンドをデバイスに送信し、応答があることを確認します。`vmps` を実行して、予想外の Media Manager プロセスが実行中でないことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されますが、停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなど、さらに深刻な問題を表す場合があります。

ロボットの状態コード 204

メッセージ: ロボットを初期化できません (Unable to initialize robot)

説明: ロボットを初期化できません。これは、様々な状況で使用される一般的な状態コードです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットを初期化できない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 205

メッセージ: ロボットマウントの失敗 (Robotic mount failure)

説明: ロボットはメディアをマウントできません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアをマウントできない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 206

メッセージ: ロボットディスマウントの失敗 (Robotic dismount failure)

説明: ロボットはメディアのマウントを解除できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアのマウントを解除できない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 207

メッセージ: コマンドコードが無効 (Invalid command code)

説明: 不適切なオプションを指定して、サポートされていないロボット操作が要求されました。または、ロボット操作で、互換性のないデバイスインターフェースが使用されました。製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がない可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべての Media Manager バイナリおよびユーザーインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 208

メッセージ: 要求されたスロットは空です (Requested slot is empty)

説明: 指定されたスロット内でメディアが検出されませんでした。ボリュームに関連付けられたロボットライブラリの物理的な内容とボリューム構成に一貫性がない可能性があります。

推奨処置: メディアのコンテナまたはホルダーが不適切な場所に配置されている場合、適切な場所に取り付けます。適切に調整されていない場合は、再調整します。メディアが上下逆になっている場合、正しい側を上にしてメディアをスロットに配置します。要求されたスロットが、内部的な使用のためにロボットライブラリによって予約されているかどうかを確認します。ロボットライブラリ内の問題を物理的に修正するか、メディア管理インターフェースを使用してボリューム構成を修正します。

ロボットの状態コード 209

メッセージ: ドライブを開けません (Unable to open drive)

説明: ドライブを開けません。ドライブ構成が不適切であるか、ドライブが論理的に停止している可能性があります。また、ドライブにメディアを配置した後、ドライブの準備が完了していない場合もあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 不適切に構成されたクリーニングメディア、またはドライブのクリーニング操作の影響を確認します。不適切なメディアが原因で、メディアがドライブ内に配置されてもドライブが準備未完了のままになっていないかどうかを確認します。
- ドライブのオープンに関する問題の一般的な原因である、不適切なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、(デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成ウィザードを使用して、デバイスパスおよびデバイス名を自動的に構成します。ドライブをオープンできない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 210

メッセージ: ドライブを SCSI アンロードできません (Unable to SCSI unload drive)

説明: ドライブをアンロードできません。ドライブ構成が不適切であるか、ドライブが論理的に停止している可能性があります。また、ドライブにメディアを配置した後、ドライブの準備が完了していない場合もあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 不適切に構成されたクリーニングメディア、またはドライブのクリーニング操作の影響を確認します。不良メディアが、ドライブのアンロードを実行できない原因になっていないかどうかを確認します。ドライブのアンロードに関する問題の一般的な原因である、不適切なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、(デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成ウィザードを使用して、デバイスパスおよびデバイス名を自動的に構成します。ドライブのアンロードを実行できない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 211

メッセージ: プロセスはシグナルによって強制終了されました (Process killed by signal)

説明: 予想外のシグナルまたはイベントによって、ロボット操作が取り消されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットコマンドが取り消されたかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 212

メッセージ: プロセスは親プロセスによって強制終了されました (Process killed by parent)

説明: 指定された期間が経過する前に状態が戻されなかったか、デバイスの再初期化が必要な通信エラーまたはハードウェアエラーが発生したため、ロボット操作が取り消されました。

推奨処置:

- ロボットテストユーティリティの動作中にはロボットデバイスがロックされ、他の要求がブロックされるため、すべてのロボットテストユーティリティを停止します。
- ロボットデバイスが機能しているかどうかを確認します。
- 過剰なハードウェアまたは通信の問題によって、ロボットコマンドの完了が遅れていないかどうかを確認します。
- ロボットテストユーティリティを使用してコマンドをデバイスに送信し、応答があることを確認します。`vmps` を実行して、予想外の Media Manager プロセスが実行中でないことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されますが、停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなどの問題を表す場合があります。

ロボットの状態コード 213

メッセージ: ドライブは、ロボット内に存在しません (Drive does not exist in robot)

説明: 対象のドライブがロボットライブラリ内で検出されませんでした。ドライブ構成が不適切である可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットテストユーティリティから実行可能なロボットライブラリ問い合わせなどの方法を使用して、ドライブのリストを取得します。ドライブのリストを、デバイス構成と比較します。デバイス構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動されたことを確認します。`ltid` は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です。

ロボットの状態コード 214

メッセージ: ロボット番号が存在しません (Robot number does not exist)

説明: 対象のロボットライブラリが、有効なデバイス構成内で検出されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバイス構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動されたことを確認します（`ltid` は、Media Manager device デーモン（UNIX および Linux）または NetBackup Device Manager サービス（Windows）です）。ロボットライブラリにコマンドを実行するときは、デバイス構成に含まれている、有効なロボットライブラリだけを指定します。

ロボットの状態コード 215

メッセージ: 他のドライブまたは未構成のドライブのテープが要求されました (Requested tape in other or non-configured drive)

説明: 対象のメディアが、対象のドライブ以外のドライブで検出されました。

通常、要求されたメディアは一時的に利用できなくなります。また、管理者またはオペレータによる操作が行われるまで、メディアを利用できないこともあります。

推奨処置:

- メディアがすぐに必要な場合、コマンドの出力 (存在する場合)、デバッグログおよびシステムログで、対象のメディアに関連するメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットライブラリ内のメディアを使用する複数のアプリケーション間の競合を確認します。メディアが永続的に他のドライブに残されたままとならないように、ドライブとドライブパスの整合性を確認します。

ロボットの状態コード 216

メッセージ: キャビネットのドアが開いています (Door is open on cabinet)

説明: ロボットライブラリのドアが開いています。

推奨処置: ロボットライブラリのドアを閉めて、ロボット要求を再発行します。ドアが開いているときと閉じているときのロボットテストユーティリティコマンドの結果を比較して、ドアラッチ機構が機能しているかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 217

メッセージ: 要求されたスロットには、すでにカートリッジがあります (Requested slot already has cartridge)

説明: 要求されたスロットにすでにカートリッジが存在するか、スロットがカートリッジに関連付けられています。

推奨処置: 取り込み要求または取り出し要求で、メディアがすでに存在するスロットを指定していないことを確認します。ドライブ内のメディアを調べて、メディアのホームスロット場所が、取り込まれるメディアで使用されるように指定されていないことを確認します。

ロボットの状態コード 218

メッセージ: メディアアクセスポートからスロットへ移動できません (Cannot move from media access port to slot)

説明: メディアの取り込みを行うロボット操作で、取り込みに失敗したことを示す状態が戻されました。

推奨処置:

- ロボットライブラリにメディアアクセスポートが存在するかどうかを確認します (確認するには、ロボットテストユーティリティを使用します)。管理者またはオペレータによって、取り込み操作が取り消されたかどうかを調べます。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットの状態コード 219

メッセージ: スロットからメディアアクセスポートへ移動できません (Cannot move from slot to media access port)

説明: メディアの取り出しを行うロボット操作で、取り出しに失敗したことを示す状態が戻されました。

推奨処置:

- ロボットライブラリにメディアアクセスポートが存在するかどうかを確認します (確認するには、ロボットテストユーティリティを使用します)。管理者またはオペレータによって取り出し操作が取り消されたかどうかを調べます。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットの状態コード 220

メッセージ: メディアアクセスポートにメディアがありません (Media access port does not contain media)

説明: メディアの取り込みを行うロボット操作で、メディアアクセスポートにカートリッジまたはメディアが存在しないことを示す状態が戻されました。オペレータまたは管理者が、メディアアクセスポートに取り込み用のメディアを配置していない可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべてのオペレータおよび管理者の間で、取り込み操作および取り出し操作を調整します。

ロボットの状態コード 221

メッセージ: メディアアクセスポートにはすでにメディアがあります (Media access port already contains media)

説明: メディアの取り出しを行うロボット操作で、メディアアクセスポートに 1 つ以上のカートリッジが存在することを示す状態が戻されました。最後の (または以前の) 取り出し操作

で、オペレータまたは管理者が、メディアアクセスポートからメディアを取り外さなかった可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
- すべてのオペレータおよび管理者の間で、取り込み操作および取り出し操作を調整します。取り出し操作の前に、メディアアクセスポートにメディアが存在しないことを確認します。

ロボットの状態コード 222

メッセージ: ロボットアームには、アドレス可能なホルダーがありません (Robotic arm has no addressable holder)

説明: ロボットを構成する部分にホルダーが存在しないか、ホルダーが使用できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 物理的なハードウェアの状態を調べ、必要に応じて、ストレージの構成部分、ドライブの構成部分およびトランスポートの構成部分のホルダー状態を修正します。その後、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 223

メッセージ: ロボットはビジーです。操作を実行できません (Robot busy, cannot perform operation)

説明: ロボットで他の操作が実行されており、ビジー状態です。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで現在の外部ベースの要求 (ロボットインベントリ要求、メディアの取り込みや取り出し要求など) が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 224

メッセージ: 制御デーモン接続エラーまたはプロトコルエラー (Control daemon connect or protocol error)

説明: ロボットコンポーネントとその他のコンポーネントの間で、プロトコルエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアをマウントできない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。
- ベンダーおよびオペレーティングシステムソフトウェアのロボットインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 225

メッセージ: ロボットハードウェアエラーまたは通信エラー (Robot hardware or communication error)

説明: ロボットコンポーネントとその他のコンポーネントの間で、ハードウェアエラーまたは通信エラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアをマウントできない原因であるエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。ベンダーおよびオペレーティングシステムのハードウェアとソフトウェアのロボットインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 226

メッセージ: 要求されたスロットには、誤ったテープがあります (Requested slot contains the wrong tape)

説明: 要求されたスロット内のメディアが、スロット内に存在すると想定されたメディアと異なります。要求されたボリュームに関連付けられたスロットに関連付けられたロボットライブラリの物理的な内容とボリューム構成に一貫性がありません。

推奨処置: いずれかのメディア管理インターフェースを使用して、ボリューム構成またはロボットライブラリ内のメディア配置を調整する必要があります。影響を受けるスロットについて EMM データベースの調整が最後に行われてから、バーコードが変更されたかどうか、またはメディアが変更されたかどうかを判断します。バーコードだけが変更され、メディアが変更されていない場合、影響を受けるすべてのボリュームにバーコードの更新要求を発行します。メディアが変更された場合、メディア管理インターフェースを使用して、ロボットインベントリの更新を実行します。これによって EMM データベースが更新され、メディアの場所が反映されます。

ロボットの状態コード 228

メッセージ: 要求されたスロットは、ロボット内に存在しません (Requested slot does not exist in robot)

説明: 要求に関連付けられたスロットが、ロボットに対して無効です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットインベントリの［内容 (Contents)］レポートを発行して、ロボットに対して有効なスロット範囲を判断します。ボリューム構成を調べて、ボリュームレコードで有効なスロットだけが参照されていることを確認します。特に、スロットの開始番号および終了番号に注意してください。必要に応じてボリューム構成を更新するか、ロボット操作に対して有効なスロット範囲だけを要求します。

ロボットの状態コード 229

メッセージ: 要求された操作は、ロボットによってサポートされていません (Requested operation is not supported by the robot)

説明: ロボット操作がサポートされていないロボットコンポーネントにロボット操作が送信されました。または、その操作で要求されたオプションがサポートされていませんでした。製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がない可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- すべての Media Manager バイナリおよびユーザーインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 230

メッセージ: ロボット操作中にシステムエラーが発生しました (System error occurred during robot operation)

説明: ロボット操作でシステムエラーが発生しました。この状態コードは、ロボットデーモンまたはロボットプロセスの一般的なシステムコールが失敗した場合に使用されます。

推奨処置:

- コマンドまたはインターフェースに出力されたその他のエラーメッセージを確認して、失敗したシステムコールを特定します。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- システムアプリケーションログで、エラーメッセージおよび警告メッセージを確認します。
- システムの仮想メモリが不足していないことを確認します。仮想メモリに問題がある場合、使用していないアプリケーションを終了するか、仮想メモリの量を増やします。Windows で仮想メモリを増やすには、[コントロール パネル]を表示して[システム]をダブルクリックし、[パフォーマンス]タブで[仮想メモリ]の設定値を増加します。
- すべての製品バイナリが適切にインストールされていることを確認します。
- `vmps` を実行して、予想外の Media Manager プロセスが実行中でないことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されますが、停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなどの問題を表す場合があります。

ロボットの状態コード 232

メッセージ: ボリュームがライブラリに見つかりません (Volume not found in library)

説明: 要求されたメディアがロボットライブラリ内で検出されませんでした。メディアが取り出されているか、なんらかの理由でアクセスできません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットインベントリの[内容 (Contents)]レポートを発行して、ロボットライブラリ内に存在するメディアのリストを取得します。Media Manager の構成ファイルでインベント

リフィルタが有効になっているかどうかを確認します。ロボットデーモンまたはロボットプロセスから戻されるメディアリストの内容は、インベントリフィルタによって影響を受けるためです。必要に応じて、ロボットテストユーティリティ、またはオペレーティングシステムやベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。メディアがロボットライブラリ内に存在しない場合、ボリューム構成を更新して、メディアを検索し、必要に応じて、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 233

メッセージ: ボリュームはライブラリにありますが、ドライブドメインにはありません (Volume is in library, but not in drive domain)

説明: メディアがロボットライブラリ内で検出されましたが、ロボット内に構成されているドライブにアクセスできないライブラリドメインに存在します。

推奨処置: ロボットインベントリの[内容 (Contents)]レポートを発行して、ロボットライブラリ内に存在するメディアのリストを取得します。デバイス構成を調べて、ドライブアドレスがメディアの適切なドメインに対応することを確認します。必要に応じてデバイスの構成を修正して、`ltid` (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を再起動します。必要に応じて、ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。ボリューム構成を更新して、必要に応じてメディアをロボットライブラリ内に物理的に移動し、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 234

メッセージ: ロボットが、リソースへのアクセスを拒否しました (Robot denied access to the resource)

説明: メディアがロボットライブラリ内で検出されましたが、設定されているセキュリティポリシーによってアクセスが拒否されています。

推奨処置: ロボットインベントリの[内容 (Contents)]レポートを発行して、ロボットライブラリ内に存在するメディアのリストを取得します。必要に応じてベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。ボリューム構成内のメディアを削除するか、適切な場合、ベンダーの管理インターフェースを介してボリュームをアクセス可能にします。必要に応じてボリューム構成を更新し、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 235

メッセージ: バーコードラベルを読み込めません (Barcode label is unreadable)

説明: メディアがロボットライブラリ内で検出されましたが、バーコードラベルを読み込むことができません。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。ラベルを修正するか、適切な場合、メディアを交換します。必要に応じてボリューム構成を更新し、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 236

メッセージ: ロボットはメディアを不適切な場所に配置しました (Robot has misplaced the media)

説明: 要求されたメディアは、ロボットライブラリを管理するベンダーソフトウェアで認識されましたが、誤って配置されています。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。ロボットライブラリ内でメディアを検索します。メディアがロボットライブラリ内に存在しない場合、ボリューム構成を更新して、メディアを検索し、必要に応じて、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 237

メッセージ: ボリュームは使用中です (Volume is in use)

説明: メディアが使用中です。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。メディアを使用している可能性があるアプリケーションを判断します。メディアが使用されていない場合、メディアのマウントを解除します。必要な場合、メディアが利用可能になるまで待機します。

ロボットの状態コード 238

メッセージ: 要求されたドライブはオフラインドメインにあります (Requested drive is in an offline domain)

説明: マウント要求で、対象のドライブが、オフライン状態のロボットライブラリドメインに存在します。

推奨処置: ロボットライブラリドメイン (ACS ライブラリストレージモジュール) をオンライン状態に戻します。または、ドメインをオンライン状態に戻せるようになるまでそのドメインでのドライブの使用を延期します。

ロボットの状態コード 239

メッセージ: 要求されたボリュームはオフラインドメインにあります (Requested volume is in an offline domain)

説明: マウント要求で、対象のボリュームが、オフライン状態またはオフライン保留状態のロボットライブラリドメインに存在します。

推奨処置: ロボットライブラリドメイン (ACS ライブラリストレージモジュール) をオンライン状態に戻します。または、ドメインをオンライン状態に戻せるようになるまでそのドメインでのメディアの使用を延期します。

ロボットの状態コード 240

メッセージ: メモリ割り当て試行がロボットデーモンで失敗しました (A memory allocation attempt failed in the robotic daemon)

説明: ロボット制御デーモンによるメモリの割り当てに失敗しました。このエラーは、メディアサーバーのメモリに重大な問題が発生していることを示す場合があります。

推奨処置: すべての NetBackup Media Manager デーモンを停止します。オペレーティングシステムのメモリ管理ツールのマニュアルを参照して、残りのプロセスのうち、メモリを消費しているプロセスを判断し、そのプロセスを停止します。NetBackup Media Manager デーモンを再起動します。多くのメモリを消費する不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。必要に応じて、スワップ領域または物理メモリを追加します。

ロボットの状態コード 242

メッセージ: ロボットメディアアクセスポートが存在しません (Robot media access port does not exist)

説明: 要求されたメディアアクセスポートでは、対象のメディアは使用できません。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの場所に基づいてメディアアクセスポートのアドレスを検証します。有効なメディアアクセスポートを選択するか、メディアアクセスポートの自動選択を実行して、ロボット操作を再試行します。

ロボットの状態コード 243

メッセージ: メディアアクセスポート状態ファイルを開くことや、作成することができません (Cannot open/create the media access port status file)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスで、database ディレクトリまたは database フォルダに状態ファイルを作成できないか、状態ファイルを開けません。

推奨処置: `/usr/openv/volmgr/database` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥database フォルダ (Windows の場合) 内で、ロボットの状態ファイルを作成できない理由または開くことができない理由を調べます。Windows の場合、NetBackup Device Manager サービス (およびロボットプロセス) が実行されて

いるアカウントを確認します。そのアカウントを database フォルダの［セキュリティ］プロパティと比較します。

ロボットの状態コード 244

メッセージ: 取り出しコマンドがユーザーによって中断されました (The eject command was aborted by the user)

説明: 管理者またはオペレータによって、メディアの取り出し要求が取り消されました。

推奨処置: このエラーは、取り出し要求が管理者またはオペレータによって取り消された場合に発生します。 要求が取り消される理由は、メディアが存在しない、メディアが不正である、メディアアクセスポートを他の要求で使用する必要がある、後で操作を実行する必要がある、など様々です。詳しくは、管理者またはオペレータに確認してください。

ロボットの状態コード 245

メッセージ: 物理ドライブは利用できません (Physical drive is not available)

説明: 物理ドライブリソースを要求に利用できないため、ロボットのマウント操作を完了できませんでした。 多くの場合、このエラーは、Storagenet 6000 Storage Domain Manager (SN6000) などの、仮想化されたリソースに基づいた環境が原因です。

SN6000 では、テープドライブが仮想化されます。SN6000 の構成には、ドライブ要求に利用可能な物理ドライブ (または同等のリソース) 数より多くの論理ドライブが含まれる場合があります。また、ハードウェア障害が発生したため、論理ドライブ数と物理ドライブ数の関係が変化する場合もあります。NetBackup のスケジュール設定アルゴリズムおよびドライブ割り当てアルゴリズムでは、論理ドライブの可用性だけが判断されます。NetBackup では、構成されているすべての有効な論理ドライブの使用が試行されます。必要な論理ドライブ数が利用可能な物理ドライブ数を超えると、NetBackup ジョブが開始されるときに、ドライブリソースが不足する場合があります。ジョブはスケジューラのキューに投入されずに実行されるため、ACS テープのマウント要求が発行されるまでリソースの問題は発生しません。

推奨処置:

- 物理ドライブリソースが利用できない場合にマウント要求を再待機するには、Shared Storage Option (SSO) ライセンスをインストールします。
- 同時に使用できるドライブ数には制限があります。同一の物理ドライブに接続された異なるストレージユニットの使用時間が重複しないようにバックアップ処理時間帯を構成します。また、すべてのドライブがビジー状態であるためにジョブで物理ドライブを使用できないときに、ジョブが失敗しないようにするには、メディアのマウントタイムアウトを大きくします。

ロボットの状態コード 246

メッセージ: 利用可能な取り込み先スロットが見つかりませんでした (Failed to find an available slot to inject to)

説明: 空きがないライブラリへのボリュームの取り込みが失敗しました。このエラーは、ライブラリの空きがないときだけ発生します。空きがないとは、すべてのストレージの構成部分にメディアが含まれるか、現在ドライブにマウントされているメディアが割り当てられていることを意味します。複数のメディア形式がサポートされているライブラリでは、各ストレージの構成部分に割り当てることができるメディア形式が制限される場合があります。この場合、ライブラリ内のいくつかのストレージの構成部分に空き領域があっても、このエラーが発生することがあります。これは、空のストレージの構成部分と取り込むメディアのメディア形式が一致しない場合、そのメディア形式に対してライブラリの空きがなくなっているためです。

推奨処置: メディアアクセスポートからメディアを取り外します。次に、ボリューム構成を更新して、ロボットのインベントリを再度実行します。

ロボットの状態コード 249

メッセージ: ボリュームはホームスロットにあります (Volume is in home slot)

説明: 現在、ボリュームがホームスロット内に存在し、取り出し準備が完了しています。

推奨処置: なし

ロボットの状態コード 250

メッセージ: メディアアクセスポートは利用可能です (Media access port is available)

説明: メディアアクセスポートを取り込みまたは取り出しに使用できます。

推奨処置: 取り込みまたは取り出し操作を開始します。

ロボットの状態コード 251

メッセージ: メディアアクセスポートは利用できません (Media access port is unavailable)

説明: メディアアクセスポートを取り込みまたは取り出しに使用する準備ができていません。

推奨処置: ロボットのメディアアクセスポートに残っているすべてのメディアを手動で取り外します。この状態が継続する場合、ロボットのコンソールでエラーを確認します。

ロボットの状態コード 252

メッセージ: メディアアクセスポートは取り込みモードです (Media access port is in inject mode)

説明: メディアアクセスポートを取り込みに使用する準備はできていますが、取り出しには利用できません。

推奨処置: 取り込み操作を完了します。

ロボットの状態コード 253

メッセージ: メディアアクセスポートは取り出しモードです (Media access port is in eject mode)

説明: メディアアクセスポートを取り出しに使用する準備はできていますが、取り込みには利用できません。

推奨処置: 取り出し操作を完了します。

ロボットの状態コード 254

メッセージ: ロボットはビジー状態です。インベントリ操作が進行中です。(Robot busy, inventory operation in progress)

説明: ロボットでインベントリが実行されており、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットでインベントリ処理が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 255

メッセージ: ロボットはビジー状態です。取り込み操作が進行中です。(Robot busy, inject operation in progress)

説明: ロボットで取り込み操作が実行されており、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで取り込み操作が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 256

メッセージ: ロボットはビジー状態です。複数の取り出し操作が進行中です。(Robot busy, multiple eject operation in progress)

説明: 複数の取り出しを実行中のため、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで複数の取り出し操作が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 257

メッセージ: ロボットはビジー状態です。複数の取り込み操作が進行中です。(Robot busy, multiple inject operation in progress)

説明: 複数の取り込みを実行中のため、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで複数の取り込み操作が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 258

メッセージ: メディアのクリーニング中またはドライブ内の不明なメディア (Cleaning/unknown media in drive)

説明: ドライブ内でクリーニングメディアが検出されたため、テープのマウント要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ドライブのクリーニングが完了したら、操作を再試行します。

ロボットの状態コード 259

メッセージ: VxSS で認可されていません (Not authorized by VxSS)

説明: 権限を所有していないユーザーによって、ロボットデーモンへの要求が行われました。

推奨処置:

- ユーザーが、この操作の実行に必要な権限を所有していることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールの[ホストプロパティ (Host Properties)]で、認証セキュリティおよび認可セキュリティの設定が正しいことを確認します。Veritas Product Authentication and Authorization Service の使用についての情報を参照できます。
  『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

ロボットの状態コード 260

メッセージ: ロボットはビジー状態です。ロボットの診断が進行中です。(Robot busy, robot diagnostics in progress)

説明: 要求されたロボットで、ロボットの診断を実行中です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットの診断サイクルが完了したら、操作を再試行します。

ロボットの状態コード 261

メッセージ: EMM エラー (EMM error)

説明: EMM へのデータの読み込みまたは書き込み要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーがコマンドの処理を実行中であることを確認します。

ロボットの状態コード 262

メッセージ: 構成が変更されたため、ロボットデーモンおよび ltid を再起動する必要があります (Configuration has changed, robot daemons and ltid need restarting)

説明: ロボットデーモンのデータのランタイムキャッシュに反映されていないデバイスの構成が変更されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このシステム上またはロボット制御ホストシステム上で、`ltid` およびロボットを再起動します。

6

ロボットのエラーコード

この章では以下の項目について説明しています。

- ロボットのエラーコード

ロボットのエラーコード

これらの状態コードは、コマンドラインからロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動され、エラーが発生した場合に戻されます。たとえば、管理者によって次のコマンドが実行された場合を想定します。

```
/usr/openv/volmgr/bin/tl8d
```

構成されているロボットが存在しない場合、次のメッセージが戻されます。

```
TL8: No robots are configured
```

また、これらの状態コードは、システムログにも記録されます。

通常、ロボットデーモンまたはロボットプロセスはコマンドラインから起動されず、`ltid` を起動すると、必要に応じて自動的に起動されます。

ロボットエラーの状態コード 1

メッセージ: デーモンを起動するには、ROOT である必要があります (You must be ROOT to start daemon)

説明: root 以外のユーザーによって、ロボットデーモンが起動されました。この状態コードは、UNIX および Linux システムだけに適用されます。

推奨処置: root ユーザーとしてログインしてから、ロボットデーモンを起動します。ロボットデーモンは、`ltid` (device デーモン) によって必要に応じて自動的に起動されるようにすることも可能です。

ロボットエラーの状態コード 2

メッセージ: LTI デーモンは実行されていない可能性があります (LTI Daemon may not be running)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスを起動するときに、ltid メッセージキューへの接続が失敗しました。このエラーは、ltid (device デーモンまたは NetBackup Device Manager サービス) が実行されていない可能性があることを示します。

推奨処置:

- ltid を起動して共有メモリを初期化し、ロボットデーモンまたはロボットプロセスが機能するようにします。
- 問題が解決しない場合、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 3

メッセージ: 共有メモリの取得エラー (Error in getting shared memory)

説明: ltid によって保持されている共有メモリのセグメントに関連付けられた共有メモリの識別子を、ロボットデーモンまたはロボットプロセスが取得できませんでした。（ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 4

メッセージ: 共有メモリのアタッチエラー (Error in attaching the shared memory)

説明: ltid によって保持されている共有メモリのセグメントを、ロボットデーモンまたはロボットプロセスが追加できませんでした。（ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 5

メッセージ: プロセス ID の取得エラー (Error in getting process ID)

説明: システムコールの失敗のため、ロボットデーモンまたはロボットプロセスが自身のプロセス識別子を取得できませんでした。

推奨処置: プロセスによる自身のプロセス識別子の取得について、オペレーティングシステムの機能を調べます。

ロボットエラーの状態コード 6

メッセージ: ロボットにはデバイスが構成されていません (No devices are configured on the robot)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動されましたが、ロボットにドライブが構成されていません。

推奨処置: ロボットデーモンまたはロボットプロセスは、管理するドライブが構成されていないと、実行されない場合があります。関連付けられているロボット内に、1 つ以上のドライブを追加するか、再構成します。その後、`ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止し、再起動します。

ロボットエラーの状態コード 7

メッセージ: ロボットは構成されていません (No robots are configured)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動されましたが、関連付けられているロボット形式のロボットが構成されていません。

推奨処置: 関連付けられているロボット形式のロボットが構成されていないと、ロボットデーモンまたはロボットプロセスは実行されません。ロボットを追加または再構成し、`ltid` (UNIX

および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止して、再起動します。

ロボットエラーの状態コード 8

メッセージ: 利用可能なメモリはありません (No memory available)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスに、メモリを割り当てることができませんでした。このエラーは、利用可能なシステムメモリが不足している場合に発生します。このエラーは、プロセスが多すぎるか、物理メモリや仮想メモリが不足していることが原因で、システムに過大な負荷が生じたために発生することがあります。

推奨処置: 不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

ロボットエラーの状態コード 9

メッセージ: セマフォ操作エラー (Error in SEMAPHORE operation)

説明: `ltid` によって保持されているリソースに関連するセマフォ操作(ロックやロック解除など)を、プロセスが実行できませんでした。(`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです。)

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 10

メッセージ: fork の失敗が発生しました (Fork failure occurred)

説明: システムエラーのため、ロボットデーモンまたはロボットプロセスで子プロセスを作成できません。多くの場合、これは、システムリソースの可用性に基づく一時的なエラーです (UNIX および Linux サーバーだけに適用されます)。

推奨処置:

- 後で device デーモンを再起動して、プロセス数を制限しているシステムの問題を調べます。
- システムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- device デーモンを再起動してから操作を再試行し、システムログファイルを調べます。

ロボットエラーの状態コード 11

メッセージ: システムエラーが発生しました (System error occurred)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスでシステムエラーが発生しました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットエラーの状態コード 12

メッセージ: 子プロセスの作成中の使用方法エラー (Usage error in creating child process)

説明: ロボットソフトウェアコンポーネント間に互換性がないため、ロボットデーモンまたはロボットプロセスで子プロセスを作成できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットエラーの状態コード 13

メッセージ: EMM エラー (EMM error)

説明: ロボットデーモンで、EMM との通信に問題が発生しました。

推奨処置:

- nbemm が実行中であり、要求に応答していることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットエラーの状態コード 14

メッセージ: 実行するには、管理者である必要があります (You must be administrator to execute)

説明: 管理者権限を所有しないユーザーアカウントから、ロボットプロセスが起動されました (Windows システムだけに適用されます)。

推奨処置: ロボットデーモンは、NetBackup Device Manager サービスによって必要に応じて自動的に起動されるようにすることも可能です。このサービスが、管理者権限を所有するユーザーアカウントから起動されたことを確認します。

ロボットエラーの状態コード 16

メッセージ: デバイスが複数のドメインで見つかりました (Devices located in multiple domains)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスで、無効なデバイスの構成が検出されました。この構成では、異なるドメインのドライブが 1 つの論理ロボットによって制御されています。

推奨処置: `tpconfig -d` またはデバイスの構成インターフェースを使用してデバイス構成を表示し、すでに構成されているロボット情報およびドライブ情報を参照します。ドライブアドレスが物理ドメインをまたがらないことを確認します。1 つのドメインからのメディアを使用するドライブは、同じロボット内だけに構成できます。ドメインには、1 つの物理ライブラリ、またはカートリッジ交換装置やパススルー機構によって接続されている複数のライブラリを含める必要があります。

ロボットエラーの状態コード 17

メッセージ: ロボットデーモンのライセンスがありません (Robotic daemon not licensed)

説明: 必要な現行の製品ライセンスなしにロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動されました。または、必要なデータベースファイルが存在していないか、破損しています。

推奨処置:

- 製品のマニュアルで、サポートされているデバイス構成を確認します。
- 追加のソフトウェアライセンスを取得して関連付けられているロボット形式のロボットを構成します。または、構成を現在のライセンス交付されているロボット形式に制限します。`/usr/openv/share` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *`install_path¥NetBackup¥share` フォルダ (`Windows` の場合) 内で* `external_robotics.txt` ファイルの存在および権限を確認します。

7

セキュリティサービスの状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- セキュリティサービスの状態コード

セキュリティサービスの状態コード

NetBackup 認証デーモン (nbatd) または NetBackup Web サービス (nbwmc) でユーザーを認証してユーザーの証明書またはセッショントークンを取得するときに、セキュリティサービスの状態コードが、bpnbat コマンドの終了状態とコマンド出力に表示されます。

セキュリティサービスの状態コード 93

メッセージ: Web 認証に失敗しました。(Web authentication failed.)

説明: Web 認証が失敗しました。

推奨処置: ユーザー名、ドメイン名、ドメイン形式、パスワードのいずれかが正しくありません。ユーザー認証の権限を確認します。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 94

メッセージ: AT 認証と Web 認証の両方が失敗しました。(Both AT authentication and Web authentication failed.)

説明: NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションの認証に失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) と NetBackup 認証デーモン (nbatd) の両方が実行中であることを確認します。ユーザー名、ドメイン名、

ドメイン形式、パスワードのいずれかが正しくありません。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 95

メッセージ: AT 認証は成功し、Web 認証は失敗しました。(AT authentication successful, web authentication failed.)

説明: ログイン形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと NetBackup Web アプリケーションの両方のログインが実行されます。ただし、NetBackup Web アプリケーションの認証は失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認します。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 96

メッセージ: Web 認証は成功し、AT 認証は失敗しました。(Web authentication successful, AT authentication failed.)

説明: ログイン形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと NetBackup Web アプリケーションの両方のログインが実行されます。ただし、NetBackup AT ブローカーの認証は失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup 認証デーモン (nbatd) が実行中であることを確認します。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 97

メッセージ: Web ログアウトに失敗しました。(Web logout failed.)

説明: NetBackup Web アプリケーションに対するログアウト操作が失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 98

メッセージ: Web ログアウトは成功しましたが、AT ログアウトは失敗しました。(Web logout was successful, but the AT logout failed.)

説明: ログアウト形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションの両方のログアウトが実行されます。ただし、NetBackup 認証ブローカーのログアウトは失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行してください。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

セキュリティサービスの状態コード 99

メッセージ: AT ログアウトは成功しましたが、Web ログアウトは失敗しました。(AT logout was successful, but the web logout failed.)

説明: ログアウト形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションの両方のログアウトが実行されます。ただし、NetBackup Web アプリケーションのログアウトは失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (`nbwmc`) が実行中であることを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 100

メッセージ: AT ログアウトと Web ログアウトの両方に失敗しました。(Both the AT and the web logout failed.)

説明: NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションのログアウトに失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (`nbwmc`) が実行中であることを確認して、操作を再試行します。

セキュリティサービスの状態コード 101

メッセージ: CA 証明書が存在しないか、または無効です。

説明: ローカルのトラストストアからの CA 証明書を使用して NetBackup Web 認証サービスの証明書を検証できなかったため NetBackup Web ログインまたはログアウトは失敗しました。

推奨処置: `nbcertcmd -getCACertificate` コマンドを実行して新しい CA 証明書を取得して再試行します。`nbcertcmd -listCACertDetails` コマンドを実行してローカルのトラストストアにある CA 証明書を一覧表示することもできます。マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (`nbwmc`) が実行中であることを確認して、操作を再試行します。

セキュリティサービスの状態コード 102

メッセージ: NetBackup Web 認証サービスに接続できません。

説明: NetBackup の Web ログインまたはログアウトは、NetBackup が Web 認証サービスに接続できないために失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (`nbwmc`) が実行中であることを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 103

メッセージ: NetBackup Web 認証サービスに情報を送信できません。(Unable to send information to the NetBackup web authentication service.)

説明: NetBackup の Web ログインまたはログアウトは、NetBackup が NetBackup Web 認証サービスに情報を送信できないために失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービス (`nbwmc`) が実行中であるか確認して、必要に応じて再起動します。

セキュリティサービスの状態コード 104

メッセージ: NetBackup Web 認証サービスから情報を読み込めません。(Unable to read information from the NetBackup web authentication service.)

説明: NetBackup の Web ログインまたはログアウトは、NetBackup が NetBackup Web 認証サービスからトークン情報を読み取れないために失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービス (`nbwmc`) が実行中であるか確認して、必要に応じて再起動します。

セキュリティサービスの状態コード 105

メッセージ: 現在のホストでユーザー認証の詳細を取得できません。

説明: NetBackup の Web ログインからのユーザー認証の詳細を現在のホストで取得することができません。

推奨処置: `bpnbat -login` コマンドでログインを再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

セキュリティサービスの状態コード 106

メッセージ: 認証が成功しましたが、現在のホストにユーザーの詳細を保存できません。

説明: NetBackup Web ログイン認証は成功しましたが、ユーザーの詳細は現在のホストに保存されませんでした。

推奨処置: `bpnbat -login` コマンドでログインを再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。

セキュリティサービスの状態コード 107

メッセージ: ログインしたユーザーの詳細の取得に失敗しました。資格情報が期限切れか利用できません。

説明: `bpnbat -whoami` コマンドは AT の資格情報と Web トークンが見つからない場合にこのエラーを返します。

推奨処置: `bpnbat -login` コマンドでログインを再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、ベリタスのテクニカルサポートに連絡してください。